

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

福島工業高等専門学校





## 目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
基準 1	高等専門学校の目的	4
基準 2	教育組織（実施体制）	32
基準 3	教育及び教育支援者	48
基準 4	学生の受入	90
基準 5	教育内容及び方法	127
基準 6	教育の成果	219
基準 7	学生支援等	274
基準 8	施設・設備	339
基準 9	教育の質の向上及び改善のためのシステム	358
基準10	財務	425
基準11	管理運営	465



# I 高等専門学校の現況及び特徴

## 1 現況

### (1) 高等専門学校名

福島工業高等専門学校

### (2) 所在地

福島県いわき市

### (3) 学科等の構成

学科：機械工学科，電気工学科，物質工学科，  
建設環境工学科，コミュニケーション情報学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻，物質・環境システム工学専攻，ビジネスコミュニケーション学専攻

### (4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数

単位：人

準学士課程	1	2	3	4	5	合計
機械工学科	42	43	44	38	35	202
電気工学科	44	40	44	40	38	206
物質工学科	43	40	44	39	40	206
建設環境工学科	43	40	41	39	32	195
コミュニケーション情報学科	42	42	39	41	38	202
計	214	205	212	197	183	1,011

専攻科課程	1	2	合計
機械・電気システム工学専攻	12	8	20
物質・環境システム工学専攻	8	8	16
ビジネスコミュニケーション学専攻	8	4	12
計	28	20	48

教員数

単位：人

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
一般教科	9	8	7	0	24
機械工学科	4	4	1	2	11
電気工学科	4	3	2	1	10
物質工学科	4	4	3	2	13
建設環境工学科	4	3	1	2	10
コミュニケーション情報学科	4	1	4	1	10
計	29	23	18	8	78

## 2 特徴

福島工業高等専門学校（以下、「本校」という。）は、昭和36年6月の高専制度創設に伴い、高専の第一期校として昭和37年4月に当初「平工業高等専門学校」の校名で設立された。その後、昭和41年に当時の平市を含む近隣市町村の大同合併による新たな「いわき市」の誕生に伴い、昭和42年6月にその校名が「福島工業高等専門学校」に改称され、現在に至っている。本校は、これまで40数年間にわたり、福島県内における唯一の国立の工学系高等教育機関として実践的な技術者の育成に貢献し、平成19年

4月現在で6,074名の卒業生（準学士課程）及び49名の修了生（専攻科課程）を社会に送り出してきた。

本校は、昭和37年の設立当初は機械工学科、電気工学科及び工業化学科の3学科であったが、昭和41年4月土木技術者の早期育成を目的として土木工学科が新設され、さらに平成6年4月情報技術を活用したコミュニケーション科学と技術に関する教育と研究を行う新しい学科のコミュニケーション情報学科が設置され、5学科体制となった。また、平成7年から8年にかけては、科学技術の進展と時代の要請に合わせ、土木工学科が建設環境工学科に、また工業化学科が物質工学科へとそれぞれ改組された。本校はその後平成15年度まで5学科体制であったが、平成16年4月、新たに「機械・電気システム工学専攻」、「物質・環境システム工学専攻」及び「ビジネスコミュニケーション学専攻」の3専攻から成る専攻科が設置された。本校はそれ以後、工学系4学科とビジネス系1学科から成る準学士課程と上記3専攻から成る専攻科課程を併せ持つ5学科1専攻科体制の高等教育機関として現在に至っている。

本校はこれまで、「広く豊かな教養と人間力の育成」、「科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成」及び「固有の才能の展開と国際的視野及びコミュニケーション能力の育成」を教育理念とし、工学系4学科では「①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に対応できる技術者、②モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者、③外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者」の育成、またコミュニケーション情報学科では「①管理能力を持ったビジネス系の実践的職業人、②国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人、③情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人」の育成に当たってきた。特に準学士課程ではモノづくりのための実験・実習を重視した早期実践教育を行っており、また専攻科課程では、本校の特徴である工学系及びビジネス系の専攻を併せ持つ利点を生かし、他高専では実現が困難と思われる従来の専門分野の枠を越えた工学系・ビジネス系融合のシナジー教育のカリキュラムの下で「経営のわかる実践的技術プロフェッショナル」及び「技術のわかる実践的ビジネスプロフェッショナル」の育成を目指した創造的な教育を行っており、教育研究のさらなる充実と高度化に努めている。

## II 目的

### 1. 福島工業高等専門学校 の目的と使命

福島工業高等専門学校（本校）は「教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的とし、また、本校専攻科は「高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し、もって豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材を育成する」ことを目的として、「地球的視野から人や社会及び環境に配慮できる人間性豊かで国際的に通用する実践的且つ創造的な技術者及び職業人を育成する」ことを使命としている。本校では、その目的及び使命を達成するため、以下のような教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を定め、その実現に努力している。

### 2. 教育理念

本校では、独立行政法人国立高等専門学校機構法第3条に定められた高専機構の目的に沿い、教育理念として次の3項目を掲げている。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

### 3. 学習・教育目標

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

### 4. 養成する人材像

本校の準学士課程は工学系4学科及びビジネス系1学科、また専攻科課程は工学系2専攻及びビジネス系1専攻から構成されており、「工学ービジネス」の融合したシナジー教育が特色である。以下に、本校で養成する人材像を列記する。

#### A. 工学系の学科と専攻

- 1) 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- 2) モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- 3) 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

#### B. ビジネス系の学科と専攻

- 1) 管理能力を持ったビジネス系職業人
- 2) 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- 3) 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

### 準学士課程の各学科で養成する人材像

学 科	目標と養成する人材像
機械工学科	機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
電気工学科	電気・電子・情報技術を中心として産業界の分野で活躍できる技術者の育成
物質工学科	時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、機械、電気、電子工業などの素材技術者の育成
建設環境工学科	建設技術の基礎の上に、自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成
コミュニケーション情報学科	「ビジネス」、「英語」、「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育・研究により、ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

### 専攻科課程の各専攻で養成する人材像

専 攻	目標と養成する人材像
機械・電気システム工学専攻	準学士課程の機械工学科、電気工学科のそれぞれの専門的な基礎の上に、機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野に関する高度で応用性の高い専門科目を履修する。さらに高度な環境工学関連の科目を履修する。さらにビジネス系科目を履修することにより、自己の専門領域を超え、環境への影響を考慮しつつ先端に柔軟に対応できるスキルを身に付けた「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
物質・環境システム工学専攻	準学士課程の物質工学科、建設環境工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めさせ、さらに、技術経営論やベンチャービジネス論などのビジネス系科目を履修することにより、境界領域分野や高度情報化社会における先端技術の開発や技術移転にも対応できる「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
ビジネスコミュニケーション学専攻	準学士課程のコミュニケーション情報学科の英語、情報、コミュニケーション科学を中心とした社会科学の基礎の上に、経営管理系科目、生産管理系科目、ベンチャー・地域計画学の専門科目を履修する。さらに工学系科目を履修することにより、工学的知識を獲得し、利用できるスキル、国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力、モノづくりの生産ラインに係わるマーケットリサーチ、企画、開発、生産、流通管理、販売の実務能力を併せ持ち、地域に根ざしたグローバルな視点を持つ「実践的ビジネスプロフェッショナル」の養成をめざす。

## 5. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

### A. 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力（準学士課程）

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

### B. 修了時に身に付けるべき学力や資質・能力（専攻科課程）

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は，準学士課程及び専攻科課程について，学則に定めている（資料 1-1-①-1）。また，準学士課程及び専攻科課程の教育理念，学習・教育目標，養成する人材像も具体的に定めている。特に本校では工学系とビジネス系の 2 つの教育体系を有しており，それぞれの学科と各専攻を通じての養成する人材像を分かりやすく説明し（資料 1-1-①-2），また図示している（資料 1-1-①-3）。さらに，準学士課程の各学科及び専攻科課程の各専攻についても養成する人材像を明確に定めると共に（資料 1-1-①-4），卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力についても，準学士課程及び専攻科課程で具体的に示している（資料 1-1-①-5）。

資料 1-1-①-1

#### 福島工業高等専門学校学則（抜粋）

##### 第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は，教育基本法及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 29 条 専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し，もって豊かな教養と人格を備え，広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：福島工業高等専門学校学則）

資料 1-1-①-2

#### 教育理念、学習・教育目標、養成する人材像

##### 1. 教育理念

国立高専機構法第 3 条の高専機構の目的は「機構は，高専を設置すること等により，職業に必要な専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成すると共に，我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」である。

福島工業高等専門学校（本校）の教育理念は，この機構の目的に沿って下記の 3 項目を設定した。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

## 2. 学習・教育目標

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

## 3. 養成する人材像

本校の準学士課程は、工学系 4 学科とビジネス系 1 学科、専攻科課程は工学系 2 専攻とビジネス系 1 専攻から構成されており、「工学系－ビジネス系」の融合したシナジー教育がその特色である。そのため、本校で育てる人材像を以下に列記する。

### 1) 工学系の学科と専攻

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- ②モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- ③外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

### 2) ビジネス系の学科と専攻

- ①管理能力を持ったビジネス系職業人
- ②国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- ③情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

(出典：平成 12 年度～H17 年度における「自己点検・評価」報告書)

資料 1 - 1 - ① - 3



図 1-1 工学系-ビジネス系シナジー教育で養成する人材像

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)



準学士課程の各学科及び専攻科課程の各専攻で養成する人材像

表 1. 1-1 準学士課程の各学科の養成する人材像

学 科	目標と養成する人材像
機械工学科	機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
電気工学科	電気・電子・情報技術を中心として産業界のさまざまな分野で活躍できる技術者の育成
物質工学科	時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、機械、電気、電子工業などの素材技術者の育成
建設環境工学科	建設技術の基礎の上に、自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成
コミュニケーション情報学科	「ビジネス」、「英語」、「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育・研究により、ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

表 1. 1-2 専攻科課程の各専攻の養成する人材像

専 攻	目標と養成する人材像
機械・電気システム工学専攻	準学士課程の機械工学科、電気工学科のそれぞれの専門的な基礎の上に、機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連および情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を履修する。さらに、技術経営論、ベンチャービジネス論などのビジネス系科目を履修することにより、境界領域分野や高度情報化社会における先端技術の開発や技術移転等にも対応できる「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
物質・環境システム工学専攻	準学士課程の物質工学科、建設環境工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めさせ、さらに高度な環境工学関連の科目を履修する。さらに、ビジネス系科目を履修することにより、自己の専門領域を超え、環境への影響に配慮しつつ先端技術に柔軟に対応できるスキルを身につけた「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
ビジネスコミュニケーション学専攻	準学士課程のコミュニケーション情報学科の英語、情報、コミュニケーション科学を中心にした社会科学の基礎の上に、経営管理系科目、生産管理系科目、ベンチャー・地域計画学の専門科目を履修する。さらに、工学系科目を履修することにより、工学的知識を獲得し利用できるスキル、国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力、モノづくりの生産ラインに係わるマーケットリサーチ、企画、開発、生産、流通管理、販売の実務能力を併せ持ち、地域に根ざしたグローバルな視点を持つ「実践的ビジネスプロフェッショナル」の養成をめざす。

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

## 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

## 準学士課程

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

## 専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

（出典：運営会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校は、社会に対して担う基本的な役割として準学士課程と専攻科課程の目的を定めている。また、学校としての教育理念や学習・教育目標、課程ごとの養成すべき人材像を工学系とビジネス系の各学科及び各専攻についても具体的に定めているほか、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を準学士課程と専攻科課程で定め、達成しようとしている基本的な成果等を明確にしている。

以上のことから、本校は、高等専門学校としてその目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の目的（前述資料 1-1-①-1 学則（抜粋））は、高等専門学校創設の趣旨である「実践的技術者を養成する高等教育機関」としての責務及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。また、学校教育法第 70 条の 2 には「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という 2 つの具体的な目的があるが、本校の養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、これらとの関連を明確にして策定されている。

	「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成する」に対応
準 学 士 課 程	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養 2) 工学及びビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力
専 攻 科 課 程	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい産業技術を創造できる能力 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力 6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されている。また、養成する人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との対応を明確にした上で策定されている。

以上のことから、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものでない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的はウェブサイトに掲載されているほか（資料 1-2-①-1）、学生便覧にも掲載されている（資料 1-2-①-2）。

教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学生便覧に掲載するほか（資料 1-2-①-3）、常に学生や教職員の目に触れるように各教室やゼミ室及び会議室等に掲示して（資料 1-2-①-4）、その周知徹底を図っている。

資料 1-2-①-1

ようこそ！ 国立福島工業高等専門学校へ

校長 奈良 宏一



### 福島高専の教育理念

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

### 福島高専の学習・教育目標

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
3. 工学系科目-ビジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
4. 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
5. モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
6. 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

（出典：本校ウェブサイト）

### 福島工業高等専門学校学則（抜粋）

第 1 条 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 29 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し、もって豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：福島工業高等専門学校学則）

### 教育理念，学習・教育目標，養成する人材像

#### 1. 教育理念

国立高専機構法第 3 条の高専機構の目的は「機構は、高専を設置すること等により、職業に必要な専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成すると共に、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」である。

福島工業高等専門学校（本校）の教育理念は、この機構の目的に沿って下記の 3 項目を設定した。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

#### 2. 学習・教育目標

高専機構の目的及び本校の教育理念に基づき、下記の「学習・教育目標」を 6 項目設定した。

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

### 3. 養成する人材像

本校の準学士課程は工学系 4 学科及びビジネス系 1 学科，専攻科課程は工学系 2 専攻及びビジネス系 1 専攻から構成されており，「工学－ビジネス」の融合したシナジー教育が特色である。そのため，本校の養成する人材像を以下に列記する。

#### 1) 工学系の学科と専攻

- ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し，知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- ③ 外国語能力を備え，ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

#### 2) ビジネス系の学科と専攻

- ① 管理能力を持ったビジネス系職業人
- ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- ③ 情報技術を備え，工学的知識も獲得した実践的職業人

### 4. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

#### 準学士課程

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し，柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し，新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

#### 専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に，融合・複合的な専門知識を修得し，知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により，複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した，国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

（出典：福島工業高等専門学校平成 19 年度学生便覧）

「教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の教室掲示

**教育理念**

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

**養成する人材像**

- 1) 工学系の学科と専攻
  - ① 分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
  - ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
  - ③ 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者
- 2) ビジネス系の学科と専攻
  - ① 理能力を持ったビジネス系職業人
  - ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
  - ③ 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

**卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力**

準学士課程

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

**学習・教育目標**

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

（出典：各教室への掲示）

本校では、平成 19 年 4 月下旬に、準学士課程や専攻科課程の全学生及び全教職員に対して、本校の教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等の周知状況についてのアンケート調査（資料 1 - 2 - ① - 6 ~ 8）を実施した。その結果によれば、学生については約 90%以上、教職員については約 70%以上が「知っている」と回答している。なお、このアンケート調査において「あまり知らない」及び「全く知らない」と回答した教職員については、その後研修をを実施してその周知徹底を図る体制を作っている。

教職員に対するアンケート調査



認証評価 基準 1 についての調査 (教職員用)

この調査は、認証評価の基準 1 の観点 1-2-①における「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」についての周知の程度を把握するためのものです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(1) あなたの氏名をお書き下さい。

質問 1 あなたの所属学科・課にマークしてください。

(2)

- 1: 機械                       2: 電気                       3: 物質                       4: 建設
- 5: コミ                       6: 一般                       7: 総務課                       8: 学生課
- 9: 技術部

質問 2 以下の①～⑧の質問の回答については、次の選択肢のなかからあてはまるもの 1 つにマークしてください。

(3)

	認知度			
	よく知っている	知りたい知っている	あまり知らない	全く知らない
① あなたは、本校の「教育理念」を知っていますか。	:	:	:	:
② あなたは、本校の「学習・教育目標」を知っていますか。	:	:	:	:
③ あなたは、工学系学科と専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
④ あなたは、ビジネス系学科と専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑤ あなたは、準学士課程各学科の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑥ あなたは、専攻科課程各専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑦ あなたは、準学士課程の「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」を知っていますか。	:	:	:	:
⑧ あなたは、専攻科課程の「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」を知っていますか。	:	:	:	:







質問3 どのようなときに本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容を確認していますか。あてはまるものすべてにマークしてください。

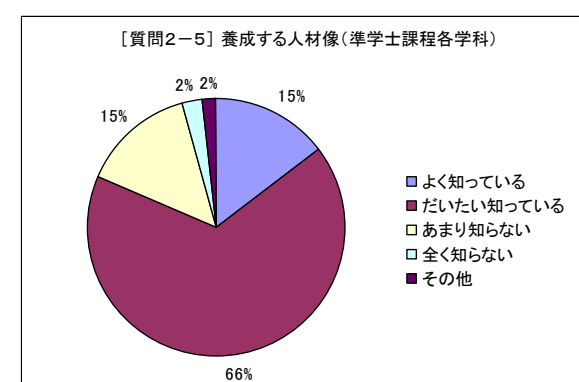
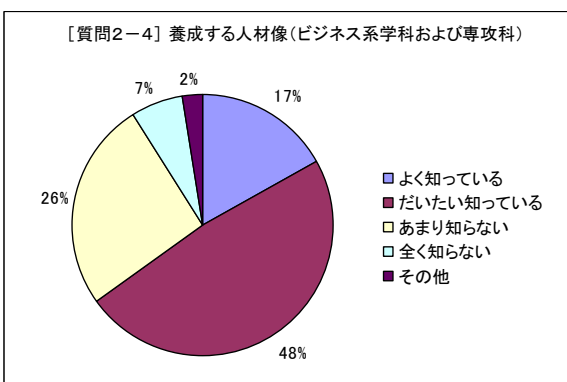
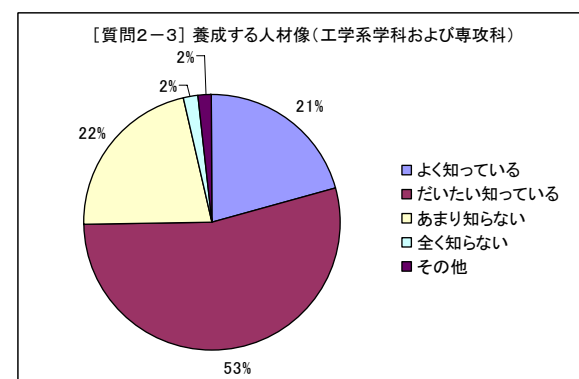
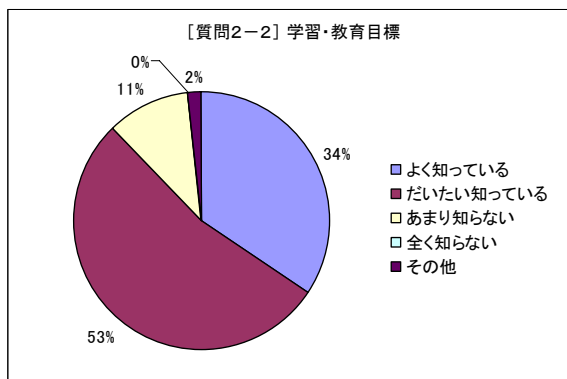
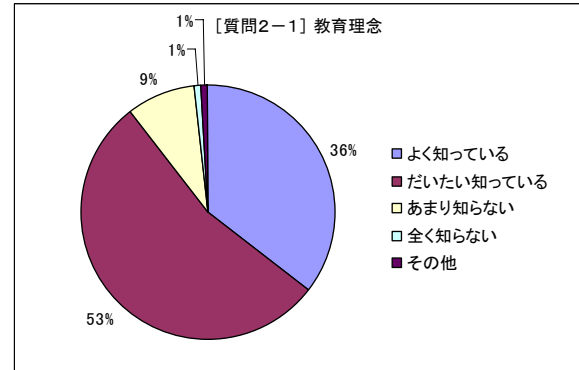
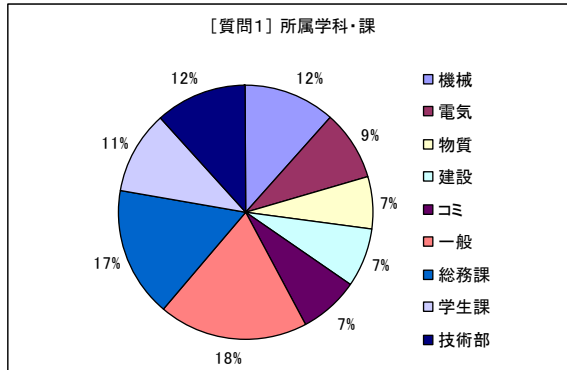
(4)

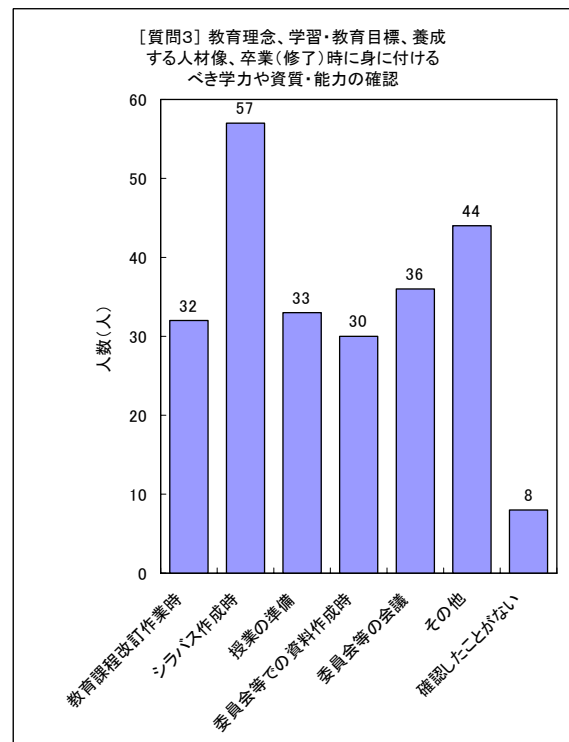
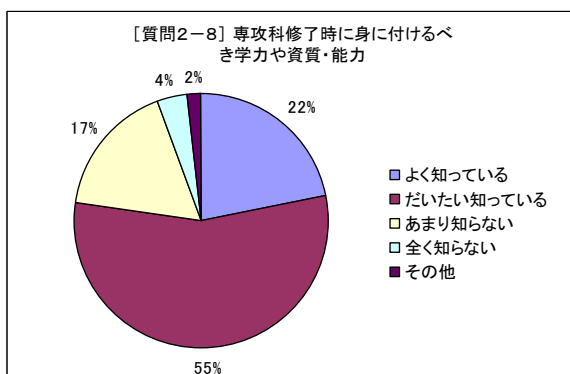
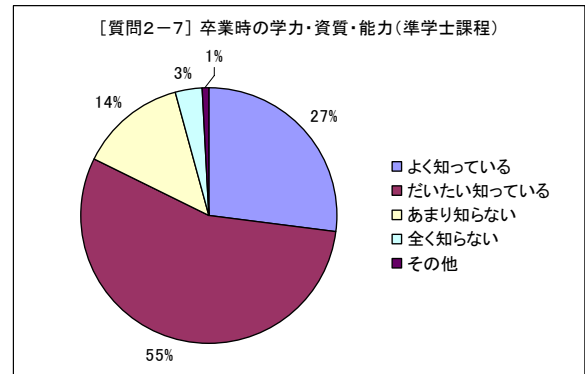
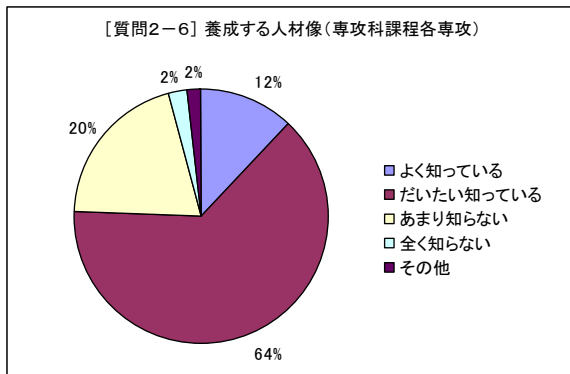
- 1: 教育課程改訂作業時       2: シラバス作成時       3: 授業の準備  
 4: 委員会等での資料作成時       5: 委員会等の会議       6: その他  
 7: 確認したことがない

質問4 「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容で修正・追加した方がよい点があればお答え下さい。

(5)







(出典：認証評価委員会資料)

準学士課程の学生に対するアンケート調査



準学士課程

学生の福島高専の「教育理念」等に対する理解度についてのアンケート調査

この調査は、学生諸君が福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度理解しているかを調べるためのアンケートです。率直に教えてください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗り潰して回答してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

質問 1 所属する学年にマークしてください。

- (1)
- |                                |                                |                                |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 1年 | <input type="checkbox"/> 2: 2年 | <input type="checkbox"/> 3: 3年 | <input type="checkbox"/> 4: 4年 | <input type="checkbox"/> 5: 5年 |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

質問 2 所属する学科にマークしてください。

- (2)
- |                                |                                |                                |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械 | <input type="checkbox"/> 2: 電気 | <input type="checkbox"/> 3: 物質 | <input type="checkbox"/> 4: 建設 | <input type="checkbox"/> 5: コミ |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

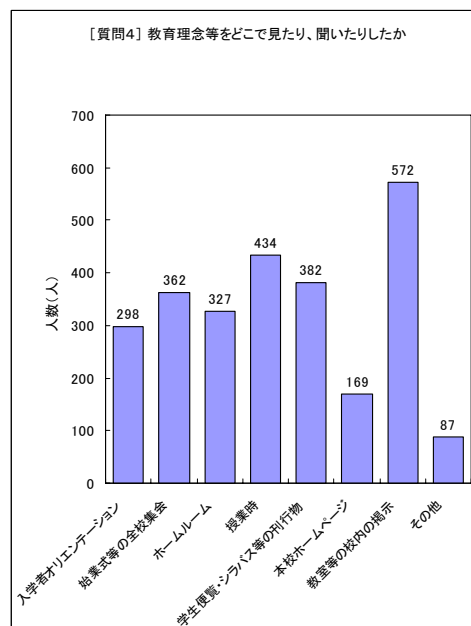
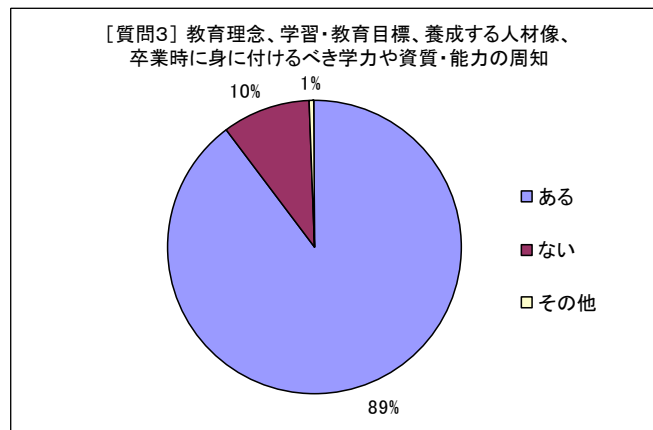
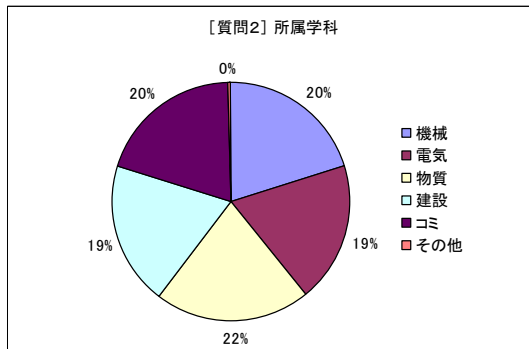
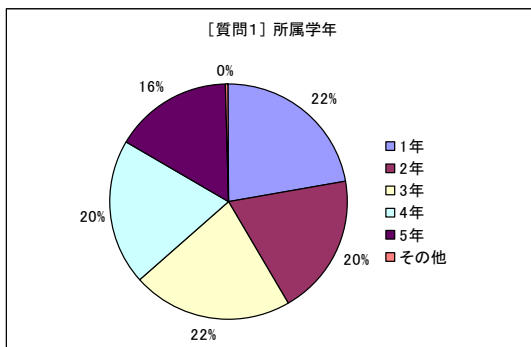
質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

- (3)
- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: ある | <input type="checkbox"/> 2: ない |
|--------------------------------|--------------------------------|

質問 4 質問 3 で「1. ある」と答えた学生だけに聞きます。それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

- (4)
- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 入学者オリエンテーション   | <input type="checkbox"/> 2: 始業式等の全校集会 |
| <input type="checkbox"/> 3: ホームルーム         | <input type="checkbox"/> 4: 授業時       |
| <input type="checkbox"/> 5: 学生便覧・シラバス等の刊行物 | <input type="checkbox"/> 6: 本校ホームページ  |
| <input type="checkbox"/> 7: 教室等の校内の掲示      | <input type="checkbox"/> 8: その他       |





(出典：認証評価委員会資料)

専攻科課程の学生に対するアンケート調査



専攻科課程

学生の福島高専の「教育理念」等に対する理解度についてのアンケート調査

この調査は、学生諸君が福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度理解しているかを調べるためのアンケートです。率直に答えてください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗り潰して回答してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

質問 1 所属する学年にマークしてください。

(1)

1: 専1年

2: 専2年

質問 2 所属する専攻にマークしてください。

(2)

1: 機械・電気

2: 物質・環境

3: ビジコミ

質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(3)

1: ある

2: ない

質問 4 質問3で「1. ある」と答えた学生だけに聞きます。

それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

(4)

1: 入学者オリエンテーション

2: 始業式等の全校集会

3: ホームルーム

4: 授業時

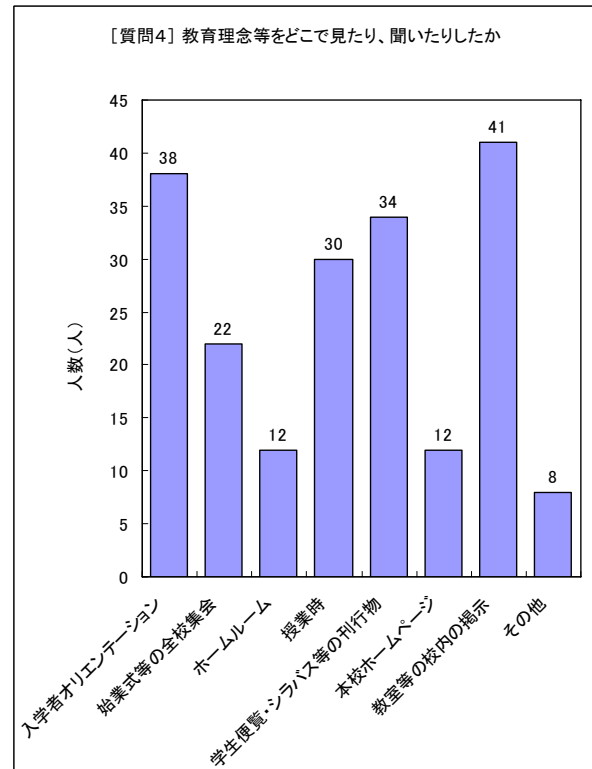
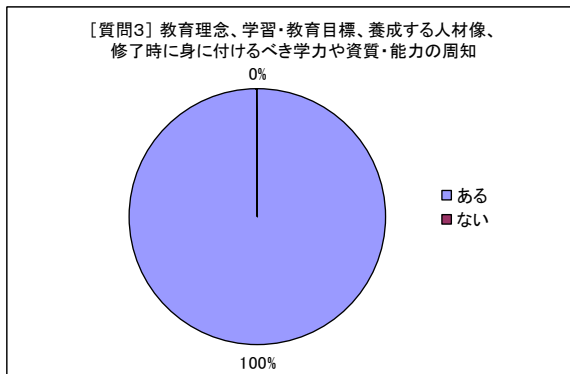
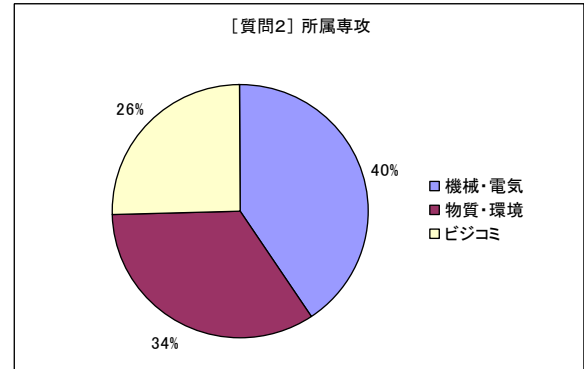
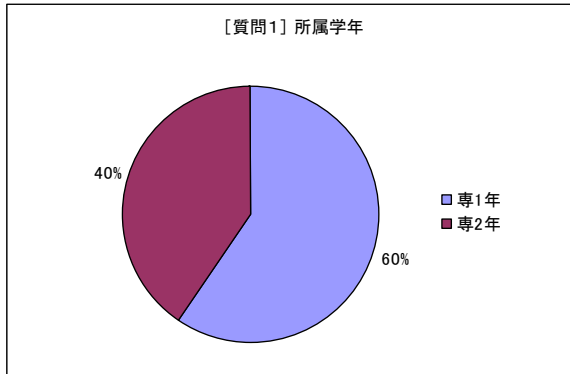
5: 学生便覧・シラバス等の刊行物

6: 本校ホームページ

7: 教室等の校内の掲示

8: その他





(出典：認証評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的や教育理念、学習・教育目標等を掲載した学校要覧や学生便覧等を教職員及び学生に配布し説明するほか、各教室内に掲示してその周知を図っている。また、教員に対しては種々の会議や研修等の機会に説明することにより周知徹底を図っている。平成 19 年度初めに学生や教職員の周知状況を把握するため行ったアンケート調査の結果では、学生の約 90%以上及び教職員の約 70%以上が「知っている」との回答結果が得られている。

以上のことから、本校ではその目的、教育理念等が、学校の構成員に概ね周知されている。

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、その教育理念や学習・目標等をウェブサイト(資料 1-2-①-1)に掲載することにより、社会に対して公表している。また、本校の学校要覧(資料 1-2-②-1)や夏休み期間に実施する一日体験入学や中学校や高校へ出向いての学校説明会などを通して、学校の目的や教育理念等を説明している。また、平成 16 年 10 月から平成 19 年 3 月まで 30 回に亘って連載された地元新聞記事「福島高専の挑戦」(資料 1-2-②-2~3)等を通して、広く社会に公表している。

資料 1-2-②-1

**福島工業高等専門学校の教育理念、学習・教育目標及び養成する人材像**

**教育理念**

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

**学習・教育目標**

1. 地球の視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
3. 工学系科目ービジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
4. 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
5. モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
6. 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

**養成する人材像**

本校の準学士課程は工学系 4 学科およびビジネス系 1 学科、専攻科課程は工学系 2 専攻およびビジネス系 1 専攻から構成されており、「工学ービジネス」の融合したシナジー教育が特色である。そのため、本校で育てる人材像を列記する。

1. 工学系学科と専攻
  - ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
  - ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
  - ③ 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者
2. ビジネス系学科と専攻
  - ① 管理能力を持ったビジネス系職業人
  - ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
  - ③ 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

準学士課程の各学科で養成する人材像

学 科	目標と養成する人材像
機 械 工 学 科	機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
電 気 工 学 科	電気・電子・情報技術を中心として産業界のさまざまな分野で活躍できる技術者の育成
物 質 工 学 科	時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、機械、電気、電子工業などの素材技術者の育成
建設環境工学科	建設技術の基礎の上に、自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成
コミュニケーション情報学科	「ビジネス」、「英語」、「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育・研究により、ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

(出典：国立福島工業高等専門学校要覧 2007)



(第三種郵便物認可)

いわき民報 (夕刊) 平成16年(2004年)10月26日 (火曜日) 第17843号 (12)



福島高専の生い立ちと現況

国立高等専門学校(高専)は、昭和37年から39年にかけて、当時の高度成長期に対応して、中堅の実践的技術者の養成を目的として、まず17校が設置された高等教育機関である。以後、各県にほぼ1校ずつ設置されてきており、現在では北海道から沖縄まで、55校に及んでいる。

福島高専(開校当時は平高専と称した)も、一期校として昭和37年に、いわき市(旧平市)に設置された。福島県内における唯一の国立の工学系高等教育機関として、実践的技術者の育成に貢献してきた。開校以来40余年が経過し、その間、5500人を超える有為な人材を世に送り出してきた。

本校は、JRいわき駅前からバスで10分程の距離にありながら、緑に恵まれた環境にある。現在、本科の5学科(5年制)、専攻科の3専攻(2年制)から構成されており、1050人の学生が在籍している。平成16年4月には、高専の一層の活性化、教育研究の高度化を目指して、全国55高専を一つの組織とする独立行政法人国立高等専門学校機構(高専機構)が設置された。福島高専もメンバーの一員として、新たな出発をした。すなわち、「新生福島高専」の誕生である。

教育理念

教育理念は、高専機構法第3条に「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」と改められた。

従来の「中堅技術者育成、を教育理念とする内容を、より高度化して包括的な内容の中に、特に「創造的な人材を育成する」という目標が新たに盛り込まれている。これを受けて福島高専は、教育目標を次の3項目にまとめ、人材育成に励むこととした。

- ・人間力の育成
- ・基礎学力及び創造的実践力の育成
- ・コミュニケーション能力と国際的視野の育成

教育システムとしての特徴

福島高専には、エンジニアになるための機械工学科、電気工学科、物質工学科、建設環境工学科の工学系4学科と、ビジネス系のコミュニケーション情報学科がある。コミュニケーション情報学科は、英語、コンピュータ、デザイン、経営学、経済学、さらにビジネスに必要とされる実践的な知識や技術を学ぶことができる。

もともと高専は、15歳からの5年一貫(高校3年+大学2年まで)の教育であった。大学入試の受験競争が無い分、のびのびと自分のペースで、勉学や課外活動に集中できるので、学力だけでなく人間力も養成されるようになっている。

本校の専門学科教員の約70%が、大学教員と同様に博士(工学・理学・経済学等)の学位を持つ研究者なので、教員自身の研究成果や研究経

福島高専の挑戦

独立行政法人化における教育方針と地域貢献

1

福島工業高等専門学校長

安久 正統

験を踏まえた教育が行われている。専門の研究開発における学生固有の才能の開花を、大学生よりも早期に促すことができる。

本校は、多様な教育システムなど、学生の個性を伸ばす教育を行っている。5年修了後には、就職率100%の恵まれた環境の中で50~60%の学生が社会人となり、40~50%の学生が専攻科入学、あるいは国立大学3年次への編入学をほとんど実現している。

専攻科の設置

平成16年4月に、専攻科が設置された。専攻科には、工学系の2専攻、機械・電気システム工学専攻(入学定員8名)、物質・環境システム工学専攻(入学定員8名)と文理融合系のビジネスコミュニケーション学専攻(入学定員4名)があり、現在1期生(1年生)が在籍している。

2年間の教育を修了すれば、工学系では「学士(工学)」、ビジネス系では「学士(経営学)」が取得可能になった。このように資格の点で大学と同等でありながら、専攻科の学費は、国公立大学の半分で済むという大きな利点がある。専攻科は、少人数教育を充実させた国立大学のミニ学部ともいえる。

つまり従来、高校3年+短大2年=5年であった福島高専が、専攻科設置により、一部、高校3年+大学4年=7年になったのである。

地域貢献・産官学連携

教育・研究の高度化や活性化、ならびに地域貢献を目指して、福島高専の教育および技術シーズを地域へ積極的に提供しようになった。両シーズ集は、本校ホームページといわき商工会議所のホームページにも掲載されており、多様な要望に応じた。

県内の全大学および福島高専で構成された福島県高等教育協議会において、単位互換や研究交流が可能になった。

特に近隣の福島大学、茨城大学との教育(単位互換、編入学、大学院推薦入学等)および研究交流(共同研究)を積極的に推進している。地域産業の活性化のため、地方公共団体および民間企業と積極的に連携し、シーズおよびシーズのネットワーク構築を図っている。



高専アラカルト

先生は「教授」

高専は校長、教授29名、助教授28名、講師10名、助手11名および事務系職員49名の総勢128名で構成されている。

教員の採用には公募制を導入し、研究業績・学位取得・模範授業・面接などにより総合評価を行い、民間企業、本学、研究機関などの多様な勤務経験を有する教員を招聘し、各専門に適した教育を行っている。

生徒は「学生」

高専生は大学と同じ高等教育機関に所属しているため「学生」と呼ばれ、一方的な受身の立場を脱却するのではなく、主体的に勉強


シーズとニーズ

「シーズとは、高専が有する研究の成果や技術あるいは教育に関する内容・方法・技術などを、言い換えるところ、高専の知的・技術的資源や財産のこと」であり、「ニーズとは、社会からの要望で、具体的には「地域社会や産業が求めていること」などである。例えば、地域モノづくりへの貢献として「福島県の中

学生によるモノづくりロボット競技会」など、地域産業への協力として「新しい材料の開発」、「環境問題へのアプローチ」、「技術開発に関するマネジメント」など多様な分野に展開している。専攻科の研究でも、地域に密着したテーマをとりあげ、諸問題の解決を行っている。

(出典：「いわき民報」新聞掲載記事)

(11) (第三種郵便物認可) いわき民報 (夕刊) 平成19年(2007年)3月27日(火曜日) 第18556号



専攻科「特別研究」のいわき市生涯学習プラザでの公開発表会

▶ 福島高専の果たす役割 ◀  
—地域により密着した高専を目指して—

平成16年度に独立行政法人高専機構となると同時に、本校に専攻科が設立され、ほぼ3年が経過しました。教育の改革を目指し「個性化・活性化・教育の更なる高度化」を掲げて邁進しています。本校の教育理念に基づいた教育、さらには地域に密着した教育として、

- 1) 地域からの要望に応えられる教育、
- 2) 地域産業等の活性化へ繋がる研究と開発、
- 3) 地元への率先力ある人材供給、などを重視して国立高等教育機関としての役割を果たしてきております。

さらなる教育・研究の高度化を図るため、専攻科教育も軌道に乗り、今年で第2期生を卒業させましたが、全員が「学士」を取得しました。更には特別研究の成果を全学生が学会等で発表を行い、一般的な大学よりも充実した研究・教育を実施していると自負しております。この成果を、地域へ還元することが、本校の果たす役割の一つと考えております。

▶ 卒業(修了)時に身に付けるべき  
学力や資質・能力 ◀

○本科(准学士課程)を卒業する時に身に付けるべき内容を定めました。

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

○専攻科課程を修了する時に身に付けるべき内容を定めました。

- 1) 地獄的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力

## 福島高専の挑戦

「個性化・活性化・教育のさらなる高度化へ邁進」

30

最終回  
校長 安久 正統  
校長補佐 佐東 信司

6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

▶ 専攻科のさらなる充実 ◀

専攻科は少人数教育による充実した講義、マンツーマンによる特別研究の実施、工学系の学生には「雇用の分かるエンジニア」・ビジネス系の学生には「技術の分かるビジネスマン」の教育をしております。

企業では率先力のある人材を望んでおります。従来からインターンシップを実施しておりますが、この制度を改善し、高専と企業で学生を一緒に教育する仕組みを構築させ、学生を1~数カ月間企業で実務体験(COOP教育)させることで、職業人に近い人材育成を実施したいと考え、検討を始めました。また、特別研究では地域に根ざした教育と地域連携を深めるため、積極的に研究課題を企業等から提案・発掘し、共同研究体制を確たるものにならんと願っています。

学生が2年間在籍中に学会等で発表する件数は約1.5件で、国立大学の学部学生と比較しても圧倒的に多く、探究心と創造力の向上が得られた結果であると理解しています。専攻科学生総定員は20名ですが、平成19年度入学予定者は28名と増加しました。現教員体制から判断して定員枠を40名まで拡大したいと考えています。

▶ 外部評価による教育の高度化 ◀

外部の有識者・学位授与機構・学会等による教育や管理運営の適正化の評価を毎年のように受審し、改善に伴う教育の高度化を実施しております。

これまで、平成17年度には自己点検評価、本年度は日本技術者教育認定機構(JABE)による審査を受け、高く評価されてきました。平成19年度には認証評価、平成21年度には専攻科設置5年経過後の教育の評価を学位授与機構から受ける予定です。これらの評価、改善を繰り返して教育のさらなる向上を図り、教育の高度化を前進させます。

▶ 福島高専のさらなる挑戦 ◀

少子化現象に対応できる人材育成に対し、本校では下記のことについて検討しています。

- 1) 入学希望者への魅力ある改革
- 2) 新たな横断的学科群などによる教育の充実
- 3) 工学系-ビジネス系によるMOT教育(技術経営)の充実
- 4) 地域に密着した実践的問題の解決を通じた学生の創造力の育成
- 5) 浜通りと北茨城圏との地域連携によるCOOP教育の実現
- 6) 専攻科における大学との社会人博士課程の共同教育の実現

これらを早期に実現させますので、今後ともご支援ください。

「文部科学大臣賞」受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞  
文部科学大臣賞 受賞

(出典：「いわき民報」新聞掲載記事)

本校の平成16~18年度卒業(修了)生及び本校卒業生の就職企業等学外者に対しても、平成19年4月下旬から5月初めにかけて、本校の教育理念や学習・教育目標、養成する人材像及び卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力等の周知状況に関するアンケート調査(資料1-2-②-4~5)を実施した。その結果によれば、卒業(修了)生については回答者の約80%以上、また企業等学外者については回答者の約70%以上が「知っている」と回答している。

以上のことから、本校の目的や教育理念等が社会に対して広く公表され、周知されている。

卒業（修了）生に対するアンケート調査



卒業生用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問1 あなたが最終的に卒業（修了）した学科（専攻）について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (1) 準学士課程（本科5年生）
- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械工学科         | <input type="checkbox"/> 2: 電気工学科           |
| <input type="checkbox"/> 3: 物質工学科（旧工業化学科） | <input type="checkbox"/> 4: 建設環境工学科（旧土木工学科） |
| <input type="checkbox"/> 5: コミュニケーション情報学科 |   |
- (2) 専攻科課程
- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 6: 機械・電気システム工学専攻    | <input type="checkbox"/> 7: 物質・環境システム工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 8: ビジネスコミュニケーション学専攻 |   |

質問2 あなたの年齢について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (3)
- |                                    |                                    |                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 20～24歳 | <input type="checkbox"/> 2: 25～29歳 | <input type="checkbox"/> 3: 30～34歳 | <input type="checkbox"/> 4: 35～39歳 |
| <input type="checkbox"/> 5: 40～44歳 | <input type="checkbox"/> 6: 45～49歳 | <input type="checkbox"/> 7: 50～54歳 | <input type="checkbox"/> 8: 55歳～   |

質問3 現在、あなたは何をされていますか。

- (4)
- |                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 企業等に勤務 | <input type="checkbox"/> 2: 大学等の学生 |
| <input type="checkbox"/> 3: 無職     | <input type="checkbox"/> 4: その他    |

質問4 質問3で「1. 企業等に勤務」とお答えになった方だけに伺います。現在、あなたが所属している業種・分野について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (5) 製造業
- |                                   |                                      |                                   |                                  |
|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械    | <input type="checkbox"/> 2: 輸送用機械    | <input type="checkbox"/> 3: 金属    | <input type="checkbox"/> 4: 電気機器 |
| <input type="checkbox"/> 5: 精密機器  | <input type="checkbox"/> 6: 化学       | <input type="checkbox"/> 7: 繊維    | <input type="checkbox"/> 8: 医薬品  |
| <input type="checkbox"/> 9: 食品    | <input type="checkbox"/> 11: 電気・ガス   | <input type="checkbox"/> 12: 運輸   | <input type="checkbox"/> 13: 通信  |
| <input type="checkbox"/> 14: 建設   | <input type="checkbox"/> 15: 卸売・小売   | <input type="checkbox"/> 16: 金融   | <input type="checkbox"/> 17: 情報  |
| <input type="checkbox"/> 19: 官公庁等 | <input type="checkbox"/> 20: 大学等教育機関 | <input type="checkbox"/> 21: 研究機関 | <input type="checkbox"/> 22: その他 |





ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

質問5 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (6)  1: ある  2: ない

質問6 質問5で「1. ある」とお答えになった方のみ伺います。それらを何で（どこで）見たり、聞いたりしましたか、あてはまるものすべてにマークしてください。

- (7)  1: 本校関係者による説明  2: 学校要覧等の刊行物  3: 本校ホームページ  
 4: 本校校内の掲示  5: いわき民報記事「福島高専の挑戦」  
 6: その他

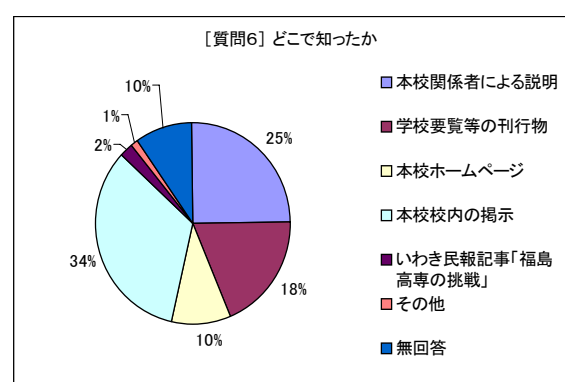
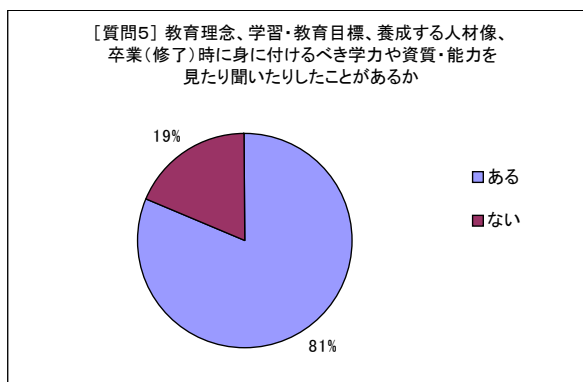
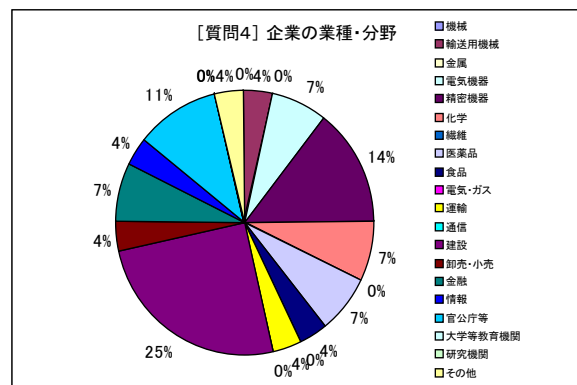
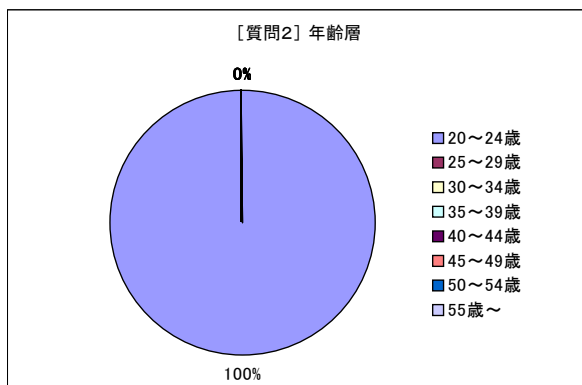
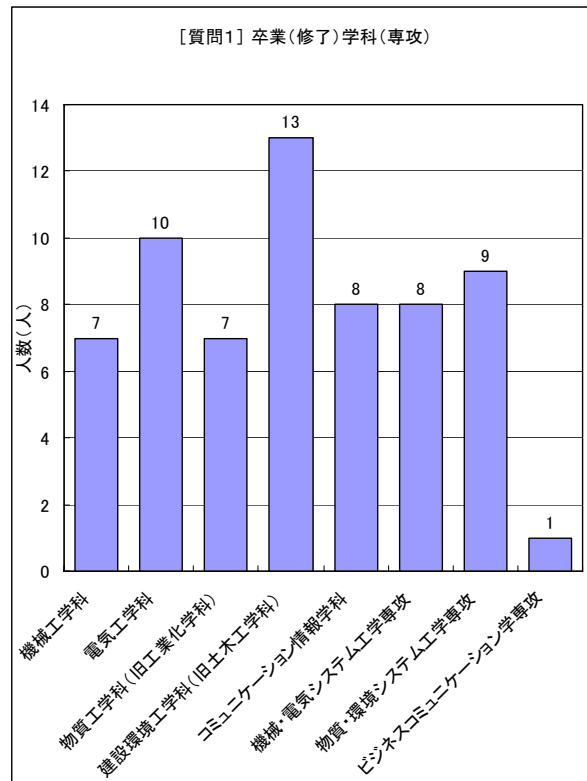
質問7 質問6で「1. ある」とお答えになった方のみ伺います。本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容についてどう思われますか、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (8)  1: このままでよい  2: 直したほうがよい

質問8 質問7で「2. 直したほうがよい」とお答えになった方のみ伺います。何をどのように直したらよいかを以下にお書き下さい。

(9)





(出典：認証評価委員会資料)



企業等学外者に対するアンケート調査



企業等学外者用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせて頂くものです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問 1 貴社(貴機関)の業種・分野について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (1)
- |          |             |          |         |
|----------|-------------|----------|---------|
| 1: 機械    | 2: 輸送用機械    | 3: 金属    | 4: 電気機器 |
| 5: 精密機器  | 6: 化学       | 7: 繊維    | 8: 医薬品  |
| 9: 食品    | 10: 電気・ガス   | 11: 運輸   | 12: 通信  |
| 13: 建設   | 14: 卸売・小売   | 15: 金融   | 16: 情報  |
| 17: 官公庁等 | 18: 大学等教育機関 | 19: 研究機関 | 20: その他 |

質問 2 貴社(貴機関)に採用いただいている(入学させていただいている)本校卒業(修了)生の出身学科(専攻)にあてはまるものすべてにマークしてください。

- (2) 準学士課程(本科5年生)
- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1: 機械工学科         | 2: 電気工学科           |
| 3: 物質工学科(旧工業化学科) | 4: 建設環境工学科(旧土木工学科) |
| 5: コミュニケーション情報学科 |                    |
- (3) 専攻科課程
- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 6: 機械・電気システム工学専攻    | 7: 物質・環境システム工学専攻 |
| 8: ビジネスコミュニケーション学専攻 |                  |

ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (4)
- |       |       |
|-------|-------|
| 1: ある | 2: ない |
|-------|-------|





質問 4 質問 3 で「 1. ある」とお答えになった方のみ伺います。  
それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

(5)

- 1: 本校関係者による説明       2: 学校要覧等の刊行物       3: 本校ホームページ  
 4: 本校校内の掲示       5: いわき民報記事「福島高専の挑戦」  
 6: その他

質問 5 質問 3 で「 1. ある」とお答えになった方のみ伺います。  
本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容についてどう思われますか、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

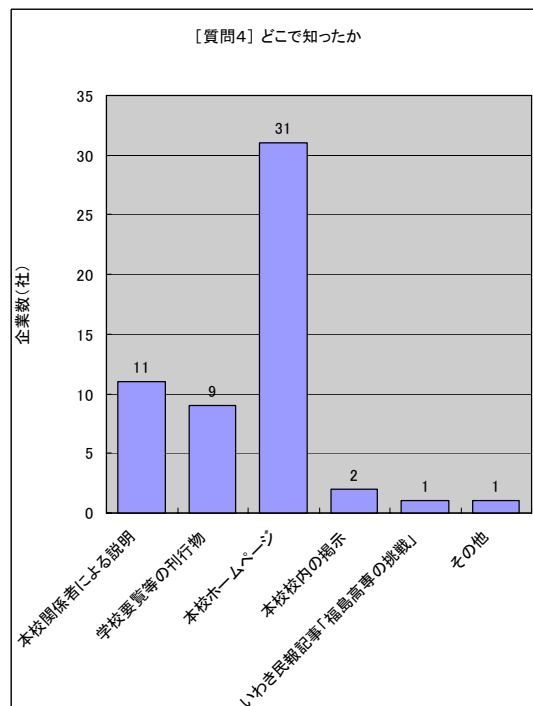
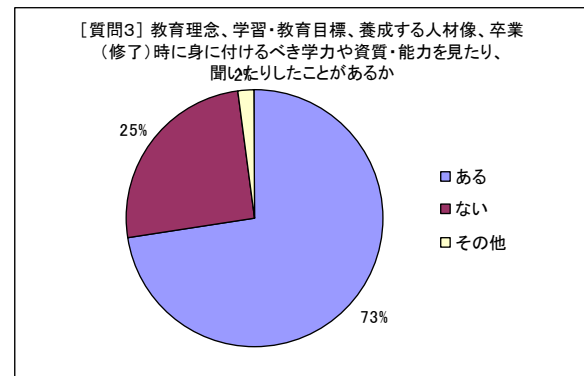
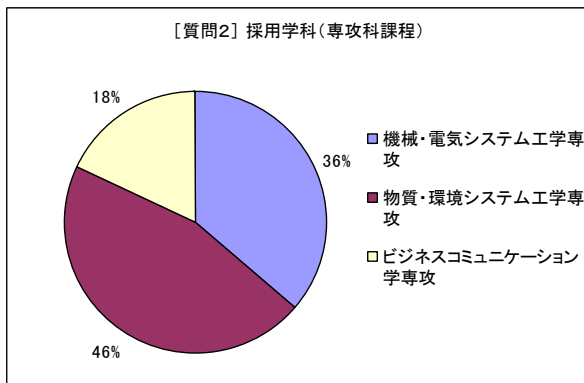
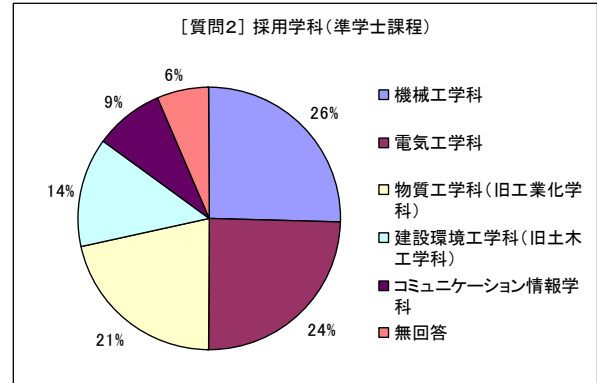
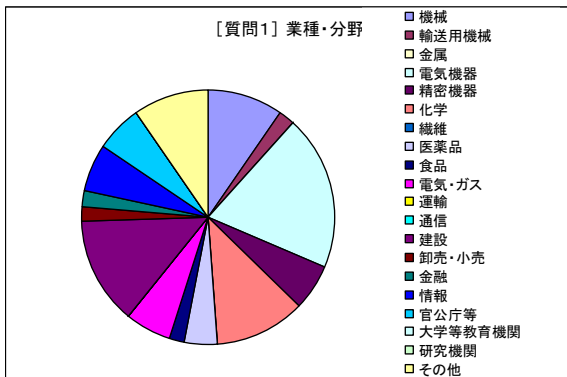
(6)

- 1: このままでよい       2: 直したほうがよい

質問 6 質問 5 で「 2. 直したほうがよい」とお答えになった方のみ伺います。  
何をどのように直したらよいかを以下にお書き下さい。

(7)





(出典：認証評価委員会資料)



### (分析結果とその根拠理由)

ウェブサイト本校の目的等を掲載しているほか、「学校要覧」等にも本校の目的、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等を記載しており、一日体験入学や中学校訪問時においても積極的に説明している。また、地元新聞に「福島高専の挑戦」と題する記事を長期にわたって掲載し、広く社会への周知を図っている。さらに、卒業（修了）生や企業等学外者への学校の目的や教育理念等の周知度に関するアンケート調査を行い、その結果では回答者の約7割以上が「知っている」との回答を得ている。

以上のことから、本校の目的は、社会に対して広く公表されている。

## (2) 優れた点および改善を要する点

### 【優れた点】

- ・教職員、学生に加えて卒業（修了）生や企業等学外者に対しても積極的にアンケート調査を実施し、その周知状況を把握している。
- ・学校の目的や教育理念等をウェブサイトや学生便覧、学校要覧等に掲載しているほか、教室等にも掲示して学生や教職員に対してその周知を図っている。また、教育理念等を含む学校の紹介記事を地元の新聞紙上に長期に亘って連載するとともに、さらにそのパンフレットを印刷配布して、広く社会に公表している。

### 【改善を要する点】

- ・該当なし

## (3) 基準1の自己評価の概要

本校では、学校創立時に「学校の目的」を定め、その後「教育理念」や「学習・教育目標」等が設定されて現在に至っている。また、準学士課程や専攻科課程及び各学科や各専攻ごとに「養成する人材像」を定めると共に、さらに「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」を定めることにより、学生が本校で学修する際の具体的指針を示している。

本校では、「学校の目的」を高等専門学校設置の趣旨及び学校教育法に定める高等専門学校の目的を踏まえて定めており、「教育理念」や「学習・教育目標」については、学校教育法に定める高等専門学校の目的との関連を意識して策定していることから、本校の目的は学校教育法の規定からはずれものではない。

本校では、先に行ったアンケート調査の結果から、教職員や学生等の構成員、また卒業（修了）生や企業等学外者に対しても、本校の目的、教育理念、学習・教育目標等が概ね周知されていることが明らかになっているが、さらに学生に対しては校内掲示や授業及びホームルーム等、また教職員に対しては研修等を通じてその周知徹底を図る取り組みも行っている。

また、本校の目的や教育理念、養成する人材像等は、学校のホームページや「学校要覧」等の配付資料及び地元新聞の連載記事にも掲載され、広く社会に公表されている。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）

準学士課程は，学校教育法第 70 条の 2 に規定されている高等専門学校の目的に沿って，社会人・職業人として必要な教養及び専門分野の理論や技術の修得に必要な基礎力の育成，また実社会で役立つ実践的技術者・職業人の育成のため，機械工学科，電気工学科，物質工学科及び建設環境工学科から成る工学系 4 学科とビジネス系のコミュニケーション情報学科の全 5 学科で構成している（資料 2-1-①-1）。

各学科は，本校の教育理念である「広く豊かな教養と人間力の育成」，「科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成」及び「固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成」に基づいて，その学科の目標と養成する人材像を明確に定めている（資料 1-1-①-4）。

資料 2-1-①-1

福島工業高等専門学校学則（抜粋）

第 7 条 学科、学級数および入学定員は、次のとおりである。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 工 学 科	1	40 人
物 質 工 学 科	1	40 人
建 設 環 境 工 学 科	1	40 人
コミュニケーション情報学科	1	40 人

（出典：福島工業高等専門学校平成 19 年度学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）

各学科は，本校の教育理念，学習・教育目標，養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等にしがって構成され，またこれに基づく教育を実施しており，その目的に照らして学科構成は適切なものとなっている。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）

専攻科課程は，より高度で専門的な知識と技術を修得すると共に，広く豊かな教養と人間力を備え，広く産業の発展に貢献する人材の育成を目的として，機械・電気システム工学専攻，物質・環境システム工学専攻及びビジネスコミュニケーション学専攻の 3 専攻を設置している（資料 2-1-②-1）。

1)。特に、ビジネスコミュニケーション学専攻は、国内で唯一のビジネス系の専攻である。

本校の教育理念等に基づいて、専攻科課程の各専攻についても、それぞれ養成する人材像を明確に定めている（資料 1-1-①-4）。

資料 2-1-②-1

福島工業高等専門学校学則（抜粋）

第 30 条 専攻科の専攻および入学定員は、次のとおりである。

専 攻	入学定員
機械・電気システム工学専攻	8
物質・環境システム工学専攻	8
ビジネスコミュニケーション学専攻	4

（出典：福島工業高等専門学校平成 19 年度学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）

各専攻は、本校の教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力及び資質・能力等にしがって構成され、またこれに基づく教育を実施しており、その目的に照らして専攻構成は適切なものとなっている。

**観点 2-1-③-1： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

（観点に係る状況）

教育の目的を達成するための全学的なセンターとして情報処理教育センター、地域環境テクノセンターを設置している。

1) 情報処理教育センター

情報処理教育センターは、低学年のコンピュータリテラシーについての情報処理基礎教育、専門学科高学年の情報処理応用教育あるいは専攻科課程の教育・研究を行うための全学科共通の施設であると共に、校内 LAN 環境を管理する重要な役割を担っている（資料 2-1-③-1）。

本センターでは、学生全員に ID 及びパスワードを付与しており、学生は学内のどのパーソナルコンピュータからもインターネットを通して各種の情報を得ることができ、さらに各種レポート等の作成や就職活動、進学情報の収集等にも活用している（資料 2-1-③-2）。

## 福島工業高等専門学校情報処理教育センター規則

(昭和 62 年 3 月 7 日)

(規則 第 13 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 45 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 1 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校情報処理教育センター(以下「センター」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第 2 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理の教育に関すること。
- (2) 情報処理教育の研究に関すること。
- (3) 電子計算機の利用、運転及び保守に関すること。
- (4) 校内 LAN に関すること。
- (5) その他センター長が認めた業務

(センター長等)

第 3 条 センターに、センター長及びセンター員を置く。

- 2 センター長は、センターの管理運営に関することを掌理する。
- 3 センター長は、教授及び助教授をもって充て、校長が命ずる。
- 4 センター員は、センター長の職務を助ける。
- 5 センター員は、教員のうちから、校長が命ずる。
- 6 センター長及びセンター員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。
- 7 センターの業務に従事するため職員を置く。

(利用者の範囲)

第 4 条 センターを利用できるものは、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 教職員
- (2) 学生
- (3) その他センター長が承認した者

(利用の手続)

第 5 条 センターの利用手続は、別に定める「センター利用の手引き」による。

(運営委員会)

第 6 条 センターにセンター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く

(審議事項)

第 7 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 情報処理教育と研究に関すること。
- (2) センターの利用及び運営に関すること。
- (3) 校内 LAN に関すること。
- (4) その他委員長が必要と認めたこと。

(組織)

第 8 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長及びセンター員
  - (2) 各学科の教員のうちから校長が命じた者
  - (3) 会計課長及び会計課長が指名した者
- 2 前項第 2 号に掲げる委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第 9 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 センター長に事故あるときは、校長の命じた者がその職務を代理する。

(構成員以外の出席)

第 10 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第 11 条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 12 条 委員会の庶務は、会計課において処理する。

(雑則)

第 13 条 この規則に規定するもののほか、運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

1 この規則は、昭和 62 年 4 月 から施行する。

2 福島工業高等専門学校電子計算機室設置規程(昭和 48 年 3 月 26 日規則第 6 号)及び福島工業高等専門学校電子計算機室管理運営委員会規則(昭和 48 年 3 月 26 日規則第 7 号)は、廃止する。

附 則(平成 9 年 3 月 31 日規則第 11 号)

この規則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 16 年 4 月 1 日規則第 49 号)

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 3 月 30 日規則第 45 号)

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料 2 - 1 - ③ - 2

情報処理教育センターの利用状況

	8:40～10:10	10:30～12:10	13:00～14:40	14:50～16:30
月	① 1 物：情報基礎		② 1 コ：情報基礎	① 5 コ：知的所有権
火	① 1 建：情報基礎 ② 2 電：情報工学基礎	② 3 電：情報工学応用	① 3 建：情報処理	
水	② 3 コ：情報コミ演習	② 5 コ：広告・広情報	① 5 電：通信工学 I	
木	① 1 機：情報基礎 ② 2 機：情報処理基礎	① 3 機：情報処理	① 1 電：情報基礎	
金		① 2 物：情報処理 ② 4 機：情報処理		② 5 建：応用情報処理

①情報基礎演習室 ②情報応用演習室

(出典：認証評価小委員会資料)

2) 地域環境テクノセンター

地域環境テクノセンター（資料 2 - 1 - ③ - 3）は、従前の環境科学教育センターと地域交流センターの両機能を統合し、その充実と効率化によって新しい全学科共通の教育・研究施設としての展開を図ることを目標に、平成 18 年度に新しく開設された。本センターは、教育・研究面で特に環境工学関連の実験・実習、卒業研究及び特別研究等の実施に十分活用されている。本センターの利用状況（資料 2 - 1 - ③ - 4）と研究成果の状況（資料 2 - 1 - ③ - 5）は、以下のとおりである。

資料 2 - 1 - ③ - 3

福島工業高等専門学校地域環境テクノセンター規則

(昭和 18 年 3 月 30 日)  
(規則 第 46 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 1 1 条の 2 第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校地域環境テクノセンター（以下「センター」という。）の業務、組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、本校における産学官民交流の拠点とし、かつ、地域の活性化を図るとともに人材の養成に資することを目的とする。

(部門)

第 3 条 センターに、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 運営管理部門
- (2) リエゾン部門
- (3) 技術支援部門
- (4) 教育支援部門

(業務)

第 4 条 運営管理部門は、次の業務を行う。

- (1) センターの運営、管理に関すること。
- (2) 前条各号に定める部門（以下「部門」という。）間の連絡調整に関すること。
- (3) センターが編集する研究論文集、シーズ集、報告集、広報等の情報管理に関すること。
- (3) その他センターに関する事項

2 リエゾン部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域や他機関等との交流、連携に関すること。
- (2) 本校に対する支援団体との協力、連携に関すること。
- (3) その他地域との交流、連携に関すること。

3 技術支援部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 他機関との研究協力、研究支援に関すること。
- (2) 技術相談、技術指導に関すること。
- (3) 産学官民との連携に関すること。

(4) 知的財産に関すること。

(5) その他技術支援に関すること。

4 教育支援部門は、次に掲げる業務を行う。

(1) 出前授業・実験に関すること。

(2) 学校開放事業に関すること。

(3) セミナー、公開講座等に関すること。

(4) 小・中学生の教育支援に関すること。

(5) その他教育の支援に関すること。

(組織)

第5条 センターに、次に掲げる者を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター員

(4) 部門の業務を処理する教員

(5) 学外有識者

(6) その他必要な教職員

(センター長)

第6条 センター長は、教授をもって充て、校長が命ずる。

2 センター長は、センターを統括する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、教授をもって充て、校長が命ずる。

2 副センター長は、センター長の職務を助ける。

(センター員)

第8条 センター員は、教員のうちから、校長が命ずる。

2 センター員は、センターの業務を処理する。この場合において、部門に定める業務のみを処理することを妨げるものではない。

(学外有識者)

第9条 センターに、必要に応じ学外有識者を置くことができる。

2 学外有識者は、各部門の業務に関し助言を行い、また共同で企画立案を行う。

3 学外有識者は、必要に応じ、その都度校長が委嘱する。

(任期)

第10条 第5条第1項から第4項に掲げる者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の者に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第11条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、福島工業高等専門学校地域環境テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第12条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長及び副センター長

(2) センター員

(3) 各学科の教員のうちから校長が命じた者（第1号及び第2号に掲げる者を除く。）

(4) 情報処理教育センターから教員1名

(5) 会計課長及び会計課所属の事務職員

2 第9条に定めるが学外有識者は、運営委員会に出席し、意見を述べるができる。

(委員長)

第13条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第14条 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第15条 委員長は、運営委員会での審議事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第16条 委員会の庶務は、会計課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に規定するもののほか、運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 福島工業高等専門学校地域交流センター規則（平成15年2月19日規則第9号）及び福島工業高等専門学校環境科学教育研究センター規則（昭和62年3月7日規則第14号）は、廃止する。

(出典：地域環境テクノセンター規則)

資料 2 - 1 - ③ - 4

地域環境テクノセンターの利用状況（実験科目）

下表の数字は、教職員（2名）と物質工学科及び専攻科（物質・環境システム工学専攻）の学生についての利用状況です。

	8:40-10:10	10:30-12:10	13:00-14:40	14:50-16:30	
月	6	2	2	2 1 + 9	
火	2	2	2 1 + 9	2 1 + 9	
水	2	2 1	2 1 + 9	2 1 + 9	
木	2	2	2 1 + 9	2 1 + 9	
金	2	2 1 + 9	2	2	

（注）使用時間帯で人数に変動あり→8～30人（常時利用者：職員2名+卒研生6名）

（出典：地域環境テクノセンター報告書）

資料 2 - 1 - ③ - 5

地域環境テクノセンター利用の卒業研究及び特別研究一覧

平成 18 年度 卒業研究一覧（準学士課程）

学科名	学生氏名	研究課題
機械工学科	伊藤 正泰	摩擦攪拌接合による 1100/5083 アルミニウム合金の組織と機械的性質に関する研究
	宮地 律明	摩擦攪拌接合による 5083 アルミニウム合金の結晶粒径制御と強度特性に関する研究
	若林 徹	高反発型 W/Ti-6Al-4V 複合材料の開発と強度特性に関する研究
	飯塚 丈方 渡邊 良平	音による工具寿命の判定に関する研究
	鈴木 隼雄 鈴木 良太	低周波音によるマスキング特性に関する研究
物質工学科	小松 香織	[Si-C≡C]単位を有する含ケイ素ポリマーの加水分解
	古内 有希	[Si-C≡C]単位を有する含ケイ素ポリマーの加水分解
	大林 洵	高等植物由来 D-アミノ酸オキシダーゼおよび D-アスパラギン酸オキシダーゼ
	大関 太之	トリメチルアンモニオ基を導入した新規有機 2 次非線形光学材料の合成
	鎌田 信之	トリメチルアンモニオ基を導入した新規有機 2 次非線形光学材料の合成と評価
	高原 健	π 共役を拡張したスチルバゾリウム誘導体の合成と 2 次非線形光学特性
	赤坂 匡史	新規完全縮環型ポルフィセンの合成と性質
	小澤 翔太	コバルトポルフィリンを用いたヘム異常代謝反応の中間体に関する研究
	小松 みゆき	新規トリフルオロメチル基を有するポルフィリンの合成

	佐藤 令奈	$\alpha, \beta$ -二重連結ジピロメタンを有するポルフィリンおよびポルフィリン類似化合物の合成
	山下 和香奈	賢沼の水質調査及び改善
	猪狩 麻衣	微量フッ化物イオンの均一液抽出に基づく 簡易計測法
	小泉 圭	微量有害物質の回収法の基礎的検討
	栗城 貴也	均一液抽出法を用いるアミノ酸の新規分離法の開発
	篠原 祐喜	アセトアルデヒド高感度計測法の開発
	大平 剛志	側鎖にエステル結合を有するポリイミンの合成
	石見 勇樹	低温イミド化によるエステル基を含む新規芳香族ポリイミドの合成
	伊藤 友里	新規芳香族ポリアミドの合成と感光性の評価
	中川 若菜	新規芳香族アゾポリマーの合成
建設環境工学科	酒井 正和	フレッシュコンクリート中における鉄筋のさびに関する研究
	鈴木 幹奈	コンクリート中における鉄筋の錆と不動態膜生成に関する研究
	堀江 尚子	水処理用接触材の材質の違いと処理効率との関連に関する検討

平成 18 年度 特別研究一覧（専攻科課程）

専攻名	学生氏名	研究課題
機械・電気システム 工学専攻	五十嵐雄大	摩擦攪拌接合による 1055/5083 アルミニウム合金の組織と機械的性質に関する研究
	渡辺 剛	高弾性・高反発型ゴルフクラブの開発
	遠藤 由弥	切削音による工具寿命の判定に関する研究
	国井 一寿	低周波音のマスクング効果と聴覚特性に関する研究
物質・環境システム 工学専攻	伊藤 健太郎	超臨界二酸化炭素を用いた乾燥・抽出プロセスの開発
	倉持 祥子	塩化マグネシウム系乾燥剤の吸湿メカニズム
	仲西 涼	三成分系均一液抽出法における選択性の発現
	宮原 亮	2次非線形光学用高性能結晶の探索と評価
	五十嵐 雅俊	酸化チタン微粒子を用いた色素増感太陽電池の高性能化
	佐々木 誉幸	含ケイ素耐熱高分子材料の合成
	鈴木 大地	高耐酸化性含ケイ素炭素材料の合成
	高橋 寛生	有機塩素化合物分解菌の探索
	田村 夏樹	ヘム異常代謝反応の中間体モデル-N-アルキルコバルトポルフィリンを有する再構成ミオグロビンの構造と反応

(出典：地域環境テクノセンター運営委員会会議録)

(分析結果とその根拠理由)

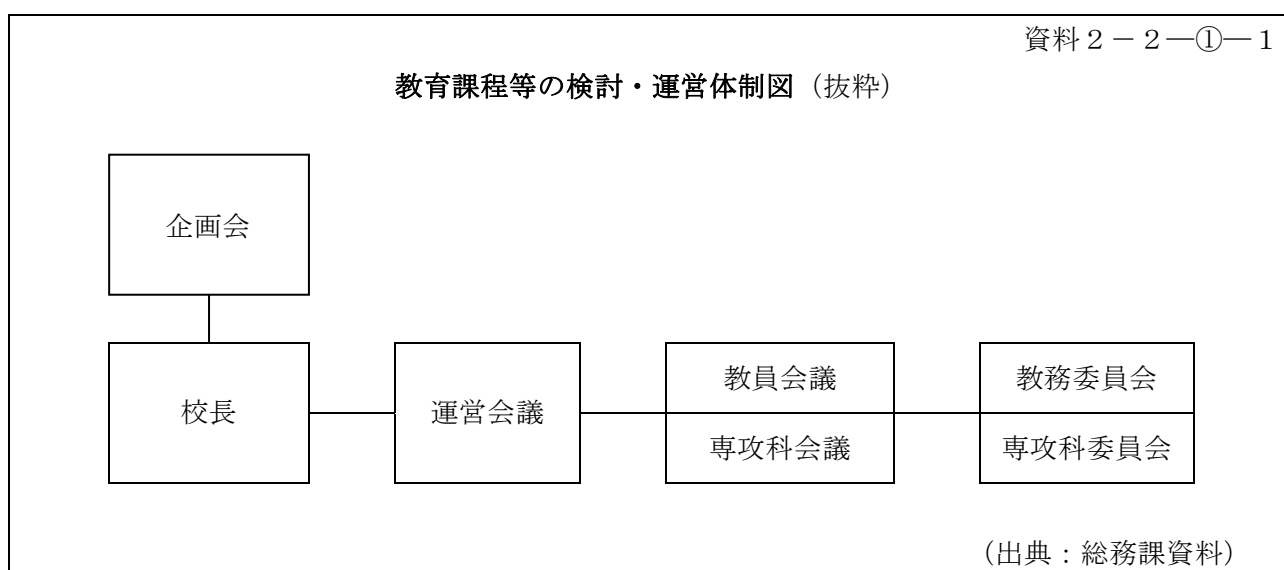
全学科共通の教育研究施設として、情報処理教育センターと地域環境テクノセンターの二つを設置している。情報処理教育センターは、低学年における情報処理基礎教育及び高学年における情報処理応用教育の充実のために十分に活用され、また地域環境テクノセンター、工学系4学科と専攻科の学生に対する実験・実習及び教育・研究の場として有効に機能している。したがって、これら二つのセンターの設置は、本校の学習・教育目標「3. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける」を達成する上で必要且つ適切なものとなっている。



観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

本校では、準学士課程の教務全般に関する事項を検討するため教務委員会が設置されており、一方、専攻科には専攻科委員会が設けられている。準学士課程及び専攻科課程の教育課程の整備等に関わる重要事項は、これら二つの委員会からの提案等を受け、最終的に運営会議での議を経て校長が決定することとなる(資料2-2-①-1)。



(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整し且つ新たな展開を図るための検討・運営体制が整備され、必要な活動を行っている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目(理数系科目及び人文社会系科目)の担当教員と専門科目の担当教員との話し合いが定期的に行われ、教員間の連携を図っている。数学や物理等の理数系科目の内容やその進度が専門科目を履修する上で適切であるか、また問題がないかなどを検討している(資料2-2-②-1)。また、国語や英語等の人文社会系科目の内容が文章作成能力や英語論文の講読及びプレゼンテーション能力を身に付ける上で適切で且つ有効に生かされているかなどについても検討する体制が整備されている(資料2-2-②-2)。

## 平成 18 年度 工学系学科と数学・物理科の話し合い議事録

日 時：平成 18 年 11 月 8 日（水）15：30～16：50

場 所：インフォメーションサロン（管理棟 3 階）

出席者：根本，鈴木（三），新井，根岸（建設），高橋（章）（機械），三浦（電気），井上（物質），道上，井川，島袋（記録）

議 題：

(1) 来年度以降の数学・物理・化学の標準試験実施方法について  
以下のような意見が出た。

- 数学は2年の終わりに微積分のまとめの意味もあるので基礎学力（標準）試験を行いたい。
- 物理は3年次に教科内容がひと段落するので基礎学力試験を行いたい。
- 化学は2年終了時、または3年の初旬に一般化学の試験を行いたい。健康診断の時などかどうか。
- 今年度の到達度試験（数学）は日付が変則だが、来年度（数学、物理）は既に決まっている。
- 基礎学力試験を2年に行うのであれば、3年の到達度試験と同日が良い。
- 教務では基礎学力試験の日程を補講日にしてはどうかという意見がある。
- 物質科では一般化学試験（高校化学）を2, 3, 4年に、専門基礎試験を3, 4, 5年にそれぞれ行っている。
- 電気科では2, 3, 4, 5年に専門基礎試験を行っており、2年は基礎学力標準試験などの関係で無くす予定。
- 建設科では3, 4年に専門基礎試験を行っている。
- 機械科では3, 4, 5年に専門基礎試験を行っている。
- これら専門基礎試験と基礎学力試験を合理化していくべきである。
- 数学は2年の終わりに微積分のまとめの意味もあるので基礎学力（標準）試験を行いたい。
- 基礎学力標準試験について物理は3年次9月、数学は2年次（3年の）到達度試験と同時期、化学は3年次4月に行うことを教務へ公式に申し入れする。

(2) 数学・物理についての要望事項について

- 数学科から専門学科への依頼として、工学系教科書で使われている数学的内容を具体的に教えて欲しい。例えば、教科書で数学が使われている部分のコピーなど。

(3) その他

- これまでの工学系学科と数学・物理との話し合いで得られた成果の一例：
  - ・1, 2年対象の補習が学力向上に役立っている。
  - ・高専で使用されている教科書を図書館に設置。

（出典：工学系学科と数学・物理科の話し合い議事録）

## 教科連絡会記録

記録者	一般教科 中山悟視	
日時	平成 18 年 11 月 22 日 16:00~17:30	
出席者	教科担当者	西山, 鳥居, 宮澤, 坂内, 中山
	学科代表者	篠木(機械), 小泉(電気), 青柳(物質), 根岸(建設), 鈴木(敬)(コミ)
検討内容:		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) TOEIC を成績に加味していることについて具体的に確認したい。(小泉) TOEIC 未受験者への対応は? (小泉) →鳥居から詳細に説明した。</li> <li>2) 卒研について, 英語科で可能であるならば, 卒研の開設を願いたいという申し出あり。 →西山から, 希望する教員がいれば可能であると, 回答。</li> <li>3) 工業英検の担当者について質問があった。(篠木) →松尾(機械科)から小泉(電気科)へ引き継がれる。</li> <li>4) 専門教員から英語を勉強するように声をかけても, なかなか努力している様子が伺えない。 英語力がないにも関わらず, 勉強しているようでもない。どうすればよいか。(根岸) →西山から TOEIC を点数化した経緯の説明。 →評価方法などをさらに工夫する事も考えられるが, 種々の外部評価を含め, 現状の評価方法・基準を大きく変えるのは相当の覚悟が必要である。</li> <li>5) 5 年生の英語の授業で IP テストの点数を利用することになったが, 実施日が 4 月初めであり, それが逆に IP テスト後の学生のモチベーションを下げているかの指摘があった。 (篠木) →英語科教員を含め, 様々な意見が出され, カリキュラムの話題にまで発展。 5 年生での英語の授業は, もっとあってもよいかもしれない。(青柳)</li> <li>6) その他, 英語力, TOEIC, などについて様々な意見が提出されたが, カリキュラムや中期目標など, 根幹に関わる問題であるため, 意見をまとめるまでには至らなかった。</li> </ol>		

(出典:教科連絡会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目と専門科目を担当する教員間の話し合いや連絡会等が定期的且つ組織的に行われ, それらの話し合いの結果が日常的な学生の教育指導に有効に反映されている。

**観点 2 - 2 - ③: 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程では, 一般教科教員が低学年(1~2 学年)の学級担任を担当し, 一方, 専門学科教員が高学年(3~5 学年)の学級担任を担当して, 担当クラスの学級運営や学習指導及び生活指導等を行っている。低学年次の担任教員は, 2 年間の担任終了後当該クラスの顧問となり, 高学年次担任の専門学科教員を補佐する体制をとっている。(資料 2 - 2 - ③ - 1)。学級担任連絡会議は, 年に 2 回(前期と後期), 3 主事と全学級担任が出席して開催され, クラス運営や学生の教育及び生活指導上の諸問題を解決するための討議と情報交換の場として設けてある(資料 2 - 2 - ③ - 2 ~ 3)。また, 1 学年から 5 学年まで必要に応じ, 学年主任が主催する学年毎の担任会議も開かれ, 当該学年のクラスに共通の問題についての対応を協議している。一方, 専攻科課程においては, 各専攻長が担任業務を兼任し, 個々の学生の進路指導や生活指導を行っている。さらに, 非常勤講師との連携協力と情報交換を図るため, 定期的な懇談会も企画開催している(資料 2 - 2 - ③ - 4)。

一方、学校において編成された教育課程を実施展開するため、学生課図書係、学生課教務係、技術部等を置き、必要な事務職員及び技術職員を配置している。その業務内容を、以下にまとめて示す（資料 2 - 2 - ③ - 4）。

資料 2 - 2 - ③ - 1

表 1. 4 - 2 学級担任一覧表

○印は学年主任

学年及び学科		H12	H13	H14	H15	H16	H17
1 学年	機 械 工 学 科	○鳥居孝栄	笠井 哲	鈴木三男	秋山秀博	根本昌樹	○宮澤泰彦
	電 気 工 学 科	石原万里	高橋宏宣	新井 広	井川 治	○鳥居孝栄	笠井 哲
	物 質 工 学 科	坂内昌徳	○渡辺洋太郎	○西山公紀	木原 淳	道上達広	高橋宏宣
	建設環境工学科	根本昌樹	宮澤泰彦	高野克宏	末竹千博	西浦孝治	吉村忠晴
	コミュニケーション情報学科	藤澤宏樹	吉村忠晴	川崎俊郎	○山野和一	坂内昌徳	中山悟視
2 学年	機 械 工 学 科	○亀井宣男	○鳥居孝栄	笠井 哲	鈴木三男	○秋山秀博	根本昌樹
	電 気 工 学 科	山野和一	石原万里	高橋宏宣	新井 広	井川 治	○鳥居孝栄
	物 質 工 学 科	井川 治	坂内昌徳	○渡辺洋太郎	○西山公紀	木原 淳	道上達広
	建設環境工学科	秋山秀博	根本昌樹	宮澤泰彦	高野克宏	末竹千博	西浦孝治
	コミュニケーション情報学科	大森房子	藤澤宏樹	吉村忠晴	川崎俊郎	石原万里	坂内昌徳
3 学年	機 械 工 学 科	一色誠太	松本匡以	松尾忠利	高橋 章	石垣義尚	○永井康友
	電 気 工 学 科	山本敏和	○春日 健	○奈良和久	濱崎真一	○渡辺 博	伊藤 淳
	物 質 工 学 科	鴨下祐也	青木寿博	伊藤正義	○井上和人	押手茂克	内田修司
	建設環境工学科	○佐藤恭輔	緑川猛彦	橋本孝一	山ノ内正司	森田年一	齊藤充弘
	コミュニケーション情報学科	中野良樹	内山昭代	芥川一則	加藤惠吉	鈴木敬了	内山昭代
4 学年	機 械 工 学 科	石垣義尚	一色誠太	松本匡以	松尾忠利	高橋 章	○石垣義尚
	電 気 工 学 科	○永木猛弘	山本敏和	○春日 健	○奈良和久	濱崎真一	鈴木晴彦
	物 質 工 学 科	天野仁司	鴨下祐也	青木寿博	伊藤正義	○井上和人	押手茂克
	建設環境工学科	原田正光	○佐藤恭輔	緑川猛彦	橋本孝一	山ノ内正司	森田年一
	コミュニケーション情報学科	森川 治	中野良樹	内山昭代	芥川一則	加藤惠吉	鈴木敬了
5 学年	機 械 工 学 科	○佐東信司	石垣義尚	渡辺敏夫	松本匡以	松尾忠利	高橋 章
	電 気 工 学 科	大槻正伸	○永木猛弘	山本敏和	○春日 健	○奈良和久	濱崎真一
	物 質 工 学 科	青柳克弘	天野仁司	鴨下祐也	青木寿博	伊藤正義	○井上和人
	建設環境工学科	高橋邦雄	原田正光	○佐藤恭輔	緑川猛彦	橋本孝一	山ノ内正司
	コミュニケーション情報学科	島村 浩	森川 治	森川 治	内山昭代	芥川一則	渡部順一

(注)3 学年以上の高学年クラスには、2 学年までの担任を顧問として配置している。

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

## 福島工業高等専門学校学級担任連絡会議

### 福島工業高等専門学校学級担任連絡会議内規

平成 13 年 9 月 11 日

校 長 裁 定

- 第 1 条 福島工業高等専門学校に学級担任連絡会議（以下「担任会議」という。）を置く。
- 第 2 条 担任会議は、学級の運営及び学生指導の実施に関し、その円滑な運用を図るため連絡調整することを目的とする。
- 第 3 条 担任会議は、次に掲げる教員をもって構成する。
- (1) 教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事等」という。）
  - (2) 各学級担任
- 2 担任会議の主査は、教務主事とする。
- 3 担任会議は、教務主事が招集し議長となる。ただし、必要に応じ学生主事又は寮務主事が議長となることができる。
- 第 4 条 前条のほか学科（一般教科を含む。）及び学年単位、その他必要に応じた担任による担任会議を招集することができる。
- 2 前項の招集および議長は、学科長及び学年主任等とする。ただし、必要に応じ主事等の出席を求めることができる。
  - 3 学科長及び学年主任は、第 3 条第 1 項の担任会議構成者の要請により当該会議を招集することができる。
- 第 5 条 担任会議には必要に応じ、担任以外の者を出席させることができる。

#### 附 則

この内規は、平成 13 年 9 月 11 日から施行する。

#### 附 則(平成 16 年 4 月 1 日改正)

この内規は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

### 平成 18 年度 第 2 回学級担任連絡会議議事録

日 時：平成 18 年 12 月 1 日（金）16:40～17:30

場 所：大会議室

出席者：教務主事、寮務主事、下記担任を除く 1～5 年担任

欠席者：西山、鈴木(三)、高橋(宏)、渡部(順)、押手

議事内容：以下の通り

1. 主事よりアンケート依頼
  - ・クラス概況調査のためのアンケート用紙(別紙 1)を配布し、12 月 8 日(金)までに調査結果の回収と教務係への提出を依頼した。
2. 教室整備について主事より依頼
  - (1) 年末の教室整備および施錠について

- ・主事から、「冬休み前日の12月22日（金）に大掃除の実施と教室整備を徹底してほしい」及び「工学系4学科の3学年のクラスについては、冬休み明けの1月11日（木）に高専機構主催の学習到達度試験があるので、特に念入りに教室整備を行ってほしい」旨の依頼があった。
- (2) 入学試験に伴う教室整備について
- ・主事から、「1月15日（月）と2月16日（金）の両日は、それぞれ推薦入試及び学力入試に向けて事前の教室整備をきちんと行ってほしい」旨の依頼があった。
- (3) 学年末の教室整備および施錠について
- ・主事から、「3月7日（水）の放課後に教室施錠を行うので、その前までに学年末の教室整備をきちんと終えてほしい」旨の依頼があった。
  - ・また「毎週水曜日に行っている大掃除では、今後必要に応じて各教室の清掃状況を教務委員会が点検し、特に清掃状況が良くない教室については清掃のやり直しをしてもらうこともあり得るので注意してほしい」との説明と指導依頼があった。
  - ・3月の学年末休業期間中に、昨年度と同様、業者による教室及び廊下等の床清掃（ワックス掛け）を実施する予定である旨説明があった。

<質問・要望等>

Q：試験期間中の大掃除の実施とその取扱いについてはどうすればよいか

A：原則として教室は毎日掃除，水曜日は全区域大掃除となっている。試験期間中は，試験終了後や試験最終日に適宜担任が判断して掃除を実施してほしい。

Q：教室のロッカー等が狭いので解消できないか考えてほしい。

A：今後予算措置等を考え，改善を検討したい。

3. 遅刻過多者の指導について

(1) 10月25日（水）の遅刻過多者の指導結果について

- ・主事から，10月25日（水）に行った教務委員会による前期遅刻過多者の特別指導の結果について報告があった。（別紙2）引き続き，各担任から担当クラスの遅刻過多者の指導状況について説明があった。

（出典：学級担任連絡会議議事録）

平成19年度 非常勤講師との教育懇談会会議録

日 時：平成19年度5月2日（水）15:20～16:30

場 所：大会議室

出席者：

（非常勤講師）

桜井（機械），小泉（電気），山内（電気），大口（電気），大表（物質），鈴木（物質），大内（物質），関口（物質），中西（物質），佐藤（建設），矢内（建設），南（コミ），蛭田（一般），中野（一般），櫛田（一般），坂本（一般），飯間（一般），大平（一般），渡辺（一般），キャサリン（一般），橋本（一般），永井（一般）

(本校教職員)

奈良校長，根岸教務主事，佐東専攻科長，青柳 JABEE 委員長，西山一般教科長，石垣機械工学科長，春日電気工学科長，金子建設環境工学科長，内山コミュニケーション情報学科長代理，内田教務主事補，川崎教務主事補，緑川教務主事補，佐藤学生課長

**配付資料：**平成 19 年度教育懇談会パワーポイント資料

- ・ JABEE 認定について
- ・ 試験問題等の提出および授業実施時間数について（ご依頼）

**議 事：**

1. 校長挨拶
2. 教務関係（教育理念，学習・教育目標，シラバス成績入力，再試験）の説明(根岸教務主事)
3. JABEE 関係（JABEE 認定，教育プログラム，修了要件，エビデンスの提出）の説明(青柳 JABEE 委員長)
4. 教育懇談

(質問) 今，工場が見頃である。秋の学年行事日等を利用して工場見学を実施してほしい。

(回答) 検討したい。

(質問) 就職に関して，今まで電気工学科からのみ採用していたが，今後は機械工学科からの採用も行いたいので是非受験していただきたい。大卒枠と高卒枠の 2 種類の区分しかないので，できれば専攻科から大卒枠への受験が望ましい。

(回答) 何度か受験しているが失敗している。専攻科は人数が少ない上大学院への進学を考えている学生もいる。本科の就職希望者は 15 名程度であるが，500 社余りからの求人がある状況である。なかなか期待に添えないが前向きに考えたい。

(質問) 中間試験 50%と期末試験 50%で総合成績をつけている。この場合，再試験の範囲はどのように考えればよいか。また，エビデンスの一覧表をどのように作ればよいか。

(回答) 再試験の範囲は科目全体と考えていただきたい。成績一覧には，再試験の枠を追加していただければ良い。

(質問) 今まで，JABEE のエビデンスの綴じ込みを教務委員の先生にお願いしていた。資料では本人が行うことになっているが。

(回答) 原則本人に行っていただくが，これに関しては今まで通り教務委員が行う。

(質問) JABEE ファイルの綴じ込みの順番について，高専によっては成績順としているが，福島高専の順番はどのようにしているのか。

(回答) 学生の名簿順で願います。

(意見) 非常勤の先生方においても，担当されている科目の範囲だけでなく，学校を良くする方策などの案があれば，どんどん意見を頂きたい。

(質問) 定期試験のレベルはどのように考えればよいか。平均点が 90 点でも良いのか。目安があれば参考にしたい。

(回答) シラバスに書かれた本校の到達目標をクリアするレベルであれば良い。JABEE では世界で通用するレベルと言うことになっており，本校においては国家公務員 2 種レベルとしている。その

レベルの試験問題で平均点 90 点ということは、あり得ないことではない。

(質問) 平成 16 年度から授業への参加状況を成績に加味することができなくなった。その理由は何か。

(回答) 高専は高等教育機関であるため、授業へ参加することは当たり前と考えている。また、授業への参加状況を明確に判定することが難しいため、成績に加味しないこととしている。今後低学年の成績評価について検討して行きたい。

(質問) 昨年度も学生による授業評価や理解度評価を実施したのか。結果は参考になるのでお知らせ願いたい。

(回答) 実施している。昨年度の結果については纏まり次第お知らせしたい。今まで 5 年間同じ方法で実施して傾向を把握してきた。一区切り付いたので今年度から新しい方法を検討している所である。

(出典：教務委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 5

### 図書係、教務係、技術部による教育支援の業務内容

担当部署	業務内容
学生課図書係	①図書館資料の受入、整理、保存 ②図書館資料の閲覧及び貸出 ③文献の収集及び交換 ④視聴覚教育資料及び機器に関すること
学生課教務係	①入学、退学、休学、復学、卒業に関すること ②教育計画、行事予定の立案作成 ③教育課程の編成、時間割りの編成 ④諸試験に関すること ⑤成績表、学籍簿、指導要録について ⑥教務に関する証明について ⑦教室、教具材料の整理について ⑧教務委員会について
技術部 (技術第 1 班) (技術第 2 班) (技術第 3 班)	①学生実験・実習の補助及び卒業研究等の技術指導に関すること ②教員の教育・研究支援に関すること ③実験実習機器の管理保全に関すること ④実験室・実習工場等の安全管理に関すること ⑤技術職員の研修に関すること ⑥技術の継承及び保全に関すること ⑦その他技術部長が必要と認めた事項

(出典：運営会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任制度が整備され、学級担任連絡会議や非常勤講師との懇談会が定期的に行われているほか、教育支援の図書係、教務係、技術部等が適切に設置されており、教育活動を円滑に実施するための支援体制が整備され、十分に機能している。



## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・全学科共通の教育研究施設として情報処理教育センターと地域環境テクノセンターの二つが設置され、それらが教育目的の達成のために十分に活用され有効に機能している。

### 【改善を要する点】

- ・該当なし

## (3) 基準2の自己評価の概要

準学士課程の5学科（機械工学科，電気工学科，物質工学科，建設環境工学科，コミュニケーション情報学科）及び専攻科課程の3専攻（機械・電気システム工学専攻，物質・環境システム工学専攻，ビジネスコミュニケーション学専攻）は，「広く豊かな教養と人間力を備え，科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性に富み，国際的な視野及びコミュニケーション能力を身に付けた実践的且つ創造的な人材を育成する。」という教育目的に沿った編成になっている。さらに，本校の学習・教育目標の一つである「3. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。」を達成するための全学科共通の教育施設である情報処理教育センター，地域との連携に係る共同研究や技術開発及び学生の技術指導や教育研究支援を行う地域環境テクノセンターを設置しているが，これらは本校の教育目的を達成する上で十分に機能し且つ適切なものとなっている。

教育活動の展開や教育課程全体の企画調整のための委員会として教務委員会や専攻科委員会が設けられ，重要事項については運営会議での議を経て校長が決定するシステムが採られているが，これらが相互且つ有効に機能し活動している。また，教育指導面では，学級担任制度が制度化され，学級担任連絡会議，学科間及び教科間の連絡会，非常勤講師との懇談会等が定期的に行われ，教員間の連携を図っている。さらに，教育活動を有効且つ円滑に運営するために，学生課事務職員と技術部技術職員が教員と相互且つ緊密に連携し，学生の教育指導を支援する体制が整備されている。

### 基準3 教員及び教育支援者

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

本校には一般科目担当教員として専任教員24人，非常勤講師18人の合計42人が配置されており，専任教員24人すべてが講師以上である(資料3-1-①-1)。

教科ごとの人員配置をみると，専任教員が数学6人，英語6人，国語3人，物理3人，社会4人，体育2人，非常勤講師が数学2人，英語(第二外国語を含む)7人，国語2人，物理(生物を含む)2人，体育2人，芸術1人，留学生特設科目2人となっている。なお，専任教員のうち数学2人と物理2人は，組織上機械工学科に所属し，応用数学，応用物理を担当することとなっているが，それらの科目以外にも一般科目の数学，物理の授業を担当しているため，一般科目担当教員として扱った。

このような人員配置は，「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」のうち，主に一般科目が担っている「人や社会や環境に配慮できる能力を養うための，倫理・教養」，「情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力」を達成するために必要な授業科目構成に合致させたものである。特に「コミュニケーション能力」を養成するために英語科の専任教員に加え，外国人のネイティブ・スピーカー4人を非常勤講師として配置している。また，本校にはビジネス系の学科であるコミュニケーション情報学科が設置されていることから，人文・社会系科目を担当する専任教員が多く配置されている。

また，理数系科目担当専任教員9人中6人(67%)が博士の学位を，文科系科目担当専任教員15人中1人が博士の学位を，12人(合わせて87%)が修士の学位を取得しており，高等専門学校にふさわしい高度な基礎教育が可能となっている。この数値は国立高等専門学校機構の中期計画に記されている「教員の学位取得者の割合」に関する目標(理数系では70%以上が博士，文科系では80%以上が修士以上の取得者)に近い数字となっている。なお，一般科目担当教員については，各自の専門分野に対応した授業科目をそれぞれ担当している(資料3-1-①-2)。

資料3-1-①-1

一般科目担当専任教員配置表(平成19年4月1日現在)

	教授	准教授	講師	助教	計	博士取得者数	修士取得者数
数学	1	3	2	0	6	4	2
英語	3	2	1	0	6	0	6
国語	1	0	2	0	3	1	2
物理	2	0	1	0	3	2	0
社会	1	2	1	0	4	0	4
体育	1	1	0	0	2	0	0
計	9	8	7	0	24	7	14

(出典：総務課資料)

資料 3-1-①-2

一般科目担当専任教員及び非常勤講師担当授業科目表 (平成 19 年度)

専任教員

教科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
数学	教授	山野 和一	理学修士	幾何学	微積分 1, 微積分 2, 微積分 A
数学	准教授	井川 治	博士 (数学)	微分幾何学	基礎数学 B, 応用数学 A
数学	准教授	新井 広	理学修士	数学基礎論, モデル理論	微積分 1, 微積分 2, 微積分 B
数学	准教授	西浦 孝治	博士 (理学)	非線形関数解析学	線形代数, 微積分 B, 応用数学 B
数学	講師	島袋 修	博士 (数理学)	代数的組合せ論	基礎数学 A
数学	講師	鈴木 正樹	博士 (理学)	関数方程式	線形代数, 応用数学 A, 応用数学 B
英語	教授	西山 公紀	文学修士	17世紀英文学	英語 A, 英語 B, 英語
英語	教授	鳥居 孝栄	文学修士	英語学 (英語の統語論・意味論)	英語 I A, 英語 I-1, 英語 I-2
英語	教授	宮澤 泰彦	修士 (応用言語学)	語用論, 英語教育	英語 I B, 英語 C-1, 英語 C-2, 英語
英語	准教授	石原 万里	文学修士	英文学, シェイクスピア エリザベス朝演劇	英語 I A, 英語 B, 英語特論 I
英語	准教授	坂内 昌徳	修士 (英日ゲラム学)	第二言語習得	英語 A, 英語 I-1, 英語 I-2, 英語特論
英語	講師	中山 悟視	修士 (英語英文学)	アメリカ文学研究 (アメリカ現代小説研究) アメリカ文化研究	英語 C-1, 英語 C-2, 英語
国語	教授	高野 克宏	文学修士	インド学仏教史学	国語, 文学, 日本語特論 II
国語	講師	高橋 宏宣	修士 (文学)	日本近代文学	国語, 文学
国語	講師	高橋 圭介	博士 (文学)	日本語学	日本語 1, 日本語 2, 日本語特論 I 日本語特論 II, 国語, 文学
物理	教授	根本 信行		物理教育, 科学史	物理, 応用物理 I, 応用物理 II, 応用物理
物理	教授	鈴木 三男	博士 (学術)	物理教育	物理, 応用物理 I, 応用物理 II, 応用物理
物理	講師	道上 達広	博士 (理学)	惑星科学, 小惑星	物理, 応用物理 I, 応用物理 II, 応用物理
社会	教授	笠井 哲	文学修士	哲学, 倫理学	人文・社会科学基礎 I A 人文・社会科学基礎 I B 社会科学調査法, 人間科学特講
社会	准教授	吉村 忠晴	理学修士	都市経済地理学, 商業地理学	社会科学調査法, 人文・社会科学演習 A 人文・社会科学演習 B, 経済学 社会科学特講 II
社会	准教授	川崎 俊郎	修士 (文学)	歴史地理, 人文地理, 経済地理	人文・社会科学基礎 II B 人文・社会科学概論 A 近代経済史, 社会科学調査法 人文・社会科学演習 B, 人間科学特講
社会	講師	木原 淳	修士 (法学)	法哲学, 法思想史	人文・社会科学基礎 I B 人文・社会科学基礎 II A 人文・社会科学概論 B 社会科学調査法, 社会科学特講 I, 法学
体育	教授	秋山 秀博		体育学	体育, 保健体育
体育	准教授	根本 昌樹		陸上競技, スポーツ心理	体育, 保健体育

非常勤講師					
教科	氏名	所属先・役職	学位	専門分野	担当授業科目
数学	飯間康則	元福島県高等学校長		数学	数学
数学	亀井宣男	元福島工業高等専門学校教授 (福島高専名誉教授)	理学修士	作用素理論・代数幾何的符号理論	微積分A
英語	大平克己	元福島県立高等学校教諭		英語学	英語B, 英語IB
英語	渡辺洋太郎	元福島工業高等専門学校教授 (福島高専名誉教授)	文学修士	英語学	英語IB
英語	坂内キャスリン	翻訳家		英語学	英会話I-1, 英会話I-2 英会話I, 英会話B, 英会話II
英語	エリカ 渡辺	元いわき短期大学非常勤講師		英語学	英会話I-1, 英会話I-2 英会話I, 英会話C
英語	デイビス トーマス	ワード英会話スクール勤務		英語学	英会話B, 英会話C
英語	鯨岡アリン	いわき明星大学非常勤講師		英語学	英会話I
第二外国語	田村立波	東日本国際大学 経済学部助教授	修士(文学)	文学	第二外国語II(中国語)
国語	蛭田 徹	元福島県立高等学校教諭		国語学	国語, 文学
国語	中野弘子	元福島県立高等学校常勤講師		国語学	国語, 文学
物理	坂本道夫	元福島県立高等学校教諭		理科	理科, 物理
生物	柳田正行	元福島県立高等学校教諭		理科	理科, 生物
体育	橋本彰夫	元福島県立高等学校常勤講師 元磐城第一高等学校非常勤講師		体育学	保健体育
体育	五十嵐幸一	いわき明星大学一般教育科目助教授	体育学修士	体育学	体育
芸術	高杉和久	芸術家 高杉アートセミナー主宰		美術	美術
留学生	大森房子	元福島工業高等専門学校教授		英語学・日本語学(国語)	日本語
留学生	畑 薫里	英語及び日本語講師		英語学・日本語	日本事情

(出典：総務課・学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準第6条第2項には、「高等専門学校では、入学定員5学級を編制する場合、一般科目を担当する教員の数は22人を下ってはならない。」とあるが、本校では一般科目担当の専任教員数は24人ですべて講師以上であり、設置基準を満たしている。また、一般科目担当の専任教員及び非常勤講師は、本校の「学習・教育目標」、「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」に沿った教育課程の授業科目構成に合わせて各教科にバランスよく配置され、さらに各自の専門分野に対応した授業をそれぞれ担当している。以上の理由から、本校の一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料3-1-②-1に示すように、専門科目担当教員として専任教員54人、非常勤講師23人の合計77人が配置されている。学科ごとの人員配置(カッコ内は非常勤講師の人数で外数)は、機械工学科11人(3人)、電気工学科10人(5人)、物質工学科13人(7人)、建設環境工学科10人(3人)、コミュニケーション情報学科10人(5人)となっている。なお、工学に関する4つの学科(機械工学科、電気工学科、物質工学科、建設環境工学科)では、専任教員44人中16人が教授、14人が准教授、7人が講師、7人が助教である。なお、物質工学科は4年次以降で物質コースと生物コースの分かれるコース制を敷いているため、他の学科に比べて教員の配置数が多くなっている。さらに、1人は組織上一般教科に所属し、一般化学を担当することとなっているが、他にも物質工学科の専門科目の授業を担当しているため、専門科目担当教員として扱った。

また、「工学に関する学科以外の学科」であるコミュニケーション情報学科では、専任教員10人中4人が教授、1人が准教授、4人が講師、1人が助教である。

なお、専任教員54人中43人(80%)が博士の学位を取得しており、高等専門学校にふさわしい高度な専門教育が可能となっている。この数値は国立高等専門学校機構の中期計画にある「教員の学位取得者の割合」に関する目標(専門学科では70%以上が博士の取得者)を上回っている。

さらに、専門科目を担当する専任教員は、各々の専門分野に対応した授業科目をそれぞれ担当している(資料3-1-②-2)。また、「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」として挙げている「モノづくりやデザイン能力を生かした、創造的実践力」ならびに本校が「養成する人材像」としている「実践的技術者」(工学系学科)、「実践的ビジネスマン」(ビジネス系学科)に対応して、企業での実務経験をもつ専任教員が各学科に複数人配置され、さらに工学系学科には技術士の資格をもつ専任教員も2人、ビジネス系学科には税理士の資格をもつ専任教員も1人配置されている(資料3-1-②-3)。

資料3-1-②-1

専門科目担当専任教員配置表(平成19年4月1日現在)

	教授	准教授	講師	助教	計	博士取得者数
機械工学科	4	4	1	2	11	7
電気工学科	4	3	2	1	10	10
物質工学科	4	4	3	2	13	10
建設環境工学科	4	3	1	2	10	10
コミュニケーション情報学科	4	1	4	1	10	6
計	20	15	11	8	54	43

(出典：総務課資料)

資料3-1-②-2

専門科目担当専任教員及び非常勤講師担当授業科目表（平成19年度）

専任教員

学科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
機械工学科	教授	石垣 義尚		制御工学, 機械要素	モノづくり基礎, 設計製図Ⅰ 計測工学, 制御工学
機械工学科	教授	佐東 信司	工学博士	材料学, 材料強度学 複合材料学, 材料物性	創作実習, 材料学Ⅰ 材料学Ⅱ, 材料デバイス工学
機械工学科	教授	渡辺 敏夫	博士(工学)	騒音制御工学	機械製図Ⅰ, 工業力学Ⅰ, 機械力学Ⅰ 機械力学Ⅱ
機械工学科	教授	天野 耀鴻	博士(工学)	ロボット工学, 制御工学	設計製図
機械工学科	准教授	松本 匡以	修士(工学)	機械工作, CAD/CAM	機械工作法Ⅰ, 機械工作法Ⅱ, 情報処理 設計製図, 精密工学, 機械工学概論(物質)
機械工学科	准教授	一色 誠太	博士(工学)	エネルギー変換工学	メカトロニクスⅠ, メカトロニクスⅡ 力学演習Ⅰ, 流体力学Ⅰ
機械工学科	准教授	松尾 忠利	博士(工学)	材料力学, 弾性力学, 計算力学	モノづくり実習, 材料力学Ⅰ, 材料力学Ⅱ
機械工学科	准教授	篠木 政利	博士(工学)	伝熱工学, 流体工学	熱力学, エネルギー工学, 工業英語
機械工学科	講師	高橋 章	工学修士	伝熱工学	情報処理基礎, 情報処理Ⅰ, 水力学 力学演習Ⅱ, 熱工学, 流体力学Ⅱ
機械工学科	助教	鈴木 茂和	博士(工学)	材料工学, AE計測 板紙類の加工	モノづくり基礎, 機械製図Ⅱ, 創作実習 力学演習Ⅰ, 設計製図
機械工学科	助教	平尾 篤利	修士(工学)	機械要素, 機械工作, 生産工学	設計製図Ⅰ

学科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
電気工学科	教授	春日 健	博士(工学)	信頼性工学	デジタル回路, 工業英語, 信頼性工学 計算機工学, 電子工学概論(物質)
電気工学科	教授	渡辺 博	工学博士	超音波工学, 音響工学 電子材料工学	電気回路Ⅲ, 電子工学Ⅱ 音響工学, 電気工学基礎(機械)
電気工学科	教授	大槻 正伸	博士(工学)	情報科学, 情報工学 認知科学	情報工学基礎, 情報工学応用 アルゴリズム論, 制御工学
電気工学科	教授	鈴木 晴彦	博士(電気工学)	電気電子材料工学	パワーエレクトロニクス, メカトロニクス 電気機器設計, 電気電子材料Ⅱ, 電力工学Ⅱ
電気工学科	准教授	山本 敏和	博士(工学)	プラズマ工学	電気機器Ⅰ, 電気工学Ⅰ(機械)
電気工学科	准教授	濱崎 真一	博士(理工学)	電子デバイス材料開発 誘電体	電子回路, 光エレクトロニクス 電気電子計測Ⅱ, 電子回路設計
電気工学科	准教授	山田 真浩	博士(工学)	リモートセンシング工学 画像処理, パターン認識	電気製図, 情報工学基礎, 電気回路Ⅰ 電気回路演習, 電気回路Ⅱ
電気工学科	講師	伊藤 淳	博士(工学)	電気電子材料工学	電子工学Ⅰ, 電気磁気学, 電気磁気学演習 電気電子材料Ⅰ, 電気工学Ⅱ(機械)
電気工学科	講師	小泉 康一	博士(情報科学)	情報科学分野 (暗号理論・アルゴリズム論)	情報基礎(全学科) コンピュータネットワーク 通信工学Ⅰ, 通信工学Ⅱ
電気工学科	助教	三浦 靖一郎	博士(理学)	磁性物理学, 非線形科学 物性基礎論(パターン形成)	電気工学基礎, 電気磁気学 電気磁気学演習, 通信工学Ⅰ

学科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
物質工学科	教授	井上 和人	工学博士	高分子合成化学, 有機化学 熱分析	有機化学Ⅰ, 高分子化学, 物質合成化学 有機材料化学
物質工学科	教授	伊藤 正義	理学博士	無機・有機融合材料の合成 環境システム	無機化学Ⅰ, 環境工学, 産業廃棄物概論 資源化学
物質工学科	教授	青柳 克弘	博士(工学)	生体機能関連化学 有機合成化学	基礎化学演習, 生化学Ⅰ, 生物有機化学 錯体化学, 工業英語Ⅱ
物質工学科	教授	天野 仁司	博士(理学)	分子生物学, 化学教育	化学, 創作実習, 細胞遺伝子工学 生命科学
物質工学科	准教授	内田 修司	工学修士	無機材料, 物理化学	化学, 機器分析, 計算機化学
物質工学科	准教授	酒巻 健司	博士(工学)	ナノ科学, フォトニクス 低次元性物質, 新規超伝導体 光電気化学, 非線形な化学振動反応	情報処理, 界面化学, 機能材料科学 電気化学, 無機材料化学
物質工学科	准教授	鴨下 祐也	博士(工学)	微生物工学, 培養工学	基礎生物学, 微生物工学, 天然物化学 培養工学
物質工学科	講師	青木 寿博	工学修士	化学工学	化学, 情報処理, 化学工学Ⅱ, 生物反応工学
物質工学科	講師	押手 茂克	博士(工学)	環境化学, 分析科学	化学, 機器分析, 分析化学
物質工学科	講師	柴田 公彦	博士(工学)	環境生物化学, 酵素化学 生化学, 生体分析化学	化学, 物理化学Ⅰ, 物理化学演習 酵素工学, 生物物理化学
物質工学科	助教	梅澤 洋史	博士(理学)	有機化学, 有機材料化学	化学, 有機化学Ⅰ, 工業英語Ⅰ 有機材料化学
物質工学科	助教	羽切 正英	博士(工学)	光化学, 物理化学 レーザー応用科学, 分光計測	化学, 物理化学Ⅱ

学科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
建設環境工学科	教授	金子 研一	博士(工学)	土木施工法, 土木監理学	創作実習, 施工法, 建設環境法規 建設経営学, 施工特論, 総合演習
建設環境工学科	教授	根岸 嘉和	博士(工学)	固体力学 複合構造工学	力学基礎, 構造解析学, 鋼構造工学 鋼構造設計演習, 構造設計法, 応用弾性学
建設環境工学科	教授	山ノ内 正司	博士(工学)	コンクリートの破壊力学 材料力学	創作実習, 情報処理, 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ, 計算構造力学
建設環境工学科	教授	原田 正光	工学博士	環境生態工学	環境科学, 環境工学Ⅰ, 環境計測法 水資源工学, 総合演習
建設環境工学科	准教授	緑川 猛彦	博士(工学)	建設材科学 コンクリート工学	創作実習, 製図法, 材料科学 コンクリート構造工学
建設環境工学科	准教授	森田 年一	博士(工学)	地盤工学, 耐震工学	創作実習, 地盤工学, 土質力学 国土保全工学, 基礎構造工学, 耐震設計法
建設環境工学科	准教授	齋藤 充弘	博士(工学)	都市計画, 地域計画 環境計画学	情報処理, 交通施設, システム工学 地域計画, 総合演習
建設環境工学科	講師	菊地 卓郎	博士(工学)	水工水理学	創作実習, 水理学, 応用水理学, 総合演習
建設環境工学科	助教	田村 綾子	博士(工学)	リモートセンシング	測量, 測量実習, 応用測量, 応用情報処理
建設環境工学科	助教	高荒 智子	博士(工学)	環境工学, 衛生工学	情報処理, 水処理工学, 応用情報処理 環境工学Ⅱ

学科	職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
コミュニケーション情報科学	教授	田代 均	博士（工学）	生産管理論，製品開発論 金属材料学，金属加工学	経営情報システム基礎 情報コミュニケーション ビジネス英語Ⅰ，文献購読
コミュニケーション情報科学	教授	内山 昭代		広領域（デザイン）	ビジュアル情報基礎，ビジュアル情報演習 時事英語，広告・広報メディア概論 視聴覚情報概論
コミュニケーション情報科学	教授	森川 治	博士（理学）	数学（数理論理学）	コミュニケーション論 言語コミュニケーション論 経営数学入門，確率統計，情報メディア演習
コミュニケーション情報科学	教授	渡部 順一	博士（経済学）	経営政策論，技術政策論	ビジネス事情演習，知的所有権 人間関係論，マーケティング
コミュニケーション情報科学	准教授	芥川 一則	博士（情報科学）	都市経済学，地域経済学	経営情報入門，経営情報演習，国際経済
コミュニケーション情報科学	講師	渡部 美紀子	修士（経済学）	財務会計論	ビジネス英語Ⅰ，ビジネスと法律 簿記入門，会計学，国際金融論
コミュニケーション情報科学	講師	島村 浩		情報システム学，教育工学 教育情報学	情報処理基礎，情報処理演習 プログラミング言語，情報特論Ⅰ 情報システム論，文献購読
コミュニケーション情報科学	講師	遠原 智文	博士（経営学）	経営政策（経営戦略） 国際経営	ビジネス事情，ビジネス事情Ⅱ，経営入門 国際関係論，経営学，企業論
コミュニケーション情報科学	講師	松本 行真	博士（情報科学）	経営工学，マーケティング論 都市論	プレゼンテーション，ビジネス英語Ⅱ 社会調査
コミュニケーション情報科学	助教	松江 俊一	修士（国際文化）	多言語文化社会論 ロシア語学	コミュニケーション論入門，貿易実務 第2外国語Ⅰ，第2外国語Ⅱ 第2外国語Ⅲ，第2外国語Ⅳ，言語文化



非常勤講師

学科	氏名	所属先・役職	学位	専門分野	担当授業科目
機械工学科	桜井俊明	いわき明星大学 科学技術学部教授	工学博士	システム工学	生産工学, 設計工学
機械工学科	高杉和久	芸術家 高杉アートセミナー主宰		美術	工業デザイン
機械工学科	川本一俊	元株式会社日立製作所研究所 研究員	博士(工学)	流体機械	流体機械
電気工学科	小松道男	小松技術士事務所		生産工学・知的財産	生産工学, 知的所有権
電気工学科	小泉光彦	常磐共同火力株式会社勿来発電所		電力工学・送配電工学・発電工学	電気法規, 電力工学Ⅰ シーケンス制御
電気工学科	山内 智	茨城大学工学部准教授	工学博士	電子・電気材料工学 機能・物性・材料 固体物性Ⅰ 電子デバイス・機器工学	センサ工学, 集積回路工学
電気工学科	柳平丈志	茨城大学工学部講師	博士(工学)	プラズマ理工学	高電圧工学
電気工学科	大口國臣	元茨城大学工学部教授	工学博士	パワーエレクトロニクス	電気機器Ⅱ
物質工学科	鈴木 治	株式会社ラディクス代表取締役		工業化学	化学製図
物質工学科	大内 勲	元呉羽化学工業株式会社錦工場 工場企画担当部長		精密工学・高分子化学	無機工業化学, 安全工学
物質工学科	熊沢 智	株式会社クレハ総合研究所 副所長	理学博士	薬学	有機工業化学
物質工学科	関口武司	いわき明星大学 科学技術学部教授	理学博士	タンパク質工学・構造生物学	環境生態学
物質工学科	勝又春次	いわき明星大学 科学技術学部教授	理学博士	走査プローブ顕微鏡学・光電子分光学	量子化学
物質工学科	中西恒雄	元日本化成株式会社 常務取締役小名浜工場長 日化エンジニアリング株式会社 代表取締役社長, 同社顧問		化学工学・プロセス工学	化学プロセス工学
物質工学科	大表良一	いわき明星大学 科学技術学部専任講師	工学博士	計測制御工学・電子工学	計測制御工学
建設環境工学科	佐藤輝夫	元福島県立高等学校長		地質学・理科	地質学
建設環境工学科	矢内秀幸	矢内秀幸建築設計室	工学修士	建築学	都市施設
建設環境工学科	滝澤 裕	国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所長		建築学	輸送システム
コミュニケーション情報学科	藺田美智子	NHK文化センター 仏語教室講師		外国語学(仏語学)	第二外国語Ⅲ, 第二外国語Ⅳ
コミュニケーション情報学科	大森房子	元福島工業高等専門学校教授		英語学・日本語学(国語)	パブリックスピーキングⅠ パブリックスピーキングⅡ
コミュニケーション情報学科	南 鉄男	奥羽大学文学部常勤講師	文学修士	英語学	ビジネスライティングⅠ
コミュニケーション情報学科	エリカ 渡辺	元いわき短期大学非常勤講師		英語学	ビジネスライティングⅡ
コミュニケーション情報学科	中尾 剛	いわき明星大学 科学技術学部助教授	博士(工学)	電子情報学	情報基礎演習, 情報特論Ⅱ

(出典：総務課・学生課資料)

資料3-1-②-3

専門科目担当専任教員の実務経験（平成19年4月1日現在）

	企業	公共団体	研究所	教育機関	計（重複あり）	技術士	税理士
機械工学科	5	0	0	2	7	0	0
電気工学科	1	0	0	4	5	0	0
物質工学科	1	0	2	1	4	0	0
建設環境工学科	2	1	2	1	6	2	0
コミュニケーション情報学科	7	1	0	0	8	0	1
計（重複あり）	16	2	4	8	30	2	1

注）企業と教育機関の両方の職歴をもつ教員（機械）が1名  
 企業と研究所の両方の職歴をもつ教員（建設）が1名

（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校設置基準第6条第3項及び第4項（第3項の定めを準用）には、「教員のうち、専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に5の学科を置くときは、36人の専任教員（助手を除く）下ってはならない。」と定められているが、本校では、専門科目担当の専任教員数は54人ですべて助教以上であり、設置基準を満たしている。また、高等専門学校設置基準第8条には、「専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の2分の1を下ってはならない。」と記されているが、一般科目を担当する専任教員22人、専門科目を担当する専任教員36人、合計58人という必要人数に対して、本校では専門科目を担当する教授及び准教授の数は35人であり、設置基準を満たしている。さらに、専門科目担当教員はそれぞれ各自の専門分野に対応した授業科目を担当している。また、本校の「学習・教育目標」や「卒業時に身につけるべき学力や資質・能力」、「養成する人材像」に対応して企業での実務経験者を各学科に複数人配置し、学科によっては技術士や税理士の資格を有する専任教員も配置している。以上の理由から、本校の専門科目担当教員は適切に配置されている。

**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

（観点に係る状況）

本校には、機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻の3専攻が設置されており、工学系とビジネス系とのシナジー教育が実現でき、他高専では実現困難とされる大学学部レベルでの技術経営（MOT）教育が可能となっている。このような特徴ある実践教育を行うことにより、より高度で専門的な学術を修得するとともに、豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材としての「経営のわかる実践的技術プロフェッショナル」（工学系2専攻）もしくは「技術のわかる実践的ビジネスプロフェッショナル」（ビジネス系専攻）を養成することを本校専攻科課程の目標としている。その達成のために、専攻科担当教員は「福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項」（資料3-1-③-1）にしたがって選考され配置されている。

福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項

福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項

(平成 18 年 4 月 25 日校長裁定)

(趣旨)

第 1 福島工業高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）を担当する教員の資格の判定及び手続きについては、法令その他特別の定めがあるもののほか、この要項の定めるところによる。

(申請)

第 2 新たに専攻科を担当する必要が生じた場合は、専攻科長及び当該専攻科長連名で、別紙申請書に必要書類を添付の上、校長に申請するものとする。

(専攻科担当基準)

第 3 大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）に定める教員の資格を有するほか、次の業績を満たすものとする。

一 教育業績

高等教育機関（高等専門学校を含む。）で講師（常勤に限る。）以上の教育歴を 3 年以上有すること。ただし、民間機関等から採用された者については、その履歴に応じ、別途判定する。

二 研究業績

次の全ての基準を満たすこと。

- ① 原則として、博士の学位を有すること。
- ② 総編数（注 1）5 編以上の審査論文等（注 2）を有すること。
- ③ 過去 5 年間に於いて、B（注 3）が 1 編以上であって、かつ総編数が 2 編以上の審査論文等を有すること。

注 1 「総編数」とは、注 2 により分類された「審査論文等」を以下の式により算出した数の総和とする。

$$\text{総編数} = A + B + C \times 1/2 + D \times 1/3 + E \times 1/4$$

注 2 及び注 3 「審査論文等」とは、担当する専攻科の担当科目と密接な研究論文であって、以下の通り分類した論文とする。なお、各分類の決定に際しては、校長は教務主事、専攻科長等の意見を聞くことができる。

A：著書の編数（原則として単著とする。共著の場合は、その担当分量で別途考慮するものとする。）

B：学術論文の編数（レフリースの学会論文誌、ジャーナル等に掲載されたもの。）

C：国際会議発表論文の編数（レフリースに限る。）

D：国内の学会・研究会等発表論文の編数

E：学術講演会発表の件数、学校紀要等への発表編数

(判定)

第 4 専攻科担当の可否は、前項の基準に基づき、校長が決定するものとする。なお、校長は、必要に応じ、学内外の者の意見を聞くことができる。

(その他)

第 5 この要項によりがたい特別な事情がある場合は、校長が別途判定する（注 4）。

注 4 例として、第 3 の一の教育業績中「教育歴 3 年」、同二の研究業績中「原則として、博士の学位」及び一般教科所属の教員の研究業績等、また様式第 3 号に掲げる教育方法の実践例、職務上の実績等の扱いについて、が考えられる。

附 則

- 1 この要項は、平成 18 年 4 月 25 日から実施する。
- 2 実施日の前日までに選考された教員は、この要項により選考されたものとみなす。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

専攻科課程の一般科目では、より深い一般基礎知識を教授するために、博士または修士の学位を取得している教員が各自の専門分野に対応した授業科目を担当するように適切に配置されている（資料3-1-③-2）。特に「専攻科修了時に身につけるべき学力や資質・能力」として挙げている「国際社会に必要なコミュニケーション能力」や「地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力（技術者倫理）」に対応して、「英語学」や「倫理学」を専門分野とする専任教員をそれぞれ配置している（資料3-1-③-2）。

資料3-1-③-2

専攻科一般科目担当教員の授業科目表（平成19年度）

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
教授	西山 公紀	文学修士	17世紀英文学	現代英語Ⅱ
教授	鳥居 孝栄	文学修士	英語学（英語の統語論・意味論）	現代英語Ⅰ
教授	笠井 哲	文学修士	哲学，倫理学	倫理学，科学技術史
准教授	酒巻 健司	博士（工学）	ナノ科学，フォトニクス 低次元性物質，新規超伝導体 光電気化学，非線形な化学振動反応	現代化学

（出典：総務課・学生課資料）

専攻科の専門科目及び専門関連科目についても、博士の学位を有し且つ研究実績の十分な教員が、各自の専門分野に対応した授業科目を担当するように配置されている（資料3-1-③-3）。また、「専攻科課程修了時に身につけるべき学力や資質・能力」として挙げている「モノづくりやシステムデザイン能力を生かした、創造的実践力」や「養成する人材像」としている「経営のわかる実践的技術プロフェッショナル」（工学系2専攻）もしくは「技術のわかる実践的ビジネスプロフェッショナル」（ビジネス系専攻）に対応して、企業での実務経験のある専任教員が複数人配置されており、工学系専攻には技術士の資格をもつ専任教員も2人、またビジネス系専攻には税理士の資格をもつ専任教員も1人配置されている。さらに、本校専攻科の特色であるシナジー教育や技術経営(MOT)教育にも配慮して、「生産管理」や「技術経営」を専門とする専任教員も配置されている。

資料 3-1-③-3

専攻科専門科目及び専門関連科目担当教員の授業科目表（平成 19 年度）

専任教員

職名	氏名	学位	専門分野	主な担当授業科目
教授	佐東 信司	工学博士	材料学, 材料強度学 複合材料学, 材料物性	機能性材料工学
教授	大槻 正伸	博士(工学)	情報科学, 情報工学 認知科学	制御システム工学
教授	渡辺 敏夫	博士(工学)	騒音制御工学	機械振動学
教授	天野 耀鴻	博士(工学)	ロボット工学, 制御工学	産業技術特論 I, ロボット工学
教授	渡辺 博	工学博士	超音波工学, 音響工学 電子材料工学	音響工学
教授	春日 健	博士(工学)	信頼性工学	産業技術特論 I
教授	鈴木 晴彦	博士(電気工学)	電気電子材料工学	電子物性工学
准教授	一色 誠太	博士(工学)	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学, 熱流体工学
准教授	松尾 忠利	博士(工学)	材料力学, 弾性力学, 計算力学	材料科学
准教授	山本 敏和	博士(工学)	プラズマ工学	電気磁気学特論
准教授	濱崎 真一	博士(理工学)	電子デバイス材料開発 誘電体	電子回路特論
講師	小泉 康一	博士(情報科学)	情報科学分野 (暗号理論・アルゴリズム論)	情報工学特論

教授	青柳 克弘	博士(工学)	生体機能関連化学 有機合成化学	生体機能化学
教授	井上 和人	工学博士	高分子合成化学, 有機化学 熱分析	合成化学特論, 高分子材料特論
教授	伊藤 正義	理学博士	無機・有機融合材料の合成 環境システム	産業技術特論 II
教授	天野 仁司	博士(理学)	分子生物学, 化学教育	産業技術特論 I, 生体分子工学
教授	金子 研一	博士(工学)	土木施工法, 土木監理学	安全工学特論
教授	根岸 嘉和	博士(工学)	固体力学 複合構造工学	連続体力学
教授	山ノ内 正司	博士(工学)	コンクリートの破壊力学 材料力学	材料強度学
教授	原田 正光	工学博士	環境生態工学	生態工学
准教授	鴨下 祐也	博士(工学)	微生物工学, 培養工学	反応工学特論
准教授	緑川 猛彦	博士(工学)	建設材料学 コンクリート工学	産業技術特論 II, 複合構造工学
准教授	森田 年一	博士(工学)	地盤工学, 耐震工学	環境地盤工学
准教授	齊藤 充弘	博士(工学)	都市計画, 地域計画 環境計画学	計画数理
講師	押手 茂克	博士(工学)	環境化学, 分析科学	物質循環工学

教授	田代 均	博士（工学）	生産管理論，製品開発論 金属材料学，金属加工学	生産管理論，製品開発論 ロジスティック論
教授	内山 昭代		広領域（デザイン）	広告メディア論
教授	森川 治	博士（理学）	数学（数理論理学）	経済経営数学，数理意思決定論
教授	渡部 順一	博士（経済学）	経営政策論，技術政策論	経営学特論Ⅱ，経営管理論 ベンチャービジネス論，技術経営論
准教授	芥川 一則	博士（情報科学）	都市経済学，地域経済学	データベース論，都市経済学
講師	渡部 美紀子	修士（経済学）	財務会計論	財務諸表論，経営分析論 コーポレート・ファイナンス
講師	遠原 智文	博士（経営学）	経営政策（経営戦略） 国際経営	経営学特論Ⅰ
講師	松本 行真	博士（情報科学）	経営工学，マーケティング論 都市論	市場戦略論

教授	鈴木 三男	博士（学術）	物理教育	振動論
准教授	井川 治	博士（数学）	微分幾何学	応用解析学Ⅱ
講師	道上 達広	博士（理学）	惑星科学，小惑星	統計物理学
講師	島袋 修	博士（数理学）	代数的組合せ論	応用解析学Ⅰ

### 非常勤講師

氏名	所属先・役職	学位	専門分野	担当授業科目
南 鉄男	奥羽大学文学部常勤講師	文学修士	英語学	ビジネス英語
橋本孝一	元福島工業高等専門学校教授 (福島高専名誉教授)	工学修士	水処理工学・環境工学	環境解析評価論
永井康友	元福島工業高等専門学校教授	工学博士	塑性加工全般 (特に板のプレス加工) 曲げ加工	塑性加工学

(出典：総務課・学生課資料)

### (分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科担当教員は「福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項」に従って選考され、「専攻科修了時に身につけるべき学力や資質・能力」に合致するように、各教員は各自の専門分野に対応した授業科目をそれぞれ担当している。また、専攻科担当教員は、十分な研究実績をもつ博士の学位取得者を中心に配置されており、本校専攻科課程の「専攻科修了時に身につけるべき学力や資質・能力」，「養成する人材像」に対応して、企業での実務経験者や技術士，税理士の資格も有する専任教員も複数人配置するとともに、さらに本校の特色である「シナジー教育」や「技術経営(MOT)教育」に適任の専任教員を配置している。以上の理由から、専攻科の教育の目的に照らして教員の専門分野と担当授業科目を対応させ、専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

専任教員の採用は、教員の年齢構成や性別構成を考慮して行っている。本校での専任教員の年齢構成は、20代が6人、30代が23人、40代が28人、50代が15人、60代が6人であり、特定の年齢に著しく偏ってはいない（資料3-1-④-1）。また、本校では、現在5人の女性の専任教員が在籍しており、女性教員の採用にも努めている。

なお、教員採用においては、年齢、性別のみならず企業での実務経歴、教育経歴や技術士等の資格の取得状況も考慮している（資料3-1-④-2）。教員採用は原則として公募制で行っているが、教員採用に関する規定等については、次の観点3-2-①において詳しく述べる。

資料3-1-④-1

専任教員年齢階級別・性別集計表（平成19年4月1日現在）

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計	女性教員
機械工学科	1	3	3	3	1	11	0
電気工学科	1	3	3	2	1	10	0
物質工学科	1	5	4	2	1	13	0
建設環境工学科	3	1	3	3	0	10	2
コミュニケーション情報学科	0	2	4	3	1	10	2
一般教科	0	9	11	2	2	24	1
計	6	23	28	15	6	78	5

（出典：総務課資料）

資料3-1-④-2

過去5年間の教員採用実績表

採用年月日	学科	採用時 職名	採用時 年齢	性別	専門分野	採用時 取得学位	着任前職業経歴		資格 (技術士等)
							所属	通算勤務年数	
平成15年4月1日	機械工学科	講師	31	男	応用科学・小惑星	博士(理学)	日本貨物鉄道株式会社	1	
平成15年4月1日	物質工学科	助手	28	男	環境生物化学・酵素科学 生化学・生体分析化学	博士(工学)	(株)バイオ産業情報化コンソーシアム	1	
平成15年4月1日	物質工学科	教授	48	男	分析化学・有機化学	博士(教育学)	東亜合成化学工業株式会社 神奈川県高等学校教諭	2 19	
平成15年7月1日	物質工学科	助手	28	男	有機化学・有機材料化学	博士(理学)			
平成15年10月1日	コミュニケーション 情報学科	助教授	45	男	英語学・英語史	修士(教育学)	福島県高等学校教諭 奥羽大学	8 10.06	
平成18年4月1日	建設環境工学科	助手	28	女	リモートセンシング	修士(工学)			
平成16年4月1日	一般教科	講師	31	男	アメリカ文学研究(アメリカ現代小説研究) アメリカ文化研究	修士(文学)			
平成16年4月1日	機械工学科	教授	60	男	塑性加工全般 特に板のプレス加工・曲げ加工	工学博士	プレス工業株式会社	38	
平成16年4月1日	物質工学科	助教授	42	男	ナノ科学・フォトニクス・低次元性物質・ 新規超伝導体・光電子化学・非線形な化学振動反応	博士(工学)	理化学研究所 黒炭材料研究所	3 3	
平成16年10月1日	機械工学科	助手	26	男	材料工学・A/E計測・板紙類の加工	修士(工学)			
平成17年4月1日	電気工学科	講師	27	男	情報科学分野(暗号理論・アルゴリズム論)	博士(情報工学)			
平成17年4月1日	機械工学科	講師	30	男	代数的組合せ論	博士(数理学)			
平成17年4月1日	コミュニケーション 情報学科	教授	55	男	生産管理論・製品開発論・金属材料学・金属加工学	博士(工学)	新日本製鐵株式会社	31	
平成17年4月1日	コミュニケーション 情報学科	講師	45	女	財務会計論	修士(経済学)	佐々木泰男税理士事務所 東北電子専門学校 菅原学園 株式会社 有坂会計 税理士事務所開業	1.06 2.05 3.0 2.01 6.09	税理士
平成18年4月1日	建設環境工学科	教授	56	男	土木施工法・土木監理学	博士(工学)	大成建設株式会社	32	技術士(建設部門) 技術士(総合技術監理部門)
平成18年4月1日	物質工学科	助手	27	男	光化学・物理化学・レーザー応用科学・分光計測	博士(工学)			
平成18年4月1日	建設環境工学科	助教	27	女	環境工学・衛生工学・浄水工学	博士(工学)			
平成19年4月1日	一般教科	講師	30	男	日本語学(意味論・文法論)	博士(文学)			
平成19年4月1日	一般教科	講師	30	男	非線形の変分方程式	博士(理学)			
平成19年4月1日	機械工学科	教授	57	男	ロボット工学・システム制御工学 知能工学・メカトロニクス	博士(工学)	上海第5個鋼鉄製作所 上海第5区機器機廠 山本電気株式会社 中国国立上海建築材料工業大学 貴陽高等	6.09 2.10 8 5.07 4	
平成19年4月1日	機械工学科	助教	30	男	機械要素・機械工作・生産工学	修士(工学)			
平成19年4月1日	コミュニケーション 情報学科	講師	34	男	経営工学・マーケティング論・都市論	博士(情報科学)	株式会社 JMR生活総合研究所	5	

(出典：総務課資料)



また、本校では専任教員の在職中における学位取得を積極的に支援しており、過去5年間において延べ9人の教員が博士の学位を、また1人の教員が修士の学位を取得している（資料3-1-④-3）。さらに、現在4人の教員が大学院に在籍もしくは単位取得退学をしており、今後の博士学位取得に向け努力している。

なお、本校では「福島工業高等専門学校教育功労者等の表彰の実施について」の規則に基づき、教育活動等で功績のあった教職員を表彰する制度があり（資料3-1-④-4）、毎年数名の教職員に対して表彰を実施している（資料3-1-④-5）。

資料3-1-④-3

専任教員在職中の学位取得支援状況

取得年月日	学科	取得学位	学位論文名	学位取得先
平成15年3月25日	コミュニケーション情報学科	博士（学術）	学生の学習意欲を引き出すネットワークコンピュータ授業支援システムに関する研究	茨城大学
平成15年3月25日	物質工学科	博士（工学）	均一液液抽出を用いる生理活性物質の計測法及び分離回収プロセスの開発	茨城大学
平成15年9月30日	電気工学科	博士（工学）	リモートセンシングによるポラリメトリックSAR画像データの分析理論と土地被覆分類への応用	茨城大学
平成17年3月25日	コミュニケーション情報学科	博士（経営学）	研究開発活動のグローバル化に関する研究：海外開発活動の進化プロセスを中心として	東北大学
平成18年3月24日	機械工学科	博士（工学）	アコースティックエミッション法による型抜用板紙の加工特性評価	長岡技術科学大学
平成18年3月24日	建設環境工学科	博士（工学）	閉鎖性海域環境の時空間変化抽出に関する地球情報学的研究	熊本大学
平成18年3月24日	コミュニケーション情報学科	博士（情報科学）	Word Order Variation and Determinants in Old English	東北大学
平成18年3月24日	コミュニケーション情報学科	修士（国際文化）	樺太アイヌと日露の関わりー千島アイヌとの比較を通してー	東北大学
平成19年3月26日	建設環境工学科	博士（工学）	乱流拡散方程式を用いた固体粒子浮遊流の解析とその底面境界条件の設定法に関する研究	長岡技術科学大学
平成19年3月29日	電気工学科	博士（工学）	絶縁・誘電材料の電的特性と等価回路解析に関する研究	秋田大学

（出典：総務課資料）

資料 3-1-④-4

福島工業高等専門学校教育功労者等の表彰の実施について

福島工業高等専門学校教育功労者等表彰の実施について

(平成16年4月1日)

(校長 裁定)

(平成18年3月30日改正)

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則の実施について（平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定。以下「規則実施」という。）に関し必要な事項を定める。

- 1 規則実施第3の第5号に該当する者とは、次の各号に掲げるものをいう（以下「教育功労者等」という。）。
  - (1) 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、教育効果を高めた者
  - (2) クラブ運営等を通して学生の教育に功績のあった者
  - (3) 高等専門学校生向けの学生用教科書を編纂し、教育効果を上げた者
  - (4) 各種委員会において学校運営に功績のあった者
  - (5) 技術指導、公開講座及び共同研究において社会貢献し、本校の名を高めた者
  - (6) 入学対策又は進路指導において功績のあった者
  - (7) その他校長が前各号と同等以上の功労があると判断した者
- 2 各学科、各種委員会又は事務部長（以下「推薦者」という。）は、別紙により候補者を校長に推薦するものとする。
- 3 教育功労者等を選考するため、本校に教育功労者等選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 4 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、教務主事を委員長とする。
  - (1) 教務主事
  - (2) 学生主事
  - (3) 寮務主事
  - (4) 地域環境テクノセンター長
  - (5) 事務部長
  - (6) その他校長が必要と認めた者
- 5 委員会は、校長から提出のあった候補者名簿に基づき、表彰の適否について検討を行い、その結果を校長に理由を付して答申しなければならない。
- 6 校長は前号の答申を参考にして、表彰の実施を決定する。
- 7 表彰は校長が表彰状を授与して行う。なお、教育功労者の中から、一人を特別表彰することがある。

附 則 この取扱は、平成16年4月1日から実施する。

附 則 この取扱は、平成18年1月11日から実施する。

附 則 この取扱は、平成18年4月1日から実施する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

資料3-1-④-5

福島工業高等専門学校教育功労者等一覧

平成14年度	教育功績者	物質工学科 教授	青柳 克弘
		一般教科 助教授	根本 昌樹
		一般教科 助教授	新井 広
		技術室 技術専門職員	舟山 義一
平成15年度	特別教育功績者	一般教科 教授	根本 信行
	教育功績者	一般教科 教授	鳥居 孝栄
		物質工学科 助教授	天野 仁司
		建設環境工学科 助教授	山ノ内 正司
平成16年度	特別教育功績者	建設環境工学科 教授	根岸 嘉和
	教育功績者	電気工学科 助手	山田 貴浩
		技術室 技術専門職員	石田 俊一
平成17年度	教育功労者	一般教科 教授	鈴木 三男
		建設環境工学科 教授	佐藤 恭輔
		電気工学科 助教授	鈴木 晴彦
		建設環境工学科 助教授	原田 正光
平成18年度	教育功労者	電気工学科 教授	大槻 正伸
		建設環境工学科 教授	橋本 孝一
		コミュニケーション情報学科 助教授	芥川 一則

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、在職中の専任教員に対して博士の学位取得を積極的に支援しており、また、教育活動面で特に功績のあった教職員を表彰する制度を設け、毎年表彰を実施している。さらに、新たな教員の採用に当たっては、教員組織の活動をより活発化するために、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等を講じている。

**観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。**

(観点到に係る状況)

本校では、教員の採用・昇任については高等専門学校設置基準のほか、教員の採用・昇任に係る選考基準として「福島工業高等専門学校教員選考基準」(資料3-2-①-1)及び「福島工業高等専門学校教員選考内規」(資料3-2-①-2)が定められている。また、専攻科担当教員は「福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項」(資料3-1-③-1)により選考されている。教員の採用にあたっては、公募制を導入し、教育実績及び業務実績、学位取得状況等を勘案することとしている。また、昇任にあたっては、教育業績(教育上の能力)、研究業績、校務分掌での経歴及び学位取得状況等の基準を満たすことを条件としている。

資料 3 - 2 - ① - 1

## 福島工業高等専門学校教員選考基準

## 福島工業高等専門学校教員選考基準

平成13年9月11日

校長 裁定

最終改正 平成19年3月6日全部改正

## (趣旨)

第1条 この基準は、福島工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教授、准教授、講師及び助教の採用及び昇任に係る選考の基準を定めるものとする。

## (教授の資格)

第2条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- 二 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業績についての実績を有する者
- 三 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- 五 芸術、体育等については、特殊な技術に秀でていと認められる者
- 六 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

## (准教授の資格)

第3条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

## (講師の資格)

第4条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第2条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
  - 二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
- 2 非常勤講師の選考は、前項各号に定める基準を準用する。

## (助教の資格)

第5条 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者
- 二 修士の学位(医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位)又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- 三 特定の分野について、前各号に掲げる者に準ずる知識及び経験を有すると認められる者

## 附 則

- 1 この基準は、平成19年4月1日から実施する。
- 2 福島工業高等専門学校教員選考基準(平成13年校長裁定)は、廃止する。
- 3 実施日に在籍する教員は、この基準により選考されたものとみなす。
- 4 実施日の前日までに教職に就いていた経歴を有する者を新たに選考するときは、第2条第3号中「准教授」とあるのは「助教」と、第3条第2号中「助教」とあるのは「助手」と読み替えるものとする。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料 3 - 2 - ① - 2

福島工業高等専門学校教員選考内規

福島工業高等専門学校教員選考内規

平成19年3月6日

校長 裁定

(趣旨)

第1 この内規は、福島工業高等専門学校教員選考基準(平成19年校長裁定)に定めるもののほか、福島工業高等専門学校の教授、准教授、講師及び助教の採用及び昇任(以下「採用等」という。)の選考に係る必要な事項を定めるものである。

(資格等)

第2 教員の採用に際しては、次表の区分欄の①欄及び②欄、昇任に際しては、同表①欄及び③欄に掲げる資格を有する者から選考するものとする。

区分 職名	① 「採用・昇任」	② 「採用」	③ 「昇任」
教授	(1)原則として、博士の学位を有する者 (2)採用等予定前5年以内に、著書・論文数が5編以上ある者(内2編は、筆頭者でレフリー付き論文であること。)	(1)公募時の教育実績・業務実績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者	(1)原則として、主事又は主事補の経歴が有る者 (2)これまでの教育業績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者
准教授	(1)原則として、博士の学位を有する者 (2)採用等予定前5年以内に、著書・論文数が3編以上ある者(内1編は、筆頭者でレフリー付き論文であること。)	(1)公募時の教育実績・業務実績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者	(1)これまでの教育業績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者
講師	(1)原則として、博士の学位を有する者 (2)採用等予定前5年以内に、著書・論文数が2編以上ある者(内1編は、筆頭者であること。)	(1)公募時の教育実績・業務実績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者	(1)これまでの教育業績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者
助教	(1)博士の学位を有する者又は修士の学位を有するもので、5年以内に博士の学位を取得可能な者	(1)公募時の教育実績・業務実績等を勘案し、教育能力を有すると認められる者	

(必要な書類)

第3 採用等に際しては、次に掲げる資料を下に審査を行わなければならない。ただし、採用に際しては、採用時の応募書類をもって代えることができる。

- 一 教員選考個人調書 第1号様式
- 二 著書・論文一覧 第2号様式
- 三 著書・論文の概要 第3号様式

(雑則)

第4 第2及び第3に定める資格によりがたい特別な事情がある場合は、別途、校長が判定する。

附 則

- 1 この内規は、平成19年4月1日から実施する。
- 2 一般教科に所属する教員の採用等に際しては、当分の間、第2の定めにかかわらず、廃止前の福島工業高等専門学校教員選考基準(平成13年校長裁定)第1の(2)に定めるところによることができる。この場合において、(キ)及び(ケ)中「助教教授」とあるのは「准教授」と読み替えるものとする。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

専任教員の採用に係る選考の手続きは、「福島工業高等専門学校における教員採用選考の取扱いについて」（資料3-2-①-3）に定められている。教員の採用にあたっては、校長の諮問に応じるために、校長以下、当該学科長等で構成される選考会議を置くこととしている。採用候補者の募集は、特別の理由がない限り公募で行い、応募のあった者について当該学科長が書類審査により複数名の面接選考候補者を選考し、校長に報告する（資料3-2-①-4）。校長は、当該学科長等の同席のもと面接選考候補者に対して面接選考を行う。さらに面接選考候補者は、実際に当該学科の学生を対象として模擬授業を行うことになっている。校長は、書類選考及び面接選考の結果に基づき、選考会議の意見を求め、採用候補者を決定する。

また、非常勤講師の採用に関する規則については、「福島工業高等専門学校教員選考基準」（資料3-2-①-1）第4条第2項に定められており、専任講師の基準を準用することとしている。

資料 3-2-①-3

福島工業高等専門学校における教員採用選考の取扱について

福島工業高等専門学校における教員採用選考の取扱について  
(平成 13 年 9 月 11 日校長裁定)

本校の専任教員採用に係る選考の手続きについては、次により取扱うものとする。

1. 教員の採用候補者選考について、校長の諮問に応じるため選考会議を置く。
2. 選考会議は、校長が主宰する。
3. 選考会議は、校長、当該学科長（一般教科にあっては、一般教科長。以下同じ。）及び校長が指名する他の学科長の外、必要に応じ当該教員採用に伴い直接教育上関係する者をもって構成する。
4. 校長は、教員採用の事由が生じたときは、予め当該学科長に対し採用予定者に係る職名、専門分野、採用予定日、その他必要な要件を提示する。
5. 当該学科長は、前号の要件により公募に必要な書類（独立行政法人科学技術振興機構の「研究者人材データベース」に掲載する要領による。）を作成し、校長が決定する。
6. 採用候補者の募集は、特別の理由がない限り公募により行う。
7. 当該学科長は、応募のあった者について書類選考を行い、複数名の面接選考候補者を選考し、選考の結果を書面をもって校長に報告する。
8. 校長は、前号の報告に基づき面接選考候補者に対し面接選考を行う。面接選考には、校長、当該学科長の外、必要に応じ校長が指名する者を出席させることができる。
- 8の2 前号の面接選考の外に、原則として、模擬授業を実施する。なお、同授業の出席者は、前号後段に掲げる者とする。
9. 校長は、書類選考、面接選考及び模擬授業の結果に基づき選考会議の意見を求め、本校の教員として採用するに最もふさわしい者（採用候補者）を決定する。
10. 本取扱いの手続きに係る様式は、別紙様式 1, 2 のとおりとする。
11. 専攻科に所属する教員採用の取扱は、前各号を準用するものとする。

附 則

この取扱いは、平成 13 年 9 月 11 日から施行し、平成 13 年 6 月 29 日から適用する。

附 則

この取扱いは、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この取扱いは、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)



## 教員公募通知文

## 教員の公募について

## 1. 概要

募集人員：教授 1名  
 所属学科：コミュニケーション情報学科  
 専門分野：経営工学または経営工学の関連分野  
 担当科目：オペレーションズ・リサーチ、経営工学実験、生産管理論、  
 ビジネス英語、特別研究、卒業研究

## 2. 応募資格

- (1) 博士の学位を有する方
- (2) 採用時における年齢が55歳未満の方が望ましい
- (3) 高専における教育、学術研究および学生指導（学生の生活指導、寮生指導、課外活動活動等）に熱意があり、本校の運営等に積極的かつ協動的に参画できる方
- (4) 日本国籍を有する方

## 3. 着任時期

2007年 10月 1日または 2008年 4月 1日

## 4. 応募書類

- (1) 履歴書（本人自筆、市販用紙、写真貼付）
- (2) 研究業績一覧（論文、著書、特許、口頭発表等、様式自由）
- (3) 主要論文・著書の別刷り（コピー可、5編以内）
- (4) 高専における教育・研究および学生指導に対する抱負（1,000字程度、様式自由）
- (5) 推薦書1通

応募締切 2007年 6月 29日（金）必着

書類提出先 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

福島工業高等専門学校総務課人事係

電話：0246-46-0707

FAX：0246-46-0729

封筒に「コミュニケーション情報学科教員応募書類」と朱書き、簡易書留にて郵送願います。  
 応募書類は返却いたしません。

## 5. 選考方法

第一次選考 書類審査

第二次選考 学生の前で模擬授業（20分）および面接

（第一次選考合格者のみ対象）

## 6. 採否の決定

個別に連絡

## 7. 連絡先

コミュニケーション情報学科長 田代 均

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30

E-Mail [tashiro@fukushima-nct.ac.jp](mailto:tashiro@fukushima-nct.ac.jp)

Tel 0246-46-0857 Fax 0246-46-0859

## 8. URL

<http://www.fukushima-nct.ac.jp/>

## 9. 備考

高専は業務内容において大学と異なる点がございまして、ご理解の上ご応募ください。なお、本校の概要、授業科目等は本校ホームページをご覧ください。

（出典：総務課資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教員の採用や昇任に関する規定が明確かつ適切に定められ、規定に則ってチェック機構を備えた適切な運用がなされており、高等専門学校の使命、福島高専の学習・教育目標及び各学科の掲げる教育目的に沿った教員組織編成の基本的な方針を反映させることのできるシステムになっている。教員の採用・昇任については、高等専門学校設置基準のほかに「福島工業高等専門学校教員選考基準」、「福島工業高等専門学校教員選考内規」が定められており、その運用に関しても「福島工業高等専門学校における教員採用選考の取扱について」が定められ、それに基づく選考がなされている。以上の理由から、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

**観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。**

(観点に係る状況)

本校において、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する組織として、教育活動全般について担当する点検及び評価に関する検討委員会と、主に教員の授業に関する資質と能力の向上を担当するFD委員会の2つが設置されている(資料3-2-②-1~2)。なお、授業評価アンケートを含むFD委員会の種々の活動に関しては、基準9において詳しく述べる。

福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則

福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則

(平成 5 年 1 2 月 9 日)

(規 則 第 1 号)

(最終改正 平成 19 年 3 月 28 日規則第 15 号)

(目的)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 1 3 条第 2 項に基づき、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動等の状況について自ら行う点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(検討委員会)

第 2 条 本校に、次の各号に掲げる事項を行うため、福島工業高等専門学校点検及び評価検討委員会(以下「検討委員会」という。)を置く。

- (1) 点検及び評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (3) その他点検及び評価に関する必要な事項

(組織)

第 3 条 検討委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 校長補佐
- (4) 専攻科長
- (5) 各学科長
- (6) 一般教科教授のうちから校長が指名した者 1 名
- (7) 事務部長、総務課長及び学生課長
- (7) その他校長が指名した者

(委員長)

第 4 条 検討委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(実施組織)

第 6 条 点検及び評価を行う組織等(以下「実施組織」という。)は、次のとおりとする。

- (1) 各学科及び一般教科

- (2) 専攻科
- (3) 検討委員会が指定する各種委員会
- (4) 事務部
- (点検評価事項)

第7条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項について、点検及び評価を行う。

- (1) 教育理念及び教育目標に関する事。
- (2) 教育活動に関する事。
- (3) 研究活動に関する事。
- (4) 施設設備に関する事。
- (5) 国際交流に関する事。
- (6) 生涯学習への対応に関する事。
- (7) 社会との交流に関する事。
- (8) その他検討委員会が必要と認める事項

2 前項各号に係る具体的な点検項目は、検討委員会が別に定める。

(点検及び評価の実施)

第8条 検討委員会及び実施組織は、別に定める点検項目により、点検及び評価を行うものとする。

2 実施組織は、点検及び評価の結果を検討委員長に報告するものとする。

3 検討委員長は、実施組織からの報告に基づき、点検及び評価の総括を行い、改善すべき事項を付して校長に報告するものとする。

(報告書の作成及び公表)

第9条 校長は、取りまとめた点検及び評価の結果を報告書として公表するものとする。

(点検及び評価結果の対応)

第10条 校長は検討委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、関係する実施組織にその改善策の検討を付託するものとする。

(庶務)

第11条 検討委員会の庶務は、総務課において処理する。

(細則)

第12条 この規則に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な細則は、校長が別に定める。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

福島工業高等専門学校 FD 委員会規則

福島工業高等専門学校 F D 委員会規則

(平成 15 年 5 月 6 日)

(規則 第 1 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 31 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校 F D 委員会 (以下「F D 委員会」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この規則においてファカルティ・ディベロップメント (F D) とは、本校教員の教育、特に、授業に関する資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取組みをいう。

(目的)

第 3 条 F D 委員会は、F D について本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与することを目的とする。

(組織)

第 4 条 F D 委員会の委員は 5 名程度とし、教員の自薦を基本として校長が任命する。自薦のない場合は、校長が指名する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合は、補欠の委員を校長が指名する。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 F D 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は校長が指名し、副委員長は委員の互選とする。

2 委員長は F D 委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第 7 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(他の委員会等との連携)

第 8 条 F D 委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校における F D の推進活動を補完し合うものとする。

(報告)

第 9 条 委員長は、F D 委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 10 条 F D 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、F D 委員会の運営に関し必要な事項は、F D 委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 15 年 5 月 6 日から施行する。

附 則 (平成 16 年 4 月 1 日規則第 24 号)

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 18 年 3 月 30 日規則第 31 号)

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

本校の教育活動に関する定期的な評価システムには、教員による自己評価、教員による相互評価、学生による教員の評価の3項目から構成されている「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づく評価と、「福島工業高等専門学校における教員業績評価システム」に基づく評価の2つがある。

「福島工業高等専門学校における教員業績評価システム」は、「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づく評価の3項目に加え、教育、学生指導、研究、地域貢献、管理運営の5つに係る自己採点と教育、学生指導、研究、地域貢献、入学者対策、管理運営、その他の6つに係る自己申告をもとに教員の業績を評価するものである。この結果は、校長戦略経費等の競争的研究費の配分に適用するとともに、「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」に基づく国立高等専門学校機構の教員顕彰制度への推薦にも適用されている（資料3-2-①-3）。

なお、平成18年度に本校機械工学科教授が「創造的実践モノづくり教育への功績」の顕彰題目で長年にわたる高専教育面での顕著な功績が認められ、「国立高等専門学校教員顕彰」の最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞した（資料3-2-①-4）。

## 福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて

## 福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて

(平成18年6月6日校長裁定)

## 1. 評価システムの目的

各国立高等専門学校は独立行政法人国立高等専門学校機構として再出発をし、本校も同機構に所属する一つの学校として新たなスタートを切った。

今後、機構は総務省政策評価・独立行政法人評価委員会の評価を受けることとなり、各高専は第三者機関による認証評価に加えて自主的に日本技術者教育認定機構(JABEE)を受審することとなる。

特に認証評価やJABEE受審は、いずれも高等教育機関としての質の保障と向上を図るとともに、社会に対する説明責任(アカウンタビリティ)を果たすためのものであり、これらの評価や受審を通じて教育・学生指導・研究・社会貢献等でそれぞれ活性化が図られ、各高専の質の向上にいかにかに資せられているかが最大のポイントとなる。

そこで、本校では、常に自らの教育・学生指導・研究・地域貢献等を自己点検・評価するシステムを完備し、その結果を個々の教員にフィードバックすることによって個々の教員の教育・学生指導・研究・地域貢献等を活性化させ、同時に組織として活力向上のためにいかなる戦略を構築し、そのフィードバックサイクルの結果として、本校全体の質の向上を図っているかが重要であり、その具体的な検証が求められる。

以上のことを背景として、本校が実施する教員業績評価の主たる目的は、以下のようになる。

- ① 第三者評価に耐えうる評価システムとして、透明性が高く、レベルの明確な評価尺度を持ち、自己改善の経緯が第三者にも理解できるようなシステムを構築し、社会に対する説明責任を果たすこと。
- ② 個々の教員にとっては、本校の教育理念の実現に向けた事項との関連で、自己目標の達成度を常に把握できるシステムとし、フィードバックの結果が自己改善につながられるシステムとすること。
- ③ 評価結果は、個々の教員に通知するばかりでなく、本校全体の戦略目標の設定、及びその修正に役立つシステムとすること。

福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて（骨子）

1. 評価に基づく配点

規定部分：																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(1) 顕彰要項に基づく評価</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・教育業績の自己採点</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">30点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・教員による相互評価</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">10点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・学生による教員評価</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">20点</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; text-align: right; padding: 2px;">計 60点</td> </tr> </table>	(1) 顕彰要項に基づく評価		・教育業績の自己採点	30点	・教員による相互評価	10点	・学生による教員評価	20点	計 60点		+	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(2) ポイント制に基づく評価</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・教育</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">35点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・学生指導</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">20点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・研究</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">20点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・地域貢献</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">15点</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">・管理運営</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">10点</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; text-align: right; padding: 2px;">計 100点</td> </tr> </table>	(2) ポイント制に基づく評価		・教育	35点	・学生指導	20点	・研究	20点	・地域貢献	15点	・管理運営	10点	計 100点	
(1) 顕彰要項に基づく評価																										
・教育業績の自己採点	30点																									
・教員による相互評価	10点																									
・学生による教員評価	20点																									
計 60点																										
(2) ポイント制に基づく評価																										
・教育	35点																									
・学生指導	20点																									
・研究	20点																									
・地域貢献	15点																									
・管理運営	10点																									
計 100点																										

+

自由部分： ・自己申告に基づく評価（教育・学生指導・研究・地域貢献・入学者対策・管理運営等）	60点
---	-----

=

総合点： 規定部分 160点 + 自由部分 60点 = 220点						
大項目	規 定 部 分				自 由 部 分	合 計
	顕彰要項	ポイント制	計	比率		
「教育」	(10点)	35点	75点	46.9%	60点	/
「学生指導」	(10点)	20点				
「研究」	—	20点	20点	25.0%		
「地域貢献」	(5点)	15点	20点	9.4%		
「管理運営」	(5点)	10点	15点			
「教員間評価」	10点	—	10点			
「学生の評価」	20点	—	20点	12.5%		
合 計	60点	100点	160点	100%	60点	220点
注) 自由部分の配点は、個別事項あるいは複数事項の積み上げの結果、60点を超えることも有り得る。						

(出典：総務課資料)



本校教員の「国立高等専門学校教員顕彰・文部科学大臣賞」受賞について

# 佐東教授(福島高専)が文科大臣賞



## 国立高専教員顕彰の最優秀賞

いわき市の福島高専機械工学科の佐東信司教授(五九は三十一日までに、国立高等専門学校教員顕彰の最優秀賞「文部科学大

臣賞」を受賞した。同賞は全国五十五の高専から校長推薦された教員の中から教育活動、学生生活指導、地域貢献などが総合評価され、最優秀者一人に贈られる。福島高専からの受賞は初めてで、同校の特色を生かした創造的な技術者育成、地域貢献活動などに弾みがつきそうだ。

## ものづくり教育

## 地域密着型評価

▲  
文部科学大臣賞を受賞した  
佐東教授(中央)

佐東教授は材料学、材料強度学などが専門分野。今回は、学生に対するものづくり教育の実践をはじめ、「県中学生ロボット競技会」の設立など創造的実践のものづくり教育への功績が高く評価された。

佐東教授は「福島高専に着任して十年目の節目に受賞できたことは大変光栄です」と喜びを話し、実践的で創造性豊かな学生教育のために力を尽くしたいと抱負を語った。安久正紘校長も「ものづくりは高専教育の基本。地域密着型教育が評価されたもので、(佐東教授の受賞は)大きな喜び」と話し、受賞をたたえた。

(出典：「福島民友」新聞掲載記事(平成19年4月1日))

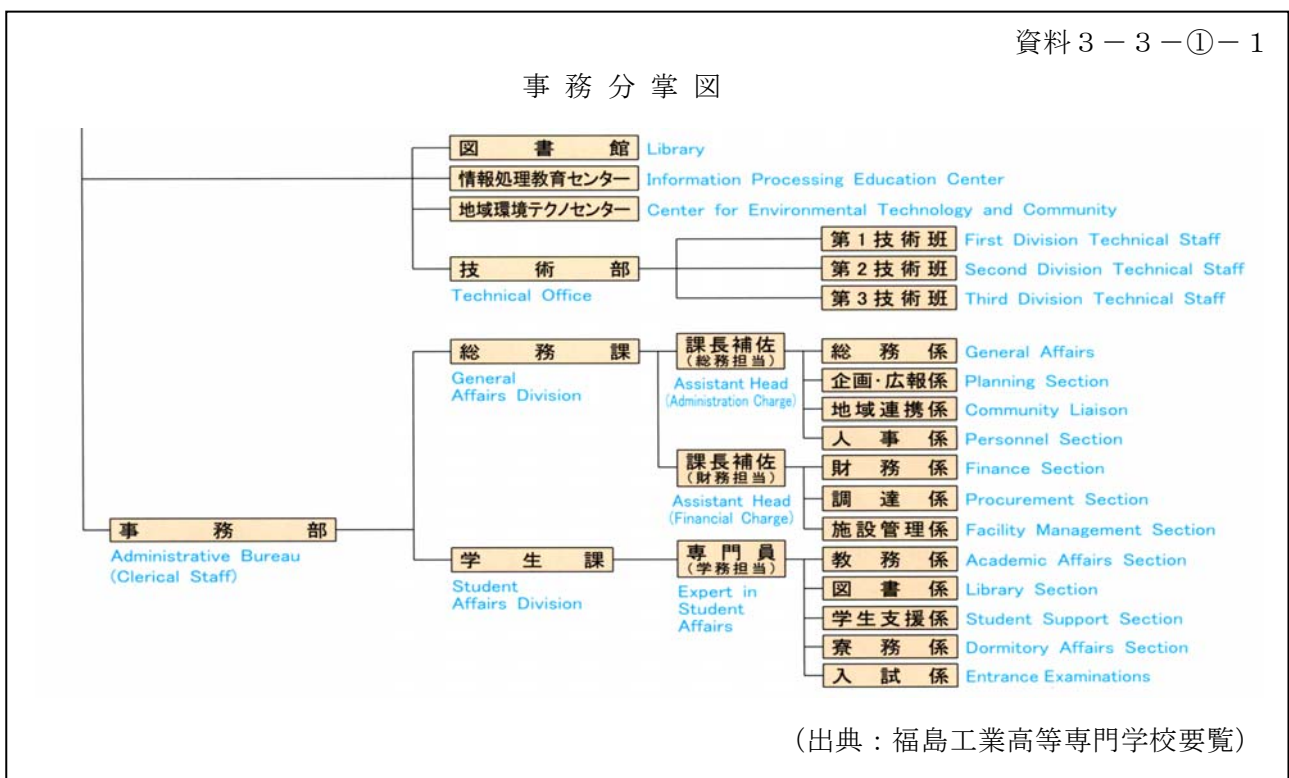
(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する組織として、点検及び評価に関する検討委員会と FD 委員会の 2 つが設置されている。また、「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」及び「福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて」に基づいて、毎年定期的に教員の教育活動に関する評価を行っている。以上の理由から、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われており、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされている

**観点 3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校において編成された教育課程を展開するために、学生課教務係、学生課図書係、技術部が置かれている(資料 3-3-①-1~5)。学生課教務係には係長 1 人、係員 2 人(図書係と兼務)が、学生課図書係には係長 1 人(教務係長と兼務)、司書 1 人、再雇用職員 2 人がそれぞれ配置されている。また、技術部には技術部長(教授と兼務)以下、第 1 班に班長 1 人と技術職員 4 人、第 2 班に班長 1 人と技術職員 3 人、第 3 班に班長 1 人と技術専門職員 3 人、技術職員 1 人が配置されている。技術職員は、技術部規則(資料 3-3-①-6)に定める実験、実習、卒業研究等の補助、指導を行うほか、データベースを活用した「シラバス作成支援システム」などのウェブ環境を用いた独自のソフトウェアの開発と運用に携わるなど(資料 3-3-①-7)、有効な教育支援を行っている。なお、技術部への実験・実習以外の教育支援の依頼は、正式な依頼申請書(資料 3-3-①-8)を提出して行うこととしている。



福島工業高等専門学校事務部組織及び事務分掌規則

(第10条第3項及び第4項)

- 3 教務係は、次の事務を分掌する。
- (1) 学生課事務の総括及び連絡調整に関する事。
  - (2) 教育課程に関する事。
  - (3) 学生の成績処理及び成績一覧表等の作成並びに進級及び卒業並びに修了の認定事務に関する事。
  - (4) 教室、教科書及び教材に関する事。
  - (5) 授業及び試験に関する事。
  - (6) 学生の指導要録その他学生の諸記録の整理保管に関する事。
  - (7) 入学、休学、転学、転科、復学、停学、除籍等の学籍異動に関する事。
  - (8) 外国人留学生（寮務係の所掌に係るものを除く。）に関する事。
  - (9) 研究生、聴講生、科目等履修生及び特別聴講学生に関する事。
  - (10) 学生の諸証明の発行（学生支援係の所掌に係るものを除く。）に関する事。
  - (11) 学生の諸届（学生支援係の所掌に係るものを除く。）に関する事。
  - (12) 学生の校外研修、校外実習及び見学等に関する事。
  - (13) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関する事。
  - (14) その他他係に属さない学生に関する事。
- 4 図書係は、次の事務を分掌する。
- (1) 学術情報に関する事。
  - (2) 図書館資料の受入及び整理並びに保存に関する事。
  - (3) 図書館資料の閲覧及び貸出し等利用に関する事。
  - (4) 文献の収集及び交換に関する事。
  - (5) 所掌事務に関する調査、統計及び報告に関する事。
  - (6) その他図書館に関する事。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

福島工業高等専門学校技術部規則  
 福島工業高等専門学校技術部規則

(平成18年3月30日)  
 (規則第16号)  
 最終改正 平成19年3月28日規則45号

(設置)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和62年規則第11号)第11条の3の規定に基づき、福島工業高等専門学校技術部(以下「技術部」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 技術部においては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生実験・実習の補助及び卒業研究等の技術指導に関すること。
- (2) 教員の教育・研究支援に関すること。
- (3) 実験実習機器の管理保全に関すること。
- (4) 実験室・実習工場等の安全管理に関すること。
- (5) 教室系技術職員(以下「技術職員」という。)の研修に関すること。
- (6) 技術の継承及び保存に関すること。
- (7) その他技術部長が必要と認めた事項

(技術部の構成)

第3条 技術部は、技術系職員(第5条に定める技術部長を除く。以下同じ。)をもって組織する。

2 技術系職員は、技術部に所属し、各学科、情報処理教育センター及び地域環境テクノセンター(以下「学科等」という。)への配置は、校長の命令により各学科等に派遣することができるものとする。

(班)

第4条 技術部に、次に掲げる班を置く。

- (1) 第1技術班(主に、実習工場系)
- (2) 第2技術班(主に、機械工学系、電気工学系、情報処理系)
- (3) 第3技術班(主に、物質工学系、環境科学教育系、建設環境工学系、一般教科系)

(職)

第5条 技術部に置くことができる職は、次のとおりとする。

- (1) 技術部長
- (2) 総括班長(技術部の業務を総括する者)
- (3) 班長(前条に定めた各班の業務を掌理する者)
- (4) 技術専門員(指定された極めて高度な専門的知識・技術等を必要とする業務を担当する者)
- (5) 技術専門職員(高度な専門的知識・技術等を必要とする業務を担当する者)
- (6) 技術職員(専門的知識・技術等を必要とする業務を担当する者)

(技術部長)

第6条 前条第1号に定める技術部長は、教授又は准教授をもって充て、校長が命ずる。

2 技術部長は、技術部を掌理する。

3 技術部長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(班長等会議)

第7条 技術部に班長等会議を置く。

2 班長等会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 総括班長
- (2) 班長
- (3) その他総括班長が必要と認めた技術系職員

2 班長等会議に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第8条 技術部の運営に関する重要事項を審議するため、技術部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第9条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 技術部の運営に関すること。
- (2) 技術職員の配置に関すること。
- (3) 技術部が行う教育・研究支援業務に関すること。
- (4) 技術部が行う産学官連携の推進に関すること。
- (5) その他技術部長が必要と認めた事項

第10条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 技術部長
- (2) 各学科長
- (3) 各専攻長
- (4) 情報処理教育センター長
- (5) 地域環境テクノセンター長
- (6) 総括班長及び各班長

（委員長）

第11条 委員会に委員長を置き、技術部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、校長の命じた者がその職務を代行する。

（委員以外の出席）

第12条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

（報告）

第13条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

（庶務）

第14条 委員会の庶務は、技術部において処理する。

（雑則）

第15条 この規則に規定するもののほか、運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 福島工業高等専門学校技術室の設置及び運営に関する規則（平成11年3月20日規則第9号）は、廃止する。

附 則（平成19年3月28日規則第45号）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）



## 技術部の概要

## 概要

■ 技術部とは本校の教育研究活動を支援し、技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理し、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育研究の発展に資することを目的とする。

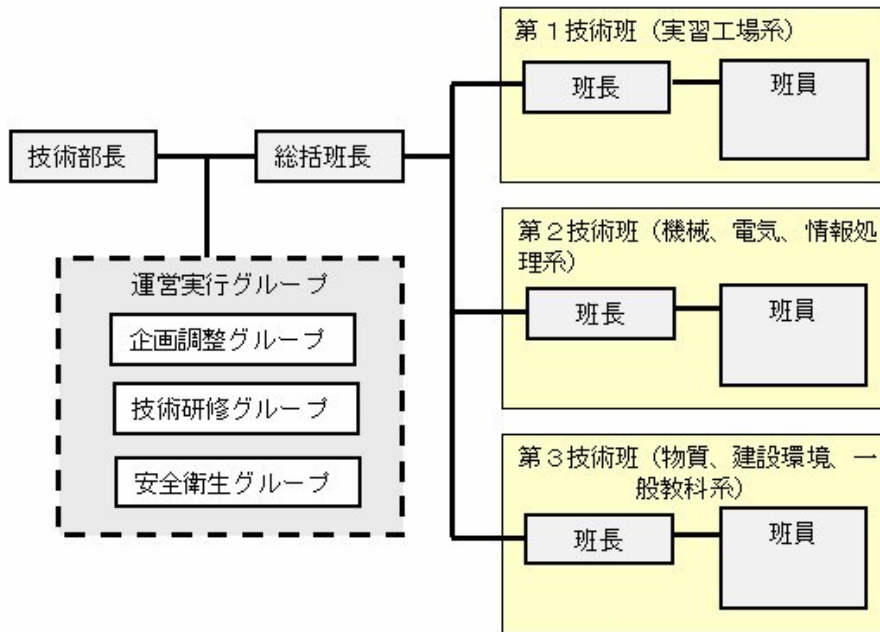
技術部においては、次の各号に掲げる業務を行う。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| (1) 学生実験・実習の補助及び卒業研究等の技術指導に関すること。   |
| (2) 教員の教育・研究支援に関すること。               |
| (3) 実験実習機器の管理保全に関すること。              |
| (4) 実験室・実習工場の安全管理に関すること。            |
| (5) 教室系技術職員(以下「技術職員」という。)の研修に関すること。 |
| (6) 技術の継承及び保全に関すること。                |
| (7) その他技術部長が必要と認めた事項。               |

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

技術部組織図

- **技術部**は3班構成(第1技術、第2技術、第3技術)で成り立っています。  
 技術部内に3つの実行グループ(企画調整G、技術研修G、安全衛生G)を形成し、そのグループが企画をし、計画を実行をします。  
 実行グループとは  
■ **企画調整G**: 技術部に関わる事案が生じた場合、技術部長、各班長、グループ長で検討し、結果を技術部内に連絡し、内部調整を行う。  
■ **技術研修G**: 技術職員の資質向上につながる研修会の企画と実施を行う。  
■ **安全衛生G**: 技術職員の部屋、実験室、実習工場等の4S(整理・整頓・清潔・躰)を基に労働安全、環境を管理し、また安全に関わる講習会等の計画、実施を行う。)



(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

技術職員一覧

技術職員一覧

技術部長	機械工学科 (教授)	渡辺 敏夫 <a href="#">WATANABE Toshio</a>
------	---------------	--

第1技術班	(実習工場系)		担当
班長	技術専門職員	渡辺 昇 <a href="#">WATANABE Noboru</a>	工作実習、工学実験、卒業、特別研究技術支援
	技術職員	降矢 司 <a href="#">FURUYA Tsukasa</a>	工作実習、工学実験
	技術職員	鈴木 一宏 <a href="#">SUZUKI Kazuhiro</a>	工作実習、工学実験、卒業、特別研究技術支援
	技術職員	松口 義人 <a href="#">MATSUGUCHI Yoshito</a>	工作実習、工学実験、卒業研究技術支援
	技術職員	岡部 雅良 <a href="#">OKABE Masayoshi</a>	工作実習、工学実験

第2技術班	(機械、電気、情報処理系)		担当
総括(兼第2)班長	技術専門職員	高木 克久 <a href="#">TAKAGI Katsuhisa</a>	工学実験、情報処理演習、卒業、特別研究技術支援
	技術職員	安藤 守 <a href="#">ANDOU Mamoru</a>	工学実験
	技術職員	和賀 仙宗 <a href="#">WAGA Toshinori</a>	ネットワーク管理、特別研究技術支援
	技術職員	丹野 拓海 <a href="#">TANNO Takumi</a>	工学実験

第3技術班	(物質、建設環境、一般教科系)		担当
班長	技術専門職員	舟山 義一 <a href="#">FUNAYAMA Yoshiichi</a>	工学実験、情報処理演習、卒業、特別研究技術支援
	技術専門職員(安全衛生グループ長)	芳賀 俊彦 <a href="#">HAGA Takahiko</a>	工学実験、卒業、特別研究技術支援
	技術専門職員	馬目 孝男 <a href="#">MANOME Takao</a>	工学実験、卒業、特別研究技術支援、委託実験
	技術専門職員(技術研修グループ長)	江尻 勝紀 <a href="#">EJIRI Katsunori</a>	工学実験、卒業、特別研究技術支援
	技術職員	小口 高昭 <a href="#">OGUCHI Takaaki</a>	一般化学実験、工学実験、卒業研究技術支援

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)



論文集「高専教育」第28号 2005.3

## データベースを活用したシラバスの構築と Web 公開

高木 克久\*<sup>1</sup> 鳥居 孝栄\*<sup>2</sup> 内田 修司\*<sup>3</sup>  
 大槻 正伸\*<sup>4</sup> 佐東 信司\*<sup>5</sup>  
 (福島工業高等専門学校)

## Constructing Syllabus System with Database and Opening it to the Public through Web

Katsuhisa TAKAGI Kouei TORII Syuji UCHIDA  
 Masanobu OHTSUKI Shinji SATO  
 (Fukushima National College of Technology)

A Syllabus reading system which works on the Web was developed. The system was produced using database software (Oracle8i) and a platform independent computer language (Java). The syllabus contents are able to be read with any computer which is connected to LAN. Users who are permitted to access to the system can input new data and renew the contents. The system has following merits; easily inputting information, united management system, accessibility for many people and only a small number of people for maintaining the system. The syllabus is opened to the public on the home page and students can read the contents of syllabi anywhere and at any time with this system.

KEYWORDS: syllabus, database, web

## 1. はじめに

シラバスは授業内容や目標、計画を記述したもので、学生には授業内容を理解する上で、また学外者には本校教育の方針と具体的な内容を理解してもらうための重要な文書である。

シラバスをホームページに掲載することができれば利用者は Web を利用し、いつでも必要なときに情報を得ることが可能である。

近年、各高専でもホームページにシラバスを掲載しているところが増加している。その公開手法には文書を HTML (Hyper Text Markup Language) や PDF (Portable Document Format) ファイルに変換し、それぞれにリンクを張り表示する方法と、シラバスをデータベース化し、学年・学科の条件で検索・閲覧する方法がある。管理者の

作業として、前者の方法は文書ファイルの作成依頼やとりまとめ、HTML や PDF ファイルに変換する作業、新たなリンクページを作成する作業が生じる。しかし、後者の方法はデータベースを活用すると入力依存のみで済み、作業の軽減化が実現できる。また、各教員が担当する科目の調査や授業時間数の集計にも活用できる可能性がある。

データベースを活用したこのようなシステムは大学等ではオンライン・シラバスシステム<sup>1),2)</sup>として運用されているところが多数あるが、高専においてはそのような例は多くない。

本校のシラバスは従来、科目担当者が必要項目情報をワード等のワープロソフトを使用して文書化し、編集者が校正を行った後、ホームページ用の HTML 化や、印刷後の冊子化を行っている。そこで、データベースのメリットを考慮し、デー

\* 1 技術室 takagi@fukushima-nct.ac.jp, \* 2 一般教科, \* 3 物質工学科, \* 4 電気工学科,  
 \* 5 機械工学科



(分析結果とその根拠理由)

「福島工業高等専門学校事務部組織及び事務分掌規則」及び「福島工業高等専門学校技術部規則」により、事務職員及び技術職員の教育支援に関する組織と支援内容が明確に定められており、それに基づいて、実際に教育課程を実施展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置され、有効な教育支援を行っている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」，「福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて」に基づいた評価結果を，競争的研究費の配分や国立高等専門学校機構の教員顕彰制度への推薦に適用している。
- ・技術職員が，学生の実験，実習，卒業研究等の補助、指導を行うほか，データベースを活用した「シラバス作成支援システム」などのウェブ環境を用いた独自のソフトウェアの開発と運用に携わるなど，有効な教育支援を行っている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準3の自己評価の概要

一般科目担当の専任教員及び専門科目担当の専任教員の数は，いずれも高等専門学校設置基準を満たしている。一般科目担当の教員は，「福島高専の学習・教育目標」等に沿った教育課程の授業科目構成に合わせて，各教科にバランスよく配置されている。また，専門科目担当の教員は，各自の専門分野に対応した科目を担当するようになっているほか，企業での実務経験者や技術士や税理士の資格を有する専任教員も配置している。専攻科担当教員は「福島工業高等専門学校専攻科を担当する教員に関する要項」により選考され，十分な研究実績をもつ博士の学位取得者を中心に配置されており，また，本校の特色であるシナジー教育や技術経営教育に適任の専任教員を配置している。

専任教員の採用に当たっては，年齢，性別のみならず企業での実務経験，教育経歴や技術士等の資格の取得状況も考慮し，教員組織の活動の活発化を図るとともに，専任教員の在職中における学位取得の積極的な支援や教育活動等で功績のあった教職員の表彰も行っている。

教員の採用・昇任については，高等専門学校設置基準のほか「福島工業高等専門学校教員選考基準」，「福島工業高等専門学校教員選考内規」，「福島工業高等専門学校における教員採用選考の取扱について」等に基づいて適切に行っており，採用には公募制を導入している。また，昇任にあたっては，教育業績（教育上の能力），研究業績，校務分掌での経歴及び学位取得状況等の基準を満たすことを条件としている。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施する組織として，点検及び評価検討委員会とFD委員会の2つが設置されており，「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」，「福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて」に基づいて評価が行われている。この結果は，競争的研究費の配分と国立高等専門学校機構の教員顕彰制度への推薦にも適用している。

また，編成された教育課程を展開するために，教育支援者として学生課教務係，学生課図書係，技術部が配置され，学生の教育指導に関して有効な教育支援が行われている。

## 基準 4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程の入学者選抜に関しては、平成 16 年度に新たに校長を委員長とする入学試験委員会が設置され、それまで担当していた教務委員会に代わって、入学者選抜に関する業務の分担と責任を明確にする体制が整備された（資料 4-1-①-1）。その入学試験委員会の下で、平成 16 年度には福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」及び「養成する人材像」にふさわしい資質をもった学生（編入学生を含む）を入学させるために、本校の求める入学者像を示した「福島工業高等専門学校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」及び各学科の求める入学者像を示した「各学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」が策定された（資料 4-1-①-2）。

福島工業高等専門学校の入学者受入方針（準学士課程）のうち、「1. 創造的な『モノづくり』に強い興味を持っている人」については、「教育理念」の中の「創造性及び実践性の育成」や「学習教育・目標」の（E）「モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。」に対応したものである。また、2. ～5. は1. の「モノづくり」にとって必要となる能力、素養、姿勢、意欲等を列挙した。「2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人」は、「教育理念」の中の「広く豊かな教養」、「科学技術の基礎的素養」ならびに「学習教育・目標」の（A）、（B）に対応したものである。「3. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人」は、「教育理念」のなかの「人間力の育成」、「学習・教育目標」の（D）の中の「自己学習を通して常に自己を啓発」や（E）の中の「実践力」に対応したものである。「4. あらゆる物事に関心を持ち、深く探求する人」は、「学習教育・目標」の（C）の中の「複眼的視野」や（D）の中の「課題探求能力」に対応したものである。「5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人々を尊重する人」は、「教育理念」の中の「人間力の育成」、「学習・教育目標」の（A）の中の「地球的視野から人や社会に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。」に対応したもので、「技術者倫理」を念頭に置いたものである。

準学士課程の入学者受入方針は、本校の構成員に対しては教員会議での資料配布や説明、及び「学校要覧」等の配布で周知を図っている（資料 4-1-①-3）。なお、教職員対象に実施した準学士課程の入学者受入方針周知度調査の結果（資料 4-1-①-4～5）を見ると、「福島工業高等専門学校の入学者受入方針」については教職員の 85%が「よく知っている」もしくは「だいたい知っている」と回答しており、「各学科の入学者受入方針」については教職員の 74%が「よく知っている」もしくは「だいたい知っている」と回答している。全体的には、教員に比べて職員への周知度がやや低く、また、「福島工業高等専門学校の入学者受入方針」に比べて「各学科の入学者受入方針」の周知度が低い傾向にある。これらの結果を踏まえ、今後は資料配布や研修等を行ってさらに周知の徹底を図っていく必要がある。

福島工業高等専門学校入学試験委員会規則

福島工業高等専門学校入学試験委員会規則

(平成16年4月1日)

(規則第5号)

(最終改正 平成18年3月30日規則第25号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和62年規則第11号)第13条第2項の規定に基づき、福島工業高等専門学校入学試験委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は入学者選抜(編入学者を含む。)に関し、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者の募集に関する事。
- (2) 入学者選抜試験に関する事。
- (3) 入学試験問題の作成に関する事。
- (4) 入学者選抜方法に関する事。
- (5) 入学者の合否判定案作成に関する事。
- (6) 入学者募集に関する広報活動に関する事。
- (7) 入学者選抜試験の統計に関する事。
- (8) その他入学者選抜に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 各学科長
- (4) 事務部長及び学生課長
- (5) 教員のうちから校長が命じた者 若干名

(任命等)

第4条 削除

(会議)

第5条 委員会は、校長が招集し、その議長となる。

2 校長に事故あるときは、教務主事はその職務を行う。

(構成員以外の出席)

第6条 校長が必要と認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させることができる。

(専門部会)

第7条 委員会に次の専門部会を置く。

- (1) 入学試験実施専門部会
- (2) 入学者対策専門部会
- (3) 入学者選抜方法等研究専門部会

2 専門部会は、次に掲げる事項を担当する。

- (1) 入学試験実施専門部会
  - ア 入学者の募集に関する事。
  - イ 入学者選抜試験の実施に関する事。
  - ウ 入学試験問題に関する事。
  - エ 入学者合否判定資料の作成に関する事。

- オ その他入学者選抜に関すること。
- (2) 入学者対策専門部会  
入学者募集に関する広報活動に関すること。
- (3) 入学者選抜方法等研究専門部会  
ア 入学者選抜方法に関すること。  
イ 入学者選抜試験に関する統計に関すること。
- 3 専門部会の部員は、校長が命ずる。
- 4 専門部会に部会長を置き、第3条に掲げる委員のうちから校長が命ずる。  
(報告)  
第7条の2 部会長は、会議で審議した事項を教務主事に報告するものとする。  
(庶務)  
第8条 委員会及び専門部会に関する庶務は、学生課において処理する。  
(雑則)  
第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 福島工業高等専門学校入学者対策委員会規則（昭和50年6月26日規則第3号）は、  
廃止する。

附 則（平成18年3月30日規則第25号）  
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

福島工業高等専門学校の入学者受入方針及び各学科の入学者受入方針

○福島工業高等専門学校の入学者受入方針

1. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人
2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人
3. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人
4. あらゆる物事に興味を持ち、深く探求する人
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人

○各学科の入学者受入方針

機械工学科

- ① ロボットや自動車などの機械のモノづくりに強い興味を持っている人
- ② 機械の仕組みや関連する技術について深く勉強したい人
- ③ 人のために役立つ環境に優しい技術に関心のある人

電気工学科

- ① 電気・電子に関する実験や製作に協調性をもって取り組める人
- ② 創意工夫して電子回路やコンピュータプログラムを作り、動かしてみたい人
- ③ 電力、通信、IT など社会基盤を作る技術者になりたい人

物質工学科

- ① 物質を分子・原子レベルで自在に操る技術者になりたい人
- ② 新素材やバイオテクノロジーに強い興味を持っている人
- ③ 化学の知識・技術を応用して環境問題解決に貢献したい人

建設環境工学科

- ① 道路・橋・港・ライフライン等の建設技術に興味を持っている人
- ② 自然環境と調和したまちづくりを大切にしていきたいと考えている人
- ③ 建設技術を通じて地域社会の発展に貢献したい人

コミュニケーション情報学科

- ① 社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
- ② 外国語能力を高めて、国際的に活躍したい人
- ③ 情報技術を身につけて、産業社会に貢献したい人

(出典：平成 19 年度入学者募集要項)

入学者受入方針の周知への取組状況

### 平成 18 年度第 9 回教員会議議事録

日 時 平成 19 年 1 月 19 日 (金) 17 時 10 分～17 時 50 分

場 所 大会議室

◎ 審議事項

平成 19 年度入学者選抜 (推薦)

先ず、校長から、選抜に際しての注意事項が述べられた。

続いて、各学科長から、アドミッション・ポリシーに基づく面接実施の質問内容、総評等について報告があった。

続いて、渡辺教務主事から、本校のアドミッション・ポリシーを確認したい旨の話があり、芥川入試実施部会委員が資料 1 中の本校のアドミッション・ポリシーを読み上げて全員でこれを確認をした。

(出典：教員会議会議録)



資料 4-1-①-4

教職員対象の入学受入方針周知度調査

認証評価 基準 4 についての調査（教職員用）

この調査は、「認証評価」の「基準 4 学生の受入」における「教職員に対する入学受入方針（アドミッション・ポリシー）の周知の程度」を把握するためのものです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(1) あなたの氏名をお書き下さい。

質問 1 あなたの所属学科・課にマークしてください。

(2)

- 1: 機械       2: 電気       3: 物質       4: 建設       5: コミ  
 6: 一般       7: 総務課       8: 学生課       9: 技術部

質問 2 この質問は教員の方だけにお聞きします。

あなたは、専攻科の授業を担当していますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(3)

- 1: 担当している       2: 担当していない

ここからは準学士課程（本科課程）の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）についてお聞きします。全員お答えください。

質問 3 福島工業高等専門学校（学校全体として）の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）の内容を知っていますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(4)

- 1: よく知っている       2: だいたい知っている  
 3: あまり知らない       4: 全く知らない

質問 4 各学科（機械工学科，電気工学科，物質工学科，建設環境工学科，コミュニケーション情報学科）の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）の内容を知っていますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(5)

- 1: よく知っている       2: だいたい知っている  
 3: あまり知らない       4: 全く知らない

（出典：認証評価委員会資料）

資料 4-1-①-5

教職員対象の入学受入方針周知度調査の結果

「福島工業高等専門学校の入学受入方針」について

	よく 知っている	だいたい 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	無回答
教員 (78 人)	39 人 (50%)	38 人 (48%)	1 人 (1%)	0 人 (0%)	1 人 (1%)
職員 (45 人)	3 人 (7%)	26 人 (58%)	16 人 (35%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
計 (123 人)	42 人 (34%)	64 人 (51%)	17 人 (14%)	0 人 (0%)	1 人 (1%)

「各学科の入学受入方針」について

	よく 知っている	だいたい 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	無回答
教員 (78 人)	26 人 (33%)	41 人 (52%)	11 人 (14%)	0 人 (0%)	1 人 (1%)
職員 (45 人)	2 人 (4%)	23 人 (51%)	20 人 (45%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
計 (123 人)	28 人 (23%)	64 人 (51%)	31 人 (25%)	0 人 (0%)	1 人 (1%)

(出典：認証評価委員会資料)

また、将来の学生を含む社会に対する準学士課程の入学受入方針の公表・周知は、入学試験委員会の下部組織である入学対策専門部会を中心に行われている。具体的には「入学募集要項」、  
「学校要覧」等刊行物や学校紹介DVDの配布及び本校ホームページ内の入試情報ページへの掲載、新聞記事（いわき民報「福島高専の挑戦（平成17年11月分）」）のほか、保護者・中学生対象の学校説明会、中学校の先生を対象とした入学募集に関する説明会、中学校訪問、一日体験入学等入学対策活動での説明（配布資料：「平成19年度入学選抜方法等について」、「中学生の皆さんへ」、「体験入学のしおり」）により公表され、周知が図られている（資料 4-1-①-6～9）。

なお、準学士課程への編入学の対象となる高等学校の生徒・教職員に対しては、「編入学募集要項」等刊行物の配布及び本校ホームページ内への「編入学募集要項」の掲載のほか、入学対策専門部会が行う高等学校訪問及び本校での説明会により公表・周知されている。

専攻科課程に関しては、専攻科が設置された平成 16 年度に、専攻科委員会において福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」にふさわしい資質をもった学生を入学させるために、福島高専専攻科の求める学生像を示した「福島工業高等専門学校専攻科及び各専攻の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）」を策定した（資料 4-1-①-10～11）。

なお、専攻科の入学受入方針の本校の構成員に対する周知は、教員会議及び専攻科会議での説明や刊行物の配布等で行っている（資料 4-1-①-12）。

入学者受入方針のウェブサイト掲載

[アドミッション・ポリシー](#)

[福島高专研究紹介](#)

中学生の皆さんへ  
([学校案内](#))  
([学寮案内](#))

[体験入学](#)

[入学者募集](#)

[編入学者募集](#)

[専攻科学生募集](#)

[授業料免除と奨学金の  
申請について](#)

[所在地&アクセス](#)

- ▶ [学科紹介](#)
- ▶ [専攻科紹介](#)
- ▶ [卒業生の皆様へ](#)
- ▶ [JABEE](#)
- ▶ [News](#)
- ▶ [学生活動紹介](#)
- ▶ [サイトマップ](#)
- ▶ [リンク](#)
- ▶ [TOP](#)

**福島工業高等専門学校のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)**

**中学生の皆さんへ**

**福島高专では、次のような人の入学を期待しています。**

1. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人。
  2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人。
  3. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人。
  4. あらゆる物事に興味を持ち、深く探求する人。
  5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人。
- ※「創造的な『モノづくり』」とは、有形無形の独創的なアイデアを具体的な形や仕組みに作り上げる活動を意味します。

**各学科では、次のような人の入学を期待しています。**

- 機械工学科
  - (1) ロボットや自動車などの機械のモノづくりに強い興味を持っている人
  - (2) 機械の仕組みや関連する技術について深く勉強したい人
  - (3) 人のために役立つ環境に優しい技術に関心のある人
- 電気工学科
  - (1) 電気・電子に関する実験や製作に協調性をもって取り組める人
  - (2) 創意工夫して電子回路やコンピュータプログラムを作り、動かしてみたい人
  - (3) 電力、通信、ITなど社会基盤を作る技術者になりたい人
- 物質工学科
  - (1) 物質を分子・原子レベルで自在に操る技術者になりたい人
  - (2) 新素材やバイオテクノロジーに強い興味を持っている人
  - (3) 化学の知識・技術を応用して環境問題解決に貢献したい人
- 建設環境工学科
  - (1) 道路・橋・港・ライフライン等の建設技術に興味を持っている人
  - (2) 自然環境と調和したまちづくりを大切にしていきたいと考えている人
  - (3) 建設技術を通じて地域社会の発展に貢献したい人
- コミュニケーション情報学科
  - (1) 社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
  - (2) 外国語能力を高めて、国際的に活躍したい人
  - (3) 情報技術を身につけて、産業社会に貢献したい人

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

平成 19 年度 保護者・中学生対象の学校説明会

平成19年度学校説明会  
(第10回)

## 福島高専についての 学校案内

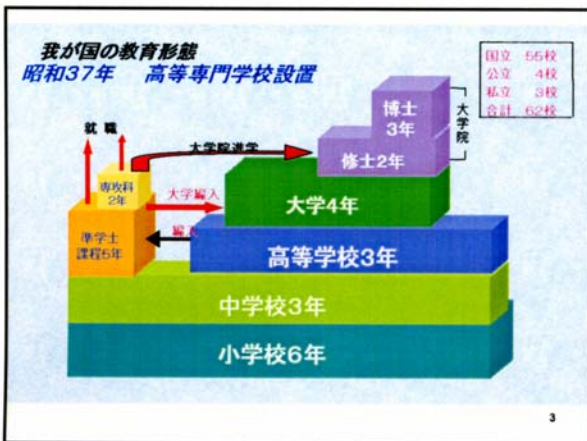
- ・本校の教育方針
- ・専攻科教育

独立行政法人国立高等専門学校機構  
福島工業高等専門学校

### 福島高専の教育理念

- ・広く豊かな教養と人間力の育成
- ・科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- ・固有の才能の展開と国際的な視野  
及びコミュニケーション能力の育成

5



### 福島高専が育てる人材

A. 工学系学科

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を習得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- ②モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- ③外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した技術者

B. ビジネス系学科

- ①管理能力を持ったビジネス系職業人
- ②国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- ③情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

### 福島工業高等専門学校

- 昭和37年4月 東北初の国立高専(高専一期校)として設立
  - ・3学科(機械・電気・工化)でスタート、**5年間一貫教育**
  - ・学科新設: 土木工学科(昭44)、コミュニケーション情報学科(平6)
  - ・学科改組: 土木工学科→建設環境工学科(平7)  
工業化学科→物質工学科(平8)
  - ・現在、5学科(機械、電気、物質、建設環境、コミュニケーション情報)
- 平成16年4月 専攻科が設置 → **7年間一貫教育**
  - ・現在、3専攻(機械・電気システム、物質・環境システム、ビジネスコミュニケーション)
- 現在、本科(5学科) + 専攻科(3専攻)の学生数→1068人  
女子学生 321人(本科310人 + 専攻科11人)
- 教職員スタッフ
  - ・教員: 78人(専門学科教員の約8割が博士号取得)
  - ・職員(事務系+技術系): 47名

福島高専は大学と同じ高等教育機関

4

### 福島高専のアドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

1. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人
2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人
3. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人
4. あらゆる物事に興味を持ち、深く探求する人
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人々を尊重する人

7

(出典：学生課資料)

## 平成 19 年度体験入学実施要項

## 平成 19 年度体験入学実施要項

## 1 目的

入学者募集に関する施策の一環として、中学 3 年生・保護者及び進路指導担当教諭を対象に、デモ実験等を通して各学科の施設・設備等を公開することにより本校への理解を深めてもらい、もって優秀な入学者の確保を図る。

## 2 期日等

## (1) 第 1 日目

期 日 平成 19 年 8 月 7 日 (火)

区 分 [午前の部] { 時 間 8 : 0 0 ~ 1 2 : 1 0 (予定)  
対象地区 いわき地区

[午後の部] { 時 間 1 2 : 3 0 ~ 1 6 : 4 0 (予定)  
対象地区 いわき地区以外の県内各地区及び北茨城地区  
茨城県・千葉県常磐線沿線地区

## (2) 第 2 日目

期 日 平成 19 年 8 月 8 日 (水)

区 分 [午前の部] { 時 間 8 : 0 0 ~ 1 2 : 1 0 (予定)  
対象地区 いわき地区

## 3 場 所

本校第一体育館及び各専門学科棟ほか

## 4 参加対象者

県内 245 校及び北茨城地区(常磐線沿線地区)54 校の中学 3 年生・保護者及び進路指導担当教諭  
(合計約 300 校対象)

## 5 業務分担

関係教職員により総括、デモ実験、入試相談、受付、案内誘導、接待、連絡、看護、駐車、会場等の業務を分担するほか、デモ実験、案内誘導及び学校紹介等に関して学生の協力(学生補助員)を得る。(詳細は別途計画)

6 実施要領

(1) 参加希望者の取りまとめは各中学校に依頼し、参加申込書により郵送又はFAXで受付ける。また、いわき市広報誌への掲載や新聞発表等により広く周知を図る。

(2) 第1日目(平成19年8月7日(火))は、参加者を各中学校単位で「午前の部」を5班、「午後の部」を5班に分け、コース別に各専門学科等を案内する。

第2日目(平成19年8月8日(水))は「午前の部」のみの実施で、参加者を各中学校単位で5班に分け、コース別に各専門学科等を案内する。

なお、1つの班の人数は、参加申込者数により決定する。

(3) 各専門学科では、デモ実験等を通して学科紹介等を行う。また、第1体育館内に「交流コーナー」を設置し、写真やパネル等による学校紹介、本校入試に関する相談及び本校学生との交流等を図る。

(4) 参加者への配布資料等

① 冊子 「体験入学のしおり」(含む:「卒業生の進路状況」・「平成19年度大学3年次編入学募集状況一覧」)

「学校案内」

② 記念品(参加生徒のみ)

③ 体験入学アンケート調査票(引率者対象,中学生対象)

7 デモ実験メインテーマ

機械工学科	“モノづくりの夢を「カタデ」にしよう!”
電気工学科	“ふれてみよう電子情報の世界”
物質工学科	“化学への招待”
建設環境工学科	“環境にやさしい建設技術”
コミュニケーション情報学科	“Reach Your Dreams ”

8 日程等(予定)

項 目	午 前 の 部	午 後 の 部	場 所
受 付	8:00～ 8:20	12:30～12:50	第1体育館
開校式(全体説明)	8:20～ 8:50	12:50～13:20	第1体育館
移 動	8:50～ 9:00	13:20～13:30	
コ ー ス	デモ実験見学 ----- 交流コーナー	9:00～11:55  13:30～16:25	各専門学科棟 ----- 第1体育館
移 動	11:55～12:00	16:25～16:30	
閉校式(アンケート回収)	12:00～12:10	16:30～16:40	第1体育館

※ 閉校式後、希望者には「学寮案内」を行う。

9 開校式・閉校式次第等

開校式 出席者 校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 事務部長, 入学者対策専門部会長, 入学者対策専門部会員

次第 開会のことば・・・進行者(学生課長)

校長挨拶・・・校長(5分)

日程等説明・・・入学者対策専門部会長(森川)(20分)※概要説明を含む。

閉式のことば・・・進行者(学生課長)

10 使用予定施設

各専門学科棟, 第1体育館, その他(磐陽会館等)

以上

(出典: 学生課資料)

平成 18 年度における入学者受入方針記載の刊行物配布状況

印刷物名	印刷部数	配 布 先	
中学生の皆さんへ	10,000部	福島・茨城・宮城県内の中学校	1,000部
		高校進学説明会等	4,100部
		中学校訪問等	1,000部
		体験入学（入試コーナー含む）	1,000部
		保護者・中学生対象説明会	500部
		入学者募集に関する説明会	150部
		学習塾	30部
		中学生の訪問	80部
		高専祭（入試コーナー）	200部
		その他中学生向け行事	70部
		教職員・その他	1,870部
体験入学のしおり	1,000部	一日体験入学・教職員等	1,000部
学校要覧		福島・茨城・宮城県内中学校	700部
		中学校訪問等	200部
		体験入学・高専祭(入試コーナー)	100部

(出典：学生課資料)

資料 4 - 1 - ① - 10

福島工業高等専門学校専攻科委員会規則

福島工業高等専門学校専攻科委員会規則

(平成 16 年 4 月 1 日)

(規則 第 2 号)

(最終改正 平成 19 年 3 月 28 日規則第 16 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 厚生補導に関すること。
- (3) 入学試験に関すること。
- (4) 進路に関すること。
- (5) その他専攻科に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 各専攻長
- (3) 教務主事補のうちから教務主事が指名する者 1 名
- (4) 学生主事補のうちから学生主事が指名する者 1 名
- (5) JABEE 委員会委員長
- (6) 各専攻の専門科目担当教員のうちから校長が指名した者各 2 名
- (7) 一般科目担当教員のうちから校長が指名した者 1 名
- (8) 学生課長、教務係長及び学生課長が指名する者

(委員長)

第 4 条 委員長は、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、校長があらかじめ指名した委員がその職務を代行するものとする。

(構成員以外の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第 6 条 委員長は、委員会での審議事項の結果を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(出典:福島工業高等専門学校規則集)



福島工業高等専門学校専攻科の入学受入方針及び各専攻の入学受入方針

○ 福島工業高等専門学校専攻科の入学受入方針

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人

○ 各専攻の入学受入方針

機械・電気システム工学専攻

- ① 機械・電気の専門的な基礎力を有し、創造的なモノづくりに興味を持っている人
- ② 技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

物質・環境システム工学専攻

- ① 研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
- ② 物質工学と建設環境工学の融合分野である環境工学・材料工学に強い関心を持っている人
- ③ 確かな倫理観を持ち、生産活動を通して工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

ビジネスコミュニケーション学専攻

- ① ビジネスの基礎的知識を有し、技術経営（MOT）の修得を目指す人
- ② ビジネスを実践的に応用し、地域社会に貢献し、国際的に活動したい人

（出典：教員会議配布資料）

専攻科入学者受入方針の周知取組状況

平成 17 年度（第 6 回） 専攻科会議議事要旨

日 時 平成 17 年 7 月 27 日（水） 18 時 10 分～ 18 時 25 分

場 所 大会議室

欠席者 校長（欠）、森川（欠）、佐東（欠）、鈴木（晴）（欠）、天野（体調不良）、渡部（順）（欠）、大隈、事務部長（欠）、庶務課長

【議事概要】

渡辺教務主事が議長を行った。

- (1) インターンシップ実施要領（案）について  
井上専攻長から、資料に基づき要領（案）について説明があり、了承された。
- (2) アドミッション・ポリシーについて  
井上専攻長から、資料に基づき各専攻のアドミッション・ポリシーについて説明があり、了解した。
- (3) その他  
特になし。

以上

（出典：専攻科会議会議録）

なお、教職員対象に実施した専攻科課程の入学受入方針の周知度調査の結果（資料 4-1-①-13～14）を見ると、「福島工業高等専門学校専攻科の入学受入方針」については教職員の 73%が「よく知っている」もしくは「だいたい知っている」と回答しており、「各専攻の入学受入方針」については教職員の 69%が「よく知っている」もしくは「だいたい知っている」と回答している。全体的には教員に比べて職員への周知度がやや低く、また、「福島工業高等専門学校専攻科の入学受入方針」に比べて「各専攻の入学受入方針」の周知度が低い傾向にある。ただし、専攻科担当教員に関してはいずれの場合もその 93%が「よく知っている」もしくは「だいたい知っている」と回答しており、専攻科担当教員には概ね周知されている。これらの結果を踏まえ、今後は、特に周知度の低い教職員に対してより一層の周知徹底を図っていく必要がある。

また、将来の学生を含めた社会に対しては、「専攻科学生募集要項」等刊行物の配布及び本校ホームページへの「専攻科学生募集要項」の掲載により、公表及び周知を図っている。さらに、これに加えて本校準学士課程の 2 年生以上の学生全員を対象とした専攻科説明会も実施している（資料 4-1-①-15）。

資料 4-1-①-13

教職員対象の専攻科入学受入方針の周知度調査

ここからは専攻科課程の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）についてお聞きます。全員お答えください。

質問 5 福島工業高等専門学校専攻科の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）の内容を知っていますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(6)

1: よく知っている

2: だいたい知っている

3: あまり知らない

4: 全く知らない

質問 6 各専攻（機械・電気システム工学専攻、物質・環境システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻）の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）の内容を知っていますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(7)

1: よく知っている

2: だいたい知っている

3: あまり知らない

4: 全く知らない

（出典：認証評価委員会資料）

資料 4 - 1 - ① - 14

教職員対象の専攻科入学者受入方針の周知度調査結果

「福島工業高等専門学校専攻科の入学者受入方針」について

	よく 知っている	だいたい 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	無回答
教員 (78 人)	23 人 (29%)	41 人 (52%)	11 人 (14%)	1 人 (1%)	3 人 (4%)
専攻科担当 (43 人)	18 人 (42%)	22 人 (51%)	2 人 (5%)	0 人 (0%)	1 人 (2%)
職員 (45 人)	3 人 (7%)	23 人 (51%)	14 人 (31%)	5 人 (11%)	0 人 (0%)
計 (123 人)	26 人 (21%)	64 人 (52%)	25 人 (20%)	6 人 (5%)	3 人 (2%)

「各専攻の入学者受入方針」について

	よく 知っている	だいたい 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	無回答
教員 (78 人)	16 人 (20%)	44 人 (56%)	15 人 (19%)	1 人 (1%)	3 人 (4%)
専攻科担当 (43 人)	11 人 (26%)	29 人 (67%)	2 人 (5%)	0 人 (0%)	1 人 (2%)
職員 (45 人)	2 人 (4%)	23 人 (51%)	18 人 (40%)	2 人 (4%)	0 人 (0%)
計 (123 人)	18 人 (15%)	67 人 (54%)	33 人 (27%)	3 人 (2%)	3 人 (2%)

(出典：認証評価委員会資料)

専攻科説明会プレゼンテーション資料



専攻科のアドミッションポリシー

- 1) 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人
- 2) 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人
- 3) 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人

機械・電気システム工学専攻

- ① 機械・電気の専門的な基礎力を有し、創造的なモノづくりに興味を持っている人
- ② 技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人

7

物質・環境システム工学専攻

- ① 研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
- ② 物質工学と建設環境工学の融合分野である環境工学・材料工学に強い関心を持っている人
- ③ 確かな倫理観を持ち、生産活動を通して工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

ビジネスコミュニケーション学専攻

- ① ビジネスの基礎的知識を有し、技術経営(MOT)の修得を目指す人
- ② ビジネスを実践的に応用し、地域社会に貢献し、国際的に活動したい人

8

(出典：専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程（編入学生を含む）では入学試験委員会により、専攻科課程では専攻科委員会により、本校の「教育理念」、「学習・教育目標」及び「養成する人材像」に沿って「福島工業高等専門学校及び各学科の入学受入方針」、「福島工業高等専門学校専攻科及び各専攻の入学受入方針」が明確に定められている。本校の構成員に対しては、教員会議や専攻科会議での説明や刊行物の配布、本校ホームページへの掲載等により周知を図っており、教職員対象に行った入学受入方針の周知度調査の結果でも高い周知度が得られている。また、将来の学生を含め社会に対しては、刊行物の配布、本校ホームページへの掲載及び各種説明会により公表し周知されている。

以上の理由により、教育の目的に沿って入学受入方針が明確に定められ、学校の教職員に周知されており、また、将来の学生を含め社会に公表されている。

**観点 4-2-①： 入学受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学選抜が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程の入学選抜に関しては、入学試験委員会において「福島工業高等専門学校の入学受入方針」、「学科別入学受入方針」等に沿った選抜方法が検討され、平成17年度実施の入学試験（平成18年度入学選抜）から導入・実施されている。準学士課程の入学選抜は「推薦による選抜」と「学力検査による選抜」の2つの方法により実施されている（資料4-2-①-1～4）。

「推薦による選抜」における出願資格は、入学受入方針の「2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人」に対応して、「中学校1年次、2年次、3年次1学期及び2学期における国語、社会、数学、理科、英語の5教科の評定の合計が84以上で且つ音楽、美術、保健体育、技術家庭の4教科の評定の合計が60以上であること」としている。また、入学受入方針の「1. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人」に合致する受検生を選抜するために、調査書に「モノづくりに関する顕著な成果」の記入欄を設け、それを積極的に評価することとしている。さらに、推薦選抜では、面接での質問事項をその入学受入方針に沿って学科毎に作成し、面接結果は点数化して選抜に利用している。なお、推薦選抜の面接の実施にあたっては、入学試験委員及び質問作成担当教員、面接担当教員が参加する模擬面接を行い、評価について教員間の意思統一を図っている。

一方、中学校から提出された調査書は、中学校1年次から3年次までの9教科の評定を合計し、それを内申点として活用している。このうち、国語、社会、数学、理科、英語の5教科については、評定を2倍にして計算している。入学選抜に当たっては、面接点と調査書の内申点を合計し、合計点の上位の者から順に選抜することとしている。

「学力検査による選抜」は、全国統一の試験問題による学力検査の成績と出身中学校長から提出された調査書の内容を総合して行っている。学力検査では、入学受入方針の「2. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人」、及び本校の特色である工学系学科とビジネス系学科によるシナジー教育を踏まえて、理科、英語、数学、国語、社会の5科目全てを受検科目とし、傾斜配点が行っていない。さらに、1科目でも基準点（算出には平均点と分散を用いている）を下回る科目がある場合には選抜しないこととしている。選抜に当たっては、学力検査の点数と調査書の内申点（推薦選抜と同様の計算方法）を合計し、学科ごと合計点の上位の者から順に選抜することとしている。

なお、準学士課程の入学者選抜は、「推薦による選抜」、「学力検査による選抜」のいずれについても、入学試験委員会で選抜基準に基づいた原案を作成し、全教員参加の入学者選抜会議（教員会議）の結果を基に校長が決定している。

一方、高等学校を卒業もしくは卒業見込みの生徒を対象とした準学士課程への編入学選抜は、これまで専門教育を主とする学科出身の高校生を対象とした「特別編入学」と高等学校での所属学科を問わない「一般編入学」の2つを実施していたが、平成20年度編入学試験から「推薦による選抜」と「学力検査による選抜」との2つの選抜方法に変更した（資料4-2-①-5～7）。

「推薦による選抜」では、準学士課程4・5年次での勉学に支障のない学力を有する学生を選抜するために、出願資格を「各教科の評定平均が4.5以上であり、かつ学科（クラス）内席次が上位10%以内である者」とした。さらに面接（専門科目に関する口頭試問を含む）を課し、専門分野に関する基礎学力に加えて目的意識・学習意欲を十分に備えた人物を選抜することになっている。一方、「学力検査による選抜」では学力検査を課し、合格基準点（3科目合計150点、各科目35点）に満たない者は選抜しないこととしている。さらに面接を実施し、志願者の人物と各専門学科への適性を評価している。以上のように、準学士課程への編入学選抜においても本校の入学受入方針に合致した学生の選抜に努めている。

編入学選抜においては、「推薦による選抜」の場合は面接（専門科目に関する口頭試問を含む）の点数、入学願書の記載内容、在籍学校長から提出された推薦書及び調査書の内容等を総合して、また、「学力による選抜」の場合は学力検査の成績、調査書の内容等及び面接の結果を総合して、入学試験委員会が選抜基準に基づいた原案を作成し、全教員参加の編入学選抜会議（教員会議）の結果をもとに校長が決定している。

## 平成19年度入学者募集要項

## 平成19年度入学者募集要項

## ◎ 募 集 人 員

学 科	入学定員	推薦入学の募集人員は、 各学科とも入学定員の 30%程度とします。
機 械 工 学 科	40人	
電 気 工 学 科	40人	
物 質 工 学 科	40人	
建 設 環 境 工 学 科	40人	
コミュニケーション情報学科	40人	
計	200人	

## ◎ 入 学 者 選 抜

入学者の選抜は、「推薦による選抜」と「学力検査による選抜」の二つの方法で行います。

## 推薦による入学者の選抜

## 1 出願資格

出願することができる者は、平成19年3月に中学校を卒業見込みの者又は中等教育学校の前期課程を修了見込みの者で、次の各号のすべてに該当し、在籍学校長が責任をもって推薦する者とします。

- (1) 本校への入学意思が確実で、人物が優れ心身ともに健全であること。
- (2) 当該学科を志望する動機、理由が明確でかつ適切であること。
- (3) 当該学科に対して、適性、興味及び関心を有すること。
- (4) 第1学年、第2学年、第3学年1学期及び第3学年2学期の必修5教科(国語、社会、数学、理科、外国語、以下「必修5教科」という。)の5段階評定の合計が84以上でかつ他の4教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭、以下「他の4教科」という。)の5段階評定の合計が60以上であること。(2学期制の場合は第3学年前期の評定を2倍して計算する。)

## 4 選抜方法

推薦による入学者の選抜は、在籍学校長から提出された推薦書及び調査書の内容と面接(志望学科の専門に関連した基礎的な質問を含む。)の結果を総合して行います。

なお、「モノづくり」での顕著な成果に関しては、積極的に評価します。



## 学力検査による入学者の選抜

### 1 出願資格

出願することができる者は、次の各号の一に該当する者としてします。

- (1) 中学校を卒業した者又は平成19年3月卒業見込みの者。
- (2) 中等教育学校の前期課程を修了した者又は平成19年3月修了見込みの者。
- (3) 中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。  
(学校教育法施行規則第63条)

### 4 選抜方法

学力検査による選抜は、学力検査の成績、出身(在籍)学校長から提出された調査書の内容の結果を総合して行います。

#### ○ 学力検査

##### ① 学力検査科目

国語・社会・数学・理科・英語の5教科とします。

##### ② 学力検査の日時

期 日	検査科目名	時 間
2月18日(日)	理 科	9時30分 ~ 10時20分
	英 語	10時40分 ~ 11時30分
	数 学	11時50分 ~ 12時40分
	国 語	13時30分 ~ 14時20分
	社 会	14時40分 ~ 15時30分

(出典：平成19年度入学者募集要項)

資料 4 - 2 - ① - 2

平成 19 年度入学者選抜方法等について  
(入学者募集に関する説明会配布資料及び学校ホームページ掲載)

## 平成 19 年度入学者選抜方法等について

福島工業高等専門学校

平成 19 年度の入学者選抜方法等は、本校のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に沿って、次により行います。

### 1 推薦による選抜

#### (1) 選抜の方法

選抜は推薦書，調査書の内容及び面接（志望学科の専門に関連した基礎的な質問を含む）の結果を総合して行います。

#### (2) 調査書の活用方法

- ① 評定（選択教科は含まない）は，点数化して活用します。
- ② 評定においては，国語・社会・数学・理科・外国語を重視します。
- ③ 調査書の評価点数は 280 点で満点とします。
- ④ その他の項目も判定に活用し，特別活動の記録，特技・資格等の記録及びモノづくりに関する記録を重視します。

#### (3) 面接の評価方法

面接の結果は，点数化して評価します。

### 2 学力検査による選抜

#### (1) 選抜の方法

選抜は学力検査の成績及び調査書の内容を総合して行います。

#### (2) 調査書の活用方法

- ① 評定（選択教科は含まない）は，点数化して活用します。
- ② 評定においては，国語・社会・数学・理科・外国語を重視します。
- ③ 調査書の評価点数は 280 点で満点とします。
- ④ その他の項目も，判定に活用します。

#### (3) 学力検査の採点

各教科とも 100 点満点で，合計 500 点を満点として採点します。

(出典：入学試験委員会資料)

資料 4-2-①-3

平成 19 年度入学者選抜要項（面接要項等含む）  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：入学試験委員会資料）

資料 4-2-①-4

入学試験（面接含む）問題  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：学生課資料）

資料 4-2-①-5

平成20年度編入学者募集要項

## 平成 20 年度編入学者募集要項

### ◎ 本校の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

福島高专では、次のような人の入学を期待しています。

- ①創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人
- ②基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人
- ③自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人
- ④あらゆる物事に興味を持ち、深く探求する人
- ⑤しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人

### ◎ 各学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

各学科では、次のような人の入学を期待しています。

#### 機 械 工 学 科

- ①ロボットや自動車などの機械のモノづくりに強い興味を持っている人
- ②機械の仕組みや関連する技術について深く勉強したい人
- ③人のために役立つ環境に優しい技術に関心のある人

#### 電 気 工 学 科

- ①電気・電子に関する実験や製作に協調性をもって取り組める人
- ②創意工夫して電子回路やコンピュータプログラムを作り、動かしてみたい人
- ③電力、通信、IT など社会基盤を作る技術者になりたい人

#### 物 質 工 学 科

- ①物質を分子・原子レベルで自在に操る技術者になりたい人
- ②新素材やバイオテクノロジーに強い興味を持っている人
- ③化学の知識・技術を応用して環境問題解決に貢献したい人

#### 建 設 環 境 工 学 科

- ①道路・橋・港・ライフライン等の建設技術に興味を持っている人
- ②自然環境と調和したまちづくりを大切にしていきたいと考えている人
- ③建設技術を通じて地域社会の発展に貢献したい人

#### コミュニケーション情報学科

- ①社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
- ②外国語能力を高めて、国際的に活躍したい人
- ③情報技術を身につけて、産業社会に貢献したい人

◎ 募集人員及び編入学年次

学 科	募 集 区 分	募 集 人 員	編 入 学 年 次
機 械 工 学 科	推薦による編入学	各 若 干 名	第 4 学 年
	学力による編入学		
電 気 工 学 科	推薦による編入学		
	学力による編入学		
物 質 工 学 科	推薦による編入学		
	学力による編入学		
建 設 環 境 工 学 科	推薦による編入学		
	学力による編入学		
コミュニケーション 情 報 学 科	推薦による編入学		
	学力による編入学		

### 推薦による編入学

1 出願資格

次の①②に該当し、在籍高等学校長が人物・学力ともに優秀であると認めて推薦する者で、合格後、入学を確約できる者としてします。ただし、志望学科に対する高等学校の所属学科は下の表のとおりとします。

- ①高等学校又は中等教育学校の専門教育を主とする学科を平成 20 年 3 月卒業見込みの者。
- ②各教科の評定平均が 4.5 以上であり、かつ学科（クラス）内席次が上位 10 %以内である者。

志 望 学 科	高 等 学 校 の 所 属 学 科
機 械 工 学 科	機械科，電子機械科，機械システム科及びこれに準ずる学科
電 気 工 学 科	電気科，電子科，情報技術科，情報電子科及びこれに準ずる学科
物 質 工 学 科	工業化学科，化学工学科，生物工学科及びこれに準ずる学科
建 設 環 境 工 学 科	土木科，建築科，環境土木科，都市工学科及びこれに準ずる学科
コミュニケーション 情 報 学 科	国際経済科，流通ビジネス科，OA会計科，情報システム科，情報技術科，英語科及びこれに準ずる学科

5 選抜の方法

入学者の選抜は、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）、「推薦による編入学願書」の記載内容、在籍学校長から提出された推薦書及び調査書の内容等を総合して行います。

### 学力による編入学

1 出願資格

次のいずれかに該当する者とし、志望学科に対する高等学校の所属学科は問いません。

- ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者又は平成 20 年 3 月卒業見込みの者
- ②高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- ③外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者

3 検査の内容、時間及び出題範囲等

(1) 検査等の内容及び時間

志望学科	検査等の時間			
	9:00~10:30 (90分)	10:50~12:20 (90分)	13:10~14:40 (90分)	15:00~17:00 (1人約10分)
	一般科目		専門科目	
機械工学科 電気工学科 物質工学科 建設環境工学科	英語 (100点)	数学 (100点)	各学科の指定する 専門科目の中から 1科目を選び受検 (100点)	
	一般科目		専門科目	
コミュニケーション 情報学科	英語 (100点)	専門科目の中から 1科目を選び 受検すること (100点)	小論文 (100点)	

面接

(2) 学力検査科目及び小論文の出題範囲等

一般科目

志望学科	科目名等及び出題範囲		
機械工学科	英語	英語 I	全範囲
電気工学科	数学	数学 I	全範囲
物質工学科		数学 A	全範囲
建設環境工学科		数学 II	全範囲
		数学 B	数列, ベクトル
コミュニケーション 情報学科	英語	英語 I	全範囲

専門科目 (選択)

志望学科	科目名等及び出題範囲		
機械工学科	機械設計及び 機械工作	①機械と機構 ③機械の仕事と動力 ⑤ねじ ⑦切削理論	②機械に働く力と運動 ④材料の強さ ⑥軸とその部品 ⑧炭素鋼
	物理 I	全範囲	
電気工学科	電気理論	①直流回路 ③電磁誘導 ⑤交流回路	②電流と磁気 ④静電気
	物理 I	全範囲	
物質工学科	工業化学	①物質の構成と化学式 ③酸・塩基・塩 ⑤酸化還元 ⑥金属および非金属元素とその化合物 ⑦有機化合物	②物質の三態 ④化学反応
	化学 I	全範囲	
建設環境工学科	土木設計	①材料の強さ ③静定ばり ⑤柱	②力のつりあい ④部材断面の性質 ⑥トラス
	物理 I	全範囲	
	化学 I	全範囲	
コミュニケーション 情報学科	簿記	全経簿記3級または全商簿記3級程度	
	情報	初級システムアドミニストレータ入門程度 ①ハードウェア ②ソフトウェア ③表計算とデータベース ④ネットワーク ⑤システム環境整備と運用管理	
	実用英語	実用英語検定準2級から2級程度(筆記のみ)	
	数学	数学 I	全範囲
数学 A		数と式, 数列	
数学 II		微分法, 積分法	

小論文

志望学科	科目名等及び出題範囲	
コミュニケーション 情報学科	小論文	社会系科目に関連したテーマ ①設問への解答 ②小論文(1,200字以上1,600字以内)

4 選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査または学力検査・小論文の成績、出身(在籍)学校長から提出された調査書の内容等及び面接の結果を総合して行います。

(出典：平成20年度編入学者募集要項)

資料 4-2-①-6

平成 20 年度編入学者選抜要項（面接要項等含む）  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：入学試験委員会資料）

資料 4-2-①-7

編入学試験（面接含む）問題  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：学生課資料）

専攻科課程の入学選抜は、本校準学士課程の卒業生、他高専及び短大の卒業生、社会人等を対象に実施している。各専攻の入学定員は、機械・電気システム工学専攻と物質・環境システム工学専攻がそれぞれ 8 人、ビジネスコミュニケーション学専攻が 4 人となっている。入学選抜には「高等専門学校長の推薦による選抜」、「学力試験による選抜」及び「社会人特別選抜」の 3 つがある（資料 4-2-①-8～10）。

「高等専門学校長の推薦による選抜」では、高等専門学校長の推薦を得た者を対象とし、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）の点数と学校長からの推薦書及び調査書の内容（準学士課程 4 年次の席次と内申点の平均点）を総合判定して選抜している。「学力試験による選抜」では、高等専門学校を卒業（見込み）の者及び短大卒業（見込み）の者及び専修学校卒業（見込み）の者を対象とし、工学系 2 専攻では英語（90 分）、数学（90 分）、専門科目（120 分）の試験及び面接を、ビジネスコミュニケーション学専攻では英語（90 分）、小論文（90 分）、専門科目（120 分）の学力試験及び面接を実施している。なお、TOEIC において 400 点以上の点数を有する者については、英語の試験を免除している。入学選抜は、学力試験、調査書及び面接の内容を総合判定して行っている。

「社会人特別選抜」では、企業の在籍期間が 1 年以上ある者を対象とし、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）と所属長から提出された推薦書及び調査書の内容を総合判定して選抜している。

以上のように、専攻科においては全ての選抜で面接を実施し、志願者の人物を評価するとともに、口頭試問により各専攻への適性を評価し、入学受入方針に合った学生の選抜を行っている。なお、専攻科課程の入学選抜の実施に関する審議は、専攻科委員会及び専攻科会議で行い、入学選抜は専攻科委員会及び専攻科会議の議を経て校長が決定している。

平成 20 年度専攻科学生募集要項

**平成 20 年度 専攻科学生募集要項****I 募集人員**

機械・電気システム工学専攻	8名
物質・環境システム工学専攻	8名
ビジネスコミュニケーション学専攻	4名
計	20名

**II 選抜方法**

入学者の選抜は、「高等専門学校長の推薦による選抜」、「学力試験による選抜」及び「社会人特別選抜」とし、次のとおり実施します。

選 抜 区 分	選 抜 試 験 日
高等専門学校長の推薦による選抜	平成 19 年 5 月 25 日(金)
学 力 試 験 に よ る 選 抜	平成 19 年 6 月 22 日(金)
社 会 人 特 別 選 抜	平成 19 年 12 月 14 日(金)

**III 入学者受入方針**

入学者受入方針(アドミッションポリシー)は、下記の条件に該当し、本校の学習・教育目標(P13参照)を達成できる能力を持った人を入学させることである。

- (1) 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人
- (2) 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人
- (3) 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人

**IV 高等専門学校長の推薦による選抜****1. 出願資格**

次の各号のいずれにも該当し、高等専門学校長の推薦を得た者

- (1) 平成 20 年 3 月に高等専門学校卒業見込の者
- (2) 本校に合格した場合、確実に入学する意思がある者
- (3) 4 学年次全科目の評価を下記の「内申点換算基準」により換算した内申点の平均点が  
4. 2 以上の者又は 4 学年次の席次が学科内順位 50%以内の者

優 …… 5            良 …… 4            可 …… 3

**3. 選抜の方法**

入学者の選抜は、面接(専門科目に関する口頭試問を含む。), 学校長から提出された推薦書及び調査書の内容等を総合判定して行います。

## V 学力試験による選抜

### 1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者又は平成 20 年 3 月に卒業見込の者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成 20 年 3 月に卒業見込の者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第 82 条の 10 の規定により大学に編入することができる者
- (4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(7) その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

### 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験，出身学校長から提出された調査書及び面接の内容等を総合判定して行います。

(1) 学力検査・面接等の日時及び場所 平成19年 6月22日(金)

科目等	時間	場所
英語	9:00 ~ 10:30	福島工業高等専門学校 (いわき市平上荒川字長尾30)
数学又は小論文	10:40 ~ 12:10	
専門科目	13:00 ~ 15:00	
面接	15:10 ~	



(2) 学力試験科目及び出題範囲

専攻名	科目	出題範囲	備考
機械・電気 システム工学	英語	英語一般	※ 注
	数 学	基礎数学，線形代数，微分積分 応用数学（①確率・統計，②ベクトル解析，③複素関数，3科目のうちから1科目選択）	必 修
	専門科目	①工業力学，②材料力学，③熱力学，④水力学，⑤電気磁気学，⑥電気回路，⑦電子回路，⑧情報工学	左欄の 8 科目のうち 2 科目選択
物質・環境 システム工学	英語	英語一般	※ 注
	数 学	基礎数学，線形代数，微分積分 応用数学（①確率・統計，②ベクトル解析，③複素関数，3科目のうちから1科目選択）	必 修
	専門科目	①分析化学，②物理化学，③無機化学，④有機化学，⑤構造力学，⑥地盤工学，⑦水理学，⑧環境工学，⑨土木計画学	左欄の 9 科目のうち 2 科目選択
ビジネスコミュニケーション学	英語	英語一般	※ 注
	小論文	社会系科目に関するテーマ ①設問への解答，②小論文（1200字程度）	必 修
	専門科目	①経営学，②経済学，③基礎会計学（全経簿記2級程度），④数学（微分積分Ⅰ，線形代数，確率・統計）	左欄の 4 科目のうち 1 科目選択

※注 英語：TOEIC400点以上を有する者は英語の学力試験を免除することが出来ます。

その際の得点は 80 点になります。ただし、学力選抜試験日を基準に、2年以内に取得したスコアとする。免除を申請する場合は、別紙「TOEIC スコアによる専攻科学力選抜試験の一部免除申請書」を提出してください。

## VI 社会人特別選抜

### 1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、かつ出願時において企業等の在職期間が1年以上ある者

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第 82 条の 10 の規定により大学に編入することができる者
- (4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

### 3. 選抜の方法

入学者の選抜は、面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）、所属長から提出された推薦書及び調査書の内容等を総合判定して行います。

（出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項）

資料 4-2-①-9

平成 20 年度専攻科入学者選抜要項（面接要項等含む）  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：専攻科委員会資料）

資料 4-2-①-10

専攻科課程入学試験（面接含む）問題  
（訪問調査閲覧資料）

（出典：学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の入学者選抜（編入学を含む）に関する業務は入学試験委員会が、専攻科課程の入学者選抜の実施に関する業務は専攻科委員会が、それぞれ選抜要項にしたがって行っており、入学者受入方針に沿って適切に入学者選抜を実施する体制が整えられている。準学士課程と専攻科課程のいずれにおいても、入学者受入方針に沿った適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

**観点 4-2-②：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における入学者選抜の検証と改善は、入学試験委員会で行っている。入学試験委員会の下部組織である入学者選抜方法等研究専門部会が入学者に関するデータ分析と入学者選抜方法に関する研究を行い、その結果を基に入学者選抜に関する改善案を入学試験委員会に提案し、入学試験委員会がその改善案の審議を行っている（資料 4-1-①-1）。

本校においては、入学者の追跡調査を行うために、平成 12 年度入学生から入学試験に関するデータと入学後の学業成績に関するデータとの統合及びデータベース化を行っており、入学者の追跡調査が継続的に行える体制が整えられている。このデータベースを利用した分析結果（例えば「現行の推薦選抜方法の有効性」、「学力検査の科目別点数と入学後の成績の相関」、「内申点及び学力検査の点数と入学後の成績の相関」、「第 1 志望合格者及び第 2 志望合格者の入学後の成績」）は、その後入学者選抜方法等の改善に活用されている。なお、「学力検査の科目別点数と入学後の成績の相関」の結果、学力検査における特定の科目の点数と入学後の成績に明確な相関が見られなかったため、本校では学力検査において傾斜配点を採用していない。

また、平成 12 年度入学生から継続的に、学科別・入学形態（「推薦による選抜」、「学力検査による選抜」）別に入学後の学業成績の分析を行い、実際に入学した学生が入学者受入方針に合致しているかの確認を行っている。さらに、入学者受入方針に沿って新たに導入された選抜方法についての検証のため、「平成 18 年度から導入された新しい推薦選抜方法（面接結果の点数化）に関する検証」を行った。さらに、「学力選抜における学科間の比較」や「入学後不適応者（原級留置者・退学

者)に関する分析」も行って、今後の入学者選抜における改善点の抽出に努めている(資料4-2-②-1~3)。

一方、高等学校からの編入学生についても、平成10年度編入学生から、編入学試験における成績と編入学後の学業成績に関するデータベースが構築されており、その後の編入学選抜方法の検討・改善に役立てられている。

資料4-2-②-1

準学士課程における入学試験と入学後の学業成績に関する分析結果  
(訪問調査閲覧資料)

(出典：入学試験委員会資料)

資料4-2-②-2

準学士課程における入学者選抜の改善についての検討  
(訪問調査閲覧資料)

(出典：入学者選抜方法等研究専門部会議事録)

資料4-2-②-3

準学士課程における入学者選抜に関する改善例  
(訪問調査閲覧資料)

(出典：入学者選抜方法等研究専門部会資料)

専攻科課程の入学者選抜の検証と改善は、専攻科委員会及び専攻科会議において行っている(資料4-1-①-8)。入学者受入方針に沿った形としては初めての実施となった平成18年度専攻科入学者選抜では、出願書類に志望調査書を追加するとともに、学力試験科目及び出題範囲の見直しを行った。平成19年度入学者選抜からは、各専攻の入学者受入方針に沿った入学者選抜を実施している。また、「高等専門学校長の推薦による選抜」においては、「面接(専門科目に関する口頭試問を含む)」の結果を点数化し、選抜基準を明確化した。このようにして平成18年度専攻科入学者選抜の検証結果を入学者選抜の改善に有効に反映させている(資料4-2-②-4)。

専攻科課程における入学者選抜の改善検討

## 平成 18 年度 第 2 回専攻科委員会会議録

日 時 平成 18 年 4 月 11 日 (月) 13:30～15:30  
 場 所 大会議室  
 出席者 専攻科委員長：佐東信司  
 委 員：渡辺博・大槻正伸・青柳克弘・田代 均  
 松尾忠利・山本敏和・鴨下祐也・原田正光・井川治  
 渡部順一・専門員・専門職員  
 欠席者 秋山秀博・学生課長・教務係長

配布資料

2006-2-1 平成 19 年度専攻科学生選抜要項 (案)

議 題

- 1 平成 19 年度専攻科学生選抜要項
  - 大槻専攻長から資料に基づき次の説明があった。
  - ① 高等専門学校長の推薦による選抜基準の修正
    - ア 面接試験の結果を社会人特別選抜と同様に点数化 (5 段階評価) した。
    - イ これに伴い、選抜基準に面接評価平均点が 3.5 未満の者は選抜の対象外とすることを追加した。
    - ② 「面接」を「面接試験」に修正した。
    - ③ その他分かり易い文章に修正した。
  - 引き続き審議に移り、種々議論の結果次のような結論とした。
  - ① 高等専門学校長の推薦による選抜関係
    - ア 「3 選抜基準の (1)」は、提案どおり了承された。(面接評価平均点が 3.5 未満の者は選抜の対象外とすること。)
    - イ これに伴い、「3 選抜基準の (3)」の「面接の結果」の文言は総合的審査項目から削除することとした。
    - ウ 「2 選抜資料の (3)」は次のように修正することとした。
    - (3) 面接評価平均点を記載する。面接評価平均点とは、面接者全員の各質問項目の 5 段階評価を合計し、面接者数と質問項目数をかけた値 (面接者数×質問項目数) で、その合計を割り、小数点第 2 位で四捨五入した値とする。
    - エ 面接試験の「評価と記録」については、社会人特別選抜の面接試験の「評価と記録」と同じ内容に修正する。

(出典：専攻科委員会会議録)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では、入学者選抜方法等研究専門部会において行っているデータベースを利用した分析結果を基に入学試験委員会で入学者選抜の継続的な改善を進めている。また、専攻科課程では、専攻科委員会及び専攻科会議において入学者選抜の改善と検証を継続的に行っている。準学士課程と専攻科課程のいずれにおいても、入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の入学者対策活動は、入学試験委員会の下部組織である入学者対策専門部会を中心に行っている(資料 4-1-①-1)。中学卒業生人口の減少により、準学士課程の志願者は平成16年度入学生までは減少傾向であったものの、本校ではこれまで毎年度入学定員の1.6倍以上の志願者を集めていた。平成16年度からは従来実施してきた中学校訪問や体験入学の充実に加えて、中学生や保護者に対しての学校説明会の実施や学習塾訪問、広報資料の充実と増刷配布等の活動を通じて、志願者確保に努めてきた(資料 4-3-①-1)。その結果、平成17年度入学生から志願者数の減少に歯止めがかかり、平成19年度の入学志願者の倍率は1.7倍を維持している(資料 4-3-①-2)。

準学士課程の実入学者数に関しては、入学後の教育効果を考慮して入学定員を大きく上回ることがないように入学者選抜で配慮している。したがって、これまでの実入学者数は入学定員の 1.05 倍以内で推移しており、入学定員と比較しても適正な数となっている。さらに、平成 19 年度入学者選抜の学力検査による選抜からは、これまでの学力点と内申点の合計点を基にした 5 点刻みのグループ分けや同一グループ内の同一条件選抜の方法を改め、合計点の上位のものから選抜する方法に採用した。これによりボーダーラインでの選抜が明確になり、これまで以上に入学定員と実入学者数との関係の適正化が可能となった。

なお、本校では合格発表後の入学辞退者が過去 7 年間で 5 人と非常に少なく、合格者のほぼ全員が入学する状況が続いており、過去に実入学者数が入学定員を下回ったことはなく、補欠合格の措置は採られていない。このことは、各中学校や中学生に対して本校の入学者受入方針の説明が十分なされており、理解されている結果といえる。

資料 4-3-①-1

入学者対策活動

年 度		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
体験入学参加数	生徒	669	609	514	525	438	618	570
	保護者	195	171	148	175	173	220	211
	合計	864	780	662	700	611	838	781
	中学校数	117	105	94	106	101		115
	(うち他県)	30	29	20	-	9		7
中学校訪問回数	県内中学校	164	167	168	191	201	199	173
	他県中学校	13	13	13	7	17	23	23
	合計	177	180	181	198	218	222	196
中学生及び保護者を対象とした学校説明会						55	68	458
入学者募集説明会出席者数		113	83	83	116	109	106	110
高等学校進学説明会出席回数		16	12	12	20	20	18	25
中学生の本校訪問数		98	10	24	58	22	21	74
郡山地区の学習塾訪問回数							9	9

(出典：学生課資料)

資料4-3-①-2

進学士課程入学者状況

年度	入学形態	機械工学科				電気工学科				物質工学科			
		志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数
平成13年度	推薦	15	1.9	8	8	16	2.0	8	8	24	3.0	10	10
	学力	92	2.9	34	34	74	2.3	33	33	67	2.2	32	32
	全体	100	2.5	42	42	82	2.0	41	41	77	1.9	42	42
平成14年度	推薦	8	0.7	8	8	25	2.1	12	12	31	2.6	12	12
	学力	62	1.9	34	33	93	3.3	30	30	81	2.9	29	29
	全体	70	1.8	42	41	105	2.6	42	42	93	2.3	41	41
平成15年度	推薦	14	1.2	12	12	29	2.4	12	12	34	2.8	12	12
	学力	72	2.6	30	29	56	2.0	30	30	73	2.6	30	30
	全体	84	2.1	42	41	68	1.7	42	42	85	2.1	42	42
平成16年度	推薦	14	1.2	12	12	29	2.4	12	12	29	2.4	12	12
	学力	43	1.5	30	30	69	2.5	31	31	64	2.3	30	30
	全体	55	1.4	42	42	81	2.0	43	43	76	1.9	42	42
平成17年度	推薦	31	2.6	12	12	50	4.2	12	12	55	4.6	12	12
	学力	59	2.1	29	29	88	3.1	30	30	69	2.5	31	31
	全体	71	1.8	41	41	100	2.5	42	42	81	2.0	43	43
平成18年度	推薦	30	2.5	13	13	26	2.2	12	12	46	3.8	12	12
	学力	69	2.6	29	29	62	2.2	30	30	72	2.6	30	30
	全体	82	2.1	42	42	74	1.9	42	42	84	2.1	42	42
平成19年度	推薦	27	2.3	12	12	43	3.6	12	12	49	4.1	12	12
	学力	46	1.6	30	30	71	2.5	30	30	68	2.4	30	30
	全体	58	1.5	42	42	83	2.1	42	42	80	2.0	42	42

年度	入学形態	建設環境工学科				コミュニケーション情報学科				計				入学定員
		志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	
平成13年度	推薦	18	2.3	9	9	38	4.8	10	10	111	2.8	45	45	40
	学力	74	2.4	33	32	61	2.0	32	32	368	2.4	164	163	160
	全体	83	2.0	42	41	71	1.8	42	42	413	2.0	209	208	200
平成14年度	推薦	13	1.1	12	12	37	3.1	12	12	114	1.9	56	56	60
	学力	39	1.4	28	28	56	2.0	32	32	331	2.3	153	152	140
	全体	51	1.3	40	40	68	1.7	44	44	387	1.9	209	208	200
平成15年度	推薦	18	1.5	12	12	31	2.6	12	12	126	2.1	60	60	60
	学力	45	1.6	28	28	44	1.6	29	29	290	2.1	147	146	140
	全体	57	1.4	40	40	56	1.4	41	41	350	1.7	207	206	200
平成16年度	推薦	14	1.2	12	12	32	2.7	12	12	118	2.0	60	60	60
	学力	37	1.3	29	29	58	2.1	30	30	271	1.9	150	150	140
	全体	49	1.2	41	41	70	1.8	42	42	331	1.6	210	210	200
平成17年度	推薦	29	2.4	12	12	31	2.6	12	12	196	3.3	60	60	60
	学力	58	2.1	30	28	39	1.4	29	28	313	2.2	149	146	140
	全体	70	1.8	42	40	51	1.3	41	40	373	1.8	209	206	200
平成18年度	推薦	17	1.4	12	12	29	2.4	12	12	148	2.5	61	61	60
	学力	38	1.4	30	30	50	1.8	30	29	291	2.1	149	148	140
	全体	50	1.3	42	42	62	1.6	42	41	352	1.7	210	209	200
平成19年度	推薦	24	2.0	12	12	40	3.3	12	12	183	3.1	60	60	60
	学力	46	1.6	30	30	58	2.1	30	30	289	2.1	150	150	140
	全体	58	1.5	42	42	70	1.8	42	42	349	1.7	210	210	200

(出典：学生課資料)

また、準学士課程への編入学選抜による実入学者数の過去7年間における平均は、4人程度となっている。この数は、5学科の定員200人の2%程度に相当し、編入学者の受入数としては適切な数であると考えられる（資料4-3-①-3）。

資料4-3-①-3

準学士課程編入学者状況

学 科	機械工学科			電気工学科			物質工学科			建設環境工学科			コミュニケーション情報学科			計			備 考
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	
平成13年度	1	1	1	1	1	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	4	4	4	
平成14年度	1	0	0	2	1	1	3	2	2	2	1	1	0	0	0	8	4	4	
平成15年度	8	2	2	3	2	2	1	0	0	2	2	2	0	0	0	14	6	6	物質1名は一般編入学
平成16年度	2	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	6	2	2	電気1名は一般編入学
平成17年度	3	2	2	3	1	1	1	0	0	3	2	2	2	2	2	12	7	7	コミ1名は一般編入学
平成18年度	1	1	1	7	3	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	9	5	4	
平成19年度	5	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	8	4	4	

(出典：学生課資料)

一方、専攻科課程の実入学者数は、平成16年度が28名、平成17年度が25名、平成18年度が22名、平成19年度が28名となっており、入学定員20名を超えている（資料4-3-①-4）。しかしながら、これは専攻科課程の充実による学校全体の活性化という目的に基づいて行っているものである。実入学者数は、専攻科担当の専任教員の数に比して過大ではなく、教育・研究の指導面で支障は出ていない。このことは、本校専攻科の修了生全員が学位授与機構の審査に合格して学士の学位を授与されており、さらに本校の教育プログラムがJABEEの認定を受けたことから窺える。

資料4-3-①-4

専攻科課程入学者状況

年 度	入学形態	機械・電気システム工学専攻				物質・環境システム工学専攻				ビジネスコミュニケーション学専攻				計				入学定員
		志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	志願者数	倍率	合格者数	入学者数	
平成16年度	学力	11	1.4	11	11	12	1.5	12	12	5	1.3	5	5	28	1.4	28	28	20
	全体	11	1.4	11	11	12	1.5	12	12	5	1.3	5	5	28	1.4	28	28	20
平成17年度	推薦	5		5	5	10		10	10	0		0	0	15		15	15	
	学力	4		4	3	5		1	1	10		10	6	19		15	10	
平成18年度	全体	9	1.1	9	8	15	1.9	11	11	10	2.5	10	6	34	1.7	30	25	20
	推薦	6		6	6	8		8	8	2		2	1	16		16	15	
	学力	11		6	3	6		3	0	6		6	4	23		15	7	
平成19年度	社会人																	
	全体	17	2.1	12	9	14	1.8	11	8	8	2.0	8	5	39	2.0	31	22	20
	推薦	10		8	8	8		7	7	4		4	4	22		19	19	
	学力	9		5	4	7		2	1	4		4	4	20		11	9	
全体	19	2.4	13	12	15	1.9	9	8	8	2.0	8	8	42	2.1	30	28	20	

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、これまで準学士課程の実入学者数は入学定員の1.05倍程度で推移しており、一方、専攻科課程においては、その実入学者数が入学定員の20名を超えてはいるものの、教育・研究の指導面で特に支障は出ていない。したがって、準学士課程と専攻科課程のいずれにおいても、実入学者数が入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっておらず、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・入学試験と入学後の学業成績に関するデータベースを利用して、入学者の追跡調査と分析を行い、その結果を基に入学者選抜方法等の継続的な改善検討を進めている。
- ・入学辞退者数が極めて少なく、実入学者数は入学定員の1.05倍以内で推移しており、入学定員と実入学者数との関係の適正化が十分図られている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準4の自己評価の概要

準学士課程については、入学試験委員会の下で本校の「教育理念」、「学習・教育目標」等に基づいて「福島工業高等専門学校の入学者受入方針」及び「各学科の入学者受入方針」が策定され、その周知が教職員や学生等の学校の構成員に対してなされている。また、将来の学生を含む社会に対しては、入学者対策専門部会が中心となり、刊行物等の配布、学校ホームページへの掲載、学校説明会等での説明により公表・周知している。

専攻科課程に関しては、専攻科委員会の下で「福島工業高等専門学校専攻科及び各専攻の入学者受入方針」が策定され、その周知が学校の構成員に対しては教員会議及び専攻科会議での説明や刊行物の配布等でなされている。また、将来の学生を含めた社会に対しては、刊行物の配布及び本校ホームページへの掲載、専攻科説明会等での説明により公表・周知している。

準学士課程の入学者選抜は、「推薦による選抜」と「学力検査による選抜」の2つの方法で実施されているが、平成18年度入学者選抜から入学者受入方針に沿った選抜方法が、また、準学士課程への編入学者選抜では、平成20年度編入学試験から「推薦による選抜」と「学力検査による選抜」との2つの選抜方法が導入された。準学士課程における入学者選抜の検証と改善は、入学者選抜方法等研究専門部会が入学者の追跡調査とデータ分析、入学者選抜方法等に関する研究を継続的に行い、新たな改善案を入学試験委員会で審議するという体制が採られている。また、専攻科課程では専攻科委員会及び専攻科会議が入学者選抜の改善と検証を継続的に行っている。

本校の準学士課程においては、入学試験合格発表後の入学辞退者は非常に少なく、毎年入学定員の1.05倍以内の実入学者数が確保されており、入学定員と実入学者数との適正化が図られている。また、専攻科課程の実入学者数は、入学定員を超えてはいるが、専攻科担当の専任教員数に比して特に過大な状況でなく、教育・研究指導面での支障は出ていない。



## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

#### (観点到に係る状況)

本校準学士課程の教育課程は、学習・教育目標に沿って、低学年次においては基礎学力養成のために講義を主とする科目を多く配置し、その後学年の進行と共に専門的な講義科目や実験・実習科目が多くなる楔形の構成となっている（資料5-1-①-1～2）。また、実践力を育成するための実験・実習科目及び専門的知識を習得するための講義・演習科目が学年ごとに配置されている（資料5-1-①-3～9）。

平成16年度には、学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請及び専攻科との一貫性等を考慮して準学士課程のカリキュラム改訂を行い、平成17年度から実施している。この中では、モノづくり教育やシナジー教育の導入が図られている。

さらに、平成18年度から全学科の2年生を対象に全教員の指導のもと、自由な発想と創造性を育むための新たな試みとして「ミニ研究」の科目を導入し実施している。

なお、準学士課程の目標及び水準は、各担当教員の判断で行われているが、各々の教員の学会活動や他の研究者との交流、企業等からの非常勤講師との意見交換、学会における調査資料、企業アンケート結果等を踏まえて決定されており、概ね国家公務員Ⅱ種試験レベルとなっている。

以下に、準学士課程の教育課程の体系性と科目系統図（資料5-1-①-10）及び概要（資料5-1-①-11）を示す。

資料5-1-①-1

平成18年度 専門科目の授業形態(単位数)

学 科	講義	演習	実験・実習	計
機械工学科	47	9	45	101
電気工学科	63	10	28	101
物質工学科	68	3	39	110
建設環境工学科	51	12	35	98
コミュニケーション情報学科	16	58	41	115

(出典：認証評価小委員会資料)

資料5-1-①-2

平成18年度 必修・選択科目開設位数(専門科目)

学 科		1年	2年	3年	4年	5年	計	合計
機械工学科	必修	7	8	20	29	24	88	101
	選択	0	0	0	2	11	13	
電気工学科	必修	7	8	20	19	15	69	101
	選択	0	0	0	13	19	32	
物質工学科	必修	6	8	20	34	21	89	110
	選択	0	0	0	6	15	21	
建設環境工学科	必修	6	8	20	28	12	74	98
	選択	0	0	0	4	20	24	
コミュニケーション情報学科	必修	8	9	19	32	42	110	115
	選択	0	0	2	2	1	5	

(出典：認証評価小委員会資料)

授業科目		単位数	学年別					備考
			1	2	3	4	5	
必 修 科 目	基礎数学 A -1		2					
	基礎数学 A -2		2					
	基礎数学 B		3					
	線形代数			2				
	微積分 1			2				
	微積分 2			2				
	微積分 A					3		
理 科	微積分 B				3			
	物理		2	3				
外 国 語	化学		3	2				
	英語 A		3	3	4			
	英語 B		2	2				
	英会話 I		1					
国 語	英会話					2	1	
	国語		3	3	2			
科 目	文 学					1		
	人文・社会科学基礎 IA		1					
	人文・社会科学基礎 IB		1					
	人文・社会科学概論 A			1				
	人文・社会科学概論 B			1				
	社会科学調査法			1				
	地 理				2			
	社会科学特講 I					1		
	社会科学特講 II					1		
	人間科学特講						2	
保 健 体 育	保健・体育		2	2	2			
	体 育					1	1	
芸 術	美 術		1					
ミ ニ 研 究				1				
開設単位小計			26	25	16	6	4	
選 択 科 目	第 2 外 国 語 I					2		2者択一、ただし「第2外国語Ⅱ」の選択者は4年次で「第2外国語Ⅰ」を受講のこと。
	英 会 話 II						2	
	第 2 外 国 語 II						2	
	課 題 演 習					1~2		
開設単位小計(課題演習を除く)			0	0	0	2	4	
開設単位合計 (課題演習を除く)			26	25	16	8	8	
修得可能単位数 (課題演習を除く)			26	25	16	8	6	

(出典：平成18年度シラバス)

資料 5 - 1 - ① - 4

平成18年度 学年別教育課程

〔一般科目〕その2  
(コミュニケーション情報学科)

授業科目	単位数	学 年 別					備 考
		1	2	3	4	5	
数 学	数 学	3	3				
	理 科	2	2				
英 語	生 物			2			
	英 語 A	3	3	4			
	英 語 B	2	2				
	英 会 話 A - 1	2					
	英 会 話 A - 2	2					
	英 会 話 B		2				
	英 会 話			2			
	英 語 特 論			2	2		
日 本 語	日 本 語 1	2	2				
	日 本 語 2	2	2				
	日 本 語 特 論 I			2			
	文 学				1		
人 文 社 会	人 文 ・ 社 会 学 基 礎 I A	1					
	人 文 ・ 社 会 学 基 礎 I B	1					
	人 文 ・ 社 会 学 基 礎 II A	1					
	人 文 ・ 社 会 学 基 礎 II B	1					
	人 文 ・ 社 会 学 概 論 A		1				
	人 文 ・ 社 会 学 概 論 B		1				
	社 会 学 調 査 法		1				
	近 代 経 済 史		1				
	地 理			2			
	法 学				2		
経 済 学				2			
人 間 学 特 講					2		
保 健 体 育	保 健 ・ 体 育	2	2	2			
	体 育				1	1	
芸 術	美 術		1				
	二 研 究		1				
開 設 単 位 小 計		24	24	16	10	4	
選 択 科 目	日 本 語 日 本 語 特 論 II				1	1	
	課 題 演 習				1~2		
	開 設 単 位 小 計 (課 題 演 習 を 除 く)	0	0	0	1	1	
開 設 単 位 合 計 (課 題 演 習 を 除 く)		24	24	16	11	5	
修 得 可 能 単 位 数 (課 題 演 習 を 除 く)		24	24	16	11	5	

(出典：平成18年度シラバス)

資料5-1-①-5

平成18年度 学年別教育課程

【専門科目】  
機械工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別					備 考
		1	2	3	4	5	
機 械 製 図 I		2					必修得科目
機 械 製 図 II			2				必修得科目
設 計 製 図				3	3*	3*	必修得科目
モ ノ づ くり 基 礎		3					必修得科目
モ ノ づ くり 実 習			3				必修得科目
工 作 実 習 験				3			必修得科目
工 学 セ ミ ナ					3*	3*	必修得科目
卒 業 研 究					4		必修得科目
応 用 数 学 A						2	
応 用 数 学 B						2	
応 用 物 理 I				3			
応 用 物 理 II					2		
情 報 基 礎		2					
情 報 処 理 基 礎			2				
機 械 工 作 法 I			1				
環 境 工 学 基 礎				1			
力 学 基 礎				1			
機 械 工 作 法 II				2			
情 報 処 理				2	1		
材 料 学 I				1			
材 料 力 学 I				2			
機 構 学				2			
材 料 学 II					1		
材 料 力 学 II					1		
機 械 力 学 I					1		
メ カ ト ロ ニ ク ス I					1		
電 気 工 学 I					1		
校 外 実 習					1		
力 学 演 習 I					1*		
力 学 演 習 II					1*		
熱 力 学					2		
水 力 学					2		
工 業 英 語						1	
流 体 力 学						1	
設 計 工 学						1	
熱 工 学						2	
制 御 工 学						2	
生 産 工 学						2	
開 設 単 位 小 計		7	8	20	29	24	
選 択 科 目	メ カ ト ロ ニ ク ス II				1		
	工 業 デ ザ イン				1		
	機 械 力 学 II					1	
	エ ネ ルギ ー 工 学					2	
	電 気 工 学 II					2	
	計 測 工 学					1	
	知 的 所 有 権					1	2者択一
	精 密 工 学					1	2者択一
	流 体 機 械					1	2者択一
	材 料 デ バ イ ス 工 学					1	2者択一
流 体 力 学 II					1		
課 題 演 習				1~2			
開 設 単 位 小 計 (課 題 演 習 を 除 く)		0	0	0	2	11	
専 門 科 目	開 設 単 位 合 計	7	8	20	31	35	
	修 得 可 能 単 位 数	7	8	20	31	32	
一 般 科 目	開 設 単 位 合 計	26	25	16	8	8	
	修 得 可 能 単 位 数	26	25	16	8	6	
合 計	開 設 単 位 合 計	33	33	36	39	43	
	修 得 可 能 単 位 数	33	33	36	39	38	

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

(出典：平成18年度シラバス)

平成18年度 学年別教育課程

【専門科目】

電気工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別					備 考	
		1	2	3	4	5		
◎電気電子工学実験		1		3	3	3*	3*	必修得科目
○卒業研究							8	必修得科目
○情報工学基礎	2		2					
○情報工学基礎				2				
◎電気工学基礎	2		1					
○電気工業製図	2							
○電気工業英語							2*	
◎電気回路工学Ⅰ			2	1	2			
◎電気回路工学Ⅱ				2	2	1		
○電子回路工学Ⅰ				1	2*			
○電子回路工学Ⅱ					2			
◎電気電子計測Ⅰ				2				
◎電気機器Ⅰ				2				
○機械工学概論				2				
○応用数学Ⅰ					2			
○応用数学Ⅱ					2			
○応用物理Ⅰ				3				
○応用物理Ⅱ					2			
○校外実習					1			
開設単位小計		7	8	20	19	15		
◎電気回路Ⅱ					1			
◎電気回路Ⅲ					1			
◎電気電子計測Ⅱ					1			
◎電気電子材料Ⅰ					1			
◎電気電子材料Ⅱ						1		
◎電気機器Ⅱ					2			
◎電力工学Ⅰ						2		
◎電力工学Ⅱ						2		
○電子工学Ⅱ					1			
○集積回路工学Ⅰ						1		
○通信工学Ⅰ						1		
○コンピュータネットワーク					1			
○計算機工学Ⅰ						2		
○メカトロニクスⅠ					1			
○センサ工学Ⅰ						1		
○音響工学Ⅰ						1		
○生産工学Ⅰ						1		
○知的所有権Ⅰ						1		
○高電圧工学Ⅰ					1			
○電気機器設計Ⅰ						1		
◎電気法規Ⅰ						1		
◎パワーエレクトロニクスⅠ					1			
○シーケンス制御Ⅰ						1		コース選択
○光エレクトロニクスⅠ					1			
○電子回路設計Ⅰ						1		
○通信工学Ⅱ						1		
○信頼性工学Ⅰ						1		
○アルゴリズム論Ⅰ						1		
○演習Ⅰ～Ⅱ						1～2		
開設単位小計(課題演習を除く)		0	0	0	13	19		
専門科目開設単位合計		7	8	20	32	34		
専門科目修得可能単位数		7	8	20	30	31		
一般科目開設単位合計		26	25	16	8	8		
一般科目修得可能単位数		26	25	16	8	6		
合計開設単位合計		33	33	36	40	42		
合計修得可能単位数		33	33	36	38	37		

(注) ◎印は第2種電気主任者技術者資格取得のための必修得科目、○印は関係科目  
\*印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

(出典：平成18年度シラバス)

平成18年度 学年別教育課程

【専門科目】  
物質工学科

授業科目	単位数	学年別					備考
		1	2	3	4	5	
基礎化学実験			1				必修得科目
物質化学実験			2				必修得科目
材料化学実験Ⅰ				4			必修得科目
材料化学実験Ⅱ					2*		必修得科目
生物工学実験Ⅰ					2*		必修得科目
生物工学実験Ⅱ					2*		必修得科目
工学実習Ⅰ						2*	必修得科目
工学実習Ⅱ						2*	必修得科目
工学実習Ⅲ					1		必修得科目
卒業研究						9	必修得科目
情報学	2		2				
基礎化学演習	2		1				
分析化学演習			2				
有機化学Ⅰ				2			
有機化学Ⅱ				2			
物理化学演習					2		
無機化学Ⅰ				3			
無機化学Ⅱ				2			
基礎工学	2					2	
材料工学Ⅰ				2			
材料工学Ⅱ				1			
応用物理学Ⅰ				1			
応用物理学Ⅱ				3			
応用数学Ⅰ					2		
応用数学Ⅱ					1		
応用数学Ⅲ					2		
環境工学Ⅰ					1		
環境工学Ⅱ					2		
高分子化学Ⅰ					1		
高分子化学Ⅱ					1		
物質化学工学Ⅰ					2		
物質化学工学Ⅱ					2		
物質化学工学Ⅲ					1		
生物工学Ⅰ						1	
生物工学Ⅱ						2	
生物工学Ⅲ						1	
生物工学Ⅳ						2	
生物工学Ⅴ						1	
小計	6	8	20	34	21		
開設科目							
有機化学				1			
無機化学				1			
物理化学				1			
電機工学				1			
計算機工学				1			
工業英語Ⅰ				1*			
工業英語Ⅱ						1*	
環境工学						1	
電機工学						1	
界面化学						1	
天然物化学						1	
計測制御工学						1	
生命化学						1	
産業廃棄物処理						1	
資源化学						1	
安全衛生						1	
総合化学						1	
課題演習					1~2		
開設単位小計(課題演習を除く)	0	0	0	6	15		
専門科目開設単位合計	6	8	20	40	36		
一般科目開設単位合計	6	8	20	31	32		
開設単位合計	26	25	16	8	8		
必修得単位合計	26	25	16	8	6		
開設単位合計	32	33	36	48	44		
必修得単位合計	32	33	36	39	38		

(注) \*印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

(出典：平成18年度シラバス)



平成18年度 学年別教育課程

【専門科目】

建設環境工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別					備 考
		1	2	3	4	5	
工学実験・演習			1				必修得科目
工学基礎実験・演習				3	3*		必修得科目
応用工学実験・演習						3*	必修得科目
卒業研究						7	必修得科目
応用物理学				3			
応用数学A					2		
応用数学B					2		
工学基礎	1						
製図	2						
情報基礎	2						
情報処			1	1			
材料	1		1				
測量			1	2			
測量実習			2	2			
創作実基礎			1				
力学			1				
構造力学				4			
構造解析					2		
土質力学				1	2		
水理学				1	2*		
コンクリート構造工学					2		
コンクリート構造設計演習				2			
鋼構造工学					2		
鋼構造設計演習						2*	
環境工学I			1				
環境工学II					1*		
水処理工学					2		
施工法					2		
システム工学					1		
地域計画					2		
工学セミナー					2		
校外実習					1		
開設単位小計		6	8	20	28	12	
応用測量					1		
応用情報処理学					1*	1	
計算構造力学						1	
応用弾性工学						1	
基礎構造工学						1	
耐震設計法						1	
応用水理学						1	
構造設計法						1	
環境工学II						1*	
水資源工学						1*	
環境計測学						1	
地質学						1	
施工特論						1	
交通施設					1		
国土保全工学						1	
都市施設						1	
輸送システム						1	
建設経営学						1	
建設環境法規						1	
総合演習						3	
実務研修					1		
課題演習					1~2		
開設単位小計(課題演習を除く)		0	0	0	4	20	
専門科目開設単位合計		6	8	20	32	32	
専門科目修得可能単位数		6	8	20	32	32	
一般科目開設単位合計		26	25	16	8	8	
一般科目修得可能単位数		26	25	16	8	6	
合計開設単位合計		32	33	36	40	40	
合計修得可能単位数		32	33	36	40	38	

(注) \*印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

(出典：平成18年度シラバス)



平成18年度 学年別教育課程

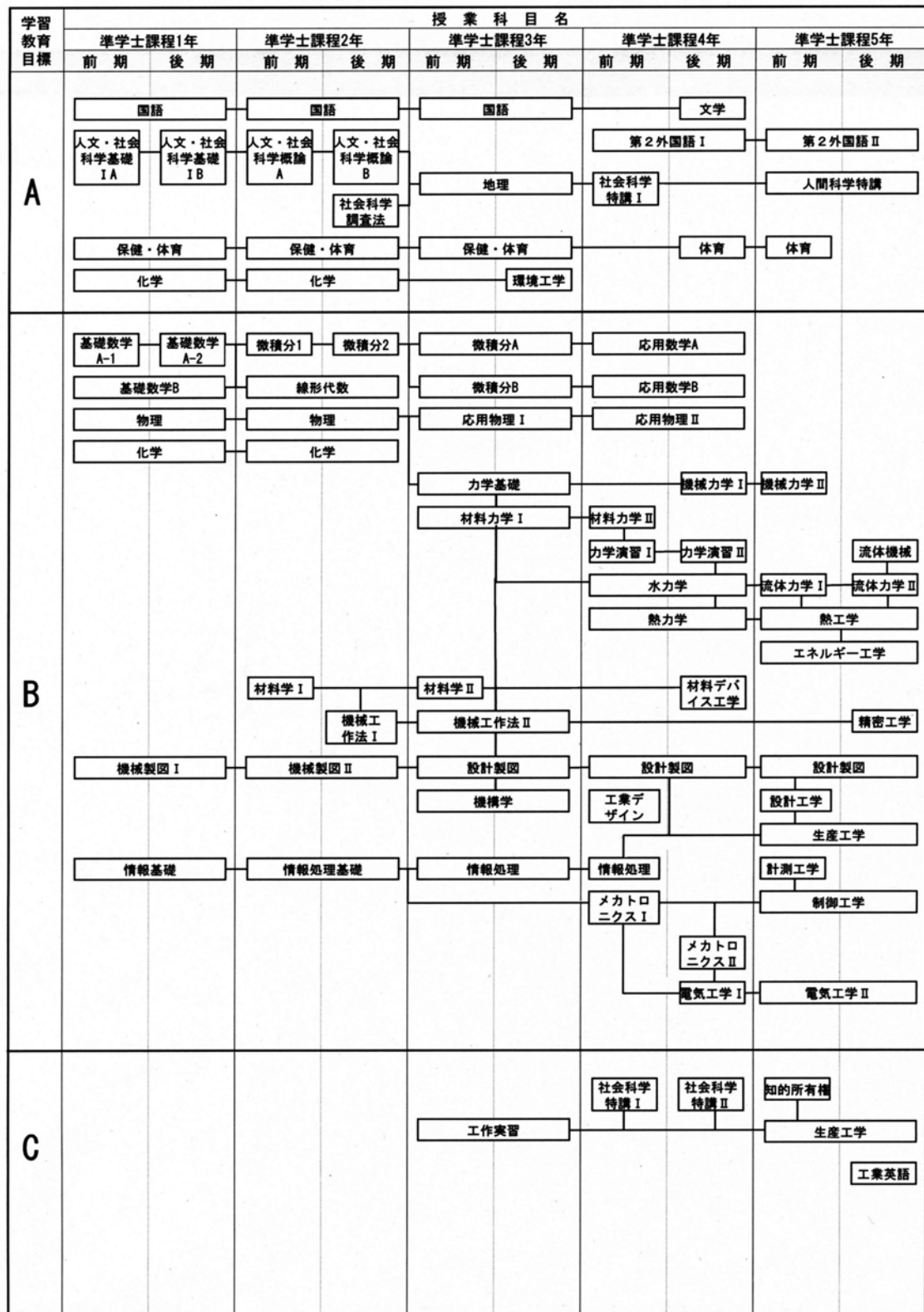
【専門科目】  
コミュニケーション情報学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別					備 考
		1	2	3	4	5	
セ ミ ナ ー				1	2		必修得科目
卒 業 研 究						6	必修得科目
パブリックスピーキングⅠ					2		
ヒ・シ・ネスライティングⅠ					2*		
パブリックスピーキングⅡ						2	
ヒ・シ・ネスライティングⅡ						2	
第2外国語Ⅰ					2		
第2外国語Ⅱ					2		
ビジネス事情Ⅰ	2						
情報基礎	2						
ビジュアル情報基礎	2						
コミュニケーション論入門	2						
経営情報入門		2					
情報基礎演習		2					
ビジュアル情報演習		2					
コミュニケーション論		2					
ビジネス事情Ⅱ		1					
情報統計				2			
情報コミュニケーション				2	2		
情報コミュニケーション演習				2			
情報メディア論				2			
情報メディア演習						2	
財務会計				2			
マクロ・ミクロ経済				2			
経営学					2*		
企業論						2	
国際経済						2*	
マーケティング						2*	
ビジュアル情報				2			
コミュニケーション				2			
心理学入門				2			
人間関係論					2		
視覚情報概論						2	
言語文化						2	
知的所有権					2		
プレゼンテーション					2		
会計学					2		
プログラミング言語					2		
時事英語					2		
確率統計					2		3科目選択
ビジネス英語Ⅰ					2		
国際関係論					2		
国際金融論						2	
広告・広報メディア論						2	
貿易実務						2	
情報システム論						2	
ビジネスと法律						2	
社会調査						2	
文献講						2	
第2外国語Ⅲ						2	
ビジネス英語Ⅱ						2	
第2外国語Ⅳ						2	
開設単位小計		8	9	19	32	42	
選 択 科 目	マルチメディアⅡ			1			
	セクレタリー			1			集中講義
	情報特論Ⅰ				1		
	情報特論Ⅱ					1	
	実務研修					1	
課題演習					1~2		
開設単位小計(課題演習を除く)		0	0	2	2	1	
専 門 科 目	開設単位合計	8	9	21	34	43	
	修得可能単位数	8	9	21	28	33	
一 般 科 目	開設単位合計	24	24	16	11	5	
	修得可能単位数	24	24	16	11	5	
合 計	開設単位合計	32	33	37	45	48	
	修得可能単位数	32	33	37	39	38	

(注) \*印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

(出典：平成18年度シラバス)

教育課程の体系性と科目系統図 【機械工学科】



(出典：認証評価小委員会資料)

資料5-1-①-10

教育課程の体系性と科目系統図 【機械工学科】

学習 教育 目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
D	基礎数学 A-1	基礎数学 A-2		社会科学 調査法	地理		校外実習			
							工学セミナー		卒業研究	
							工学実験		工学実験	
	情報基礎		機械製図Ⅱ	情報処理基礎	設計製図	情報処理	設計製図	情報処理	設計製図	
E	美術		ミニ研				工学セミナー		卒業研究	
					環境工学				制御工学	
	モノづくり基礎		モノづくり実習		工作実習				計測工学	
			機械工 作法Ⅰ		機械工 作法Ⅱ				設計工学	
	情報基礎		情報処理基礎		情報処理		情報処理		生産工学	
	機械製図Ⅰ		機械製図Ⅱ		設計製図		設計製図		設計製図	
							工学実験		工学実験	
F	英語A	英語A	英語A		英語A		英語		英語	工業英語
	英語B	英語B								
	英会話Ⅰ		社会科学 調査法		地理				英会話Ⅱ	
							工学実験		工学実験	
						工学セミナー		卒業研究		
						校外実習				

(出典：認証評価小委員会資料)

【学習・教育目標 A】地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。

地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うためのキーワードは、「人類の豊かさ」、「地球環境」、「世界の価値観」、「自然との調和」、「技術者倫理」等である。具体的には、司法制度の基礎知識、産業と経済の歴史、科学技術史、技術者倫理、歴史における技術の役割等の知識を身に付けることが重要であるため、これらに関する授業科目を 4 年前期より専攻科 1 年後期まで順次開講している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	文学, 法学, ドイツ語, 哲学, 地域文化論, 倫理学, 環境解析評価論, 科学技術史
機械・電気システム工学専攻	
物質・環境システム工学専攻	環境工学, 環境生態学, 生命科学, 産業廃棄物概論, 生態学, 水環境工学, 地球環境工学, リサイクル工学, 建設法規, 物質循環工学

基準3：教育手段

【学習・教育目標 B】工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。

十分な基礎知識に裏付けられた専門知識の習得には、工学の基礎となる数学、物理等の自然科学教育とビジネスの基礎となる情報工学や産業技術の把握が必要である。また、専門知識の習得には専門基礎知識の教育が必要であることから、大きく3つに分けた授業科目の流れとしている。すなわち、準学士課程4年前期より専攻科2年後期の長期に亘る自然科学教育、準学士課程4～5年生での専門基礎教育、専攻科1～2年生での専門教育の流れである。さらに、専門基礎科目はJABEEの分野別要件(1)に従って5群(①設計・システム系科目群、②情報・理論系科目群、③材料・パイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群)に分類され、全5群から少なくとも1科目、それらの合計が6科目以上となるように習得できるように設計されている。融合・複合的な専門知識を修得するために、機械・電気システム工学専攻においては「制御システム工学」や「ロボット工学」等の科目を、物質・環境システム工学専攻においては「物質循環工学」や「生態工学」等の科目を設け、それぞれ両分野の専門知識が必要な科目を配置している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	現代化学、情報工学特論、安全工学特論、産業技術特論Ⅰ、産業技術特論Ⅱ
機械・電気システム工学専攻	機械系：応用数学A、応用数学B、応用物理Ⅱ、力学演習Ⅰ、力学演習Ⅱ、情報処理Ⅱ、材料学Ⅱ 電気系：応用数学A、応用数学B、応用物理Ⅱ、電子回路、電子回路設計、電気機器設計、デジタル回路 機械・電気システム工学系：応用解析学Ⅰ、応用解析学Ⅱ、統計物理学、振動論、材料科学、機能性材料工学、ロボット工学、機械振動学、電子物性工学、制御システム工学
物質・環境システム工学専攻	物質系：応用数学、応用物理、物理化学Ⅱ、化学工学、機器分析、物質合成化学、生物有機化学、細胞遺伝子工学、計測制御工学、計算機化学 建設系：応用数学A、応用数学B、システム工学、構造解析学、計算構造力学、地域計画、基礎構造工学、リモートセンシング 物質・環境システム工学系：応用解析学Ⅰ、応用解析学Ⅱ、統計物理学、振動論、材料科学、生体機能化学、合成化学特論、生態工学、複合構造工学、物質循環工学

【学習・教育目標 C】工学系科目-ビジネス系科目との協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。

工学系専門科目とビジネス系科目とのシナジーによりMOT(技術経営)教育(生産管理論、経営管理論、ベンチャービジネス論、技術経営論)を行っている。これらの科目は、専門科目と並行して履修させることから、専攻科1年前期から2年後期に亘る履修期間となっている。また、各個人の専攻に留まらず専門以外の知識を広げるために、専門以外の内容を履修する特別セミナーを設置し、工学系-ビジネス系のシナジー効果に留まらず、工学系-工学系の連携も確保している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	経営管理論、生産管理論、ベンチャービジネス論、技術経営論、経済学
機械・電気システム工学専攻	機械系：知的所有権、生産工学 電気系：知的所有権、生産工学 機械・電気システム工学系：機械・電気システム工学セミナー、特別セミナー、ビジネス英語

基準 3：教育手段

物質・環境システム工学専攻	物質系：化学工学 建設系：建設法規：施工特論，建設経営学，知的所有権 物質・環境システム工学系：物質・環境システム工学セミナー，特別セミナー，ビジネス理語
---------------	---

【学習・教育目標 D】情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。

情報収集力，自己学習力および課題探求力の習得は，単なる座学による講義に留まらず，学生自身が行動し，考え，結論を導き出すような授業とすることが必要である。そのためここでは，実験・演習科目やセミナー・卒業研究・特別研究などの科目を効果的に設置し，各種課題を解決してゆく課程を踏ませることにより，これらの目標を達成させることとしている。また，情報収集にはインターネット等のコンピュータ機器が使用されることが多いことから，情報処理関連科目を初期段階に配置している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	
機械・電気システム工学専攻	機械系：工学実験，設計製図，工学セミナー，卒業研究，校外実習 電気系：電気工学実験，工学セミナー，卒業研究，校外実習 機械・電気システム工学系：機械・電気システム工学実験，特別研究，インターンシップ
物質・環境システム工学専攻	物質系：材料化学実験，生物工学実験，化学工学実験，計算機化学，工学セミナー，卒業研究，校外実習 建設系：工学基礎実験・演習，応用工学実験・演習，環境系総合演習，利水系総合演習，卒業研究，校外実習，実務研修 物質・環境システム工学系：物質・環境システム工学実験，特別研究，インターンシップ，計画数理

【学習・教育目標 E】モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより，創造的実践力を身につける。

モノづくり能力を養うためには，実際に設計や加工・組立て等の作業を実践させることが重要だと考えられる。よってあらゆる機会を利用してモノづくりを体験させるために，実験，卒業研究，特別研究，セミナーなどを効果的に連続して設けている。また，デザイン能力を養うためには，各種工程に至る一連のプロセスを理解させ，必ずしも解が一つでない課題に対して実際的な解を見つけ出して行く工程を学習させることが大事であると考えられることから，「生産管理論」，「製品開発論」，「生産工学」，「鋼構造工学・演習」等の科目を配置している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	情報工学特論，生産管理論，産業技術特論Ⅰ，産業技術特論Ⅱ，製品開発論
機械・電気システム工学専攻	機械系：工学実験，生産工学，工学セミナー，卒業研究 電気系：電気工学実験，計算機工学，デジタル回路，生産工学，電子回路設計，電気機器設計，卒業研究，工学セミナー 機械・電気システム工学系：機械・電気システム工学実験，制御システム工学，機械・電気システム工学セミナー

基準 3 : 教育手段

物質・環境 システム 工学専攻	物質系：材料化学実験，生物工学実験，生物反応工学，産業廃棄物概論，工学セミナー，卒業研究，化学反応工学 建設系：工学基礎実験・演習，応用工学実験・演習，鋼構造工学・演習，水処理工学，卒業研究  物質・環境システム工学：物質・環境システム工学実験，物質・環境システム工学セミナー
-----------------------	---

【学習・教育目標 F】 情報技術を活用して，国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

日本語や英語におけるコミュニケーション能力を向上させるために，準学士課程 4 年前期から専攻科 1 年後期に亘って英語教育を実施している。また論理的な表現手法を学習するために，実験や演習，セミナーなどを配置している。さらに，プレゼンテーション能力を養うために，校外実習の報告会，卒業研究発表会，インターンシップ報告会，特別研究発表会，特別セミナー発表会等，あらゆる機会を通して実践的な発表を行う科目を配置している。下表に主要科目を示す。

各系	設定科目
共通	英語，現代英語 I，現代英語 II，ビジネス英語
機械・電気 システム 工学専攻	機械系：工学実験，校外実習，工学セミナー，卒業研究，工業英語 電気系：電気工学実験，校外実習，工学セミナー，卒業研究，工業英語 機械・電気システム工学系：機械・電気システム工学系セミナー，特別研究，インターンシップ
物質・環境 システム 工学専攻	物質系：化学工学実験，機器分析実験，工学セミナー，卒業研究，工業英語 建設系：工学基礎実験・演習，工学セミナー，卒業研究，応用工学実験・演習，校外実習，実務研修，海外建設事情 A，海外建設事情 B 物質・環境システム工学系：物質・環境システム工学セミナー，特別研究，インターンシップ

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校機構の目的及び本校の教育理念に基づき、本校の学習・教育目標が設定されており、その目標を達成するために適切な教育課程が編成されている。一般科目と専門科目が楔型に配置されており、学年割も学生の年齢と能力を考慮した上で設定されている。

以上のことから、本校の準学士課程においては、教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成され、また、授業の内容は国家公務員Ⅱ種レベルなど、社会の要請水準を考慮し、本校の定める教育目標を達成できるような適切なものとなっている。また、授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って教育の目的を達成するために、適切なものとなっている。

**観点 5-1-②：** 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

平成 16 年度に「茨城大学・茨城工業高等専門学校との単位互換協定」（資料 5-1-②-1）、「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する協定」（資料 5-1-②-2）を締結し、平成 17 年度から準学士課程 4、5 年生は大学、本校専攻科、他の高専の専攻科における学修について、それらの機関で認められた単位数で単位が認定されている。この制度を利用して平成 18 年度には長岡技術科学大学のインターネットを介した e ラーニング授業を、準学士課程 4、5 年生が受講している（資料 5-1-②-3）。

本校以外の教育施設等における特別学修単位として 10 単位を超えない範囲での単位認定を行っている（資料 5-1-②-4）。さらに平成 19 年度からは、文部科学大臣が定める特別学修の廃止に伴い、本校の特別学修の単位認定に関する規定を大幅に見直し、多くの資格検定試験を単位認定の対象としている（資料 5-1-②-5～7）。

4 年次において、工学系では、夏季休業等の長期休業中に企業や官公庁での原則 2 週間にわたる校外実習を必修科目と位置づけ、報告書作成と実習報告会での口頭発表またはポスター発表をもとに「校外実習」として 1 単位の認定を行っている（資料 5-1-①-5～8）。企業や役所における実習、大学のオープンキャンパス等に工学系 4 学科ではほぼ全員参加している（資料 5-1-②-8）。一方、コミュニケーション情報学科では、インターンシップを選択科目として、工学系と同様に原則 2 週間の研修の後に報告会を行い、「実務研修」1 単位の認定を行っている（資料 5-1-①-9）。参加者はクラスの半数程度である（資料 5-1-②-8）。

従来の低学年への基礎学力養成及び英検指導が、高学年への TOEIC 指導へと効果的に結びつくように、3 年生以上に対して毎週 LL 教室を使った授業を実施している（資料 5-1-②-9）。工学系準学士課程修了時点で TOEIC スコア 380 点、コミュニケーション情報学科準学士課程及び専攻科課程修了時点で TOEIC スコア 400 点の数値目標を設定している（資料 5-1-②-10）。

学生が自分のレベルや自分のペースで自主的に学習できるように、LL 教室には、パソコンを利用した自主学習ソフトを導入し、放課後 LL 教室を開放し、英検準 2 級以上の取得と TOEIC のスコアア



ップが実現できるようにしている。

ミニ研究，モノづくり実習，工学セミナー等は，学年進行の途中段階における創造性教育と位置づけている。さらに，卒業研究は準学士課程課程の集大成として，各専門教員の専門分野に直結した領域での課題を学生自らが設定し，これまでに修得した知識や技術を応用しながら課題を解決する過程を通して，課題探求及び解決能力，創造的な実践力の育成をめざしている。

資料 5 - 1 - ② - 1

### 茨城大学、茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校間における単位互換に関する協定書

茨城大学、茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校は、意欲ある学生に対し多様な学習機会を提供することにより、教育の活性化と教育課程の充実に資するとともに、教員と学生間の交流を推進することを目的として、相互の機関で開設する授業科目の履修を可能とするため、次のとおり協定を締結する。

- 1 受入身分、入学資格、履修対象授業科目・単位数、履修手続、成績評価及び単位認定方法等に関しては、「茨城大学、茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校間における単位互換に関する実施要項」（以下「実施要項」という。）の定めるところによる。
- 2 実施要項に関する取扱いについては、「茨城大学、茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校間における単位互換に関する覚書」の定めるところによる。
- 3 この協定の有効期間は、平成17年 4月 1日から平成20年 3月31日までの 3年間とする。  
ただし、有効期間満了の 3ヶ月前までに、いずれかより申し出がないときは、1年間ごとに期間を延長するものとする。
- 4 この協定の改廃については、その都度各機関の長で協議する。

上記協定の証として、協定書 3通を作成し、機関は各 1通を所持する。

平成 17 年 1 月 2 1 日

茨 城 大 学 長

菊池龍三郎

茨城工業高等専門学校長

鈴木伸一

福島工業高等専門学校長

安久正敏

(出典：総務課資料)

## 福島工業高等専門学校の福島県高等教育協議会 加盟に伴う相互単位互換加入協定書

福島工業高等専門学校と福島県高等教育協議会は、平成16年4月1日付けで同校が同協議会の加盟機関となったことに伴い、平成16年2月27日付けで同協議会加盟大学・短期大学が締結した「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する協定」及び「同校書」並びに「同申し合わせ」に基づき単位互換を実施することについて合意したので、次のとおり締結する。

### (協定書の適用)

第1条 福島工業高等専門学校は、福島県高等教育協議会加盟大学・短期大学が平成16年2月27日付けで締結した「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する協定書」(以下「協定書」という。)に加入し、加盟大学・短期大学・高等専門学校が相互にその適用を受けるものとする。

2 協定書前文には高等専門学校設置基準第20条に基づく単位互換を新たに実施対象として追加し、協定書中「加盟大学・短期大学(以下「大学」という。)」とあるのは「加盟大学・短期大学・高等専門学校(以下「大学等」という。)」と読み替える。

### (覚書の適用)

第2条 福島工業高等専門学校は、福島県高等教育協議会加盟大学・短期大学が平成16年2月27日付けで締結した「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する協定書に関する覚書」(以下「覚書」という。)に加入し、加盟大学・短期大学・高等専門学校が相互にその適用を受けるものとする。

2 覚書中「加盟大学・短期大学(以下「大学」という。)」とあるのは「加盟大学・短期大学・高等専門学校(以下「大学等」という。)」と読み替える。

3 覚書に定める単位互換授業科目は、福島工業高等専門学校においては専攻科の授業科目の中から決定するものとし、協議変更の場合でも福島工業高等専門学校においては専攻科の授業科目の中からのみ変更可能なものとする。

4 覚書に定める履修の制限は、福島工業高等専門学校には適用せず、専攻科1年次生から履修することができるものとする。

### (申し合わせの適用)

第3条 福島工業高等専門学校は、福島県高等教育協議会加盟大学・短期大学が平成16年2月27日付けで締結した「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する申し合わせ」(以下「申し合わせ」という。)に加入し、加盟大学・短期大学・高等専門学校が相互にその適用を受けるものとする。

2 申し合わせ中「大学」とあるのは「大学等」と読み替える。

### (実施同意書の提出)

第4条 福島工業高等専門学校が協定書及び覚書に基づき単位互換を実施しようとするときは、「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換に関する協定及び同覚書の実施同意書」に署名のうえ、福島県高等教育協議会に提出するものとする。

### (実施期日)

第5条 この加入協定は、平成17(2005)年4月1日から実施する。

### (加入協定書の保管)

第6条 この加入協定書は、福島工業高等専門学校と福島県高等教育協議会が署名し、1部ずつ保管するものとする。

平成17年2月14日

福島工業高等専門学校長

安久正純

福島県高等教育協議会会長

臼井嘉一

福島大学 長

(庄井：総務課資料)

平成18年度[2学期] 長岡技術科学大学インターネットによる遠隔授業(web講義)申込者名簿

学校名：福島工業高等専門学校

事務担当者名：星 隆 良

事務担当者メールアドレス： hoshi@fukushima-nct.ac.jp

受講科目名	ふりがな 学生氏名	所属学科	学年	メールアドレス	担当教員氏名 所属
e-システム思想論	うえきひろあき 植木洋成	物質工学科	4	ch0305@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-システム思想論	さかいともみ 酒井朋美	物質工学科	4	ch0318@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-システム思想論	ささばらゆう 笹原優	物質工学科	4	ch0320@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-システム思想論	なまためあきら 生田目昇	物質工学科	4	ch0329@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-システム思想論	まつもとかずひろ 松本和行	物質工学科	4	ch0335@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-システム思想論	かつくひろゆき 勝倉宏行	物質工学科	4	ci0309@edu.fukushima-nct.ac.jp	中村和男
e-機械工学設計における安全	うえきひろあき 植木洋成	物質工学科	4	ch0305@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer
e-機械工学設計における安全	うすばまなみ 薄葉愛美	物質工学科	4	ch0306@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer
e-機械工学設計における安全	さかいともみ 酒井朋美	物質工学科	4	ch0318@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer
e-機械工学設計における安全	ささばらゆう 笹原優	物質工学科	4	ch0320@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer
e-機械工学設計における安全	なまためあきら 生田目昇	物質工学科	4	ch0329@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer
e-機械工学設計における安全	まつもとかずひろ 松本和行	物質工学科	4	ch0335@edu.fukushima-nct.ac.jp	木村哲哉 Alfred Neudoerfer

(出典：学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 4

別表〔新表〕  
〔文部科学大臣が別に定める学修〕

資格等の名称	資格等の内容	単位数	認定学年	認定学科	認定科目
実用英語検定	準2級	1	1～3年	全学科	一般科目
	2級	3	1～5年		
	準1級	5			
日本語漢字能力検定	1級	8	1～5年	全学科	漢字検定
	2級	1			
工業英語検定	準1級	2	1～5年	全学科	工業技術英語
	1級	3			
	4級	1			
	3級	2			
ラジオ音響技能検定	2級	4	1～5年	全学科	ラジオ音響
	1級	6			
	3級	1			
デジタル技術検定	3級	1	1～3年	全学科	デジタル技術
	2級	2			
	1級	4			
画像情報技能検定 CG部門	3級	1	1～3年	全学科	CG技能
	2級	2			
	1級	3			
情報処理活用能力検定	3級	1	1～3年	全学科	専門科目
	準2級	1			
	2級	2			
トレース技能検定	1級	3	1～5年	全学科	情報技能
	2級	1			
	1級	2			
ビジネス能力検定	3級	1	1～3年	全学科	トレース技能
	2級	2			
	1級	3			
秘書技能検定	3級	1	1～3年	コミュニケーション 情報学科	秘書検定
	2級	2			
	準1級	3			
簿記能力検定	1級	4	1～5年	全学科	簿記検定
	3級	1			
	2級	2			

- 〔注〕 1. この表は平成17年度入学者から適用する。  
 2. 下位の資格を取得後に上位の資格を取得した場合は、上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じた単位数を当該年度の認定単位とする。  
 3. 文部科学大臣が別に定める学修の認定単位は10単位を超えないものとする。  
 4. デジタル技術検定の1,2級は、制御部門と情報部門に分かれているが、どちらでも可とする。

(出典：学生便覧)

資料 5 - 1 - ② - 5

別表 (第2条第4号)  
一般科目

資格等の名称	資格等の内容	認定学年	単位数	認定学科	認定科目
実用英語技能検定 <sup>1)</sup>	準2級	1-3年	1	全	実用英語
	2級		3		
	準1級	1-5年	5		
	1級		8		
TOEIC <sup>2)</sup>	400-495	1-5年	2	全	TOEIC
	500-595 (英検2級レベル)		3		
	600-695		4		
	700-795 (英検準1級レベル)		5		
	800-845		6		
	850-895		7		
	900-990 (英検1級レベル)		8		
TOEFL <sup>3)</sup>	475-(150-) (英検2級レベル)	1-5年	3	全	TOEFL
	505-(180-)		4		
	545-(210-) (英検準1級レベル)		5		
	575-(230-)		6		
	610-(255-)		7		
	630-(265-) (英検1級レベル)		8		
日本語漢字能力検定	準2級	1-3年	1	全	漢字検定
	2級		2		
	準1級	1-5年	3		
	1級		4		
実用数学技能検定	準2級	1-3年	1	全	実用数学
	2級		2		
	準1級	1-5年	3		
	1級		5		

(出典：学生便覧)

資料 5-1-②-6

専門科目					
資格等の名称	資格等の内容	認定学年	単位数	認定学科	認定科目
工業英語検定	4級	1-3年	1	全	工業技術英語
	3級		3		
	2級		5		
	1級		7		
技術士第一次試験	技術士補	1-5年	8	機, 電, 物, 建	技術士補
情報処理技術者	初級システムアドミニストレータ	1-5年	1	全	情報処理技術
	基本情報技術者		2		
	情報セキュリティアドミニストレータ		4		
	ソフトウェア開発技術者				
	上級システムアドミニストレータ				
	テクニカルエンジニア				
	システムアナリスト				
プロジェクトマネージャー	6				
アプリケーションエンジニア					
システム監査技術者					
ラジオ音響技能検定	3級	1-3年	1	全	ラジオ音響
	2級	1-5年	2		
	1級		4		
デジタル技術検定	3級	1-3年	1	全	デジタル技術
	2級	1-5年	2		
	1級		4		
画像情報技能検定 CG部門	3級	1-3年	1	全	CG技能
	2級	1-5年	2		
	1級		3		
情報処理活用能力検定	3級	1-3年	1	全	情報技能
	準2級	1-5年	1		
	2級		2		
トレース技能検定	1級	1-5年	3	全	トレース技能
	2級		1		
	1級		2		
ビジネス能力検定	3級	1-3年	1	全	ビジネス検定
	2級	1-5年	2		
	1級		4		
冷凍機械責任者	1種	1-5年	2	機械, 電気	冷凍機械

(出典：学生便覧)

資料 5-1-②-7

機械設計技術者	3級	1-5年	1	機械	機械設計
	2級		2		
	1級		3		
危険物取扱者	乙種 (第1~6類)	1-5年	1	機械, 電気	危険物取扱
	甲種		2		
公害防止管理者	水質関係第4種	1-5年	1	物質建設	公害防止管理
	水質関係第3種		2		
	水質関係第2種		1		
	水質関係第1種		2		
	大気関係第4種	1-5年	1	物質	
	大気関係第3種				
	大気関係第2種				
	大気関係第1種	1-5年	2	電気, 物質, 建設	
	公害防止主任管理者				
	騒音・振動関係				
技能検定	特定粉じん関係	1-5年	1	物質, 建設	
	一般粉じん関係		1		
計量士	3級機械技能士	1-5年	1	機械	機械技能
	2級機械技能士		2		
エネルギー管理士	環境計量士(濃度関係)	1-5年	2	機械, 物質	環境計量
	環境計量士(騒音・振動関係)				
消防設備士	熱分野	1-5年	2	機械, 物質	エネルギー管理
	乙種		1-5年		
ボイラー技師	甲種	1-5年		2	
	2級		1	機械	

(出典：学生便覧)

平成18年度 実施先一覧

《 機械工学科 》 受入先

FDK
アトックス
カゴメ那須工場
京セラ(棚倉)
コスモ石油
三伸製作所
常磐製作所
駿河精機
大宏電機
竹内精工
タマデック
テクノフォース
デザインネットワーク
長岡技大
日本精工福島
ビクター
日立化成(下館)
日立化成(山崎)
日の出製作所
富士重工
松下(福島)
森精機
ヤマニ書房

《 電気工学科 》 受入先

J-Power
NHK
NTT-ME福島
NTTドコモ東北
TCD
アイディアアイ
旭化学工業
アルゾック
アルプス電気
泉電設
出光興産
いわきコミュニティ放送
カゴメ(那須工場)
クリナップ
実施済み
品川通信計装サービス
常磐共同火力
小名浜製錬
大王製紙
ダイキン
中外製薬
日本エレクトロニクス
日本電設
八戸高専サマースクール
古河電池

《 物質工学科 》 受入先

(独)農業環境技術研究所
アルピオン
出光興産
いわき市(下水)
いわき市公害対策センター
いわき保健所
エスエス製薬
小川香料
カゴメ(羽島工場)
関西ペイント
共立病院
クミネ工業
クレオ
呉羽環境
江東微研
サンフレックス
塩野義製薬
常磐開発
龍森
トーアエイヨウ
日本色材
長谷川香料
日立化成 山崎
日立化成(下館)
ムサシノガイギー

《 建設環境工学科 》 受入先

(株)常磐ポーリング
(独)土木研究所
(独)港湾空港技術研究所
(独)都市再生機構
いわき市役所
株式会社長大
郡山市役所
国土交通省近畿地方整備局
国土交通省北海道開発局
首都高速道路株式会社
常磐開発株式会社
土木研究所
東日本高速道路株式会社
郡山市役所
国土交通省中部地方整備局
国土交通省関東地方整備局
国土交通省東北地方整備局
鉄道建設・運輸施設整備支援機構
内閣府沖縄総合事務局
日栄地質測量設計㈱
北海道開発局

《 コミュニケーション情報学科 》 受入先

いわきワシントンホテル
いわき東急イン
(株)いわき市民コミュニティ放送
(株)ネクスト情報はましん
济州島新羅ホテル
ハニース
東日本計算センター
福島県中小企業団体中央会
ペットホテルポチの家
ホテルはまつ(郡山)
文部科学省
ワシントンホテル(会津)

(注：単位欄省略)

資料 5 - 1 - ② - 9

LL 教室を使用する授業科目

学年	学科	科目名	授業日
3 年	機械工学科	英語C-1	月 3, 4 校時
	電気工学科	英語C-1	火 3, 4 校時
	物質工学科	英語C-1	水 1, 2 校時
	建設環境工学科	英語C-1	金 5, 6 校時
	コミュニケーション情報学科	英語C-1	火 5, 6 校時
4 年	機械工学科	英語 I - 1	火 7, 8 校時
	電気工学科	英語 I - 1	木 3, 4 校時
	物質工学科	英語 I - 1	金 3, 4 校時
	建設環境工学科	英語 I - 1	水 3, 4 校時
	コミュニケーション情報学科	英語	金 1, 2 校時
5 年	機械工学科	英語	金 7, 8 校時
	電気工学科	英語	木 1, 2 校時
	物質工学科	英語	火 1, 2 校時
	建設環境工学科	英語	木 5, 6 校時
	コミュニケーション情報学科	英語	月 5, 6 校時

(出典：平成 19 年度授業時間割表)

資料 5 - 1 - ② - 10

福島高専の中期計画

I 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準(徳育、創造性教育を含む)

【C1】① 教養教育

○ 実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準

- (a) 【C1】【D1】人文・社会系:低学年においては高校レベルの一般的な内容を教授するとともに、学年進行とともに、情報検索・文献収集の能力の向上を図り、問題解決・課題探求能力の基礎形成を図る。
- (b) 【C1】体育:学生の体力向上を目指し、生涯スポーツに連携する基礎教育を行う。特に、スポーツ理論と実践を通して体得をさせる。
- (c) 【C1】理数系:工学系4学科は2年生までに、理工系大学進学レベルの内容をほぼ終了し、高専修了時には、大学レベルに到達させる。コミュニケーション情報学科はビジネス、経済で必要とされる数学を組み入れる。
- (d) 【E3】外国語(英語):工学系4学科は、3年までに実用英語検定準2級以上、卒業までに TOEIC 380 点以上を目標に教育する。コミュニケーション情報学科は、卒業時までに80%以上の学生が TOEIC スコア400点を突破することを目指す。
- (e) 【C1】国語能力:低学年においては、日本語を形成してきた文化的背景の理解に基づいた正しい言葉遣いや表記、基礎的な文章読解の能力を身につけさせる。
- (f) 【C1】日本語運用能力:4、5年生では、すでに習得した国語能力を応用して、卒業研究や就職・進学に対応できる日本語運用能力の充実を図る。
- (g) 【C1】【D1】倫理教育では、将来の職業人として技術者倫理や企業倫理について具体的な判断ができるよう教育を行う。

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、科学技術の進展や社会の要請及び学生のニーズ等に対応して、その都度教育課程の編成や改訂を実施してきた。特に、この数年の間に他の教育機関との単位互換協定が締結され、それらの協定やインターネットを介したeラーニングの受講生も増加してきている。また、社会的に重要な各種資格検定試験の合格者に対しては、特別学修として単位を認定する制度の規則整備も行い、数多くの学生に対して単位の認定を行っている。以上のことから、本校の教育課程は学生のニーズや学術の発展動向、社会からの要請等に対して十分配慮したものとなっている。

**観点 5-2-①：** 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況)

本校の教育課程は、学習・教育目標に沿って適切に配置されており、科目の授業形態は、講義、演習、実験・実習のすべてが採用されている(資料5-2-①-1)。工学系4学科とビジネス系1学科が養成する人材像に照らし合わせ、授業形態の全講義中に占める演習、実験・実習の比率の平均は36%となって、実際に体を動かしての授業が多くなっている。

一方、教材開発の面では、eラーニング教材開発グループを組織し、ビデオ・オン・デマンド(VOD)によるeラーニング教材作成システムを開発・構築している。登録した学生は、自宅や寮において利用でき、予習・復習や欠席したときの補習にも利用できる。平成17年度においては、1年次の物理、応用物理の授業も全て教材化するよう取り組んだ。また、コミュニケーション情報学科の情報関連授業でも、eラーニングなど活用した授業を積極的に取り入れ、プレゼンテーションでは問題解決学習などの工夫を凝らした授業を実施している。なお、これらの取り組みは平成17年度の特別研究経費として採択された(資料5-2-①-2)。

上記のほかに、本校準学士課程における特徴ある教育として、教員自身の著書による教科書を使用する等の教具・教材の工夫(資料5-2-①-3)、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生への対応等、学習指導方法の面で多様な工夫が行われている(資料5-2-①-4)。



平成18年度 教育目標と科目の授業形態

資料5-2-①-1

学科名	学年	単位数 割合(%)	教育目標A				教育目標B				教育目標C				教育目標D				教育目標E				教育目標F			
			講義	演習	実験	累計	講義	演習	実験	累計	講義	演習	実験	累計	講義	演習	実験	累計	講義	演習	実験	累計	講義	演習	実験	累計
一般科目 (工学系)	1	単位数 割合(%)	6 60	2 20	2 20	10 100	12 100		12 100				4 100			4 100			1 100	1 100		5 83	1 17	6 100		
	2	単位数 割合(%)	5 50	3 30	2 20	10 100	11 100		11 100				1 100			1 100			1 100	1 100		6 100	6 100	6 100		
	3	単位数 割合(%)	2 33	2 33	2 33	6 100	6 100		6 100				2 100			2 100						6 100	6 100	6 100		
	4	単位数 割合(%)	4 50	3 38	1 13	8 100					2 100	2 100										1 33	2 67	3 100		
	5	単位数 割合(%)		4 80	1 20	5 100																1 33	2 67	3 100		
一般科目 (コミ系)	1	単位数 割合(%)		4 67	2 33	6 100	5 100		5 100													4 31	5 38	4 31		
	2	単位数 割合(%)		4 67	2 33	6 100	5 100		5 100			1 100		1 100			2 100	2 100	2 100	2 100		4 33	6 50	2 17		
	3	単位数 割合(%)		2 50	2 50	4 100	2 100		2 100			2 100		2 100								6 50	4 33	2 17		
	4	単位数 割合(%)	4 44	4 44	1 11	9 100					4 100	4 100										4 67	2 33	6 100		
	5	単位数 割合(%)		2 67	1 33	3 100																1 50	1 50	2 100		
機械工学科	1	単位数 割合(%)						4 100	4 100				4 100	4 100				7 100	7 100							
	2	単位数 割合(%)				1 17	2 33	3 50	6 100			2 50	2 50	4 100	1 13	2 25	5 63	8 100								
	3	単位数 割合(%)	1 100			1 50	8 31	5 19	16 100			2 40	3 60	5 100	3 27	2 18	6 55	11 100								
	4	単位数 割合(%)				17 74	2 9	4 17	23 100			1 7	14 93	15 100	1 7	13 93	14 100					11 100	11 100	11 100		
	5	単位数 割合(%)				18 86	3 14	21 100	75 100	25 100	4 100		15 100	15 100	6 27	1 5	15 58	22 100				12 100	12 100	12 100		
電気工学科	1	単位数 割合(%)				2 33	4 67	6 100				2 40	3 60	5 100			3 100	3 40	2 60	3 40	2 60	3 60	5 85	5 100		
	2	単位数 割合(%)				3 60	2 40	5 100				1 25	3 75	4 100		2 40	3 60	5 100	5 25	5 75	4 100	3 75	4 100	4 100		
	3	単位数 割合(%)				10 45	12 55	22 100				3 50	3 50	6 100	2 29	2 29	3 43	7 100	2 40	2 40	3 60	5 60	5 100	5 100		
	4	単位数 割合(%)				26 100		26 100				6 100	6 100	5 50		5 50	10 100					6 100	6 100	6 100		
	5	単位数 割合(%)				19 95	1 5	20 100	5 100	5 100	5 100		12 100	12 100	7 37	1 5	11 58	19 100	2 15	2 15	11 85	13 100	13 100	13 100		
物質工学科	1	単位数 割合(%)				2 33	4 67	6 100					2 100	2 100			2 100	2 100				2 100	2 100	2 100		
	2	単位数 割合(%)				3 60	2 40	5 100					5 100	5 100			5 100	5 100				3 100	3 100	3 100		
	3	単位数 割合(%)				12 75	3 19	16 6	2 100		2 100		5 100	5 100	2 29	2 71	5 100	7 100				4 100	4 100	4 100		
	4	単位数 割合(%)	1 100			1 100	28 97	1 3	29 100	3 100		3 100	11 100	11 100	2 83	10 9	12 100	1 91				10 91	11 100	11 100		
	5	単位数 割合(%)	3 75	1 25	4 100	20 95	1 5	21 100	2 100	2 100	2 100		13 100	13 100	7 35	13 65	20 100	1 7				13 93	14 100	14 100		
建設環境工学科	1	単位数 割合(%)				1 33	2 67	3 100					3 100	3 100			3 100	3 100				2 100	2 100	2 100		
	2	単位数 割合(%)				3 38	2 25	5 38	8 100			2 100	2 100	2 33	4 67	6 100	6 100				1 100	1 100	1 100			
	3	単位数 割合(%)	1 100			1 100	9 53	3 18	17 100				4 100	4 100			8 100	8 100								
	4	単位数 割合(%)	1 100			1 100	24 96	1 4	25 100	1 100	1 100	1 100	8 89	9 100	3 33	6 67	9 100					7 100	7 100	7 100		
	5	単位数 割合(%)	2 100			2 100	14 74	2 11	16 100	3 100	3 100	7 7	14 93	15 100	1 6	16 94	17 100					13 100	13 100	13 100		
コミュニケーション情報学科	1	単位数 割合(%)				2 50	2 50	4 100		2 100	2 100		2 100	2 100			2 100	2 100				2 100	2 100	2 100		
	2	単位数 割合(%)				4 100	4 100	8 50		4 100	4 100	2 25	4 50	2 25	8 50	2 50	4 100									
	3	単位数 割合(%)	2 50	2 50	4 100	2 29	2 29	6 43	7 100	2 25	2 25	4 15	4 46	2 38	5 100	13 40	2 60	3 100	5 100		4 80	1 20	5 100			
	4	単位数 割合(%)	2 100			2 64	4 36	6 20	10 100	2 20	2 100	6 17	4 50	4 33	12 100	2 100						11 73	4 27	15 100		
	5	単位数 割合(%)		2 50	2 50	4 100	6 35	11 65	17 100	4 27	5 40	5 33	12 100	4 18	22 100			4 100	4 100			12 60	8 40	20 100		

(出典：認証評価小委員会試料)

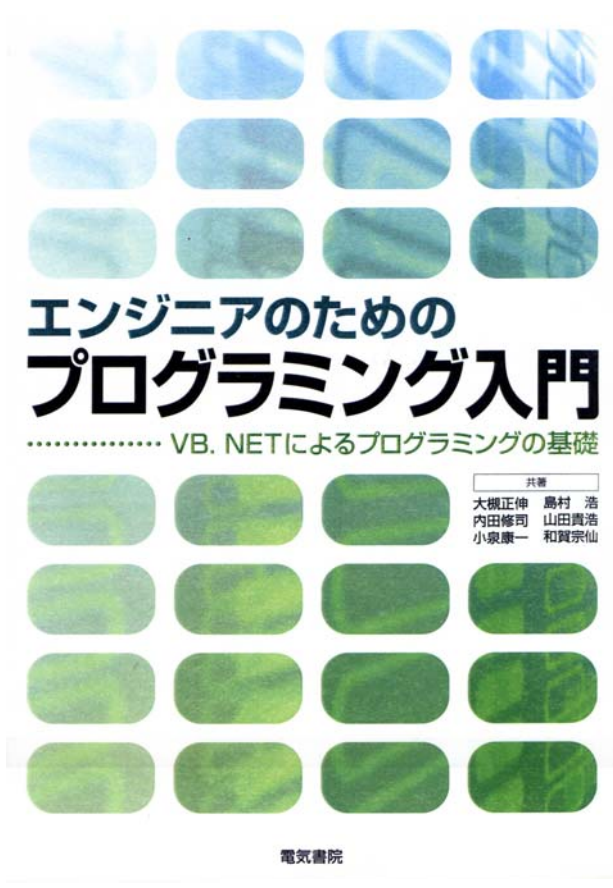
資料 5 - 2 - ① - 2



VODIによるe-ラーニングの授業風景

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

資料 5 - 2 - ① - 3



目 次

まえがき ..... iii

**基礎編**

第 1 章 Visual Basic .NET によるプログラミングの初歩 ..... 3

1. はじめに—プログラミングとは何か? なぜ、プログラミングをやるのか? ..... 3
2. コンピュータモデル ..... 4
3. コンピュータができる基本的な仕事 ..... 5
4. フローチャートと Basic 言語 ..... 6
5. Visual Basic におけるテキストボックス (TextBox) を用いた入出力 ..... 13

第 2 章 判断を含むプログラム ..... 17

1. 判断の基本 ..... 17
2. 判断文のいくつかのバリエーションと Goto 文 ..... 18
3. 応用プログラム ..... 22

第 3 章 繰り返し処理 ..... 25

1. 繰り返しの基本的な考えかた ..... 25
2. For ~ Next 文 ..... 27
3. For ~ Next による繰り返しの応用 ..... 29
4. While, Do ~ until による繰り返し ..... 31

第 4 章 配列と大量のデータ処理 ..... 36

1. 配列とは ..... 36
2. 配列を用いた処理 ..... 37
3. 配列を用いたデータの処理 ..... 41

第 5 章 2 次元配列のデータ処理 ..... 48

1. 2 次元配列とは ..... 48

目 次 ..... v

(出典：「情報工学基礎」教科書)



資料5-2-①-4

工夫された学習指導方法

学習指導法	工夫の事例	学科等
教具・教材	「情報基礎」における編集教科書の使用	全科1年
	化学実験室に実験装置や模型を常設展示	工学系1,2年
	各科の化学の定期試験問題の共通化による授業の解析と改善	工学系1,2年
	機械工作関連の安全テキスト、安全ノートの使用	機械
	「コンクリート構造設計演習」・「鋼構造設計演習」における教員自作設計計算書の使用	建設環境
少人数教育	実験・実習	工学系各学年
	工学セミナー	工学系4年
	英語関連授業でのグループ学習	コミ情報
	セミナー	コミ情報
	卒業研究	全科
対話・討論型授業	「生命科学」における学生相互の議論	物質
	「地域計画」コンセプトづくりにおける討議	建設環境
フィールド型授業	都市施設や建設現場の見学会	建設環境
	野外実験・調査	建設環境
	設計対象となる橋梁の見学	建設環境
情報機器の活用	低学年次からのコンピュータ教育	全科
	情報処理・情報処理演習	全科
基礎学力不足の学生への指導	授業担当教員の個別指導	全科
	オフィスアワーにおける指導	全科
	留学生・編入学生への指導	全科
	一般化学試験の低得点者に対する特別指導	物質

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、実践的技術者の教育に主眼をおいているため、講義、演習、実験・実習等の授業形態のうち、特に演習及び実験・実習科目の割合が36%とかなり高くなっている。したがって、教育の目的に沿った適切な授業形態となっている。さらに、eラーニング教材の開発など、学校全体としての取り組みも行われ、各学科及び各教科のそれぞれにおいて、工夫された学習指導方法が採られている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

工学系4学科ビジネス系1学科の全ての授業について、シラバスが作成され毎年更新されている(資料5-2-②-1)。さらに、シラバスは印刷物として各クラスに配布するほか、データベース化して、本校ホームページ上に公開している。

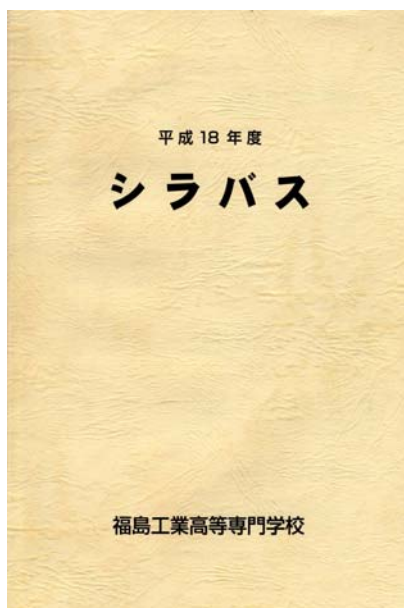
また専門学科シラバスにおいては、科目の概要と称して科目系統図が示され(資料5-2-②-2)、各科目のカリキュラム内での位置付けが明確にされている。

さらに、高学年である4、5年生の科目については、その科目が本校の掲げる学習・教育目標中のどの教育目標を達成するものであるのかを明確にするために、学習・教育目標関与割合一覧を添付した(資料5-2-②-3)。

科目の該当ページでは、授業概要、到達目標、本校の学習・教育目標との対応、JABEE基準1(1)との対応、履修上の注意、授業計画(授業項目、理解すべき内容)、使用教科書及び補助教科書、参考図書、評価方法を示している(資料5-2-②-4)。また、シラバスで紹介している教科書、参考図書は原則として図書館に配備するように努めている。

学修単位科目については、シラバスの中で「1単位の授業科目を45時間の学修(履修時間及び自学自習時間の総和)とするもの」と明示し、さらに当該科目の「履修上の注意」の欄に「自学自習の確認方法」も記している。各教員は授業開始時にシラバスを学生に提示し、そこに掲げた到達目標を達成すべく授業を行っている。

教職員対象に行ったアンケート調査結果のうち、シラバスの利用及び活用頻度についての結果を示す(資料5-2-②-5)。また、準学士課程の学生のシラバスに関するアンケート調査の結果も示す(資料5-2-②-6)。これらの結果から、教職員、学生ともにシラバスの内容を良く周知しており、またその活用頻度も高いことが分かる。



目 次

<b>【一般科目】（機械工学科・電気工学科・物質工学科・建設環境工学科）</b>	
教育課程……………	1-1
基礎数学A-1……………	第1学年…………… 1-2
基礎数学A-2……………	第1学年…………… 1-3
基礎数学B……………	第1学年…………… 1-4
物理……………	第1学年…………… 1-5
化学……………	第1学年…………… 1-6
英語A……………	第1学年…………… 1-7
英語B……………	第1学年…………… 1-8
英会話 I……………	第1学年…………… 1-9
国語……………	第1学年…………… 1-10
人文・社会科学基礎 I A……………	第1学年…………… 1-11
人文・社会科学基礎 I B……………	第1学年…………… 1-12
保健・体育……………	第1学年…………… 1-13
美術……………	第1学年…………… 1-14
線形代数……………	第2学年…………… 1-15
微積分 1……………	第2学年…………… 1-16
微積分 2……………	第2学年…………… 1-17
物理……………	第2学年…………… 1-18
化学……………	第2学年…………… 1-19
英語A……………	第2学年…………… 1-20
英語B……………	第2学年…………… 1-21
国語……………	第2学年…………… 1-22
人文・社会科学概論 A……………	第2学年…………… 1-23
人文・社会科学概論 B……………	第2学年…………… 1-24
社会調査法……………	第2学年…………… 1-25
保健・体育……………	第2学年…………… 1-26
ミニ研究……………	第2学年…………… 1-27
微積分 A……………	第3学年…………… 1-28
微積分 B……………	第3学年…………… 1-29
英語A……………	第3学年…………… 1-30
国語……………	第3学年…………… 1-31
地理……………	第3学年…………… 1-32
保健・体育……………	第3学年…………… 1-33
英語……………	第4学年…………… 1-34
文学（現代）……………	第4学年…………… 1-35
文学（古典）……………	第4学年…………… 1-36
文学（古典）……………	第4学年…………… 1-37
文学（現代）……………	第4学年…………… 1-38
文学（古典）……………	第4学年…………… 1-39
社会科学特講 I……………	第4学年…………… 1-40
社会科学特講 II……………	第4学年…………… 1-41
体育……………	第4学年…………… 1-42
第2外国語 I……………	第4学年…………… 1-43
英語……………	第5学年…………… 1-44
人間科学特講……………	第5学年…………… 1-45
体育……………	第5学年…………… 1-46
英会話 II……………	第5学年…………… 1-47
第2外国語 II……………	第5学年…………… 1-48

（出典：平成 18 年度シラバス）

資料 5-2-②-2

専門科目の概要(新教育課程)

機械工学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
			応用数学 A (2)	
			応用数学 B (2)	
		応用物理 I (3)	応用物理 II (2)	
			環境工学 (1)	
				工業英語 (1)
情報基礎 (2)	情報処理基礎(2)	情報処理 I (1)	情報処理 II (1)	情報工学特講(1)
				計測工学 (1)
				制御工学 (2)
				生産工学 (2)
		電気工学基礎(1)	機械電気工学概論(1)	電気回路 (1)
			メカトロニクス(1)	電子回路 (1)
			CAD, CAM(1)	
機械製図 I (2)	機械製図 II (2)	設計製図 I (2)	設計製図 II (2)	応用設計製図(3)
				設計工学 (1)
			機構学 (2)	
	機械工作法 I (1)	機械工作法 II (2)		
				精密工学 (1)
モノづくり基礎(3)	モノづくり実習(3)	創作実習 (3)		
		材料学 I (1)	材料学 II (1)	材料強度学 (1)
		工業力学 I (1)	工業力学 II (1)	
		材料力学 I (2)	材料力学 II (1)	
			機械力学 I (1)	機械力学 II (1)
			熱力学 (2)	エネルギー工学(1)
				熱工学 (2)
			水力学 (2)	エネルギー機械(1)
				流体力学 (1)
			工学実験 (6)	
			校外実習 (1)	
				知的財産権 (1)
			工学セミナー(2)	卒業研究 (9)

□ 必修科目   □ 選択科目   ( ) 単位数

(出典：平成 18 年度シラバス)

福島高専 学習・教育目標関与割合一覧 (機械工学科)

授業科目	A					B					C					D					E					F									
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
英語 (4年)	70	30																																	
社会科学特講 I	30																																		
社会科学特講 II	30				50																														
第2外国語 I																																			
英語 (6年)																																			
人間科学特講	20	10	30	10	30																														
英会話 II																																			
第2外国語 II																																			
設計製図										30																									
工学セミナー																																			
応用数学A						100																													
応用数学B						100																													
応用物理 II						50				50																									
情報処理						20				20																									
材料科学 II						100				100																									
材料力学 II						100				100																									
機械力学 I						100				100																									
メカトロニクス I						100				100																									
電気工学 I						100				100																									
校外実習						100				100																									
力学演習 I						100				100																									
力学演習 II						100				100																									
熱力学						100				100																									
水力学						100				100																									
メカトロニクス II						100				100																									
工業デザイン						100				100																									
設計製図						100				100																									
工学実験						100				100																									
工業英語						100				100																									
流体力学 I						100				100																									
設計工学						100				100																									
高工学						100				100																									
制御工学						100				100																									
生産工学						100				100																									
機械力学 II						100				100																									
エネルギー工学						100				100																									
電気工学 II						100				100																									
計測工学						100				100																									
知的所有権						100				100																									
情報工学						100				100																									
生産機構						100				100																									
材料学 I						100				100																									
材料学 II						100				100																									
流体力学 II						100				100																									

(出典：平成18年度シラバス)

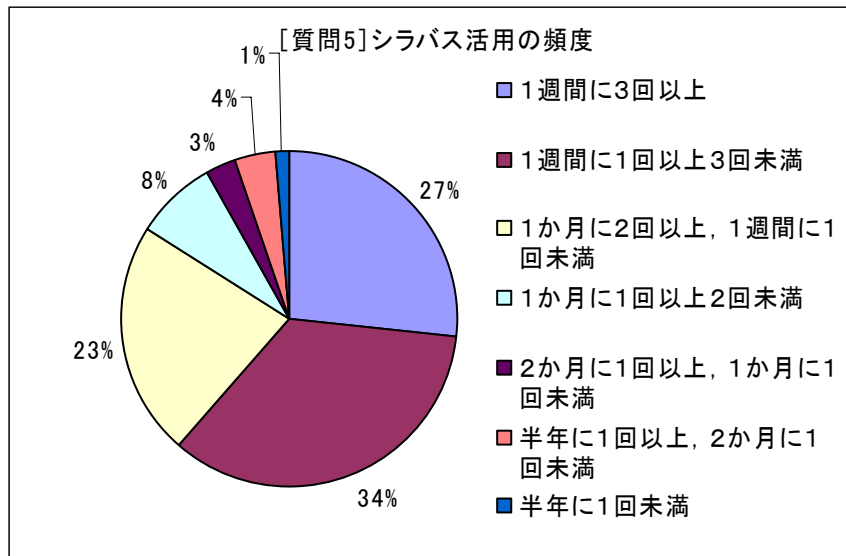
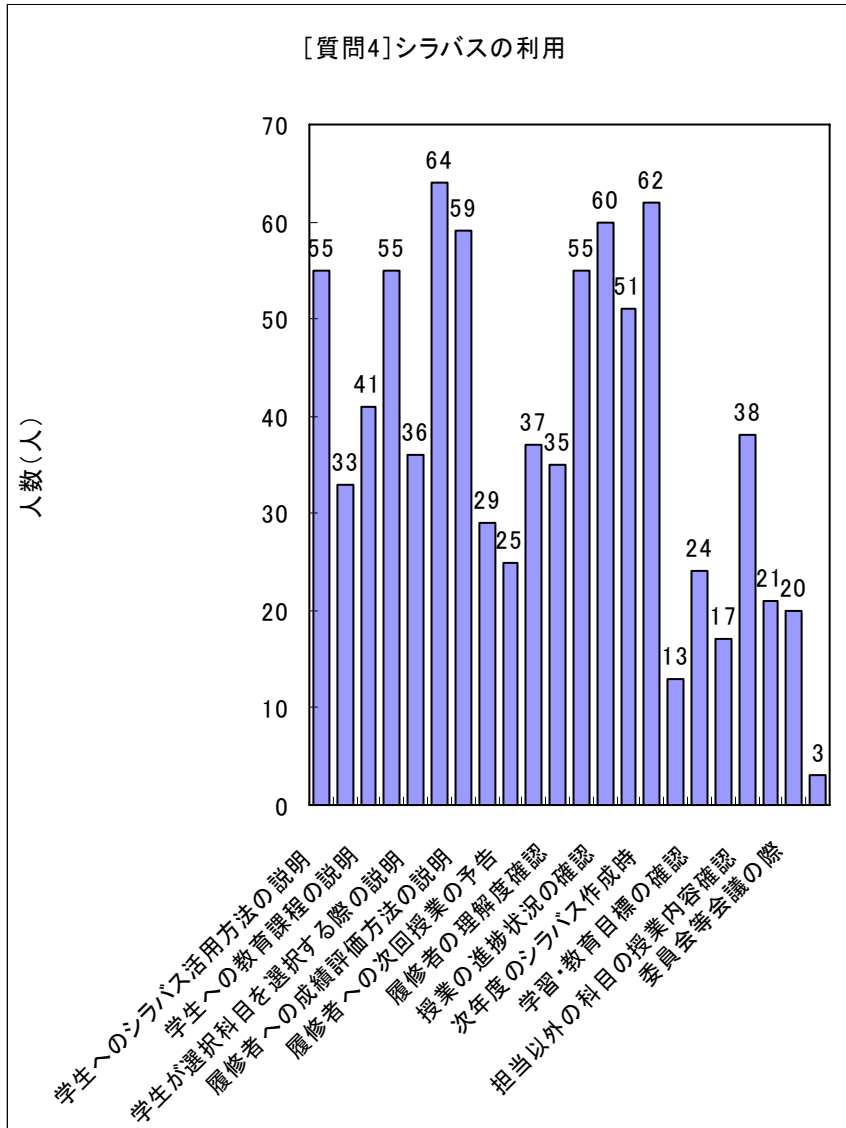
授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
工業英語 Technical English	5	2 * (30)	必修	通年 週1時間 A	春日 健
授業概要	技術英語に関して和文英訳を中心に学習する。				
到達目標	①卒業研究のabstractが書ける。 ②工業英検3級の資格が取得できる。 ③コンピュータに関する英文記事を理解できる。 ④技術英文特有の表現を理解し、応用できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-5). (F-4). (F-5). (F-6). JABEE基準1(1)との対応:(d)-(2)-d). (f).				
履修上の注意	専門用語の理解と共に原文から英文に直す過程を把握する。 自学自習の確認方法・・・課題プリントを配布し、定期的(1回/月)に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	「目的」の表現	in order to, so as to, for the purpose of			
第2週	「原因・理由」の表現	because of, due to, in view of			
第3週	「結果」の表現	therefore, thus, result from, consequently			
第4週	「影響」の表現	influence, have an effect on, affect			
第5週	「可能・能力」の表現	be capable of, enable—to...			
第6週	「調べる」の表現	examine, study, investigate			
第7週	前期中間試験				
第8週	「使用」の表現	utilize, apply, employ, take advantage of			
第9週	「提案」の表現	propose, suggest, come up with			
第10週	「示す」の表現	show, present, illustrate, demonstrate, indicate			
第11週	「分類・分割」の表現	classify, fall into, separate			
第12週	「手段・方法」の表現	by, by means of, with, through, in terms of			
第13週	「役立つ」の表現	be useful, make for, of use			
第14週	「必要」の表現	require, demand, essential, indispensable			
第15週	「一致」の表現	agree with, correspond to(with)			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	「類似・同等」の表現	be similar to, be equal to, the same as			
第17週	「相違」の表現	be different from, contrast with, unlike			
第18週	「関係」の表現	relate to, in(with) relation to			
第19週	「比較」の表現	one of the + 最上級 + 名詞			
第20週	「比例・比率」の表現	be proportional to, at(in) a rate of			
第21週	「条件・仮定」の表現	provided [that], assume, suppose			
第22週	後期中間試験				
第23週	「構成(要素)」の表現	compose, comprise, consist of, involve			
第24週	「作る」の表現	produce, build, assemble, put together			
第25週	「依存」の表現	depend on, rely on			
第26週	「維持・保持」の表現	maintain, hold, preserve, retain			
第27週	「変化」の表現	change—into..., vary, turn—into			
第28週	「引き起こす」の表現	cause, induce, bring about, give rise to			
第29週	「供給」の表現	provide, supply, feed			
第30週	「調節・修正」の表現	adjust, control, modify			
後期末試験	実施する				
教科書	プリント使用				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を80%、課題の総点を20%として総合的に評価する。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)



基準5（教職員）

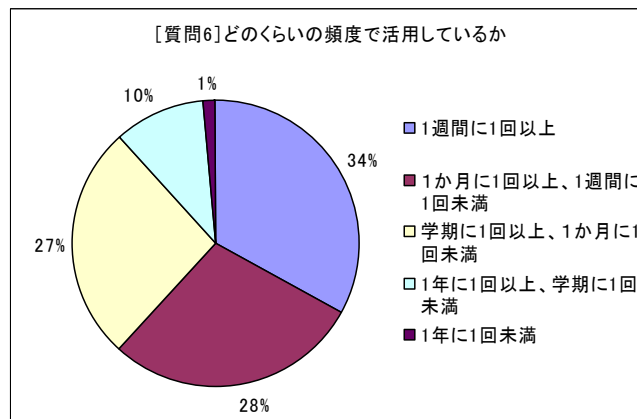
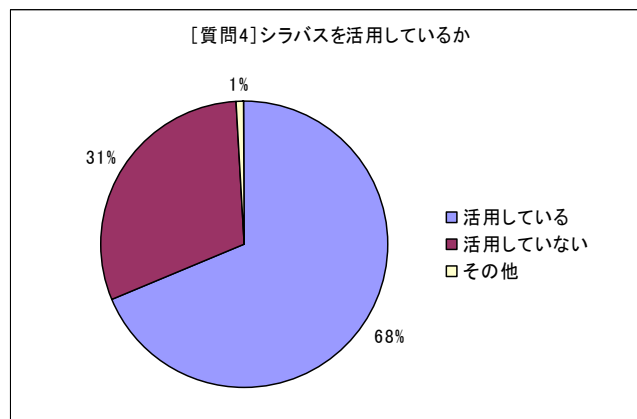
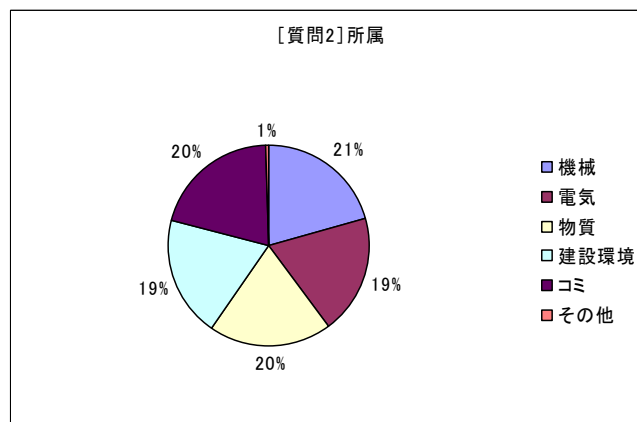
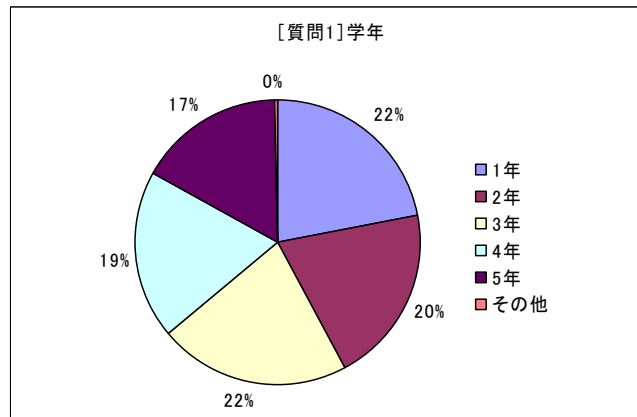
資料5-2-②-5



(出典：認証評価委員会資料)

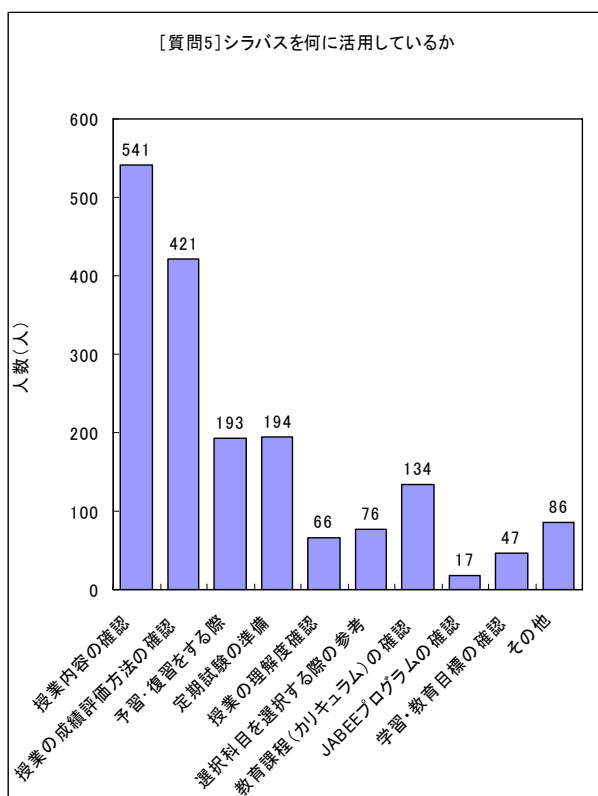
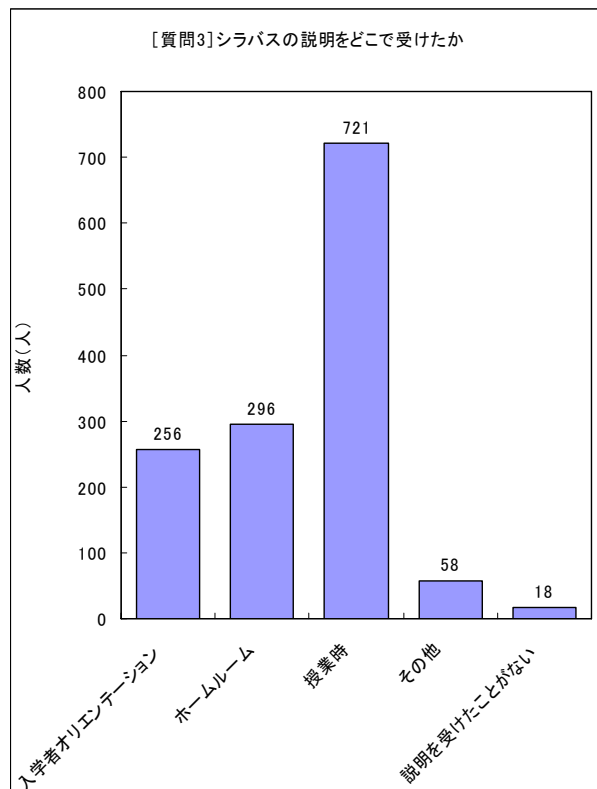
シラバス（準学士課程）

資料5-2-②-6



(出典：認証評価委員会資料)

シラバス（準学士課程）



(出典：認証評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、教育の目的と教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、学生に配布されている。シラバスの中には、授業概要、到達目標、教育目標との対応、履修上の注意、授業計画、評価方法等を明示しており、授業科目の受講や学生が自己学習する上での拠り所となっている。これらのシラバスの周知と利用頻度等に関して行ったアンケート調査の結果によれば、教職員及び学生のいずれについても、シラバスの利用頻度はかなり高く且つ有効に利用されている。

**観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

(観点到に係る状況)

工学系学科の4年次においては、主に長期の夏季休業期間中に企業や官公庁等での原則2週間にわたるインターンシップを必修科目と位置づけ、報告書作成と実習報告会での口頭発表またはポスター発表をもとに「校外実習」として1単位の認定を行っている。このような企業や役所及び大学のオープンキャンパス等を利用しての校外実習には、工学系4学科4年の学生がほぼ全員参加している（資料5-1-②-10）。一方、コミュニケーション情報学科では、インターンシップを選択科目とし、工学系学科と同様に4年次に原則2週間の研修を行った後、報告会を行い、「実務研修」として1単位の認定を行っている。参加者はクラスの半数程度である（資料5-1-②-10）。

本校では、平成18年度から、全学科2年生を対象に、全教員の指導のもと、専門分野の枠を超えた自由な発想・創造性を生かした新たな科目として「ミニ研究」を導入し実施している。研究テーマ（課題）を考え、調査・分析、実験・解析、モノづくりなどを行い、報告書にまとめるとともに、その成果について発表するポスターセッション形式の「ミニ研究発表会」を実施している（資料5-2-③-1～2）。また、学科単位の新しい教育的取り組みの事例として、機械工学科では実社会に役立つプロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデア創出、計画立案、実現等を学生に遂行させる独自の学習・教育方法を実践している。講義、実験・実習を受け身でなく主体的に学び、設計・製作することの難しさと完成の喜びを実際に体験させるものである。以下に、このような機械工学科の「総括実習」の実施例（資料5-2-③-3）と、他の学科におけるモノづくり教育の実施例（資料5-2-③-4）を示す。

工学系4学科では4年次に「工学セミナー」、コミュニケーション情報学科では3～4年次に「セミナー」の科目を開設し、各教員の指導の下で専門分野の課題探求・問題解決能力の育成をめざし、5年次の「卒業研究」を行うための基礎的知識と技術を習得するため、文献の講読や検索、実験や討論・発表などを行なっている。文章論述やプレゼンテーションなど、コミュニケーション能力の育成のため、報告会を実施するとともに実施報告書の作成などを行っている。

5年次の「卒業研究」は、準学士課程の集大成として、各教員の指導の下で専門分野の研究課題を学生自らが設定し、これまで修得した知識や技術を応用しながら、研究の過程を通して、課題探求及び解決能力、創造的な実践力の育成をめざしている。

ミニ研究のシラバス

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ミニ研究 Research Practice	2	1 (30)	必修	前期 週 2 時間 C	全教員 (ただし専攻科特別研究 担当者を除く)
授業概要	担当教員から出された課題研究テーマを1年次の後半にとりまとめ、学生に提示する。学生は希望するテーマを選択し、2年前期に担当教員の指導のもとでミニ研究を行い、前期末にミニ研究発表会において成果を報告する。				
到達目標	課題研究を通して、低学年のうちに「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という基礎的能力を養い、高学年での学習に必要な資質を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-1).(E-2)				
履修上の注意	受動的な学習態度ではなく、積極的かつ自発的に研究に取り組む事が望まれる。				
<p><b>授業計画</b></p> <p>学生は担当教員の指導のもと、下記のようなテーマについて研究を進める。平成18年度の課題テーマ(テーマ総数45)をいくつか以下に列挙する。</p> <p style="text-align: center;">テーマ例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦前における柔道技の変遷</li> <li>・コンクリートの強さの秘密を探る</li> <li>・知能ロボットの制作による,機械及び制御技術の探求</li> <li>・数学を活用しよう</li> <li>・ルービック・キューブで遊ぼう</li> <li>・テニスのストリングの張力とボールの跳び方の関係について</li> <li>・オーディオ機器の自作に挑戦</li> <li>・天体写真を撮ろう - 昼間に見える星を見よう</li> <li>・和本・洋本を作ってみよう</li> <li>・将棋等の知能ゲームプログラムの歴史</li> <li>・オノマトペ分析 --- マンガに見られるオノマトペ(音喩・形喩)分析</li> <li>・岡倉天心を通して日本の伝統文化とその歴史を考える</li> <li>・国際会議に参加したつもりでコンピュータを英語で説明しよう</li> <li>・TeX による数式を含む文書の作成</li> <li>・戦史を研究する</li> <li>・いわき学をつくる・・・いわきについてあれこれ考え、調べてみよう</li> <li>・教わってないのにどうしてわかるの? --- 文法知識のなぞ</li> <li>・ステレオグラムで3Dアートを作ろう</li> <li>・生物の不思議-おもしろい実験・観察でたしかめる</li> <li>・小中学校の授業支援</li> <li>・英語の話し言葉の研究(語用論入門)からダイアログ制作へ</li> <li>・身近な地域をリモートセンシング技術で調べる</li> <li>・地図化してみる日本と世界</li> <li>・インドについて調べる</li> <li>・地球温暖化対策について</li> <li>・福島県生まれの文学者を調べる</li> <li>・観測する技術~リモートセンシングの世界~</li> <li>・社会の仕組みについて考える</li> <li>・英語と日本語の違いを捜そう</li> <li>・数学の歴史</li> <li>・ハーブの秘密を探る</li> <li>・強い橋構造を創ろう</li> <li>・暗渠をつくる</li> <li>・新聞を読む</li> </ul>					
教科書	各テーマについて指導教員より指示がある。				
参考図書	各テーマについて指導教員より指示がある。				
評価方法	指導教員点 (80%)、チーム発表点 (20%) として評価する。				

(出典：平成 18 年度シラバス)

「ミニ研究」の新聞記事

(11) (第三種郵便物認可) いわき民報 (夕刊) 平成18年(2006年)10月31日(火曜日) 第18439号



ポスター発表風景

▶ 早期教育「ミニ研究スタート」◀

2年生を対象とした「ミニ研究」の授業がスタートした。この授業は、「自分で調べる・考える・まとめる・報告する・発表する」という過程を低学年のうちに訓練し、高学年で体験するインターンシップや卒業研究に必要な資質を学生たちに身に付けさせることを目的として、今年度から導入された。一般教科、専門学科を問わず、ほぼ全ての教員が指導にあたり、2年次の学生に自主学習・自主研究の機会を与える授業は、全国高専の中でも類を見ないユニークな試みである。

昨年度の後期、まず、教員が指導するテーマを発表した。これらは各教員の専門分野に限ることなく、趣味として取り組んでいる内容も含んだ幅広い分野にわたっている。その中から、1年生が「自分で調べてみたい、考えてみたい、作ってみたい」テーマを選択し、何度かの調整を経て、5学科200人あまりの学生が44テーマに配属された。4月以降の毎週2時間程度、学科を超えて構成された各チームが、指導教員の研究室や実験室などに集って、和気あいあいと作業を進めてきたのである。

▶ 熱気あふれる発表会◀

9月26日、体育館を会場として、ミニ研究の発表会をポスターセッション形式で開催した。ポスターセッションとは、大きなパネルの上に掲示した十数枚のポスターに基づいて、ブースを訪れた一人一人に研究成果を説明し、理解してもらう発表形式である。縦120センチ横180センチのパネルが、各チームに1枚ないし2枚割り当てられた。模造紙に手書きしたポスター、色とりどりの紙を切り抜いて華やかな図柄を貼り付けたポスター、コンピュータを使って整然と描かれたポスターなど、見る人を引きつけるために、さまざまな工夫を凝らしたパネルが立ち並んだ。また、実験に使用した機材や製作した機器を展示したり、実際に動作させたりするチームもあり、まるで実験室のような一角もある。

ポスターセッションでは、ただ単に「見てもらう、理解してもらおう」だけではなく、あらゆる質問に、その場で答えなくてはならない。分厚い資料を手に、緊張した面持ちで説明する真剣な姿が見られた。



安久校長の質問

福島高専の挑戦  
ミニ研究、自分で調べ・考え・まとめる・発表する

25

▶ 幅広いテーマ ▶

「プラネタリウム用ドームをつくらうー1万個の星空を見よう」をテーマに研究と製作に取り組んできたチームは、星の運行を説明したポスターとともに自作のプラネタリウムドームを展示し、星の世界を体験するコーナーを設けた。1万個の星を映し出せるようにドームを設計し、手作業で厚紙を切り抜き、ドームを製作したメンバーは、きれいに映し出すために慎重に機材を設置しながら準備を進めた。発表会の間も装置の手直しを繰り返し、手作りとは思えない美しい星空を再現することに成功した。プラネタリウムを見た来場者からは感嘆の声が溢れた。

「身近な地域をリモートセンシング技術で調べる」をテーマとして取り上げたチームは、人工衛星から見たいわき市の様子を数多くの写真で紹介した。太陽の光は土や植物など地表の状態によって反射の仕方が違う。その仕組みを利用して、はるかに上空の人工衛星から地上の様子を正確に捉える最先端の技術を、学生たちは実際の土や植物を展示しながら説明した。ブースを訪れた人々は、宇宙から見たいわきの姿に興味津々の様子であった。

夏休み中にもかかわらず、毎日のように登校して作業を続けたチーム、合宿をしながら最後のまとめを行ったチームなど、一所懸命に準備をしてきた学生が多く、熱のこもったプレゼンテーションが展開された。教職員はもとより、2年生以外の学生や専攻科生など、予想をはるかに超える数多くの来場者を迎え、会場内には若々しい活気がみなぎっていた。学生たちにとって、普段の授業では味わうことのできない、とても貴重な体験となった一日だった。



自作プラネタリウム

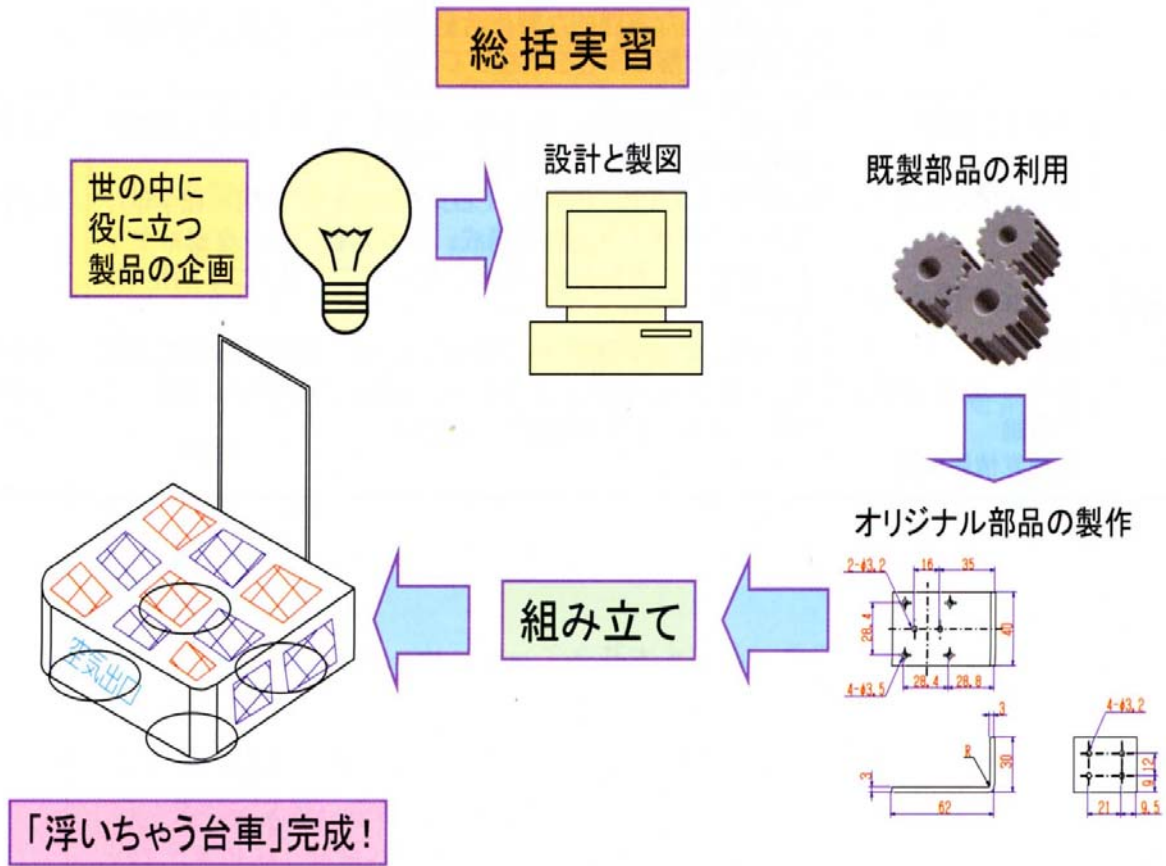
宇宙から見たいわき市

**「ミニ研究」を終えて**  
地図化してみよう  
建設環境学科  
2年 坂本 晴  
今年「ミニ研究」を行う上で、より充実した研究となるように、普段は使っていないようなソフトを使って世界を地図化する事ができるテーマを選びました。  
実際に研究を進めてみると、思った以上にソフトウェアをまとめることや地図作成などが難しく、すべての作業が終わったときは疲労感がいっぱいでしたが、達成感を感じることができました。  
研究成果を、先生に聞いていただき、先生の名前の研究  
「ミニ研究」を終えて  
地図化してみよう  
建設環境学科  
2年 佐々木 裕香  
「売れど」でテーマを選びました。いざ実行すると想像以上に大変でしたが、各前の経験を知るとは、発表会直前まで研究し、当日は先生方から早期発表の機会をいただけました。研究をまとめることが大変な作業を実感し、卒業研究でも頑張ろうと思っています。

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)



資料 5 - 2 - ③ - 3



機械工学科「総括実習」

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における  
「自己点検・評価」報告書)

モノづくり教育の実施例

学 科	事 例	内 容	学年等
機械 工学科	総括実習 (市民に役立つ モノづくり)	1年次の「モノづくり基礎」、2年および3年前期の「工作実習」の集大成として、3年後期の11週を用いて「総括実習(市民に役立つモノづくり)」を実施している。10人前後のグループで4班に編成し、「市民に役立ち、動く物」のテーマに対して、学生自身の自由な発想から作品を企画・設計させている。総括実習を通して、製図、見積もり、部品の発注、加工、評価等のモノづくりに関連する全工程を体験させている。また、成果発表会を公開で実施し、作品を学内の教職員および報道機関に披露している。	3年
電気 工学科	モノづくり実習	アナログテスター(1学年)、ラジオ(2学年)、トランジスタ・オペアンプ(3学年)、各種センサを利用した自由創作(4学年)、周波数カウンタ(5学年)の製作。4年次に行う自由創作は、延べ30時間を超える実習となっており、単に回路設計のみならず、起案書、報告書の作成、報告会の実施など、実践的技術者にとって必要なプレゼンテーション能力の育成も目指している。	1~5年
物質 工学科	創作実習	幅広い教育を行うために、機械工作・電気工作を教材とした工法および工具や測定器の使用法を習得し、「モノづくり」の楽しさを体感させている。授業の最終週に、競技会を実施している。	3年
建設環境 工学科	工学基礎 材料実験 セミナー	1学年：建設環境工学基礎で、橋の模型の設計と製作、強度コンテストを行っている。 2学年：材料学実験で強度の高いコンクリーを旨とした配合設計と供試体作成、強度実験の一連の過程を経験させている。 4学年：セミナーのテーマとして、コンクリートのケーソン模型の設計・製作、デザインコンテストを旨とした強い橋模型の設計・解析・製作を取り上げている。 このような実践的な製作活動を通じて、学生に専門分野に対する理解と関心を喚起している。	1,2,4年
コミュニ ケーション 情報学 科	デザイン演習 ビジュアル情報 セミナー 広告・広報メディア概論 視聴覚情報概論	デッサン、色彩描写、POPカード制作、レタリング(1学年)編集デザイン、色面デザイン(2学年)CGデザイン基礎、色彩学、CDジャケットデザイン(2学年)、スカーフデザイン、色彩構成、絵本基礎、ブックジャケットデザイン、カレンダー制作、オープニングアニメ制作(3学年)シンボルマーク制作(4学年セミナー)、新聞・雑誌広告制作、CMプラン制作、ポスター、看板、パッケージ制作(5学年)平面・立体錯視制作(5学年)	1,2学年 2,3学年 4学年 5学年

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、「ミニ研究」、「モノづくり教育」、「工学セミナー」等、学年進行に合わせて創造性を育むための教育が展開され、実施されている。また、インターンシップを必修科目に設定し、実習報告書の作成や実習報告会の開催等を通して、企業や社会の技術について考えさせ、創造性や実践性を育む教育を積極的に行っている。以上のことから、創造性を育む教育方法(PBLなど)の工夫やインターンシップの活用が行われている。



観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価は、科目ごとに定期試験の成績及び平素の成績の総合評価とし、定期試験を行わない科目については平素の成績により評価している。定期試験及び平素の成績の各項目における割合については、シラバスに明記しており、講義の種類により定期試験の割合を規定している(資料 5-3-①-1)。単位の認定は、科目の成績が 60 点以上の場合に行っており(資料 5-3-①-2)、また、再試験の実施に係る規定も整備されている(資料 5-3-①-3)。

これらの成績評価に関する規定は、学生便覧に記載され、全学生に配布される学生便覧に記述されている。以下に、準学士課程の学生に対して行った成績評価に関するアンケート調査の結果を示す(資料 5-3-①-4)。その結果によれば、いずれの項目についても良く周知されていることが分かる。なお、このような成績評価に関する周知指導は、主に学級担任や授業担当教員を通じて行われている。

担当教員から提出される成績は、Web 上で成績処理プログラム(資料 5-3-①-5)により入力が行われ、コンピュータ処理により単位認定資料の作成が行われる。成績評価やこれらの資料のチェックは教務委員会で作業が行われ(資料 5-3-①-6)、必要に応じて担当教員に修正を促している(資料 5-3-①-7)。また、これらの資料は全教員が参加する課程修了認定会議ならびに卒業認定会議に資料として提出され(資料 5-3-①-8)、評価の妥当性に関する確認がなされている。

教員により評価された成績は、過程修了認定会議後すみやかに学生の保護者に郵送される。もし、この成績に異議申し立てがある場合には、学生課を通じて教務委員会に連絡され、必要があれば担当教員の意見を聞き、定期テストのエビデンス資料を基に再検討することとしている。

課程修了及び卒業の認定は、授業科目の修得単位数、当該学年における特別学修の単位数、特別活動への参加状況を総合して判定し、教員会議の議を経て校長が認定している。

資料 5-3-①-1

- 3 定期試験及び平素の成績の各項目の評価における割合についてはシラバスに明記する。A、Bの科目については、定期試験の割合を70%以上とする。

(出典：教務手帳)

資料 5-3-①-2

第3条 修得単位の認定は、次のとおりとする。

- (1) 大学及び本校専攻科並びに他の高等専門学校（以下「大学等」という。）において履修した授業科目の単位数は、そのまま本校で修得した単位数として読み替えるものとする。
  - (2) 前条第4号に定める技能審査の合格によって認定できる単位数は、別表のとおりとする。ただし、同一の試験で複数の級に合格した場合は、既に認定された単位数と当該上位の単位数との差を修得単位として認定するものとする。
- 2 前項(2)により認定する単位数は、10単位を超えないものとする。

(出典：教務手帳)

資料 5-3-①-3

(再試験)

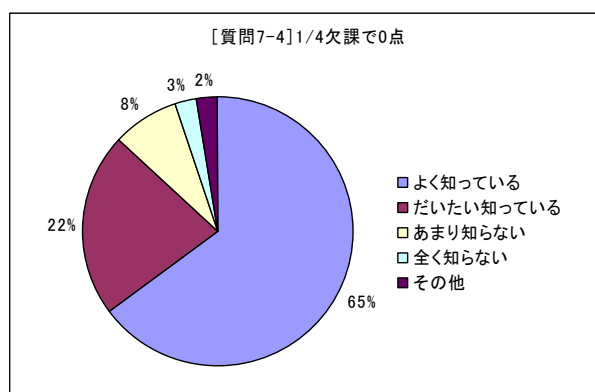
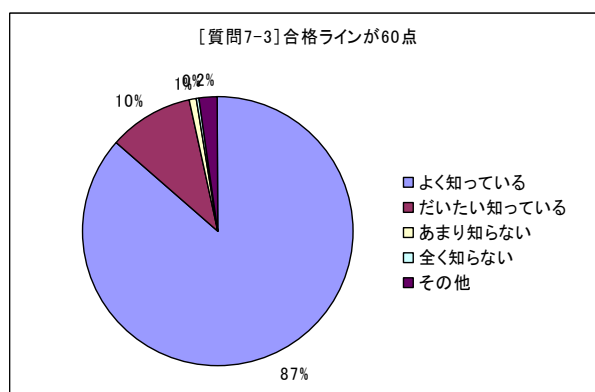
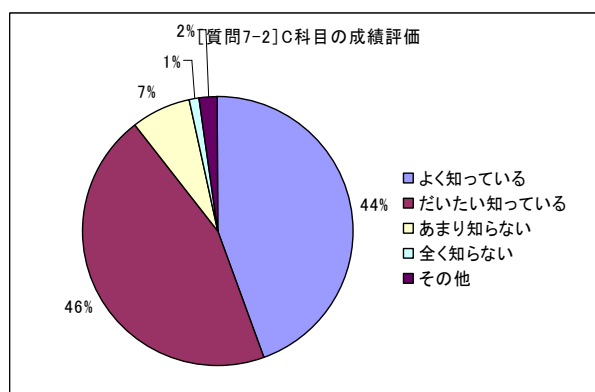
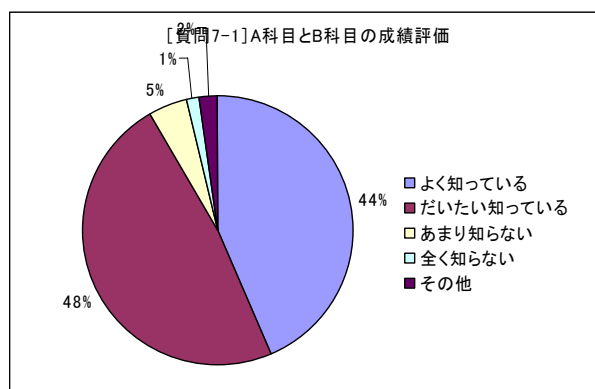
第9条 A及びBの科目については、再試験を実施することができる。

- 2 再試験は、学年の成績が50点以上の成績不良科目について実施する。
- 3 再試験は、成績伝票最終提出期限までに行う。ただし、前期で終了する科目については11月末日までに行う。
- 4 再試験の結果は、合・否をもって行い、「合」と評価された科目の学年の成績評価を60点とする。
- 5 第6条第1項各号のいずれかの事由により再試験を欠席した者には成績伝票最終提出期限までの間に追試験を行うことができる。
- 6 再試験の実施方法等について必要な事項は、別に定める。

(出典：教務手帳)

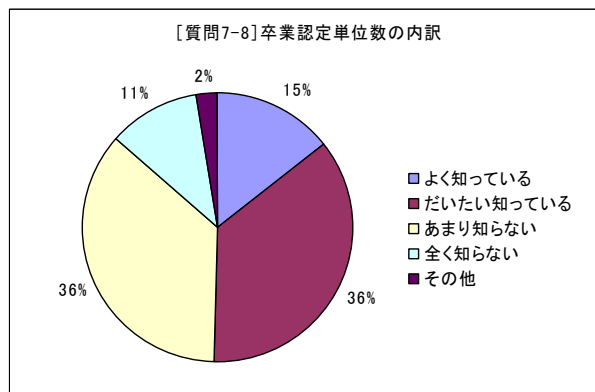
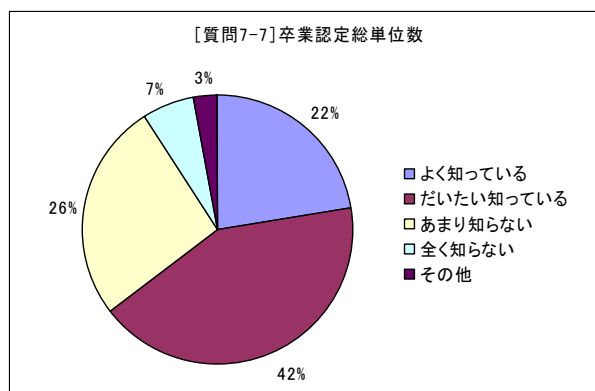
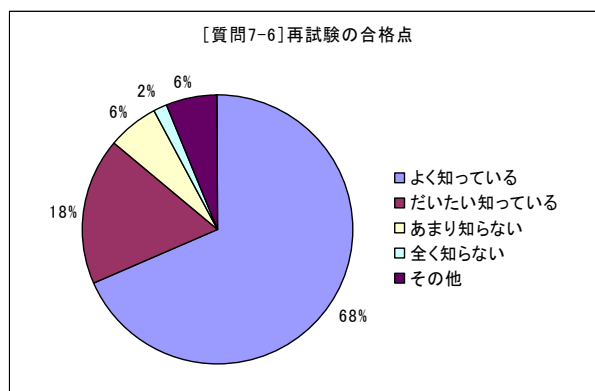
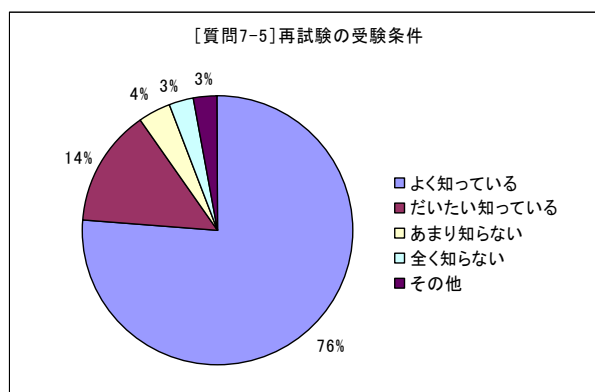
資料5-3-①-4

準学士課程学生の成績評価方法に関するアンケート結果

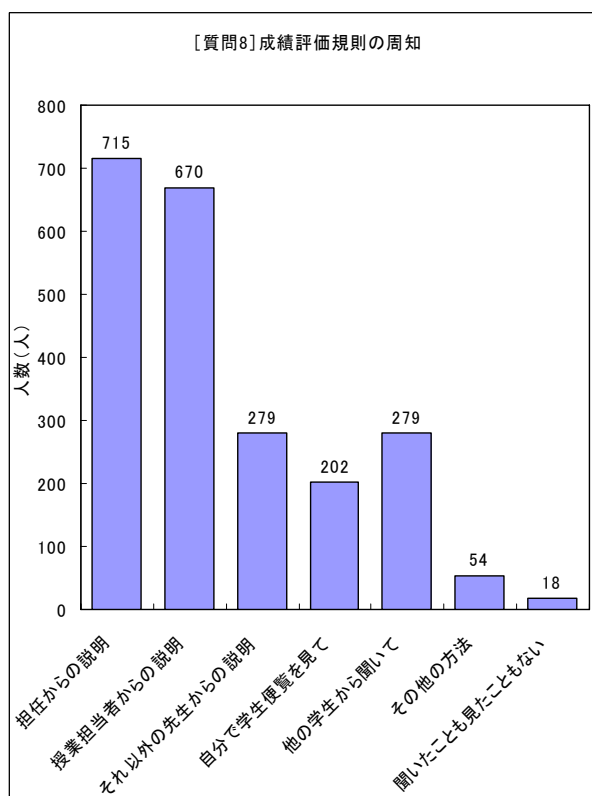
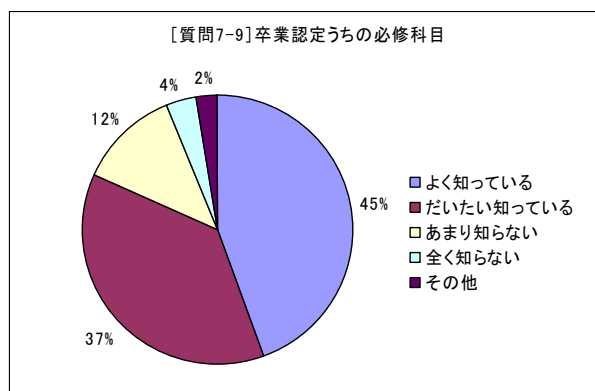


(出典：認証評価委員会資料)

準学士課程学生の成績評価方法に関するアンケート結果



準学士課程学生の成績評価方法に関するアンケート結果



(出典：認証評価委員会資料)

**成績登録**

成績入力期間 2007/02/06 ~ 2007/02/26 欠課入力期間 2007/02/06 ~ 2007/02/26  
 実施科目 1年 建設環境工学科 製図法

※「日々計」は、授業出欠入力メニューより日々入力された上記試験までの出欠状況です。

学生番号	氏名	成績履歴				成績	遅刻		欠課		評価 不能
		[前中] 総授業数 純授業数		[前末] 総授業数30 純授業数30			入力	日々計	対象	日々計	
		前中	前末	後中	学末						
1K01			74								<input type="checkbox"/>
1K02			71								<input type="checkbox"/>
1K03			76								<input type="checkbox"/>
1K04			80								<input type="checkbox"/>
1K05			78								<input type="checkbox"/>
1K06			74								<input type="checkbox"/>
1K07			76								<input type="checkbox"/>
1K08			70								<input type="checkbox"/>
1K09			74								<input type="checkbox"/>
1K10			-	-	-	-	-	-	-	-	-
1K11			77								<input type="checkbox"/>

[異動状況一覧] [学生数一覧] [トップへ戻る] [ログアウト]

(出典：キャンパスアシスト)

資料 5-3-①-6

2006-20-1

## 平成 18 年度 第 19 回教務委員会会議録

日時 平成 18 年 9 月 7 日 (木) 13:30~16:35  
 場所 小会議室

出席者 教務主事：  
 主事補：  
 教務委員：

欠席者  
 配布資料

- 2006-19-1 平成 18 年度第 18 回教務委員会会議録
- 19-2 平成 18 年度前期成績一覧表
- 19-3 平成 19 年度年間行事予定 (案) 作成の基本方針
- 19-4 平成 18 年度欠席・欠課等の調査結果
- 19-5 未踏ソフト開発に伴う夏季校外実習への振替え
- 19-6 平成 18 年度校長戦略経費配分一覧

## 議 題

1. 平成 18 年度前期成績について (山本)
  - ①各委員へ事前にチェックの分担を依頼しており、疑問箇所等を検討した。
  - ②次回委員会までに緑川主事補が教科担当教員へ連絡を取り修正する。
  - ③ミニ研の成績は教員会議後に入力するため前期成績通知票には載せないこととした。
  - ④再試験成績入力期間を JABEE 受審に伴い 23 日～24 日を 25 日～26 日に変更した。  
ミニ研成績の入力もこの期間中とする。
2. 特別学修単位認定規則及び卒業等一覧の改定について (継続) (主事)

(出典：教務委員会資料)

資料 5-3-①-7

## 成績評価事項の再確認依頼の例

From: [redacted]  
 Subject: 前期成績 (人文・社会科学基礎) について  
 Date: 2006年9月8日 10:23:36 JST  
 To: [redacted]

●●先生

前期総合成績の入力データについてご確認させていただきます。  
 1年物質の人文・社会科学基礎の[redacted]の欠課時数2時間が出席簿と合致しておりません。間違いありませんでしょうか？  
 申し訳ありませんが、もう一度ご確認いただき、変更あり、変更なしに関わらず、9/14 (木) まで教務係[redacted]さん (内線 2728、メール：[redacted]@fukushima-nct.ac.jp) までご連絡頂くようお願いいたします。

[redacted]  
 独立行政法人国立高等専門学校機構  
 福島工業高等専門学校 建設環境工学科  
 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30  
 Tel:0246-46-0835,Fax0246-46-0843  
 E-mail:[redacted]@ma-nct.ac.jp

(出典：教務委員会資料)

成績一覽表 学年総合 第1学年 機械工

科目番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	席次	平均点	総合得点	取得単位数	累積不可		
科目名	基礎数学A-1	基礎数学A-2	基礎数学B	物理	化学	英語A	英語B	英会話I	国語	基礎文・I・A社会科学	基礎文・I・B社会科学	保健・体育	美術	基礎数学2(実用)	基礎数学2(実用)	基礎数学2(実用)	基礎数学2(実用)								
担任教員	新井	新井	山野	坂本	梅澤	西山	原山	石	高野	笠井	笠井	本城(昌)	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺	渡辺							
氏名	M 60	M 73	M 80	M 83	M 85	M 80	M 72	M 81	M 83	M 80	M 71	M 78	M 81	M 83	M 80	M 71	M 78	M 81	M 83	M 80	M 71	M 78	M 81	M 83	
1	60	73	80	83	85	80	72	81	83	80	71	78	81	83	80	71	78	81	83	80	71	78	81	83	
2	62	75	82	86	88	83	75	84	86	83	74	81	84	86	83	74	81	84	86	83	74	81	84	86	
3	64	77	84	88	90	85	77	86	88	85	76	83	86	88	85	76	83	86	88	85	76	83	86	88	
4	66	79	86	90	92	87	79	88	90	87	78	85	88	90	87	78	85	88	90	87	78	85	88	90	
5	68	81	88	92	94	89	81	90	92	89	80	87	90	92	89	80	87	90	92	89	80	87	90	92	
6	70	83	90	94	96	91	83	92	94	91	82	89	92	94	91	82	89	92	94	91	82	89	92	94	
7	72	85	92	96	98	93	85	94	96	93	84	91	94	96	93	84	91	94	96	93	84	91	94	96	
8	74	87	94	98	100	95	87	96	98	95	86	93	96	98	95	86	93	96	98	95	86	93	96	98	
9	76	89	96	100	102	97	89	98	100	97	88	95	98	100	97	88	95	98	100	97	88	95	98	100	
10	78	91	98	102	104	99	91	100	102	99	90	97	100	102	99	90	97	100	102	99	90	97	100	102	
11	80	93	100	104	106	101	93	102	104	101	92	99	102	104	101	92	99	102	104	101	92	99	102	104	
12	82	95	102	106	108	103	95	104	106	103	94	101	104	106	103	94	101	104	106	103	94	101	104	106	
13	84	97	104	108	110	105	97	106	108	105	96	103	106	108	105	96	103	106	108	105	96	103	106	108	
14	86	99	106	110	112	107	99	108	110	107	98	105	108	110	107	98	105	108	110	107	98	105	108	110	
15	88	101	108	112	114	109	101	110	112	109	100	107	110	112	109	100	107	110	112	109	100	107	110	112	
16	90	103	110	114	116	111	103	112	114	111	102	109	112	114	111	102	109	112	114	111	102	109	112	114	
17	92	105	112	116	118	113	105	114	116	113	104	111	114	116	113	104	111	114	116	113	104	111	114	116	
18	94	107	114	118	120	115	107	116	118	115	106	113	116	118	115	106	113	116	118	115	106	113	116	118	
19	96	109	116	120	122	117	109	118	120	117	108	115	118	120	117	108	115	118	120	117	108	115	118	120	
20	98	111	118	122	124	119	111	120	122	119	110	117	120	122	119	110	117	120	122	119	110	117	120	122	
21	100	113	120	124	126	121	113	122	124	121	112	119	122	124	121	112	119	122	124	121	112	119	122	124	
22	102	115	122	126	128	123	115	124	126	123	114	121	124	126	123	114	121	124	126	123	114	121	124	126	
23	104	117	124	128	130	125	117	126	128	125	116	123	126	128	125	116	123	126	128	125	116	123	126	128	
24	106	119	126	130	132	127	119	128	130	127	118	125	128	130	127	118	125	128	130	127	118	125	128	130	
25	108	121	128	132	134	129	121	130	132	129	119	126	130	132	129	119	126	130	132	129	119	126	130	132	
26	110	123	130	134	136	131	123	132	134	131	120	127	132	134	131	120	127	132	134	131	120	127	132	134	
27	112	125	132	136	138	133	125	134	136	133	122	129	134	136	133	122	129	134	136	133	122	129	134	136	
28	114	127	134	138	140	135	127	136	138	135	124	131	136	138	135	124	131	136	138	135	124	131	136	138	
29	116	129	136	140	142	137	129	138	140	137	126	133	138	140	137	126	133	138	140	137	126	133	138	140	
30	118	131	138	142	144	139	131	140	142	139	128	135	140	142	139	128	135	140	142	139	128	135	140	142	
31	120	133	140	144	146	141	133	142	144	141	130	137	142	144	141	130	137	142	144	141	130	137	142	144	
32	122	135	142	146	148	143	135	144	146	143	132	139	144	146	143	132	139	144	146	143	132	139	144	146	
33	124	137	144	148	150	145	137	146	148	145	134	141	146	148	145	134	141	146	148	145	134	141	146	148	
34	126	139	146	150	152	147	139	148	150	147	136	143	148	150	147	136	143	148	150	147	136	143	148	150	
35	128	141	148	152	154	149	141	150	152	149	138	145	150	152	149	138	145	150	152	149	138	145	150	152	
36	130	143	150	154	156	151	143	152	154	151	140	147	152	154	151	140	147	152	154	151	140	147	152	154	
37	132	145	152	156	158	153	145	154	156	153	142	149	154	156	153	142	149	154	156	153	142	149	154	156	
38	134	147	154	158	160	155	147	156	158	155	144	151	156	158	155	144	151	156	158	155	144	151	156	158	
39	136	149	156	160	162	157	149	158	160	157	146	153	158	160	157	146	153	158	160	157	146	153	158	160	
40	138	151	158	162	164	159	151	160	162	159	148	155	160	162	159	148	155	160	162	159	148	155	160	162	
41	140	153	160	164	166	161	153	162	164	161	150	157	162	164	161	150	157	162	164	161	150	157	162	164	
42	142	155	162	166	168	163	155	164	166	163	152	159	164	166	163	152	159	164	166	163	152	159	164	166	
43	144	157	164	168	170	165	157	166	168	165	154	161	166	168	165	154	161	166	168	165	154	161	166	168	
科目別平均点	66.93	70.28	76.51	71.26	75.19	72.58	67.60	77.58	71.40	69.63	63.33	78.37	78.12	76.58	74.56	74.14									
総合平均点																									

(出典：教員会議資料)



(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規定及び進級・卒業認定の規定が明確に定められている。また、準学士課程の学生を対象に行ったアンケート調査結果によれば、成績評価に関する規則等が学生によく周知されている。さらに、成績評価や単位認定及び進級や卒業認定等の資料及びその妥当性については教務委員会でチェックし、その資料を基に全教員出席の教員会議において確認している。以上のことから、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

**観点 5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、教育理念に人間力の育成を（資料 5-4-①-1）、規範意識・遵法精神、協調性・思いやりの心を育むための人間教育を行っている。

毎朝 8 時 30 分から 8 時 40 分まで全クラスでショートホームルームが実施され、学生と学級担任との間の良好なコミュニケーションの構築及び学級運営の円滑化に寄与している（資料 5-4-①-2）。ショートホームルームでは、出席確認、遅刻・欠席の理由のクラス内への周知（資料 5-4-①-3）、教室内の清掃、日課の周知等が行われており、その内容は担任の判断に任されている。

この他、外部講師による学科講演会や実演会、校外実習（インターンシップ）事前指導会、学年行事日における見学旅行や体験活動、学校周辺の環境美化活動等、種々の特別活動を通して、人間力の育成を図っている（資料 5-4-①-4～5）。

以下に、特別活動の実施内容（年間計画）を示す（資料 5-4-①-6）。教育課程においては、人間力の育成のため、1～3 学年に「特別活動」が週 1 時間、授業時間割表の中に設定され、年間実施計画の下で実施されており、学校の教育方針の指導・徹底、学校行事の趣旨の理解、人権教育、防災・安全教育、環境美化の意識の高揚などにより、職業人としての基礎的人格の育成を図っている。

資料 5-4-①-1

### 福島高専の教育理念と学習・教育目標

#### 教 育 理 念

- 広く豊かな教養と健全な人間力の育成
- 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

(出典：学生便覧)

資料5-4-①-2

校時 (学校時間)

	50分授業	100分授業
朝のHR	8:30~8:40	
第1校時	8:40~10:20	
第2校時		
第3校時	10:30~11:20	10:30~12:10
第4校時	11:25~12:15	
(昼休み)	12:15~13:00	12:10~13:00
第5校時	13:00~13:50	13:00~14:40
第6校時	13:55~14:45	
第7校時	14:50~15:40	14:50~16:30
第8校時	15:45~16:35	

(出典：学生便覧)

資料5-4-①-4

人間としての素養の涵養のための活動等の一覧

活動の名称等	関係委員会・学科等
校内体育大会 (9月)	学生委員会
生活指導教室 (5月)	学生委員会
救急救命講習会 (10月)	学生委員会
ショートホームルーム (毎朝)	教務委員会
大掃除 (毎週水曜日)	教務委員会
全校清掃日 (6月, 11月)	教務委員会
始業式, 終業式, 集会 (夏季休業前, 夏季休業後)	教務委員会
校外実習 (インターンシップ) 事前指導会 (7月)	教務委員会
学年行事日 (10月)	学科, 教務委員会
高専祭 (H14.11月, H17.11月)	教務, 学生委員会, 全校

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

資料5-4-①-3

No.25 丹野 卓球公使  
 No.37 水野 卓球公使  
 No.12 才村 (発熱:欠席)  
 No.40 菅正 (休演:早退)

建設環境工学科(3年)		6月4日月曜日								6月5日火曜日								6月6日水曜日										
番 号	氏 名	月 日		時 間								担 任 者																
		HR	1	2	3	4	5	6	7	8	HR	1	2	3	4	5	6	7	8	HR	1	2	3	4	5	6	7	8
1	菅地																											
2	小内																											
3																												
4																												
5																												
6																												
7																												
8																												
9																												
10																												
11																												
12																												
13																												
14																												
15																												
16																												
17																												
18																												
19																												
20																												
21																												
22																												
23																												
24																												
25																												
26																												
27																												
28																												
29																												
30																												
31																												
32																												
33																												
34																												
35																												
36																												
37																												
38																												
39																												
40																												
41																												
42																												
43																												
44																												
45																												
46																												
47																												
48																												
49																												
50																												

(出典：平成19年度出席簿)

学科講演会の開催実績

学科	年度	内 容	対象学年
機械 工学科	H14	講演「原子力技術の開発と利用で学んだこと」 福島県ハイテクプラザ所長 近藤達男	3～5年生
	H15	講演「マイクロマシン技術とその概要」 産業技術総合研究所 石川雄一	3～5年生
	H16	講演「くるまの開発について-その虚像と実像-」 元いすゞ自動車(株)主管 高木公夫	4～5年生
	H17	講演「私の研究バカ人生」 (株)日立製作所フェロー 伊藤清男	4～5年生
	H18	講演「プラズマテレビの高性能化を支えるMgO薄膜とその製造技術」 キャノンアネルバ(株)取締役 酒井純男	4～専2年生
電気 工学科	H14	講演「電子情報工学の課題と将来-電子から光, さらに分子へ-」 東北大学大学院情報科学研究科教授 樋口龍雄	4～5年生
	H15	講演「コンピュータによる音楽信号の処理(自動採譜)」 豊橋技術科学大学情報工学系教授 田所嘉昭	4～5年生
	H16	講演「これから羽ばたく若者に捧げる人生訓」 (株)NTTサービス福島代表取締役社長 山田博史	4～5年生
	H17	講演「ディベンダブル・コンピューティング-安心・安全な社会の実現を目指して」 東京大学先端科学技術研究センター教授 南谷 崇	4～5年生
	H18	講演「FPDテレビの現状と動向-PDPを中心に」 (株)日立製作所ユビキタスグループ製品開発事業部部長 大沢通孝	4～専2年生
物質 工学科	H14	講演「米国アイダホ州ポートヌーフ川流域」 アイダホ州立大学 佐藤元志	3～5年生
	H15	講演「21世紀に期待される触媒技術」 エヌ・イー・エム・キャット 室井高城	4～5年生
	H16	講演「働くということ」 大宏電機 加藤裕美	3～4年生
	H17	講演「環境汚染防止と産業廃棄物管理について」 呉羽環境(株) 福田弘之	3～5年生
		講演「21世紀は水と二酸化炭素の時代-持続可能な社会の構築に向けて」 東北大学大学院環境科学研究科教授 新井邦夫	
H18	講演「超低摩擦・超高強度ゲルの創製」 北海道大学副学長 長田義仁	3～専2年生	
建設 環境 工学科	H14	講演「日本列島4島を繋ぐ, ヨーロッパ大陸を繋ぐ-過去・現在・未来」 海洋架橋調査会専務理事 駒田敬一	3～5年生
		講演「インフラ整備と地盤-堤防の液状化被害軽減との取り組み」 広島大学工学部建設系教授 佐々木康	
		講演「これからの建設技術者に求められるもの」 八戸高専校長 柳沢英司	
	H15	講演「循環型社会に対応した環境保全技術」 東北大学大学院教授 野池達也	3～5年生
	H16	講演「土地区画整理事業とまちづくり」 地方計画研究所所長 小松好明	3～5年生
H17	講演「土木と私」 元福島高専校長 岩松幸雄	3～5年生	
H18	講演「明治期の東北開発とオランダ人技術者」 (株)総合防災システム研究所顧問 上林好之	3～5年生	
コミュニ ケーション 情報 学科	H14	講演「タカラの商品開発について」 (株)タカラライフカルチャー事業部 梶田政彦	3～5年生
		講演「デザインについて」 (株)ギヴコーポレーション代表取締役 興口隆夫	
		講演「常磐交通自動車の経営について」 常磐交通自動車代表取締役 野崎俊夫	
	H15	講演「ITを活用した新たなワークスタイル」 (株)いわきテレワークセンター代表取締役 会田和子	3～4年生
	H16	講演「コンピュータ産業の未来について」 (株)東日本計算センター専務取締役最高業務執行責任者 鷲 弘樹	3～4年生
	H17	講演「経営工学における最近の話題」 福島大学経済学部助教授 星野珉二	4～5年生
H18	講演「私たちはなぜ生きているのか?-最先端の科学研究から読み解く人生のしくみ-」 福島大学経済経営学類教授 飯田史彦	4～専2年生	

(出典：認証評価小委員会資料)





(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育理念に掲げた人間力の育成を図るため、教育面で各種の特別教育活動を実施している。1学年～3学年に設けられた「特別活動」は、高等専門学校設置基準に従い、3年間で3単位(計90時間)実施している。また、毎朝行われる授業前のショートホームルーム、また、各種委員会の企画による集会やイベント、さらに各学科で企画開催する学科講演会などを通じて、人間の素養の涵養と人間力の育成に努めている。以上のことから、教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

自律的な行動ができる学生の養成を目標に、ルール遵守の徹底、モラルの育成のための生活指導を学生委員会や学級担任が中心となって行っている(資料5-4-②-1)。学生の安全教育としての

資料5-4-②-1

生活指導内容の詳細

生活指導の目標	生活指導項目	生活指導内容の詳細
規律ある学校生活	服装	3年生以下は男女とも制服(正常寸法)を着用する。4、5年生は異装を認めるが、校外研修・儀式など学内における重要な行事の場合には、制服もしくはスーツを着用する。
	過度の装飾	ピアスなど不要な装飾品を身につけない。清楚。清潔であることとし、髪の変色は禁止する。
	携帯電話の使用	携帯電話は8:30~16:35の間、電源を切り一切使用(他者が見える状態に)しない。
	盗難	他者・共有の金品を盗む行為を絶対にしてはならない。
	喫煙・飲酒	学生(成人者も含む)は、学内では禁止。
	いじめ・暴力行為	他者を肉体的・精神的に傷つけ、人権を侵す行為は決して許されない。
	試験の不正行為	真面目な学習を踏みにじり、教員と学生ならびに学生同士の信頼関係を崩すカンニングは絶対にやってはならない。
	施設設備の使用	器物損壊は絶対に許されない。
プライドを持った学外の行動	アルバイト	3年生以下全面禁止。4、5年も学級担任と学校の許可を得る。
	万引・占有離脱物横領、暴力行為	万引・放置自転車の使用は犯罪である。暴力行為は絶対に許されない。
	麻雀・パチンコ・競輪等のギャンブル、カラオケ等の遊技場	不健全な交友につながり、金銭・時間の浪費となって、学生生活を崩壊に導く恐れがあるのでやらない。
	風俗営業、薬物乱用	風俗営業には関与しない。薬物乱用は人生を破滅させる。決して近づかない。

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

救急救命講習会や交通安全講習会の実施（資料5-4-②-2）、福島県の学校・警察児童生徒健全育成対策推進制度の活用（学校警察連合の情報交換）による非行の防止、地区生徒指導協会の補導活動（資料5-4-②-3）や自動車学校の訪問（資料5-4-②-4）等を通じてきめ細かな指導を心掛けている。

学生委員会は、生活指導担当、交通指導担当、学生会体育部担当、学生会文化部担当の4体制で、学生の厚生補導のための活動を行っている。体育部系、文化部系、研究部系の全てのクラブ団体に顧問教員・職員を配置し（資料5-4-②-5）、指導・助言を与え、またコーチを置いている。また、実践指導が必要なクラブ団体においては、外部コーチ等を依頼・配置しクラブ活動に対する円滑かつ効率的な指導体制を整えている（資料5-4-②-6）。

多くの学生が文化部や運動部等のクラブ活動及び愛好会活動に参加し、その活動を通して責任感・自主性・指導性・協調性を育てている。その他の課外活動として、ロボットコンテスト（資料5-4-②-7）・プログラミングコンテスト（資料5-4-②-8）・デザインコンペティション（資料5-4-②-9）等の大会や各種グランプリに積極的に参加し、好成績を上げている。

資料5-4-②-2

交通指導の年間行事予定（平成16年度）

年月	実施対象学年	実施対象車種	実施内容
平成16年4月	1年生	自転車	自転車通学における交通安全の注意及び自転車登録
平成16年5月	2年生、3年生	自転車	自転車通学における交通安全の注意及び自転車登録
平成16年7月	3年生	自動車	交通安全の注意及び免許取得の手続きの説明
平成16年12月	免許取得者 (4年生以上)	自動車	卒業式前及び休み中の交通安全の注意
平成17年1月	免許取得者 (4年生以上)	自動車	卒業式前及び休み中の交通安全の注意

（出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書）

資料5-4-②-3

平成18年度 いわき地区高等学校生活指導協議会 年間行事・事業計画

行 事	平成16年度	平成17年度	平成18年度
地区高校生徒指導主事調整会議	4/20 (火)	4/20 (水)	4/20 (木)
第1回地区生活指導協議会	5/18 (火)	5/12 (木)	5/19 (金)
地区高等学校交通自治会	6/18 (金)	6/23 (木)	6/26 (月)
第1回駅前一斉補導	6/14 (月) 6/25 (金)	6/6 (月) 6/24 (金)	6/5 (月) 6/23 (金)
第2回地区生活指導協議会	6/24 (木)	6/15 (水)	6/14 (水)
第2回列車補導	9/1(水)~9/30(木)	9/1(水)~9/30(木)	9/1(金)~9/29(金)
第1回地区生徒指導主事会	9/27 (月)	9/28 (水)	9/28 (木)
福島県生徒指導主事研修会	10/14(木)~15(金)	10/17(月)~18(火)	10/16(月)~17(火)
第3回地区生活指導協議会	11/22 (月)	11/14 (月)	11/9 (木)
第2回駅前一斉補導	11/8 (月) 11/26 (金)	11/8 (火) 11/25 (金)	11/8 (水) 11/24 (金)
第4回地区生活指導協議会 第2回地区生徒指導主事会	2/21 (月)	2/22 (水)	2/22 (木)
自動車学校訪問	10/5 (火)	10/12 (水)	10/12 (木)
	11/11 (木)	11/11 (金)	11/17 (金)
	12/10 (金)	12/12 (月)	12/12 (火)
	1/24 (月)	1/19 (木)	1/24 (水)
	2/16 (水)	2/14 (火)	2/12 (月)
新入生保護者へのプリント配布	3月中旬	3月中旬	3月中旬
いわき地区乗車マナー向上連絡会 総会 理事会 第1回 第2回	7/6 (火)	6/30 (木)	6/ ( )
	"	"	"
	10/26 (火)		

【会議関係】

- ・地区高校生徒指導主事調整会議 (1回)
- ・地区高校生活指導協議会 (4回)
- ・地区高校生徒指導主事会 (2回)
- ・県生活指導協議会 (2回)
- ・地区高等学校交通自治会 (1回)
- ・地区乗車マナー向上連絡会  
総会 (1回)  
理事会 (2回)

【補導関係】

- ・県高校総体開催中の街頭補導
- ・駅前一斉補導 (2回)
- ・思いやりキャンペーン
- ・列車補導 (2回)
- ・自動車学校訪問 (5回)

【その他】

- ・新入生保護者へのプリント
- ・県指導主事研修会 (1回)

(出典：学生委員会資料)



資料5-4-②-4

送 信 案 内

送信枚数 (送信案内状を含む) 1 枚

【送信日】平成18年11月2日(木)

あ て 先	送 信 者
いわき地区高等学校生活指導協議会担当 いわき光洋高校教諭 大平 武志 様	福島工業高等専門学校 学生課 学生支援係 TEL 0246-46-0734 (学生支援係) FAX 0246-46-0742 (学生課)
件 名	自動車学校訪問参加教員氏名について
用 件	標記の件について、下記のとおり送信します。  <p style="text-align: center;">記</p> 11月17日(金) 金子 研一 12月12日(火) 島袋 修 1月 24日(水) 三浦 靖一郎 2月 12日(月) 秋山 秀博

(出典：学生委員会資料)

資料5-4-②-5

クラブ指導教員

37. 編入学生指導教員

生活指導担当	松尾 忠利
〃	伊藤 淳
〃	島村 浩
学習指導担当	井川 治
〃	道上 達広
〃	渡辺 敏夫
〃	濱崎 真一
〃	内山 昭代

38. クラブ指導教員

新聞局	山田 貴浩
〃	西浦 孝治
文化 部	山田 貴浩
写真	井上 和人
〃	山本 敏和
〃	三浦靖一郎
無線通信	三浦靖一郎
〃	根本 信行
吹奏楽	嶋下 祐也
〃	山野 和一
〃	大槻 正伸
〃	渡部美紀子
美術	内山 昭代
〃	西山 公紀
〃	石原 万里
将棋	大槻 正伸
〃	新井 広
茶華道	笠井 哲章
〃	高橋 章
体育 部	西浦 孝治
陸上競技	根本 昌樹
〃	鈴木 茂和
〃	鈴木 三男
〃	道上 達広
〃	梅澤 洋史
〃	根本 信行
バスケットボール	濱崎 真一
〃	木原 淳
〃	田村 綾子
〃	遠原 智文
バレーボール	松尾 忠利
〃	森田 年一
〃	西浦 孝治
〃	渡部 順一

ソフトテニス	伊藤 淳
〃	坂内 昌徳
〃	青柳 克弘
〃	伊藤 正義
テニス	石垣 義尚
〃	篠木 政利
〃	菊地 卓郎
〃	平尾 篤利
卓球	鳥居 孝栄
〃	山田 貴浩
〃	高荒 智子
〃	根岸 嘉和
柔道	秋山 秀博
〃	押手 茂克
〃	羽切 正英
剣道	高野 克宏
〃	齊藤 充弘
〃	小泉 康一
〃	川崎 俊郎
サッカー	三浦靖一郎
〃	山ノ内正司
〃	高橋 圭介
野球	鈴木 正樹
〃	井川 治
〃	金子 研一
〃	酒巻 健司
〃	松本 行真
〃	森川 治
水泳	松本 匡以
〃	青木 寿博
〃	原田 正光
山岳	渡辺 敏夫
〃	緑川 猛彦
〃	芥川 一則
〃	渡辺 博
空手道	宮澤 泰彦
〃	高橋 宏宣
〃	田代 均
サイクリング	鈴木 晴彦
〃	柴田 公彦
〃	松本 匡以
ラグビー	新井 広
〃	中山 悟視
〃	島袋 修
バドミントン	松江 俊一
〃	高橋 章
〃	島村 浩

(出典：平成19年度職員録及び役職・各種委員会名簿)

は 新規依頼者

平成18年度学生会クラブコーチャ一覧

学外コーチャ

クラブ名	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
無線通信部	石田 俊一	なし	〒971-8182 いわき市泉滝尻字南坪73-6	56-5387
吹奏楽部	市島 徹	自営業	〒970-8043 いわき市中央台鹿島1-48-5	29-4033
美術部	高杉 和久	自営業	〒970-8043 いわき市中央台鹿島1-13-9	28-3376
茶華道部	佐藤 妙子	なし	〒970-8045 いわき市郷ヶ丘二丁目40-11	28-2737
陸上競技部	近内 秀充	(株)呉羽化学工業	〒311-3436 茨城県新沼郡千代田町稲吉東4-12-2	029-831-2873
テニス部	國分 典明	自営業	〒970-8026 いわき市平字城東2-6-1	22-2894
ソフトテニス部	武藤 理	(株)いわきコピーセンター	〒970-8026 いわき市平字作町三丁目4-5	24-2371
卓球部	橋本 彰夫	福島工業高等専門学校(非常勤)	〒970-8045 いわき市郷ヶ丘4-5-1 〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30	29-7358 46-0700
柔道部	秋山 大我	NPO法人 ゴールデンハープ	〒971-8146 いわき市鹿島町御代字赤坂16-1 〒970-8026 いわき市平菱川町5-8小規模作業所フルクテン 〒970-8024 いわき市平北土字田代20-1メゾンエトワール201	58-5618 21-2741
剣道部	根本 秀直	(有)綿健	〒973-8411 いわき市小島町2-16-1 〒973-8402 いわき市内郷御厩町下宿54	27-0726 26-5313
硬式野球部	柳澤 潤	いわき市役所	〒970-8026 いわき市平字梅本21 〒972-8317 いわき市常磐白鳥町意丁田16-3	43-0705
水泳部	金澤 弘孝	金澤税理士事務所	〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田4-3	26-4933
空手道部	武曾 賢太郎	(株)いわき木材住宅センター	〒971-8146 いわき市鹿島町御代字九反田34-2 〒974-8211 いわき市金山町南台5	58-5543 63-3263
サイクリング部	箱崎 満彦	(株)古河電池	〒970-8501 いわき市常磐下船尾抗出作23-6 〒970-8021 いわき市平中神谷字北鳥沼8-1	43-0086 34-8748
ラグビーフットボール部	箱崎 祥保	箱崎鋼業所	〒979-0202 いわき市四倉町上仁井田南姥田69	32-2854
エネルギー研究会	馬上 征士	まいすくーる	〒971-8164 いわき市小名浜寺廻町18-13	92-3475

(出典：学生課資料)

資料 5-4-②-7

ロボットコンテスト参加状況

年度	テーマ	東北大会結果	全国大会結果
H14	プロジェクトBOX	デザイン賞	アイデア倒れ賞
H15	鼎(KANAE)	デザイン賞	—
H16	マーズラッシュ	アイデア賞	奨励賞
H17	大運動会	優勝	アイデア倒れ賞
H18	ふるさと自慢特急便	技術賞	ベスト4

(出典：認証評価小委員会資料)

資料 5-4-②-8

全国高専プログラミングコンテストの参加状況

回	年度	自由部門	課題部門	競技部門	合計
13	H14	1	1	1	3
14	H15	1	0	0	1
15	H16	1	1	1	3
16	H17	1	0	1	2
17	H18	1	0	1	2

(出典：認証評価小委員会資料)

資料 5-4-②-9

全国高専デザインコンペティションの参加状況

年度	部門	結果
H16	地域交流シンポジウム	優秀賞
H18	構造デザインコンペティション	27/50位

(出典：認証評価小委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

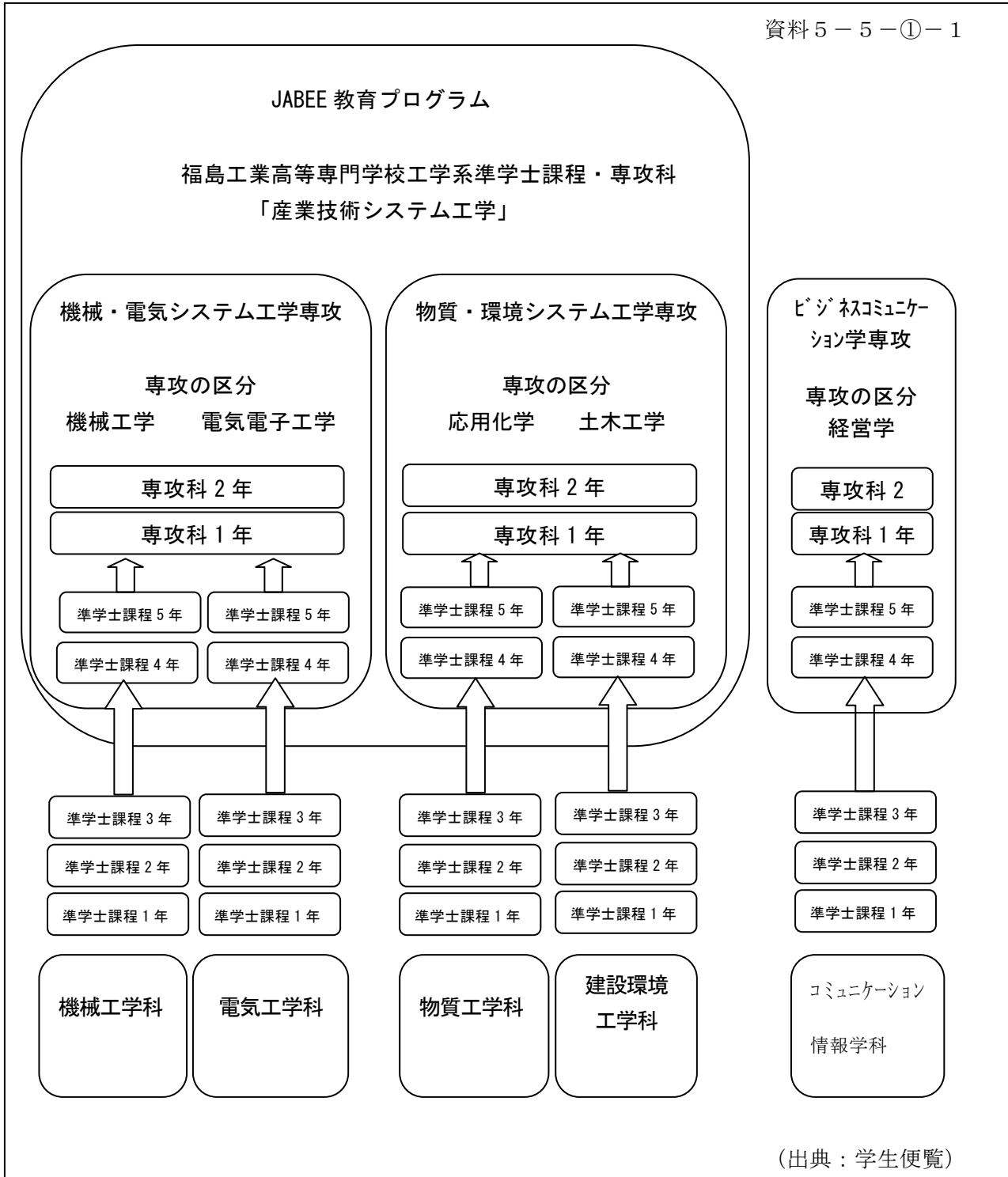
本校では、学生委員会や学級担任等による学生の生活指導及び種々の課外活動等を通じて、人間力の育成に努めている。全教員による各クラブの指導体制も整っており、「文武両道」の教育方針の下で、学生のクラブ活動への参加率もかなり高い状況にある。また、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト、さらにデザインコンテスト等の各種コンテストやその他の課外活動へも積極的に参加し、これらの活動を通じて、人間の素養の涵養を図っている。以上のことから、教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

<専攻科課程>

観点 5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程と専攻科課程の関連図及び科目関連表を、以下に示す(資料 5-5-①-1~3)。



資料 5 - 5 - ① - 2

本科と専攻科の科目関連表  
 (機械工学科—機械・電気システム工学専攻科目関連表)

本科と専攻科の科目関連図

機械工学科—機械・電気システム工学専攻の科目関連図 (H13～16年度準学士課程入学生)

高専課程「機械工学科」

専攻過程「機械・電気システム工学専攻」

専門科目

必修	応用数学A	工学基礎科目		
	応用数学B			
	応用物理Ⅰ			
	応用物理Ⅱ			
必修	機械工学基礎	専門基礎科目		
	創作実習			
	工作実習			
	工作実験			
	設計製図			
	情報基礎			
	情報処理			
	力学基礎			
	機械工作法Ⅰ,Ⅱ			
	環境工学			
	工業英語			
	力学演習Ⅰ,Ⅱ			
	選択		知的所有権	材料系
	必修		材料力学Ⅰ	
材料力学Ⅱ				
材料学Ⅰ				
材料学Ⅱ				
選択	材料デバイス工学			
必修	生産工学	設計・生産系		
	設計工学			
	機構学			
選択	精密工学			
	工業デザイン			
必修	熱力学	熱・流体系		
	水力学			
	流体力学Ⅰ			
	熱工学			
選択	流体力学Ⅱ			
	エネルギー工学			
必修	流体機械	計測・制御系		
	機械力学Ⅰ			
	制御工学			
	メカトロニクスⅠ			
選択	電気工学Ⅰ			
	機械力学Ⅱ			
	メカトロニクスⅡ			
	計測工学			
必修	電気工学Ⅱ	実験・研究等		
	工学セミナー			
	工学実験			
	卒業研究			
	校外実習			

専攻専門関連科目

シナジー科目	ビジネス英語	選択
	経営管理論	
	生産管理論	
	ベンチャー・ビジネス論	
	技術経営論	
	産業技術特論Ⅰ	
	産業技術特論Ⅱ	
	安全工学特論	
	情報工学概論	
	環境解析評価論	

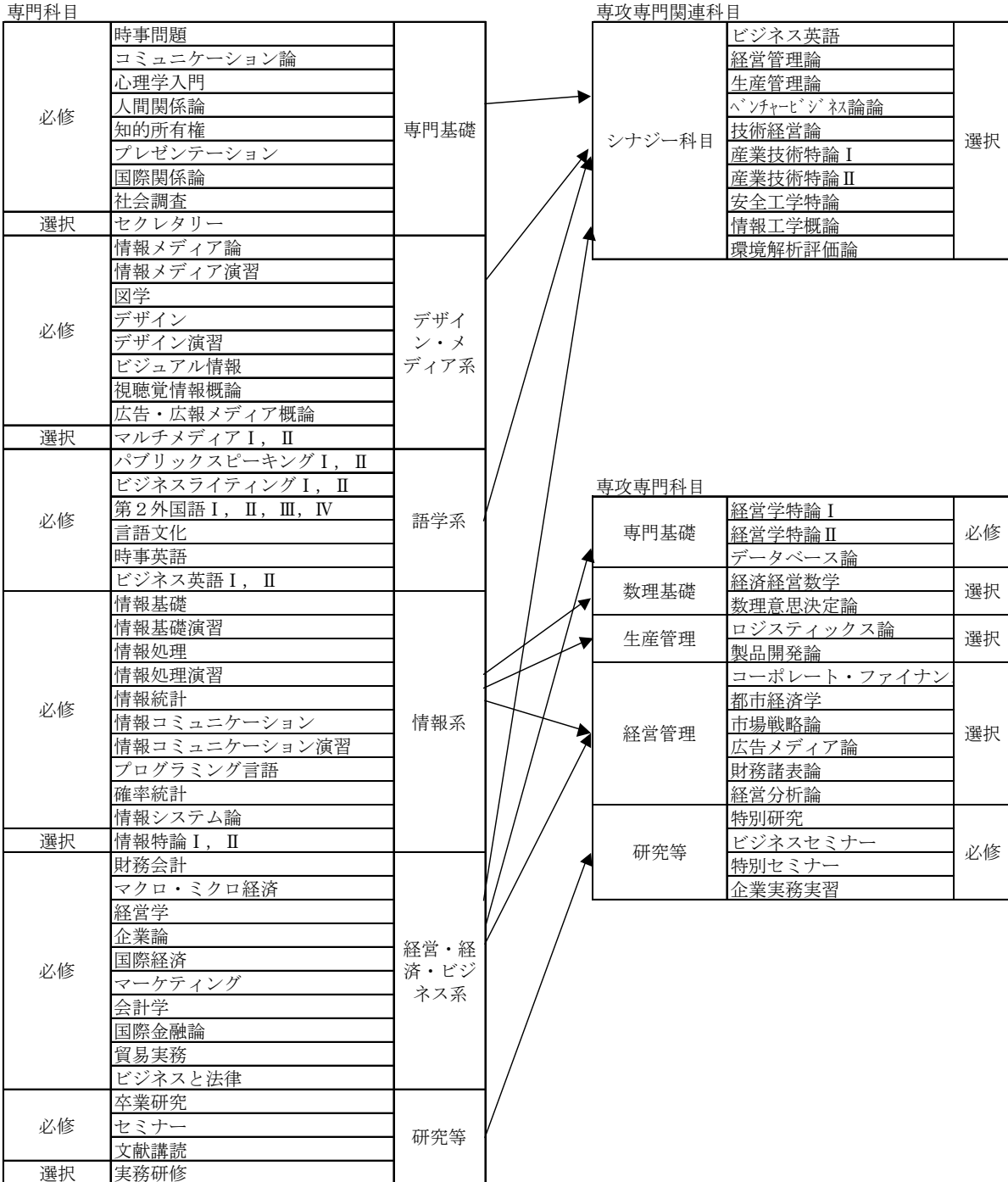
専攻専門科目

工学基礎科目	応用解析学Ⅰ	選択
	応用解析学Ⅱ	
	統計物理学	
	振動論	
材料科学	材料科学	選択
	音響工学	
	電子物性工学	
	電気磁気学特論	
専門共通基礎科目	制御システム工学	選択
	電子回路特論	
	機能性材料工学	
材料系科目	塑性加工学	選択
	エネルギー変換工学	
熱・流体系科目	熱流体工学	選択
	ロボット工学	
計測・制御系科目	機械振動学	選択
	機械・電気システム工学実験	
実験・研究等	機械・電気システム工学セミナー	必修
	特別研究	
	特別セミナー	
	インターンシップ	

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

本科と専攻科の科目関連表  
 (コミュニケーション情報学科-ビジネスコミュニケーション学専攻科目関連表)

コミュニケーション情報学科-ビジネスコミュニケーション学専攻の科目関連図 (H13~16年度準学士課程入学生)  
 高専課程「コミュニケーション情報学科」 専攻過程「ビジネスコミュニケーション学専攻」



(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

本校においては、準学士課程から専攻科課程へ進学する場合、まず準学士課程で各専門知識を習得し、専攻科課程ではさらに深い専門知識を加え、さらに専攻科課程の専門関連科目の「シナジー科目」により、工学系ではビジネス系の知識が、一方、ビジネス系では工学系の知識が習得できるカリキュラムとなっている。これらの「シナジー科目」は科学技術やビジネスの両面にわたる教育内容であり、「学習・教育目標」に掲げた「工学系・ビジネス系のシナジー教育」を実現している。工学系とビジネス系のいずれの専攻とも、準学士課程の専門科目と専攻科課程の科目との連携が十分に考慮されている。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程と専攻科課程で、「シナジー科目」が無理なく習得できるように、科目間の連携が十分考慮されており、学習・教育目標の「工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って．．．産業技術を創造できる能力を身につける」が実現できる教育課程となっている。以上の理由から、準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

**観点5－5－②：** 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

専攻科課程の授業科目は、系列科目ごとに分類され、配置されている（資料5－5－②－1～3）。準学士課程との関連に考慮したカリキュラムが編成され、教育内容が体系的に組み立てられている。特に、専門関連科目に「経営管理論」や「産業技術特論Ⅰ、Ⅱ」等の科目を開設し、工学系－ビジネス系のシナジー効果の下で、技術経営（MOT）教育を実施している。なお、専攻科課程では、授業科目は準学士課程の授業科目の内容をより高度化したものであり、修了者が学士号の学位を取得するのに適合したカリキュラム編成となっている。



資料 5 - 5 - ② - 1

専攻科教育課程表（一般科目・専門関連共通科目）

教育課程（3専攻共通の一般科目及び専門関連科目） Educational Curriculum (General Education Subjects and Related Specialized Subjects for all Three Advanced Courses)

区分	必修 選択 の別	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Year				備考 Notes
				1年 1st year		2年 2nd year		
				前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
一般科目 General Education Subjects	必修科目 Required	倫理学 Ethics	2					2単位以上修得 2 or more Credits
		科学技術史 History of Science and Technology	2			2		
		開設単位計 Subtotal	4	2		2		
	選択科目 Elective	現代英語Ⅰ Contemporary English I	2	2				
		現代英語Ⅱ Contemporary English II	2		2			
		現代化学 Modern Chemistry	2	2				
		開設単位計 Subtotal	6	6				
		一般科目開設単位計 General Education Subjects Subtotal	10	8		2		
専門関連科目 Specialized Subjects in Related Fields common to all Advanced Courses	必修科目 Required	ビジネス英語 Business English	2			2		6単位以上修得※ 6 or more Credits※
		経営管理論 Management	2		2			
		ベンチャービジネス論 Venture Business	2				2	
		技術経営論 Management of Technology	2			2		
		開設単位計 Subtotal	8	2		6		
	選択科目 Elective	産業技術特論Ⅰ Special Lectures I in Industrial Technology	2	2				
		産業技術特論Ⅱ Special Lectures II in Industrial Technology	2		2			
		安全工学特論 Safety Engineering	2				2	
		情報工学特論 Information Engineering Seminar	2		2			
		環境解析評価論 Environmental Analysis and Evaluation	2				2	
	開設単位計 Subtotal	10	6		4			
	専門関連科目開設単位計 Specialized Subjects Subtotal	18	8		10			
	開設単位合計 Total Credits Offered	28	16		12			

※機械・電気システム工学専攻は産業技術特論Ⅱを、物質・環境システム工学専攻は産業技術特論Ⅰを、ビジネスコミュニケーション学専攻は産業技術特論Ⅰ及び産業技術特論Ⅱを修得すること。

(出典：学校要覧，学生便覧)

専攻科教育課程表（機械・電気システム工学専攻）

資料 5 - 5 - ② - 2

教育課程（専門科目） Educational Curriculum (Specialized Subjects)

必修 選択 の別	授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Year				備考 Notes
			1年 1st year		2年 2nd year		
			前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
必修科目 Required	生産管理論 Manufacturing Systems Engineering	2	2				12単位以上修得 12 or more Credits
	製品開発論 Research and Development of Product	2				2	
	機械・電気システム工学実験 Experiments of Mechanical & Electrical System Engineering	2	2				
	機械・電気システム工学セミナー Seminar of Mechanical & Electrical System Engineering	2	2				
	特別研究 Graduation Thesis Research	18		7		11	
	特別セミナー Advanced Seminar	2				2	
	インターンシップ Internship	2			2		
	開設単位計 Subtotal	30	13(2)		15(2)		
選択科目 Elective	応用解析学Ⅰ Applied Analysis I	2	2				12単位以上修得 12 or more Credits
	応用解析学Ⅱ Applied Analysis II	2				2	
	統計物理学 Statistical Physics	2	2				
	振動論 Theory of Vibration	2		2			
	材料科学 Material Science	2				2	
	エネルギー変換工学 Energy Conversion Engineering	2				2	
	塑性加工学 Technology of Plasticity	2				2	
	熱流体工学 Flow and Heat Transfer Engineering	2				2	
	機能性材料工学 Functional Material Engineering	2	2				
	ロボット工学 Introduction to Robotics	2		2			
	機械振動学 Mechanical Vibrations	2		2			
	音響工学 Acoustical Engineering	2				2	
	電子物性工学 Electronic Material Science & Engineering	2	2				
電磁気学特論 Electromagnetics Seminar	2		2				
制御システム工学 Control System Engineering	2		2				
電子回路特論 Advanced Course of Electronic Circuits	2				2		
	開設単位計 Subtotal	32	18		14		
	開設単位合計 Total Credits Offered	62	31(2)		29(2)		

( )の数字は開講期を指定しない単位数で外数

(出典：学校要覧，学生便覧)

専攻科教育課程表 (ビジネスコミュニケーション学専攻)

教育課程(専門科目) Educational Curriculum (Specialized Subjects)

必修 選択 の別	授 業 科 目 Subjects	単位数 Credits	学 年 別 配 当 Year				備 考 Notes
			1 年 1st year		2 年 2nd year		
			前期 1st Semester	後期 2nd Semester	前期 1st Semester	後期 2nd Semester	
必修 Required	経営学特論Ⅰ Management I	2	2				
	経営学特論Ⅱ Management II	2		2			
	データベース論 Foundation of Database Systems	2	2				
	生産管理論 Manufacturing Systems Engineering	2	2				
	製品開発論 Research and Development of Product	2				2	
	ビジネスセミナー Business Seminar	2	2				
	特別研究 Graduation Thesis Research	18	8			10	
	特別セミナー Advanced Seminar	2				2	
	企業実務実習 Internship	2		2			
開設単位計 Subtotal	34	18(2)		14(2)			
選択 Elective	経済経営数学 Mathematics for Economics and Business	2		2			8単位以上修得 8 or more Credits
	コーポレート・ファイナンス Corporate Finance	2			2		
	都市経済学 Urban Economics	2				2	
	市場戦略論 Marketing Strategy	2	2				
	広告メディア論 Advertisement and Media Vehicle	2		2			
	財務諸表論 Financial Statements	2		2			
	ロジスティクス論 Logistics	2		2			
	数理意志決定論 Mathematical Decision-making Theory	2			2		
	経営分析論 Financial Statement Analysis	2				2	
開設単位計 Subtotal	18	10		8			
開設単位合計 Total Credits Offered	52	28(2)		22(2)			

( )の数字は開講期を指定しない単位で外数

(出典：学校要覧，学生便覧)

(分析結果とその根拠理由)

工学系ービジネス系のシナジー教育，技術経営（MOT）教育を実施しており，専門関連科目等の開設により，養成する人材像である「ビジネスの知識も獲得した実践的技術者」及び「工学的知識も獲得した実践的職業人」を育成するために適切な教育課程が体系的に編成されている。以上のことから，教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されている。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

専攻科においては、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に迅速に対応できるように、定期的なカリキュラムの見直しを行うとともに、シラバスを毎年改善し更新している。

一般科目や専門関連科目により、全専攻で科学技術の動向やビジネスの知識を幅広く習得できるようになっており、他専攻の履修も可能となっている。また、他専攻の授業科目履修制度を設けてシナジー教育を充実させ、さらに「福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換」や「茨城大学・茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校間における単位互換に関する協定」も整備されている。

特別セミナーでは、他専攻の教員の指導の下、文献調査等を通して他専門分野に関する知識の修得を図っている。また、社会からの要請の高い技術経営（MOT）教育を実施するとともに、さらに平成17年度からは、全ての専攻で長期（約1ヶ月間）のインターンシップを実施している。これに加えて、特別研究では、その研究成果を修了時まで一回以上、学会等で発表することを義務づけており（資料5-5-②-4）、学術の発展に対応した研究指導が行われている（資料5-7-①-5～6）。

（分析結果とその根拠理由）

他専攻における特別セミナー等のシナジー教育の実施、他専攻の科目の履修、他高等教育機関との単位互換協定の締結、長期インターンシップの導入実施、学会等での発表の義務づけ等により、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

## JABEE プログラム修了要件

資料 5 - 5 - ② - 4

- (2) 学士の学位を取得すること。
- (3) 教育プログラムのカリキュラムにおいて、124 単位以上を修得すること。
- (4) 教育プログラムのカリキュラムにおいて、総計 1,800 時間以上の学習保証時間（教員等の指導のもとに行った学習時間）を経験すること。  
（この時間には、人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習 250 時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習 250 時間以上、および専門分野の学習 900 時間以上を含んでいなければならない。）  
（どの科目でこれらの学習保証時間を満たすかは、学科、専攻、また科目の選択の仕方而异する。別に配布する資料を参照すること。）
- (5) 次の①～⑤の各系に対し、定められた科目群から少なくとも 1 科目、合計最低 6 科目以上を修得すること。  
①設計・システム系、②情報・論理系、③材料、バイオ系、④力学系、  
⑤社会技術系（どの科目がどの科目群に属するかは、学科、専攻で異なる。別に配布する資料を参照すること。）
- (6) 学協会で特別研究に関する内容を発表すること。
- (7) TOEIC 試験で 400 点以上を目指すこと。

## 7. JABEE 認定による利点

JABEE によって認定されたプログラムを修了すると、専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され、さらに、技術者の唯一の国家資格である「技術士」になるための第 1 次試験を免除されて、「修習技術者」の資格が得られ、申請により「技術士補」の免許を得ることができます。その後最短で技術士の指導の下に 4 年間の実務経験を積み、技術士になるための第 2 次試験を受験できます。技術士とは、「技術士法」に基づいて行われる国家試験に合格し、登録した人だけに与えられる称号です。国はこの称号を与えることにより、その人が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定することになります。

準学士課程 5 年の卒業生はプログラム修了生にはなれませんが、JABEE 認定の教育の前半部を受けたことになり、専門知識や能力において有利な評価が得られるものと期待できます。

## 8. 本校の JABEE 認定制度に対する対応

本校では平成 18 年度に「産業技術システム工学」プログラムの JABEE 認定審査を受けました。JABEE の認定が得られた場合、平成 18 年度の工学系

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

必修科目・選択科目単位数及び講義、演習、実験、実習（インターンシップ）の単位数を、以下に示す（資料5-6-①-1～2）。講義科目を中心に、これらの科目がバランスよく配当されている。専攻科課程では、その他次のような特徴ある教育を実施している。

- 1) 専門科目は基本的に1クラス10人程度の少人数教育
- 2) 工学実験は1回6時間とし、本質を考えさせる充実した内容の指導
- 3) 1人の教員に数人の学生が指導を受ける工学セミナー、特別セミナー
- 4) 一般科目「倫理学」でのグループ討議の模擬体験学習
- 5) 一般科目「倫理学」, 「科学技術史」でのビデオ教材
- 6) 一般科目「現代英語Ⅱ」でのCALLシステム使用
- 7) ビジネス専攻「経営学特論Ⅱ」での客員教授の講義

資料5-6-①-1

必修・選、講義・演習・実験・実習（インターンシップ）の単位数

（平成16～18年度）

専門・専門関連科目 分類		必修	選択	講義	演習	実験	実習 (インターンシップ)
機械・電気システム 工学専攻	1年	10	34	44	2	8	2
	2年	14	18	18	2	12	
	計	24	52	62	4	20	2
物質・環境システム 工学専攻	1年	10	36	46	2	8	2
	2年	14	18	18	2	12	
	計	24	54	64	4	20	2
ビジネスコミュニケーション学専攻	1年	20	20	40	10	0	2
	2年	16	12	16	12	0	
	計	36	32	56	22	0	2

（出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告）

資料5-6-①-2

必修・選択，講義・演習・実験・実習（インターンシップ）の単位数  
（平成19年度）

目 専攻・学年	専門・専門関連科 分類	必修	選択	講義	演習	実験	実習 (インターンシップ)
	機械・電気システム 工学専攻	1年	17	30	36	2	9
2年		23	18	28	2	11	
計		40	48	64	4	20	2
物質・環境システム 工学専攻	1年	17	30	36	2	9	2
	2年	23	20	30	2	11	
	計	40	50	66	4	20	2
ビジネスコミュニケーション学専攻	1年	22	22	34	10	0	2
	2年	22	12	22	12	0	
	計	44	34	56	22	0	2

(出典：専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の養成する人材像である「実践的技術プロフェッショナル」及び「実践的ビジネスプロフェッショナル」の育成のために、講義，演習，実験及び実習（インターンシップ）の科目のバランスを考慮し，少人数教育や模擬体験学習等の特徴ある教育を実施するなど，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点到に係る状況)

専攻科では，創造性を育む教育方法(PBL)を取り入れた科目として，ビジネスコミュニケーション学専攻の「製品開発論」や全ての専攻に開設されている「特別セミナー」や「特別研究」がある。また，インターンシップも十分に活用されている。

「製品開発論」の科目では，製品開発を行うためのプロセス設計やマネジメント及び製品戦略等を学び，製品開発の基礎力や創造力を身につけることを目標としている。一方，「特別セミナー」は，他専攻教員の指導の下，文献購読や課題レポート提出等を通して他専攻の専門分野に関する専門知識の習得及び創造的思考力の育成を図るシナジー科目である。また，「特別研究」は，担当教員の指導の下，それぞれの研究課題に取り組むことにより，学生の深い専門能力の伸展を図り，探索的な学習

を通じて問題解決能力，研究・探索能力等を育成することを目指している。本校専攻科では，特別研究での創造的な研究成果を修了時まで一回以上，学協会等で発表することを義務づけており，これまでの修了生は全てこのような外部での研究発表を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む教育方法の科目として「製品開発論」や「特別セミナー」，「特別研究」等の科目を開設しており，これらの科目では問題提起から課題探求，問題解決までの一連の過程を通して，学生は創造性，実践性を育むことができる。特に「特別研究」では，幅広い専門分野から自分の研究テーマを選定し，そのテーマに沿った目標設定と研究計画を策定し，それを着実に遂行する研究開発能力を育成することができる。以上のことから，本校専攻科課程では，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が十分に行われている。

資料 5 - 6 - ② - 1

平成 18 年度 専攻科インターンシップ先一覧

専攻	氏名	機関名	テーマ	期間
機械・電気	植木 隆公	(株) 東洋システム	充放電試験装置の製造実習	8/7~9/22
機械・電気	遠藤 由弥	(株) クレハエンジニアリング	機械設計業務・計装設計業務の実習	8/21~9/15
機械・電気	国井 一寿	(株) クレハ	KPS排水処理実験	8/8~9/4
機械・電気	紺野 聖二	(株) アルプス電気	タブレットシートのドット形状測定	8/30~9/27
機械・電気	佐々木修平	(株) 会津オリンパス	内視鏡に用いる蛇管の簡易SO機の試作	8/21~9/20
機械・電気	佐藤 秀和	(株) クリナップ	キッチン製品の部材加工等プログラム作成	9/4~9/27
機械・電気	鈴木 敦詩	(有) 品川通信計装サービス	H8マイコンを用いた回路の設計・製作	8/21~9/27
機械・電気	中村 哲也	(株) アルパイン	カーナビ・カーオーディオ製品評価の実習	9/5~9/29
機械・電気	二瓶 修一	(株) 品川通信計装サービス	歯型CTスキャン画像処理プログラム作成	8/21~9/27
物質・建設	伊藤健太郎	トモエ化学工業(株)	肥料分析・土壌分析法	8/21~9/15
物質・建設	倉持 祥子	ニッソー樹脂(株)	ニッソードライM製品のリサイクル技術開発における基礎的 的操作技術研修	9/4~9/27
物質・建設	関 友則	(株) 東コンサルタント	建設コンサルタント業務の研修	8/21~9/15
物質・建設	武田 拓志	国土交通省東北地方整備局小名浜	工事現場見学・事務作業補助業務	8/21~9/8
物質・建設	仲西 涼	クレハ環境(株)	現場作業、産業廃棄物の仕分け・梱包・処理作業	8/28~9/21
物質・建設	根本奈都子	日東電工(株)	健康・生活関連製品開発	8/21~9/15
物質・建設	早矢仕梨江	(財)いわき市公園緑地観光公社フ ラワーセンター	植生調査	8/21~9/8
物質・建設	宮原 亮	(株) API コーポレーション	医薬品製造技術の習得	8/21~9/8
ビジコミ	上田 満	高周波熱錬㈱いわき工場	製造業における生産管理-製品の品質管理と高周波誘導加 熱による熱処理試験	8/21~9/15
ビジコミ	岡崎奈津美	㈱アイランド・プロジェクト(沖縄)	長寿の国、沖縄で高齢化社会について考える	8/26~9/22
ビジコミ	小川 拓也	いわき市役所都市建設部	いわき市の都市計画とまちづくり	8/21~9/15
ビジコミ	矢澤絵梨奈	いわき市役所企画調整部	地域交通の活性化	8/21~9/15

(出典：専攻科資料)



観点 5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

各授業担当教員が、担当科目の授業概要、到達目標、授業計画、評価方法等を明記したシラバスを作成している(資料 5-6-③-1~2)。授業担当者は、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等を考慮して、毎年シラバスを見直し更新している。シラバスは印刷物として各クラスに配布されるほか、データベース化して学校ホームページ上に公開している。学生は、シラバスを活用して、受講科目の予習・復習ができるシステムとなっている。教職員及び学生を対象に「シラバスの活用等に関するアンケート調査」を実施した(資料 5-6-③-3~8)。その結果から、教職員及び学生のいずれも、概ね有効にシラバスを活用していることが明らかとなった。

資料 5-6-③-1

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教官
倫理学	1	2	必修	前期	笠井 哲
Ethics		(30)		週2時間 B	
授業概要	将来、専門職業人として求められる「職業倫理(技術者倫理・ビジネス倫理)」の基礎事項を学ぶ。それとともに実際の事例に関するグループ討議等の模擬体験学習によって、倫理的な判断力を学習する。				
到達目標	①講義を通して、「職業倫理(技術者倫理・ビジネス倫理)」の基礎的な事項について、十分に理解することができる。②実事例に関するグループ討議等の模擬体験学習を通して、専門職業人に必要な倫理的判断力を身につけることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応: (A-1), (A-2), (A-3), (A-4), (A-5), JABEE基準1(f)との対応: (a), (b)。				
履修上の注意	事例に関するグループ討議では、将来の技術者と経営者という役割に沿ったロールプレイもするので、「職業倫理(技術者倫理・ビジネス倫理)」を、本当に自分自身の問題と考えて積極的に参加すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期	第1週	倫理学の概念と理論	功利主義倫理学・義務倫理学・徳倫理学		
	第2週	応用倫理学とは何か	生命倫理と環境倫理の成立と意義		
	第3週	職業倫理とは何か(1)	西洋における職業倫理の成立と意義		
	第4週	職業倫理とは何か(2)	日本における職業倫理の成立と意義		
	第5週	技術者倫理とは何か	技術者倫理成立の背景と意義		
	第6週	ビジネス倫理とは何か	ビジネス倫理成立の背景と意義		
	第7週	専門職業人に求められる行動規範	倫理綱領ないし倫理規定の成立と意義		
	第8週	専門職業人に求められる三つの徳	正直性・真実性・信頼性		
	第9週	実際の事例に対する取り組み方	事例の解決に必要な能力と対処法(線引き法等)		
	第10週	専門職業人の責任に関する事例研究	公衆の安全に対する技術者の責任		
	第11週	内部告発(警笛鳴らし)に関する事例研究	組織の中における技術者の判断と行動		
	第12週	説明責任に関する事例研究	公衆に対する技術者の説明責任と信頼関係		
	第13週	安全性とコストに関する事例研究	生産コストと安全配慮とのトレードオフ		
	第14週	製造物責任法(PL法)に関する事例研究	安全性に関する技術者の法的・倫理的責任		
	第15週	まとめ	次世代に対する専門職業人の責任		
前期期末試験	実施する				
教科書	技術者倫理、松島隆裕編、学術図書出版社; 日本文化の人間学、新保哲編、北樹出版				
参考図書	はじめての工学倫理第2版、齊藤了文・坂下浩司編、昭和堂; 新聞; ビデオ				
評価方法	定期試験の成績を75%、課題等の総点を25%として総合的に評価する。				

(出典：平成 19 年度シラバス)



資料 5 - 6 - ③ - 2

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教官
音響工学	2	2	選択	前期	渡辺 博
acoustical engineering		(30)		週2時間 A	
授業概要	超音波の性質、超音波の発生と検出、超音波振動子と圧電材料等の基礎的事項について講義する。また超音波応用技術として電子回路機能素子、超音波センサと圧電センサ、超音波エネルギーの応用等についても解説し、超音波工学の基礎的知識と技術の習得を図る。				
到達目標	①超音波と可聴音波との違い、超音波の諸性質と特徴を理解し説明できる。②圧電材料等による超音波の発生と検出及び超音波の各種応用技術について理解し説明できる。				
教育目標との対応	福島高专の教育目標との対応: (B-5). JABEE基準1(1)との対応: (d)-(2)-a).				
履修上の注意	初めて学ぶ技術分野であるので、復習を十分に行いその内容理解に努めること。講義の進行と合わせて適宜レポート等の課題を課すので、文献等の調査を通して、超音波応用技術についての興味と関心を持つように努めること。自学自習の確認方法-課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期	第1週	超音波の性質1	超音波と可聴音、超音波の伝搬		
	第2週	超音波の性質2	超音波の特徴、超音波の応用		
	第3週	超音波の発生と検出	圧電効果及び磁気ひずみ効果による超音波の発生と検出		
	第4週	超音波振動子と圧電材料1	電気ひずみ効果と圧電効果、圧電材料の種類		
	第5週	超音波振動子と圧電材料2	圧電基本式、電気機械結合係数		
	第6週	超音波振動子と圧電材料3	圧電セラミック振動子、電氣的等価回路		
	第7週	超音波振動子と圧電材料4	弾性表面波の励振、IDT電極と等価回路		
	第8週	電子回路機能素子1	水晶振動子、水晶発振器		
	第9週	電子回路機能素子2	圧電セラミックフィルタ		
	第10週	電子回路機能素子3	弾性表面波フィルタ		
	第11週	超音波センサと圧電センサ1	超音波探傷器、超音波ソナー、超音波医用診断		
	第12週	超音波センサと圧電センサ2	圧力センサ、加速度センサ、AEセンサ		
	第13週	超音波エネルギーの応用1	強力超音波の応用、超音波加工、超音波洗浄		
	第14週	超音波エネルギーの応用2	超音波モータ、圧電トランス、圧電点火素子		
	第15週	総括演習	これまで学習した内容の総括と演習		
前期期末試験	実施する				
教科書	やさしい超音波工学、川端 昭、工業調査会				
参考図書	①超音波、中村信良、コロナ社 ②圧電材料とその応用、塩崎忠、シーエムシー出版 ③弾性波デバイス技術、日本学術振興会弾性波素子技術第150委員会、オーム社				
評価方法	定期試験の成績を80%、演習や課題等の総点を20%として総合的に評価する。				

(出典：平成 19 年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

全ての科目に対してシラバスが作成され、本校で開発された「シラバス作成支援システム」を利用してデータベース化し、学校ホームページ上に公開している。シラバスには、科目の授業概要、到達目標、授業計画、評価方法等が明示され、適切に整備・活用されている。シラバスの活用等に関するアンケート調査により、教職員や学生の活用状況が概ね良好であることが明らかになっている。以上の理由により、教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、内容が適切に整備され、活用されている。



ここからは、質問3で「1. 活用している」と答えた方だけにお聞きます。

質問4 あなたは、どのようなときにシラバス（ホームページも含む）を活用していますか。あてはまるものすべてにマークしてください。

(5)

<input type="checkbox"/> 1: 学生へのシラバス活用方法の説明	<input type="checkbox"/> 2: 学生へのJABEEプログラムの説明
<input type="checkbox"/> 3: 学生への教育課程の説明	<input type="checkbox"/> 4: 学生への学習・教育目標の説明
<input type="checkbox"/> 5: 学生が選択科目を選択する際の実験	<input type="checkbox"/> 6: 履修者への授業内容の説明
<input type="checkbox"/> 7: 履修者への成績評価方法の説明	<input type="checkbox"/> 8: 履修者への予習・復習の指示
<input type="checkbox"/> 9: 履修者への次回授業の予告	<input type="checkbox"/> 10: 履修者への試験範囲の説明
<input type="checkbox"/> 11: 履修者の理解度確認	<input type="checkbox"/> 12: 授業の準備時
<input type="checkbox"/> 13: 授業の進捗状況の確認	<input type="checkbox"/> 14: 試験問題作成時
<input type="checkbox"/> 15: 次年度のシラバス作成時	<input type="checkbox"/> 16: JABEEプログラムの確認
<input type="checkbox"/> 17: 学習・教育目標の確認	<input type="checkbox"/> 18: 教育課程の確認
<input type="checkbox"/> 19: 担当以外の科目の授業内容確認	<input type="checkbox"/> 20: 書類・資料作成時の参考
<input type="checkbox"/> 21: 委員会等会議の際	<input type="checkbox"/> 22: その他

質問5 あなたは、どのくらいの頻度でシラバス（ホームページも含む）を活用していますか。あてはまるもの1つにマークしてください。

(6)

<input type="checkbox"/> 1: 1週間に3回以上	<input type="checkbox"/> 2: 1週間に1回以上3回未満
<input type="checkbox"/> 3: 1か月に2回以上、1週間に1回未満	<input type="checkbox"/> 4: 1か月に1回以上2回未満
<input type="checkbox"/> 5: 2か月に1回以上、1か月に1回未満	<input type="checkbox"/> 6: 半年に1回以上、2か月に1回未満
<input type="checkbox"/> 7: 半年に1回未満	

2 / 2  
2007.9-5

(出典：認証評価委員会資料)

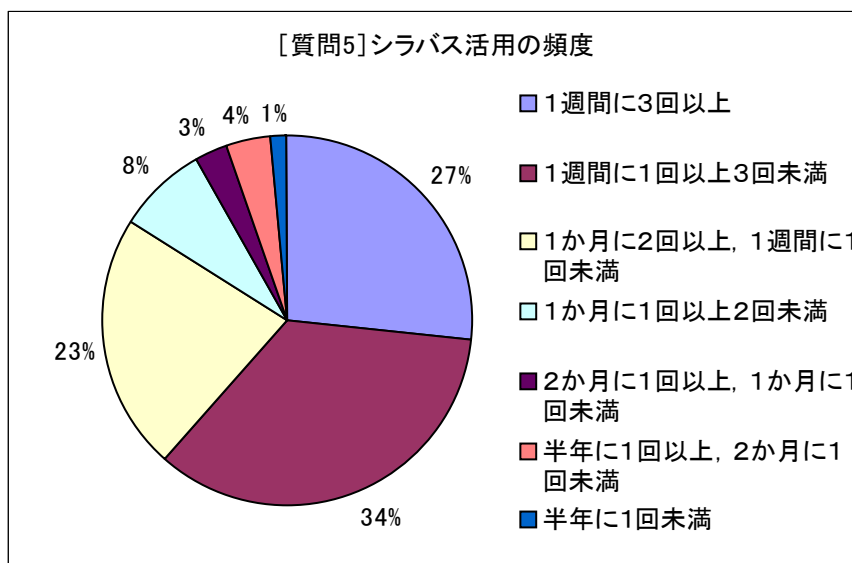
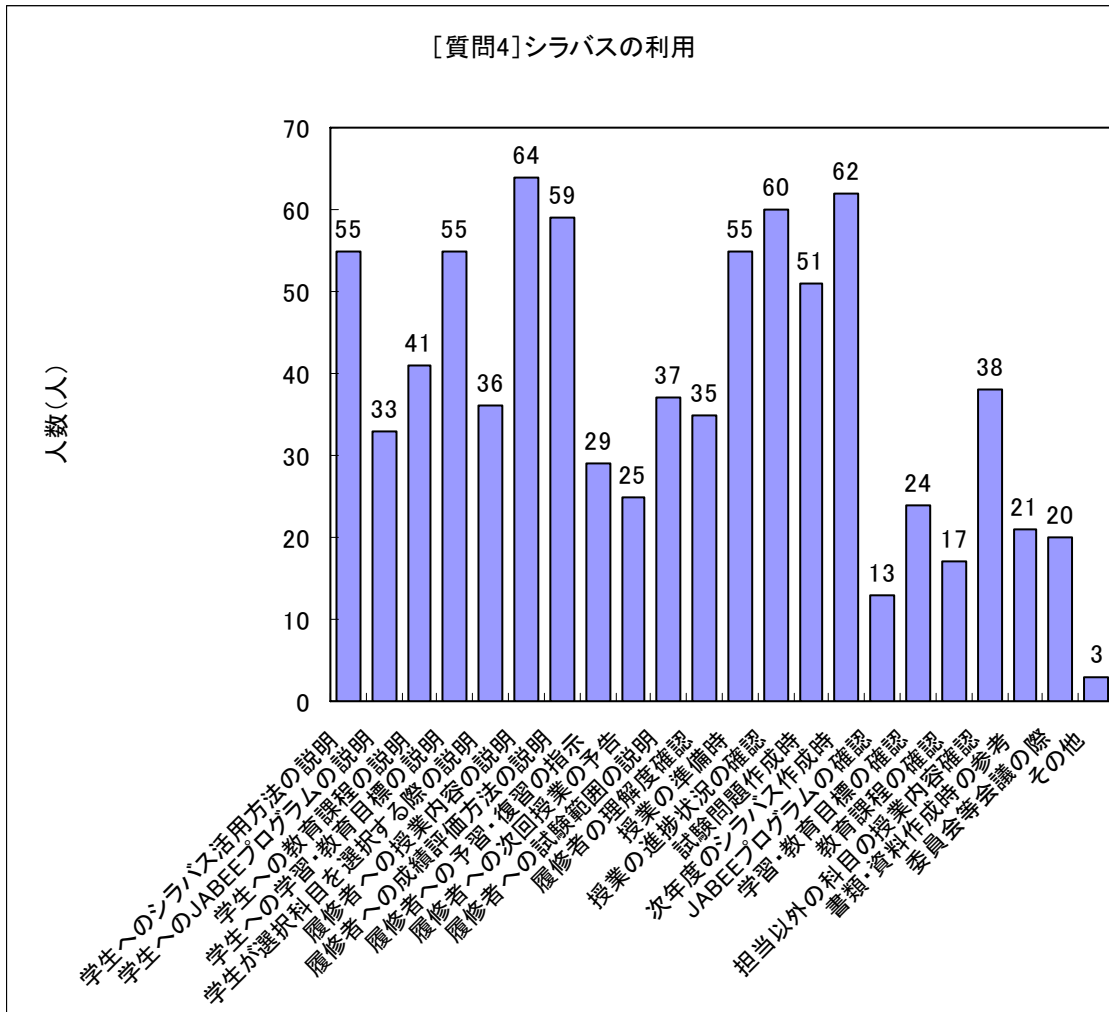






教員のシラバス活用に関するアンケート結果

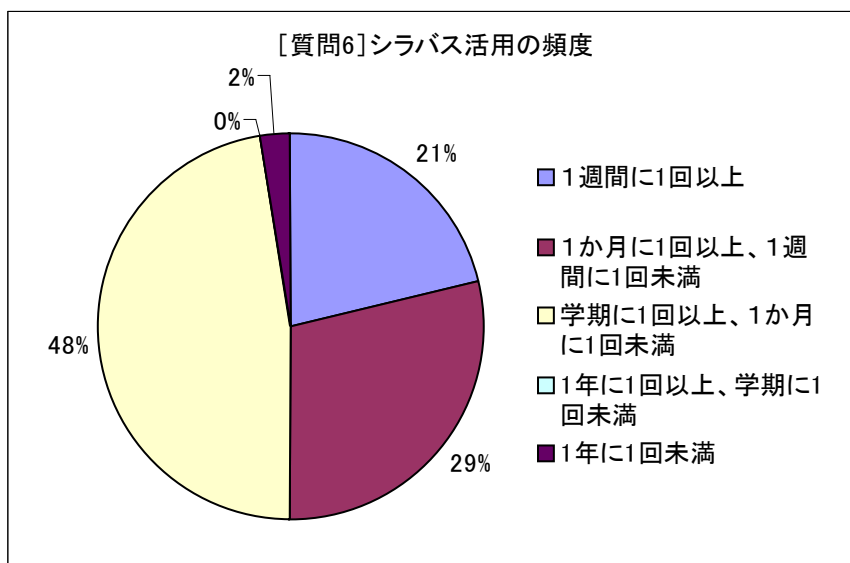
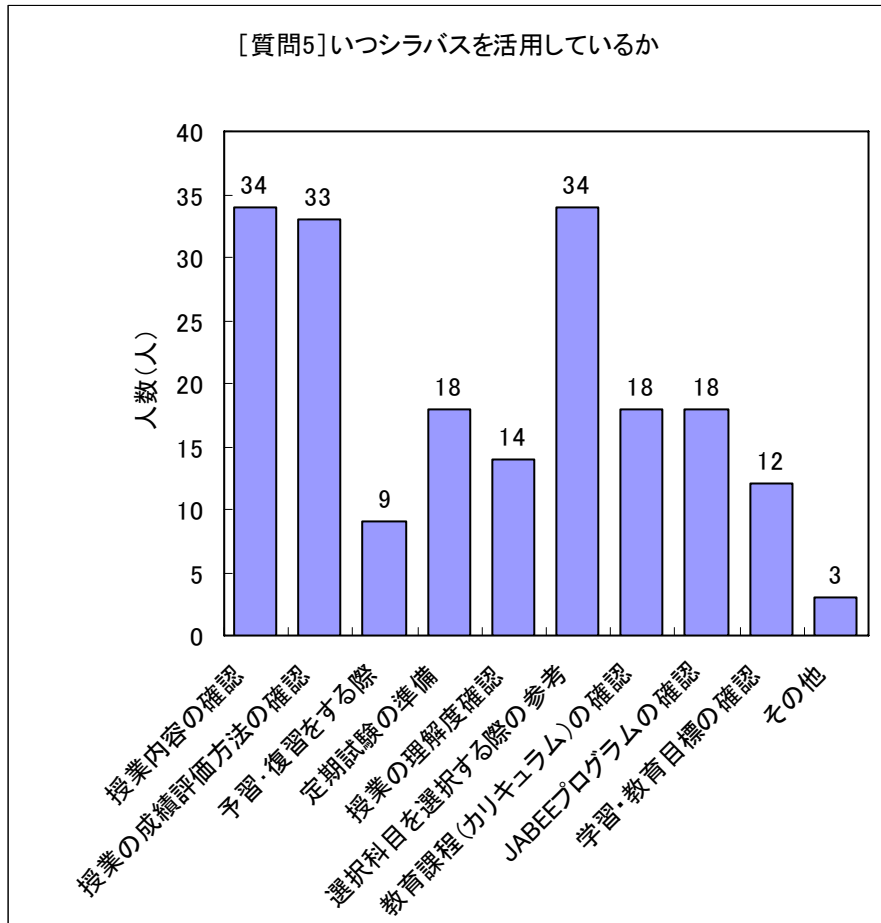
資料5-6-③-7



(出典：認証評価委員会資料)

資料 5 - 6 - ③ - 8

専攻科学生のシラバス活用に関するアンケート結果



(出典：認証評価委員会資料)

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

特別研究では、入学時にガイダンスを行い、各専攻科教員が入学生に対して各自の専門とする研究テーマとその概要について説明している。学生は、その内容を理解した上で、希望する研究テーマと指導教員（研究室）を選択するが、基本的に学生が希望する研究テーマや指導教員を選べるように配慮している。特別研究では、学生1名に対し1～2名の指導教員が研究指導するが、学生数が少ないため、きめ細かな研究指導ができる状況となっている。また、実験や実験機器の製作が伴うような研究テーマについては、技術部の技術系職員による十分な支援が得られる体制となっている。専攻科では、各専攻ごと、修了までの2年間に中間発表3回と最終発表1回の計4回の発表会を実施し、その都度専攻科教員による評価を行っている。また、最終発表会の後、研究成果を広く市民に知ってもらうため、学校外で市民参加による一般公開の発表会も実施している。

なお、特別研究の成果は、最終的に「専攻科特別研究論文集」の冊子にまとめて公表するほか、学生全員に修了時まで一回以上の学会等での発表を義務づけている（資料5-7-①-1～3）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科では、学生の入学後に特別研究のガイダンスを行い、各専攻科担当教員の研究テーマやその内容を理解した上で、希望の特別研究テーマや指導教員を選択できるように配慮している。特別研究では、教員一人あたりの学生数が少数であるため、きめ細かな指導ができており、研究テーマによっては技術系職員の支援が得られる体制となっている。専攻科では、修了までの2年間に、学内で計4回の特別研究の中間及び最終発表会を開催し、その都度評価を行うほか、さらに外部での一般公開の発表会も開催し、学会等での発表も義務づけている。以上の理由から、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。



資料 5 - 7 - ① - 1

専攻科課程の特別研究テーマ一覧

(平成 17 年度 1 年生)

専攻	学生	指導教員	研究テーマ
機械・電気	五十嵐雄大	佐東	異種材料の摩擦攪拌接合に関する強度特性評価
機械・電気	大山 智幸	小泉	新しい暗号系の構築に関する研究
機械・電気	金井 紀綱	一色	風力発電に関する研究
機械・電気	佐藤 貴是	永井	伸び・縮みフランジ変形を有する U 形断面品のねじれ解析
機械・電気	白石 裕昭	一色	$\beta$ 型大容量ピンフィンスターリングエンジンの実験的研究
機械・電気	鈴木 秀司	永井	U 曲げのスプリングバック変形に及ぼすパンチ・パッド形状の影響
機械・電気	廣川 綾子	佐東	地域伝統芸のじゃんがらロボットの開発
機械・電気	渡邊 剛	佐東・松尾	高弾性・高反発型ゴルフクラブの開発
物質・環境	秋元 俊夫	原田・橋本	市街地における雨水の貯留に関する研究
物質・環境	五十嵐雅俊	伊藤・内田	色素増感太陽電池の高性能化に関する研究
物質・環境	浦尻 裕樹	原田	里山の景観保全に関する研究
物質・環境	佐々木 誉幸	伊藤	色素増感太陽電池の高性能化に関する研究
物質・環境	佐藤 拓郎	原田・橋本	土壌を使った汚水の浄化法に関する研究
物質・環境	鈴木 大地	伊藤	含ケイ素高分子を前駆体とするセラミックス材料
物質・環境	鈴木 智美	原田・菊地	浮遊砂流における連行係数の算定に関する一考察
物質・環境	高橋 寛生	天野・鴨下	有機塩素化合物分解菌の探索
物質・環境	田中 瑞希	井上・梅澤	有機 2 次非線形光学用高性能分子種の合成と電場配向ポリマーの作成評価
物質・環境	田村 夏樹	青柳	ヘム異常代謝反応の中間体および新規酵素モデルに関する研究
物質・環境	鶴宮 淳平	伊藤・青木	リグニンの環境低負荷処理法の開発
ビジネス	荒井 千史	渡部(順) 渡部(美)	税法的視点からの企業会計の考察
ビジネス	大竹 温子	渡部(順) 渡部(美)	時価評価の有用性
ビジネス	酒井 大樹	渡部(順)	高専のマネジメント
ビジネス	塚野加奈子	芥川	旅行の多面的価値を考慮した旅行計画の一考察
ビジネス	比佐 学	芥川	旅行の多面的価値を考慮したサービスの一考察
ビジネス	吉田真智子	田代	環境保全を考慮した生産システムに関する研究

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

資料 5 - 7 - ① - 2

## 専攻科課程の特別研究テーマ一覧

(平成 17 年度 2 年生)

専攻	学生	指導教員	研究テーマ
機械・電気	會田 祐輔	大槻	縦格子と人工ランダムドット平面の立体視に関する研究
機械・電気	阿部 軌道	一色・篠木	振動場における境界層の挙動と熱輸送機構に関する研究
機械・電気	石川 智史	永井	曲げ変形の除荷・再負荷過程におけるヤング率の測定
機械・電気	佐賀 行弘	濱崎	新しい強誘電・強弾性体の誘電的性質に関する研究
機械・電気	佐藤 朝範	永井	二段 U 曲げ加工に関する研究
機械・電気	志賀 弘和	永井	ヤング率のひずみ依存性を考慮した曲げ変形のスプリングバック解析
機械・電気	柴田 耕一郎	渡辺 (敏)	研削音のドレッシング時期の判定に関する研究
機械・電気	鈴木 浩史	佐東・松尾	ゴルフロボットを用いたゴルフクリニックの開設
機械・電気	田中 健	大槻	網戸と自然地面の波状立体錯視に関する研究
機械・電気	諸我 昌哉	佐東	SiC 系複合材料の繊維プッシュアウトによる界面剪断滑り強度の解析
物質・環境	大和田祐加	森田	地震時に発生する液状化のメカニズムについて
物質・環境	木下 康之	緑川・斎藤	中心市街地における歩行者の移動特性に関する研究
物質・環境	小林祐季子	緑川・斎藤	景観の評価基準に関する研究
物質・環境	佐々木紹好	伊藤・青木	光触媒による CO <sub>2</sub> の還元反応
物質・環境	田中美奈子	橋本・原田	木炭等を用いた簡易汚水処理法の検討
物質・環境	鳥海 耕司	原田	新川上流高野地区におけるホテルのハビタット創出
物質・環境	西成田 由	山ノ内・斎藤	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの実践に関する研究
物質・環境	島山 洋介	伊藤	ケイ素の特性を活用した新しい物質の創製
物質・環境	松井田 香	青柳	新規ペルフルオロアルキル基置換ヘムを有する再構成ヘム蛋白質の合成と性質
物質・環境	水野谷尚美	原田・押手	環境物質(金属イオン, ビタミン類, アミノ酸等)の高感度計測法
物質・環境	村山 暢	根岸	一般化高次理論に基づく平板曲げの精密化有限要素法の開発
物質・環境	渡邊 法子	井上	新規芳香族ポリアミド合成と微細多孔材料への応用
ビジネス	金澤 朋子	森川	ハイパーゲームによる競争戦略の分析
ビジネス	柴田 俊介	芥川	地域メッシュ統計を利用した地域特性に関する研究
ビジネス	鈴木香菜恵	渡部(順)	意思決定のための会計情報の分析
ビジネス	関 めぐみ	芥川	QR コードを利用したトレーサビリティに関する一考察
ビジネス	吉田 幸生	渡部(順)	いわき市における産学官連携活動

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

## 資料 5 - 7 - ① - 3

## 専攻科課程の特別研究における学会等発表実績

専攻	専攻科生	指導教員	発表研究名	発表学会	発表日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	大規模スケールのランダムドット平面と縦格子による立体錯視現象	第 21 回 日本認知科学会	H16 年 7 月 30 日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	ランダムドット平面と縦格子による立体錯視におけるドットの遮蔽パターン解析	第 21 回 日本認知科学会	H16 年 7 月 30 日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	縦格子とそれに平行なドット平面による立体錯視現象におけるドット遮蔽と遠近感に関する基礎研究	第 22 回 日本認知科学会	H17 年 7 月 30 日
機械・電気	阿部 軌道	一色 誠太 篠木 政利	短径流露内における往復振動境界層の挙動	第 8 回スターリング サイクルシンポジウム	H16 年 10 月 22 日
機械・電気	坂本 道人	渡辺 敏夫	低周波音のマスクング聴覚特性に関する研究	日本機械学会 東北学生会	H17 年 3 月 5 日
機械・電気	鈴木 浩史	佐東 信司 松尾 忠利	ゴルフロボットを用いたゴルフクリニックの解説	日本機械学会 東北学生会	H17 年 3 月 5 日
機械・電気	田中 健	大槻 正伸	縦格子と自然地面による波状立体錯視現象の測定と解析	第 22 回 日本認知科学会	H17 年 7 月 30 日
物質・環境	大和田 祐加	森田 年一	沿岸地域を対象とした地震時挙動解析	土木学会東北支部 技術研究発表会	H17 年 3 月 11 日
物質・環境	木下 康之	緑川 猛彦 斎藤 充弘	歴史・風土からみた小名浜港のまちづくり資産について	第16回いわき地域 環境科学会発表会	H17年 1月29日
物質・環境	田中 美菜子	原田 正光 橋本 孝一	木炭の水処理への適応可能性の検討	土木学会東北支部 技術研究発表会	H17年 3月11日
物質・環境	鳥海 耕司	原田 正光	新川上流高野地区における蛍の生育環境調査	土木学会東北支部 技術研究発表会	H17 年 3 月 11 日
物質・環境	西成田 由	山ノ内正司 斎藤 充弘	まちを探索すると見えてくるユニバーサルデザイン～いわき市本町通りを対象として～	全国高等専門学校 デザインコンペティ ション2004	H16年 9月3日 ～5日
物質・環境	畠山 洋介	伊藤 正義	[S i (H) - C ≡ C] 単位を有する含ケイ素ポリマーの加水分解	第7回化学工学 学生発表会	H17年 3月5日
物質・環境	松井田 香	青柳 克弘	メソ位にトリフルオロメチル基を有する新規ポルフィリン、ヘム及び再構成ミオグロビンの合成と性質	化学系学協会 東北大会	H16年9月
物質・環境	松井田 香	青柳 克弘	新規メソ位ペルフルオロアルキル基置換ポルフィリン、ヘムおよび再構成ミオグロビンの合成と性質	第10回 高専シンポジウム	H16年1月
物質・環境	村山 暢	根岸 嘉和	一般化高次平板理論に基づく有限要素解析における3次修正の効果	土木学会東北支部 技術研究発表会	H17 年 3 月 11 日
物質・環境	水野谷 尚美	原田 正光 押手 茂克	均一液液抽出におけるペルフルオロオクタン酸の分離回収	日本化学会 85 春季年会	H17 年 3 月 26 日
ビジネス	柴田 俊介	芥川 一則	地域メッシュ統計を利用した地域分析	日本経営工学会東北 支部卒業論文・修 士論文発表会	H17 年 2 月 19 日
ビジネス	関 めぐみ	芥川 一則	QR コードを利用したトレーサビリティに関する一考察	日本経営工学会東北 支部卒業論文・修 士論文発表会	H17 年 2 月 19 日

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

専攻科課程の特別研究テーマ一覧

資料 5 - 7 - ① - 4

(平成 18 年度 2 年生)

特別研究論文名および指導教員名一覧

機械・電気システム工学専攻

氏名	特別研究テーマ	指導教員
五十嵐雄大	アルミニウム合金の摩擦攪拌接合に関する強度特性	佐東 信司
大山 智幸	新しい暗号系の構築に関する研究	小泉 康一
金井 紀綱	3次元自然風を用いる小型プロペラ型風車の研究	一色 誠太
佐藤 貴是	伸び縮みフランジを有するU曲げ品の成形	永井 康友
白石 裕昭	$\beta$ 型大容量ピンフィンスタールリングエンジンの実験的研究	一色 誠太
鈴木 秀司	U曲げのスプリングバック変形に及ぼすパンチ、パッド形状の影響	永井 康友
廣川 綾子	地域伝統芸能じゃんがらロボットの開発	佐東 信司 鈴木 茂和
渡邊 剛	高弾性・高反発型ゴルフクラブの開発	佐東 信司 松尾 忠利

物質・環境システム工学専攻

氏名	研究テーマ	指導教員
秋元 俊夫	雨水の貯留効果の評価に関する実践的研究	原田 正光 橋本 孝一
五十嵐雅俊	酸化チタン微粒子を用いた色素増感太陽電池の高性能化	伊藤 正義 内田 修司
浦尻 祐樹	貝殻廃棄物を利用した水質浄化法の検討	原田 正光
佐々木誉幸	含ケイ素耐熱高分子材料の合成	伊藤 正義
佐藤 拓郎	水環境改善に向けた住民運動の成果と簡易浄化法の提案	原田 正光 橋本 孝一
鈴木 大地	高耐酸化性含ケイ素炭素材料の合成	伊藤 正義
鈴木 智美	浮遊砂流の流れに及ぼす粒子特性の影響	原田 正光 菊地 卓郎
高橋 寛生	有機塩素化合物分解菌の探索	天野 仁司 鴨下 祐也
田村 夏樹	ヘム異常代謝反応の中間体モデル-N-アルキルコバルトポルフィリンを有する再構成ミオグロビンの構造と反応	青柳 克弘
鶴宮 淳平	リグニンの環境低負荷処理法の開発	伊藤 正義 青木 寿博

ビジネスコミュニケーション学専攻

氏名	研究テーマ	指導教員
大竹 温子	時価評価が製菓業界に与えた影響について	渡部 順一 渡部美紀子
酒井 大樹	変革期における組織均衡の一考察～福島高専を事例にして	渡部 順一
塚野加奈子	旅行の多面的価値を考慮した旅行サービスの一考察	芥川 一則
比佐 学	旅行の多面的価値を考慮した旅行プランの一考察	芥川 一則
吉田真智子	自動車産業の環境保全戦略に関する一考察	田代 均

(出典：平成 18 年度専攻科特別研究論文集)

資料 5 - 7 - ① - 5

## 専攻科学生の学会発表実績

(平成 18 年度修了生)

## 専攻科修了生の研究成果一覧

## 機械・電気システム工学専攻

氏名	題目	発表機関	年月日
金井 紀綱 一色 誠太	3次元自然風を用いる小型プロペラ型風車の試作研究	第12回高専シンポジウム	2006.1.27
五十嵐雄大 佐東 信司 他	7075 アルミニウム合金の摩擦攪拌接合材の硬さ特性	日本機械学会東北学生会第36回学生員卒業研究発表講演会	2006.3.4
鈴木 秀司 永井 康友	U曲げのスプリングバック変形に関する研究	日本機械学会東北学生会第36回学生員卒業研究発表講演会	2006.3.4
佐藤 貴是 永井 康友	伸び縮みフランジ部を有するU曲げ品の成形	日本機械学会東北学生会第36回学生員卒業研究発表講演会	2006.3.4
大山 智幸 小泉 康一	The Cryptography Using the Lucky Numbers of Ulam	電気関係学会東北支部連合大会	2006.8.30
佐藤 貴是 永井 康友	伸び縮みフランジ部を有するU曲げ品の成形	第57回日本塑性加工学会秋季講演会	2006.10.31
鈴木 秀司 永井 康友	U曲げのスプリングバック変形に及ぼすパンチ・パッド形状の影響	第57回日本塑性加工学会秋季講演会	2006.11.1
白石 裕昭 一色 誠太	$\beta$ 型大容量ピンフィンスターリングエンジンの実験的研究、	第12回高専シンポジウム	2007.1.27
五十嵐雄大 佐東 信司	7075 アルミニウム合金の摩擦攪拌接合材の強度特性	日本機械学会東北学生会第37回学生員卒業研究発表講演会	2007.3.5
廣川 綾子 鈴木 茂和 佐東 信司 他	いわき伝統芸のじゃんがらロボットの製作	日本機械学会東北学生会第37回学生員卒業研究発表講演会	2007.3.5
渡邊 剛 松尾 忠利 佐東 信司	高弾性・高反発型ゴルフクラブの開発	日本機械学会東北学生会第37回学生員卒業研究発表講演会	2007.3.5

## 物質・環境システム工学専攻

氏名	題目	発表機関	年月日
鈴木 大地 伊藤 正義 他	含ケイ素高分子を前駆体とする高耐酸化性炭素材料の合成	平成17年度化学系協会東北大会	2005.9.24
田村 夏樹 青柳 克弘 他	ヘム異常代謝反応の中間体モデル-N-アルキルコバルトポルフィリンを有する再構成ミオグロビンの構造と反応	平成17年度化学系協会東北大会	2005.9.25

(出典：平成18年度専攻科特別研究論文集)



資料 5 - 7 - ① - 6

専攻学生の学会発表実績 (平成 18 年度修了生)

秋元 俊夫 橋本 孝一	雨水の貯留・浸透効果の評価に関する実践的研究	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会	平成 17 年 3 月 10 日
浦尻 祐樹 原田 正光	貝殻廃棄物を利用した水質浄化法の検討	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会	平成 17 年 3 月 10 日
佐藤 拓郎 橋本 孝一	いわき市における河川浄化に係わる住民運動の成果と課題に関する考察	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会	平成 17 年 3 月 10 日
鈴木 智美 菊地 卓郎 福嶋 祐介	粒子特性が浮遊砂流に与える影響について	平成 17 年度土木学会東北支部技術研究発表会	平成 17 年 3 月 10 日
鶴宮 淳平 青木 寿博	TiO <sub>2</sub> 光触媒によるリグニン水溶液の漂白	第 8 回化学工学会学生発表会一関大会	2006. 3. 11
五十嵐雅俊 伊藤 正義 内田 修司	酸化チタン微粒子を用いた色素増感太陽電池の研究	平成 18 年度化学系協会東北大会	2006. 9. 23
佐々木 誉幸 伊藤 正義 他	含ケイ素耐熱高分子材料の合成	平成 18 年度化学系協会東北大会	2006. 9. 24
鈴木 智美 菊地 卓郎 福嶋 祐介	砂粒子の大きさが浮遊砂流の乱流構造に与える影響	土木学会関東支部新潟会第 24 回研究調査発表会	2006. 11. 21
鈴木 智美 菊地 卓郎 福嶋 祐介	浮遊砂流の乱流構造と砂の連行係数の評価	平成 18 年度土木学会東北支部技術研究発表会	2007. 3. 2
高橋 寛生 鴨下 祐也	有機塩素化合物分解菌の探索	第 9 回化学工学会学生発表会	2007. 3. 3

ビジネスコミュニケーション学専攻

氏名	題目	発表機関	年月日
塚野加奈子 芥川 一則	旅行の多面的価値を考慮した旅行サービスの一考察—韓国済州新羅ホテルインターンシップを終えて—	第 4 回観光まちづくり学会研究発表会	2005. 10. 15
吉田真智子	自動車産業の環境保全戦略に関する一考察	平成 17 年度日本経営工学会東北支部卒業論文・修士論文発表会	2006. 3. 6
比佐 学 芥川 一則	旅行の多面的価値を考慮した旅行計画の一考察—韓国済州新羅ホテルインターンシップを終えて—	第 4 回観光まちづくり学会研究発表会	2005. 10. 15
塚野加奈子 芥川 一則	韓国人観光客についての現状分析と課題	第 5 回観光まちづくり学会研究発表会	2006. 10. 21

資料 5 - 7 - ① - 7

専攻学生の学会発表実績

(平成 18 年度修了生)

比佐 学 芥川 一則	いわき市と済州島の観光資源の分類と分析	第 5 回観光まちづくり学会研究発表会	2006. 10. 21
塚野加奈子 芥川 一則	韓国人観光客についての現状分析と課題	東北都市学会 2006 年度大会	2006. 11. 19
大竹 温子	時価評価が製菓業界に与えた影響について	平成 18 年度日本経営工学会東北支部卒業論文・修士論文発表会	2007. 3. 5
酒井 大樹	変革期における組織均衡の一考察～福島高専を事例にして	平成 18 年度日本経営工学会東北支部卒業論文・修士論文発表会	2007. 3. 5

(出典：平成 18 年度専攻科特別研究論文集)

観点 5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。またこれらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

単位認定規定及び修了規定は学内規定で定められ、学生便覧に記載され、学生に周知されている。成績評価方法はシラバスに記載され、それに基づいて学期の初めに授業担当者がそれぞれ説明を行うことで学生に周知されている。

成績評価は、科目ごとに、定期試験の成績及び平素の成績（小テスト、レポート等）を総合して行っている。講義科目では、原則 100 分の定期試験を実施し、答案は採点后学生に返却され、学生に採点結果を確認させる。また、成績評価では、定期試験の割合を 70%以上として、シラバスに記載された基準で行われる。特別研究においては、中間発表会（3回）及び最終発表会での発表内容を、その指導教員と専攻科教員が評価し、それらの評価結果と最終論文の評価結果を総合して成績評価される。

講義科目と同様、工学実験などの実験科目でも、レポートは教員が採点し、学生に返却される。その結果から、学生は自分で科目の評価結果を算出し確認できる。講義科目では、期末試験の後に最後（15 回目）の授業があり、そこで期末試験の答案が返却が、その答案返却時も含めて、学生にはその後の成績評価結果に対して、異議申し立ての機会が与えられている。

単位認定は、専攻科会議の議を経て校長が認定する。各科目は、成績評価が 60 点以上の場合に単位が認定される。また、他の高等教育機関等で取得した特別学修による単位も 20 単位を限度として単位認定される。授業形態が A または B の科目（A：講義を主とする科目、B：講義と実技、実習等をあわせて行う科目）については、学年成績が 60 点未満の科目がある場合は、学生が申請すれば単位追認試験を 1 回だけ受験できる。この単位追認試験の結果が 60 点以上となった場合、この科目の最終評価は 60 点に再評価され、単位が追認される。

修了認定基準は、学内規定で定められている。所定の単位を取得し、学位授与機構の認定試験に合格した学生に対しては、「学士」の学位が授与され、専攻科会議の議を経て校長が「修了」を認定する。

成績評価・単位認定規定や修了認定規定の内容が学生にどの程度周知されているかについて、アンケート調査を実施した（資料 5-8-①-1～2）。その結果によれば、成績評価・単位認定及び修了認定規定の内容については、ほぼ 100%に近い学生が「よく知っている」または「だいたいよく知っている」と回答しており、十分周知されていることが確認された。

(分析結果とその根拠理由)

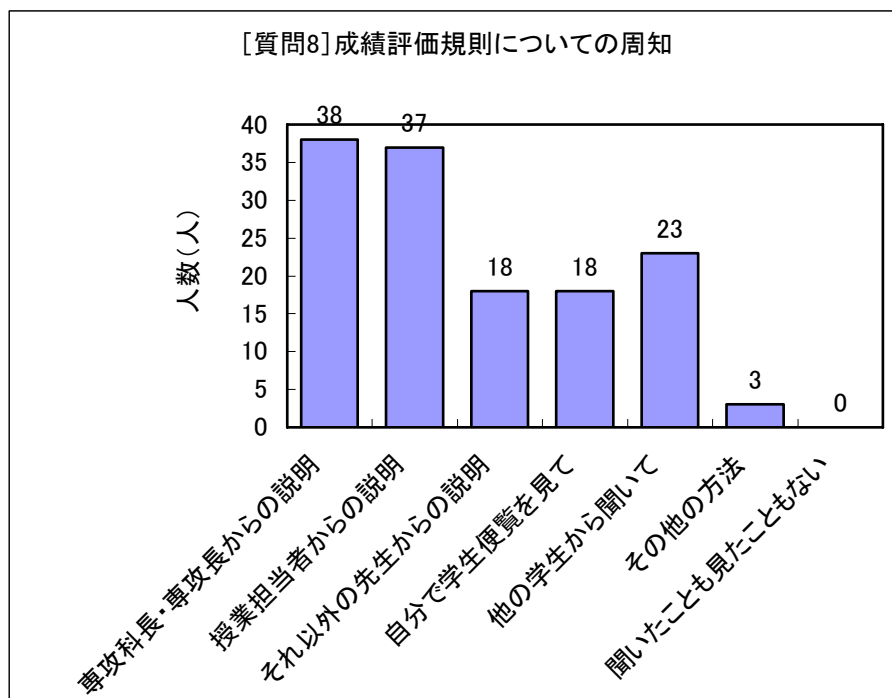
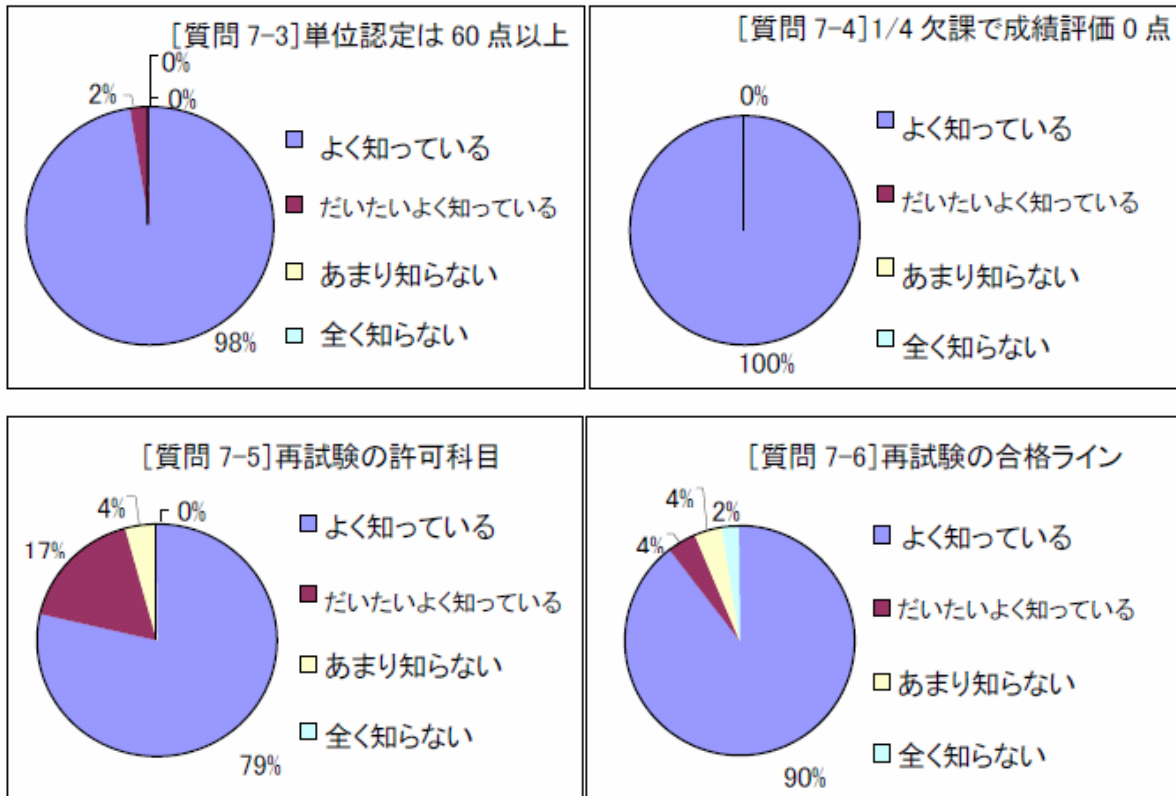
成績評価・単位認定規定や修了認定規定が学内規定で定められ、学内便覧や授業担当者等を通じて学生に周知され、また学生アンケートによってその周知が十分なされていることが確認されている。これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施され、これまでの修了生全員が学位授与機構の認定試験に合格して「学士」の学位を授与されている。





資料 5 - 8 - ① - 2

専攻科学生の成績評価規則に関するアンケート調査結果



(出典：認証評価委員会資料)

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

#### <準学士課程>

- ・平成 18 年度から、全学科 2 年生を対象に、全教員の指導のもと、専門分野の枠を超えた自由な発想・創造性を生かした新たな科目として「ミニ研究」を導入し実施している。
- ・学外の教育施設等における特別学修の単位認定規定を見直し、各種の資格検定試験の受験を積極的に奨励するとともに、これらの資格検定試験合格者に対して特別学修単位としての単位認定を行っている。

#### <専攻科課程>

- ・準学士課程との関連に考慮したカリキュラムが編成され、教育内容が体系的に組まれている。特に、専門関連科目に「経営管理論」や「産業技術特論 I, II」等の科目を開設し、工学系ービジネス系のシナジー効果の下で、技術経営 (MOT) 教育を実施している。
- ・創造性を育む教育方法の科目として「製品開発論」や「特別セミナー」, 「特別研究」等の科目を開設し、問題提起から課題探求, 問題解決までの一連の学習過程を通して、創造性, 実践性の育成を図っている。
- ・特別研究では、専攻科教員一人当たり 1～2 名程度の少人数の学生に対し、きめ細かい指導を実施している。また、特別研究の成果を修了時まで一回以上、学協会等で発表することを義務づけており、学術の発展に対応した研究指導が行われている。

### 【改善を要する点】

- ・今後、特別研究等の充実のため、外部企業との共同研究の強化や COOP 教育の導入を検討実施していく必要がある。

## (3) 基準 5 の自己評価の概要

### <準学士課程>

本校の学習・教育目標に沿って学科毎に授業科目が適切に配置され且つ学年間の関連を考慮した教育課程となっており、教育内容の体系性が確保されている。また、各授業科目に対応して、その授業概要、到達目標、授業計画、評価方法等を記載したシラバスを、本校で開発された「シラバス作成支援システム」を利用して各教員が作成し、ホームページ上でも公開している。各授業科目は、それぞれの到達目標を十分実現できるように、講義、演習、実験・実習等が組み合わせられた適切な授業形態となっている。本校では、平成 18 年度から、全学科 2 年生を対象に、全教員の指導のもと、専門分野の枠を超えた自由な発想・創造性を生かした科目として「ミニ研究」を開設し、ポスターセッション形式の「ミニ研究発表会」を実施するなどの新しい試みも行っている。

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が明確に定められ、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

教育課程の編成において、1 学年～3 学年に「特別活動」を実施するとともに、毎朝行われるショートホームルームや各種委員会の企画による集会やイベント、さらに各学科で開催する学科講演会などを通じて、人間の素養の涵養と人間力の育成に努めている。また、全教員による各クラブの指導体制も整っており、「文武両道」の教育方針の下で、多くの学生が積極的にクラブ活動に参加している。

### ＜専攻科課程＞

教育課程は準学士課程との連携を考慮して編成されており、授業科目は本校の学習・教育目標に照らして適切に配置され、体系化されている。講義、実験、実習等の科目がバランスよく配置され、また、「製品開発論」等の講義科目のほか、「インターンシップ」や「特別セミナー」、「特別研究」等の実施を通じて実践力や課題探求・問題解決能力を養い、創造性を育む（PBL）教育を実践している。

シラバスも適切に作成され公開されており、講義の内容や進捗の確認及び学生の自主的な学習等に、有効に利用されている。他の高等教育機関（茨城高専、茨城大学、福島県内の他の高等教育機関）との単位互換協定も締結され、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応できる教育システムとなっている。

「特別研究」の指導は、学生数が教員一人当たり1～2人と少人数なためきめ細かい指導がなされており、学内での発表会のほか一般市民を対象とする公開発表会も実施しており、さらに、学生全員に修了時まで一回以上の学協会等での発表を義務づけている。

成績評価・単位認定規定、修了認定規定が策定され、その内容が学生に周知されており、成績評価、単位認定及び修了認定が適切に実施されている。

## 基準 6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、目的に沿って学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を明確に定め、それに対応させて授業科目を配置しており、その達成状況の把握については、教務委員会（資料 6-1-①-1）及び専攻科委員会（資料 6-1-①-2）において、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力ごとに達成要件（準学士過程の卒業要件（資料 6-1-①-3）及び専攻科課程の修了要件（資料 6-1-①-4））を定めることにより、その達成状況の把握方法を明確にし、これに基づいて、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価する取組を行っている。

学生個人の学習・教育目標の達成度評価は、学習・教育目標に対する科目の関与割合（資料 6-1-①-5）を加味した総合評価を基に実施している（資料 6-1-①-6）。

#### 福島工業高等専門学校教務委員会規則

資料 6-1-①-1

（昭和 41 年 4 月 6 日）

（規則 第 8 号）

（最終改正 平成 18 年 3 月 30 日 規則 第 22 号）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則（昭和 62 年 規則 第 11 号）第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学校行事に関する事項
- (2) 学生の試験に関する事項
- (3) 授業時間割の編成に関する事項
- (4) 教務に関し、校長が諮問した事項
- (5) その他教務主事が必要と認めた事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 教員のうちから校長が命じた者 若干名
- (4) 学生課長、教務係長及び学生課長が指名する者

（委員長）

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故ある時は、教務主事補がその職務を代行するものとする。

（構成員以外の出席）

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

（報告）

第 6 条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

（庶務）

第 7 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

資料 6 - 1 - ① - 2

## 福島工業高等専門学校専攻科委員会規則

(平成 16 年 4 月 1 日)

(規則 第 2 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 29 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 厚生補導に関すること。
- (3) 入学試験に関すること。
- (4) 進路に関すること。
- (5) その他専攻科に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 各専攻長
- (3) 教務主事
- (4) 学生主事
- (5) 日本技術者認定機構(JABEE)委員会委員長
- (6) 各専攻の専門科目担当教員のうちから校長が指名した者各 2 名
- (7) 一般科目担当教員のうちから校長が指名した者 1 名
- (8) 学生課長、教務係長及び学生課長が指名する者

(委員長)

第 4 条 委員長は、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、校長があらかじめ指名した委員がその職務を代行するものとする。

(構成員以外の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第 6 条 委員長は、委員会での審議事項の結果を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

機械工学科

卒業要件

資料6-1-①-3

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	化学, 国語, 人文・社会科学基礎 I A, 人文・社会科学基礎 I B, 保健・体育, 人文・社会科学概論 A, 人文・社会科学概論 B, 社会科学調査法, 地理, 文学, 社会科学特講 I, 体育, 人間科学特講を修得すること	環境工学 を修得すること
B	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 基礎数学B, 物理, 化学, 線形代数, 微積分 1, 微積分 2, 微積分A, 微積分B を修得すること	機械製図, 情報基礎, 機械製図 II, 機械工作法 I, 情報処理基礎, 設計製図, 応用物理 I, 力学基礎, 機械工作法 II, 情報処理, 材料学 I, 材料力学 I, 機構学, 応用数学A, 応用数学B, 応用物理 II, 材料学 II, 材料力学 II, 機械力学 I, メカトロニクス I, 電気工学 I, 力学演習 I, 力学演習 II, 熱力学, 水力学, メカトロニクス II, 流体力学 I, 設計工学, 熱工学, 制御工学, 生産工学を修得すること
C	社会科学特講 I, 社会科学特講 II を修得すること	工業英語, 生産工学 を修得すること
D	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 社会科学調査法, 地理 を修得すること	機械製図, 情報基礎, 機械製図 II, 情報処理基礎, 設計製図, 情報処理, 工学実験, 工学セミナー, 校外実習, 卒業研究 を修得すること
E	ミニ研究 を修得すること	機械製図, モノづくり基礎, 情報基礎, 機械製図 II, モノづくり実習, 機械工作法 I, 情報処理基礎 II, 設計製図, 工作実習, 環境工学, 機械工作法 II, 情報処理, 工学実験, 工学セミナー, 卒業研究, 設計工学, 制御工学, 生産工学 を修得すること
F	英語A, 英語B, 英会話 I, 社会科学調査法, 地理, 英語 を修得すること	工学実験, 工学セミナー, 校外実習, 卒業研究, 工業英語 を修得すること

電気工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	化学, 国語, 人文・社会科学基礎 I A, 人文・社会科学基礎 I B, 保健・体育, 人文・社会科学概論 A, 人文・社会科学概論 B, 社会科学調査法, 地理, 文学, 社会科学特講 I, 体育, 人間科学特講を修得すること	
B	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 基礎数学B, 物理, 化学, 線形代数, 微積分 1, 微積分 2, 微積分A, 微積分B を修得すること	情報基礎, 電気工学基礎, 電気製図, 情報工学基礎, 電気工学基礎, 電気回路 I, 情報工学応用, 電気磁気学, 電気回路 I, 電子工学 I, 電子回路, 電気電子計測 I, 電気機器 I, 機械工学概論, 応用物理 I, デジタル回路, 応用数学A, 応用数学B, 応用物理 II, 制御工学 を修得すること
C	社会科学特講 I, 社会科学特講 II を修得すること	工業英語 を修得すること
D	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 社会科学調査法, 地理 を修得すること	電気電子工学実験, 情報基礎, 電気工学基礎, 電気工学基礎, 電気磁気学, 電気電子計測 I, 工学セミナー, 校外実習, 卒業研究 を修得すること
E	ミニ研究 を修得すること	電気電子工学実験, 電気製図, 情報工学基礎, 情報工学応用, 電気電子計測 I, デジタル回路, 工学セミナー, 卒業研究, 制御工学 を修得すること
F	英語A, 英語B, 英会話 I, 社会科学調査法, 地理, 英語 を修得すること	電気電子工学実験, 情報基礎, 電気工学基礎, 電気工学基礎, 電気電子計測 I, 工学セミナー, 校外実習, 卒業研究, 工業英語 を修得すること

卒業要件

物質工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	化学, 国語, 人文・社会科学基礎 I A, 人文・社会科学基礎 I B, 保健・体育, 人文・社会科学概論 A, 人文・社会科学概論 B, 社会科学調査法, 地理, 文学, 社会科学特講 I, 体育, 人間科学特講 を修得すること	環境工学 を修得すること
B	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 基礎数学B, 物理, 化学, 線形代数, 微積分 1, 微積分 2, 微積分A, 微積分B を修得すること	化学製図, 情報基礎, 基礎生物学, 情報処理, 分析化学, 基礎化学演習, 応用物理 I, 化学工学 I, 生化学, 物理化学 I, 無機化学, 有機化学 II, 創作実習, 材料工学, 応用数学A, 応用数学 B, 応用物理 II, 化学工学 II, 機器分析, 物理化学 II, 無機材料化学, 物質合成化学, 微生物工学, 生物有機化学, 環境工学, 高分子化学, 物理化学演習, 細胞遺伝子工学, 有機材料化学, 化学プロセス工学, 有機材料化学, 生物反応工学, 機能材料化学, 生物物理化学 を修得すること
C	社会科学特講 I, 社会科学特講 II を修得すること	化学工学 I, 化学工学 II を修得すること
D	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 社会科学調査法, 地理 を修得すること	情報基礎, 情報処理, 基礎化学実験, 分析化学実験, 物質工学実験, 創作実習, 校外実習, 材料化学実験 I, 生物工学実験 I, 工学セミナー, 材料化学実験 II, 生物工学実験 II, 卒業研究, 化学工学実験, 機器分析実験 を修得すること
E	ミニ研究 を修得すること	化学製図, 情報処理, 基礎化学実験, 分析化学実験, 化学工学 I, 物質工学実験, 創作実習, 化学工学 II, 材料化学実験 I, 生物工学実験 I, 工学セミナー, 材料化学実験 II, 生物工学実験 II, 卒業研究, 化学工学実験, 化学プロセス工学, 生物反応工学, 機器分析実験 を修得すること
F	英語A, 英語B, 英会話 I, 社会科学調査法, 地理, 英語 を修得すること	情報基礎, 基礎化学実験, 分析化学実験, 物質工学実験, 校外実習, 材料化学実験 I, 生物工学実験 I, 工学セミナー, 材料化学実験 II, 生物工学実験 II, 卒業研究, 化学工学実験, 機器分析実験 を修得すること



卒業要件

建設環境工学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	化学, 国語, 人文・社会科学基礎 IA, 人文・社会科学基礎 IB, 保健・体育, 人文・社会科学概論 A, 人文・社会科学概論 B, 社会科学調査法, 地理, 文学, 社会科学特講 I, 体育, 人間科学特講を修得すること	環境科学, 環境工学 I を修得すること
B	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 基礎数学B, 物理, 化学, 線形代数, 微積分1, 微積分2, 微積分A, 微積分B を修得すること	情報基礎, 材料学, 工学実験・演習, 情報処理, 測量, 測量実習, 力学基礎, 応用物理, 構造力学, 土質力学, 水理学, コンクリート構造設計演習, 環境科学, 応用数学A, 応用数学B, 構造解析学, コンクリート構造工学, 鋼構造工学, 環境工学 I, 水処理工学, 施工法, システム工学, 地域計画, 鋼構造工学演習 を修得すること
C	社会科学特講 I, 社会科学特講 II を修得すること	システム工学 を修得すること
D	基礎数学A-1, 基礎数学A-2, 社会科学調査法, 地理 を修得すること	工学実験, 情報基礎, 情報処理, 工学基礎実験・演習, 工学基礎実験・演習, 工学セミナー, 校外実習, 応用光学実験・演習, 卒業研究 を修得すること
E	ミニ研究 を修得すること	工学実験, 製図法, 工学実験・演習, 情報処理, 測量実習, 創作実習, 工学基礎実験・演習, コンクリート構造設計演習, 工学基礎実験・演習, 水処理工学, 工学セミナー, 応用工学実験・演習, 卒業研究, 鋼構造工学演習 を修得すること
F	英語A, 英語B, 英会話 I, 社会科学調査法, 地理, 英語 を修得すること	情報基礎, 工学実験・演習, 工学基礎実験・演習, 工学セミナー, 校外実習, 応用工学実験・演習, 卒業研究 を修得すること

卒業要件

コミュニケーション情報学科

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	人文・社会科学基礎 IA, 人文・社会科学基礎 IB, 人文・社会科学基礎 IIA, 人文・社会科学基礎 IIB, 保健・体育, 人文・社会科学概論A, 人文・社会科学概論B, 近代経済史, 社会科学調査法, 地理, 文学, 法学, 経済学, 体育, 人間科学特講を修得すること	情報メディア論, 心理学入門, 人間関係論, 情報メディア演習 を修得すること
B	数学, 理科, 生物 を修得すること	ビジネス事情 I, 情報基礎, 経営情報入門, ビジネス事情 II, セミナー, 情報コミュニケーション, 情報コミュニケーション演習, マクロ・ミクロ経済, 経営学, 卒業研究, 企業論, 国際経済を修得すること
C	経済学 を修得すること	ビジネス事情 II, 情報コミュニケーション, 情報コミュニケーション演習, 財務会計, マクロ・ミクロ経済, 経営学, 知的所有権, マーケティング, 企業論, 国際経済, 視聴覚情報概論 を修得すること
D	社会科学調査法, 地理 を修得すること	情報基礎, 情報基礎演習, コミュニケーション論, ビジュアル情報演習, 情報統計, 情報コミュニケーション, 情報メディア論, 財務会計, ビジュアル情報, 心理学入門, 人間関係論, 知的所有権, プレゼンテーション, マーケティング, 言語文化, 国際経済, 情報メディア演習 を修得すること
E	ミニ研究 を修得すること	ビジュアル情報基礎, 経営情報入門, ビジュアル情報演習, 情報コミュニケーション, ビジュアル情報, 視聴覚情報概論 を修得すること
F	英語A, 英語B, 英会話A-1, 英会話A-2, 日本語1, 日本語2, 英会話B, 社会科学調査法, 英会話, 英語特論, 日本語特論 I, 地理, 英語, 日本語特論 II を修得すること	情報基礎, コミュニケーション論入門, 情報コミュニケーション, コミュニケーション論, パブリック・スピーキング I, ビジネス・ライティング I, 第2外国語 I, 第2外国語 II, パブリック・スピーキング II, ビジネス・ライティング II, 情報メディア演習, 第2外国語 III, 第2外国語 IV を修得すること

(出典：教務委員会資料)

修 了 要 件

資料 6 - 1 - ① - 4

機械・電気システム工学専攻

卒業時に身に付けるべき学力や 資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	倫理学, 科学技術史 を修得すること	
B		応用解析学Ⅰ, 統計物理学, 振動論, 機械振動学, 電子物性工学, ロボット工学, 機能性材料工学, 電気磁気学概論, 制御システム工学, 応用解析学Ⅱ, 材料科学, エネルギー変換工学, 電子回路特論, 音響工学, 塑性加工学, 熱流体工学 の中から9科目以上修得すること
C		機械・電気システム工学セミナー, 特別セミナーを修得すること
D		機械・電気システム工学実験, 機械・電気システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること
E		機械・電気システム工学実験, 機械・電気システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること
F		機械・電気システム工学実験, 機械・電気システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること

物質・環境システム工学専攻

卒業時に身に付けるべき学力や 資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	倫理学, 科学技術史 を修得すること	
B		応用解析学Ⅰ, 統計物理学, 振動論, 反応工学特論, 合成化学特論, 物質循環工学, 材料強度学, 環境地盤工学, 計画数理, 応用解析学Ⅱ, 生体分子工学, 生態工学, 生体機能化学, 連続体力学, 複合構造工学, 高分子材料特論, 材料科学 の中から9科目以上修得すること
C		物質・環境システム工学セミナー, 特別セミナーを修得すること
D		物質・環境システム工学実験, 物質・環境システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること
E		物質・環境システム工学実験, 物質・環境システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること
F		物質・環境システム工学実験, 物質・環境システム工学セミナー, 特別研究, 特別セミナー を修得すること

修 了 要 件

ビジネスコミュニケーション学専攻

卒業時に身に付けるべき学力や 資質・能力	単位修得要件	
	一般科目	専門科目
A	倫理学, 科学技術史 を修得すること	
B		ビジネスセミナー, 特別研究, 企業実務実習, データベース論 を修得すること
C	経営管理論, 技術経営論, ベンチャービジネス論 を修得すること	データベース論, 経営学特論Ⅰ, 特別セミナー を修得すること
D		データベース論, 経営学特論Ⅱ, 特別セミナー を修得すること
E		データベース論, 特別セミナー を修得すること
F		経営学特論Ⅱ, 特別セミナー を修得すること

(出典：専攻科委員会資料)



学習・教育目標に対する科目の関与割合を加味した総合評価一覧

番号	氏名	A		B		C		D		E		F				
		成績	合格点	判定	成績	合格点	判定	成績	合格点	判定	成績	合格点	判定	成績	合格点	判定
701	468	3250	2370	○	424	315	○	250	192	○	506	360	○	510	375	○
506	348	3209	2268	○	594	432	○	279	222	○	469	330	○	694	534	○
492	408	2176	1800	○	476	360	○	216	186	○	340	264	○	641	534	○
547	438	2437	2004	○	297	240	○	212	186	○	288	234	○	528	498	○
594	468	2572	2112	○	490	420	○	229	198	○	380	330	○	414	366	○
429	348	2538	2232	○	478	372	○	214	198	○	357	330	○	642	534	○
522	468	2019	2016	○	434	360	○	152	144	○	195	192	○	486	474	○
407	348	2690	2208	○	434	372	○	221	198	○	370	330	○	579	534	○
454	348	2976	2340	○	526	405	○	227	192	○	457	360	○	415	375	○
484	408	2675	2190	○	322	258	○	172	144	○	325	258	○	452	396	○
689	528	2791	2118	○	447	330	○	267	222	○	393	288	○	834	654	○
860	648	2642	2106	○	316	234	○	264	240	○	348	282	○	658	570	○
457	390	2350	2262	○	479	408	○	299	252	○	316	276	○	652	612	○
927	648	2751	2094	○	475	366	○	288	240	○	374	282	○	684	570	○
775	660	2816	2478	○	221	186	○	340	282	○	522	432	○	674	582	○
575	468	2343	2166	○	313	270	○	248	228	○	412	354	○	712	654	○
403	342	2119	2070	○	435	408	○	255	228	○	357	336	○	578	576	○
862	630	2560	2202	○	394	342	○	355	306	○	459	384	○	575	516	○
826	630	2404	2202	○	421	402	○	363	306	○	439	384	○	556	516	○
588	444	3388	2634	○	395	318	○	200	168	○	436	330	○	682	546	○
923	630	3164	2322	○	522	402	○	386	306	○	508	384	○	658	516	○
559	468	2252	1992	○	296	252	○	205	174	○	384	330	○	461	420	○
351	288	2252	2022	○	130	126	○	178	144	○	285	246	○	349	258	○
434	348	1990	1752	○	286	252	○	190	174	○	319	270	○	534	504	○
509	408	2029	1788	○	273	252	○	197	174	○	393	354	○	440	384	○
434	348	1944	1692	○	355	312	○	188	174	○	307	270	○	578	504	○
609	468	2152	1932	○	365	312	○	191	174	○	298	270	○	436	384	○
449	348	2474	1968	○	283	252	○	214	174	○	377	294	○	629	504	○
594	468	1748	1572	○	341	300	○	197	174	○	295	270	○	375	336	○
608	468	2500	1956	○	400	330	○	340	240	○	344	288	○	763	618	○
705	510	2650	2022	○	335	258	○	340	282	○	408	318	○	689	570	○
921	648	2391	1992	○	376	294	○	298	264	○	368	288	○	629	534	○
860	576	2528	1824	○	331	258	○	360	282	○	369	270	○	561	450	○
693	528	2205	1884	○	339	288	○	265	246	○	331	276	○	779	618	○
746	510	2979	2022	○	375	258	○	373	282	○	463	318	○	782	570	○
875	588	2670	2004	○	439	342	○	293	240	○	365	288	○	643	498	○
724	510	2605	1962	○	356	258	○	310	258	○	416	318	○	696	534	○
870	576	2652	1944	○	287	198	○	354	282	○	360	270	○	586	450	○
757	510	2881	2022	○	286	198	○	358	282	○	431	318	○	743	570	○

(出典：JABEE 自己点検書)

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、学習・教育目標ごとに設定した卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力及び養成する人材像等についての達成状況を、学習・教育目標に対する各授業科目の関与割合を加味して総合的に把握・評価する独自の取組を行っている。したがって、高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

**観点 6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の項目ごとに設定された達成要件の達成状況を加味して、卒業（修了）の認定を行っている。準学士過程では教務委員会が「卒業認定資料（資料 6-1-②-1）」を、専攻科過程では専攻科委員会が「修了認定資料（資料 6-1-②-2）」を作成し、それぞれの要件を満たしているかどうかについて確認をした上で、卒業（修了）認定会議で卒業（修了）の認定を行っている。

準学士課程における在学者状況（資料 6-1-②-3）、原級留置者の状況（資料 6-1-②-4）、退学者の状況（資料 6-1-②-5）を、以下に示す。在学者数はおおよそ 1000 人、進級率は 3、4 年生では過去 5 年間の平均が 92%以上、それ以外の 1、2、5 年生では、97%以上となっている。

本校学生の各種資格の取得状況を示す（資料 6-1-②-6）。各学科とも実用英語検定、工業英語検定の合格者数はかなり多く、一定以上のレベルを保っている。また、平成 14 年度からラジオ音響技能検定、デジタル技術検定、秘書技能検定合格者の増加が著しい。団体及び個人の表彰を多数獲得した例を、新聞記事で示す（資料 6-1-②-7～8）。

準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時に、卒業研究や特別研究の成果を学生が学会等で発表することを奨励している。それらの学会発表の実績を以下に示す（資料 6-1-②-9～10）。これらの実績は、それらの研究内容が十分に学会で要求するレベルに達していることを示しており、また、本校で目安としている国家公務員Ⅱ種レベルを満足するものと考えられる。

(旧)試験及び成績評価に関する規則 第12条第2項の基準を満たさない学生(シラック体本欄のみ)  
修得単位表

学年 科目	修得単位												合計	特記事項	教務委員会案	教員会議結果			
	1年		2年		3年		4年		5年		一般科目合計	専門科目合計							
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択									
1	28	1	7	27	1	8	14	18	1	4	29	2	4	23	8	79	96	175	
2															24	8	10	62	72
3															24	6	83	96	179
4															24	7	83	97	180
5															22	6	82	89	171
6															24	8	81	99	180
7															24	1	84	93	177
8															21	4	87	91	178
9															22	8	80	91	171
10															24	7	84	99	183
11															24	8	82	96	178
12															22	4	83	92	175
13															23	7	82	96	178
14															24	8	86	98	184
15															23	5	83	92	175
16															22	4	86	92	178
17															24	7	78	95	173
18															24	8	81	97	178
19															22	5	86	94	180
20															24	8	82	86	168
21															22	7	86	89	175
22															24	8	84	99	183
23															23	5	84	91	175
24															24	6	83	96	179
25															24	5	84	95	179
26															22	4	84	90	174
27															24	6	78	95	173
28															24	7	83	97	180
29															20	5	80	92	172
30															23	3	82	93	175
31															24	8	84	99	183
32															23	5	81	94	175
33															24	5	88	95	183
34															24	8	84	99	183
35															22	7	75	93	168
36															20	7	81	94	175
37															24	6	83	96	179
38															24	7	85	98	183
39															23	5	80	93	173

※課程修了要件単位(平成14年度入学生) 171単位以上(一般75単位以上)  
※課程修了要件単位(平成17年度4年次編入学生) 63単位以上(一般2単位以上)





資料6-1-②-3

2. 学生数（平成19年4月1日現在）

学科	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	(40, 2) 42	(42, 1) 43	(44, 0) 44	(38, 0) 38	(35, 0) 35	(199, 3) 202
電気工学科	(43, 1) 44	(40, 0) 40	(42, 2) 44	(37, 3) 40	(37, 1) 38	(199, 7) 206
物質工学科	(21, 22) 43	(25, 15) 40	(26, 18) 44	(23, 16) 39	(20, 20) 40	(115, 91) 206
建設環境工学科	(34, 9) 43	(30, 10) 40	(29, 12) 41	(23, 16) 39	(24, 8) 32	(140, 55) 195
コミュニケーション情報学科	(6, 36) 42	(15, 27) 42	(14, 25) 39	(9, 32) 41	(4, 34) 38	(48, 154) 202
合計	(144, 70) 214	(152, 53) 205	(155, 57) 212	(130, 67) 197	(120, 63) 183	(701, 310) 1,011

\* ( ) 内は, (男, 女)

(出典：教員会議資料)

資料6-1-②-4

原級留置者の割合

H18年度	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			計		
	在学者	留置者	率(%)	在学者	留置者	率(%)	在学者	留置者	率(%)	在学者	留置者	率(%)	在学者	留置者	率(%)	在学者	留置者	率(%)
機械工学科	43	0	0.0	43	1	2.3	38	3	7.9	41	3	7.3	39	2	5.1	204	9	4.4
電気工学科	43	2	4.7	43	0	0.0	41	3	7.3	40	3	7.5	41	1	2.4	208	9	4.3
物質工学科	42	0	0.0	44	0	0.0	42	4	9.5	42	1	2.4	40	0	0.0	210	5	2.4
建設環境工学科	42	1	2.4	41	0	0.0	38	0	0.0	38	6	15.8	36	0	0.0	195	7	3.6
コミュニケーション情報学科	41	0	0.0	40	0	0.0	41	0	0.0	41	1	2.4	44	0	0.0	207	1	0.5
合計	211	3	1.4	211	1	0.5	200	10	5.0	202	14	6.9	200	3	1.5	1024	31	3.0

(出典：認証評価小委員会資料)

資料6-1-②-5

退学者の割合

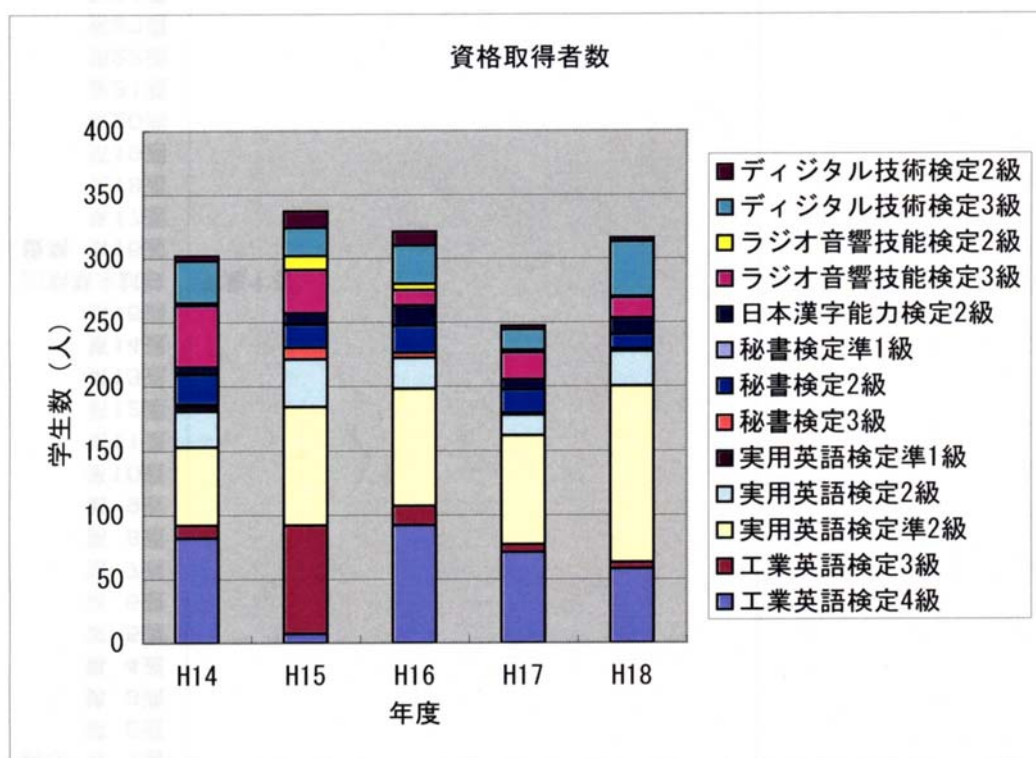
H18年度	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			計		
	在学者	退学者	率(%)	在学者	退学者	率(%)	在学者	退学者	率(%)	在学者	退学者	率(%)	在学者	退学者	率(%)	在学者	退学者	率(%)
機械工学科	43	0	0.0	43	1	2.3	38	3	7.9	41	3	7.3	39	2	5.1	204	9	4.4
電気工学科	43	0	0.0	43	0	0.0	41	1	2.4	40	1	2.5	41	0	0.0	208	2	1.0
物質工学科	42	1	2.4	44	0	0.0	42	4	9.5	42	0	0.0	40	0	0.0	210	5	2.4
建設環境工学科	42	0	0.0	41	0	0.0	38	1	2.6	38	4	10.5	36	0	0.0	195	5	2.6
コミュニケーション情報学科	41	0	0.0	40	0	0.0	41	2	4.9	41	3	7.3	44	0	0.0	207	5	2.4
合計	211	1	0.5	211	1	0.5	200	11	5.5	202	11	5.4	200	2	1.0	1024	26	2.5

(出典：認証評価小委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 6

資格取得状況

資格名	H14	H15	H16	H17	H18
工業英語検定4級	82	7	92	71	58
工業英語検定3級	10	85	15	6	5
実用英語検定準2級	61	92	91	85	137
実用英語検定2級	28	37	24	16	27
実用英語検定準1級	3	0	0	1	2
秘書検定3級	2	9	4	0	0
秘書検定2級	23	18	21	18	11
秘書検定準1級	1	1	0	0	0
日本漢字能力検定2級	5	8	16	8	13
ラジオ音響技能検定3級	48	34	12	21	16
ラジオ音響技能検定2級	2	11	5	2	1
デジタル技術検定3級	33	22	30	16	43
デジタル技術検定2級	4	13	11	3	3
延べ人数	302	337	321	247	316



(出典：教務委員会資料)

いわき民報 (夕刊) 平成17年(2005年) 6月7日 (火曜日) 第18022号 (14)

# 高専チームが全国一に

## Web教材開発コンテスト

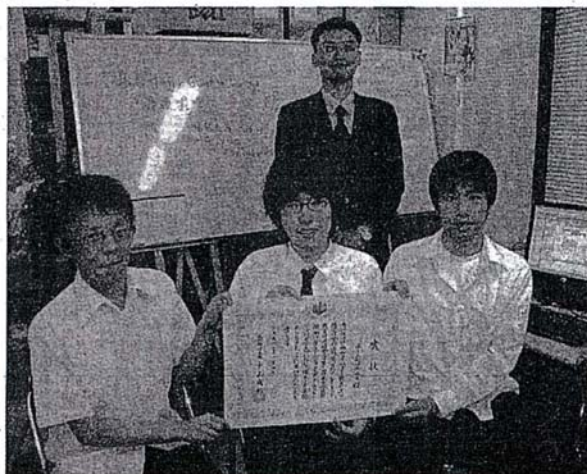
第7回全日本Web教材開発コンテスト「ThinkQuest@JAPAN 2004」(学校インターネット教育推進協会主催)で、福島高専プログラミング愛好会のメンバーが最優秀賞を受賞した。全国の高生575チーム、1501人の頂点に立ち、関係者は喜びに沸いている。

出場したのは同好会の会長を務める大沢昇平君(電気工学科3年)と、鈴木聡(同)、董間隆(コミュニケーション情報学科2年)君の3人。物理の教科書では伝えきれない「波」の魅力や、動画を使ったわかりやすく解説した「ウェブマスター」「解波新書」を4カ月かかって制作した。

昨年発足したばかりの同好会をけん引する大沢君にとって、2回目の挑戦。鈴木、董間君は初出場で見事、頂点に立った。

同コンテストは昨年9月から申し込みを開始。3段階による審査を行い、福島高専チームを含む19チームが最終審査に残った。今月4日、早稲田大で最終プレゼンテーションを行ったのち、受賞が決定した。

「何かしら賞に入ると言う」という自信はあった。だが、驚きの方が大きかった。まずは高校生の部でプラチナ賞が決定。さらに1タイトルで最優秀賞、文部科学大臣奨励賞、アイエスエイ特別賞が決定したときは、「うれしきあまり、表彰台に向かって走り出した」(大沢君)という。中心テーマである波に注目していた「物理の」した教材として存在感がある。審査員からは、「物理の」した教材として存在感がある。



全国一に輝いた(手前左から)董間、大沢、鈴木君と同会顧問の島村浩コーチ

審査員からは、「物理の」した教材として存在感がある。

る。操作が分かりやすく、図の配置も適度でグラフィックも優れている」という評価を受けた。

大沢君は「自分たちがやってきたことが認められ、とてもうれしい」と喜びの絶頂。他のコンテストに次なる作品もエントリー済みだ。デザイン分野を担当した董間君は「これまでの人生の中で初めてのこと。これからはパソコンの知識を増やしていきたい」。鈴木君は「素晴らしい作品が多く、大丈夫かなとも思った。驚きと喜びでいっぱい」と笑顔で語った。

作品はインターネットで公開している。アドレスは <http://KAIHA.jp/>

新聞に掲載された各賞受賞の記事1

(出典: 「いわき民報」 新聞記事)



# 報 いわき民

● THE IWAKI MINPO ●

2005年(平成17年) 3月 5日(土曜日) 第17947号

## デジタル技術検定 3級でトップ合格



受賞を喜ぶ大沢君(中央)と春日教授、三浦助手

### 大沢君<sup>高専2年</sup>に文科大臣奨励賞 独学で知識蓄える

福島高専(安久正統校長)の電気工学科2年大沢君(17)は、文部科学省認定「デジタル技術検定試験」(実務技能検定協会主催)の3級試験でトップ合格を果たし、個人賞として最高賞となる「文部科学大臣奨励賞」を受賞した。検定の合格者も多く出している同校だが、最高賞の受賞は初めての栄誉で、電気工学科長の春日健教授は「2年生での受賞は本当に難しく、快挙。本人の努力の結果が実った」と大沢君の頑張りをたたえた。

「デジタル技術検定」で「デジタル技術の基礎知識など」の2回試験があり、高校生から社会人までの幅広い年代が受験する。大沢君が受験した3級には、全国から1279人が挑戦し、半数の640人が合格している。同協会主催の検定による資格取得が課外活動の単位として認められる同科では、これまでも同検定試験の「ラジオ・音響技術検定」で好成績を収めた団体に贈られる文部科学大臣奨励賞(16年度)、団体優秀賞(15年度)を受賞した実績

を持つ。3年前から受験し本腰を入れたという「デジタル技術検定」でも、その力をいかんなく発揮。昨年11月の試験では、高校2年生程度の4級に1人、高卒程度の3級に38人、より専門性の高い2級に17人が挑戦し、合わせて42人(1級1人、3級30人、2級11人)が合格した。合格率75%とトータルの全国合格率を大きく上回る好成績をマーク

している。このうち、2年生ながら上級生、社会人などを抑えて文部科学大臣賞を受賞したのが「パソコンが好きで、関連した知識・技術習得に魅力を感じる」と言う大沢君。試験に向けた授業などは特別組まれておらず、同校の2年次の授業の知識だけで難しい3級試験の突破に向けて、同科の三浦靖一郎助手に相談しながら、独学で知識を蓄え試験に臨んだ。「試験のための勉強という意識はなく、これまでに積み重ねた知識で解けた」という試験では、「絶対、満点」との確信を抱くまでたえを感じていたというが、受賞には「やっぱりうれしいです」と笑顔。「これからも在学中の1級取得を目指して勉強を続ける。後輩にもどんどん挑戦してほしい」と抱負を話した。

新聞に掲載された各賞受賞の記事2

(出典: 「いわき民報」 新聞記事)

資料6-1-②-9

## 準学士課程の卒業研究における学会発表件数

	機械 工学科	電気 工学科	物質 工学科	建設環境 工学科	コミュニ ケーション 情報学科
H14	4	3	9	0	1
H15	5	6	14	0	10
H16	1	1	7	5	5
H17	1	9	8	8	4
H18	2	12	10	6	8
合計	13	31	48	19	28

(出典：認証評価小委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 10

## 専攻科課程の特別研究における学会等発表実績

専攻	専攻科生	指導教員	発表研究名	発表学会	発表日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	大規模スケールのランダムドット平面と縦格子による立体錯視現象	第21回 日本認知科学会	H16年 7月30日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	ランダムドット平面と縦格子による立体錯視におけるドットの遮蔽パターン解析	第21回 日本認知科学会	H16年 7月30日
機械・電気	會田 祐輔	大槻 正伸	縦格子とそれに平行なドット平面による立体錯視現象におけるドット遮蔽と遠近感に関する基礎研究	第22回 日本認知科学会	H17年 7月30日
機械・電気	阿部 軌道	一色 誠太 篠木 政利	短径流露内における往復振動境界層の挙動	第8回スター リングサイクル シンポジウム	H16年 10月22日
機械・電気	坂本 道人	渡辺 敏夫	低周波音のマスクング聴覚特性に関する研究	日本機械学会 東北学生会	H17年 3月5日
機械・電気	鈴木 浩史	佐東 信司 松尾 忠利	ゴルフロボットを用いたゴルフクリニックの解説	日本機械学会 東北学生会	H17年 3月5日
機械・電気	田中 健	大槻 正伸	縦格子と自然地面による波状立体錯視現象の測定と解析	第22回 日本認知科学会	H17年 7月30日
物質・環境	大和田 祐加	森田 年一	沿岸地域を対象とした地震時挙動解析	土木学会 東北支部技術 研究発表会	H17年 3月11日
物質・環境	木下 康之	緑川 猛彦 斎藤 充弘	歴史・風土からみた小名浜港のまちづくり資産について	第16回 いわき地域環境 科学会発表会	H17年 1月29日
物質・環境	田中 美菜子	原田 正光 橋本 孝一	木炭の水処理への適応可能性の検討	土木学会 東北支部技術 研究発表会	H17年 3月11日
物質・環境	鳥海 耕司	原田 正光	新川上流高野地区における蜜の生育環境調査	土木学会 東北支部技術 研究発表会	H17年 3月11日
物質・環境	西成田 由	山ノ内正司 斎藤 充弘	まちを探索すると見えてくるユニバーサルデザイン～いわき市本町通りを対象として～	全国高等専門 学校デザインコ ンペティション 2004	H16年 9月3日～ 9月5日
物質・環境	畠山 洋介	伊藤 正義	[S i (H) - C ≡ C] 単位を有する含ケイ素ポリマーの加水分解	第7回 化学工学 学生発表会	H17年 3月5日
物質・環境	松井田 香	青柳 克弘	メソ位にトリフルオロメチル基を有する新規ポルフィリン、ヘムおよび再構成ミオグロビンの合成と性質	化学系学協会 東北大会	H16年 9月



物質・環境	松井田 香	青柳 克弘	新規メソ位ベルフルオロアルキル基置換ポルフィリン、ヘムおよび再構成ミオグロビンの合成と性質	第10回高専シンポジウム	H16年1月
物質・環境	村山 暢	根岸 嘉和	一般化高次平板理論に基づく有限要素解析における3次修正の効果	土木学会東北支部技術研究発表会	H17年3月11日
物質・環境	水野谷 尚美	原田 正光 押手 茂克	均一液液抽出におけるベルフルオロオクタン酸の分離回収	日本化学会85春季年会	H17年3月26日
ビジネス	柴田 俊介	芥川 一則	地域メッシュ統計を利用した地域分析	日本経営工学会東北支部卒業論文・修士論文発表会	H17年2月19日
ビジネス	関 めぐみ	芥川 一則	QRコードを利用したトレーサビリティに関する一考察	日本経営工学会東北支部卒業論文・修士論文発表会	H17年2月19日

(出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書)

#### (分析結果とその根拠理由)

本校では、毎年90%以上の学生が上位の学年に進級し、特に5年生は97%以上が卒業要件を満たして卒業する状況になっている。また、近年多くの学生が各種資格検定試験にチャレンジし、合格または資格取得後に、本校が定める特別学修として単位認定を受けている。このような学生は年々増えており、本校学生の学力や資質・能力が着実に向上していることを示している。さらに、卒業研究や特別研究については、その成果を学会等で発表する学生が多くなり、その発表件数の増加とともに発表内容も年々向上している。以上のことから、各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、特別研究などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっている。



観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

[準学士課程]

「進路別学習」の時間を授業時間割表に組み込み、学生の就職や進学等の進路に関する支援を組織的に実施している。大学編入学希望者に対しては、教務委員会による自主編纂の問題集（資料6-1-③-1）により「英語」、「数学」、「国語」の指導を（資料6-1-③-2）、また就職希望者に対しては、就職試験対策としてエントリーシートの記入や面接の個別指導を実施している。進路に関する早期の指導や方針等は、進路対策委員会が統括している。個別の指導は所属の専門学科で実施し、早期から進路指導をスタートさせている。個々の学生のニーズに応じた指導を実施しており、毎年、就職・進学率ほぼ100%を達成している（資料6-1-③-3）。

資料6-1-③-1



大学編入学試験テキスト

（出典：進路対策委員会資料）

資料6-1-③-2

## 平成19年度 5年生進路別学習日程表

月日	就 職		進 学		
	階段教室	5建設	5機械	5電気	5物質
4月18日	SPI		数学	英語*	国語
4月25日	SPI		数学	英語*	国語
5月2日	SPI		数学	英語*	国語
5月9日 ※	SPI		数学*	英語	国語
5月16日	SPI		数学*	英語	国語
5月23日	春季学級懇談会のため休み				
5月30日	前期中間試験のため休み				
6月6日	前期中間試験のため休み				
6月13日		国語	数学*	英語	
6月20日		国語	数学	英語	
6月27日		国語	数学	英語	
7月4日		国語	数学	英語	
7月11日		国語	数学	英語	
7月18日		国語	数学	英語	
7月25日	前期期末試験のため休み				
8月1日		国語	数学	英語	

注1 「数学\*」・「英語\*」はコミュニケーション情報学科中心の内容

注2 就職希望者対象の「国語」は公務員対策の内容

注3 進学希望者対象の「国語」は技科大学力試験対策の内容

注4 ※ の日は開始時刻が遅れます。詳しい時刻は後日連絡します。

(出典：進路対策委員会資料)

## 資料 6-1-③-3

## 準学士課程の就職・進学状況

	H14	H15	H16	H17	H18
卒業者数(人)	183	178	192	187	196
就職者数(人)	106	95	97	88	102
進学者数(人)	68	81	95	99	94
その他(人)	9	2	0	0	0
求人数(人)	800	942	1159	1223	1830
求人倍率(%)	7.5	9.9	11.9	13.9	17.9
就職者数(人)	106	95	97	85	98
就職率(%)	100	100	100	96	96
大学編入学者数(人)	57	61	55	70	53
高専専攻科入学者数(人)	3	13	30	22	30
専門学校入学者数(人)	4	4	10	2	8
進学者数(人)	64	78	95	94	91
未定者(人)	4	3	0	5	3
進学率(対希望者)(%)	84	96	100	95	97
進学率(対卒業者)(%)	35	44	49	50	46

(出典：進路対策委員会資料)

準学士課程の卒業生の進路（就職及び進学）に関しては、就職率（就職者数／希望者数）及び進学率（進学者数／希望者数）ともに、毎年ほぼ 100%を達成している（資料 6-1-③-3）。企業アンケートの「本校卒業生に対する評価」（資料 6-1-⑤-15）でも概ね良好な結果を得ていることから判断して、本校での教育の成果や効果が十分に上がっている。

## 【就職に関して】

平成12年度以降、求人数は年々上昇し、就職率も従来どおり100%を維持している。このような状況から、実践的職業人の育成という点において、教育の効果や成果は上がっている。

## 【進学に関して】

平成 14 年度までの大学等への進学率は 20～30%台であったが、現在はそれが約 50%に達している。複数の大学の編入学試験（学力試験）を受験し、複数合格する者も増加している。このことは、学生の基礎的な学力や資質・能力が向上して、さらに高度な教育に対応できる人材の育成がなされている結果とも考えられる。過去 5 年間の準学士課程卒業生の就職及び進学状況を、以下に示す（資料 6-1-③-4～5）。

資料6-1-③-4

準学士課程卒業生の進路状況

	H14	H15	H16	H17	H18	
卒業者数	183	178	192	187	196	
進学者数	60	74	85	92	83	
就職者数	106	95	97	85	102	
建設業	8	11	6	8	9	
製造業	食品・たばこ	0	0	5	4	2
	繊維製品	1	0	0	1	1
	出版印刷等	0	0	0	1	2
	化学工業	9	9	11	14	13
	石油・石炭製品	1	2	0	4	0
	鉄鋼業	0	0	0	1	2
	非鉄金属製品	0	0	4	1	0
	一般機械器具	6	3	5	2	0
	電気機械器具	7	3	5	12	13
	輸送機械器具	4	2	3	3	4
	精密機械器具	3	4	6	1	4
	その他	17	22	10	1	2
	小計	48	45	49	45	43
電気・ガス・水道	0	5	2	5	9	
運輸通信業	運輸	2	2	2	1	3
	通信	0	0	1	0	1
卸売業	0	0	0	0	1	
小売業	0	0	0	1	1	
金融・保険業	1	1	0	2	1	
商社	0	0	0	0	0	
サービス業	情報	17	13	0	0	0
	その他	15	12	29	14	21
公務	国家事務	5	1	2	3	3
	地方事務	10	5	6	3	4
公団	0	0	0	1	2	
自営業	0	0	0	0	0	
その他	17	9	10	10	11	

(出典：進路対策委員会資料)

資料 6 - 1 - ③ - 5

準学士課程卒業生の進学状況

	H14	H15	H16	H17	H18	
専攻科	福島高専専攻科		13	24	21	29
	仙台電波高専専攻科				1	
	東京高専専攻科	1				
	木更津高専専攻科	1				
	長野高専専攻科	1				
	大阪府立高専専攻科					1
国立大学	北海道大学				1	2
	室蘭工業大学				1	
	弘前大学		1	1		
	岩手大学	3	2	1	3	1
	東北大学	3	6	7	7	4
	秋田大学			1		
	山形大学			3		1
	福島大学	1				2
	茨城大学	6	6	8	10	7
	筑波大学	1		1	2	1
	宇都宮大学	4	3	3	8	2
	群馬大学	1			1	1
	埼玉大学	1	3	2	3	2
	長岡技術科学大学	19	14	5	6	8
	千葉大学	3	1	1	4	2
	東京大学		1			
	東京工業大学		2		1	1
	東京農工大学	1		4	4	5
	東京海洋大学				1	
	電気通信大学	1	1	1		3
	新潟大学	3		2	2	1
	富山大学					
	信州大学	1	1	1		
	山梨大学	2			2	1
	静岡大学		1	2		
	金沢大学		1			
	豊橋技術科学大学	3	8	6	7	3
	名古屋大学					
	京都大学					1
	神戸大学	1	3	4	1	1
	三重大学		2			
	岡山大学		1			
	愛媛大学		1			
	九州大学			1		
九州工業大学						
琉球大学				1		
前橋工科大学	1		1	2		
愛知県立大学			1			
私立大学	長岡造形大学	1				
	桜美林大学	1				
	津田塾大学		1			
	東京工科大学					
	東京理科大学				1	
	多摩美術大学					
	立教大学			1		
	上智大学			2	1	1
	拓殖大学					
	東海大学		1			
	立命館大学			1		
	同志社大学				1	
	創価大学		1			
	大阪電気通信大学					1
	工学院大学					1
	いわき短期大学					1
デジタルハリウッド大学			1			
合計	60	74	85	92	83	

(出典：進路対策委員会資料)



[専攻科課程]

本校専攻科第1回及び第2回修了生の進路状況を、以下に示す(資料6-1-③-6~7)。平成18年度の第2回修了生についての進学者及び就職者の割合は、それぞれ17%及び78%となっている。

資料6-1-③-6

## 専攻科修了生名簿

### 機械・電気システム工学専攻

會 石 佐 柴 田	田 川 藤 田 中	祐 智 朝 耕 一	輔 史 範 郎 健	阿 佐 志 鈴 諸	部 賀 賀 木 我	軌 行 弘 浩 昌	道 弘 和 史 哉
							以上 10名

進路先

茨城大学大学院 東京工業大学 長岡技術科学大学大学院  
アルパイン技研(株) 自営業 鈴榮特許総合事務所  
セイコーインスツル(株) (株)東海テック (有)ブロードサービス

### 物質・環境システム工学専攻

大 佐 鳥 島 水 渡	和 々 海 山 野 谷 邊	祐 紹 耕 洋 尚 法	加 好 司 介 美 子	木 田 西 松 村	下 中 成 井 田 山	康 美 菜	之 菜 子 由 香 暢
							以上 11名

進路先

信州大学大学院  
アイ・エム・サービス(株) (株)アンデス・インテック カゴメ(株)  
(株)ジャパンシステムソフトウェア 東北環境テクノマート(株)  
日東電工(株) 東日本旅客鉄道(株)

### ビジネスコミュニケーション学専攻

金 鈴 吉	澤 木 田	朋 香 幸	子 菜 恵 生	柴 関	田 俊 め ぐ み	介	
							以上 5名

進路先

(株)ジーネクスト (株)ジョイパック 東洋安全防災(株) (株)ハニーズ  
(株)東日本計算センター

(出典：平成17年度修了証書授与式次第)

資料6-1-③-7

## 専攻科修了名簿

### 機械・電気システム工学専攻

五十嵐	雄	大	大	山	智	幸
金	井	綱	佐	藤	貴	是
白	石	昭	鈴	木	秀	司
廣	川	子	渡	邊		剛
						以上 8名

#### 進路先

長岡技術科学大学大学院 (2名)  
 アルプス電気㈱ 福島キヤノン㈱ 福島県 三菱マテリアルテクノ㈱  
 毛管浄化システム㈱

### 物質・環境システム工学専攻

秋	元	俊	夫	五	嵐	雅	俊
浦	尻	祐	樹	十	木	啓	幸
佐	藤	拓	郎	佐	木	大	地
鈴	木	智	美	鈴	橋	寛	生
田	村	夏	樹	高	宮	淳	平
						以上 10名	

#### 進路先

長岡技術科学大学大学院  
 ㈱イービーアイコーポレーション ㈱加地和組 中外製薬工業㈱  
 東電環境エンジニアリング㈱ 富岡町 日鉱金属㈱ ㈱ハニーズ  
 東日本測量㈱ 森永乳業㈱

### ビジネスコミュニケーション学専攻

大	竹	温	子	酒	井	大	樹
塚	野	加	奈	比	佐		学
吉	田	真	智				
						以上 5名	

#### 進路先

東北大学大学院  
 J A 郡山市 日本郵政公社 ㈱ハニーズ 福島県警察

(出典：平成18年度修了証書授与式次第)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、進路対策委員会を中心に、学生の就職及び進学等の進路指導を実施し、就職及び進学希望者に関して毎年ほぼ100%の就職及び進学率を達成している。準学士課程の卒業生及び専攻科課程の修了生ともに、そのほとんどが専門分野が関連する業種や企業への就職、また大学や大学院への進学である(資料6-1-③-4~5)。企業アンケートでも、「本校卒業生に対する評価」で概ね良好な結果を得ている(資料6-1-⑤-15)。以上のことから、教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では，個々の学生が自分の学習達成度を確認してその後の学習に反映させることができるよう，以下のような方策を具体的に実施している。

① FD委員会による授業アンケート調査の実施

学生の授業科目に対する理解度は，FD委員会が毎年実施する授業評価に関するアンケートの中の質問項目として把握し，その都度教育の成果や効果を検証してきた(資料6-1-④-1)。この質問事項に関する学生の自己評価点の平均値は，平成 14, 15, 16 年度に行ったアンケート調査の結果では 100 点満点中 60 点以上を示しており(資料6-1-④-2)，学生の授業内容に対する理解度は概ね良好であると評価できる。この結果は，年度当初に教員会議で報告され，各教員には個人結果及び全教員の評価スコア分布が配布され(資料6-1-④-3)，また，アンケート結果の抜粋が各クラスの教室に掲示され，学生に公表されている。このような授業アンケートは，平成 17 年度以降もFD委員会により全学的に毎年実施されており，その結果が公表されている。学生はこれらのアンケート結果を基に，クラスの平均的な達成度と自分の達成度とを比較・点検することができる。





資料6-1-④-2

平成16年度授業評価アンケートの分析結果（抜粋）  
 （講義を主とする科目のアンケートに限定 100点法に換算）

その1 「全体・学科別教員平均値」

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総合	
		授業時間	聞き取りやすい声	わかりやすい説明	板書の読み取りやすさ	理解度を確認した授業	授業への参加を促す	授業の進め方に工夫	適切な教材の効果	演習・宿題の効果	シラバスどおり	授業内容への関心	授業内容の理解		
全体・学科															
アンケート平均値		80	76	64	65	66	69	64	72	70	76	67	64	69	
教員 平均 値	全教員	全体	77	71	60	59	61	65	61	68	67	74	63	60	66
		常勤	78	73	61	61	62	67	61	69	68	74	64	61	67
		非常勤	74	69	58	54	58	63	60	67	65	73	62	59	63
	機械 工学科	全体	69	61	50	49	55	60	50	56	56	68	55	52	57
		常勤	67	59	44	46	51	60	46	53	54	66	51	49	54
		非常勤	73	64	58	53	61	61	55	60	59	70	60	55	61
	電気 工学科	全体	78	69	61	59	59	60	60	64	65	71	61	57	64
		常勤	78	71	62	61	61	62	61	64	64	71	63	59	65
		非常勤	78	64	60	54	56	56	57	63	66	71	57	55	62
	物質 工学科	全体	71	63	52	51	55	58	58	65	63	71	59	54	60
		常勤	71	65	52	53	56	60	56	64	63	70	58	53	60
		非常勤	70	58	53	47	54	55	61	67	62	72	62	56	60
	建設環境 工学科	全体	82	75	64	64	66	69	68	75	73	79	70	66	71
		常勤	84	78	67	68	69	72	68	76	76	80	71	67	73
		非常勤	76	69	58	56	60	64	66	73	67	75	67	66	66
	コミュニ ケーション 情報学科	全体	82	75	58	56	60	69	61	72	67	76	65	62	67
		常勤	82	78	61	58	63	69	62	74	70	77	68	65	69
		非常勤	81	68	53	52	53	69	57	66	61	74	58	56	62
	一般教科	全体	80	77	66	66	64	71	64	71	70	76	66	63	69
		常勤	82	79	69	70	68	72	67	73	73	77	68	65	72
		非常勤	73	67	53	51	52	66	54	64	58	72	57	55	60

※「アンケート平均値」は母集団全体の平均値

※「教員平均値」は各教員平均値を用いて算出した集団ごとの平均値

（出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書）

資料 6 - 1 - ④ - 3

図3 平成16年度授業アンケート教員別集計データ  
質問項目別4段階評価構成比

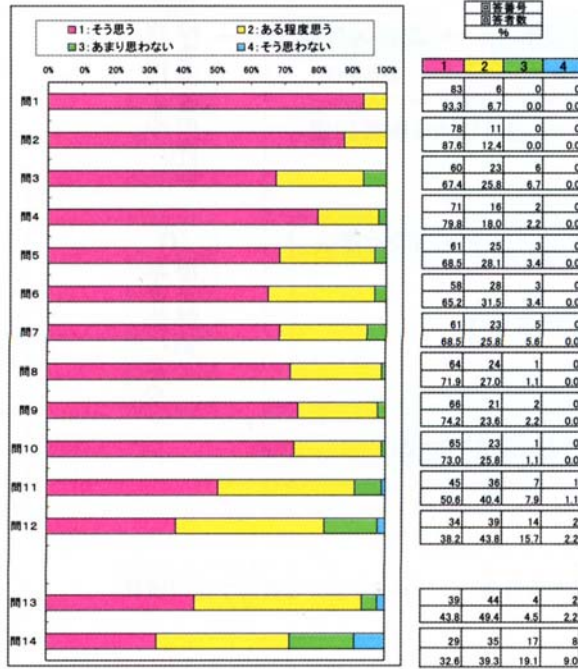
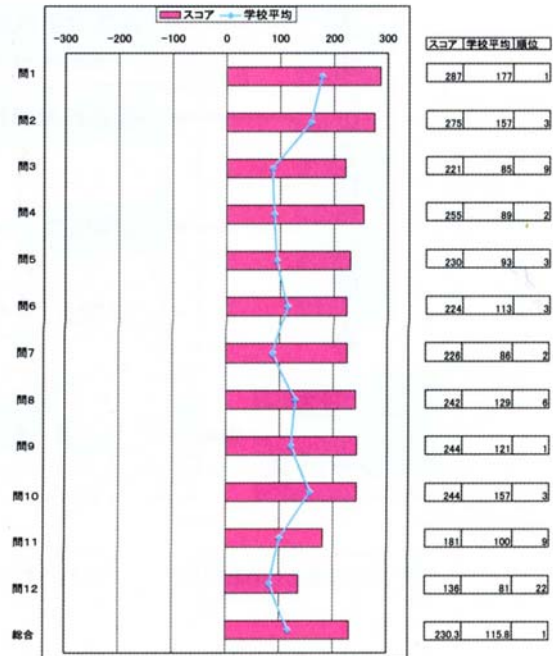
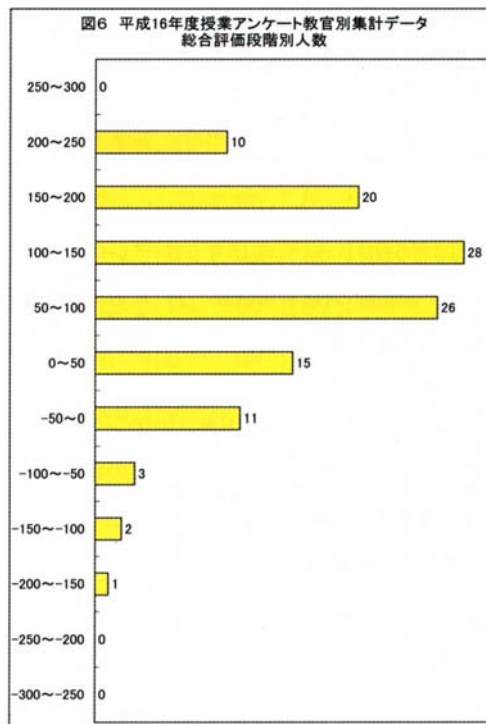


図4 平成16年度授業アンケート教員別集計データ  
質問項目別スコア及び総合評価



平成16年度授業評価アンケート結果（教員別集計結果）



平成16年度授業評価アンケート結果（全教員評価スコア分布）

（出典：平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書）



## ②FD 委員会による学習・教育目標の達成度評価

平成 17 年度からは、JABEE 委員会と FD 委員会により「学生自身による学習・教育目標の達成度評価」を実施している（資料 6-1-④-4）。この評価システムは、(a) 学生自身による授業科目の理解度調査、(b) 学習・教育目標の細目の達成度評価、(c) 学習・教育目標の総合的な達成度評価の大きく 3 つから構成されている（資料 6-1-④-5）。

資料 6-1-④-4

## 学生による学習・教育目標の達成度評価 実施要領

## 1. 目的

JABEE 基準 3\3.2 教育方法(4)、および認証評価に対応するために行う。

「学生自身にも、プログラムの学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。」(学生の自己点検とその学習への反映)

## 2. 実施方法

「授業科目の理解度評価」と「学習・教育目標の細目の達成度評価」の 2 段階にわけて行う。

I 「学習・教育目標の達成度評価」	※ I だけでは、学生が正しく評価することは困難。
↑	
II 「学習・教育目標の細目の達成度評価」	※ 「学習・教育目標の達成度評価」を行うには必須。
↑	
III 「授業科目の理解度評価」	※ いくつかの高専では、IIIを実施し I に対応させている。

## 【理由】

- (i) 学生が、広範囲にわたる大項目としての学習・教育目標を直接的に正しく評価することは困難であり、細目ごとの評価が必要である。
- (ii) 学習・教育目標の細目にある「…できる」ことを学生が自己評価する際に、判断材料として、あらかじめその根拠となる「学習・教育目標を達成するための科目群」の理解度を評価しておくことは、達成度評価の信頼性を高めることにつながる。
- (iii) 「結果の学習への反映」や、今後の「教育点検」への対応を考えると、細目ごとの達成度評価を行っておくべきである。
- (iv) 学生による授業科目の理解度評価と、教員の達成度評価（試験）の間に大きなズレがある場合、授業方法改善の一助となる。

(出典：教員会議資料)

## 【(a) 学生自身による授業科目の理解度調査】

本校の学習・教育目標は A~F の 6 項目に分かれており、さらに項目毎に 4~6 の細目が設けられている。この細目にはあらかじめ具体的な授業科目群が設定してあるため、学生はその授業科目群の理解度を参考に細目の達成度を評価できる。各授業科目の理解度評価は、シラバスの内容を四半期に区切った内容（定期試験ごと）について、学生自身の理解度を 10 段階で自己評価するものである（資料 6-1-④-6）。

【(b) 学習・教育目標の細目の達成度評価】

学習・教育目標の細目には、数個の授業科目が割り当てられている。各授業科目については、四半期毎に自己採点した授業科目の理解度調査の総合評価が実施済のため、それを参考に細目の達成度評価ができる（資料6-1-④-7）。これは学年末の全ての授業評価が終了したところで実施している。

【(c) 学習・教育目標の総合的な達成度評価】

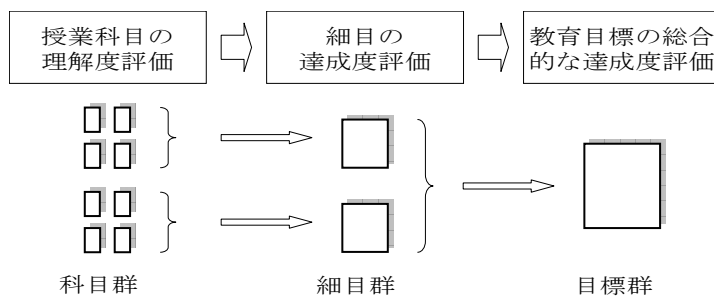
上記(a), (b)の評価完了後、細目の達成度をもとに学習・教育目標を評価する。その結果は学習等達成度記録簿（資料6-1-④-8）に記入され、入学時から卒業時までの学習・教育目標の達成度の推移を点検できる。学習等達成度記録簿は、5年間（あるいは7年間）の長い学校生活で見失いがちな学習や生活の目標を定期的に点検するものである。

以上の自己点検を、FD委員会が主体となって毎年全学生対象に実施することにより、学習・教育目標に対する学生自身の達成度を継続的に点検させ、学習に反映できるようにしている。

資料6-1-④-5

学習・教育目標	細目群	科目群
A	A-1	文学 哲学 心理学 法学
		倫理学
	A-2	地域文化論
		倫理学 環境解析評価論 科学技術史
	A-3	文学 ドイツ語 哲学 地域文化論 法学
		倫理学 科学技術史
	A-4	地域文化論
		倫理学 科学技術史 環境解析評価論
	A-5	哲学 法学
		倫理学 科学技術史

学習・教育目標とその細目群および科目群の例



達成度評価の概念図

(出典：JABEE 委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 6

授業科目の理解度評価

機械 電気 物質 建設 コミ	5 年	番号		氏名	
----------------	-----	----	--	----	--

この調査は、年度末に行われる「学習・教育目標の達成度評価」や、「授業方法の改善」、および「学習・教育目標を達成するための科目群の検討」を行うための基礎資料となるものです。理解すべき内容について、あなた自身の理解度を総合的に判別10段階評価で答えて下さい。

【注意】 評価する授業科目群については、担当教員の指示に従ってください。

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
計算機工学 Computer Architecture	5	2	選択	通年 A	null 春日 健 null

**到達目標**

①コンピュータシステムの構成について説明できる。  
 ②加算器、減算器の設計ができる。  
 ③マイクロプロセッサのアーキテクチャについて説明できる。  
 ④コンピュータのインターフェース、周辺装置について説明できる。

週	授業項目	理解すべき内容	理解度
1	コンピュータシステムの構成	CPU、メモリ、I/O	
2	コンピュータシステムの動作	取出しサイクル、解説・実行サイクル	
3	ハードウェア構成	入出力、メモリ、演算、制御の各装置	
4	ソフトウェア構成	システムソフトウェア、応用ソフトウェア	
5	ソフトウェア構成	スーパーコンピュータ、汎用コンピュータ、パーソナルコンピュータ	
6	データ表現	基数変換、補数、浮動小数点表示	
7	ブール代数とデジタル回路	論理積、論理和、否定、MOSTランジェスタによる基本論理回路	
8	組合せ回路	論理回路の単純化、加算器、エンコーダ	
9	順序回路1	RSフリップフロップ、Dフリップフロップ	
10	順序回路2	JKフリップフロップ、Tフリップフロップ、カウンタ	
11	2進加算と2進減算	半加算器、全加算器、半減算器	
12	直列加算器と並列加算器	遅延回路、シフトパルス、桁上げ先見加算器	
13	加算器を用いた減算回路	2の補数回路	
14	プロセッサのアーキテクチャ	命令セットアーキテクチャ	
15	データタイプ	数値データ、けち表現、非数値データ	
	前期期末試験		
16	命令セット	データ転送命令、演算命令、プログラム制御命令	
17	アドレス指定方式	絶対アドレス指定、相対アドレス指定、イミーディエイトアドレス指定	
18	アドレス空間とセグメント	物理アドレス、セグメント	
19	マルチタスク	システム資源	
20	仮想記憶	スワップアウト、スワップイン、オーバーレイ	
21	CISCとRISC	基本命令セット、LSI向き	
22	保護機構	アクセス権、プライバシー保護	
23	半導体メモリの種類	揮発性メモリ、不揮発性メモリ	
24	RAMとROM	SRAM、DRAM、EEPROM、フラッシュメモリ	
25	代表的なインタフェース	パラレルインタフェース、シリアルインタフェース、SCSI	
26	周辺装置	ハードディスク、CD-ROM、DVD、光磁気ディスク	
27	OSの種類	Windows、UNIX、Linux	
28	コンピュータネットワーク	スター型ネットワーク、分散型ネットワーク	
29	LAN	バス型ネットワーク、リング型ネットワーク	
30	プロトコル	OSI	
	後期期末試験		

総合評価

(出典：FD 委員会資料)

福島高専の学習・教育目標の達成度評価票

資料 6 - 1 - ④ - 7

福島高専の学習・教育目標の達成度評価

4年 建設環境工学科

番 氏名

この調査は、「福島高専の学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。」を評価する基礎資料となるものです。  
右に示す「学習・教育目標を達成するための科目群」の理解度に基づき、各細目の総合的達成度を『10段階評価』で答えて下さい。  
なお、網掛けの欄には記入する必要はありません。

(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 人類の幸福や豊かさについて考えることができる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ, 文学, 体育	
2 人類の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる	体育, 環境工学Ⅰ	
3 世界の歴史・思想・文化や、それらに根ざした価値観などを理解し、ものごとを多角的に見ることができる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ, 文学, 第2外国語Ⅰ, 体育	
4 人間社会と自然環境の調和を図る必要性を認識できる	体育, 環境工学Ⅰ	
5 科学技術が社会や自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための深い倫理観を持つことができる	社会科学特講Ⅰ, 環境工学Ⅰ	
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 工学の基礎となる数学、自然科学に関する知識を修得し、活用できる	応用数学A, 応用数学B	
2 それぞれの専攻分野の基礎となる専門基礎知識を修得し、活用できる	応用情報処理, 応用測量, 環境工学Ⅰ, 鋼構造工学, 構造解析学, 交通施設, コンクリート構造工学, 施工法, システム工学, 地域計画, 水処理工学, 水理学, 土質力学	
3 情報処理に関する基礎知識を修得し、それを工学的諸問題の解決に応用できる	応用情報処理	
4 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学の知識と能力を身につけ、活用できる		
4-1 設計・システム系		
4-2 情報・論理系	応用情報処理	
4-3 材料・バイオ系		
4-4 力学系	鋼構造工学, 構造解析学, コンクリート構造工学, 水理学, 土質力学	
4-5 社会技術系	応用測量	
5 それぞれの専攻分野の基礎となる専門基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、異なる専門分野の知識を身につけ、活用できる		
(C) 工学系科目・ビジネス系科目との協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 各種の経営体の事業面・統治面・社会面・経済面に応じた管理、およびこれらを実行するのに必要な諸要素の管理に関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅱ	
2 製造業における生産の計画と管理に関わる概念技法およびシステム工学、情報科学など生産管理の理論的基礎知識を修得し、活用できる	システム工学	
3 ベンチャー企業をどのように育成していくのか、起業家、ビジネスプラン、支援制度、ベンチャーキャピタルなどに関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ	
4 科学技術をビジネスの世界で効果的に応用して経営のあり方に関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅱ	
5 グローバルなビジネス社会で英語を実務的に運用できる	工学セミナー	
6 自ら工夫して新しい産業技術を創造・開発し、産業システムを構築できる	社会科学特講Ⅱ, 工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
(D) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 数学、自然科学、専門基礎、専門の知識を総合的に利用し、それを実践的な問題解決に応用できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
2 問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための情報処理技術および工学的手段を修得し、活用できる	応用情報処理, 工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
3 さまざまな知識を適切な情報源から得、それらの内容を識別した上で、蓄積・整理できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
4 新しい課題について、問題点を自ら発見できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
5 新しい課題について、さまざまな観点から検討し、その結果を具体的に示すことができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造の実践力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 実験・実習・演習の工学的意義を理解し、それらの修得を通じて、自主的・継続的、そして計画的に学習することができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
2 設計・製造・計測・制御および情報処理など、知識と技術が結びついた生産活動を行うことができる	応用情報処理, 工学セミナー, 鋼構造工学, システム工学, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
3 生産から消費・廃棄に至るプロセスを、ひとつのシステムとして認識できる		
4 多様な産業技術システムを理解し、企画・基本設計・付加価値設計ができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
(F) 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 自分の考えを論理的、客観的に日本語の談話や文章で表現できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
2 他者の意見や主張を的確に理解したうえで、問題点を指摘し討論できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
3 情報技術を活用して作成した分かりやすいグラフや図などを用いて論理的に発表し、質疑に対して的確に対応できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
4 幅広い話題についての英語の談話を聞き、文章を読み、それらの内容を理解できる	英語, 工学セミナー	
5 幅広い話題について、英語の談話や文章で表現する基礎能力を身につけ、活用できる	英語	
6 英語で書かれた論文などを正しく読解し、その内容を日本語で説明できる	英語, 工学セミナー	

(出典：FD委員会資料)



資料 6 - 1 - ④ - 8

学習等達成度記録簿（一部のみ掲載）

学習等達成度記録簿（その1）

秘

学 科 名	学科	学籍番号	氏 名
出 身 地		出身中学	
住 所	電話	固定	- -
		携帯	- -
	E-メール		

(1) 高専で勉強したい内容

1年次	4年次

(2) 高専における勉学以外の目標

1年次	4年次

(3) 自己採点（各学年の春に、100点満点で自己採点を行ってください。）

項 目	1年	2年	3年	4年	5年	年 卒業時
地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養が身についたか？						
工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力が身についたか？						
工学系科目ービジネス系科目との協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力が身についたか？						
情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力が身についたか？						
モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力が身についたか？						
情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力が身についたか？						

各項目の細目はシラバスや本校ホームページに掲載してあるので、それらを見て総合的に採点してください。

(4) 資格等(英語検定, 工業英語検定, TOEIC, 秘書検定, 日本漢字能力検定, ラジオ音響検定, デジタル技術等)に関する目標

資 格 等 名						
取 得 予 定 (年 月 等)						
結 果 等 (年月, 点数等)						

(出典：FD 委員会資料)



専攻科課程でも、学生自身による達成度評価を準学士課程と同様に3つの段階に分けて行っている（資料6-1-④-9～11）。これにより、教員が学生の授業科目に対する理解度の状況を把握するだけでなく、それと連動して学習・教育目標に対する学生自身の達成度を学生に継続的に点検させ、学生の自習的学習に反映させることができる。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、準学士課程と専攻科課程のいずれについても、FD委員会による授業アンケート調査及び学習・教育目標の達成度評価を実施し、毎年学生の意見を聴取している。これらの結果によれば、学生自身の学習・教育目標に対する達成度は概ね良好である。以上の理由から、学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

資料 6 - 1 - ④ - 9

授 業 科 目 の 理 解 度 評 価

機・電 物・建 ビジネシ	1 年	番号		氏 名	
--------------	-----	----	--	-----	--

この調査は、年度末に行われる「学習・教育目標の達成度評価」や、「授業方法の改善」、および「学習・教育目標を達成するための科目群の検討」を行うための基礎資料となるものです。理解すべき内容について、あなた自身の理解度を総合的に判断し10段階評価で答えて下さい。

【注意】 評価する授業項目群については、担当教員に従って下さい。

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報工学特論 Information Engineering Seminar	1	2	選択	後期 A	null 小泉 康一

到達目標

- ①情報量、エントロピーの意味が理解でき、簡単な確率システムのエントロピーが計算できる。
- ②暗号システムの基礎概念が理解できる。
- ③コンピュータネットワークの基礎について理解し、実際にネットワーク構築ができる。

週	授業項目	理解すべき内容	理解度
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16	序論	情報理論とはどのような科学か	
17	基礎数学 1	対数と確率論の基礎、それらの計算法の復習	
18	基礎数学 2	事象と確率、条件付確率、期待値	
19	基礎数学 3	演習、小テスト、完全情報系、情報量の定義	
20	エントロピー	エントロピーとあいまいさの計量	
21	情報源とエントロピー(1)	情報源とエントロピー	
22	情報源とエントロピー(2)	演習問題、小テスト	
23	現代暗号	秘密鍵暗号、公開鍵暗号	
24	秘密鍵暗号系	秘密鍵(共通鍵)暗号、ストリーム暗号、ブロック暗号	
25	公開鍵暗号系(1)	RSA暗号(1)	
26	公開鍵暗号系(2)	RSA暗号(2)	
27	公開鍵暗号系(3)	RSA暗号演習、小テスト	
28	コンピュータネットワーク(1)	ネットワークングデバイス(スイッチ、ルータ)	
29	コンピュータネットワーク(2)	ルータの初期設定	
30	コンピュータネットワーク(3)	コンピュータネットワークの構築	
	後期期末試験		

総合評価

(出典：FD 委員会資料)

福島高専の学習・教育目標の達成度評価票

福島高専の学習・教育目標の達成度評価

専攻科 1 年 機械・電気システム工学専攻

番 氏名

この調査は、「福島高専の学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。」を評価する基礎資料となるものです。右に示す「学習・教育目標を達成するための科目群」の理解度に基づき、各細目の総合的達成度を『10段階評価』で答えて下さい。なお、網掛けの欄には記入する必要はありません。

(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 人類の幸福や豊かさについて考えることができる	倫理学	
2 人類の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる	環境解析評価論, 倫理学	
3 世界の歴史・思想・文化や、それらに根ざした価値観などを理解し、ものごとを多角的に見ることができる	倫理学	
4 人間社会と自然環境の調和を図る必要性を認識できる	環境解析評価論, 倫理学	
5 科学技術が社会や自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための深い倫理観を持つことができる	倫理学	

(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に対応できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 工学の基礎となる数学、自然科学に関する知識を修得し、活用できる	現代化学, 応用解析学 I, 統計物理学, 振動論	
2 それぞれの専攻分野の基盤となる専門基礎知識を修得し、活用できる		
3 情報処理に関する基礎知識を修得し、それを工学的諸問題の解決に応用できる	情報工学特論	
4 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学の知識と能力を身につけ、活用できる	安全工学特論, 機能性材料工学, 情報工学特論, 統計物理学, 振動論, 環境解析評価論	
4-1 設計・システム系		
4-2 情報・論理系	情報工学特論	
4-3 材料・バイオ系	機能性材料工学	
4-4 力学系	振動論	
4-5 社会技術系	安全工学特論, 環境解析評価論	
5 それぞれの専攻分野の基盤となる専門基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、異なる専門分野の知識を身につけ、活用できる	産業技術特論 I, 産業技術特論 II, 機械振動学, 電子物性工学, ロボット工学, 電気磁気学特論, 制御システム工学, 安全工学特論, 機能性材料工学	

(C) 工学系科目-ビジネス系科目との協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 各種の経営体の事業面・統治面・社会面・経済面に応じた管理、およびこれらを遂行するのに必要な諸要素の管理に関する知識を修得し、活用できる	経営管理論	
2 製造業における生産の計画と管理に関わる概念技法およびシステム工学、情報系	生産管理論	

(出典：平成 12 年度～17 年度における「自己点検・評価」報告書)



学習等達成度記録簿（一部のみ掲載）

学習等達成度記録簿（その1）

秘

専攻名	専攻	学生番号	氏名
出身地		出身高専(短大)	
住所	電話	固定	- -
		携帯	- -
	E-メール		

(1) 専攻科2年間で勉強したい内容

(2) 専攻科2年間における勉学以外の目標

(3) 自己採点（各学年の春に、100点満点で自己採点を行ってください。）

項 目	1年		2年	
地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養が身についたか？				
工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力が身についたか？				
工学系科目ービジネス系科目との協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力が身についたか？				
情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力が身についたか？				
モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力が身についたか？				
情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力が身についたか？				

各項目の細目はシラバスや本校ホームページに掲載してあるので、それらを見て総合的に採点してください。

(4) 資格等(英語検定, 工業英語検定, TOEIC, 秘書検定, 日本漢字能力検定, ラジオ音響検定, デジタル技術等)に関する目標

資格等名					
取得予定 (年月等)					
結果等 (年月, 点数等)					

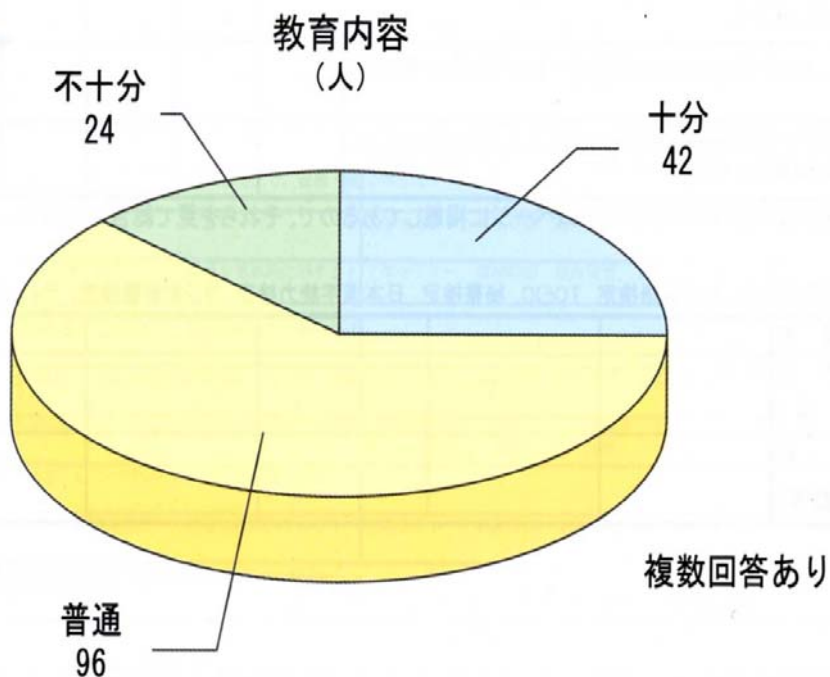
(出典：FD委員会資料)

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取り組みを実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校が行った学外関係者からの意見聴取の取り組みとしては、本校の教育理念、学習・教育目標、教育内容に関する評価のために、平成 16 年度に JABEE 委員会が卒業生及び企業対象に実施したアンケート調査があげられる。その結果によれば、回答した多くの卒業生から、「本校で受けた教育が社会に出てから役に立っている」との回答が得られ、本校での教育の成果や効果が上がっていることが確認された（資料 6-1-⑤-1～3）。これらの調査と分析の結果は、その後教員会議に報告され、全教員に対して資料配布も行われた。

資料 6-1-⑤-1



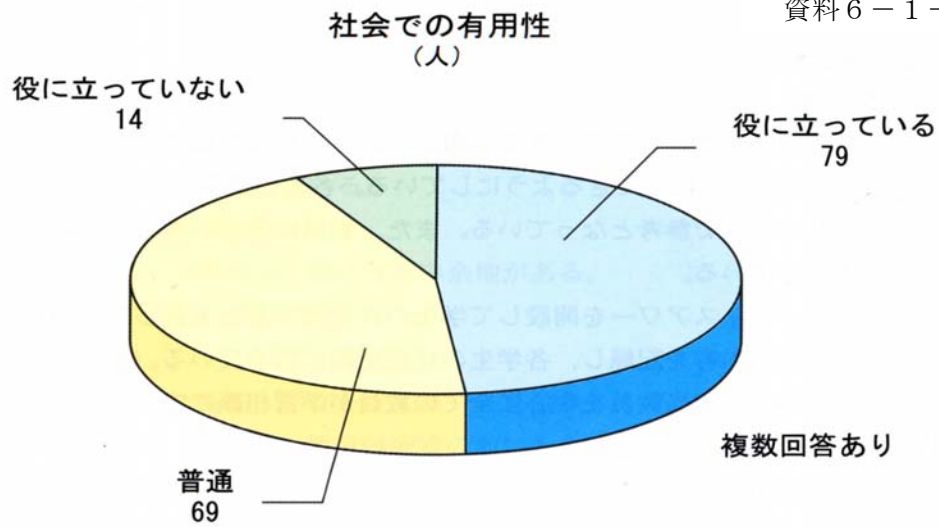
JABEE委員会による卒業生・企業対象のアンケート結果（その1）

卒業生を対象にした「教育内容」に関する質問

（福島高専の教育について十分な内容、時間であったと思いますか。）

（出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書）

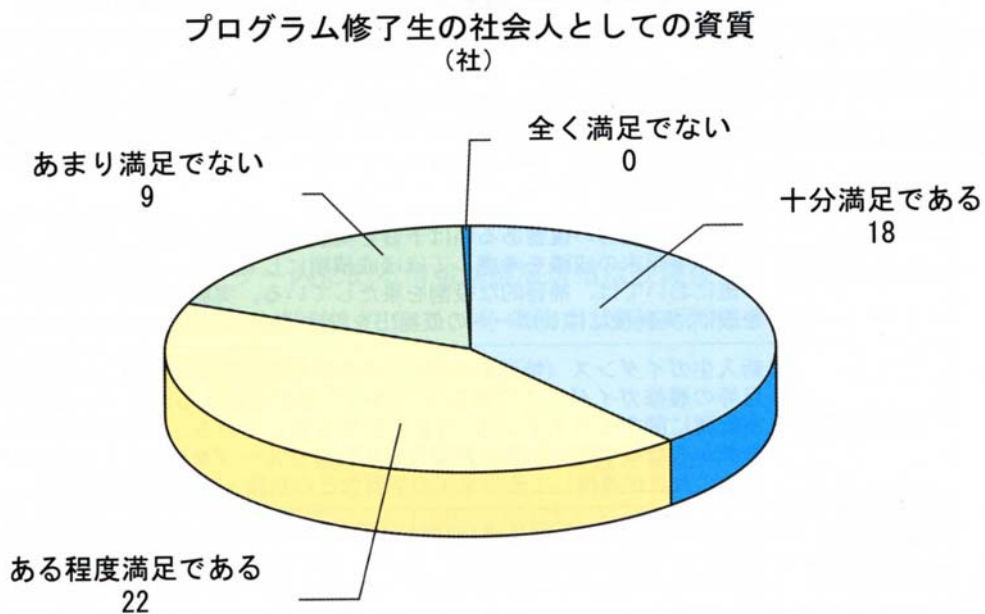
資料 6-1-⑤-2



JABEE委員会による卒業生・企業対象のアンケート結果 (その2)  
 卒業生を対象にした「社会での有用性」に関する質問  
 (福島高専で受けた教育は社会に出てから役に立っていますか。)

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

資料 6-1-⑤-3



JABEE委員会による卒業生・企業対象のアンケート結果 (その3)  
 企業を対象にした「プログラム修了生の社会人としての資質」に関する質問  
 (「産業技術システム工学」教育プログラムの学習・教育目標が達成されてい  
 れば、貴社の新入社員としての資質は十分満足していると思われませんか。)

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

上記のアンケート調査以外の学外関係者からの意見聴取の取り組みとしては、春季と秋季の年2回開催している学級担任と保護者との学級懇談会（資料6-1-⑤-4）及び平成17年度から実施している保護者等を対象とした公開授業（資料6-1-⑤-5）がある。これらの保護者からの意見聴取の結果も、その後の教員会議で報告され、資料配布により教員への周知が図られている。

さらに、平成19年4月～5月には認証評価小委員会が主体となり、卒業生及び企業等学外者対象のアンケート調査を実施した。その結果も教員への周知がなされている（資料6-1-⑤-6～15）。

資料6-1-⑤-4

資料 3

平成18年5月25日教務委員会審議  
平成18年6月1日教務委員会審議  
平成18年6月7日教員会議提出

平成18年度 春季学級懇談会結果報告  
(平成18年5月20日(土)実施)

1. 出席状況

	1年			2年			3年			4年			5年			合計		
	在籍	出席	出席率	在籍	出席	出席率	在籍	出席	出席率	在籍	出席	出席率	在籍	出席	出席率	在籍	出席	出席率
機械工学科	43	33(8)	76.7	43	17(4)	39.5	38	16(6)	42.1	41	15(2)	36.6	39	0(0)	0	204	81(20)	39.7
電気工学科	43	30(11)	69.8	43	19(4)	44.2	41	14(4)	34.1	40	11(1)	27.5	41	17(2)	41.5	208	91(22)	43.8
物質工学科	42	26(7)	61.9	44	22(4)	50.0	42	19(3)	45.2	42	24(2)	57.1	40	11(1)	27.5	210	102(17)	48.6
建設環境工学科	42	21(5)	50.0	41	24(0)	58.5	38	14(2)	36.8	38	22(3)	57.9	36	15(0)	41.7	195	96(10)	49.2
コミュニケーション情報学科	41	29(9)	70.7	40	13(1)	32.5	41	17(2)	41.5	41	8(3)	19.5	44	19(6)	43.2	207	86(21)	41.5
計	209	139(40)	66.5	211	95(13)	45.0	200	80(17)	40.0	202	80(9)	39.6	200	62(9)	31.0	1024	456(88)	44.5

( )数字は寮生保護者 (前年度 49.7%)

2. 懇談内容

○第1学年  
担任からの説明内容（概況）  
クラスの概況、寮生活、クラブ活動、年間行事、生活指導（遅刻・結果の連絡、頭髪と服装、携帯電話のルール、運転免許、飲酒喫煙の防止、アルバイト等）奨学金・授業料免除、学習（成績評価、単位取得、再試験と進級、資格試験等）、長期休業中の過ごし方（家庭学習、担任との連絡、保護者への協力依頼等）、行事予定、JABEEについて

保護者からの要望事項・質問事項（概要）

- 女子学生がクラスに1人だけだが、うまくとけ込んでいるだろうか。（回答済み）
- 入学当初は体調が万全でなくクラブに参加してないが、途中から入部できるか。（回答済み）
- ロッカーに入らない荷物を持ち帰らなければならないのか。（回答済み）
- 学校生活、寮生活に関して家庭では何も話さないが、ちゃんとやっているのだろうか？
- 入学後、自分の考えていた学習内容と違うことに気づき、悩んでいるようだ。
- 自宅ではほとんど勉強をしていないので心配である。
- 質疑応答の時間をとりましたが、特に質問はありませんでした。
- 健康上、心遣いがある（回答）定期健康診断および保健室について説明した。
- 対人関係が苦手であるので心配である（回答）学生相談室があることを紹介した。
- 奨学金などについて教えてほしい（回答）5月17日に説明会があった旨を説明した。

★ 公開授業と総会に出席して、懇談会を欠席した保護者が何人もいた。全日日程では懇談会までの出席は体力的に難しいかもしれない（担任からの指摘）

○第2学年  
担任からの説明内容（概況）  
クラス概況、前期中間試験、評価制度、成績通知法、資格/技能審査による単位認定、進路について、自律と自己責任、学年行事日（含む費用負担）について、卒業後の進路（大学編入学、専攻科進学、就職）について、生活指導上の禁止事項、JABEEについて、ミニ研究について、夏休みの過ごし方について

保護者からの要望事項・質問事項（概要）

- 留年生の保護者から数学が苦手である今年に進級も心配だという相談があった。線形代数での習熟度別授業の取り組み等につ

(出典：教員会議資料)



## 資料 2

平成 18 年度 公開授業結果報告

平成 18 年 5 月 20 日 (土) 実施

平成 18 年 5 月 25 日 教務委員会 審議

平成 18 年 6 月 1 日 教務委員会 審議

平成 18 年 6 月 7 日 教員会議 提出

### 1.出席状況

	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席
機械工学科	43	38	43	26	38	17	41	18	39	14	204	113
電気工学科	43	34	43	21	41	17	40	13	41	18	208	103
物質工学科	42	30	44	25	42	21	42	17	40	15	210	108
建設環境工学科	42	31	41	29	38	17	38	22	36	15	195	114
コミュニケーション情報学科	41	32	40	16	41	19	41	12	44	20	207	99
計	209	165	211	117	200	91	202	82	200	82	1024	537

	1年		2年		合計	
	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席
機械・電気システム専攻	9	1	8	1	17	2
物質・環境システム専攻	8	3	10	1	18	4
ビジネスコミュニケーション専攻	4	0	5	0	9	0
計	21	4	23	2	44	6

※受付で学生名票によりチェックした数。1学生あたり複数参観の保護者がいるため実際の参加者数はこれ以上になる。

### 2.参観後のアンケート 感想・意見等の記述

※感想・意見などの記述の要点のみ記載。( )内の「×数字」は同様な感想・意見等の数

#### 第1学年

数学の授業の雰囲気を楽しもうえに、授業内で復習もやっているのがよい(1機×2)

熱心に授業を受けている・全員が集中している(1電・1機)

おとなしい・活気がない(1コミ・2機にもあり)

学生側からの質問や回答の場が少ないのが気になった(1機)

数学は学生とのコミュニケーションのある授業でした(1機)

100授業なので余裕のある授業と感じました(1機)

寝ている学生が多すぎる(1電)

かつて自分の受けた授業を思い出しました(1電)

服装の乱れが気になる(1電)

数学はテンポのある授業でよかった(1電)

教員の声がよく通りわかりやすい授業(1物)

英会話はすこし難しそうでした(1物)

服装は気温にあわせて柔軟にしてください(1建)

英語の授業は楽しそうでした(1建)

英会話の授業わかりやすい授業でした、詳しい説明があるのがよいです(1コミ)

保護者の立場でも熱心に聞ける英語の授業でした(1コミ)

我が子を含め居眠りしている学生がいる。厳しく注意してほしい(1コミ)

数学は理解できそうです(1物)

100分授業に慣れるのが大変そうです(1コミ)

熱心な指導ありがとうございます(1コミ)

数学の授業は字が大きく、説明もわかりやすい(1コミ)

#### 第2学年

これからも公開授業を続けてください(2コミ・2機)

物理の授業を聞いてかつての自分を思い出し、もう一度学びたいと思いました(2建×2)



**卒業生用**

**福島高専の教育活動に関するアンケート調査**

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせて頂くものです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**質問1 あなたが最終的に卒業（修了）した学科（専攻）について、あてはまるもの1つにマークしてください。**

(1) 準学士課程（本科5年生）

<input type="checkbox"/> 1: 機械工学科	<input type="checkbox"/> 2: 電気工学科
<input type="checkbox"/> 3: 物質工学科（旧工業化学科）	<input type="checkbox"/> 4: 建設環境工学科（旧土木工学科）
<input type="checkbox"/> 5: コミュニケーション情報学科	

(2) 専攻科課程

<input type="checkbox"/> 6: 機械・電気システム工学専攻	<input type="checkbox"/> 7: 物質・環境システム工学専攻
<input type="checkbox"/> 8: ビジネスコミュニケーション学専攻	

**質問2 あなたの年齢について、あてはまるもの1つにマークしてください。**

(3)

<input type="checkbox"/> 1: 20～24歳	<input type="checkbox"/> 2: 25～29歳	<input type="checkbox"/> 3: 30～34歳	<input type="checkbox"/> 4: 35～39歳
<input type="checkbox"/> 5: 40～44歳	<input type="checkbox"/> 6: 45～49歳	<input type="checkbox"/> 7: 50～54歳	<input type="checkbox"/> 8: 55歳～

**質問3 現在、あなたは何をされていますか。**

(4)

<input type="checkbox"/> 1: 企業等に勤務	<input type="checkbox"/> 2: 大学等の学生
<input type="checkbox"/> 3: 無職	<input type="checkbox"/> 4: その他

**質問4 質問3で「1. 企業等に勤務」とお答えになった方のみ伺います。現在、あなたが所属している業種・分野について、あてはまるもの1つにマークしてください。**

(5) 製造業

<input type="checkbox"/> 1: 機械	<input type="checkbox"/> 2: 輸送用機械	<input type="checkbox"/> 3: 金属	<input type="checkbox"/> 4: 電気機器
<input type="checkbox"/> 5: 精密機器	<input type="checkbox"/> 6: 化学	<input type="checkbox"/> 7: 繊維	<input type="checkbox"/> 8: 医薬品
<input type="checkbox"/> 9: 食品	<input type="checkbox"/> 11: 電気・ガス	<input type="checkbox"/> 12: 運輸	<input type="checkbox"/> 13: 通信
<input type="checkbox"/> 14: 建設	<input type="checkbox"/> 15: 卸売・小売	<input type="checkbox"/> 16: 金融	<input type="checkbox"/> 17: 情報
<input type="checkbox"/> 19: 官公庁等	<input type="checkbox"/> 20: 大学等教育機関	<input type="checkbox"/> 21: 研究機関	<input type="checkbox"/> 22: その他

1 / 3  
調査07年04月

(出典：認証評価委員会資料)

資料6-1-⑤-7

ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

質問5 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか、あてはまるもの1つにマークしてください。

(6)

1: ある

2: ない

質問6 質問5で「1. ある」とお答えになった方のみにお伺いします。それらを何で（どこで）見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

(7)

1: 本校関係者による説明

2: 学校要覧等の刊行物

3: 本校ホームページ

4: 本校校内の掲示

5: いわき民報記事「福島高専の挑戦」

6: その他

質問7 質問6で「1. ある」とお答えになった方のみにお伺いします。本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容についてどう思われますか、あてはまるもの1つにマークしてください。

(8)

1: このままでよい

2: 直したほうがよい

質問8 質問7で「2. 直したほうがよい」とお答えになった方のみにお伺いします。何をどのように直したらよいかを以下にお書き下さい。

(9)

ここからの質問は、福島高専の「教育内容」をどのように評価されているかを伺います。

質問 9 本校のカリキュラムの内容・レベルについてお聞きします。4段階で評価してください。

(10)

	本校のカリキュラムの内容・レベル			
	十分に満足できる	ある程度満足できる	少し不満である	全く不満である
1 基礎科目（数学，物理，化学）は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
2 外国語科目は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
3 一般教養科目（国語，社会など）は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
4 情報処理関連科目は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
5 専門分野の講義は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
6 専門分野の実験・実習は満足できるものでしたか。	0	0	0	0
7 卒業研究（特別研究）は満足できるものでしたか。	0	0	0	0

質問 10 以下に示した「学力や資質・能力」が、本校卒業（修了）時にどの程度身に付いたか、4段階で自己評価してください。

(11)

	本校卒業（修了）時の到達度			
	十分に身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	全く身についていない
1 一般教養	0	0	0	0
2 基礎学力	0	0	0	0
3 科学技術の基礎的素養	0	0	0	0
4 専門分野に関する知識	0	0	0	0
5 システムデザイン能力	0	0	0	0
6 問題解決能力	0	0	0	0
7 課題探求能力	0	0	0	0
8 コミュニケーション能力	0	0	0	0
9 技術者倫理	0	0	0	0
10 自己表現力	0	0	0	0
11 コンピュータ利用技術	0	0	0	0
12 外国語（英語）能力	0	0	0	0
13 プレゼンテーション能力	0	0	0	0

質問 11 本校の教育内容・レベルは全体として満足できるものでしたか。4段階で評価してください。

(12)

- 1: 十分に満足できる                       2: ある程度満足できる  
 3: 少し不満である                               4: 全く不満である



企業等学外者用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせて頂くものです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問 1 貴社(貴機関)の業種・分野について、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(1)

- |                                |                                   |                                |                               |
|--------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 1: 機械    | <input type="radio"/> 2: 輸送用機械    | <input type="radio"/> 3: 金属    | <input type="radio"/> 4: 電気機器 |
| <input type="radio"/> 5: 精密機器  | <input type="radio"/> 6: 化学       | <input type="radio"/> 7: 繊維    | <input type="radio"/> 8: 医薬品  |
| <input type="radio"/> 9: 食品    | <input type="radio"/> 10: 電気・ガス   | <input type="radio"/> 11: 運輸   | <input type="radio"/> 12: 通信  |
| <input type="radio"/> 13: 建設   | <input type="radio"/> 14: 卸売・小売   | <input type="radio"/> 15: 金融   | <input type="radio"/> 16: 情報  |
| <input type="radio"/> 17: 官公庁等 | <input type="radio"/> 18: 大学等教育機関 | <input type="radio"/> 19: 研究機関 | <input type="radio"/> 20: その他 |

質問 2 貴社(貴機関)に採用いただいている(入学させていただいている)本校卒業(修了)生の出身学科(専攻)にあてはまるものすべてにマークしてください。

(2) 準学士課程(本科5年生)

- |  |  |
|--|--|
| <input type="radio"/> 1: 機械工学科         | <input type="radio"/> 2: 電気工学科           |
| <input type="radio"/> 3: 物質工学科(旧工業化学科) | <input type="radio"/> 4: 建設環境工学科(旧土木工学科) |
| <input type="radio"/> 5: コミュニケーション情報学科 |  |

(3) 専攻科課程

- |   |  |
|---|--|
| <input type="radio"/> 6: 機械・電気システム工学専攻    | <input type="radio"/> 7: 物質・環境システム工学専攻 |
| <input type="radio"/> 8: ビジネスコミュニケーション学専攻 |  |

ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(4)

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 1: ある | <input type="radio"/> 2: ない |
|-----------------------------|-----------------------------|

質問4 質問3で「1. ある」とお答えになった方のみ伺います。  
それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたか。あてはまるものすべてにマークしてください。

- (5)
- 1: 本校関係者による説明       2: 学校要覧等の刊行物       3: 本校ホームページ
- 4: 本校校内の掲示       5: いわき民報記事「福島高専の挑戦」
- 6: その他

質問5 質問3で「1. ある」とお答えになった方のみ伺います。  
本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容についてどう思われますか。あてはまるもの1つにマークしてください。

- (6)
- 1: このままでよい       2: 直したほうがよい

質問6 質問5で「2. 直したほうがよい」とお答えになった方のみ伺います。  
何をどのように直したらよいかを以下にお書き下さい。

(7)

-6-

ここからの質問は、福島高専の「教育内容」、「卒業（修了）生の学力や資質・能力」をどのように評価されているかを伺います。

質問 7 貴社（貴機関）に入社（入学）した本校卒業（修了）生の能力を 4 段階で評価してください。

(8)

		卒業生(修了生)の能力			
		十分に満足でき る	ある程度満足 できる	少し不満であ る	全く不満であ る
1	一般教養	0	0	0	0
2	基礎学力	0	0	0	0
3	科学技術の基礎的素養	0	0	0	0
4	専門分野に関する知識	0	0	0	0
5	システムデザイン能力	0	0	0	0
6	問題解決能力	0	0	0	0
7	課題探求能力	0	0	0	0
8	コミュニケーション能力	0	0	0	0
9	技術者倫理	0	0	0	0
10	自己表現力	0	0	0	0
11	コンピュータ利用技術	0	0	0	0
12	外国語(英語)能力	0	0	0	0
13	プレゼンテーション能力	0	0	0	0

質問 8 貴社（貴機関）が採用（選抜）時に、以下に示した「学力や資質、能力」をどの程度重視されているか、4段階でお答えください。

(9)

	選抜時のポイント			
	かなり重視する	ある程度重視する	あまり重視しない	全く重視しない
1 一般教養	0	0	0	0
2 基礎学力	0	0	0	0
3 科学技術の基礎的素養	0	0	0	0
4 専門分野に関する知識	0	0	0	0
5 システムデザイン能力	0	0	0	0
6 問題解決能力	0	0	0	0
7 課題探求能力	0	0	0	0
8 コミュニケーション能力	0	0	0	0
9 技術者倫理	0	0	0	0
10 自己表現力	0	0	0	0
11 コンピュータ利用技術	0	0	0	0
12 外国語（英語）能力	0	0	0	0
13 プレゼンテーション能力	0	0	0	0
14 その他の能力	0	0	0	0

質問 9 本校卒業（修了）生のレベルは全体として満足できるものですか、4段階で評価してください。

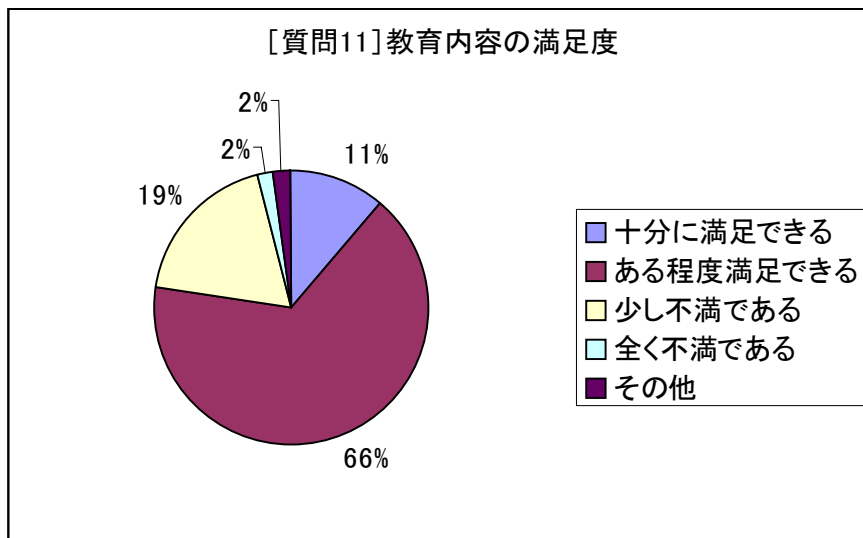
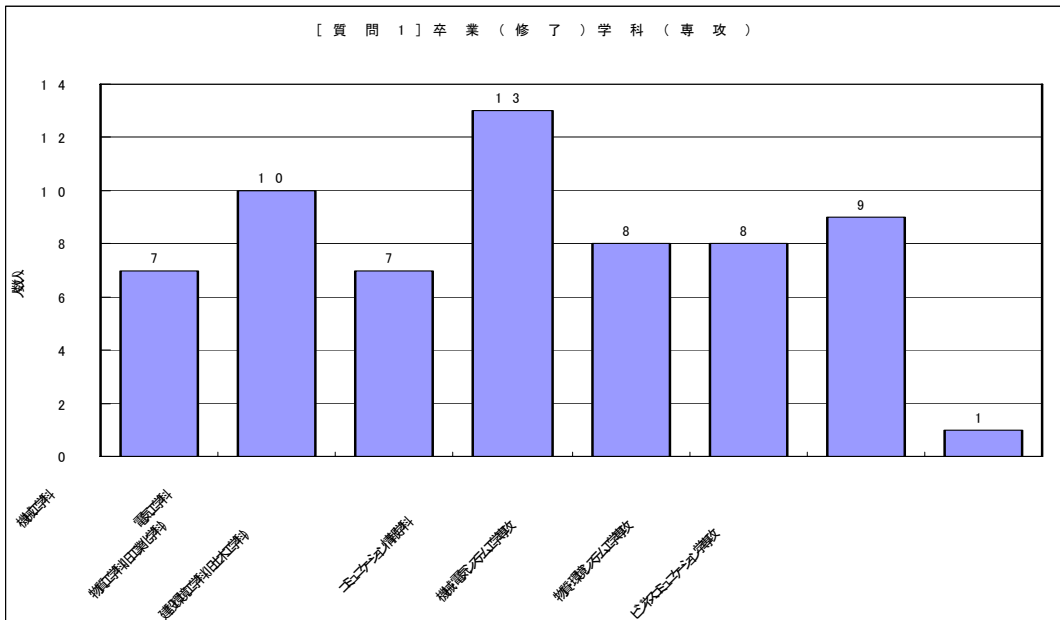
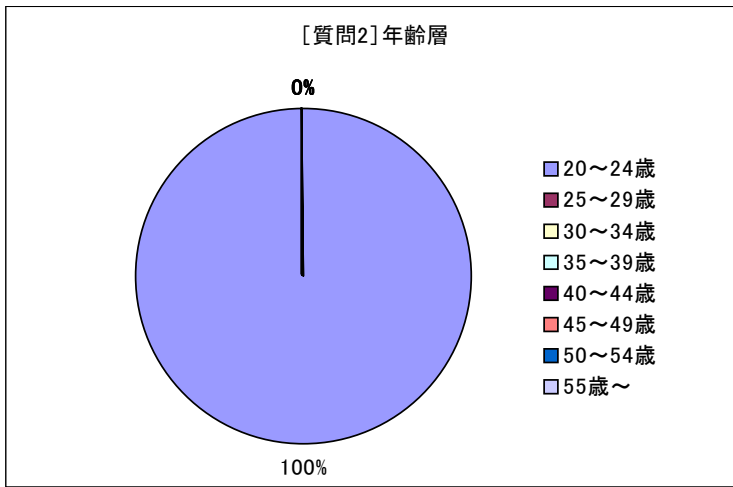
(10)

- 1: 十分に満足できる                       2: ある程度満足できる  
 3: 少し不満である                               4: 全く不満である

-10-

卒業生に対するアンケート結果（1）

資料 6 - 1 - ⑤ - 13

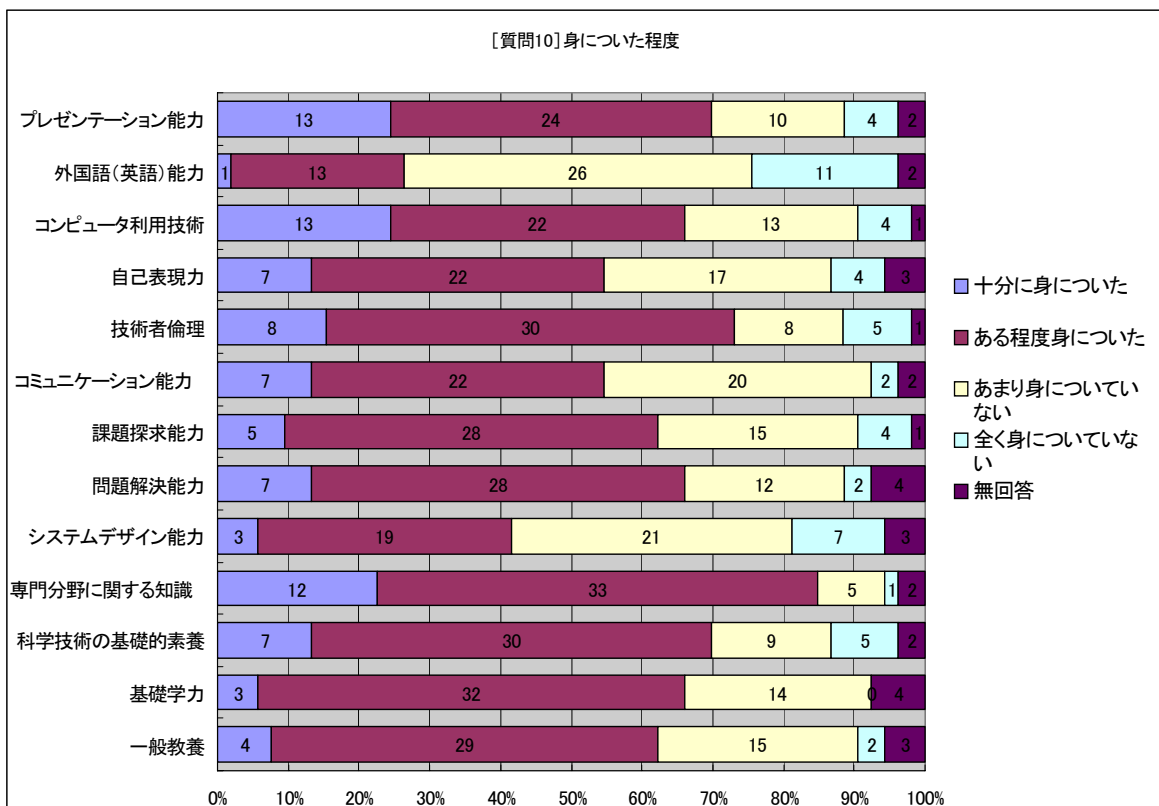
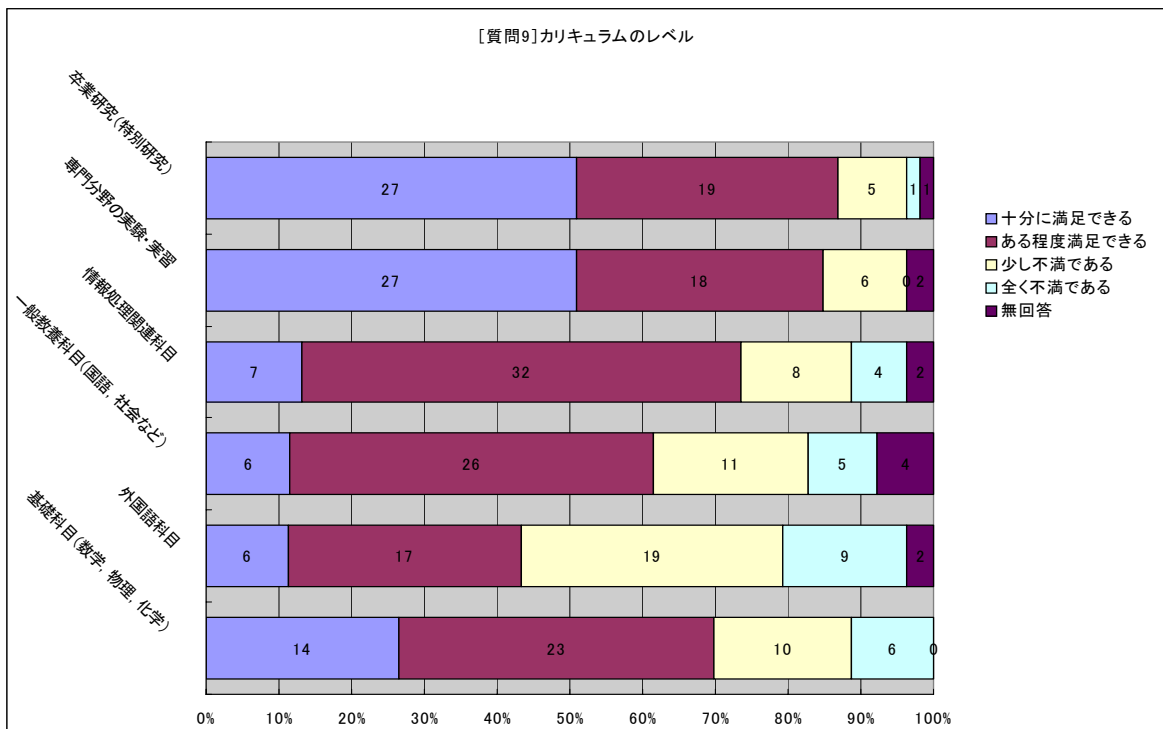


(出典：認証評価委員会資料)



資料 6 - 1 - ⑤ - 14

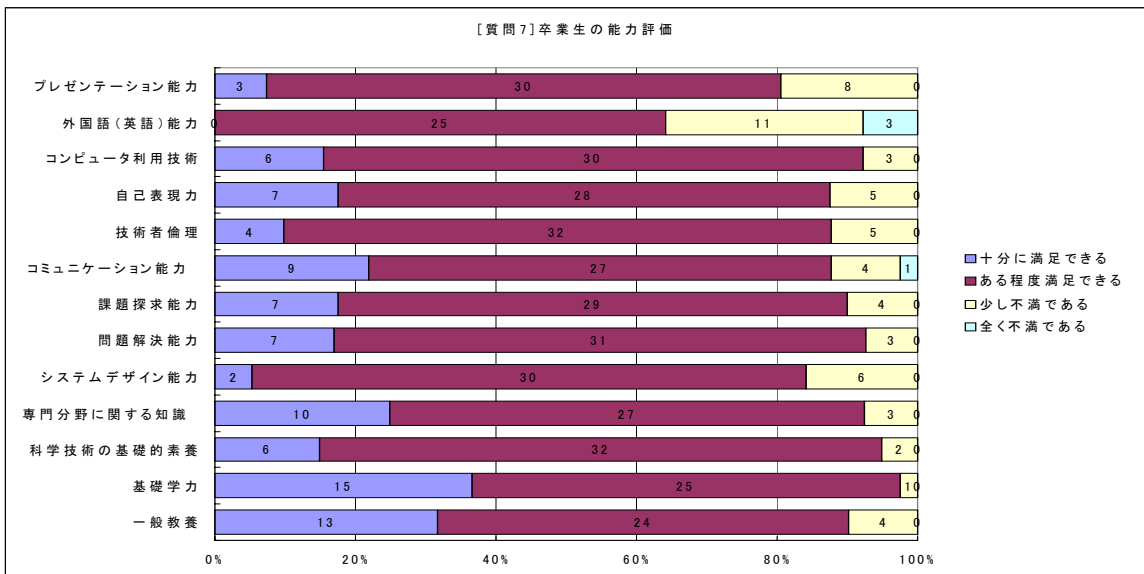
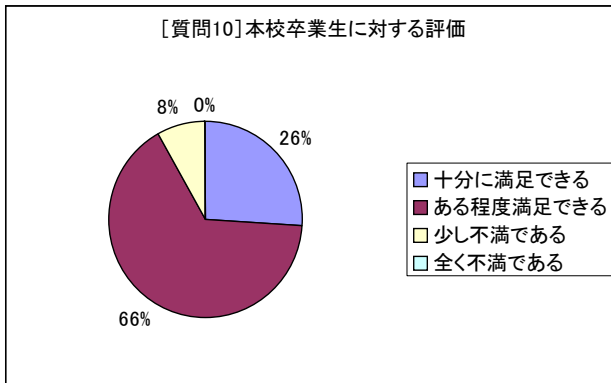
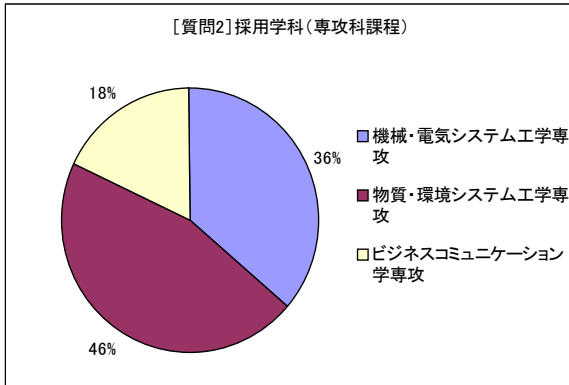
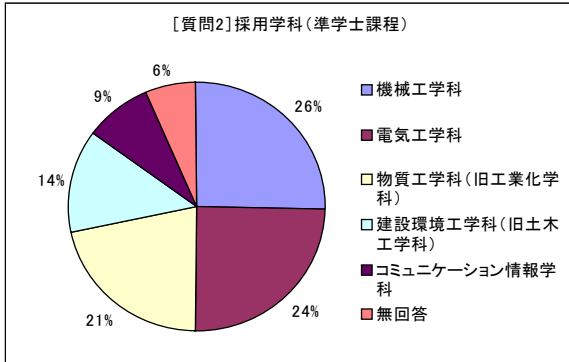
卒業生に対するアンケート結果 (2)



(出典：認証評価委員会資料)

企業等学外者に対するアンケート結果

資料 6 - 1 - ⑤ - 15



(出典：認証評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

卒業（修了）生及び企業等学外関係者対象のアンケート調査を実施し、卒業（修了）生の学習及び研究の内容、学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みを行っている。その結果によれば、多くの卒業（修了）生から「本校で受けた教育に満足している。また、社会に出てから役に立っている。」との回答があり、一方、企業等学外関係者の多くから、「本校の卒業（修了）生に対する評価として、満足している。」との回答を得ている。以上のことから、卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取り組みを実際に行っており、また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・準学士課程及び専攻科課程の卒業（修了）生については、毎年ほぼ100%の学生が進学、就職を達成している。
- ・準学士課程及び専攻科課程で、学生が自ら理解度評価や達成度評価を実施し、さらに達成度記録簿による成果等の把握を3段階で実施している。
- ・専攻科課程の「特別研究」の実施に当たっては、全ての学生が修了時まで一回以上の学会等での発表を行っている。

### 【改善を要する点】

該当なし

## (3) 基準6の自己評価の概要

本校では、学習・教育目標ごとに設定した卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力及び養成する人材像等についての達成状況を、学習・教育目標に対する各授業科目の関与割合を加味して総合的に把握・評価する独自の取組を行っている。準学士課程においては、毎年90%以上の学生が上位の学年に進級し、特に5年生は97%以上が卒業要件を満たして卒業する状況になっている。また、近年多くの学生が各種資格検定試験にチャレンジし、合格または資格取得後に、本校が定める特別学修として単位認定を受けている。さらに、卒業研究や特別研究については、その成果を学会等で発表する学生が多くなり、その発表件数の増加とともに発表内容も年々向上している。

本校では、準学士課程と専攻科課程のいずれについても、FD委員会による授業アンケート調査及び学習・教育目標の達成度評価を実施し、毎年学生の意見を聴取している。これらの結果によれば、学生自身の学習・教育目標に対する達成度は概ね良好である。

卒業（修了）生及び企業等学外関係者対象のアンケート調査を実施し、卒業（修了）生の学習及び研究の内容、学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みを行っている。その結果によれば、多くの卒業（修了）生から「本校で受けた教育に満足している。また、社会に出てから役に立っている。」、一方、企業等学外関係者の多くから「本校の卒業（修了）生に満足している。」との回答を得ており、それらの結果から本校における教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

## 基準 7 学生支援等

### (1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。  
また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

各科目の授業概要、到達目標、授業計画及び評価方法を明示したシラバスの冊子を全クラスに配布し、個々の学生が授業の中でいつ何を学ぶのかが分かるようにしている(資料 7-1-①-1)。シラバスについては、さらに学校のホームページにも掲載して、学生が自宅からいつでも内容を確認できるようにしている(資料 7-1-①-2)。また、教員は各科目の最初の授業の時に、必ず授業概要や到達目標、授業計画及び評価方法を学生に説明している。

本校では、全教員がオフィスアワーを設定し、学生の勉強に関する疑問や質問、その他の相談を受け付け、学生の学習面及び生活面での支援を行っている(資料 7-1-①-3)。

準学士課程においては、入学時のガイダンス・オリエンテーションや、3年次初めの個別面談などを、学級担任が中心となり行っている(資料 7-1-①-4)。学級担任は、1年次から2年次までは一般教科の教員が、3年次から5年次までは専門教科の教員が担当し、学生に対してきめ細かな指導を行っている。なお各学科においては、ガイダンスに関して特徴ある取り組みがなされている(資料 7-1-①-5)。

一方、専攻科では、年度初めに入学した1年生に対して、各専攻の特徴、講義科目、工学実験、特別セミナー、特別研究等についての詳細なガイダンスを行っている。専攻科の学生は、1年次から研究室に配属され、各指導教員から直接指導を受けながら、特別研究を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

毎年度シラバスが作成され、その冊子が全クラスに配布されるとともに、学校のホームページに公開されている。各教員は、シラバスに基づき、各科目の授業開始時に学生に授業概要、到達目標、授業計画、評価方法を説明している。準学士課程及び専攻科課程においては、それぞれ入学時に入学ガイダンスを実施し、その後、各学科においてもそれぞれ特色のあるガイダンスを行っている。

教員全員がそれぞれオフィスアワーを設定し、希望の学生に学習指導を実施している。また、各クラスには学級担任が配置され、学生一人一人に対して学習面や生活面に関して細やかな指導・助言を行っている。以上のように、学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

資料 7-1-①-1

授業科目名	学年	単位( 授業時間)	必・ 選	授業形態	担当教員
生体機能化学 Biofunctional Chemistry	2	2 * ( 30 )	選択	後期 週 2 時間 A	青柳 克弘
授業概要	生物有機化学、生物無機化学に方法論としての生物物理化学を加えたもので、生体機能、特に酵素機能を化学的にシミュレートし、工学的・技術的のどのような意義があるのかを学習する。				
到達目標	①酵素反応を分子レベルで理解し、人工酵素を分子設計するための基礎を身に付ける事ができる。 ②生体系金属酵素の反応機構の解明に対する無機化学の寄与の重要性について理解できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-5). JABEE基準1(1)との対応：(d)-(2)-a).				
履修上の注意	有機化学、無機化学、物理化学、生化学がベースになるので、十分に復習して内容を理解しておくこと。 授業時間ごとの予習、復習も忘れないこと。 自学自習の確認方法：課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週	酵素の構造と機能(1)	酵素の特徴、酵素の種類、ポリペプチドの高次構造			
第17週	酵素の構造と機能(2)	酵素の構造、酵素の調節機能			
第18週	酵素の作用機構(1)	セリンプロテアーゼの作用機構			
第19週	酵素の作用機構(2)	リボヌクレアーゼの作用機構			
第20週	酵素反応の人工的模倣(1)	分子内触媒作用と分子間触媒作用、分子配向の重要性			
第21週	酵素反応の人工的模倣(2)	分子間触媒の協同作用、分子内における協同触媒作用			
第22週	酵素反応の人工的模倣(3)	ホスト化合物の分子設計、環状ホスト化合物、非環状ホスト化合物			
第23週	酵素反応の人工的模倣(4)	シクロデキストリンの触媒作用、修飾シクロデキストリン、人工酵素の開発			
第24週	人工酵素の応用	構造の似た分子の分離、光学異性体の分離、有機合成への応用			
第25週	酵素分子と金属錯体(1)	生体系の酸素運搬体とそのモデル化合物(ヘモグロビンとミオグロビン)			
第26週	酵素分子と金属錯体(2)	酸素添加酵素と金属錯体による酸素分子の活性化(チトクロムP-450)			
第27週	窒素分子と金属錯体	ニトロゲナーゼの構造、反応機構および化学的シミュレーション			
第28週	光合成に関与する金属錯体	光合成反応の特徴、電荷分離の機構			
第29週	金属イオンとがん	金属錯体による発がん、金属錯体による制がん			
第30週	問題演習	総復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	生命化学Ⅰー天然酵素と人工酵素ー、小宮山 真・八代盛夫、丸善 プリント				
参考図書	分子認識と生体機能、小宮山 真・荒木孝二、朝倉書店 無機生体化学、西田雄三、裳華房 生物無機化学、S.J.Lippard・J.M.Berg(松本和子監訳)、東京化学同人				
評価方法	定期試験の成績を80%、小テストや課題の総点を20%として総合的に評価する。				

(注) \*印は学修単位(高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

シラバス

http://syllb.fukushima-nct.ac.jp/syllabus/db

Amazon.co.jp goo Yahoo! JAPAN ニュース (107) 学校内 アップル Wikipedia

## 福島工業高等専門学校

Fukushima National College Of Techonology

● 教育課程

本科			
学科	教育課程		専門科目概要
	一般	専門	新旧
機械工学科		▶▶	▶▶▶
電気工学科		▶▶	▶▶▶
物質工学科	▶▶	▶▶	▶▶▶
建設環境工学科		▶▶	▶▶▶
コミュニケーション情報学科	▶▶	▶▶	▶▶▶

専攻科			
学科	一般	共通	専門
	機械・電気システム		▶▶
物質・環境システム学科	▶▶	▶▶	▶▶▶
ビジネスコミュニケーション情報		▶▶	▶▶▶

留学生	
学科	一般、専門
留学生	▶▶

- シラバスの概要
- 福島高専の学習・教育目標
- J A B E E プログラム履修の手引き

18年度	
本科	
□ 機械工学科	
□ 電気工学科	
□ 物質工学科	
□ 建設環境工学科	
□ コミュニケーション情報学科	

専攻科	
□ 機械・電気システム専攻	
□ 物質・環境システム専攻	
□ ビジネスコミュニケーション専攻	

留学生	
□ 留学生	

### 前年度 シラバス

前年度		
本科	専攻科	留学生
□ 機械工学科	□ 機械・電気システム専攻	□ 留学生
□ 電気工学科	□ 物質・環境システム専攻	
□ 物質工学科	□ ビジネスコミュニケーション専攻	
□ 建設環境工学科		
□ コミュニケーション情報学科		

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

平成 18 年度 オ フ ィ ス ア ワ ー 一 覧

学科	教員氏名	曜日	時刻	教員持機場所	学科	教員氏名	曜日	時刻	教員持機場所
国語	大森 朋子	水・木	15:00～16:00 16:00～17:00	研究室	物質	伊藤 正義	月・木	12:00～13:00	研究室(講義A棟4階)
国語	高野 克彦	木	16:00～18:00	研究室			水	15:00～18:30	
国語	高橋 宏宣	木	16:15～17:15	研究室	物質	井上 和久	火	16:00～18:00	研究室(物質棟3階)
社会	笠井 智	月	12:15～12:55	研究室	物質	青柳 克弘	火	16:40～17:40	物質-環境システム工学 専攻実習室(1) (専攻科棟2階)
社会	吉村 忠晴	水・金	15:30～17:15 15:00～17:15	研究室	物質	天野 仁司	金	16:30～17:15	研究室(講義A棟3階)
社会	川崎 俊郎	水	15:30～17:00	研究室	物質	大澤 英一	月	16:30～17:15	研究室(物質棟3階)
社会	木原 洋	火	16:40～17:40	研究室	物質	内田 修司	火	16:40～17:40	研究室(物質棟3階)
英語	西山 公紀	木	16:40～17:40	研究室			水	14:40～18:30	
英語	島原 孝康	火	16:40～17:40	研究室	物質	嶋下 祐也	金	16:35～17:15	研究室(物質棟3階)
英語	宮澤 泰彦	火	16:40～17:40	研究室	物質	酒巻 健司	水	15:45～16:35	研究室(物質棟3階)
英語	石原 万里	海外留学中			物質	青木 寿博	金	16:00～17:15	研究室(講義A棟3階)
英語	坂内 昌徳	火	16:30～17:30	研究室	物質	押手 茂克	水	15:15～17:15	研究室(講義C9F)
英語	中山 悟樹	月	16:30～17:15	研究室	物質	柴田 公彦	月	16:50～17:00	研究室(物質棟2階)
数学	亀井 宣男	木	16:40～17:40	研究室			水・金	12:10～12:50	
数学	山野 和一	火	16:30～17:15	研究室	物質	梅澤 洋史	木	15:00～18:00	研究室(物質棟2階)
数学	新井 広	火	15:45～16:50	研究室	物質	羽切 正英	水	13:00～16:00	研究室(物質棟3階)
数学	井川 治	木	12:10～13:00	研究室	建設	榎原 嘉和	月～金	12:25～12:55	研究室
数学	西浦 孝治	月	16:40～17:40	研究室	建設	橋本 孝一	月～金	12:00～13:00	研究室
数学	島袋 修	木	16:30～17:30	研究室	建設	金子 研一	月～木	放課後～18:00	研究室
物理	根本 慎行	木	16:15～17:15	研究室	建設	山ノ内 正明	月・火	放課後～18:00	研究室
物理	鈴木 三男	水	15:40～16:40	研究室	建設	原田 正光	月	放課後～18:00	研究室
物理	道上 達広	金	16:40～17:40	研究室	建設	藤川 猛彦	月～金	12:30～13:00	研究室
体育	秋山 秀博	月・火・金	12:30～12:45	研究室	建設	森田 年一	月	12:10～13:00	研究室
体育	根本 昌樹	月～水	12:20～12:50	研究室	建設	齊藤 克弘	月	放課後～18:00	研究室
機械	渡辺 敏夫	金	16:40～17:30	研究室	建設	菊池 卓郎	火	16:15～17:15	研究室
機械	佐賀 慎司	火	16:15～17:15	研究室	建設	田村 綾子	月	放課後～18:00	研究室
機械	石垣 義尚	火	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	渡部 頌一	月	16:40～18:10	研究室(指示)
機械	永井 康友	火	16:00～17:00	研究室	ｺﾐ	森川 治	木	16:30～17:30	図書資料室
機械	松本 匡以	火	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	内山 昭代	火	16:30～18:30	研究室
機械	一色 誠太	水	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	田代 均	火	16:00～17:00	研究室
機械	松尾 忠利	火～木	12:20～12:50	研究室	ｺﾐ	芥川 一剛	月	16:30～17:30	専攻科棟 ｺﾐｴｺﾐｴｰｼﾝｸﾞ演習室
機械	高橋 肇	木	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	鈴木 敏了	月	16:30～17:30	研究室
機械	橋本 政利	月	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	島村 逸	月・火	16:30～18:30	情報処理センター
機械	鈴木 深和	月～水	12:15～13:00	研究室	ｺﾐ	鎌部 美紀子	火	17:00～18:00	研究室
電気	春日 健	木	16:30～17:15	研究室	ｺﾐ	布施 雅彦	火	16:30～17:30	研究室(指示)
電気	渡辺 博	金	16:40～18:00	研究室	ｺﾐ	松江 俊一	金	16:30～17:30	研究室
電気	大橋 正伸	火	16:25～17:15	研究室	ｺﾐ	鎌原 智文	月	12:15～13:00	研究室
電気	鈴木 晴彦	月	16:25～17:15	研究室					
電気	山本 敏和	月	16:15～17:15	研究室					
電気	濱崎 真一	月	16:30～18:30	研究室・卒研室					
電気	小泉 薫一	火・木	16:30～17:15	研究室					
電気	山田 真治	月・火	16:40～18:00	研究室					
電気	伊藤 洋	月	16:40～18:00	研究室					
電気	三浦 謙一郎	火・金	16:40～17:15	研究室					

(出典：教務委員会資料)



## 2 新入生オリエンテーション

### (1) 校内オリエンテーション

#### ① 目的

ア 本校の学生生活及び寮生活の基本方針並びに専門学科の内容等を理解させ、本校学生としての自覚を持たせる。

イ 円滑な学校生活を送らせるため、本校の施設利用方法等を理解させ、あわせて必要な教材の配布を行う。

② 期日 平成19年 4月 4日 (水)

③ 参加者 第1学年生 (留年・復学者を含む) 全員

④ 持参品 カバン, 学生便覧, 筆記用具, 学級担任が指示したもの。

⑤ 日程等 (8時30分登校, 学生は制服着用)

8:40～ 9:40 (60分)	ホーム・ルーム (出欠確認・座席指定等・学級担任指導) 教科書, 教具・教材の確認, 作業服等の確認
10:00～11:15 (75分)	始業式
11:30～12:00 (30分)	各専門学科長の講話 (各教室)
12:00～12:50 (50分)	昼 食 (昼食終了後, 随時, 顔写真撮影)
12:50～13:30 (40分)	新入生顔写真撮影
13:30～14:30 (60分)	学生主事・寮務主事の話 カウンセラーの話 (階段教室)
14:50～15:30 (40分)	図書館・磐陽会館・情報処理教育センター・学生課案内

注1 学級担任指導 (※実施項目は下記のとおり)

注2 教科書及び教具・教材は始業時まで各教室の机に並べておく。

### (2) 「学級担任指導」の実施項目 (※8:40～)

#### ① 担任用資料

学習等達成度記録簿

#### ② 学生への配布と使用方法等の指導

・授業時間割表 (前期)

・シラバス

・年間行事予定表 (学生用)

・学生の清掃について

#### ③ クラス用配布物と使用方法等の指導

出席簿, 座席表, 校務分掌, 授業時間割表 (前期), 年間行事予定表 (学生用), 学生便覧, シラバス, 学生の清掃について, 黒板拭きクリーン取替用袋 (内・外), 掃除機及びゴミ箱用ビニール袋, 貴重品袋

#### ④ 「学生便覧」の利用方法の説明・指導

※ 説明・指導項目等は「新入生の手引」P11～P12に記載。なお、この時間に実施できない場合は、授業開始後の「特別活動」の時間等を利用する。

#### ⑤ 教室内及び廊下等のロッカー・書庫・掃除用具箱等の使用方法の指導

#### ⑥ 特別教室及び専門棟案内 (当該学科教務委員と打合せの上行う。)

#### ⑦ 写真撮影 (当該学科教務委員と打合せの上行う。)

## 3 その他

(1) 新入生 (1年生) も, 4月 5日 (木) から平常授業を行う。

(2) 学生会クラブ紹介は, 4月 6日 (金) 放課後に階段教室で行う。

以上

(出典: 教員会議資料)



資料 7-1-①-5

ガイダンスに関する各学科ごとの特徴ある取り組み

学 科	各学科の特徴ある取り組み
機械工学科	研究室配属に関するガイダンス(4年生), 工学実験ガイダンス(4,5年生)などを実施している。特に研究室配属ガイダンスでは, 1~3年次の成績に応じて, 希望する研究室を選択できるようなシステムにし, 機械系学科目の学習意欲向上に役立てる工夫をしている。
電気工学科	講義で行う内容の復習あるいは予習を実験でできるようにしている。実験の班編成は, 学年末の成績を考慮してほぼ成績順にしており, 成績の向上が必要な学生の班においては, 補習的な役割を果たしている。実験前には予備レポートの提出を設け, 実験後にはレポートの仮提出を設け, 技術が身に付くように工夫している。
物質工学科	新入生ガイダンス(特活の時間), 本学科出身の教員の講話(1,2年生), 選択科目等の履修ガイダンス(3年以上), コース選択に関するガイダンス(3年生), 研究室配属に関するガイダンス(4年生)を実施している。それぞれの学年で複数の教員からなる学習・生活・進路指導を行うグループを構成し, 担任だけではなく複数の教員が連携してその学年の学習などの相談・助言を行う体制をとっている。
建設環境工学科	1年生の建設環境工学基礎(前期1単位)において土木・環境工学の内容の紹介・解説等の専門導入教育を実施している。同科目の序盤の数回は学科教員(授業担当者除く)が1時間ずつ各自の専門の分野と科目に関わるガイダンスを行っている。
コミュニケーション情報学科	進路に応じて系統だった選択科目の履修を実現するために, 学年全体のガイダンスを前年度末に実施している。

(出典: 「自己点検・評価」ワーキンググループ資料)

観点 7-1-②: 自主的学習環境(例えば, 自主学習スペース, 図書館等が考えられる。)及び厚生施設, コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され, 効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

自学自習システムをLL教室に導入し, 授業で活用するとともに, 放課後は19時まで学生に開放している(資料 7-1-②-1)。自主学習の場として図書館が設置されている。開館時間は8時30分から20時15分, 土曜日は9時から16時までである。閲覧室には50名の座席, 蔵書検索用のコンピュータ, コピー機, 検索用コンピュータを3台設置している。また, 各教員から学生の学習用にと推薦された図書を図書館運営委員会で検討し購入している。その他必要図書に対する学生からの要望は, 図書館の閲覧室内に設けられたリクエストボックスを通して集めている。

図書の購入に当たっては, 科学技術系の分野だけでなく, 他の分野も含めた出来るだけ広い分野の情報を提供できるように心掛けている。また, 各種資格検定試験の参考書なども購入・設置し, 資格取得に必要な情報を学生に提供している。各年度ごとの図書館の利用者数と貸出冊数, 土曜開館の入館者数と貸出冊数, 及び入館者数と貸出冊数の一日平均を, 以下に示す(資料 7-1-②-2~3)。

情報処理教育センター内には情報基礎演習室があり, 放課後(17時15分から19時15分まで)や土曜日(9時から16時まで)も開放して, 学生の自学自習の場として利用されている。また, 電気工学科棟

及びコミュニケーション情報工学科棟に設置された2つの情報応用演習室も、授業時以外は開放して学生の便宜を図っている(資料7-1-②-4~5)。学生の自主学習の場として、各教員の研究室前にコモンスペースを確保し提供している。コモンスペースも、放課後等の時間に多くの学生に利用されている。校内には、福利厚生施設として、食堂、売店、保健室などが入った「磐陽会館」があるが、休憩時間等の学生の憩いの場所となっている。また、寮に隣接して合宿センターも設けられており、クラブ活動の合宿等に利用されている。その利用状況を以下に示す(資料7-1-②-6)。

資料7-1-②-1

平成16年度LL教室授業時間外利用者数 (人)

月	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	不明	合計
4	0	0	2	2	0	0	0	4
5	0	0	23	2	19	0	2	46
6	0	1	74	29	28	0	0	132
7	0	2	60	79	20	2	2	165
8	0	0	0	0	0	0	0	0
9	1	3	113	13	3	0	0	133
10	2	19	43	7	1	26	0	98
11	0	11	31	18	1	20	1	82
12	0	0	28	6	0	3	0	37
1	0	17	25	5	1	3	0	51
2	0	0	29	12	0	32	0	73
3	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	53	428	173	73	86	5	821

(出典：英語科資料)

資料 7 - 1 - ② - 2

図書館利用者数と貸出冊数

年度	入館者数 (人)	夜間入館者数 (冊)	貸出冊数 (冊)	夜間貸出冊数 (冊)
H12	54,038	4,622	6,865	1,598
H13	61,171	3,672	7,138	1,508
H14	55,870	2,750	8,322	1,791
H15	46,240	2,480	9,023	1,727
H16	49,841	2,454	8,737	1,984

※夜間開館時間は 17:15~20:15

土曜開館の入館者数と貸出冊数

年度	土曜入館者数 (人)	土曜貸出冊数 (冊)
H12	2,650	423
H13	1,904	340
H14	1,865	515
H15	1,577	596
H16	1,130	678

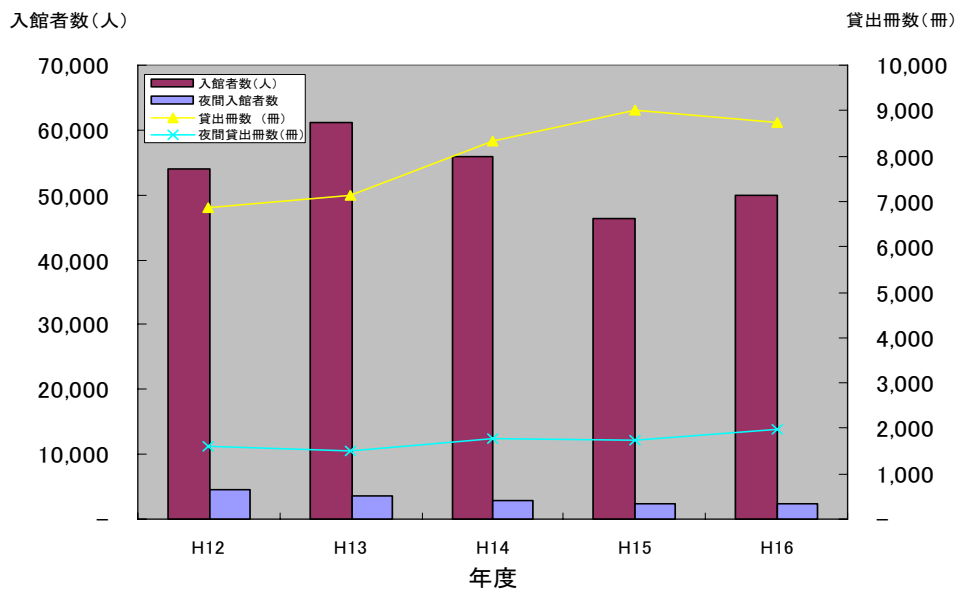
※土曜開館時間は 9:00~16:00

入館者数と貸出冊数の一日平均

年度	開館日数 (日)	一日平均入館者数 (人)	貸出冊数 1 日平均 (冊)
H12	242	223	28.4
H13	240	255	29.7
H14	237	236	35.1
H15	252	183	35.8
H16	252	198	34.7

(出典：図書館資料)

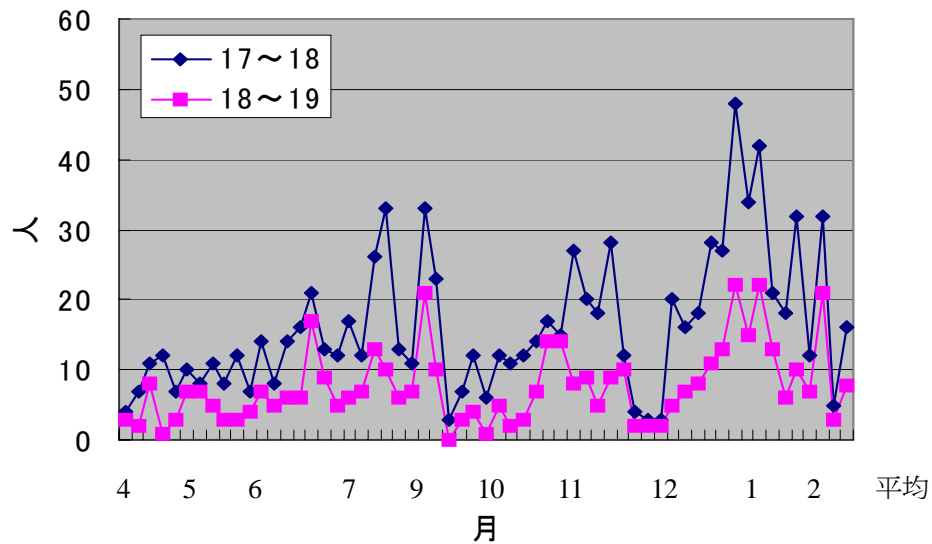
資料 7-1-②-3



図書館利用者数と貸出冊数

(出典：図書館資料)

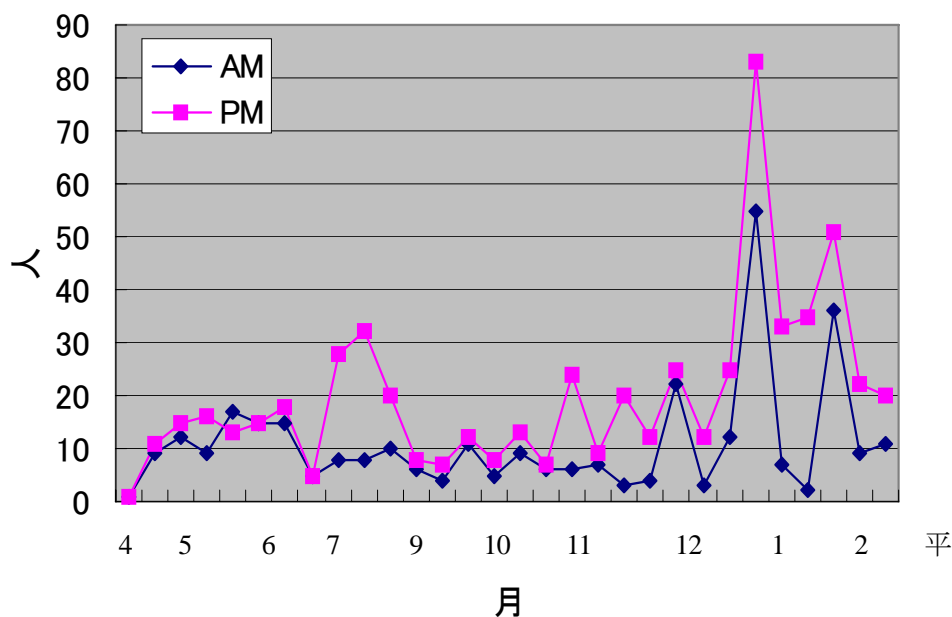
資料 7-1-②-4



情報センター情報基礎演習室の火曜、木曜使用状況

(出典：情報処理教育センター資料)

資料 7-1-②-5



情報センター情報基礎演習室の土曜日使用状況

(出典：情報処理教育センター資料)

資料 7-1-②-6

合宿センター利用状況 (人)

年度	文化部	体育部	研究部	卒業研究・その他	合計
H13	5	62	6	12	85
H14	10	106	9	24	149
H15	2	24	0	2	28
H16	4	19	0	1	24
H17	8	65	4	12	89

(出典：学生支援係資料)

(分析結果とその根拠理由)

厚生施設，コミュニケーションスペースとして，磐陽会館，合宿センターが設置されている。また，自主的学習を支援するため，LL 教室，図書館，情報処理教育センター演習室，コモンスペース等が設けられており，授業時以外も開放され，学生の自主的学習に有効に活用されている。以上のことから，自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程においては、3年次の初めに担任が個人面談を実施し、またその後もホームルームや特別活動等を通じて、学習支援に関する学生のニーズの把握に努めている。4年次においては、進路に対する希望調査と状況把握を主とした個人面談を実施する中で、学習支援のニーズを把握している。各種資格取得のための支援については、学科毎に学生ニーズの把握に関して、特徴ある取り組みを行っている（資料 7-1-③-1）。

専攻科では、特別研究の指導教員が、1年次から研究室配属の学生と緊密にコミュニケーションを取り、学生ニーズの適切な把握に努めている。

外国留学等に関しては、国際交流委員会が、国際交流推進計画の一環として外国に留学を希望する日本人学生の相談窓口となり、活動している。

この他、学級委員長との懇談会を毎年6月に開催し、学生支援に関する学生のニーズの把握を行い、その後の学習環境の改善に役立っている（資料 7-1-③-2）。

資料 7-1-③-1

学生のニーズの把握に関する各学科毎の特徴ある取り組み

学科	特徴ある取り組み
機械工学科	各種資格試験や検定試験については、「各種の資格・検定試験案内」にもとづき学級担任を中心とした教員が個別に相談・指導している。
電気工学科	資格試験取得を積極的に奨励しており、資格担当教員を配置して、学生の相談や指導に当たっている。受験した学生に勉強時間や使用した問題集、勉強方法、今後受けたい資格や学科に望むことなどの項目を設けたアンケートに答えてもらっている。そのアンケート結果を反映させ、実験テーマの見直しや補習の実施などを行っている。
物質工学科	各種の資格・検定試験案内を学生に配布し、社会における実力評価および将来における価値について説明を行い、資格の取得を勧めている。 特に、公害防止管理者（大気、水質）、環境計量士（濃度関係）、X線取扱者資格、放射線取扱者の受験を推奨している。
建設環境工学科	学生及び保護者より希望の多かった、編入学の実績と成績の関係について資料を作成し、配布している。
コミュニケーション情報学科	学生の進路希望に応じた各種検定試験の奨励をおこなっている。各種の資格試験の受験を各担当の教員を通じて各学年で奨励している。学科の教員が公務員、編入試験希望者に対する課外授業を春、夏の長期休業中に実施し、学生の学習支援を行っている。

（出典：「自己点検・評価」ワーキンググループ資料）

## 平成18年度 学級委員長との懇談会における質問・要望事項への回答

## 1. 各クラスからの懇談要望事項

## ①授業に関すること

101. 毎年のように教科書購入時にミスが発生しているが、次年度からはそのようなことがないようにしてほしい（4 コミ）

（回答）担当教員からの教科書の変更・追加等があり迷惑をかけました。担当教員と教務委員会で連携をとって改善していきます。

102. 100分授業は長すぎる（90分授業は不可能か）（1 建、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、3 物、4 機、4 電、4 物、5 電、5 物）

（回答）授業時間については、高専設置基準により標準が50分であることが決められています。平成13年度から平成17年度まで90分で行っていましたが、やはり設置基準に反するというで100分に戻しました。慣れるまで大変ですが、頑張って下さい。

103. 100分授業の間に休憩時間がほしい（1 物、1 建）

（回答）中学校では50分授業でしたが、高専では学生の集中力と授業の効率を考えると、100分授業としている科目があります。休憩時間がほしい理由は、集中力が持続しないためであると考えられますが、年齢的に大きくなってきているのですから、もう少し頑張って下さい。来年度に向かって時間割を検討中ですが、前向きに考えてみます。

104. 体育の着替え時間などを考えて休み時間を長くしてほしい（1 物、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、4 機、5 電、5 物、5 コミ）

（回答）現在100分授業の間は10分休憩、50分授業の間は5分休憩となっています。体育などは100分授業ですので10分間の休み時間があります。現在、来年度の時間割を検討している最中ですが、休憩時間を10分以上確保することはできそうにありません。なんとか授業内で対応するように頑張って下さい。なお、部活動の時間確保などを考えて本年度の休み時間を設定した。また、着替えなどの準備時間を授業時間に含めるように教員側も注意したい。

105. 夏季の教室の暑さ対策を考えてほしい（3 コミ、5 物）

（回答）現在のところ、扇風機の増設などの部分的対応が限界である。なお、扇風機の設置などは学級委員長との懇談会によって実現した暑さ対策の一環である。

106. 100分授業の終了時間を各先生が把握してほしい（1 物、2 電）

（回答）授業終了時間がいつか、直接、担当の教員に伝えてほしい。

107. 1日8時間は長い（4 物）

（回答）高専5年間で修得すべき内容を慎重に検討した結果が現在のカリキュラムであり、これが学年ごとに振り分けられているので、どうしても一日8時間の日が生じる。

108. 再試験の受験基準（50点以上）を見直ししてほしい。（チャンスが欲しい）（4 物）

（回答）本来、本試験および課題で60点以上をとることが求められており、再試験はあくまであと少しで合格点に到達できなかった学生への救済措置である。できるだけ再試験を受けずに合格するように日々の勉強・学習に取り組んでほしい。

109. 中間試験のやり方を学生にきてほしい（3 コミ）

110. 中間試験の日程を以前のように戻してほしい（授業と並列の試験はやめて欲しい。）（4 物）

（回答）中間試験はシラバスにも授業項目の中に盛り込まれているので、原則として授業時間中に実施することにした。ただし、授業時間割の関係上、同一時間帯に実施できない共通科目については、共通科目試験日を設けて実施することにした。共通科目と考えられる科目数から、1日4科目受験として2日間の共通科目試験日を設定した。昨年度は試験期間を3週間とったが、長すぎたので今年度は2週間に短縮した。またできるだけ共通科目試験日にそれ以外の試験を実施できるように時間割を配慮している。

111. 学修単位（60分授業）で、自学自習をするよりは、2時間授業の方がよい（4 電）

（回答）学修単位は、高専のカリキュラムを大学同等にするための取り組みであり、編入学などの際にも一定の評価を受ける科目であるため、本年度から導入を始めた。さらに高学年になったら、自学自習を進んでやってほしい。また学修単位は授業15時間（60分×15回）+自学自習30時間（120分×15回）で1単位と考えている。すべて授業時間で補うとすると3時間授業になる。これでは授業終了時間が遅くなってしまい、部活動などの時間が確保できない。

（出典：教務委員会資料）

(分析結果とその根拠理由)

学級担任、各学科教員、専攻科特別研究指導教員、国際交流委員等が中心になり、学習支援や外国留学等に関する学生のニーズの把握に努めている。また、毎年定期的開催される学級委員長との懇談会での学生の要望事項や提案等については関係委員会等で検討の上、その後の改善に役立てている。以上のことから、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。

**観点 7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

学生のTOEIC受験に対応するために学内にTOEIC委員会が設置され、全学生対象のIPテストを団体受験により毎年計画的に実施している(資料7-1-④-1)。学生のTOEIC受験のために、LL教室に学習支援ソフトを導入し、授業で活用するとともに、放課後は19時まで学生に開放している。平成16年度からは、学生の学習意欲の喚起を図るため、TOEICテストのスコア上位者の表彰を行っている。

資料7-1-④-1

平成18年度第3回TOEIC- IPテスト実施要項

TOEIC 委員会

- 1 実施期日  
11月15日(水) 3年生、専攻科1年生対象
- 2 試験会場  
B棟 教室
 

501教室 (42)	電気工学科 (41)
502教室 (41)	機械工学科 (38)
503教室 (38)	建設環境工学科 (38)
401教室 (42)	物質工学科委 (42)
402教室 (37)	コミュニケーション情報学科 (41)
403教室 (39)	専攻科1年生、第1・2回欠席者
301教室 (44)	予備試験室
マルチメディア演習室	試験実施本部
- 3 試験当日の日程
 

13:45	試験本部設置
14:15	試験問題準備
14:45	試験会場設営
15:05	受験生入室・着席
15:15	試験事前説明開始 (マークシートに記入)
15:30	試験開始
	(15:30~16:15 リスニング・テスト)
	(16:15~17:30 リーディング・テスト)
17:30	試験終了
17:45	受験者退席
18:00	試験会場片づけ完了
18:15	試験本部解散

(出典：TOEIC委員会資料)



外国に留学を希望する日本人学生のために、国際交流委員会が中心となり、相談窓口を設けている。また、学生の各種資格検定試験と資格取得の奨励のため、各学科や専攻では、受検を奨励する各種資格検定名を学生に提示し、その取得支援に関して特徴ある取り組みを行っている（資料 7-1-④-2）。準学士課程では、学校が指定する資格検定試験に合格した場合に「特別学修」として単位認定を行っている。教務委員会では、そのための資格・検定試験の一覧表を作成し、学生便覧に掲載している（資料 7-1-④-3）。このような学校全体としての取り組みの成果が、各種資格検定試験での学生の合格者数及び資格取得者の増加となって現れ、また一部の資格検定試験では、本校学生が成績優秀により「文部科学大臣奨励賞」を受賞するなどのケースも出てきている（資料 7-1-④-4～6）。

資料 7-1-④-2

資格試験や検定試験のための支援体制に関する各学科・専攻科毎の特徴ある取り組み

学科	特徴ある取り組み
機械工学科	本校単位に認定される各種資格試験・検定試験の受験を積極的に促し、現行の卒業要件である 171 単位の「保険」になるように指導している。平成 15 年度には工業英検の文部大臣奨励賞（個人）を受賞するなど成果も上がってきている。また平成 17 年度よりは機械工学科で工業英検の学校代表窓口業務を引き受け、全校学生の受験利便に貢献している。
電気工学科	資格受験カレンダー、図書類、パンフレット、資料などをまとめた資格コーナーを設け、学生が自由に閲覧できる環境を整備している。実技を伴う資格に関しては、放課後補講するなどの指導を行なっている。ラジオ音響技能検定において、団体優秀賞・文部科学大臣奨励賞（団体）を 2 年連続で受賞するなど、成果も着実に上がっている。
物質工学科	危険物取扱者資格（甲種、乙種）の受験手続き（団体受験）を補助して資格取得をサポートしている。物質工学科の学生に限らず、全学科の受験希望者向けのサービスを年 2 回提供している。
建設環境工学科	在学中に取得可能な資格・検定試験について一覧表を作成し、試験日カレンダーとともに学生、保護者双方に配布・案内をしている。各授業において資格試験、公務員試験対策の問題・演習を実施している。4 年生の工学セミナーにおいて外国語文献の講読を義務付け、英語力の増進に務めている。
コミュニケーション情報学科	各種資格試験や検定試験の補習を必要に応じて実施している。外国でのインターンシップ希望者や留学希望者にたいしては、担任と学科内の担当教員の連携のもと適切な情報を提供している。
一般教科	英語科では、実用英語検定試験、TOEIC 公開テストの本会場として、実施担当を引き受けている。さらに、これらの検定試験の学内の受験手続き（団体受験）を補助し、資格取得をサポートしている。実用英語検定で平成 16 年度は文部科学大臣奨励賞（団体）を受賞している。また平成 16 年度まで、英語科で担当していた工業英検では文部科学大臣奨励賞（個人）を 5 年連続受賞している。
専攻科	学生の JABEE 教育プログラムの修了要件として TOEIC 試験で 400 点以上の成績をおさめる事を目指している。

（出典：「自己点検・評価」ワーキンググループ資料）

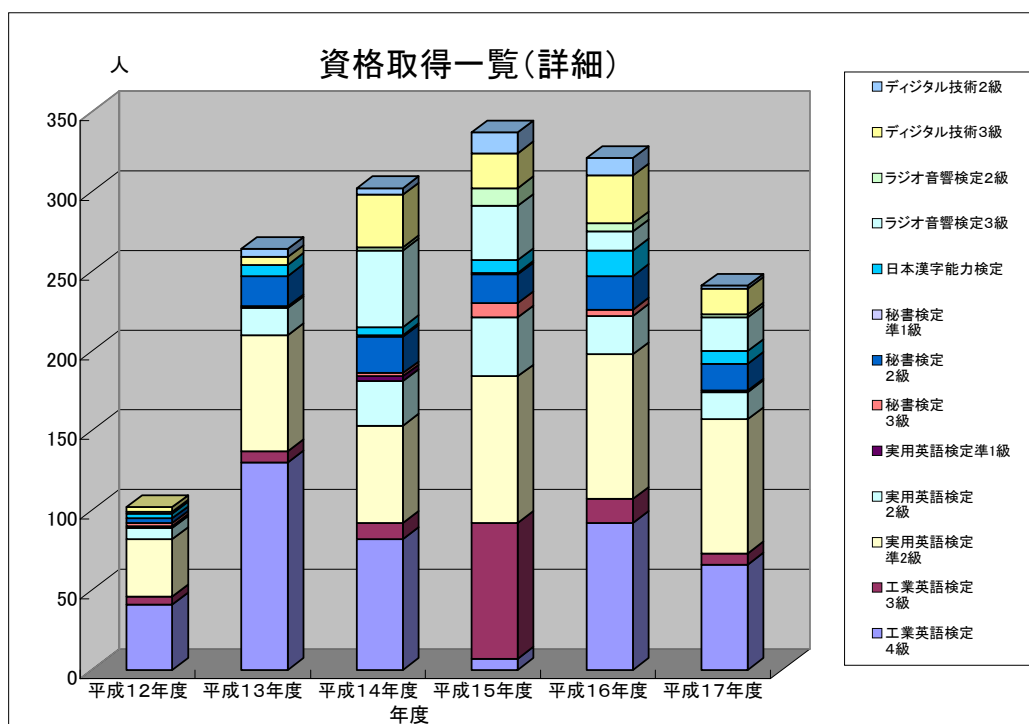
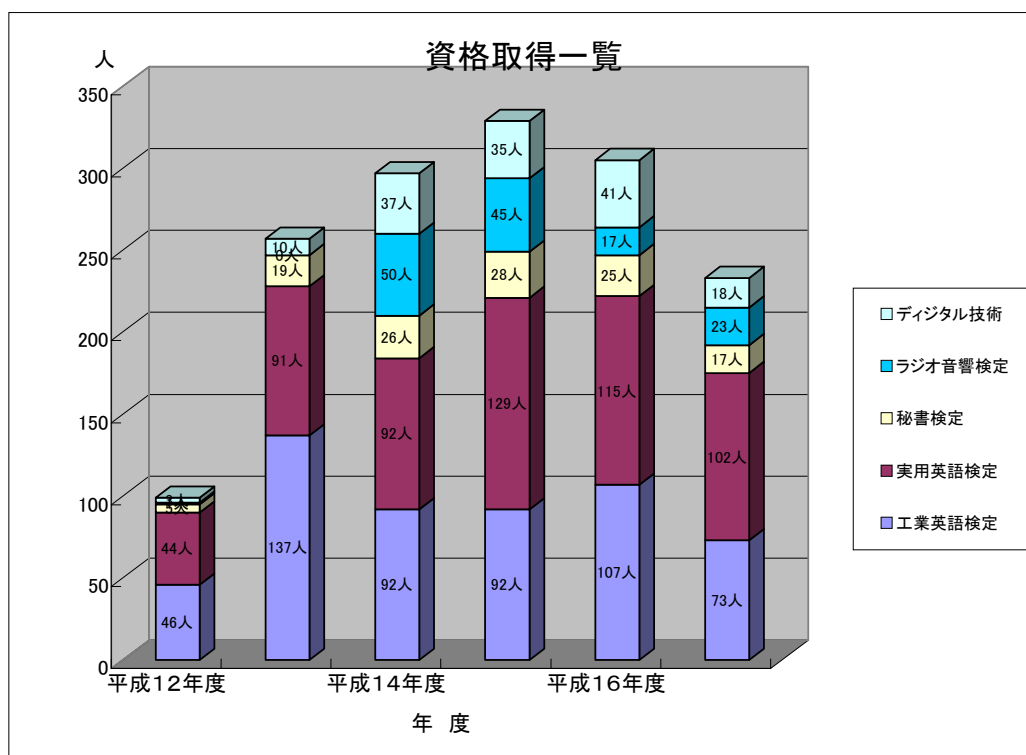
各種の資格・検定試験案内(平成17年度)

機械工学科 No.1

分野	資格・検定名	実施機関	試験地	受験資格・科目・内容・参考書
英語	実用英語技能検定試験(英検)	日本英語検定協会 〒162-8055 新宿区矢来町1 TEL. 03-3256-655	いわき市	1.実用英語教本 日本英語教育協会 2.実用英語検定試験問題集 日本英語教育協会 検定料
		級位 申込時期 1級 4/1~5/19 準1級 8/1~9/22 2級 12/1~12/26	試験時期 1次6/12, 2次7/10 1次10/16, 2次11/13 1次1/29, 2次2/26	1級 7500円 準1級 6000円 2級 4100円 準2級 3600円
英語	工業英語検定試験(工業英検)	日本工業英語協会 ※ 〒105-0011 港区芝公園3-1-22 TEL. 03-3434-2350	福島高等 1級は東京(※に於て)	1.工業英語へのワンステップ 日本工業英語協会 2.工業英語へのアプローチ 日本工業英語協会 3.工業英語ジャーナル 日本工業英語協会 検定料
		級位 申込時期 1級 ~4/28 2級 (2~4級) 3級 9/1~10/19 4級 (1級)	試験時期 5月29日 (2~4級) 11月20日 (1級)	1級 15000円 2級 6400円 3級 4600円 4級 2000円
英語	TOEIC	国際ビジネスコミュニケーション協会 100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル 03-3581-4701	TOEIC-IPテスト 全員受験制度:福島高等 TOEIC公開テスト:いわき	TOEIC 最高の学習法 池田和弘 著 日本実業出版社 TOEIC GRAMMAR パーフェクト攻略 桐原書店 TOEICの英単語をすべて覚えたい 池田和弘 著 日本実業出版社 検定料
		級位 申込時期 TOEIC-IPテスト ~4/28 全員受験制度 10/7説明会 TOEIC公開テスト 114回:4/20締切	試験時期 10/5(4年専1)/13(5年専2) 12/14(3年生) 114回公開テスト:5/29 117	団体受験 3000円 公開テスト6615円
語学	日本語能力検定(漢検)	財団法人 日本語能力検定協会:TEL. 03-5205- (東京事務局)〒100-0004千代田区大手町2-1-1大	いわき	日本語能力検定1級/準1級・2級過去問題集 日本語能力検定協会編 漢字検定準1級/2級頻出度期間問題集 資格検定対策研究会編 検定料
		級位 申込時期 1級 3/1~5/18 準1級 7/1~9/21 2級 11/1~12/21	試験時期 第1回 6/19(日) 第2回 10/23(日) 第3回 2/2(日)	1級 6000円 準1級 5000円 2級 4000円
情報	情報処理技術者試験	独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者センター 〒113-8663 文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンター・オフィス15階 TEL. 03-5978-7600 東北支部:022-227-0901	郡山市	①ソフトウェア開発技術者試験 ②テクニカルエンジニア(データベース)試験 ③テクニカルエンジニア(システム管理)試験 ④テクニカルエンジニア(コンパイルシステム)試験 ⑤初級システムアドミニストレータ試験 ⑥システム監査技術者試験 ⑦基本情報技術者試験 ⑧システムアナリスト試験 ⑨プロジェクトマネージャ試験 ⑩アプリケーションエンジニア試験 ⑪テクニカルエンジニア(ネットワーク)試験 ⑫情報セキュリティアドミニストレータ試験 ⑬上級システムアドミニストレータ試験 ⑭初級システムアドミニストレータ試験 ⑮基本情報技術者試験 検定料
		申込時期 試験時期 検定料 ①~⑦: 4/17(日) 5100円 ⑧~⑯: 7月上旬 10/16(日)		
情報	情報処理能力検定試験	(社)全国経理教育協会 〒170-0004 豊島区北大塚1-13-12 TEL. 03-3918-6131	郡山市	情報処理の基礎知識、情報関連知識、 選択科目により能力を筆記試験で測る検定試験。 選択科目はA類 プログラム作成、システム開発、 B類 情報管理と運用、EUCとEUD、 プログラム作成における言語は、COBOL、 BASICおよびC言語から選択する。 検定料
		級位 申込時期 1級 第1回:5/9~5/30 2級 第2回:8/29~9/26 3級 第3回:12/12~1/16	試験時期 第1回6月25日(土) 第2回10月22日(土) 第3回2月11日(土)	1級 2200円 2級 1700円 3級 1400円
情報	情報処理活用能力検定(1検)	(財)専修学校教育振興会 TEL. 03-5275-6336	いわき市(2ヶ所)	・3級テキスト「情報リテラシー」 ・準2級テキスト「コミュニケーション」 ・3級受験ガイドブック Vol.10 2004 (1300円) ・準2級受験ガイドブック Vol.5 2004 (1400円) ・2級受験ガイドブック Vol.16 2004 (1400円) ・1級受験ガイドブック Vol.10 2004 (2200円) 検定料
		級位 申込時期 1級 4/1~5/12 2級 準2級 9/1~10/初旬 3級	試験時期 6月19日 12月11日 ※1級は12月11日 のみ	1級 6000円 2級 4000円 準2級 3800円 3級 3500円
金融	公害防止管理者	(社)産業廃棄物管理協会 公害防止管理者試験センター 試験部 千代田区殿町2-2-1三井住友銀行駅前ビル TEL. 03-5209-7713	札幌、仙台、東京、名古屋、 大阪、広島、高松、福岡、 那覇	<参考書>たとえば、 公害防止技術と法規 ダイオキシン類編 公害防止技術と法規編 定価5,040 産業廃棄物管理協会発行 検定料
		級位 申込時期 大気汚染係1種 をはじめとして 13種類 7/1~7/31	試験時期 9月25日 騒音、大気、粉じん等 10月2日 振動、主任管理者等	6400円~6800円

(出典：福島工業高等専門学校後援会資料)

資料 7 - 1 - ④ - 4



(出典：学生課資料)

# 高専電気工学科 文科大臣奨励賞を受賞

## 「ラジオ・音響」検定で好成績 勿来工は団体優秀賞

福島高専(安久正統校長)の電気工学科は、本年度の文部科学省認定「ラジオ・音響技能検定」で、合格者数と受験者の平均点が高い優秀団体に贈られる「文部科学大臣奨励賞」を受賞した。本年度から新設された賞で、昨年度に同校を受賞した「団体優秀賞」の上に位置付けられた。団体に贈られる賞では最高の荣誉。同校からは、3級に91人が受験し、45人が合格した。合格率は49.5%で、全国平均(42.6%)を上回ったほか、19人が2つの受験科目のうち1科目を合格。総合的な好成績が評価されての受賞となった。また、勿来工業高も団体優秀賞を手にした。

「ラジオ・音響技能検定」 同校からは、大学3、4生も多く、総合的な基礎力は、電気工学の柱となる 年度の2級に40人、高校を評価していたいたので「電気回路」「電子回路」卒業程度の3級に51人が受は」と分析する。また、学「電気工学の基礎・応用知識」このうち2級に11人、科全体の高水準の学力が評価が問われる検定。知識 3級に34人が合格し、合格 価され、全国の上位4団体「実技」の2科目の筆記試験率は全国平均の42.6%を に贈られた「文部科学大臣賞」で合格を判定する。本年度は全国の高専、大専、また「知識」「実技」 同校では資格取得を課外学、専門学校、企業合わせ の2科目のうち、いずれか 活動の単位として認定して214団体から、1、4の1科目を19人が合格。検 いる。同科でも、技術者の級に5213人が受験。う 定担当の三浦靖一郎教官が 礎となる資格の取得を推進し3063人が合格した。「もう少しで合格」という学 していること、昨年度から



学科を挙げて各種検定への挑戦をスタート。検定の概要をつづつたファイル、問

題集を備えた特設コーナーを設置し、学習環境の充実を図っている。それにこたえるように、学生も自主学習で検定に取り組み、着実に好成績を残している。

2級に合格した平沢拓君(5年)は、同検定以外にも数々の合格を手にした。今春からはテレビ放送された。本会場になると、外部からの受験者を受け入れることができ、本年度は学生以外にも検定に挑戦した。同科の活躍が、いわき市全体の受験機会を広げ、学習意欲を高めたことになる。

学科長の渡辺博教授は、「将来に結びつく資格を取らせていけば、学習意欲も高まる。自学自習の姿勢を育てていくために、今後も学生を応援していきたい」と話している。

「ラジオ・音響技能検定」で文部科学大臣奨励賞を受賞した福島高専の電気工学科。右から平沢君、渡辺教授、三浦教官

学科を挙げて各種検定への挑戦をスタート。検定の概要をつづつたファイル、問

(出典：「いわき民報」掲載記事)

**工業英検4級合格で文科大臣奨励賞**

**河野さん** (専高 福島3)

**栄冠**



賞状  
河野嘉孝君  
工業英検四級合格  
文科大臣奨励賞  
授けられたこと  
を記す  
文科大臣 中山成彬

いわき市の福島高専電気 第五十九回工業英語検定  
工学科三年の河野嘉孝さん 試験四級で約千二百人の合  
がこのほど、一月に行われ 格者のうち最も優秀な成績

を取めたとして文部科学大  
臣奨励賞を受賞し、十八日  
に東京都で行われた表彰式  
で賞状を受けた。同校生徒  
の同賞受賞は五年連続。  
同検定は日本工業英語協  
会の主催。

河野さんは「工業を通し  
て英語の勉強がしたいと思  
い受検した。試験ではいま  
まで学んできたことが生か  
せて良かった」と喜び、「今  
後も上級を目指して英語力  
を身に付けたい」と決意を  
述べた。

同校学生の連続受賞につ  
いて、検定の受検指導を担  
当する坂内昌徳教諭は「本  
校の学生が非常に頑張っ  
ていることを証明してくれ  
ている」と話している。

(出典：「福島民友」掲載記事)

(分析結果とその根拠理由)

各学科、専攻科、TOEIC委員会、国際交流委員会等が中心になり、資格検定試験や外国留学等の学生の支援に取り組んでいる。また、資格検定試験の受験と各種資格の取得を奨励するため、学校が指定する資格を取得した場合には単位認定するなどの教育的な措置も講じており、その成果も上がってきている。以上のことから、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能している。

観点 7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生の編入学後の学習支援に関しては、「外国人留学生規則」を策定し、国際交流委員会がその対応に当たっている。3年次編入の外国人留学生に対しては、それぞれ通学生1名と寮生1名の計2名のチューターをつけ、学習面や学校生活面で留学生が早期に適応できるよう支援体制を構築している。留学生指導教員（主に学級担任）やチューターの配置（資料7-1-⑤-1）及び留学生の卒業後の進路（資料7-1-⑤-2）を以下に示す。

資料 7-1-⑤-1

留学生指導教員やチューターの配置

学年	学 科	留学生氏名	学級担任	寮チューター	クラスチューター
平成 14 年度					
3 年	電気工学科	MOHD NOR RASHID BIN JANI	奈良和久	一条洋和	久恒正紀
3 年	物質工学科	JIRAPA BOONPANYA	伊藤正義	鈴木 瞳	中村祐子
3 年	物質工学科	JEFFREY ONG SHANG JIE	伊藤正義	小野木匡了	田村夏樹
4 年	機械工学科	JONAS ADITYA PRAMUDITA	松本匡以	大竹伸幸	野村聡志
4 年	建設環境工学科	LAY SOVANNRITH	緑川猛彦	遠藤俊之	佐藤孝一
平成 15 年度					
3 年	電気工学科	BATSUURI GANSUKH	濱崎真一	飯塚昭人	中戸川武
3 年	電気工学科	KHOO TSE YI	濱崎真一	狭川なつみ	小針未由紀
4 年	電気工学科	MOHD NOR RASHID BIN JANI	奈良和久	一条洋和	久恒正紀
4 年	物質工学科	JIRAPA BOONPANYA	伊藤正義	鈴木 瞳	中村祐子
平成 16 年度					
3 年	電気工学科	NGUYEN TUAN ANH	渡辺 博	菊地秀治	石井 聡
3 年	物質工学科	CHEE JUN NIAN	押手茂克	高原 健	野口 修
4 年	電気工学科	BATSUURI GANSUKH	濱崎真一	飯塚昭人	中戸川武
4 年	電気工学科	KHOO TSE YI	濱崎真一	狭川なつみ	小針未幸紀
平成 17 年度					
3 年	機械工学科	TJOENG SURYONO	永井康友	酒井宏典	蛭田翔太
3 年	機械工学科	SYAHRIL RAFIEQ BIN ABD MANAB	永井康友	武田光玄	高田義人
3 年	物質工学科	ILI DALIELA MD RAZARI	内田修司	加藤さくらこ	木幡瑠美
3 年	物質工学科	CHIN SZE TING	内田修司	高橋和泉	阿部夢乃
4 年	電気工学科	NGUYEN TUAN ANH	渡辺 博	菊地秀治	石井 聡
4 年	物質工学科	CHEE JUN NIAN	押手茂克	高原 健	野口 修
平成 18 年度					
3 年	機械工学科	BERUTU SERI PAULUS	渡辺敏夫	郡司資孝	小松 綾
3 年	機械工学科	Azizol bin ahmad	渡辺敏夫	坂本敦志	國分太喜
3 年	電気工学科	Farah Hanım binti Mukhtar	小泉康一	鈴木 望	鈴木友理枝
3 年	物質工学科	Aimi Suhaily binti Saaidin	酒巻健司	田中愛里	大友友里絵
3 年	建設環境工学科	ONEK OBEDI DENIS	根岸嘉和	高村亮一	越戸仁一
4 年	機械工学科	TJOENG SURYONO	永井康友	酒井宏典	蛭田翔太
4 年	機械工学科	SYAHRIL RAFIEQ BIN ABD MANAB	永井康友	武田光玄	高田義人
4 年	物質工学科	ILI DALIELA MD RAZARI	内田修司	加藤さくらこ	木幡瑠美
4 年	物質工学科	CHIN SZE TING	内田修司	高橋和泉	阿部夢乃

（出典：国際交流委員会資料）

資料 7-1-⑤-2

留学生卒業後の進路

年 度	卒業生数	卒業後の進路
H14	2 人	長岡技術科学大学進学
H15	2 人	長岡技術科学大学進学 東京工業大学進学
H16	2 人	弘前大学進学 東京農工大学進学
H17	2 人	筑波大学進学 就職
H18	2 人	電気通信大学進学 東京農工大学進学

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑤-3

平成 18 年 6 月 1 日

平成 18 年度

編入学生指導教員について

○ 生活指導担当

(機 械 工 学 科) 松 本 匡 以

(電 気 工 学 科) 伊 藤 淳

(建設環境工学科) 根 岸 嘉 和

(コミュニケーション情報学科) 渡 部 順 一

○ 学習指導担当

(一 般 教 科) 井 川 治

(一 般 教 科) 道 上 達 広

(機 械 工 学 科) 永 井 康 友

(電 気 工 学 科) 濱 崎 真 一

(建設環境工学科) 緑 川 猛 彦

(コミュニケーション情報学科) 内 山 昭 代

(出典：教務委員会資料)



留学生への学習支援としては、「外国人留学生規則の実施に関する申合わせ」によって3年次及び4年次の外国人留学生の履修科目の一部を免除し、それに代わる特設科目を設定している。3年次の特設科目は、日本語（4単位）、数学基礎（1単位）、物理基礎（1単位）、専門基礎（2単位）の合計8単位、4年次は日本語（2単位）、日本事情（1単位）の合計3単位である。これらの特設科目は、留学生専用の教室（中ゼミ室）で授業を行っている。本校での学習支援の特徴としては、3年次と4年次の2年間にわたって日本語教育を行って実用的な日本語能力の向上を図り、出身国によって履修状況や進度が異なる専門科目の基礎学力を、個々の実情に合わせて、補習する配慮がなされている。

一方、高等学校等からの準学士課程4年次への編入学生に対しては、編入学前に基礎学力の充実と入学への心構えについての事前教育を行い、編入学後は必要に応じて個別指導を実施している。学校生活に早く慣れさせ、授業に専念できるようにするために、生活指導担当教員と学習指導担当教員による指導体制を採っており（資料7-1-⑤-3）、また、これらの指導担当教員と編入学生との個別面談を実施し、その結果をその後の効果的な指導のために役立てている（資料7-1-⑤-4）。

専攻科学生については、高専を卒業し企業等に就職した後に再度専攻科に入学した学生の例も見られるが、ほとんどの学生が高専生活を一度体験しているため、留学生や編入学生のような特別な学習支援は行っていない。専攻科学生は、1年次から「特別研究」を実施するため、入学後すぐに研究室に配属され、指導教員の下で特別研究やその他の学習面で十分な支援や指導を受けている。また、その他の学習支援も容易に受けられるよう、準学士課程に対するのと同様、全教員がオフィスアワーの時間を設定し、学生に公表している。

#### （分析結果とその根拠理由）

国際交流委員、学級担任、留学生チューターが中心となり、留学生の学習支援を行っている。また、科目の履修や学習環境についても配慮がなされ、多くの留学生が大学へ編入学するなど、優秀な成績を修めて卒業している。日本人の編入学生に対しては、学習指導担当教員と生活指導担当教員の2人による指導体制で学習面及び生活面の支援等を行っている。以上のことから、特別な支援を行うことが必要と考えられる者への学習支援体制が整備され、また、必要に応じて学習支援が行われている。なお、本校では、過去に準学士課程における社会人学生、障害を持つ学生等を受け入れた実績がないことから、社会人学生、障害のある学生等への支援体制の整備については、今後さらなる検討が必要である。



### 編入学生個別面接記録

日 時 : 平成19年1月30日(火) 15時00分 ~ 15時30分  
 場 所 : 石垣 研究室  
 学科・学年 : ( 機械工 ) 学科 ( 5 ) 学年  
 出 席 者 : 編入学生 ( 飯塚丈方 )  
 指導教員 ( 石垣義尚, 松本匡以 )

#### 1. 勉強について

- ① 毎日の勉強時間
  - ・ 30分から1時間程度
- ② 勉強を主に教えてくれる友人
  - ・ 鈴木佑那、橋本泰佑
- ③ 勉強面で分からない時の解決方法及び努力している点
  - ・ 担当の先生に直接聞きに行く

#### 2. 学生生活について

- ① 親しい友人
  - ・ 鈴木佑那、橋本泰佑、森口敦史
- ② 悩み事の相談相手
  - ・ 渡辺敏夫先生 (4年:工学セミナー、5年:卒業研究指導教官)
- ③ クラスの印象
  - ・ 明るくまとまりのあるクラスで、面倒見も良い。

#### 3. 進路について

- ① 現時点での進路希望
  - ・ 日立化成工業株式会社に就職内定
- ② 進路面で心配している事
  - ・ 人間関係がうまくいくかどうか

#### 4. 健康について

- ① 現在の健康状態
  - ・ 至って健康

#### 5. その他

- ・ 特になし

(出典: 教務委員会資料)

**観点 7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

体育部系，文化部系，研究部系，全てのクラブ団体にそれぞれ顧問教員・職員を配置し，指導・助言を与えている。また，実践指導が必要なクラブ団体においては，外部コーチ等を依頼・配置し，クラブ活動に対する円滑かつ効率的な指導体制を整えている（資料 5-4-②-3）。本校では，多くの学生が，文化部や運動部のクラブ活動や愛好会活動に参加し，その活動を通して責任感・自主性・指導性・協調性等を育てている（資料 7-1-⑥-1）。クラブ活動予算は，学生から徴収する学生会費によって編成されるが，大会等の参加のための遠征費は一部，後援会からの支援経費により賄われている。

課外活動の成果発表の場として，高専体育大会や各種のスポーツの大会，ロボット・プログラミング・デザインコンペティション等の各種コンテスト，さらに全日本学生ソーラー&FC カーチャンピオンシップ等の各種グランプリにも積極的に参加し，好成績を残している（資料 7-1-⑥-2）。なお，本校には寮生等の課外活動支援のために合宿センターが設置されており，閉寮期間中の寮生のクラブ活動や卒業研究，特別学習等のために利用されている。

学生会が企画する学内外の活動については，学生主事と担当学生主事補が連携して指導と助言に当たっている。（資料 7-1-⑥-3～4）。学生会の予算は，すべて学生から徴収する学生会費によって編成されている（資料 7-1-⑥-5）。なお，クラブ活動については，学生準則ならびに学生会規約に規則が定められており，それに則った運営がなされている（資料 7-1-⑥-6）。

(分析結果とその根拠理由)

全てのクラブ団体に顧問教員・職員を配置し，連携して学生のクラブ活動の支援と指導に当たっており，予算や施設面での支援も適切になされている。その結果，多くの学生が運動部や文化部のクラブ活動及び愛好会の活動等に参加し，各種の大会やコンテスト，グランプリ等に出場して好成績を残している。また，学生会活動に対しては，学生主事と担当学生主事補が中心となり指導や助言を行い，自主的で活発な運営がなされている。以上のことから，学生のクラブ活動や課外活動，また学生会活動等への支援体制が整備され，有効に機能している。

クラブ活動の主な記録

文化部

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
写真			東北地区文化部発表会 入選	東北地区文化部発表会 入選	東北地区文化部発表会 入選
無線通信					
吹奏楽	県吹奏楽コンクール金賞	県吹奏楽コンクール金賞	県吹奏楽コンクール金賞	県吹奏楽コンクール金賞	県吹奏楽コンクール金賞
美術	東北地区文化部発表会 特選			東北地区高専文化部発表会 入選	東北地区高専文化部発表会 入選
将棋	高校棋竜土具人会 個人 4 位	全国高専将棋人会 個人 3 位	全国高校将棋新人人会 県人会準優勝		全国高専将棋人会 個人ベスト 8
茶草道					

体育部

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
陸上競技	地区：学校対抗 1 位 全国：学校対抗 3 位 1500m 1 位	地区：学校対抗 1 位 全国：学校対抗 1 位、 4×400mR 1 位	地区：学校対抗 1 位 全国：学校対抗 1 位、 4×100mR 1 位	地区：学校対抗 1 位 全国：学校対抗 2 位、 4×400mR 1 位	地区：学校対抗 1 位 全国：学校対抗 1 位、 4×100mR 1 位、 4×400mR 1 位
バスケットボール	地区：女子団体 1 位	地区：女子団体 1 位	地区：女子団体 1 位	地区：女子団体 3 位	地区：女子団体 3 位
バレーボール	地区：女子団体 1 位	地区：女子団体 2 位	地区：女子団体 3 位	地区：女子団体 3 位	地区：女子団体 3 位
ソフトテニス		地区：団体 3 位	個人戦ダブルス優勝	個人戦ダブルス優勝	地区：団体 3 位
テニス	地区：団体 2 位 (女子 1 位)	地区：団体 2 位 (女子 1 位)	地区：団体 1 位 (女子 1 位)	地区：団体 1 位 (女子 1 位)	地区：団体 1 位 (女子 1 位)
卓球	地区：団体 1 位	全国：団体 1 位 地区：団体 1 位	全国：団体 1 位 地区：団体 1 位 女子シングルス県総体 優勝	地区：団体 3 位 (女子シ ングルス・ダブルス 1 位) 全国：女子シングルス・ ダブルス優勝	地区：団体 2 位 (女子シ ングルス・ダブルス 1 位) 全国：女子シングルス・ ダブルス優勝
柔道		全国：個人60K 1 位	全国：個人60K 1 位、 インターハイ 6 位入賞	地区：個人73K 1 位 全国：男子73K 3 位	地区：個人73K 1 位 全国：男子73K 1 位
剣道	地区：団体 2 位	地区：団体3位	地区：団体3位	地区団体 3 位	女子個人戦 1 位
サッカー	地区：団体 2 位				
野球	地区：団体 3 位				
水泳	全国：400m 自 1 位、800m 自 1 位	地区：団体 3 位	地区：団体2位	地区：団体 1 位 全国：団体 1 位、女子 50m 背泳ぎ、100m 自由形 1 位	地区：団体 1 位 全国：団体 2 位、 男子800m 自由形 1 位、 女子50m 背泳ぎ 1 位
山岳					
空手道				県高等学校新人体育大会 (女子個人形・組手 1 位)	県総体少年女子形第 3 位 (全国総体出場)、県高 等学校新人体育大会 (女 子個人形 2 位)
サイクリング					
バドミントン		地区：団体 3 位 (女子 1 位)	地区：団体 3 位 (女子 2 位)	地区：団体 3 位 (女子 3 位)	

全国：全国高等専門学校体育大会  
地区：東北地区高等専門学校体育大会  
インターハイ：全国高等学校体育大会  
県総：福島県総合体育大会

研究部・その他

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
ロボット技術研究会	ロボコン全国：アイデア 倒れ賞		ロボコン全国大会出場 (アイデア賞)	地区大会 優勝 全 国大会出場 (アイデア倒 れ賞)	地区大会 技術賞 全国大会出場 (準決勝進 出)
天文					
エネルギー研究会				WSR/JISC/FC総合20位 (クラス 5 位)	WSR/JISC総合16位 (クラス 2 位入賞)
プログラミング 愛好会	プロコン自由部門：審査 員特別賞		プロコン全国大会出場	プロコン全国大会出場 パソコン甲子園2005 プ ログラミング部門第 3 位	プロコン全国大会出場 (競技部門準決勝進出)
分子生物愛好会			知能ロボコンチャレンジ コース優勝	知能ロボコン優勝 (亘田 賞)	知能ロボコンチャレンジ コースアイデア倒れ賞

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑥-2

ロボットコンテストの結果状況

年度	テーマ	参加チーム数 (東北地区大会)	東北大会結果	全国大会結果
H14	プロジェクト BOX	14	デザイン賞 (全国大会出場)	アイデア倒れ賞
H15	鼎 (KANAE)	14	デザイン賞	
H16	マーズラッシュ	14	アイデア賞 (全国大会出場)	3 回戦敗退 奨励賞
H17	大運動会	14	優勝 (全国大会出場)	アイデア倒れ賞
H18	ふるさと自慢特急便	14	技術賞 (全国大会出場)	準決勝進出

全国高専プログラミングコンテストの参加状況 (件)

回	年度	自由部門	課題部門	競技部門	計
13	平成 14	1	1	1	3
14	平成 15	1	0	0	1
15	平成 16	1	1	1	3
16	平成 17	1	0	1	2
17	平成 18	1	0	1	2

全国高専デザインコンペティションの結果状況

年度	部門	テーマ	発表内容	結果
H16	ワークショップ部門 「地域交流シンポジウム」 セッション	「まちづくりへの チャレンジ」	まちを探索すると見えてくるユニバーサルデザイン	優秀賞
H17	不参加			
H18	構造デザインコンペティション	「単弦トランスドラムラングー桁橋」の 作成・発表	定められた条件の中で行われるブリッジの設計・製作を通しての「構造デザイン」の可能性の追求	第 27 位 (50 チーム)

(出典：学生支援係資料)

平成 18 年 3 月 31 日

平成18年度 学生委員会役割分担

[委員会構成メンバー]

[教員]

一般：○秋山、○西浦、○木原、島袋  
 機械：松本、鈴木（茂）  
 電気：○山田、三浦  
 物質：○柴田、羽切  
 建設：金子、菊池  
 コミ：田代、布施

[事務局]

学生課長 棚井  
 学生係長 武井  
 学生課専門員 斎藤

計 17 名

1. 生活指導 ○木原、布施、松本、金子
2. 交通指導 ○柴田、羽切、鈴木（茂）
3. 学生会執行部、新聞局・文化系クラブ  
     ○山田、田代、菊池
4. 学生会体育部  
     ○西浦、島袋、三浦
5. 学内の委員会
  - ・国際交流委員会 ○山田
  - ・施設整備点検評価委員会 ○木原
6. 学外の協議会
  - ・いわき地区高等学校生活指導協議会（生指協） 秋山
  - ・いわき中央著管内学校警察連絡協議会（学警連） 秋山（木原、西浦、山田、柴田）
  - ・いわき市少年センター補導員 木原（秋山、西浦、山田、柴田）
7. 委員会事務局分担
  - 会議・委員会用資料とりまとめ 学生係長
  - 委員会議事録作成及び配信 学生係長
8. その他文書作成
  - 指導報告書・集計 ○木原
  - 学生委員会指導計画・割振 ○木原

(出典：学生委員会資料)

学生会組織

役員	定員 (人)	役員	定員 (人)
学生会長	1	体育部副部長	1
学生会副会長	1	文化部長	1
書記	3	文化部副部長	1
会計	2	研究部長	1
監査	3	研究部副部長	1
体育部長	1	新聞局	3

学生会の活動状況 (平成 12~18 年度)

月	活 動
4	・各クラブに予算要求書を配付し、学生主事補・学生係でとりまとめ学生総会において承認の決定を行う。
7	・「全国高専交流会 (八戸市) に学生会役員 3 名が参加。服装・学生会活動・クラブ活動などを論議し、東北地区高専の交流をはかっている。
10	・「校内体育大会」を体育部が中心となり、開催。
11	・「クラブ愛好会等対抗駅伝大会」をいわき陸上競技場周辺を借用し開催している。体育教員・陸上部に協力してもらい、学生会体育部が中心に開催。
1	・選挙管理委員会が中心となり、選挙を告示し、執り行う。選挙結果を作成し、公示する。 ・学生係で各クラブの決算書を作成し、2月に行われる「学生総会」で報告。 ・「クラブ愛好会等対抗駅伝大会」を学生会体育部が中心に開催。
2	・「学生総会」において、新役員の発表し、「決算報告書」を配付する。

(出典：学生委員会・参与会資料)

資料 7-1-⑥-5

学生会決算報告 (円)

	H13	H14	H15	H16	H17
収入	15,546,406	16,234,667	16,452,055	16,526,796	17,673,261
繰越金	6,736,644	7,385,106	7,669,970	7,380,209	8,267,667
会費等	8,809,762	8,849,561	8,782,085	9,146,587	9,405,594
支出	8,161,300	8,564,697	9,071,846	8,259,129	7,604,618
特別会計	3,656,238	4,430,242	4,262,236	3,464,167	2,712,161
一般会計	4,505,062	4,134,455	4,809,610	4,794,962	4,892,457
差引残高	7,385,106	7,669,970	7,380,209	8,267,667	10,068,643

平成 16 年度学生会決算報告 (円)

1. 収入の部

項目	予算額	収入額	差引額	摘要
繰越金	8,267,667	8,267,667	0	平成16年度決算繰越金
前年度分の会費	85,000	85,000	0	未納者10名分
入会金	218,000	217,000	-1,000	入会金 217名分
会費	9,146,000	9,103,500	-42,500	学生会費1071名納入
利息	40	94	54	預金利息
合計	17,716,707	17,673,261	-43,446	

2. 支出の部

<特別会計>

項目	予算額	支出額	差引額	摘要
東北地区高専体育大会	2,648,000	775,175	1,872,825	東北地区高専体育大会学生派遣費1/3補助(福島、秋田)
全国高専体育大会	1,177,877	515,252	662,625	全国高専体育大会学生派遣費1/4補助(関東甲信越地区)
高専祭	1,500,000	671,545	828,455	各種委員会補助
吹奏楽東北大会	408,000	375,411	32,589	全日本吹奏楽東北大会補助(仙台市)
高等学校野球大会(夏季)	411,600	0	411,600	全国高校野球福島大会補助
クラブ活動助成費	500,000	374,778	125,222	高体連東北大会補助、東北総合体育大会補助、全国高校総体補助、東北高等学校新人体育大会補助、全国高等将棋大会補助
合計	6,645,477	2,712,161	3,933,316	

<一般会計>

項目	予算額	支出額	差引額	摘要
執行部	8,104,864	1,013,559	7,091,305	卒業記念品代、クラブコーナ付金、校内駅伝大会賞品外
新聞局	74,630	18,430	56,200	ICボイスレコーダー
写真部	63,400	63,400	0	フィルム、印画紙、マットパネル、インクカートリッジ8色バック、写真用紙、現像液
無線通信部	57,230	57,230	0	2400MHZアンテナCD社製×2427、WIRE IIコントローラ外
吹奏楽部	281,000	280,886	114	楽譜、メトロノーム、譜面代、スネアスタンド、トロンボーンスタンド、楽器補助・修理代外
美術部	65,000	64,896	104	キャンバス10号・12号、油絵の具、絵筆、アクリルガッシュ、油、画用紙、鉛筆外
将棋部	31,300	31,300	0	将棋対局ソフト、対局扇子、将棋年間外
茶華道部	74,000	71,170	2,830	水滸外
小計	8,751,424	1,600,871	7,150,553	

項目	予算額	支出額	差引額	摘要
陸上競技部	414,750	414,750	0	3000m障害練習用具、ボール、テアライトテープ、やり練習用(男女)、砲丸、ピストル等
バスケットボール部	130,550	130,550	0	ボールかご、ネット、ボール7号・8号、ワックス料
バレーボール部	155,530	154,520	1,010	バレーボール・モルテン製・ミカサ製、ネット、スパイクトレーニングボール、ボールバック等
ソフトテニス部	164,850	164,850	0	ソフトテニスボール、コートブラシ、ラインホーキ
テニス部	283,500	283,500	0	テニスボール200P、コートドライヤー
卓球部	104,790	104,790	0	Nittaku3スター硬球(10ダース)、TSPトレーニングボール、butterflyボール・アミーゴ
柔道部	76,800	61,210	15,590	ダン335リストローラー本体、BODYMAKER格闘技用サンドバック、セラバンドDAP12トレーニングラバー
剣道部	174,200	174,086	114	ビデオカメラ、三脚、巻替用木刀、磨き刀
サッカー部	212,000	211,290	710	ボール(試合球・練習球)、ラインカー、高圧ポンプ、注入針
硬式野球部	660,996	660,996	0	ボール(試合球・練習球)、バット、ヘルメット
水泳部	101,808	97,545	4,263	コートロング、エアロバイク
山岳部	39,590	39,590	0	サーマレスマット、シルバコンパス、ガスカードリッジ等
空手道部	56,440	54,210	2,230	バーベルセット、ダンベルセット、コンビネーションキック
サイクリング部	67,202	67,000	202	MTBフレーム、MTB用タイヤ
ラグビー部	142,000	142,000	0	ハードピス、コンタクトバック、ボール、ストップウォッチ
バトミントン部	322,560	322,560	0	シャトルコック(CHAMPION)
ロボット技術研究会	82,620	79,129	3,491	コンリウム、電磁ドリル、マウス
天文部	62,000	61,390	610	スライセンサー・メンテナンス、バッテリー等
エネルギー研究会	67,620	67,620	0	各種電池・パネル
小計	3,319,806	3,291,586	28,220	
合計	12,071,230	4,892,457	7,178,773	

3. 収支決算

収入総額	執行総額	差引残額	摘要
17,673,261	7,604,618	10,068,643	差引残額は翌年度へ繰越

応援団予算

1. 収入の部

項目	予算額	収入額	差引額	摘要
繰越金	1,017,850	1,017,850	0	平成16年度決算決算繰越金
利息	5	10	5	預金利息
応援団費	0	0	0	
合計	1,017,855	1,017,860	5	

2. 支出の部

項目	予算額	支出額	差引額	摘要
支出項目	0	0	0	
合計	0	0	0	

3. 収支決算

収支総額	執行総額	差引残額	摘要
1,017,860	0	1,017,860	差引残額は翌年度へ繰越

平成18年1月30日監査の結果上記のとおり相違ありません。

会計監査 印  
 会計監査 印  
 会計監査 印

(出典：学生委員会・学生会資料)



- 2 総会は、少なくとも年2回開催するものとする。
  - 3 評議会は、学級および部ごとに選出された評議員をもって構成し、学生会の運営に関する重要事項を審議する。
  - 4 役員は、総会及び評議会において選出し、学生会の事務を処理する。
  - 5 部の種類は文化部、体育部及び研究部とする。
  - 6 部をその活動内容に応じて相当数のクラブに分ける。
  - 7 学生は、その希望するクラブに所属するものとする。
- 第6条 学生会は、規約を制定して学校の承認を受けるものとする。規約の変更についても同様とする。
- 2 規約中には、少なくとも次の事項を記載しなければならない。

- ① 名称
- ② 目的
- ③ 構成
- ④ 組織
- ⑤ 役員の種類、任務及びその任期
- ⑥ 総会、評議会の機能と権限
- ⑦ 部及びクラブの種類とそれらの機能
- ⑧ 会費に関すること。
- ⑨ 会計に関すること。
- ⑩ 校長の最終決定権や担当の教員の指導に関すること。
- ⑪ 会議の招集に関すること。
- ⑫ 部活動の連絡調整に関すること。
- ⑬ 選挙に関すること。
- ⑭ 会議、各部、会計、選挙等の細則に関すること。
- ⑮ 事業計画及び予算決算に関すること。
- ⑯ 規約の改正に関すること。
- ⑰ 規約発効の期日に関すること。

- 第7条 学生会は、毎年度事業計画及び収支決算書について、学校の承認を受け、また事業報告及び収支決算書を学校に提出するものとする。
- 第8条 学生会の指導については、校長の命を受けて、学生主事が総括する。各部及び各クラスにそれぞれ指導教員を置く。
- 3 指導教員は、校長が命じ、学生主事の総括のもとに、部又はクラブの活動の指導にあたる。

- 附 則
- この準則は、昭和38年1月10日から施行する。
- 附 則
- この準則は、昭和55年8月1日から施行する。

(2) 学生会規約

第1章 総 則

- 第1条 この会は福島工業高等専門学校学生会と称する。
- 第2条 この会は本校学生準則に則り学校の指導のもとに会員相互の交誼を厚くし、生活の改善、文化の向上、健康の増進を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は本校学生の全員をもって組織し、指導教員を置く。

第2章 機関及び役員

- 第4条 この会に次の機関を置く。
  - 1 学生総会
  - 2 評議員会
  - 3 執行委員会
  - 4 監査委員会
  - 5 選挙管理委員会
  - 6 応援団幹部会
- 第5条 各機関の会議は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数の同意をもって決する。
- 可否回数の場合は議長が決する。
- 第6条 学生総会は、この会の最高議決機関である。
- 第7条 学生総会は次の事項について議決する。
  - 1 この会の会費、予算及び決算
  - 2 応援団の団費、予算及び決算
  - 3 規約の改正
  - 4 その他必要と認められる事項
- 第8条 学生総会は毎年2回これを招集する。ただし次の場合には臨時にこれを開くことがある。
  - 1 評議員会がこれを必要と認めたとき。

- 2 執行委員会が必要と認めたととき。  
 3 会員の3分の2以上が必要と認めたととき。  
 第2節 評議員会  
 第9条 評議員会は学生総会の代行機関である。  
 第10条 評議員は各学級1名、及び各クラブの半数から1名宛選出し、1年交代とする。  
 第11条 評議員会は次の事項について議決する。  
 1 評議員会議長及び副議長の選出  
 2 選挙管理委員の選出  
 3 この会の行事に関すること  
 4 学生総会から委任されたこと。  
 5 細則及び規程  
 6 その他評議員会において必要と認められたこと。  
 第12条 評議員会は、原則として毎学期1回開く。ただし次の場合は臨時に開くことができる。  
 1 執行委員会の要請があったとき。  
 2 評議員の3分の2以上が必要と認めたととき。  
 第3節 執行委員会  
 第13条 執行委員会は、本会の最高執行機関である。  
 第14条 執行委員会は、会長を委員長とし、副会長、書記、会計、文化、体育、研究各正副部長をもって組織し、次の会務の執行にあたる。  
 1 学生総会、又は評議員会から委任された事項の執行  
 2 学生総会、又は評議員会に提出する議案の作成  
 3 その他必要な事項の処理。  
 第15条 執行委員会は毎月1回定期に開く。  
 ただし、次の場合は臨時に開くことができる。  
 1 全委員の2分の1以上が必要と認めたととき。  
 2 委員長が必要と認めたととき。  
 第16条 執行委員会議長は、会長がこれにあたる。  
 第17条 執行委員会の会務のため、その下に事務局を置き別に定める規程によって運営する。  
 第18条 事務局に次の3部を置く。部に部長、及び副部長各1名を置き、部の選出による。  
 文 化 部

- 体 育 部  
 研 究 部  
 第19条 各部には次のクラブを置く。ただし必要に応じて、増設するものとする。  
 各部の細目は別に定める。  
 文化部 写真、無線通信、吹奏楽、美術、将棋、茶華道  
 体育部 陸上競技、バスケットボール、バレーボール、硬式野球、水泳競技、テニス、卓球、柔道、剣道、サッカー、バドミントン  
 山岳、空手道、サイクリング、ラグビー、バドミントン  
 研究部 天文、ロボット技術、エネルギー  
 第20条 執行委員会の外局として、新聞局を置く。  
 第21条 外局は、行務運営に関して執行委員会から独立し、執行委員会とともに学生会発展に寄与する。  
 第4節 監査委員会  
 第22条 監査委員会は、会員より選出した監査委員3名をもって組織する。  
 第5節 選挙管理委員会  
 第23条 選挙管理委員会は、評議員会で選出した選挙管理委員5名をもって組織する。  
 第6節 役員  
 第24条 この会に次の役員を置く。  
 1 評議員会、議長1名、副議長1名、評議員若干名  
 2 執行委員会、会長1名、副会長1名、書記3名、会計3名、文化部長1名、文化部副部長1名、体育部長1名、体育部副部長1名、研究部長1名  
 3 監査委員会、監査委員3名  
 第25条 役員は次のとおりである。  
 1 会長は、この会の代表の執行委員会を招集統轄する。  
 2 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときはこれを代行する。  
 3 書記は、正副会長を補佐し、この会の事務の運営にあたる。  
 4 会計はこの会の会計に関する会務を行う。  
 5 各部長は、それぞれの部の責任者としてその運営にあたる。  
 6 各副部長は、部長を補佐し部長事故あるときはこれを代行する。  
 7 監査委員は、この会の会計物品その他の監査を行う。  
 第26条 役員の任期は年度末までとし再任を妨げない。ただし監査委員の任期は年度末までとし、再任を認めない。

(出典：学生便覧)

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程 1 学年から 5 学年までの全クラスで 8 時 30 分から 10 分間のショートホームルームを実施している(資料 5-4-①-2)。また、全学年一斉に行う学年行事日でのクラス毎の見学や体験活動、全校清掃日等での学校周辺の環境美化活動、また、その他の特別活動等を通して、人間性の素養の涵養と人間力の育成を図っている(資料 7-2-①-1)。また、自律的な行動ができる学生を育てるため、ルール遵守の徹底、モラルの育成のための生活指導を学生委員会や学級担任が中心となっており(資料 7-2-①-2)。

学生の安全教育としての救急救命講習会や交通安全講習会の実施等のきめ細かな指導も行っている。学生委員会は、生活指導担当、交通指導担当、学生会体育部担当、学生会文化部担当の 4 体制で、学生の厚生補導のための活動を行っている(資料 7-1-⑥-3、資料 7-2-①-3)。

学生の生活指導は、学生委員会の生活指導担当委員が中心となり、教職員が一丸となって実施している。その内容は、「規律ある学校生活」と「プライドを持った学外の行動」を 2 本の柱としている(資料 7-2-①-4)。

学生の交通指導は、交通安全と交通ルールに従った通学を基本として指導が行われている。それらの視点から、運転免許の取得、車両通学、事故・違反の 3 つの区分に分けて指導を行っている(資料 7-2-①-5)。交通指導の平成 16 年度年間行事予定(資料 7-2-①-6)、および自転車登録者の推移、車両通学者と免許取得者の推移を、以下に示す(資料 7-2-①-7)。

資料 7-2-①-1

人間性の素養の涵養と人間力の育成のための活動等一覧

活 動 の 名 称 等	関係委員会・学科等
校内体育大会 (9 月)	学生委員会
生活指導教室 (5 月)	学生委員会
救急救命講習会 (10 月)	学生委員会
ショートホームルーム (毎朝)	教務委員会
大掃除 (毎週水曜日)	教務委員会
全校清掃日 (6 月, 11 月)	教務委員会
始業式, 終業式, 集会 (夏季休業前, 夏季休業後)	教務委員会
校外実習 (インターンシップ) 事前指導会 (7 月)	教務委員会
学年行事日 (10 月)	学科, 教務委員会
高専祭 (H14. 11 月, H17. 11 月)	教務, 学生委員会, 全校

(出典: 「自己点検・評価」ワーキンググループ資料)

## 資料 7

平成19年3月30日 学生委員会審議

平成19年4月 2日 教員会議提出

## 平成19年度学生委員会努力目標・活動方針

## 努力目標

1. 中期計画達成へ向けた活動の展開
2. 学生が主体的に規律を遵守する学校づくり
3. 学生の生活指導における学級担任との連携の強化
4. 節度とマナーをわきまえた人間の育成

## 活動方針

下記の【推進支援事項】に関して、学生が自ら組織を構築し、学生自らが考え行動できるように支援する。【生活指導事項】のマナーに関する事柄は学生自らが向上できるように支援すると共に、全ての項目に関しクラス担任と協力して指導にあたる。

## 【推進支援事項】

## (1) 課外活動

クラブ・愛好会の活動は、幅広い人間関係の場となり、心身の健全な成長と勉学成就に大いに役立つ。

- 原則として全員が課外活動に参加し、活発に活動しよう！

## (2) 学生会活動

学生会は学生が自ら作り上げる学生自身のものである。

- 学生主体の活動により学生会の活性化を図り福島高専に活力を持たせよう！
- 学生中心の高専祭を成功させよう！

## (3) ボランティア活動

体験を通して勤労の尊さや社会に奉仕する精神を養うことが重要である。

- 校内美化運動・献血などを通じボランティア精神を養い、ボランティア活動へ積極的に参加しよう！

## (4) マナー向上委員会（仮称）活動

マナーについて、学生自ら考え行動することが、本校の教育目標にも合致することである。

- クラブ部長、愛好会会長及び学級委員長を中心に福島高専らしさを追及しよう！

## 【生活指導事項】

## 1. 規律ある学校生活

学校は勉強と課外活動の場である。学生がこれらを全うし、有為な人材として卒業するために必要な、落ち着いていて真剣さのみなごった雰囲気、各自の自律的な行動の結果としてつくり上げていかなければならない。

## 1.1. 服装（学生便覧「学生生活関係（4）服装等」）

- 3年生以下は男女とも制服（正常寸法）を着用
- 4. 5年生は異装を認める。但し、次の場合は制服もしくはスーツを着用する。

2006/10/19

第 11 回学生委員会

学外における生活指導派遣教員割り振り (案)

- (1) 10/12 (木) 自動車学校訪問……木 原
- (2) 11/8 (木) 駅前補導……………布 施
- (3) 11/17 (金) 自動車学校訪問……金 子
- (4) 11/24 (金) 駅前補導……………松 本
- (5) 12/12 (火) 自動車学校訪問……島 袋
- (6) 1/24 (水) 自動車学校訪問……………三 浦
- (7) 2/12 (月) 自動車学校訪問……………秋 山

生活指導内容の詳細

生活指導の目標	生活指導項目	生活指導内容の詳細
規律ある学校生活	服装	3年生以下は男女とも制服（正常寸法）を着用する。4, 5年生は異装を認めるが、校外研修・儀式など学内における重要な行事の場合には、制服もしくはスーツを着用する。
	過度の装飾	ピアスなど不要な装飾品を身につけない。清楚。清潔であることとし、頭髪の変色は禁止する。
	携帯電話の使用	携帯電話は8:30~16:35の間、電源を切り一切使用（他者が見える状態に）しない。
	盗難	他者・共有の金品を盗む行為を絶対にしてはならない。
	喫煙・飲酒	学生（成人者も含む）は、学内では禁止。
	いじめ・暴力行為	他者を肉体的・精神的に傷つけ、人権を侵す行為は決して許されない。
	試験の不正行為	真面目な学習を踏みにじり、教員と学生ならびに学生同士の信頼関係を崩すカンニングは絶対にやってはならない。
	施設設備の使用	器物損壊は絶対に許されない。
プライドを持った 学外の行動	アルバイト	3年生以下全面禁止。4, 5年も学級担任と学校の許可を得る。
	万引・占有離脱物横領, 暴力行為	万引・放置自転車の使用は犯罪である。暴力行為は絶対に許されない。
	麻雀・パチンコ・競輪等 のギャンブル, カラオケ 等の遊技場	不健全な交友につながり、金銭・時間の浪費となつて、学生生活を崩壊に導く恐れがあるのでやらない。
	風俗営業, 薬物乱用	風俗営業には関与しない。薬物乱用は人生を破滅させる。決して近づかない。

(出典：学生委員会資料)

資料 7-2-①-5

### 交通指導の3つの指導項目

#### 1) 運転免許の取得

- ・3年次の前期までは、運転免許を一切取得してはならない。
- ・3年次の後期以降も、学校に取得許可願いを申請して許可を得た後に取得し、免許取得届を提出する。

#### 2) 車両通学

- ・3年次以下の車両通学（自動車，原付バイク）は一切禁止する。
- ・4，5年次のみ原付自動車ならびに学外に駐車場を確保した自動車に限り許可（単年度申請で許可証公布）することがある。
- ・専攻科生に限り条件（学則）を満足すれば車両通学を許可し，学校敷地内の駐車場を開放して研究・学習のしやすい環境を整えている。
- ・学校周辺の店舗駐車場や路上に不法駐車して近隣に迷惑をかけ，学校の評価を落とす者には車両許可を認めない。車両通学は学校と社会の規則を守る者のみ認められる。

#### 3) 事故・違反

- ・交通規則，マナーを守り，交通安全を心がけ事故に遭わないようにする。
- ・違反を起こしたり，事故の当事者や関係者となった場合は，その内容が大小・軽重を問わず直ちに（5日以内）学級担任を通じて学校に届け出る。

（出典：学生委員会資料）

資料 7-2-①-6

### 交通指導の年間行事予定（平成16年度，17年度）

年月	実施対象学年	実施対象車種	実施内容
平成16年4月	1年生	自転車	自転車通学における交通安全の注意及び自転車登録
平成16年5月	2年生，3年生	自転車	自転車通学における交通安全の注意及び自転車登録
平成16年7月	3年生	自動車	交通安全の注意及び免許取得の手続きの説明
平成16年12月	免許取得者 (4年生以上)	自動車	卒業式前及び休み中の交通安全の注意
平成17年1月	免許取得者 (4年生以上)	自動車	卒業式前の交通安全の注意，交通安全の講話 (いわき中央署交通一課交通第一係長：横山誠二)
平成17年7月	3年生	自動車	交通安全注意及び免許取得手続きの説明
平成17年12月	免許取得者 (4年生以上)	自動車	卒業式前及び休み中の交通安全の注意

（出典：学生委員会資料）

資料 7-2-①-7

自転車登録者の推移 (人)

学年	H12	H13	H14	H15	H16	H17
1	71	107	82	90	89	71
2	0	1	1	34	16	6
3	2	1	2	24	17	5
4	0	1	1	18	27	6
5	0	0	1	22	16	2
専攻科 1*	-	-	-	-	1	0
専攻科 2*	-	-	-	-	-	0
合計	73	110	87	188	166	90

\*平成 16 年度より専攻科生が在籍

車両通学者と免許取得者の推移 (人)

車両通学者と免許取得者	H12*	H13*	H14*	H15	H16	H17
車両通学者 (自動車)	-	-	-	50	64	73
車両通学者 (原付バイク)	33	25	38	22	30	43
免許取得者	-	-	-	79	97	139
合計	33	25	38	151	191	255

\*平成 12~14 年度は原付通学許可のみで、取得許可届がない。

(出典：学生委員会資料)

本校の保健室においては、学校保健法に定められた保健室業務（健康診断、健康相談、救急処置等）のみではなく、同法施行規則に定められた職員の健康診断、環境衛生検査等も行い、校内の衛生管理に深く寄与している。また、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度の給付請求の事務、学校薬剤師との連携のもと、必要な薬品類の購入等の多岐に渡る業務を実施している。さらに、就職試験等のための健康診断証明書の発行も行い、学生支援の面で重要な一翼を担っている。

保健室運営の概要及びその利用状況を以下に示す（資料 7-2-①-8~9）。

資料 7-2-①-8

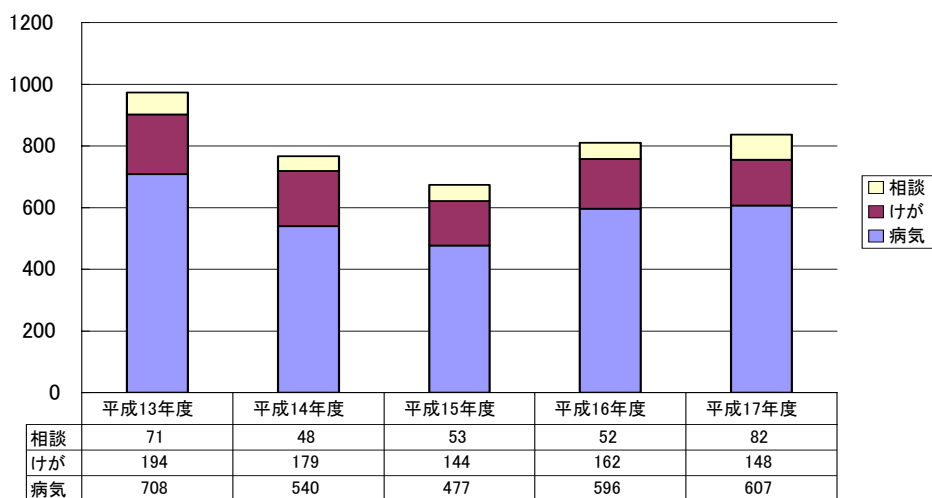
保健室運営の概要

項目	内 容
目的	学生の心身の健康の保持増進を図り、安全な学生生活を送れるよう援助する。
実務	1. 定期健康診断 (1 回/年 その他必要とするとき) 2. 健康相談 (学校医来校 1 回/月) 3. 環境検査 (薬剤師来校 1 回/月) 4. 学生相談室関係 (臨床心理士来校 1 回/週) 5. 災害給付請求 (1 回/月) 6. 献血の推進 (2 回/年) 7. 診断書の発行

(出典：「自己点検・評価」ワーキンググループ資料)

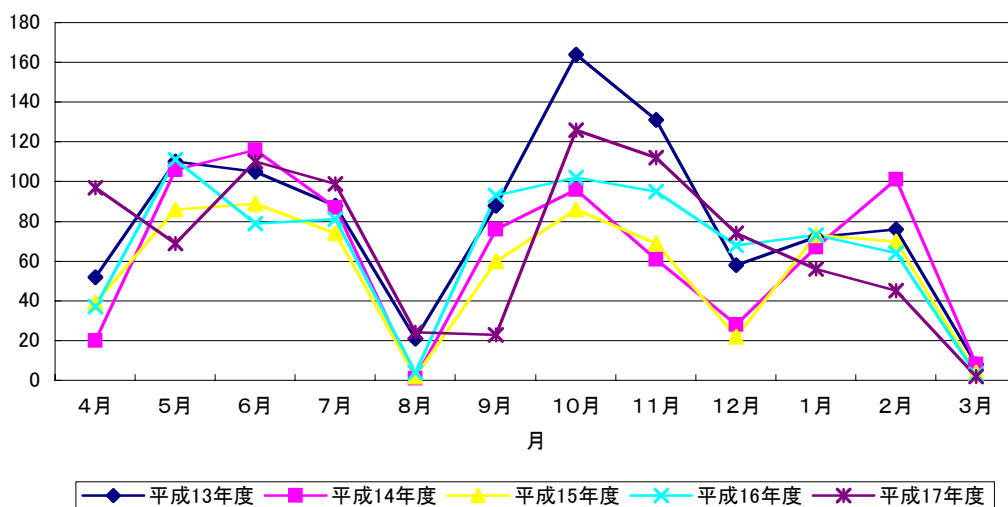


資料 7-2-①-9



年度

保健室利用状況



保健室月別利用状況 (平成 13~17 年度)

(出典：学生支援係資料)

学生相談室では、インテーカー（初回相談担当）の看護師と教員3名からなる相談室員(セクハラ委員兼務)が、学生の精神面の悩み事や健康状態等に対してカウンセリングを行っている。相談室員は毎日昼休みと放課後の2回、交代で窓口を担当している。さらに本校では、臨床心理士(非常勤)2人が毎週月曜と水曜日の午後にカウンセリングを行っており、これに加えて、専門のカウンセラー(精神科医)1人によるカウンセリングも毎月1回実施している(資料7-2-①-9)。

毎年度、新入生のオリエンテーション時には、学生相談室のガイダンスを行うとともに、広報活動としてその案内パンフレットを新入生全員に配布している(資料7-2-①-10)。また、2年生以上

の学生に対しては、教室にポスターを掲示して、その周知徹底を図っている（資料7-2-①-10～11）。さらに定期健康診断時には、学生全員に身体面と精神面に関する「問診表」を記入・提出させ、それを学級担任が確認後、相談室に保管している。カウンセラーがそれらの内容をチェックし、気に懸かる学生に書面でカウンセリングを勧めている。相談実施記録（件数）を以下に示す（資料7-2-①-12）。毎年7月には、1年生の女子学生全員を対象に、婦人科医師による「心と体の健康」に関する講演会を開催している（資料7-2-①-13）。また、教員を対象とするカウンセラーの講師による「カウンセリングの傾向と学生への対応」をテーマにした講演会も企画実施している（資料7-2-①-14）。

資料7-2-①-10

### 学生相談室のご案内

月曜日から金曜日の昼休み、放課後、学生相談室を開放しています。  
勉強・友人関係・寮生活・クラブ活動等で困っていることはありませんか。  
専門のカウンセラーが丁寧に相談のつてくれます。話すだけで、気持ちが楽になることもあります。学生相談室員もあなたの話を伺います。  
もちろん個人のプライバシーは厳守します。気軽に相談してください。

#### 毎月のカウンセラー・担当相談室員の在室時間

昼休み（～12：55）	放課後（～17：15）
月 笠井 哲	熊坂しのぶ（14：00～17：15）
火 松江 俊一	松江 俊一
水（第2）	那須 匡（14：30～17：30）
水 内山 昭代	内山 昭代
木 等井 哲	等井 哲
金 山野 和一	山野 和一

月曜日は毎週、午後から熊坂先生（臨床心理士）がカウンセリングを、  
第2水曜日はドクターによるカウンセリングを実施、あなたの相談に応じてくれます。気軽に訪問してください。  
予約もできますので、相談室員または看護師に申し出てください。

〔総合受付〕	相談室直通	e-mail (soudan@fukushima-nct.ac.jp)
〔一般教科〕	室長 笠井 哲	e-mail (akasai@fukushima-nct.ac.jp)
〔一般教科〕	山野 和一	e-mail (yamano@fukushima-nct.ac.jp)
〔コミ情報科〕	内山 昭代	e-mail (uchiyama@fukushima-nct.ac.jp)
〔コミ情報科〕	松江 俊一	e-mail (matsue@fukushiam-nct.ac.jp)
〔保健室・看護師〕	杉山 誠子	e-mail (sugi@fukushima-nct.ac.jp)

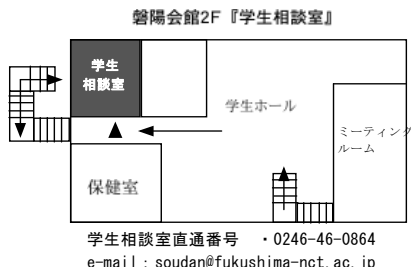
#### 専門のカウンセラーがあなたと一緒に考えます。

●学校以外でも相談できる方法があります●

- ・ ところの電話 024-535-5880（9：00～16：00）
- ・ 福島いのちの電話 024-536-4343（祝日を除く毎日10：00～20：00）
- ・ 人権相談（人権・困りごと） 024-536-1111（平日）8：30～17：00
- ・ いじめ110番 0120-795-110（平日）8：30～17：00

（出典：学生支援係資料）

# 学生相談室



- 学校以外でも相談できる方法があります
- ・この電話 024-536-5560 (平日) 9:00~16:00
- ・福島いのちの電話 024-536-4343 (祝日を除く毎日) 10:00~20:00
- ・人権相談(人権・困りごと) 024-536-1111 (平日) 8:30~17:00
- ・いじめ110番 0120-795-110 (平日) 8:30~17:00

福島工業高等専門学校

・学生相談室の役割とは・・・

高専の学生は15歳で入学し、20歳までの5年間で、この学校で過ごします。この時期はちょうど思春期にあたり、人生の中で心理的にも身体的にも最も変化の激しい時期です。学生生活を送る中で、さまざまな障害に出会ったり、問題の壁にぶつかる事が多い時期です。

学生相談室では、様々な悩みや問題を抱えている学生の皆さんの心が、少しでも軽くなったり、悩みが解決できるようにお手伝いしたいと考えています。

昼休み、放課後、に相談室を解放していますので、立ち寄ってみてください。

個人情報の秘密は固く守る事を約束した上で、親身になって話を伺います。

・こんなことで悩んでいませんか？

- ・学校に行く気になれない
- ・なんとなく毎日が不安
- ・将来や、進路が決まらない
- ・教室に入りづらい
- ・人間関係がうまくいかない
- ・心配な友達がいる
- ・最近、身体の調子が良くない
- ・クラブ活動や勉強に身が入らない
- など・・・

専門のカウンセラーの先生がじっくり話を聞いて、一緒に考え、適切なアドバイスをしてください。

♥初めまして♥  
月曜日の午後に、相談室におります。どうぞお気軽に声をかけてください。お待ちしております。 熊坂しのぶ

いわき開成病院院長、Dr. 那須です。毎月1回水曜日の午後に来ています。君の悩み聞きましょう！那須 匡

・学生相談室員の在室時間・

- ・昼休み(～13:00) ・放課後(～17:15)
- 月曜日 笠井 哲・熊坂しのぶ(14:00～17:15)
- 火曜日 松江俊一 松江俊一
- 毎月第2水曜日 ・那須 匡(14:00～17:15)
- 水曜日 内山昭代 内山昭代
- 木曜日 笠井 哲 笠井 哲
- 金曜日 山野和一 山野和一

・月曜日(毎週/4時間)は、専門(臨床心理士)のカウンセラーの熊坂先生が、毎月1回、第2水曜日はいわき開成病院院長の那須先生も相談室で、個人相談に応じてくれます。希望者は直接相談室を訪問して下さい。予約もできます。また、相談室員、保健室の看護師さんもカウンセリングの受け付け窓口になっていますから、遠慮なく申し出て下さい。

・メールでも受け付けます

・カウンセリングの予約を希望する人は、直接相談室員に申し出るか、メールを送って下さい。折り返し、日、曜日、時間をお知らせします。

・連絡先 [総合受付]	相談室直通 0246-46-0864	e-mail (soudan@fukushima-nct.ac.jp)
[相談室長]	笠井 哲 ・ 0246-46-0764	e-mail (akasai@fukushima-nct.ac.jp)
[相談室員]	山野 和→ 0246-46-0755	e-mail (yamano@fukushima-nct.ac.jp)
[相談室員]	内山 昭代 0246-46-0846	e-mail (uchiyama@fukushima-nct.ac.jp)
[情報学科]	松江 俊→ 0246-46-0852	e-mail (matsue@fukushima-nct.ac.jp)
[看護師]	杉山 誠子 0246-46-0863	e-mail (sugi@fukushima-nct.ac.jp)

(出典：学生支援係資料)

資料 7-2-①-12

学生相談室の相談実施記録 (件)

相談実施記録	H13	H14	H15	H16	H17
学校生活	1	7	3	14	12
寮生活	0	0	1	2	2
授業・成績	6	1	2	1	7
進路	9	10	5	5	15
人間関係	26	10	4	4	22
心身不安	21	21	27	9	23
その他	11	8	6	9	12
合計	58(39)	42(11)	45(4)	45(18)	83(47)

( ) 内は女子の実施数

(出典：学生相談室資料)

資料 7-2-①-13

学生対象講演会

年度	内 容	対象
H14	講演「自分を知ろう，自分を守ろう」 菅原延夫(婦人科内科医師，いわき医師会理事)	女子学生
H15	講演「自分を知ろう，自分を守ろう」 菅原延夫(婦人科内科医師，いわき医師会理事)	女子学生
H16	講演「自分を知って自分を守ろう」 阿部雪江(医療法人 あべクリニック 婦人科医師)	女子学生
H17	講演「青年期の心と身体の成長」 熊坂しのぶ(いわき臨床心理士会理事)	新入寮生
H17	講演「身体の健康と心の安心」 渡辺洋子(つくだ町産婦人科医師)	1. 3年生女子学生
H18	講演「身体の健康・心の健康」 阿部雪江(医療法人 あべクリニック 婦人科医師)	1年生の全学生

(出典：学生相談室資料)

資料 7-2-①-14

教員対象講演会

年度	内 容	対象
H13	講演「学生カウンセリング例から」 熊坂しのぶ(臨床心理士，スクールカウンセラー，いわき心理士会理事) 横山美香(臨床心理士，スクールカウンセラー)	教員
H18	講演「最近の学生相談の傾向と対応について」 熊坂しのぶ(臨床心理士，スクールカウンセラー，いわき心理士会理事)	教員

(出典：学生相談室資料)

各種の奨学金制度や授業料免除の制度が存在し、経済的に勉学を続けるのが困難な学生を支援している(資料7-2-①-15)。これらの奨学金や授業料免除制度の学生への周知と申請の連絡は、免除願用紙等の配布日程と併せ、掲示物や放送または学級担任や専攻長を通して行っている。

資料7-2-①-15

授業料免除実施状況 (人)

	H18		H17		H16		H15		H14	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
申請数	131	117	127	104	120	92	105	102	105	100
学内免除数	56	55	56	56	55	55	53	53	53	53
超過申請数	64	47	60	37	49	17	43	37	42	40
超過承認数	50	47	32	35	27	16	33	33	37	40
免除合計(超過含む)	106	102	88	91	82	71	86	86	90	93

入学料免除・入学料徴収猶予実施状況 (人)

	H18		H17		H16		H15		H14
	免除	徴収猶予	免除	徴収猶予	免除	徴収猶予	免除	徴収猶予	免除
申請者数	0	7	0	3	1	5	0	2	0
承認数	0	5	0	3	1	5	0	2	0

奨学金受給状況 (人)

	H18	H17	H16	H15	H14
日本学生支援機構	80	82	79	89	79
(内訳) 1年	14	14	7	18	11
2年	14	5	18	14	20
3年	4	19	14	21	16
4年	20	16	21	19	15
5年	14	22	19	17	17
専攻科1年	9	6	0		
専攻科2年	5	0			
その他	19	19	17	15	10
(内訳) 1年	1	4	4	2	0
2年	4	4	4	2	0
3年	5	6	3	2	4
4年	6	3	2	6	3
5年	3	2	4	3	3
専攻科1年	0	0	0		
専攻科2年	0	0			
合計	99	101	96	104	89

◎その他の奨学生採用実績

古岡奨学会  
あしなが育英会  
郡山市  
大阪府育英会  
広野町  
喜多方市  
いわき市  
(財)戸部育英会  
(財)朝鮮奨学会  
福島市  
(財)渡辺安衛育英会  
(財)交通遺児育英会  
川内村  
福島県 等

(出典：学生支援係資料)

学生指導のための教職員研修会として、毎年度1回、教職員が学生の厚生補導に関して課題を設定し議論する「教職員厚生補導研究会」を開催し、その成果を報告書にまとめ、学生指導に生かしている（資料7-2-①-16）。

資料7-2-①-16

教職員厚生補導研究会

年度	内 容
H13	<p>期 日 平成13年8月20日(月)～21日(火)</p> <p>場 所 厚生年金「相馬松川浦荘」</p> <p>参加者 教職員 24人</p> <p>講 演 演 題「家庭裁判所における少年審判事例から見た、最近の非行傾向と背景・問題点」 講 師 福島家庭裁判所いわき支部主任調査官 山岡英男</p> <p>研究会 第1研究会：テーマ「学生の生活指導に関する地域との連携」 第2研究会：テーマ「高専における担任会と各委員会等との連携のあり方」</p>
H14	<p>期 日 平成14年12月24日(火)～25日(水)</p> <p>場 所 厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」</p> <p>参加者 教職員 25人</p> <p>講 演 演 題「大規模な学寮における指導方法及びその問題点について」 講 師 鶴岡工業高等専門学校 教授 武田弘昭</p> <p>研究会 第1研究会：テーマ「本校学生寮の今後の指導方法について」 第2研究会：テーマ「相談室における寮生の指導内容について」</p>
H15	<p>期 日 平成15年12月22日(月)～23日(火)</p> <p>場 所 厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」</p> <p>参加者 教職員 31人</p> <p>講 演 演 題「独法化後の高専における学生指導について」 講 師 茨城工業高等専門学校 校長補佐 柴田尚志</p> <p>研究会 第1研究会：テーマ「これからの福島高専における学生指導について」 第2研究会：テーマ「教職員厚生補導研究会の実施要領の改善について」</p>
H16	<p>期 日 平成17年3月22日(火)～23日(水)</p> <p>場 所 講 演：福島工業高等専門学校 研究会：茨城厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」</p> <p>参加者 講 演：教職員 62人 研究会：教職員 31人</p> <p>講 演 演 題「教えることから育むことへの転換（これまでの実践を通して）」 講 師 いわき市立平第三中学校 校長 小井戸雅典</p> <p>研究会 第1研究会：テーマ「最近の新生の問題行動の現状と指導対策」 第2研究会：テーマ「生活指導規則と適切な懲戒指導の検討」</p>
H17	<p>期 日 平成18年3月22日(水)～23日(木)</p> <p>場 所 講 演：福島工業高等専門学校 研究会：茨城厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」</p> <p>参加者 研究会：教職員 26人</p> <p>講 演 演 題「高校生を中心とする少年犯罪について」 講 師 いわき市中央警察署少年課長 丹野明雄</p> <p>研究会 第1研究会：テーマ 「生活指導上の問題と今後の課題」 第2研究会：テーマ 「自ら考えさせる指導」</p>

(出典：学生委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生委員会や学級担任を中心に、教職員全体が一丸となって、学生の厚生補導、生活指導、交通指導に取り組み、学生の安全と人間の素養の涵養及び人間力の育成に努めている。学生の厚生補導施設としての保健室や学生相談室も整備され、学生の健康面及び生活面での支援を行っている。また、各種の奨学金制度や授業料免除制度も整備され、経済的に就学困難な学生への支援に活用されている。

以上のことから、学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、有効に機能している。

**観点 7-2-②：** 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生に関しては、国際交流委員会が中心となり、編入学直後にオリエンテーションを実施するとともに、その後の学習面、学校生活面、及び寮生活面の指導をそれぞれ教務委員会、学生委員会、及び、寮務委員会の各担当主事補が分担・協力しながら行っている（資料 7-2-②-1）。3年次及び4年次の留学生には、通学生1名と寮生1名からなる計2名のチューターを配置し、留学生への支援体制を構築している（資料 7-1-⑤-1）。学生相談室のカウンセリング、健康相談なども、必要に応じて適宜実施されている。

一方、寮生活面では、外国人留学生の居室を1人1室とし、留学生を各フロアに日本人学生と混在させてお互いの交流が図れるよう配慮している。自習室、談話室、洗濯室などの共用施設に加えて外国人留学生専用のシャワー室やガス湯沸器、ガステーブルなど調理設備が整った補食室を設け、宗教上の理由で自炊をする留学生や夏休み等の長期休暇中に寮に滞在する留学生を支援している。

なお、本校では過去に障害を持つ学生等を受け入れた実績がないため、そのような学生に対する支援体制がまだ十分に整備されているとは言えない。今後、全ての施設のバリアフリー化の実現等の対策を急ぐ必要がある。

(分析結果とその根拠理由)

国際交流委員会や留学生チューターが中心となり、留学生の生活支援等を行っている。また、留学生の生活の場である寮での生活環境についても十分な配慮がなされている。以上のことから、留学生への生活支援体制が十分整備され、その支援が適切に実施されている。なお、障害がある学生への支援体制についてはまた不十分な面があり、今後整備に向けての実施・検討が必要である。

福島工業高等専門学校国際交流委員会規則

(平成 10 年 3 月 31 日)

(規則 第 9 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 28 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則（昭和 62 年規則第 11 号）第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校国際交流委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 外国人留学生の受け入れに関すること。
- (2) 外国人留学生の教育及び指導に関すること。
- (3) 外国人留学生の福利厚生に関すること。
- (4) 国際交流事業計画に関すること。
- (5) 外国の教育研究機関との教職員及び学生の交流に関すること。
- (6) その他国際交流に関し校長が必要と認めたこと。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補のうちから各 1 名
- (2) 各学科から学科長が推薦する者各 1 名
- (3) 専攻科教員から 1 名
- (4) 校長が指名する者若干名
- (5) 庶務課長及び学生課長

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、校長があらかじめ指名した副委員長がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときには、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第 6 条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、庶務課及び学生課において処理する。

(細目)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は委員会が定める。

附則

この規則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 16 年 4 月 1 日規則第 10 号）

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 18 年 3 月 30 日規則第 28 号）

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。



観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

学寮は「遠隔地からの入学者に対して生活の便を与える」ために設置されている。学寮の費用と寮生数を以下に示す(資料 7-2-③-1)。寮生は、同世代の若者がほとんど経験することのない団体生活を通じて多くのことを学び成長していく。そこで本校では、この学寮を「教育寮」ととらえ、寮生活面で様々な支援や指導を行っているが、基本的には寮生及び寮生会を中心に自主的な運営がなされるように努めている(資料 7-2-③-2)。教職員で組織される寮務委員会は、それを側面から支援・指導する立場に立っている(資料 7-2-③-3)。寮総務(寮長含む寮生会執行部)との定期的な会合をもち、寮行事や日常の寮生活が円滑に行くよう指導と支援を行っている(資料 7-2-③-4)。

平日は、教員 2 名が当直寮監、及び事務系職員 1 名が宿直者となり、寮生の人員確認、不時の事故、病気、相談事など全ての面において援助するシステムが採られている。土・日・休日は、教員 1 名及び事務系職員 1 名の計 2 名が日直者となり対応している(資料 7-2-③-5~6)。平成 17 年度教員宿日直(寮監)業務を以下に示す(資料 7-2-③-7)。平成 17 年度からは、新入寮生を対象に入寮 1 か月経過後、カウンセラーによる講演会及び「寮生活と心身の発達・成長について」の質疑応答を実施している(資料 7-2-③-8)。

資料 7-2-③-1

費目	年額	月額	備考
寄宿料	8,400	700	2人部屋
食費(3食)	318,500	31,850	10ヶ月
維持費	70,100	7,010	10ヶ月
暖房費	13,200	4,400	3ヶ月
寮生会費	3,000		年1回
合計	413,200		

年度	総数	男	女
H12	177	129	48
H13	202	144	58
H14	214	155	59
H15	219	155	64
H16	213	150	63
H17	201	146	55
H18	206	150	56
定員	244	167	77

(出典：寮務委員会資料)

附 則

この基準は、平成2年3月6日から施行する。

(5) 磐陽寮学生会規則

第1章 総 則

第1条 この会は、福島工業高等学校（以下「本校」という。）寮生会と称する。

第2条 この会は、寮生原則に則り、学校の指導のもとに寮生の共同生活を自主的に運営し、寮生生活全般の向上を図ることを目的とする。

第3条 この会は、本校寮生の全員をもって構成する。

第2章 機関及び役員等

第4条 この会の目的達成のため次の機関を置く。

- (1) 総会
- (2) 役員会
- (3) 総務委員会

第5条 各機関の会議は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数の同意をもって決する。ただし、可否同数の場合は議長がこれを決する。

第1節 総 会

第6条 総会は、この会の最高決議機関であり、寮生全員をもって構成する。

第7条 総会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 会費・予算及び決算に関する事
- (2) この規約の改廃に関する事
- (3) その他必要と認められる事項

第8条 総会は、前期・後期各1回開催する。ただし議長又は寮生の3分の2以上が必要と認められた場合は、臨時に開催することができる。

第2節 役 員

第9条 この会に次の役員を置き、寮生の選挙により選出する。

- (1) 寮 長 1名
- (2) 副 寮 長 2名

- (3) 書 記 2名
- (4) 会 計 2名
- (5) 会計監査 2名

2 役員は次の通りとする。

(1) 寮長は寮生会を代表し、会務を統括する。また、寮務主事の承認を得て、寮生の居室の割り振りを行う。

(2) 副寮長は寮長を補佐し、寮長に事故ある場合はその職務を代行する。

(3) 書記は、正副寮長を補佐し、この会の事務の運営にあたる。

(4) 会計は、この会の会計に関する会務を行う。

(5) 会計監査は、この会の会計事務を監査する。

3 役員は任期は、10月1日から翌年9月30日までの1年間とし、再任を妨げないものとする。

第3節 役 員 会

第10条 役員会は、この会の運営等に関する重要案件を審議決定する。

第11条 役員会は、寮長・副寮長・書記・会計・会見監査をもって構成する。

2 役員会は、寮長がこれを招集し、議長となる。

第4節 委 員 等

第12条 この会の会務を処理するため、次の役職者を置き、寮生の中から役員会の承認を得て寮長が指名する。

- (1) 厚生委員長 1名
- (2) 管理委員長 1名
- (3) 行事委員長 1名
- (4) 園芸委員長 1名
- (5) 図書委員長 (兼 選挙管理委員長) 1名
- (6) 広報委員長 1名
- (7) 選挙管理委員長 1名

2 役職者の任期は、10月1日から翌年9月30日までの1年間とし、再任を妨げないものとする。

第13条 指導寮生は、役員会の承認を得て寮長が推薦し、寮務主事が承認する。

2 指導寮生の中から男女1名ずつ指導寮生長を、寮務主事が指名する。

3 指導寮生長および指導寮生の任期は4月1日から翌年3月31日までの1

年間とし、再任を妨げないものとする。

**第5節 総務委員会**

第14条 総務委員会は、この会の具体的な会務及び寮生活の改善に関する要望等について審議決定するものとし、次の者をもって構成する。

- (1) 役員
- (2) 厚生委員長
- (3) 管理委員長
- (4) 行事委員長
- (5) 園芸委員長
- (6) 図書委員長 (兼 選挙管理委員長)
- (7) 広報委員長
- (8) 指導寮生監

第15条 総務委員会は、寮長がこれを招集し、その議長となる。

**第6節 厚生委員会**

第16条 厚生委員会は、次の会務を処理する。

- (1) 保健衛生と清掃の徹底
- (2) 大掃除の巡回および点検指導
- (3) 風呂及び清掃の当番の割り当てとその徹底
- (4) トイレ用品、清掃用品などの管理
- (5) その他、総務委員会で必要と認められた事項

第17条 厚生委員会は、各棟各フロア（以下「各フロア」という。）から選出された委員をもって構成する。

第18条 厚生委員会に委員長を置き、会を統括する。  
2 厚生委員会は厚生委員長がこれを招集し、その議長となる。

**第7節 管理委員会**

第19条 管理委員会は、次の会務を処理する。

- (1) 日課を含む寮内の規律の徹底と防災意識の向上
- (2) 寮全体の管理と寮生の意見の反映および調査物のとりまとめ
- (3) 寮内 LAN の管理
- (4) 放送当番の割り当てとその徹底
- (5) その他、総務委員会で必要と認められた事項

第20条 管理委員会は、各フロアから選出されたフロア長をもって構成する。

第21条 管理委員会に委員長を置き、会を統括する。  
2 管理委員会は管理委員長がこれを招集し、その議長となる。

**第8節 厚生委員会**

第22条 行事委員会は、次の会務を処理する。

- (1) 新入生歓迎会
- (2) 耐久レース
- (3) 寮生スポーツ大会
- (4) 餅つき大会
- (5) 卒業寮生送別会
- (6) その他、総務委員会で必要と認められた事項

第23条 行事委員会は、各フロアから選出された委員をもって構成する。

第24条 行事委員会に委員長を置き、会を統括する。  
2 行事委員会は行事委員長がこれを招集し、その議長となる。

**第9節 園芸委員会**

第25条 園芸委員会は、次の会務を処理する。

- (1) 花壇、プランター等の整備
- (2) 花木等の植栽と管理
- (3) その他、総務委員会で必要と認められた事項

第26条 園芸委員会は、各フロアから選出された委員をもって構成する。

第27条 園芸委員会に委員長を置き、会を統括する。  
2 園芸委員会は、園芸委員長がこれを招集し、その議長となる。

**第10節 図書委員会**

第28条 図書委員会は、次の会務を処理する。

- (1) 図書の整備
- (2) 図書（柏木文庫）の管理
- (3) 寮生の不要雑誌等の整理
- (4) その他、総務委員会で必要と認められた事項

第29条 図書委員会は、各フロアから選出された委員をもって構成する。

第30条 図書委員会に委員長を置き、会を統括する。  
2 図書委員会は図書委員長がこれを招集し、その議長となる。

(出典：学生便覧)

# 資料 11

平成19年4月2日 寮務委員会審議  
平成19年4月2日 教員会議提出

## 平成19年度 寮務委員会の努力目標と検討課題

学寮は、「遠隔地からの入学者等に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いの敬愛啓発をはかり人間形成に努める」という教育目的を持っている。

平成19年度の寮務委員会は、「互いが快適にかつ安心して生活し、勉学と課外活動に励むことの出来る活気ある学寮」を目指し、以下の努力目標と検討課題を掲げて、その実現に努力していきたい。

### 1. 努力目標

- (1) 日課・規則の遵守と清掃の徹底
- (2) 静粛自習の励行と勉強会活動の推進
- (3) 自律心・自主性の育成
- (4) 寮生会が定めた1年生に対する指導内容の改善
- (5) 上級生の自立の促進
- (6) 中期計画の遂行
- (7) 挨拶の励行

### 2. 検討課題

- (1) 防災訓練の実施方法
- (2) 住環境の整備
  - ・老朽設備の更新・改修（電話システム、食堂の暖房、トイレ）
  - ・エアコンの設置

(出典：教員会議資料)

第 5 回 寮総務との話し合い 議事録

●日 時：平成 18 年 10 月 05 日 (木) 16:40～  
 ●場 所：寮指導室  
 ●出席者

【寮務委員会】

- ・寮務主事
- ・寮務主事補
- ・寮務係長
- ・寮生会

山ノ内正司  
 道上達広 松尾忠利 齊藤充弘 鈴木敬了  
 石井係長

【寮生会】

- ・寮 長
- ・副寮長
- ・書記
- ・会計
- ・会計監査
- ・厚生委員長
- ・行事委員長
- ・管理委員長
- ・広報委員長
- ・園芸委員長
- ・図書・図書委員長
- ・指導寮生員

<旧役員>

菅原直人  
 佐藤葉丹  
 中島達也 佐藤 怜  
 氏家裕介 榎田周子  
 榎田広希 菅野美英  
 関根一輝 小原知世  
 斎藤太一朗 永田瑠実  
 新園義浩 榎本綾香  
 小川 真 中川晋菜  
 佐藤雅志 北島康祐  
 本名嵩洋 高村亮一  
 渡部恵美 古川 拓

<新役員>

氏家裕介  
 小川 貴  
 本名嵩洋  
 斎藤太一朗  
 渡部達也  
 山田 隼  
 高村亮一  
 古川 拓  
 薄一奨悟  
 永田瑠実  
 渡部恵美  
 鈴木敬了  
 加藤かすみ  
 尾崎理子  
 関分結美  
 熊田周子  
 土山きらら

H18.10.10 掲示

●旧役員から新役員へ一言

●議題

(1) 今後の行事について

●減免作業

10月14日 (土) 作業内容は現在検討中

●寮保護者会 (10/21)

出席申込の締め切り 10月17日 (火)

●学年行事日 (10/26, 27)

昼食の取扱いはい各クラスの予定表に添じて次で次のようにする。

・学内行事 : 食堂にて昼食

・日帰り学外行事 : 弁当用意

・宿泊学外行事 : 10/26の昼は弁当、宿泊に伴う夕食分は代金返却

●スポーツ大会

11月11日 (土) 実施要項は10/20までに行事委員長が作成する。

●中間試験前勉強会

11月13日 (月)～17日 (金) 実施要項は副寮長が作成する。

●後期園芸作業

後期は春咲きの球根を植える。実施日は園芸委員会で決定する。

●任意消灯開始日

11月14日 (火) とする。

●寮役員研修会

11月22日 (水) 15:30～ 大会議室

(2) 検討事項

●各種委員の一覧作成 目下、管理委員長が作成中

●男子寮冷熱源の使用

女子寮を参考に、実情に合わせて「使用上の注意」を作成する  
 「管理」はどの委員会が行うか? →厚生委員長 (月・木曜日)  
 「1年生の使用」について →寮長からアナウンスをする

●寮生が独自に定めたルールの見直し (継続審議)

●規約改正

指導寮生員の任期を、役員と同じにする。(10/1～翌年9/30)

●白雲寮前自転車置場

比較的空いているので、使用学年を変更し、3年生～5年生とする。

(3) その他

●男子風呂の修理

再び予算要求を行った。当分の間ケガしないように注意して欲しい。

●卒業式に関わる事

市民会館新築工事のため、本年度の卒業式会場は本校体育館になる可能性が高い。このことに伴い、寮としても年度末行事を変更せざるを得ないかもしれない。

●XYZ指導の期限

従来から次のようなルールで行われてきたので、再度確認した。

●昼食のハイキング

後期に2回行う予定。

次の期間経過した場合、指導ランクは消滅する。  
 (1) X～YY : 直近の指導開始日から1年間  
 (2) Z : 指導開始日から翌年度 3/31 まで

月	日	曜	行 事
10	14	土	減免作業
21	土	寮保護者会/学級懇談会	
26	木	学年行事日	
27	金	寮防災訓練	
11	1	水	寮6回寮総務との話し合い
11	土	スポーツ大会	
13	月	中間試験前勉強会 (~17日)	
14	火	任意消灯開始日	
22	水	寮役員研修会	
?	?	後期園芸作業 (兼減免措置)	
27	月	後期中間試験開始日	
29	水	共通科目試験日	
12	20	水	大掃除
23	土	閉寮	

(出典：寮務委員会資料)

平成 19 年 6 月分

※宿直については、全て午後 5 時 15 分から翌日午前 8 時 30 分までの勤務となります。(土曜日及び休日も同じ。)

月日及び曜日		宿 直 者				月日及び曜日		日 直 者	
曜日		若葉寮監室		白雲寮監室		曜日		若葉寮監室	
日	曜	氏名	交替者	氏名	交替者	日	曜	氏名	交替者
1	金	梅澤 洋史		根岸 嘉和		1	金		
2	土	田代 均		大槻 正伸		2	土	緑川 猛彦	
3	日	小泉 康一		渡部 順一		3	日	春日 健	
4	月	山ノ内正司		森川 治		4	月		
5	火	伊藤 正義		松江 俊一		5	火		
6	水	渡辺 敏夫		宮澤 泰彦		6	水		
7	木	秋山 秀博		三浦靖一郎		7	木		
8	金	西浦 孝治		高橋 章		8	金		
9	土	木原 淳		井川 治		9	土	島村 浩	
10	日	緑川 猛彦		梅澤 洋史		10	日	西山 公紀	
11	月	菊地 卓郎		坂内 昌徳		11	月		
12	火	遠原 智文		道上 達広		12	火		
13	水	森田 年一		青柳 克弘		13	水		
14	木	芥川 一則		柴田 公彦		14	木		
15	金	春日 健		齊藤 充弘		15	金		
16	土	高橋 宏宣		押手 茂克		16	土	原田 正光	
17	日	高荒 智子		酒巻 健司		17	日	田代 均	
18	月	山田 貴浩		中山 悟視		18	月		
19	火	渡部美紀子		天野 仁司		19	火		
20	水	島袋 修		松本 匡以		20	水		
21	木	高野 克宏		小泉 康一		21	木		
22	金	石原 万里		山ノ内正司		22	金		
23	土	川崎 俊郎		鈴木 晴彦		23	土	森田 年一	
24	日	三浦靖一郎		濱崎 真一		24	日	菊地 卓郎	
25	月	道上 達広		篠木 政利		25	月		
26	火	齊藤 充弘		原田 正光		26	火		
27	水	鳥居 孝栄		島村 浩		27	水		
28	木	松江 俊一		笠井 哲		28	木		
29	金	坂内 昌徳		秋山 秀博		29	金		
30	土	金子 研一		伊藤 正義		30	土		

(出典：教員寄宿舍宿日直勤務命令簿)

(様式1)

### 学寮宿日直命令簿

月日及び曜日		学寮管理棟宿直者		学寮管理棟日直者	
		氏名	交替者	氏名	交替者
6/1	金	會田 俊			
6/2	土	舟山 義一		山野辺 憲子	
6/3	日	遠藤 歩		薄井 久美子	
6/4	月	千葉 純也			
6/5	火	高木 克久			
6/6	水	芳賀 俊彦			
6/7	木	合津 忠一			
6/8	金	石井 和利			
6/9	土	西村 栄		武井 和代	
6/10	日	馬目 孝男		松本 幸恵	
6/11	月	渡辺 昇			
6/12	火	江尻 勝紀			
6/13	水	吉田 浩二			
6/14	木	遠藤 宗明			
6/15	金	藤原 清			
6/16	土	降矢 司		木村 めぐみ	
6/17	日	小口 高昭		安藤 かお里	
6/18	月	野矢 暁			
6/19	火	安藤 守			
6/20	水	鈴木 一宏			
6/21	木	渡邊 康			
6/22	金	宍戸 一貴			
6/23	土	高橋 喜一		宍戸 里果	
6/24	日	和賀 宗仙		遠藤 礼子	
6/25	月	星 隆良			
6/26	火	松口 義人			
6/27	水	鎌田 晃央			
6/28	木	阿部 倫久			
6/29	金	岡部 雅良			
6/30	土	篠木 さくら		加賀 淳子	

(出典：寮務係資料)

## 平成 17 年度教員宿日直(寮監)業務

No	業務内容
1	勤務時間 宿直：17時15分～翌日8時30分 日直：8時30分～17時15分
2	勤務の始めに寮事務室でその日の寮の状況、行事等についての打ち合わせを行ってください。当番への鍵の受け渡しについては、男子が当番の場合には白雲寮監室で、女子が当番の場合には若葉寮監室をお願いします。
3	17時30分頃、寮生が浴室の鍵を受け取りにきますので、これを渡し、浴室を開けたら鍵を返却させてください。
4	Z指導の寮生がいるときは、日誌にコメントを記入しておいてください。 21時に受け取りにきますので渡してください。
5	21時25分に、放送当番が点呼の放送のために寮監室にきますので、寮監室から点呼の放送を行わせてください。寮庭入口の門も閉めさせてください。 また、風呂当番が施錠のため浴室の鍵を受け取りに来ますので渡してください（浴室清掃・施錠後、風呂当番が鍵を持参しますので、これを受け取り、「風呂当番作業表」の内容を確認してサインしてください。）
6	21時30分に寮生全員が食堂に集合します（悪天候時は、こずえ棟と若葉棟に限り巡回点呼としてもかまいません）。「点呼」を行ってください。点呼時不在の寮生がいる場合は、点呼カードに「×」を記入してください。なお、定期試験時は、試験開始の前日から試験終了前日までの間は、夜点呼が巡回点呼となります。
7	22時から、各棟巡回を行ってください。点呼を受けた者で、巡回時に不在で静粛自習を行っていない寮生がいる場合は、点呼カードに「〇」を記入してください。また、点呼時不在で、かつ、巡回時に在寮確認ができなかった寮生については、居室ドアに「不在者連絡票」を貼ってください。さらに、巡回時に浴室の施錠確認を行ってください。月及び木曜日は清掃日ですので、各清掃ヶ所の清掃状況の点検もお願いします。
8	23時30分に不在者の最終確認を行ってください。
9	翌朝7時25分に、放送当番が放送のために寮監室にきますので、寮監室から点呼の放送を行わせてください。休業日の朝は7時35分にきます。放送当番は、補食コーナーの清掃、寮庭入口の開門、ゴミ置き場整頓、朝刊の綴込みも行います（「放送当番確認表」の内容を確認してサインしてください）。
10	7時30分に食堂で点呼を行ってください（定期試験時も同じ）。休業日の朝は、7時40分に白雲寮監が暁・白雲棟を、若葉寮監がこずえ・若葉・青葉棟を分担して巡回点呼を行ってください。
11	8時20分に、XYZ指導者の登校前報告を受けてください（休業日には登校前報はありません）。Z指導者は日誌の提出を行いますので、受け取ってください。
12	8時30分に当直日誌、寮監日誌、点呼カード、Z指導者の日誌など（当直用バッグ）を事務室に提出してください。
13	日直者は、若葉寮監室に詰めてください。各棟巡回は、10時と15時に行ってください。17時15分に当直日誌、寮監日誌、点呼カード、Z指導者の日誌など（当直用バッグ）を事務室に提出してください。

(出典：寮務委員会資料)



新入寮生の皆さんへ

平成 19 年 4 月 18 日

学生相談室長 笠井 哲  
寮 務 主 事 山ノ内正司

## 学生相談室カウンセラーによる講演会について

皆さんが入寮して半月が過ぎました。大きな環境の変化の中で、慣れないことが多いと思います。集団生活上の悩み事や不安をどのように解決すればよいのか、学生相談室カウンセラーの先生から、アドバイスをいただきます。

### 記

1. 日時：平成 19 年 5 月 7 日（月）15 時から
2. 場所：視聴覚教室（図書館 3 階）
3. 講師：福島県臨床心理学会副会長・本校カウンセラー  
熊坂しのぶ 先生
4. 演題：「寮生活におけるストレスの解消法」
5. 対象：新入寮生全員

（出典：寮務委員会資料）

寮生会の中には、いくつかの委員会（厚生、管理、行事、園芸、図書・選挙管理、広報など）が組織され、積極的に活動している。寮務委員会と寮生会は、月一回の割合で定期的な会合を持ち、寮生会行事や寮生活等について打ち合わせを行っている。「寮総務との話し合い（議事録）」は直ちに寮生全員に公示され、寮生と教員組織とのスムーズな連携が図られている（資料7-2-③-3）。寮生会組織と寮の主な年間スケジュールを、以下に示す（資料7-2-③-9）。

資料7-2-③-9

寮生会組織

役員	定員 (人)	役員	定員 (人)
寮長	1	管理委員長	1
副寮長	2	行事委員長	1
書記	2	園芸委員長	1
会計	2	図書委員長・ 選挙管理委員長	1
会計監査	2		
厚生委員長	1	広報委員長	1

寮の主な年間スケジュール

月	行 事 等	月	行 事 等
4	開寮	9	開寮
	新入寮生歓迎夕食会	10	寮生保護者懇談会
	対面式	11	全寮生防災訓練
	耐久レース	12	閉寮
	新入寮生防災訓練	1	開寮
寮生保護者懇談会	餅つきスポーツ大会		
5	寮生保護者懇談会	3	卒業寮生送別会
6	交歓会		学年末閉寮
8	夏季閉寮		

(出典：寮務委員会資料)

団体生活の基本である、規律ある生活を送らせるために、寮には「日課」が定められている（資料7-2-③-10）。朝と夜の2回、寮生全員が一堂に会しての集合点呼が食堂で実施される。病気などで集合点呼に出られなかった者については、当直寮監（教員）がその後の巡回時に確認し、寮生の所在確認に万全を期している。集合点呼時に使用する点呼カードを以下に示す（資料7-2-③-11）。

資料 7-2-③-10

日課表

日 課	平 日	休 日
起 床	7:00	7:30
点 呼	7:30	7:40
清 掃	7:40	8:00
朝 食	7:40～ 8:20	8:00～ 9:00
登 校	8:20	
昼 食	12:00～12:55	12:00～13:00
夕 食	17:30～19:30	17:30～19:30
入 浴	17:30～21:20	17:30～21:20
自 習	20:00～21:30	20:00～21:30
点呼・門限	21:30	21:30
静粛自習	21:30～消灯	21:30～消灯
消 灯	24:00	24:00
【週間予定】		
清掃日 月・木 曜日 (21:00～21:30)		

(出典：寮務委員会資料)

資料 7-2-③-11

点呼カード

暁 3 階			日	1	2	3	4	5	6	7	8	9
班	部 屋	氏 名	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水
3-1	302 右	コ 3	みやかわ ふみや 宮川 史也									
		左 機 3	さかい ひろのり 酒井 宏典									
	304 右	電 2	おおぜき むねのり 大関 宗則									
		左 電 2	ひきち ひろあき 引地 裕昭									
	306 個	建 4	かんの じゅんや 菅野 淳弥									

(出典：寮務委員会資料)

本校の寮では、夜の集合点呼（21時30分）の後から消灯（24時）までは「静粛自習」の時間と決められているが、その時間帯に「勉強会」と称して、上級生（3～4年生）が下級生（1～2年生）に勉強を教える制度を平成17年度からスタートさせたが、これに対する下級生からの評判は概ね良好であった。なお、毎日の寮生活では、各寮生が掃除当番・放送当番・風呂当番などの役割分担をし、それを何人か共同で果たすことになっている。

寮の設備は一通りそろっているが、全体的に老朽化している。また、エアコンなどの設置も今後整備が必要である。自習室及び談話室等の整備状況を、以下に示す（資料7-2-③-12）。

資料7-2-③-12

**自習室・談話室等整備状況**

棟	若葉	青葉	暁	白雲	こずえ・管理棟		食堂・浴室	
定員	女77人	54人	51人	42人	20人			
面積	1,343 m <sup>2</sup>	863 m <sup>2</sup>	745 m <sup>2</sup>	1,057 m <sup>2</sup>	524 m <sup>2</sup>		671 m <sup>2</sup>	
自習室	3室	1室	1室	1室				
	17 m <sup>2</sup>	20 m <sup>2</sup>	18 m <sup>2</sup>	18 m <sup>2</sup>				
談話室	4室	1室	2室	2室	1室			
	17 m <sup>2</sup>	26 m <sup>2</sup>	18 m <sup>2</sup>	24 m <sup>2</sup>	37 m <sup>2</sup>			
食堂							1室	
浴室	1室(女)							1室(男)

(出典：寮務委員会資料)

本校では、毎年度前期と後期に行われる計2回の学級懇談会の日に合わせて、寮生保護者を対象とする「寮生についての懇談会（全体懇談及び個別面談）」を実施している（資料7-2-③-13）。また、寮の紹介のための小冊子「磐陽寮だより」を前期と後期の計2回発行し、寮生保護者に送付して連携強化に努めている（資料7-2-③-14）。

平成19年度寮生保護者懇談会(春季)参加者名簿

番号	学年	学科	氏名	保護者名	懇談希望時刻	懇談希望時刻	担当委員	備考
1	1年	機械	佐藤 博紀	文敬	10:00	10:00	高橋	
2	1年	物質	佐々木 潔明	義高	10:00	10:00	高橋	
3	2年	物質	須田 達仁	潤一	10:00	10:00	山ノ内	
4	1年	機械	吉川 尊之	弘之	11:00	11:00	高橋	
5	1年	電気	佐藤 真啓	義広	11:00	11:00	齊藤	
6	1年	建設	高橋 智大	明	11:00	11:00	山ノ内	
7	1年	二三	森辺 千尋	四郎	11:00	11:00	道上	
8	2年	物質	久野 凌	義幸	11:00	11:15		取消
9	3年	機械	大金 祐哉	信一	11:00	11:15	高橋	
10	1年	電気	野川 正博	正	11:30	11:15	三浦	
11	1年	電気	佐藤 一貴	幸夫	11:30	11:30	中山	
12	1年	建設	大竹 剛史	隆明	11:30	11:30	道上	
13	2年	建設	森岡 広人	勝広	11:30	11:30	中山	
14	2年	二三	高橋 健一郎	母親	11:30	11:30	齊藤	
15	1年	機械	相持 健介	正光	13:00	12:00	高橋	
16	1年	機械	根本 幸佑	栄	13:00	12:00	相澤	
17	1年	電気	佐藤 龍介	恵子	13:00	12:00	中山	
18	1年	機械	西間木 密晴	明広	12:30	12:15	高橋	
19	1年	建設	五十嵐 伸弥	誠	12:30	12:15	齊藤	
20	1年	建設	森野 駿	健	12:30	12:15	道上	
21	1年	建設	高岡 哲史	芳雄	12:30	12:30	齊藤	
22	2年	機械	平野 信	信行	12:30	12:30	中山	
23	2年	電気	吉島 健太	ひとみ	12:30	12:30	三浦	
24	4年	電気	園分 啓徳	清一	12:30	12:45	三浦	
25	2年	機械	馬場 智亮	敏實	13:00	12:45	山ノ内	
26	2年	電気	林 拓哉	賢悦	13:00	12:45	森部美	
27	1年	機械	葉林 広延	祐一	13:00	13:00	相澤	
28	1年	二三	浅井 誠	仁	13:00	13:00	森部美	
29	2年	電気	吉田 章大	雅美	13:00	13:00	中山	
30	2年	二三	鈴木 基代	和英	13:00	13:00	森部美	
31	5年	物質	藤名山 俊	和子	14:30	14:30	中山	
32	2年	物質	藤口 大	正武	16:00前後		道上	
33	1年	電気	菅野 裕太	裕	16:15		山ノ内	
34	3年	建設	菅野 裕太	昭彦			山ノ内	
35	1年	電気	吉田 純平	隆成		学級懇談会終了後	山ノ内	
36	1年	物質	志賀 慎	正恵		学級懇談会終了後	道上	
37	1年	建設	小野 真帆	紀夫		学級懇談会終了後	森部美	
38	3年	機械	速藤 平紀	正彦		学級懇談会終了後	中山	
39	3年	物質	大波 利彦	孝みよ		学級懇談会終了後	中山	
40	3年	物質	佐藤 智彦	久		学級懇談会終了後	道上	
41	3年	建設	水野 潤樹	雅人		学級懇談会終了後	山ノ内	
42	3年	二三	猪俣 伊祐	母		学級懇談会終了後	松江	
43	4年	機械	坂本 敬志				三浦	
44	1年	電気	岡本 宏佑	母			道上	

平成19年5月1日

寮生保護者 各位

福島工業高等専門学校  
寮務主事 山ノ内正司

寮生保護者懇談会(春季)の開催について

賜春の候、保護者の皆様にはご清祥のこととお喜び申しあげます。  
さて、来る5月23日(水)に平成19年度福島高専後援会の定期総会及び春季学級懇談会が開催されます。寮では例年通りこの機会を利用して、寮生の保護者の方の皆様との個別懇談会を下記の要領で開催することにいたしました。参加ご希望の方は下記の用紙に所事項を記入のうえ、学生を通じ5月10日(木)までに寮事務室にお申し込みください。

記

1. 日 時 平成19年5月23日(水) 学級懇談会終了後  
時刻は調整いたします。(懇談会の空き時間もご利用ください。)
2. 場 所 こそえ棟(寮事務室で受付を行います。)
3. 形 式 個別懇談(お一人10分程度とさせていただきます。)

切 り 取 り 線 -----

寮生保護者懇談会(春季)参加申込書

寮生氏名 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_

保護者名 \_\_\_\_\_  
※通信欄(質問等がありましたら、ご記入ください。)

(出典：寮務委員会資料)

スポーツ大会

好天の下、第3回兼生スポーツ大会が、11月3日に開催されました。男女混合でソフトボールを行いました。さあ、プレイボールです！！



チームの勝利のためには外野と後輩も、男子も女子も関係なし。全員野球で頑張りました。試合中に悪わぬ、好プレー・珍プレーも飛び出しました。



今年のMVP(最優秀選手)に輝いたのは、9年電気の直井大輔さんでした。行幸委員長から賞品が贈呈され、本人はとても中身が気になるようです。



卒業生の皆さん卒業おめでとう！

磐陽寮便り

平成18年部第2号 平成19年3月発行 福島高等学校寮委員会

目次

1. 寮務主宰挨拶
2. スポーツ大会
3. 任命式&役員卸辞会
4. バレーボール&餅つき大会
5. ハイキング
6. 卒業生送別会



(出典：寮務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

寮務委員会と寮務係が中心になり、寮生に対して寮行事や寮生活面での支援を行っている。ほとんど全ての教員が寮監として、事務系職員と連携して宿日直業務に当たり、寮生活全般にわたって寮生を援助・支援するシステムが採られている。さらに、上級生が下級生の勉強等の面倒を見る「勉強会」の環境もできつつある。施設的には老朽化が目立つ部分があるものの、生活及び学習の場としての環境は整備されている。以上の理由により、本校においては「教育寮」としての学生寮が整備され、学生の生活及び勉強の場として有効に機能している。

**観点 7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

学級担任が、4年次に学生の進路に関する個人面談を実施する中で、学習支援ニーズを把握している。これらの結果に基づいて、学生の進路希望を就職と進学（編入学）に大別し、進路別教育の時間を毎週1時間放課後に設定して、4年生と5年生を対象に公務員試験対策や編入学試験対策を実施している。準学士課程の学生に対する進路指導関係の年間スケジュールを、以下に示す（資料7-2-④-1）。これに加えて、各専門学科では、学級担任、学科長、卒業研究指導教員等が連携して、当該学科の学生の就職や進学に関する指導・助言を行っている（資料7-2-④-2）。また、進路対策委員会を中心に「進路の手引き」の冊子も作成して4年生の学生全員に配布し、就職・進学のガイドブックとして活用させている（資料7-2-④-3）。

一方、専攻科課程の学生への支援は、主として学生の「特別研究」の指導教員と専攻長が連携して行っている。準学士課程の進路対策委員会、各学科の進路指導教員（5年担任）及び求人や進学の資料収集・整理などに当たる学生課学生支援係との緊密な連絡の下で、学生指導に当たっている。

進路指導関係の年間スケジュール

月	試 験	指 導
4	民間企業就職試験開始（一部3月より開始）	【5年生】（4月～8月） 進路別学習（英語・数学）＜8月まで＞ SPI 能力検査校内模擬試験＜5月まで＞
5	大学編入学試験開始（理工系）	
6	国家Ⅱ種公務員一次試験	進路別学習（国語）＜8月まで＞
8	国家Ⅱ種公務員二次試験	公務員校内模擬試験（国家Ⅲ種，地方初級）
9	国家Ⅲ種公務員一次試験 地方初級公務員一次試験＜中旬＞ （いわき市，福島県他）	
10	国家Ⅲ種公務員二次試験 地方初級公務員二次試験 （いわき市，福島県他） 大学編入学試験開始（文系）	【4年生】（10月～1月） 進路ガイダンス SPI 能力検査ガイダンス 進路別学習（英語・数学）＜2月まで＞
11		面接等指導講習会
12		編入学試験ガイダンス 就職適性検査
1		就職実践模擬試験

（出典：進路対策委員会資料）



No.33

平成19年度 機械工学科 就職求人一覧

機 関	全 体	企 業 名	所 在 地	勤 務 内 容	募 集 人 数	応 募 者	試 験 日	履 歴	写 真	成 績	卒 業 見	健 診	推 薦 書	志 願 書	身 上 指 定	指 定 者	備 考
641	729	スベトリス(株)	東京都千代田区神田	カスタマーマーサポートエンジニア	全5	6/30, 8/31, 10/30	○	○	○	○							
642	619	日東電工(株) 関東事業所	埼玉県深谷市	研究開発	1			○	○	○	○	○	○	○	○		指定=卒論要旨
643	730	カンタツ(株)	栃木県矢板市	機構設計他	1			○	○	○	○	○	○	○			
644	731	トーヨーカーネツ(株)	東京都江東区東砂	設計、生産技術、工事施工管理等	全10			○	○	○	○	○	○	○			
645	732	株式会社・コンピュータ・サービス	茨城県日立市	プログラマ、SE	全4	9/1~		○	○	○	○	○	○	○			
646	733	京浜精密工業(株)	神奈川県横浜市神奈川区	開発、設計、生産技術、品質管理等	全10	6/20	6/6~	○	○	○	○	○	○	○			
647	734	古河電池(株) いわき事業所	いわき市常磐下船尾町	研究開発、製品設計、生産技術、情報処理等	全2			○	○	○	○	○	○	○			
648	735	株式会社	東京都千代田区神田	設計・デザイン、研究開発、製造等	全5	6/18		○	○	○	○	○	○	○			
649	736	株式会社産テクノ	神奈川県厚木市	車体、内装、シャシー、エンジン等の部品設計	若干			○	○	○	○	○	○	○			
650	739	アドソル(株)	東京都港区港南	システムコンサルティング、SE、プログラマ	全35	昨年6/27		○	○	○	○	○	○	○			
651	740	株式会社製作所	大阪府箕面市	企画営業、システム設計・開発				○	○	○	○	○	○	○			
652	741	セントラル警備保障(株)	東京都新宿区西新宿	警備職・技術職	全25			○	○	○	○	○	○	○			
653	742	日精(株)	東京都千代田区霞ヶ関	機械式駐車設備の設計、技術管理、生産技術等				○	○	○	○	○	○	○			指定=自己紹介書
654	745	福島セラミック(株)	伊達市保原町	製造、製造技術	2			○	○	○	○	○	○	○			
655	748	宇部興産(株) 千葉石油化学工場	千葉県市原市	プラントの運転管理、ユーティリティ設備の運転管理	若干			○	○	○	○	○	○	○			
656	749	株式会社	茨城県日立市	ソフト設計・製作	全5	5/31	5/31	○	○	○	○	○	○	○			
657	750	株式会社製作所 真岡工場	栃木県真岡市	生産技術	全2			○	○	○	○	○	○	○			
658	751	株式会社エイブル	双葉郡大熊町	機械設計開発、試験・試運転業務	1			○	○	○	○	○	○	○			
659	752	アイリスオーヤマ(株)	宮城県仙台市青葉区	一般技術職・特許		6/15	6月										詳細は連絡
660	753	東北デバイス(株)	岩手県花巻市	技術開発	全2	2008.1/20	2008.1/20	○	○	○	○	○	○	○			

(出典：平成19年度機械工学科就職求人一覧)

目 次

I. 就職のためのガイド	1
1. 就職活動に当たっての注意	1
1.1 就職関係手続きの流れ	2
1.2 職業・会社選択に当たっての注意	2
(1) 適性の把握	2
(2) 幅広い視野に立って職種を選ぶ	2
(3) 志望する会社の決定	2
(4) 公務員試験について	2
(5) その他	2
1.3 書類作成・応募に当たっての注意	2
(1) 履歴書の作成について	2
(2) 身上書の作成について	2
(3) 健康診断証明書について	2
(4) 応募について	3
(5) 書類の交付について	3
1.4 会社訪問に当たっての注意	3
(1) 準備	3
(2) 服装や所持品のチェック	3
(3) 時間	3
(4) 学校への届け出について	3
1.5 筆記試験に当たっての注意	3
1.6 面接試験に当たっての注意	4
(1) 企業の求める人材	4
(2) 面接試験までの準備	4
(3) 面接試験の種類	4
(4) 面接試験の心構え	4
(5) 動作・態度のポイント	4
(6) 質問の受け答えのポイント	5
(7) 言葉遣いの注意	5
(8) よくされる質問	5
(9) 面接試験の評価項目	7
1.7 合否の通知・採用内定以後について	7
2. 就職のために準備する書類	8
3. 履歴書記入例	8

進路の手引き

— 就職・進学のためのガイドブック —



平成 18 年 9 月

福島工業高等専門学校

(出典：福島工業高等専門学校「進路の手引き」)

(分析結果とその根拠理由)

本校準学士課程では、進路対策委員会が中心になり、進路指導のための年間スケジュールを策定し、それに沿った指導を行っている。また、4、5年生を対象に進路別教育の時間を毎週放課後に設定し、就職や進学（大学編入学）の試験対策を実施している。これに加えて、各専門学科では、学級担任、学科長、卒業研究指導教員等が連携して、当該学科の学生の就職や進学に関する指導・助言を行っている。専攻科課程では、主に学生の「特別研究」の指導教員と専攻長が連携して進路指導に当たっている。以上のことから、就職や進学などの進路指導体制が整備され、有効に機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・各種資格検定の一覧表を作成して学生に提示し、資格取得の学生には特別学修としての単位認定を行うなど、各種資格試験や検定試験受講のための支援体制が充実しており、成果を上げている。
- ・全教員でクラブ指導に当たるなど課外活動面での支援体制が充実しており、学生が各種の大会に出場して優勝するなど、その活躍が顕著である。
- ・4、5年生を対象とする独自の「進路別教育」を実施しており、毎年ほぼ100%の就職率や進学率を達成するなど成果を上げている。

### 【改善を要する点】

- ・障害のある学生への支援体制と設備の対策が必要である。
- ・寮の基幹の施設・設備等に関して老朽化している部分があり、早急な対策が必要である。

## (3) 基準7の自己評価の概要

基準7-1の学生支援等に関しては、準学士課程及び専攻科課程においてそれぞれ入学時に入学ガイダンスを実施しているほか、各学科においてもそれぞれ特色のあるガイダンスを行っている。

学習支援として、教員全員がそれぞれオフィスアワーを設定し学習指導を実施しており、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され機能している。

各学科、専攻科、TOEIC委員会、国際交流委員会等が中心になり、資格検定試験や外国留学等の学生の支援に取り組んでいる。各種資格の取得奨励のため、学校が指定する各種資格検定の一覧表を作成して学生に提示し、資格取得の学生に対しては特別学修として単位を認定するなどの措置を講じており成果を上げている。国際交流委員会や学級担任を中心として、留学生の学習支援を行っている。また編入学生に対しては、学習指導担当教員と生活指導担当教員の2人による指導体制を設けて学習面等の支援に当たっている。なお、本校では、過去に障害を持つ学生等を受け入れた実績がないことから、この様な学生等への支援体制の整備については、今後さらなる検討が必要である。

全てのクラブ団体に顧問教員・職員を配置し、学生のクラブ活動の支援と指導に当たっている。その結果として、多くの学生がクラブ活動や愛好会の活動等に参加し、各種の大会やコンテストに出場して好成績を残している。

基準7-2の学生生活支援に関しては、学生委員会や学級担任を中心に、学生の厚生補導、生活指

導，交通指導に当たっている。学生の厚生補導施設としての保健室や学生相談室も整備され，学生の健康面及び生活面での支援を行っている。また，各種の奨学金制度や授業料免除制度も整備され，経済的に就学困難な学生への支援に活用されている。

寮務委員会と寮務係が中心になり，寮生の生活面での支援を行っている。ほとんど全ての教員が寮監として宿日直業務に当たり，事務系職員と連携して寮生を援助・支援するシステムが採られている。施設的には老朽化が目立つ部分があるものの，生活及び学習の場としての寮環境は整備されている。

本校準学士課程では，進路対策委員会が中心になり，4，5年生を対象に進路別教育を実施し，また専攻科課程では，主に学生の「特別研究」の指導教員と専攻長が連携して進路指導に当たっており，学生の就職や進学などの進路指導体制が整備され，有効に機能している。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

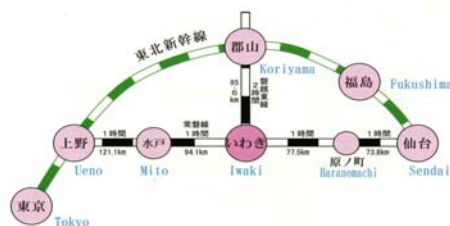
観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化の配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

校地は、市街地から約 3 km 離れた高台に、また緑に包まれた教育にふさわしい環境の中に位置している（資料 8-1-①-1）。

資料 8-1-①-1

案内図 Location



■ 交通案内

- 【JRの場合】最寄りの駅はJR常磐線いわき駅です。
- ※上野駅から特急スーパーひたちで約2時間15分
- ※仙台駅から " " 約2時間
- ※JR常磐線いわき駅からタクシーで約5分
- ※JR常磐線いわき駅前から新常磐交通バス約10分
- (⑥番のりば鹿島経由小名浜行き又は明星大経由ラパークいわき行きで高専前で下車)

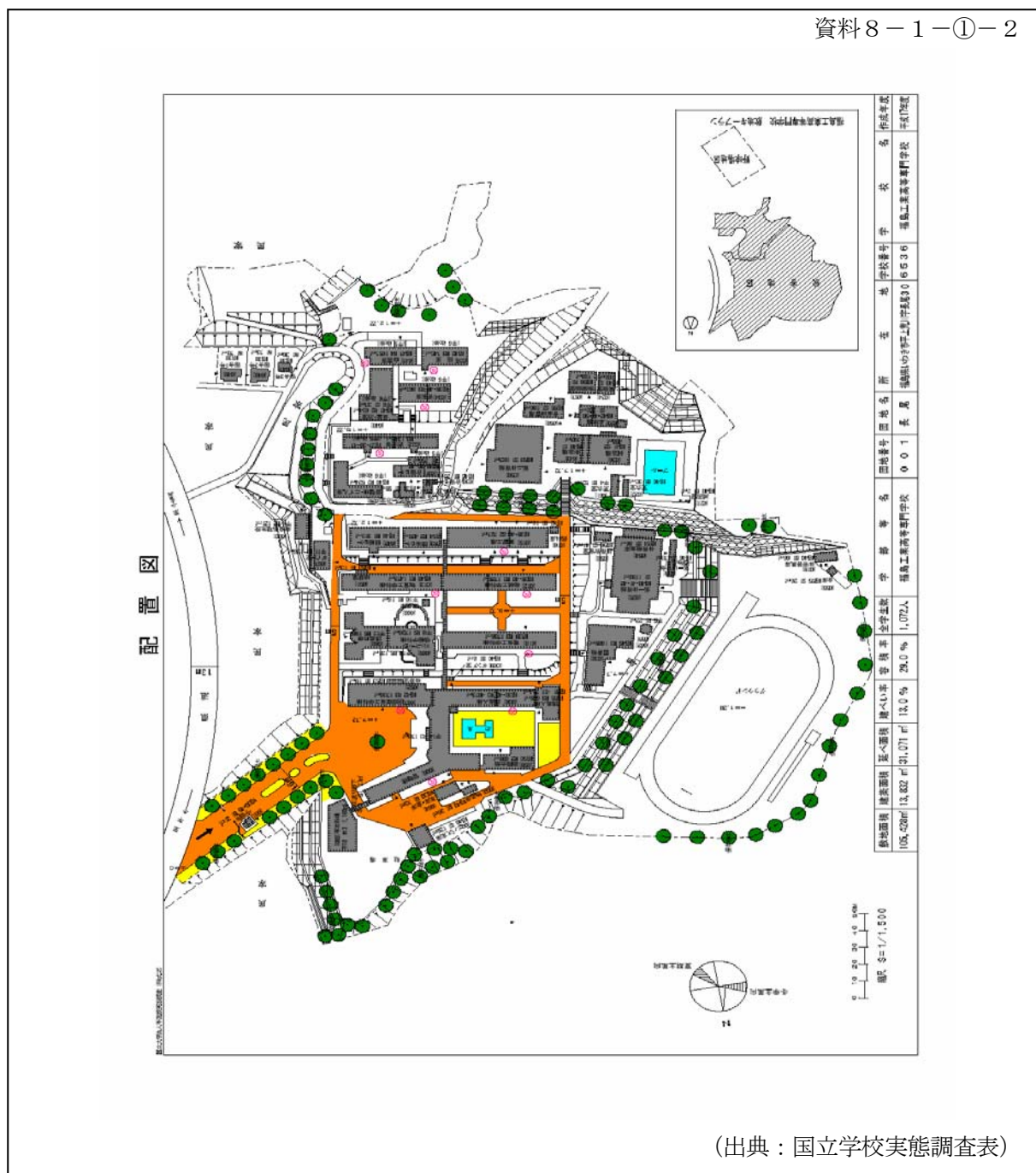
- 【自動車の場合】高速道路利用
- ※常磐自動車道、磐越自動車道ともいわき中央ICから車で約15分

(出典：福島工業高等専門学校要覧)

校舎敷地内の建物（資料8-1-①-2）としては、管理棟、講義棟、専門学科棟、専攻科棟、附属施設（図書館、情報処理教育センター、地域環境テクノセンター、実習工場）が配置され、また学生の休息等に利用できる福利厚生施設（磐陽会館）には、池、庭園があり学生の憩いの場を確保している。運動施設としては、第一グラウンド（陸上競技トラック、サッカーグラウンド、ラグビーグラウンド）、第二グラウンド（野球場、テニスコート）、第一体育館、第二体育館、武道館（柔道場、剣道場）、卓球場、プール等があり、放課後のクラブ活動等に活用されている（資料8-1-①-3）。運動施設は、一般市民にも開放されている。

新装したLL教室には、学生端末48台を備えたフルデジタルのCALLシステムを導入しており、TOEIC対策の市販ソフトが備えられている。放課後も開放して学生の英語力向上の意欲に応えている（資料8-1-①-4）。

資料8-1-①-2



(出典：国立学校実態調査表)

建物面積等

建 物 名	延べ面積	主 な 室 名	備 考
管理棟	3,660 m <sup>2</sup>	事務部 (3 課)、校長室、部長室、会議室 (大・小 2 室)、事務電算室、コモンスペース (2 室)、インフォメーションサロン、物理実験室 (3 室)、ゼミ室、学生ホール、研究室 (14 室) 他	
高学年棟 (講義A棟)	1,468	講義室 (8 室)、LL 教室、階段教室、ゼミ室 (3 室) 他	LL 教室 (84 m <sup>2</sup> フルデジタル CALL システムを導入)
低学年棟 (講義B棟)	1,990	講義室 (12 室)、理科実験室 (2 室)、研究室 (2 室)	
専門学科棟 (機械工学科棟)	1,729	材料実験室 (2 室)、機械工作実験室、機械力学実験室、流体実験室、精密測定実験室、自動制御実験室、製図室、実習室、研究室 (10 室) 他	材料実験室 (74 m <sup>2</sup> ゴルフロボット)、機械力学実験室 (46 m <sup>2</sup> CNC マシニングセンター)
(電気工学科棟)	1,656	実験室 (3 室)、IC 実験室 (2 室)、情報応用実験室、研究室 (11 室)、卒研室 (4 室) 他	情報応用実験室 (クライアントコンピュータ 47 台他)
(物質工学科棟)	1,472	物質工学実験室 (3 室)、生化学実験室、物理化学実験室 (2 室)、化学工学実験室、分析化学実験室、有機化学実験室、無機化学実験室、研究室 (6 室)、卒研室 (2 室) 他	
(建設環境工学科棟)	1,730	コンクリート構造実験室、水理実験室、土質実験室、環境系実験室、情報処理室、計画系演習室、構造演習室、リサイクル工学実験室、水環境実験室、ゼミ室、研究室 (9 室) 他	土質実験室 (102 m <sup>2</sup> 油圧サーボ振動試験器)、水環境実験室 (28 m <sup>2</sup> オートアナライザーシステム)
(コミュニケーション情報学科棟)	1,851	講義室 (5 室)、マルチメディア演習室、情報処理演習室、コミュニケーション演習室、図書資料室、研究室 (4 室) 他	コミュニケーション演習室 (102 m <sup>2</sup> パソコン)
付属施設 (図書館)	1,689	書庫、閲覧室、事務室、学生ホール、ゼミ室 (2 室)、視聴覚教室、音楽室他	書庫 (173 m <sup>2</sup> ) 閲覧室 (230 m <sup>2</sup> ) 蔵書数 (78,988 冊)
(情報処理教育センター)	313	情報基礎演習室、画像処理演習室、サーバ室、管理室、IT 研究室他	教育用電子計算機システム情報基礎演習室 (97 m <sup>2</sup> クライアントコンピュータ 47 台他)

建 物 名	延べ面積	主 な 室 名	備 考
(地域環境テクノセンター)	420	機器室(2室)、電顕室、大気生物実験室、水質・廃棄物実験室、騒音実験室、管理室、技術相談室他	電顕室(19㎡走査型顕微鏡SEM) 機械室(30㎡高速液体クロマトグラフ、核磁気共鳴装置)
(実習工場)	772	機械実習工場、鑄造溶接工場、創造工房他	機械実習工場(245㎡ワイヤー放電加工機、簡易NCフライス盤他)
屋内運動場 (第一体育館)	1,193	体育室、器具庫、トレーニング室他	体育室(862㎡)
(第二体育館)	288	体育室、器具庫、管理室他	体育室(798㎡)
(武道館)	692	剣道場、柔道場、更衣ロッカー室他	剣道場(279㎡)、柔道場(242㎡)
(卓球場)	268	卓球室、更衣室	卓球室(240㎡)
福利厚生施設 (磐陽会館)	698	食堂(厨房含)、売店、保健室、学生相談室、和室、ミーティングルーム他	
(合宿研修センター)	356	多目的室(2室)、捕食室、当直室他	
寄宿舎 (管理棟・こずえ寮)	524	事務室・応接室、当直室、寮室、(12室)、談話室(2室)、浴室他	(入寮定員244人) 男子20人
(若葉寮)	1,343	寮監室、当直室、寮室(55室)、自習室(3室)、談話室(2室)、浴室洗濯室他	女子77人
(青葉寮)	863	寮室(26室)、自習室(2室)、談話室(2室)、洗面洗濯室(3室)他	男子51人
(暁寮)	745	寮室(28室)、自習室、談話室、洗面洗濯室(3室)他	男子42人
(白雲寮)	1,057	寮室(37室)、自習室、談話室、捕食室、洗濯室(4室)寮監室他	男子54人
(食堂浴室)	671	食堂、厨房、浴室、ボイラー室他	

(出典：「自己点検・評価」ワーキンググループ資料)



資料 8-1-①-4



LL 教室授業風景

(出典：英語科資料)

平成13年度から14年度にかけて、低学年棟の新営と高学年等および管理棟の改修が行われ、車椅子用スロープ・トイレやエレベータの設置等のバリアフリー化が実施された。その他の建物等のバリアフリー化に関しては、これまでに障害のある学生の入学がなかったため未整備の状況であるが、学内の施設整備専門部会で整備計画の策定を行っている（資料 8-1-①-5）。また、平成17年度には建設環境工学科棟の耐震補強工事が実施された。

(a) 図書館、視聴覚室

施設は学生ホール、ゼミ室、視聴覚室、音楽室等と併設しており、図書室は専有延床面積が647㎡である。閲覧室には50席の座席、ビデオ閲覧コーナー（座席数2）、雑誌閲覧コーナー（座席数10）と蔵書検索用のコンピュータ1台、ネットワークを利用できる検索用コンピュータ3台、コピー機1台を設置している。学生ホールは自学自習スペースとして開放されており、グループ学習などに利用されている。3階の視聴覚室には座席数が100席あり、授業や研究発表、講演会の会場としても利用されている。近年の学術雑誌の電子ジャーナル化に伴い長岡技術科学大学の高専支援を受けた電子ジャーナルコンソーシアム（資料 8-1-①-6）の利用が可能である。開館時間は、月曜日～金曜日は8時30分～20時15分、土曜日は9時～16時である。

平成 18 年 12 月 15 日

運 営 会 議

福島工業高等専門学校バリアフリー化整備計画

1. 福島工業高等専門学校の施設整備計画において「ハートビル法（高齢者、身体障害者が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律）」に基づき、2に記す整備計画建物中、○次の設備を整備する。

- ①スロープ（「ス」と略以下同じ。）
- ②身障者トイレ「ト」
- ③エレベータ「E」
- ④自動ドア「自」
- ⑤その他「他」

2. 整備計画建物

棟 名 称	構造・階	ス	ト	E	自	他	備 考
電気工学科棟	R・3	○	○	○	○	—	
機械・物質工学科棟	R・3	○	○	○	○	—	
実習工場	S・1	○	—	—	○	—	
図書館	R・3	○	○	○	○	—	
情報処理教育センター	R・1	○	○	—	○	—	
地域環境テクノセンター	R・2	○	○	—	○	—	
講義A棟（新教室部）	R3+S1	○	—	—	—	—	
第1体育館	S・2	○	○	—	○	—	
第2体育館	S・1	○	○	—	—	—	
渡り廊下	S・1	○	—	—	—	—	
寄宿舎管理棟（こずえ寮）	R・2	○	○	—	○	—	
寄宿舎若葉寮	R・3	○	○	○	○	—	
寄宿舎青葉寮	R・3	○	○	—	—	—	
寄宿舎白雲寮	R・4	○	○	○	○	—	
寄宿舎暁寮	R・3	○	○	—	—	—	白雲寮接続
寄宿舎食堂・浴室	R・2	○	—	—	○	—	
磐陽会館	R・2	○	○	—	○	—	管理棟接続済

3. 整備計画の実施に係る予算等

- ・施設整備費・施設補助金—概算要求（原則 2,500 万以上）
- ・施設整備費・施設補助金—当縛要求（原則 2,500 万未満）
- ・運営費交付金等—学内保全管理経費

4. 整備計画の検討委員会等

- ・運営会議（施設整備有効活用等に関する専門部会を含む）での議を経て校長が決する。

注) 整備済み建物

棟 名 称	構造・階	ス	ト	E	自	他	備 考
コミュニケーション情報学科棟	R・5	○	○	○	○	—	
講義B棟	R・5	○	○	—	—	—	
管理棟・講義A棟	R・3	○	○	○	○	車	
建設環境工学科棟	R・3	○	○	○	○	車	
専攻科棟	R・3	○	○	○	○	車	

注) 「他」中「車」とは車椅子使用駐車場が整備されてことを示す。

(出典：運営会議資料)

American Mathematical Society  
**MathSciNet**

平成17年12月8日  
電子ジャーナル部門

沖縄高専から取りまとめ役を引き継ぎました。

1. 契約

	2004年	2005年	2006年
契約概要	契約概要	契約概要	契約概要
契約書	英文 ( host site / member ) * 記入例		
契約経緯	2004年版	2005年版	2006年版
見積	2004年版	6月/10月 最終見積金額	2005年参加高専 見積希望高専 最終見積
MathSciNetとは	AMS説明 / 日本総代理店丸善		
トライアル			申込方法
コンソーシアム 参加用ファイル	参加確認票/購読履歴	購読履歴(6月)	
契約手続き		2005年	2006年
契約期間	1月~12月		
契約形態	年間契約 (毎年契約書提出)	年間契約	年間契約

参加高専一覧

2004年 (平成16年)	福島、茨城、小山、群馬、東京、富山高専、石川、長野、豊田、鈴鹿、奈良、和歌山、松江、津山、呉、宇部、大島商船、高松、詫間電波、新居浜、弓削商船、久留米、有明、佐世保、八代、都城、沖縄、神戸市立 (28高専)
2005年 (平成17年)	釧路、一関、宮城、福島、茨城、小山、群馬、木更津、東京、富山高専、石川、福井、長野、沼津、豊田、鳥羽商船、鈴鹿、奈良、和歌山、松江、津山、呉、宇部、大島商船、高松、詫間電波、新居浜、弓削商船、久留米、有明、北九州、佐世保、大分、都城、鹿児島、沖縄、大阪府立、神戸市立 (38高専)
2006年	釧路、一関、宮城、鶴岡、福島、小山、群馬、木更津、東京、富山高専、石川、福井、長野、沼津、豊田、鳥羽商船、鈴鹿、奈良、和歌山、

(b) 情報処理教育センター

情報処理教育センターは、情報処理の教育及び研究に資するために設置され、COMPAQ 社製のワークステーション、パーソナルコンピュータで LAN を構築しており、学内 LAN 設備として各種サーバ類、ネットワーク管理機器が設置されている（資料 8-1-①-7~8）。

資料 8-1-①-7

# 情報処理教育センター

Information Processing Education Center

本センターは、情報処理の教育及び研究に資するために設置され、COMPAQ製ワークステーション、パーソナルコンピュータで LAN を構築しています。

学内 LAN 設備の中核機能を持ち、各種サーバ類、ネットワーク管理機器が設置されています。

インターネットへは、専用回線で TOPIC（仙台）へ接続し、全国の大学、高専及び研究機関はもとより、全世界と

24時間情報のやりとりを行っています。さらに、平成9年12月より、OCNへも専用線で接続し、ネットワークの信頼性の向上、負荷分散を行っています。

演習用端末は、授業時間以外は学生に開放されています。また、毎年一般向けに公開講座を実施し、市民の方が訪れます。

The Information Processing Education Center was founded as a resource for both education and research. The Center contains the COMPAQ workstations and personal computers and various servers and network management equipment which compose the core of the intramural LAN.

The Center has access to the Internet via a dedicated connection to TOPIC (sendai) and engages in a twenty-four-hour-a-day exchange of information with public and private universities,

other national colleges of technology, and research institutes not only within Japan but worldwide as well. Since December 1997, the Center has been connected by dedicated line to OCN, improving network reliability and distribution of network load.

Computer terminals are also available for use by students outside of class time. Open education courses are held every year and attended by the general public.

●主な施設・設備

1. 建物 (313m<sup>2</sup>)

- 管理室
- サーバ室
- 画像処理演習室
- IT 研究室
- 情報基礎演習室
- 授業準備室
- 空調機器室

2. 設備

- (1)教育用計算機システム
- Windowsブートサーバ6台
- 認証サーバ4台
  - ・hp Proliant DL360
  - ・Windows Server 2003 SE(SP1)
- Windowsファイルサーバ
  - ・hp Proliant DL380
  - ・Windows Server 2003 SE(SP1)
- メール兼プライマリDNSサーバ
- Proxy兼DNSセカンダリサーバ
- Linuxブートサーバ2台
  - ・hp Proliant DL360
  - ・Redhat EnterpriseLinux 4
- Linuxファイルサーバ兼DHCPサーバ
  - ・hp Proliant DL380
  - ・Redhat EnterpriseLinux 4
- 3. 演習室
- (1)情報基礎演習室
- (2)情報応用演習室 (電気工学科棟)
- (3)情報コミュニケーション演習室 (コミュニケーション情報学科棟)
- クライアント計148台
  - ・IBM ThinkCentreM51
  - ・Windows XP Professional SP2
  - ・Red Hat Desktop

Main Facilities

Buildings(313m<sup>2</sup>)

- Administration Room
- Server Room
- Image Processing Room
- IT Laboratory
- Computer Room for Literacy
- Lesson Preparation Room
- Air Conditioning Equipment Room

Facilities

- Training System
- Windows Boot Server(6units)
- Authentication Server(4units)
  - ・hp Proliant DL360
  - ・Windows Server 2003 SE(SP1)
- Windows File Server
  - ・hp Proliant DL380
  - ・Windows Server 2003 SE(SP1)
- Mail and Primary DNS Server
- Proxy and DNS Secondary Server
- Linux Boot Server(2units)
  - ・hp Proliant DL360
  - ・Redhat EnterpriseLinux4
- Linux File and DHCP Server
  - ・hp Proliant DL380
  - ・Redhat EnterpriseLinux4
- Computer Room
- For Computer Literacy
- For Application Software
- For Communication
- Client Computer(148units)
  - ・IBM ThinkCentreM51
  - ・Windows XP Professional SP2
  - ・Red Hat Desktop

プリンタ

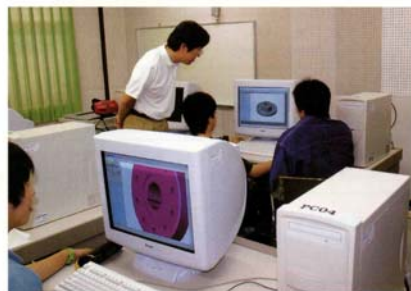
- ・EPSON LP-9200計1台
  - ・EPSON LP-2500計4台
  - ・Canon W6400計1台
- スキヤナ
- ・Canon CanoScan5400F
- 計3台

Printer

- ・EPSON LP-9200(1unit)
  - ・EPSON LP-2500(4unit)
  - ・Canon W6400(1unit)
- Scanner
- ・Canon CanoScan5400F
- (3units)



講義演習室 Lecture and Seminar Room



画像処理演習室 Image Processing Room

資料 8-1-①-8

情報処理教育センターの設備（建物）

室名	面積	室名	面積
情報基礎演習室	97m <sup>2</sup>	空調機器室	17m <sup>2</sup>
画像処理演習室	39m <sup>2</sup>	情報処理教育センター 建物全体	313m <sup>2</sup>
管理室	39m <sup>2</sup>		
サーバ室	33m <sup>2</sup>	情報応用演習室 (電気工学科棟)	76m <sup>2</sup>
IT 研究室	25m <sup>2</sup>		
授業準備室	21m <sup>2</sup>		

情報処理教育センターの主な設備・システム

設備・システム等	主な機器
教育用電子計算機システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・COMPAQ ProLiant ML370 (5 台)</li> <li>・パーテックスリンク WPC-6209E (教員授業用：2 台、学生演習用：95 台)</li> <li>・ネットワークプリンタ (4 台)</li> </ul>
校内 LAN システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Extreme Networks Alpine 3808 (1 台)</li> <li>・Extreme Networks Alpine 3804 (2 台)</li> <li>・Extreme Networks Alpine 3802 (8 台)</li> <li>・校内情報コンセント (250 組)</li> </ul>
画像処理システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像処理用サーバ (5 台)</li> <li>・画像処理用クライアント (5 台)</li> </ul>
演習室 ・情報基礎演習室 ・情報応用演習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザ認証用メインサーバ 1 台 (COMPAQ 製 ProLiant ML370)</li> <li>・ユーザ認証用バックアップサーバ 2 台 (COMPAQ 製 ProLiant ML370)</li> <li>・ファイルサーバ 1 台 [兼学生用メールサーバ] (COMPAQ 製 ProLiant ML370)</li> <li>・計算サーバ 1 台 [兼プリントサーバ] (COMPAQ 製 ProLiant ML370)</li> <li>・クライアント 97 台 (パーテックスリンク社製 WPC-6209E)</li> </ul>
主なソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Microsoft Office 2000 Professional</li> <li>・Microsoft Visual Studio 6.0</li> <li>・Typing Pro Ver. 1.0 (基礎演習室のみ)</li> <li>・AutoCAD LT97 (応用演習室のみ)</li> <li>・NORTON Anti Virus Education Suite</li> </ul>
ウィルス対策システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TrendMicro 社製 Virus Wall</li> <li>・McAfee 社製 Asap</li> </ul>

(出典：情報処理教育センター資料)

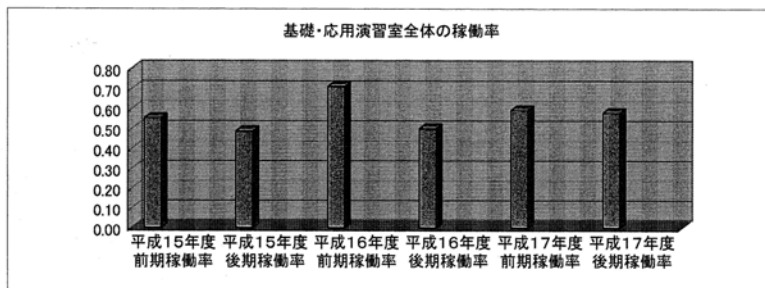
演習用端末は、授業時間以外は学生に開放されており、また、公開講座においては一般市民へも開放している。開放時間は、平日は8時40分～19時（水曜日は17時15分まで）、土曜日は9時～16時となっている（資料8-1-①-9）。情報処理教育センター内の演習室以外に、電気工学科棟とコミュニケーション情報学科棟に情報応用演習室があり、1基礎演習室と2情報応用演習室からなる3演習室体制を採っている。

資料8-1-①-9

情報演習室使用状況(授業時間割による)

	月								火								水								木								金								稼働率
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	
H15(前期) 基礎演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.68		
H15(前期) 応用演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.42			
H15(後期) 基礎演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.58			
H15(後期) 応用演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.39			
H16(前期) 基礎演習室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.79			
H16(前期) 応用演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.63			
H16(後期) 基礎演習室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.61			
H16(後期) 応用演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.39			
H17(前期) 基礎演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	0.53			
H17(前期) 応用演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.66			
H17(後期) 基礎演習室	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.58			
H17(後期) 応用演習室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.58			

平成15年度 前期稼働率	0.55
平成15年度 後期稼働率	0.49
平成16年度 前期稼働率	0.71
平成16年度 後期稼働率	0.50
平成17年度 前期稼働率	0.59
平成17年度 後期稼働率	0.58



(出典：情報処理教育センター資料)

(c) 地域環境テクノセンター

地域環境テクノセンター（資料8-1-①-10）は、平成18年度に新しく開設された。従前の環境科学教育研究センターと地域交流センターの両機能を合わせ、かつ効率よく新しい展開を図ることを目標としている。これまでの研究・教育の成果や試験・分析・教育技術等を活用して、積極的に地域の産業や文化の発展に貢献することを目的として設置された、産学官民連携推進のための支援機関である。また、環境科学に関する知識、技術の教育・研究を行い、地域社会の産業発展と住民の生活環境の向上に貢献している。運営は専門5学科と一般教科で構成される運営委員会によって行われ、4つの部門（管理運営、リエゾン、技術支援、教育支援）に分かれて活動している。また、研究・開発支援、試験・分析サービス、技術相談、講演会や研究会の実施、技術・教育シーズ集の公開、公開講座・実習、出前授業等、多岐にわたって地域の企業や小・中学校に対する支援を行っている。



## 地域環境テクノセンター


Center for Environmental Technology and Community Liaison (CETCL)

本センターは今年度新しく開設されたものです。これまでの環境科学教育研究センターと地域交流センターとの協働を合わせ、かつ効率よく新しい環境を拓くことを目指しています。本校が持つ研究・教育の成果や試験・分析・教育技術等を地域の産業や文化の発展に積極的に貢献することを目的として設置された産学官民の連携を推進するための支援機関です。また環境科学に関する知識、技術の教育および研究を推進しており、地域社会の産業の発展と住民の生活環境の向上に貢献します。運営は、専門15学科および一般教員で構成される委員会によって行われ、4つの部門（管理運営、リエゾン、技術支援、教育支援）にわかれて活動しております。

研究・開発支援、試験・分析サービス、技術相談、講演会の開催や研究会の運営、技術・教育シーズの公開、公開講座・実習、出版授業等多岐にわたっており、地域の企業や小中学校に対する支援を行っています。

The CETCL opened in 2009 with the aim of integrating the functions of the former Environmental Science Education and Research Center and the Local Information Exchange Centre, and developing new projects efficiently. The Center comprises a support organization that has been established to promote cooperation between industry, academia (local) and government with the aim of contributing to the development of local industry and culture by actively sharing the results of KOSEN's daily research and education, and incorporating related to environmental science and education. The Center engages in research and education concerning emerging technologies for the development of local industry and improvement of environment. The Center is administered by a committee comprising members selected from each of the 15 departments, which engages in four categories of activities (management and administration, liaison, technical support and educational support).

The Centre provides assistance for research and development, experimental support, technical consultation, holds lectures and hosts conferences; publishes a List of Subjects for Technology and Education; holds open college meetings and training sessions; provides specialist classic; and engages in a wide variety of other activities that support local businesses, and primary and junior high schools.



電子顕微鏡室 (SEM) 画像解析



電子顕微鏡室 (SEM) 画像解析



本センターの産学連携活動の公開講座  
Open lectures offered as a part of junior high school's integrated education



本センターの産学連携活動の公開講座  
Open lectures offered as a part of junior high school's integrated education

●施設設備 Facilities Equipment

室名 Room	主要機器名及び装置類	Main Apparatus and Equip.
第一管理室 First Management Room	高度電子顕微鏡 (SEM) 高度液状クロマトグラフ 高度液状分級装置 イオンプロマトグラフ	Scanning Electron Microscope High Pressure Liquid Chromatograph High Speed Centrifugal Separator Ion Chromatograph
電子顕微鏡室 Electron Microscope Room	X線分光分析装置 (EDS) 高度電子顕微鏡 (SEM) 電子線分光装置 (EDS) 電子線分光装置 (EDS)	Electron Spectrometer for X-ray Analysis Scanning Electron Microscope Energy Dispersive Spectrometer Energy Dispersive Spectrometer
大気・生物実験室 Atmosphere and Biological Publication Laboratory	電子線分光装置 (EDS) 電気伝導装置 気体発生装置 自動測水装置 自動測水装置	Atomic Absorption Spectrometer Electromagnetic Apparatus Weather Observations Apparatus Auto Sampler for Precipitation Auto Sampler for Precipitation
測定室 Measurement Room	紫外分光分析装置 紫外分光分析装置 紫外分光分析装置 紫外分光分析装置	UV-Vis Spectrometer UV-Vis Spectrometer UV-Vis Spectrometer UV-Vis Spectrometer
水質・環境分析室 Water Pollution & Waste Treatment Laboratory	イオンメータ 電位計 電導度計 pHメータ	Flow Meter pH Meter Conductivity Meter Ion Meter
第二管理室 Second Management Room	高度液状クロマトグラフ 高度液状分級装置 (DSC-NMR) 顕微鏡	High Pressure Liquid Chromatograph Nuclear Magnetic Resonance Spectrometer Microscope
顕微鏡室・管理室 Microscope Laboratory Analytical Room	顕微鏡 顕微鏡 顕微鏡 顕微鏡	Scanning Electron Microscope Scanning Electron Microscope Scanning Electron Microscope Scanning Electron Microscope
管理室 Management Room	環境に慣れる文庫・雑誌・法規集	Literature of Environmental Science

●電子顕微鏡 (SEM) 画像解析

本センターによる電子顕微鏡 (SEM) 画像解析は、①民間企業との共同研究、②高橋等からの技術支援、③高橋等ベンチャーを目的とした「技術相談」、「委託研究」、「共同研究」、「公開講座」、「IT・LLO事業」、「IT・LLO事業」、「IT・LLO事業」等を行っています。また、いわき市教育委員会 (市立大学) への参画や技術支援セミナーの開催、いわき産学官ネットワーク協会などの取組等を通じて地域支援事業を積極的に行っています。

●電子顕微鏡 (SEM) 画像解析

本センターは、①民間企業との共同研究、②高橋等からの技術支援、③高橋等ベンチャーを目的とした「技術相談」、「委託研究」、「共同研究」、「公開講座」、「IT・LLO事業」、「IT・LLO事業」、「IT・LLO事業」等を行っています。また、いわき市教育委員会 (市立大学) への参画や技術支援セミナーの開催、いわき産学官ネットワーク協会などの取組等を通じて地域支援事業を積極的に行っています。

(出典：福島工業高等専門学校要覧)

(d) 体育施設

校舎敷地内には、第一グラウンド（陸上競技用トラック、サッカーグラウンド、ラグビーグラウンド）、第一体育館、第二体育館、武道館（柔道場、剣道場）、卓球場、プール等を配置し、隣接の団地内に第二グラウンド（野球場、テニスコート）を有し、体育の授業やクラブ活動等に活用されている。また施設の一般開放も実施しており、教育に支障のない範囲で、地域住民の生涯教育施設としての機能も果たしている。

(分析結果とその根拠理由)

校地は、市街地からも近く、緑に包まれた環境の中に位置している。校舎敷地内には、管理棟、講義棟、専門学科棟、専攻科棟、附属施設が、また、学生の休息等のための福利厚生施設が配置されている。運動施設としては、第一グラウンド、第二グラウンド、第一体育館、第二体育館、武道館、卓球場、プール等があり、放課後のクラブ活動等にも大いに利用されている。運動施設は、これらの時間外に一般市民にも開放されている。平成13年度から14年度にかけて、低学年棟の新営と高学年棟及び管理棟の改修が行われ、これらの建物についてバリアフリー化も実施された。以上のように、教育目的の実現と教育課程の実施のために施設・設備の整備がなされ、有効に活用されている。しかし、現在の施設・設備のバリアフリー化はまだ一部にとどまっているため、今後全ての施設についてのサバリアフリー化を早急に検討・実施しなければならない。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

情報処理教育センターが、情報処理の教育及び研究のために設置されている。ワークステーション、パーソナルコンピュータで LAN が構築され、学内 LAN 設備として各種サーバ類、ネットワーク管理機器やウイルス対策用のシステム等が設置されている(資料 8-1-①-8, 資料 8-1-②-1)。インターネットへは専用回線で TOPIC(東北学術研究インターネットコミュニティ)へ接続し、全国の大学、高専及び研究機関はもとより、全世界と 24 時間情報のやりとりを行っている。また、平成 19 年 3 月には校内 LAN スイッチの更新や無線 LAN のアクセスポイントの設置等を実施し、ネットワーク環境の整備にも努めている。さらに、情報セキュリティポリシーも整備され(資料 8-1-②-2)、適切なセキュリティ管理の下に置かれている。



資料 8-1-②-1

情報処理教育センターの主な設備・システム（ネットワーク関連）

設備・システム等	主な機器
校内 LAN システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Extreme Networks Alpine 3808 (1 台)</li> <li>・Extreme Networks Alpine 3804 (2 台)</li> <li>・Extreme Networks Alpine 3802 (8 台)</li> <li>・校内情報コンセント (250 組)</li> </ul>
ウイルス対策システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TrendMicro 社製 Virus Wall</li> <li>・McAfee 社製 Asap</li> </ul>

(出典：情報処理教育センター資料)

資料 8-1-②-2

(案)第 5 版 03/10/23

福島工業高等専門学校  
情報セキュリティポリシー

平成 15 年 10 月

(案)第 5 版 03/10/23

目 次

I. 情報セキュリティ基本方針	1
1. 情報セキュリティの基本方針	1
2. 定義	2
3. 対象範囲	2
4. 実施手順の作成	2
II. 対策基準	3
1. 組織・体制	3
1. 1 管理・運用組織の構成	3
1. 1. 1 最高情報 セキュリティ責任者	
1. 1. 2 情報 セキュリティ担当官	
1. 1. 3 情報 セキュリティ担当者	
1. 1. 4 システム管理官	
1. 1. 5 情報 セキュリティ委員会	
1. 2 不正アクセス等への対応	4
2. 情報の分類と管理	4
2. 1 情報の分類	
2. 2 情報の管理責任	
2. 3 情報の管理方法	
2. 4 記録媒体の管理	
3. 物理的セキュリティ	5
3. 1 サーバ機器	5
3. 1. 1 管理区域の設置	
3. 1. 2 管理区域の運用	
3. 1. 3 機器等の設置	
3. 1. 4 電源	
3. 1. 5 ネットワークへの接続	
3. 2 クライアント機器	6
3. 2. 1 機器等の盗難対策	
3. 2. 2 ネットワークへの接続	
3. 3 ネットワーク機器	6
3. 4 外部に設置する措置	6
4. 人的セキュリティ	6
4. 1 役割・責任	6
4. 1. 1 最高情報 セキュリティ責任者	

(案)第 5 版 03/10/23

4. 1. 2 情報 セキュリティ担当官等	
4. 1. 3 システム管理官	
4. 1. 4 利用者 (教職員及び学生等)	
4. 2 教育・研修	7
4. 3 事故・障害の報告	7
4. 4 アカウントおよびパスワード管理	8
4. 4. 1 利用者	
4. 4. 2 システム管理官	
5. 技術的セキュリティ	8
5. 1 ネットワーク管理	8
5. 1. 1 ネットワーク設計	
5. 1. 2 セキュリティ機器とセキュリティソフトウェア	
5. 1. 3 利用者の管理	
5. 1. 4 アクセス記録とログの管理	
5. 1. 5 アクセス制御	
5. 1. 6 ネットワークの許可利用	
5. 1. 7 情報収集	
5. 2 システム管理	9
5. 2. 1 システム設計書・仕様書	
5. 2. 2 システムサーバ	
5. 2. 3 利用者の管理	
5. 2. 4 システムログの管理	
5. 2. 5 バックアップ	
6. 職場環境におけるセキュリティ	10
7. 運用	10
7. 1 ネットワーク及び情報システムの監視	10
7. 2 ポリシーの遵守状況の確認	10
7. 3 侵害時の対応	11
7. 3. 1 事案の調査	
7. 3. 2 事案への対処	
7. 3. 3 再発防止の措置	
7. 3. 4 情報セキュリティポリシーに関する違反に対する対応	
8. 評価及び見直し	12
8. 1 監査	12
8. 2 点検	12
8. 3 見直し	12

- II -

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

校内 LAN 設備の定期的な更新等、ネットワーク環境の整備に努めている。また、複数のウイルス対策システムの設置とともに、情報セキュリティポリシーも整備されている。以上のことから、本校では教育用の情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、活用されている。

観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館は，学校の中で学習センターとしての役割を果たしており，教育及び研究に必要な情報資料を中心に，授業に欠かせない参考図書，豊かな情操を養うための教養書や美術書などが，NDC（日本十進分類法）により整理され，開架式書架に並べられており（資料 8-2-①-1），その他の視聴覚資料や新聞等も整備されている（資料 8-2-①-2）。また，長岡技術科学大学からの高専支援による電子ジャーナルコンソーシアム（資料 8-1-①-6）の利用も可能になっている。

資料 8-2-①-1

## 図書館

Library

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。ここには、教育及び研究に必要な情報資料を中心に、授業に欠かせない参考図書、豊かな情操を養うための教養書、美術書などが開架式書架に並べられています。また、学術専門雑誌、一般及び自然科学雑誌、オンラインジャーナル、新聞、白書等の政府刊行物等も自由に閲覧できるようになっています。また、本館は一般の方にも開放しています。

**〈開館時間〉**  
平日（月～金） 8:30～20:15  
土曜日 9:00～16:00

**〈休館日〉**  
日曜日、国民の祝日、夏季休業、冬季休業、年末年始等

The College Library functions as center of study and information. It contains many important reference books for the study and research for each department. In the open browsing corner, many kinds of periodicals, weeklies, newspapers, new books, some white papers, and online journal etc. are accessible to students. The library has about 79,000 books. Our library is open to the public for academic study and research.

**(LIBRARY HOURS)**  
Regular hours: Mon-Fri. 8:30-20:15  
Sat. 9:00-16:00

**(Days Closed)**  
Sunday, National Holidays  
Summer and Winter Vacation etc...



閲覧室 Reading room

●蔵書 Books and Periodicals 平成17年4月1日現在 As of April 1, 2005

分類 Classification	図書(冊) Books		購入雑誌(種) Periodicals	
	和書 Japanese	洋書 Foreign	和雑誌 Japanese	洋雑誌 Foreign
総記 General	3,663	273	10	
哲学 Philosophy	3,427	90	1	3
歴史 History	4,034	41	2	2
社会科学 Social Science	5,080	161	16	2
自然科学 Natural Science	14,071	4,069	19	7
工学 Technology	26,519	1,993	61	2
産業 Industry	677	10	2	
芸術 Art	2,756	51	28	
語学 Language	3,678	697	10	6
文学 Literature	7,094	604	5	1
小計 Subtotal	70,999	7,989	154	23
合計 Total	78,988		177	

(出典：福島工業高等専門学校要覧)

資料 8-2-①-2

図書館視聴覚資料の所蔵状況

ビデオ	LD	カセットテープ	CD-ROM	DVD	スライド
772	52	213	132	16	16

図書館購読新聞タイトル

新聞名	新聞名
日刊工業新聞	福島民報
フジサンケイビジネスアイ	河北新報
毎日新聞	スポーツ報知
読売新聞	The Japan Times
朝日新聞	Herald tribune
日本経済新聞	

(出典：図書係資料)

購入図書の選定は、専門学科及び一般教科教員の図書館運営委員が担当しており、教育・研究に必要な図書をバランス良く選定し購入している。また、図書館内にリクエストボックスを設置したり、学生によるブックハンティングキャンペーン（資料 8-2-①-3）により、学生の意見やニーズを反映させ、図書館の利用促進を図っており、数多くの利用がなされている（資料 8-2-①-4）。

資料 8-2-①-4

図書館利用状況（平成 16 年度実績による）

延べ利用者数	貸出総数	文献複写取り寄せ件数
49,841 名	8,767 冊	144 件

資料 図書館利用者数と貸出冊数

年度	入館者数 (人)	夜間入館者数 (人)	貸出冊数 (冊)	夜間貸出冊 数(冊)
H12	54,038	4,622	6,865	1,598
H13	61,171	3,672	7,138	1,508
H14	55,870	2,750	8,322	1,791
H15	46,240	2,480	9,023	1,727
H16	49,841	2,454	8,737	1,984

夜間時間は 17:15 ~ 20:15

(出典：図書係資料)

平成16年度ブックハンティング購入図書

ブックハンティング実施日 2004年12月21日

分類記号	書名	著者名
000(総記)		
049-A	「新しい」新しい単位	世界単位認定協会 編
049-A	「新しい」新しい単位 [DVD版]	世界単位認定協会 編
049-B	こんな世界に誰がした	爆笑問題
049-H	ヒロシです。	ヒロシ
049-H	死ぬかと思った (1)	林雄司(Web山羊の目) 編
049-H-2	死ぬかと思った (2)	林雄司(Web山羊の目) 編
049-H-3	死ぬかと思った (3)	林雄司(Web山羊の目) 編
100(哲学・宗教)		
133.9-I	クリプキ シリーズ哲学のエッセンス	飯田隆
135-H	ドールズ シリーズ哲学のエッセンス	楢垣立哉
135-N	はじめて読むフーコー	中山元
140-S	心理学 New liberal arts selection	無藤隆 [ほか]
141-S	愛する人を失うとどうして死にたくなるのか	下園壮太
145-B	ヒステリー研究(上) ちくま学芸文庫	ヨーゼフ・プロイアー
145-B	ヒステリー研究(下) ちくま学芸文庫	ヨーゼフ・プロイアー
146-S	精神分析学を学ぶ人のために	新宮一成
146-S	ラカンの精神分析	新宮一成
159-H	普通の人がこうして億万長者になった	本田健
159-K	キッパリ!	上大岡トメ
200(歴史・地理)		
210.04-B	日本史が人物12人でわかる本	爆笑問題
280.4-B	爆笑問題の死のサイズ	爆笑問題
280.4-K	世界悪女大全	桐生操
290.8-K	映画で見た景色 世界名景紀行	
290.8-K	建物のある景色 世界名景紀行	
290.8-K	大地の景色 世界名景紀行	
290.8-K	水辺の景色 世界名景紀行	
300(社会科学)		
304-A	天声人語 2004年夏	朝日新聞論説委員室 編
307-B	これで突破!! 最強のSPI攻略1000	板東恭一
307-S	史上最強の一般常識<一問一答>問題集	オフィス海
307-S	史上最強の時事用語 <ハイパー攻略>トレーニング	オフィス海
317-J	実況ゼミナール! 甲種危険物取扱者試験	河合範夫
317.4-K	国家公務員試験国家三種	成美堂出版編集部 編
327-K	少年A矯正2500日全記録	草薙厚子
331.19-M	ゲーム理論	松井彰彦
336.4-U	クイズ20代のビジネスマナー	浦野啓子
361.4-H	「できる人」の話し方、その見逃せない法則	ケビン・ホーガン
361.4-R	ホスト王の必ずYESと言わせる心理戦術	零士
361.4-R	ホスト王のその気にさせる心理戦術	零士
361.4-S	イスラム報道	エドワード・W. サイド
366-K	裏のハローワーク	草下シンヤ
368-G	小さな殺人者たち	ジェームス・ガルバリーノ
368-K	いいがかりマニュアル	Kaz99
368-M	夜回り先生の卒業証書	水谷修
368-M	夜回り先生と夜眠れない子どもたち	水谷修
369-B	ボランティアまるごとガイド	安藤雄太 監修
369-F	福祉ボランティア	小山隆
369-K	セックスボランティア	河合香織
378-O	わかりやすい手話辞典	緒方英秋
386-I	ダヤンのお祭りの本	池田あきこ

(出典：図書係資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育・研究上必要な図書や雑誌等の資料については、学生のニーズも踏まえて購入し、系統的に整備している。その結果、図書館の利用者数や図書の貸出数はともに多く、有効に活用されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・ 情報処理教育センターは3 演習室体制を採ることにより、多くの学生に情報機器を開放している。
- ・ 図書館内へのリクエストボックスの設置や学生によるブックハンティングキャンペーン等により、学生の意見やニーズを反映させ、図書館の利用促進を図る独自の取り組みを行っている。

### 【改善を要する点】

- ・ 校内の施設・設備の改修等による耐震補強や老朽化対策、また、すべての施設・設備のバリアフリー化を早急に検討・実施する必要がある。

## (3) 評価 8 の自己評価の概要

本校の教育課程の実施に必要な教室、実験室、演習室、自習室、図書館、情報施設、自習・休憩施設及び食堂等が十分整備され、有効に活用されている。平成18年3月に専攻科棟が竣工・完成したことで、さらに施設・設備が充実したが、実習工場や各学科の基盤的施設、体育施設、図書館、寮の施設・設備等については一部老朽化が進み且つバリアフリー化未対応の箇所があり、早急な改修・整備が必要である。

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

本校では、従来から教務委員会がカリキュラムから成績評価までの教育全般を担当してきた(資料 9-1-①-1)。平成5年には教育水準の向上を目的に点検及び評価に関する検討委員会が設置された(資料 9-1-①-2)。平成16年には専攻科の設置に伴って専攻科委員会(資料 9-1-①-3)、またJABEE受審への対応のためにJABEE委員会(資料 9-1-①-4)、さらに教育改善への取り組みを継続的に行うためにFD委員会(資料 9-1-①-5)が設けている。また、学級担任連絡会議(資料 9-1-①-6)を定期的で開催して、クラス運営や学生指導について意見交換を行っている。これらの取り組みは、全教員が組織的及び有機的に関わり、継続的に授業方法や教育環境に係る問題点を把握して解決を図るシステムとして有効に機能している(資料 9-1-①-7)。教育活動の実態を示す資料としては、次の資料①から⑪までを収集している。

#### ①定期試験に係る資料

(定期試験問題・模範解答・学生の答案コピー、小テスト・課題レポート、成績一覧等)

#### ②学生実験のレポート類

#### ③卒業研究及び特別研究の評価シート

#### ④卒業研究論文及び特別研究論文

#### ⑤教員個人データ (JABEE受審用)

#### ⑥学生による学習等達成度記録簿 (学生による自己評価、コメント記入-担任)

#### ⑦授業科目の理解度評価シート (学生の自己評価、学習・教育目標の達成度記録票)

#### ⑧学生による授業評価アンケート用紙 (各教員の授業に対する学生の評価結果)

#### ⑨学級委員長との話し合い議事録 (学生からの要望と学校側の回答) (資料 9-1-①-8)

#### ⑩学級担任会議議事録 (資料 9-1-①-9)

#### ⑪数学・物理担当者と専門学科教員との懇談会議事録 (資料 9-1-①-10)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示す各種の資料(上記の資料①～⑪)を、学内の各担当部署で随時収集し、その資料の管理やデータの分析を行うとともに、それらの結果をデータベースとして蓄積している。また、それらの結果を基に点検・評価を行う各種委員会を設置しており、全教員に授業改善等への取り組み等を促すシステムが構築されている。以上のことから、教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。



資料 9-1-①-1

### 福島工業高等専門学校教務委員会規則

(昭和 41 年 4 月 6 日)

(規則 第 8 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 22 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 13 条第 2 項の規定に基づき、福島工業高等専門学校教務委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学校行事に関する事項
- (2) 学生の試験に関する事項
- (3) 授業時間割の編成に関する事項
- (4) 教務に関し、校長が諮問した事項
- (5) その他教務主事が必要と認めた事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 教員のうちから校長が命じた者 若干名
- (4) 学生課長、教務係長及び学生課長が指名する者

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故ある時は、教務主事補がその職務を代行するものとする。

(構成員以外の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第 6 条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料 9-1-①-2

### 福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則

(平成 5 年 12 月 9 日)

(規則 第 1 号)

(最終改正 平成 18 年 3 月 30 日規則第 17 号)

(目的)

第 1 条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和 62 年規則第 11 号)第 13 条第 2 項に基づき、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動等の状況について自ら行う点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(検討委員会)

第 2 条 本校に、次の各号に掲げる事項を行うため、福島工業高等専門学校点検及び評価検討委員会(以下「検討委員会」という。)を置く。

- (1) 点検及び評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (3) その他点検及び評価に関する必要な事項

(組織)

第 3 条 検討委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 校長補佐
- (4) 専攻科長
- (5) 各学科長

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

## 福島工業高等専門学校専攻科委員会規則

(平成16年4月1日)

(規則第2号)

(最終改正 平成18年3月30日規則第29号)

### (趣旨)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和62年規則第11号)第13条第2項の規定に基づき、福島工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 厚生補導に関すること。
- (3) 入学試験に関すること。
- (4) 進路に関すること。
- (5) その他専攻科に関すること。

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 各専攻長
- (3) 教務主事
- (4) 学生主事
- (5) 日本技術者認定機構(JABEE)委員会委員長
- (6) 各専攻の専門科目担当教員のうちから校長が指名した者各2名
- (7) 一般科目担当教員のうちから校長が指名した者1名
- (8) 学生課長、教務係長及び学生課長が指名する者

### (委員長)

第4条 委員長は、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、校長があらかじめ指名した委員がその職務を代行するものとする。

### (構成員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

### (報告)

第6条 委員長は、委員会での審議事項の結果を校長に報告するものとする。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

### 附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年3月30日規則第29号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

## 福島工業高等専門学校 JABEE 委員会規則

(平成16年4月1日)

(規則 第13号)

(最終改正 平成18年3月30日規則第32号)

### (設置)

第1条 福島工業高等専門学校に、日本技術者教育認定機構（以下「JABEE」という。）が認定する「技術者教育プログラム」に関する委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 認定申請を行う「技術者教育プログラム」に関すること。
- (2) 認定申請を行う上で必要な対応・準備に関すること。
- (3) その他「技術者教育プログラム」の実施に関し必要な事項に関すること。

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 各学科から学科長が推薦する専攻科を担当する者各1名
- (2) 教務主事補1名

### (任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

### (構成員以外の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させることができる。

### (報告)

第7条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

### (庶務)

第8条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

### (雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

福島工業高等専門学校FD委員会規則

(平成15年5月6日)

(規則第1号)

(最終改正 平成18年3月30日規則第31号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和62年規則第11号)第13条第2項の規定に基づき、福島工業高等専門学校FD委員会(以下「FD委員会」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則においてファカルティ・ディベロップメント(FD)とは、本校教員の教育、特に、授業に関する資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取組みをいう。

(目的)

第3条 FD委員会は、FDについて本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与することを目的とする。

(組織)

第4条 FD委員会の委員は5名程度とし、教員の自薦を基本として校長が任命する。自薦のない場合は、校長が指名する。

(任期)

第5条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合は、補欠の委員を校長が指名する。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 FD委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は校長が指名し、副委員長は委員の互選とする。

2 委員長はFD委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(他の委員会等との連携)

第8条 FD委員会は、他の委員会等と相互に連携し、本校におけるFDの推進活動を補充し合うものとする。

(報告)

第9条 委員長は、FD委員会で審議した事項を校長に報告するものとする。

(庶務)

第10条 FD委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、FD委員会の運営に関し必要な事項は、FD委員会が別に定めるものとする。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

福島工業高等専門学校学級担任連絡会議内規

(平成13年9月11日)

(校長 裁 定)

第1条 福島工業高等専門学校に学級担任連絡会議(以下「担任会議」という。)を置く。

第2条 担任会議は、学級の運営及び学生指導の実施に関し、その円滑な運用を図るため連絡調整することを目的とする。

第3条 担任会議は、次に掲げる教員をもって構成する。

(1) 教務主事、学生主事及び寮務主事(以下「主事等」という。)

(2) 各学級担任

2 担任会議の主査は、教務主事とする。

3 担任会議は、教務主事が招集し議長となる。ただし、必要に応じ学生主事又は寮務主事が議長となることができる。

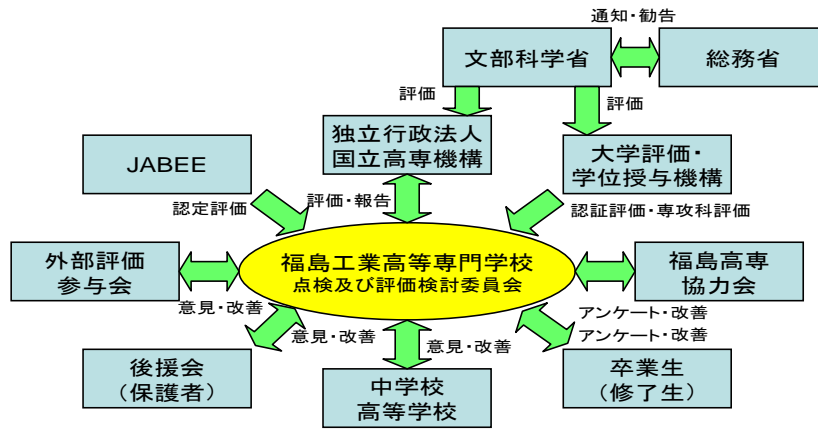
第4条 前条のほか学科(一般教科を含む。)及び学年単位、その他必要に応じた担任による担任会議を招集することができる。

2 前項の招集および議長は、学科長及び学年主任等とする。ただし、必要に応じ主事等の出席を求めることができる。

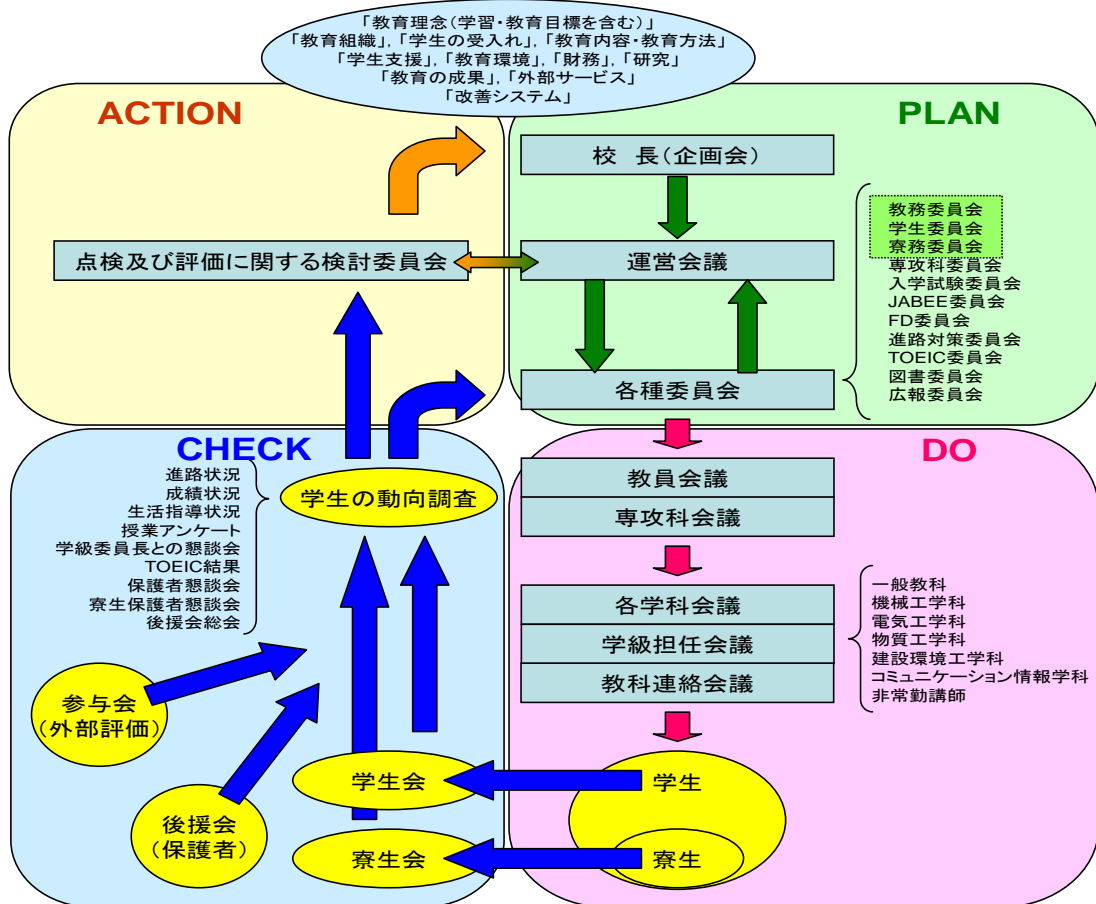
3 学科長及び学年主任は、第3条第1項の担任会議構成員の要請により当該会議を招集

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料 9 - 1 - ① - 7



福島高専の外部改善システム



福島高専の内部改善システム

(出典：JABEE 委員会資料)



資料 9-1-①-8

平成 18 年度第 1 回学級担任連絡会議議事録

日 時：平成 18 年 7 月 12 日 16:30～19:10

場 所：大会議室

出席者：教務主事、学生主事、寮務主事、各学級担任（1～5 学年）、教務主事補（芥川）

議事内容：以下の通り

1. クラス指導について

(1) 平成 17 年度学生アンケートの結果報告（芥川）

・平成 17 年度学生アンケート（平成 18 年 2 月 14 日実施）の調査結果について報告が行われた。（別紙資料参照）

(2) クラス概況（1～5 学年）

- ・学年毎に各クラスの概況報告とそれについての質疑応答が行われた。
- ・最近、朝からの授業で寝ている学生がいる。体力不足の学生が目立つ。連続授業（100 分）の場合は間に若干の休憩を入れるなどの工夫が必要。（1 機）
- ・最近の電気工学科の学生の傾向として、他学科の学生に比べ成績は良いが掃除をきちんとしないなど個人主義的で協調性に欠けるところがある。（1 電）
- ・今年度入学の 1 年生の中に、中学校の数学の授業で台形の面積計算を習っていない者がいる。授業内容削減等のゆとり教育の弊害が出ており、今後の高専の授業面で何らかの対策が必要。（1 物）
- ・生活面でだらけてきた。せき立てないと掃除をしない。留年生で既に 1 単位も落とせない状況の学生がいる（2 機）。

（出典：教員会議資料）

資料 9-1-①-9

平成 18 年度 学級委員長との懇談会における質問・要望事項への回答

1. 各クラスからの懇談要望事項

①授業に関すること

101. 毎年のように教科書購入時にミスが発生しているが、次年度からはそのようなことがないようにしてほしい（4 コミ）

（回答）担当教員からの教科書の変更・追加等があり迷惑をかけました。担当教員と教務委員会で連携をとって改善していきます。

102. 100 分授業は長すぎる（90 分授業は不可能か）（1 建、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、3 物、4 機、4 電、4 物、5 電、5 物）

（回答）授業時間については、高専設置基準により標準が 50 分であることが決められています。平成 13 年度から平成 17 年度まで 90 分で行っていましたが、やはり設置基準に反するというで 100 分に戻しました。慣れるまで大変ですが、頑張ってください。

103. 100 分授業の間に休憩時間がほしい（1 物、1 建）

（回答）中学校では 50 分授業でしたが、高専では学生の集中力と授業の効率を考えると、100 分授業としている科目があります。休憩時間がほしい理由は、集中力が持続しないためであると考えられますが、年齢的に大きくなってきているのですから、もう少し頑張ってみてください。来年度に向かって時間割を検討中ですが、前向きに考えてみます。

104. 体育の善替え時間などを考えて休み時間を長くしてほしい（1 物、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、4 機、5 電、5 物、5 コミ）

（回答）現在 100 分授業の間は 10 分休憩、50 分授業の間は 5 分休憩となっています。体育などは 100 分授業ですので 10 分間の休み時間があります。現在、来年度の時間割を検討している最中ですが、休憩時間を 10 分以上確保することはできそうにありません。なんとか授業内で対応するように頑張ってください。なお、部活動の時間確保などを考えて本年度の休み時間を設定した。また、善替えなどの準備時間を授業時間に含めるように教員側も注意したい。

105. 夏季の教室の暑さ対策を考えてほしい（3 コミ、5 物）

（回答）現在のところ、扇風機の増設などの部分的対応が限界である。なお、扇風機の設置などは学級委員長との懇談会によって実現した暑さ対策の一環である。

106. 100 分授業の終了時間を各先生が把握してほしい（1 物、2 電）

（回答）授業終了時間がいつか、直接、担当の教員に伝えてほしい。

107. 1 日 8 時間は長い（4 物）

（回答）高専 5 年間で修得すべき内容を慎重に検討した結果が現在のカリキュラムであり、これが学年ごとに振り分

（出典：教員会議資料）

## 平成18年度 工学系学科と数学・物理科の話し合い議事録

日時：平成18年11月8日（水）15：30～16：50

場所：管理棟3階インフォメーションサロン

出席者：根本、鈴木（三）、新井、根岸（建設）、高橋（章）（機械）、三浦（電気）、井上（物質）、道上、井川、島袋（記録）

議題：

+

(1)“来年度以降の数学・物理・化学の標準試験実施方法について”以下のような意見がでた。

- 数学は2年の終わりに微積分のまとめの意味もあるので基礎学力(標準)試験を行いたい。
- 物理は3年次に教科内容がひと段落するので基礎学力試験を行いたい。
- 化学は2年終了時、または3年の初旬に一般化学の試験を行いたい。健康診断の時などはどうか。
- 今年度の到達度試験(数学)は日付が変則だが、来年度(数学、物理)は既に決まっている。
- 基礎学力試験を2年に行うのであれば、3年の到達度試験と同日が良い。
- 教務では基礎学力試験の日程を補講日にしてはどうかという意見がある。
- 物質科では一般化学試験(高校化学)を2,3,4年に、専門基礎試験を3,4,5年にそれぞれ行っている。
- 電気科では2,3,4,5年に専門基礎試験を行っており、2年は基礎学力標準試験などの関係でなく予定。
- 建設科では3,4年に専門基礎試験を行っている。
- 機械科では3,4,5年に専門基礎試験を行っている。
- これら専門基礎試験と基礎学力試験を合理化していくべきである。
- **基礎学力標準試験について物理は3年次9月、数学は2年次(3年の)到達度試験と同時期、化学は3年次4月に行うことを教務へ公式に申し入れする。**

..

(2)数学・物理についての要望事項について。

- 数学科から専門学科への依頼として、工学系教科書で使われている数学的内容を具体的に教えてほしい。例えば、教科書で数学が使われている部分のコピーなど。

(出典：工学系学科と数学・物理科との話し合い議事録)

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生からの意見の聴取は、教員が学生と接する様々な場面で行われている。教育内容に係わる学生の意見聴取のため、FD委員会が主体となり「授業評価アンケート」を実施している（資料 9-1-②-1～3）。各教員は、アンケート結果を基にして、授業の改善項目とその具体的な実現方法及び改善状況をFD委員会に報告する。授業アンケートで評価が上位の教員の授業を一定期間公開し、教員相互の授業参観を行い、授業方法等の改善に役立てている（資料 9-1-②-4～7）。

学生からの意見を聴取するもう一つの方法として、毎年度一回の「学級委員長との懇談会」を行っている（資料 9-1-②-8）。この懇談会には、教職員側から教務、学生、寮務、FDなどの各委員及び学生課職員が出席し、各クラスの代表（学級委員長）と各クラスから出された懇談テーマと要望事項について活発な議論と意見交換を行っている。授業や学生生活全般にわたるこれらの話し合いの結果は、その後各クラスの要望事項に対する学校側からの回答も含めて教務委員会で取りまとめられ、教員会議で報告されるとともに、学生に対しても各クラスへの資料配布の形で周知がなされている（資料 9-1-②-9）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の意見聴取のシステムとして、授業評価アンケート、学級委員長との懇談会などが実施されている。学生からの意見・要望事項は、教務委員会が取りまとめを行い、関係の項目毎に教務、学生、寮務、FDなどの各委員会で検討され、その回答結果を公表して、その後の授業や教育環境の改善に活かす取り組みを行っている。特に、授業方法の改善等に関する要望事項については、各委員会での討議や教員相互の授業評価などのFD活動の中でその改善に向けた取り組みが行われ、教育の状況に関する自己点検・評価が適切な形で反映されている。



資料 9 - 1 - ② - 1

アンケート担当教員 各位

## 平成18年度 授業評価アンケートの実施と事前指導について

FD 委員会

以下に従い、授業評価アンケート調査の実施をお願い致します。

### (1) アンケート実施時間帯：

○アンケートは授業開始前の時間帯に実施して下さい。

### (2) 事前指導：

アンケート開始前に、下記の「学生への注意文」を読み上げて  
ご指導下さい。

### 「学生への注意文」

今から平成18年度授業評価アンケートを実施しますので、学生諸君の協力をお願いします。

この調査は、その結果に基づいて、全教員が授業の問題点を分析し改善策を検討する目的で行うものです。

回答内容が成績評価に影響を及ぼすことは全くありません。

教員と学生の協力のもとでの授業改善につなげるために、学生は是非真摯な姿勢で率直に答えて下さい。

特に、授業評価と関係のない誹謗・中傷・悪ふざけ等を書くようなことは絶対しないで下さい。もしそのような記述がある場合は、そのアンケートを破棄します。

また、授業の印象だけで全項目同スコアとするような評価でなく、よく考えて、しっかり判断して下さい。

なお、マークシートの記入に当たっては、先にクラスに配布・掲示した「授業アンケート記入時のお願い」に従い、必ず HB か H の鉛筆やシャープペンシルで、枠内をはっきり、きれいに塗りつぶして下さい。

(出典：FD 委員会資料)

### 授業評価アンケート(講義を主とする科目)

この調査は、授業の内容や方法を改善するため行うものです。  
あなたの成績に影響を及ぼすことはありませんので、率直に答えてください。

学科(専攻)学年は○で囲んでください。

学 科 機械工学科 電気工学科 物質工学科 建設環境工学科 コミュニケーション情報学科  
 専 攻 機械電気システム工学専攻 物質環境システム工学専攻 ビジネスコミュニケーション学専攻  
 学 年 1 2 3 4 5 氏 名 \_\_\_\_\_

黒板に書かれたこの授業のコードを記入し、マークしてください。

—		＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞	＜5＞	＜6＞	＜7＞	＜8＞	＜9＞	＜0＞
—		＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞	＜5＞	＜6＞	＜7＞	＜8＞	＜9＞	＜0＞
—		＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞	＜5＞	＜6＞	＜7＞	＜8＞	＜9＞	＜0＞

- 記入上の注意
- 4段階評価方式です。回答欄の該当する数字をマークしてください。
  - 記入は、HまたはHBの鉛筆を使用し、○の欄を塗りつぶしてください。
  - 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しずを残さないでください。
  - 所定の欄以外にはマークしたり、記入したりしないでください。
  - マークできる箇所は一行に一カ所だけです。

		そう思う していない	そう思う している	あまり 思わない	あまり 思わない
教 授 法	(1) 授業は、時間どおり始まり、時間どおり終了した。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(2) 声は聞き取りやすかった。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(3) 説明はわかりやすかった。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(4) 板書は読み取りやすかった。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(5) 学生の理解度を確認しながら授業を進めていた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(6) 学生に授業の参加を促していた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(7) 授業の進め方に工夫がなされていた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
授 業 内 容	(8) 教材(教科書、プリント、スライド・OHP・ビデオなど)が授業の理解に役立った。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(9) 演習・宿題などが授業に役立った。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(10) 授業はシラバスの内容に添って行われた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
授 加 状 況 参 照	(11) 授業内容に関心を持つことができた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(12) 授業内容を理解できた。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
自 由 記 述	(13) 自分の授業中の態度はよかった。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
	(14) 自分は授業の予習・復習をした。	＜1＞	＜2＞	＜3＞	＜4＞
自 由 記 述	(15) この授業の良い点は何ですか。				
	(16) この授業の改善して欲しい点はなんですか。				

(出典：FD 委員会資料)



平成 18 年 11 月 20 日

学生諸君へ

FD 委員会

### 平成 17 年度授業評価アンケートの集計結果について

平成 17 年前期末および年度末に実施した平成 17 年度授業評価アンケートでは、約 93%の回答率となりました。学生諸君のご協力に感謝します。

学生諸君には、「学科別集計データ 質問項目別 4 段階評価構成比」と「質問項目別・総合 上位 1 位～40 位教員氏名一覧」をお知らせします。

アンケートの集計結果と自由記述欄の内容については、既に各教員に通知しており、その結果を見て授業方法の改善に努めることとしております。なお、自由記述欄の内容は、無記名で通知していますが、まだ一部に不穏当な表現が見られます。学生は本アンケートの趣旨を尊重し、今後、不適切な記述をすることのないよう心してください。

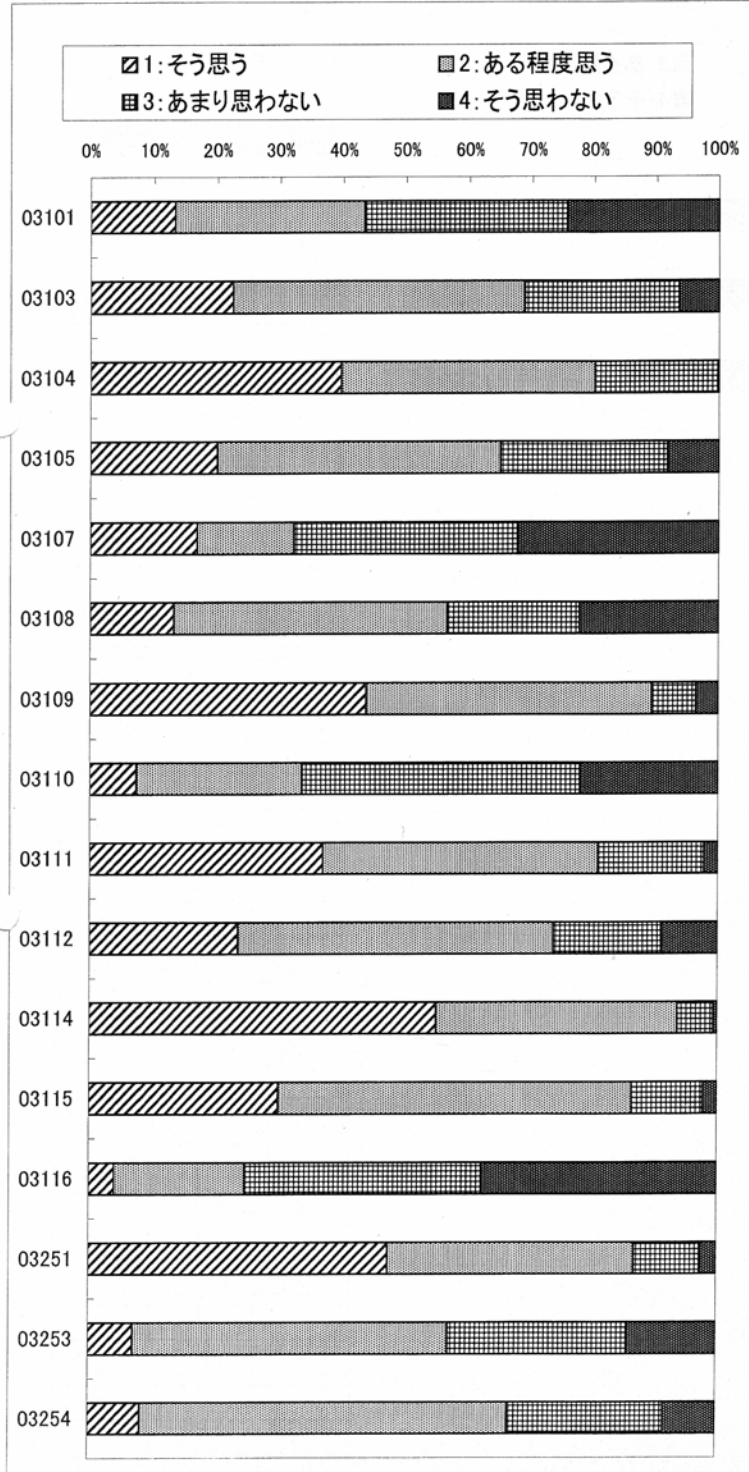
FD (Faculty Development) とは、教員の授業に関する資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取組みをいいますが、平成 15 年度、この FD 活動を推進し教育機能の充実を担う目的で FD 委員会が発足しました。今年も、教員一人ひとりが授業内容や方法の改善に努力することはもちろんのこと、全学的にも「公開授業・相互授業参観」や「FD 研修会」を開催し、より充実した教育を目指していきますので、学生諸君も目標に向かって勉学に励んでください。

以上

(出典：FD 委員会資料)

物質工学科

問2 声は聞きやすかった  
 図5 平成17年度授業アンケート学科別集計データ  
 質問項目別4段階評価構成比



回答番号
回答者数
%

	1	2	3	4
03101	17	38	41	31
	13.4	29.9	32.3	24.4
03103	28	58	31	8
	22.4	46.4	24.8	6.4
03104	46	47	23	0
	39.7	40.5	19.8	0.0
03105	44	99	59	18
	20.0	45.0	26.8	8.2
03107	10	9	21	19
	16.9	15.3	35.6	32.2
03108	22	72	35	37
	13.3	43.4	21.1	22.3
03109	62	65	10	5
	43.7	45.8	7.0	3.5
03110	11	39	66	33
	7.4	26.2	44.3	22.1
03111	52	62	24	3
	36.9	44.0	17.0	2.1
03112	39	84	29	15
	23.4	50.3	17.4	9.0
03114	104	73	11	1
	55.0	38.6	5.8	0.5
03115	42	79	16	3
	30.0	56.4	11.4	2.1
03116	6	30	55	55
	4.1	20.5	37.7	37.7
03251	18	15	4	2
	47.4	39.5	10.5	2.6
03253	1	7	6	2
	7.1	50.0	28.6	14.3
03254	2	14	6	2
	8.3	58.3	25.0	8.3

(出典：FD 委員会資料)

平成 18 年度 公開授業・相互授業参観・研修会の実施について

1. 公開授業・相互授業参観
  - (1)公開授業の目的と実施方法  
実験を除くすべての授業を公開授業とし、教授法の向上を図る。
  - (2)相互授業参観の目的と実施方法  
授業内容に精通した同系の担当者間で相互に授業を参観し、教授法・授業内容の向上を図る。実施計画は各科の FD 委員が取りまとめるが、当該科教員の任意の授業を原則として 2 授業以上参観する。
  - (3)実施期間  
11 月 9 日(木)～11 月 22 日(金) (実質 2 週間)
  - (4)参観方法  
参観時間は一回あたり原則として 30 分以上とする。  
参観終了後、各科 FD 委員に「授業参観アンケート」をメールで送信して回答する。
  - (5)授業参観アンケートの取り扱い  
公開授業終了後に FD 委員会が取りまとめ、  
1. 担当教員にフィードバックする。  
2. アンケートを FD 委員会が集約する
  - (6)学生への周知  
掲示により周知を図る。
2. FD 研修会
  - (1)各科 FD 委員が中心となって、授業参観アンケートを基に、各科(各教科)単位で研修会を実施する。
  - (2)各科の FD 研修会の結果は、FD 委員会で取りまとめる。

(出典：FD 委員会資料)

平成 18 年度 授業参観アンケート

【参観教員名】 \_\_\_\_\_ 科 氏名 \_\_\_\_\_  
 【授 業 日】 平成 18 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_ 曜日) \_\_\_\_ 時限  
 【授 業 名】 \_\_\_\_\_ クラス \_\_\_\_\_  
 【授業教員名】 \_\_\_\_\_

1. 観点別アンケート

- (1)次の各観点について、「そう思う」場合は○印を、判断できない場合は／を、左欄につけて下さい。  
 (2)参考になった点、感想、改善意見などのコメントがあれば右欄に記入して下さい。

観 点	コメント欄 (参考になった点、感想、改善意見等)
01 授業のねらいが明確であった	
02 声は聞き取りやすかった	
03 説明は分かりやすかった	
04 板書は乱れやすく分かりやすかった	
05 理解度を確認していた	
06 表情、話術等は効果的だった	
07 学生に向かって語っていた	
08 学生は積極的に参加していた	
09 授業にリズムがあった	
10 準備が行き届いていた	
11 教材に工夫が見られた	
12 難易度は適切であった	
13 進度は適切であった	
14 その他 ( _____ )	

(出典：FD委員会資料)

資料 9 - 1 - ② - 8

平成 18 年度 学級委員長との懇談会開催通知

平成 18 年 6 月 9 日

学級委員長各位

教務主事  
渡辺 博

学級委員長との懇談会(開催通知)

平成 18 年度の学級委員長との懇談会を下記の要領で実施したいと考えています。各クラスの学級委員長は出席してください。

記

日時：平成 18 年 6 月 21 日（水）15:15～17:15

場所：第 2 ゼミ室（1～3 年生）、第 3 ゼミ室（4・5 年生）

資料：資料は当日配布の予定

備考：欠席などの連絡は川崎教員宛にお願い致します。

(出典：教務委員会資料)

## 平成 18 年度 学級委員長との懇談会における質問・要望事項への回答

## 1. 各クラスからの懇談要望事項

## ①授業に関すること

101. 毎年のように教科書購入時にミスが発生しているが、次年度からはそのようなことがないようにしてほしい（4 コミ）。

（回答）担当教員からの教科書の変更・追加等があり迷惑をかけました。担当教員と教務委員会で連携をとって改善していきます。

102. 100 分授業は長すぎる（90 分授業は不可能か）（1 建、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、3 物、4 機、4 電、4 物、5 電、5 物）。

（回答）授業時間については、高专設置基準により標準が 50 分であることが決められています。平成 13 年度から平成 17 年度まで 90 分で行っていましたが、やはり設置基準に反するというので 100 分に戻しました。慣れるまで大変ですが、頑張って下さい。

103. 100 分授業の間に休憩時間がほしい（1 物、1 建）。

（回答）中学校では 50 分授業でしたが、高专では学生の集中力と授業の効率を考えて、100 分授業としている科目があります。休憩時間がほしい理由は、集中力が持続しないためであると考えられますが、年齢的に大きくなってきているのですから、もう少し頑張ってみて下さい。来年度に向かって時間割を検討中ですが、前向きに考えてみます。

104. 体育の着替え時間などを考えて休み時間を長くしてほしい（1 物、1 コミ、2 機、2 物、2 コミ、3 電、4 機、5 電、5 物、5 コミ）。

（回答）現在 100 分授業の間は 10 分休憩、50 分授業の間は 5 分休憩となっています。体育などは 100 分授業ですのて 10 分間の休み時間があります。現在、来年度の時間割を検討している最中ですが、休憩時間を 10 分以上確保することはできそうにありません。なんとか授業内で対応するように頑張って下さい。なお、部活動の時間確保などを考えて本年度の休み時間を設定した。また、着替えなどの準備時間を授業時間に含めるように教員側も注意したい。

105. 夏季の教室の暑さ対策を考えてほしい（3 コミ、5 物）。

（回答）現在のところ、扇風機の増設などの部分的対応が限界である。なお、扇風機の設置などは学級委員長との懇

（出典：教務委員会資料）



観点9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

（1）参与会

本校では、学外有識者の意見を取り入れて、教育、研究、学生支援、管理運営等の改善に資するため、平成12年度に外部評価委員会を設置したが、平成17年度には同委員会を参与会と改称し、第一回の参与会（外部評価）を実施した（資料9-1-③-1）。参与会の委員（参与）には、近隣の大学、高等専門学校関係者、地方自治体の関係者、教育関係者、地域産業経済関係者、本校卒業生などをバランスに配慮して選出し委嘱した。参与会からの意見や提言の中で早急な検討を要する事項については、その後関係委員会等で速やかな審議を行い、改善策を立案して実施に移している（資料9-1-③-2～3）。

（2）保護者の意見の反映

保護者からの直接的な意見聴取の機会として、年に2回（春季と秋季）開催の学級懇談会がある。この懇談会では、学級担任が保護者と直接面談し、学生の学業成績や普段の生活状況などについて率直な意見交換を行っている。また、これに加えて、平成17年度からは、保護者を対象とした公開授業日を設け実施している（資料9-1-③-4～5）。

（3）アンケート調査による企業等学外関係者からの意見聴取

企業等学外関係者からの意見聴取として、平成16年度にJABEE委員会、平成19年度に認証評価小委員会が、卒業（修了）生と企業等学外者を対象とするアンケート調査を実施した（資料9-1-③-6～14）。これらのアンケート結果から、本校の卒業（修了）生を採用した企業からは、本校卒業（修了）生の能力に高い満足度を持っていること、また採用時に重視する能力が本校の教育で学生に求めている学力や資質・能力にほぼ一致していることも確認できた（資料9-1-③-15～16）。

（分析結果とその根拠理由）

学外者の意見を積極的に取り入れるために、近隣の大学、高等専門学校関係者、地方自治体の関係者、教育関係者、地域産業経済関係者、本校卒業生などを委員（参与）とする参与会を設置し、外部評価を実施している。保護者との連携と情報共有を図るため、年2回の学級懇談会を開催し、また、保護者対象の公開授業日を設けて、学校の教育内容やその取組状況を広く社会に公表し、改善のための意見聴取に努めている。卒業（修了）生や企業等学外者を対象としたアンケート調査を実施し、本校の教育内容やその水準などについて意見を求めている。以上のような取り組みで得られた意見や提言を自己点検・評価に適切な形で反映させ、継続的な改善を組織的に行うシステムを構築し運用している。

## 福島工業高等専門学校参与会規則

(平成17年7月26日)

(規則第4号)

### (趣旨)

第1条 福島工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況について、外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、もって本校の教育研究体制等の改善に資することを目的として、福島工業高等専門学校参与会（以下「参与会」という。）を置く。

### (評価事項)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて外部評価を行う。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

### (組織)

第3条 参与会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した参与若干名をもって組織する。

- (1) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の関係者
- (2) 地方自治体の関係者及び県内の教育関係者
- (3) 地域産業経済界の関係者
- (4) 本校を卒業又は修了した者
- (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者

### (任期)

第4条 参与の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会長)

第5条 参与会に、会長を置き、校長が指名する。

2 会長に事故があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

### (運営)

第6条 参与会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

### (意見の聴取)

第7条 会長が必要と認めたときは、参与会に参与以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

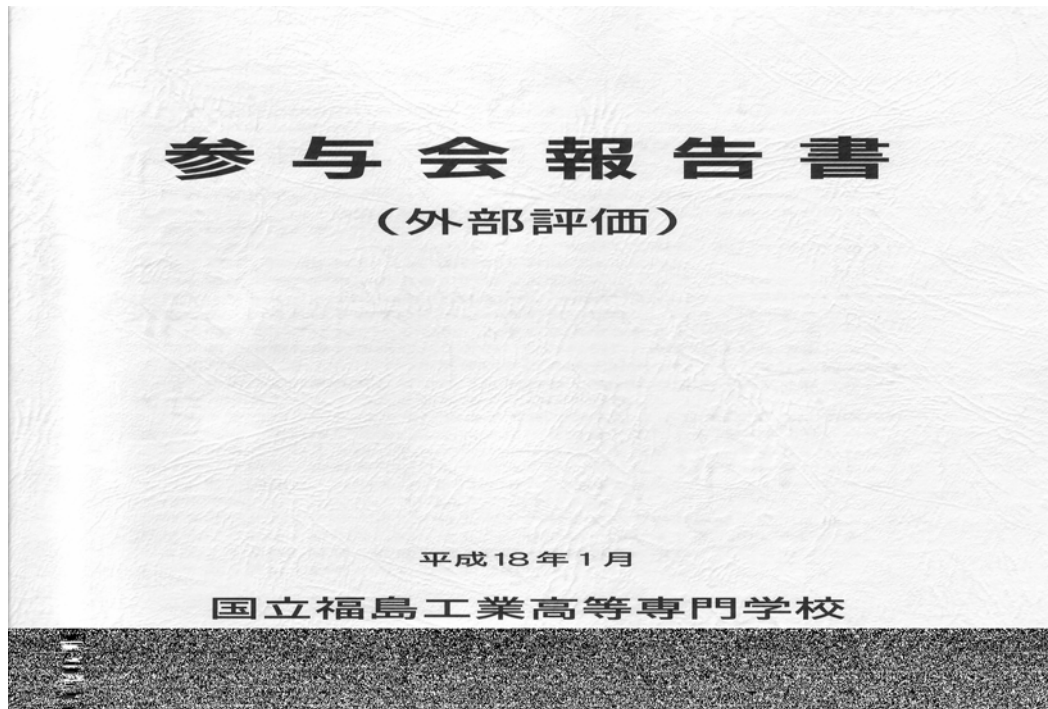
### (事務)

第8条 参与会の事務は、庶務課において処理する。

### (雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)



#### IV. 質疑応答

渡辺英夫会長の進行で1時間30分の質疑応答が行われた。その内容を記載する。

##### ）福島高専の概要等について

(白石参与)

大学ではどのような人材育成を目的としているのかと質問される。我々もよく高度専門技術者の養成と回答するが、企業は学部卒業生に対してどこまでの期待を要求しているのか、むしろ参与の方に伺いたい。

(保野参与)

技術の高度化・専門化競争が激しくなっている現状で、国内だけでなくグローバルに高度専門技術者を必要としている。

例えば、指導者幹部にソフトウェアが分かる人が全くいないという状況もある。そのような状況で、ソフトウェア技術者の育成はどれがするのか、できる人がいないということで、自立自覚できる人を求めているのが企業の現状である。まさしく多くの指導をしなくても自分で出来る人として、修士や博士課程卒業を求めている。

現実的には学部卒が半分、修士修了が半分程度が当社の採用実績である。学部卒でも数年後の活躍状況によって修士修了と差はないこともあるが、スタート段階での手のかかりようが違うと思う。

もう一つは日本人の海外留学が増えている。昔は遊び感覚もあったが、今は目的意識がはっきりとした留学であるように見える。また海外から日本への留学生が多く、さらに目的意識を強く持つ人材へシフトする事も考えている。高専に対しては、はっきり言って専攻科ができる前は、海外への生産現場の展開を考えると、高専卒の活躍の場が減っているというのが現状であった。専攻科ができ、学部と同じく考えていきたい。

(安久校長)

本校で就職を希望する学生の実質的就職率は100%、大学編入を希望する学生の編入率も100%です。

(佐藤参与)

先生方が一生懸命で感激しているが、中途退学者の状況はどうなっているのか、高校等では学校存続上問題となっている。

(渡辺教務主事)

中途退学者は2.6%程度です。これに対して学校としての対応は、3年次で進路変更する場合は高校卒業扱いとなるので、本校規定の認定基準で単位を認めて送り出しています。

最近、1年生や2年での進路変更者ができているが、それに対しては、他の学校への転学や大検を受ける指導を行っています。

(佐藤参与)

3年次修了の場合、学生たちが文系・理系どちらに向いているかやってみなければ分からない部分もあると思われるが。

(渡辺教務主事)

高専に入るときにアドミッションポリシーを掲げて将来の希望を確認して入ってくることを希望しています。

#### V. 参与会評価項目集計結果

参与会評価項目集計結果

評価項目	評価点数								合計	平均
	A参与	B参与	C参与	D参与	E参与	F参与	G参与	H参与		
I 教育理念・教育目標・教育体制・養成する人材像										
1) 教育理念・教育目標・教育体制・人材像	5	5	4	4	5	5	5	2	35	4.4
II 教育										
2) 教育組織、教育体制について	5	4	5	5	4	5	4	4	36	4.5
3) 学生の受入について	5	5	4	4	4	4	5	4	35	4.4
4) 教育課程について	5	4	5	5	4	4	5	3	35	4.4
5) 本科の特徴ある教育について	5	4	5	4	5	5	4	3	35	4.4
6) 専攻科の特徴ある教育について	5	4	5	4	5	4	4	4	35	4.4
7) 教育の成果について	5	5	5	5	4	5	5	5	39	4.9
8) 教育改善システムについて	5	4	4	4	4	4	5	5	35	4.4
9) 学生の学習支援について	5	5	5	5	4	5	5	5	39	4.9
10) 学生の厚生補導について	4	5	5	5	4	4	5	5	37	4.6
11) 学生の課外活動について	5	4	4	5	4	5	5	5	37	4.6
12) 学生寮の生活支援について	5	5	5	5	5	5	5	5	40	5.0
III 研究活動										
13) 教員の研究成果について	5	4	5	4	2	5	5	4	34	4.3
14) 外部からの研究資金獲得について	4	4	5	4	3	4	4	3	31	3.9
IV 地域社会との連携										
15) 地域社会との連携について	4	4	3	4	4	4	5	5	33	4.1
V 施設・整備関係										
16) 施設・整備について	4	3	4	4	2	4	2	4	27	3.4
合計	76	69	73	71	63	72	73	66	563	70.4
平均	4.7	4.3	4.6	4.4	3.9	4.5	4.6	4.1	35.1	4.4

評価点

5：優れている 4：やや優れている 3：普通 2：改善した方がよい 1：改善すべき

(出典：参与会報告書)

# 資料 10

## 参加者が指摘した改善提案

平成18年3月13日（教員会議提出）

- 1) 教育理念・教育目標・教育体制・人材像
  - 1) 6項目の学習・教育目標そのものは素晴らしい内容ですが、以下のことが気になります。
    - ・達成していることの証明が難しい項目があるように受け取れます。
    - ・学科での目標と、専攻科での目標が一緒になっているように受け取れます。
 目標というときは達成するレベルも含まれますので、これがまったく一緒では、おかしいことになります。なお、P.8の表で示している人材像は、良く分かります。
  - 2) 理念、目標等適格に整理されているが、キーワードである教育、研究、地域貢献(社会との連携)に特化し記述する方がさらにインパクトがあるように感じます。また”育成”を踏まえて、**どのような技術者(卒業生)を目指すのかも盛り込む**と、さらに理念と特徴が明確になるでしょう。
- 2) 教育組織・教育体制について
  - 1) 評価システムとしてのポイント制は、意欲的な試みです。点数を決めるに当たって、教員の意見は反映されていると思いますが、**査読つき論文と紀要論文のポイントには、もっと差をつけるべきだと思います。**
- 3) 学生の受入について
  - 2) 学科課程で、推薦志願者が多数いることは、高く評価されます。追跡調査をしていると思いますが、結果が良ければ、**推薦枠を40%にすることを考えてよいと思います。**
  - 3) 平成17年度で、**ビジネスコミュニケーション学専攻の推薦志願者がゼロ**なのが気になります。力のある学生が専攻科を希望するよう努めてください。
  - 4) 各学科のアドミッションポリシーが記載されているが、どの学科にも共通する項目はあるはずですが？また、今後少子化に伴い推薦入学の枠を増やさざるを得ないと思われるが、**指定校制度を採用することも一方法であろうと考えます。**ご検討下さい。
- 4) 教育課程について
  - 1) **必修科目に必修得と必履修とありますが、履修したとの証明が不明確**になっている恐れはありませんか。
  - 2) 専攻科のシラバスでは、1単位は45時間の学修内容からなることから、**講義時間外の学習を考慮した記述が必要**です。
  - 4) 専攻科でMOT教育をねらうのは、良い試みです。もちろん、**専門系だけを学ぶという学生にも、配置する必要**はあります。
- 5) 本科の特徴ある教育につい
- 6) 専攻科の特徴ある教育について
  - 2) P65の4)において、“**本質を考えさせる充実した内容の指導**”と極めて重要なことが記載されていますが、具体的にはいかなる指導ですか？
  - 9) 専攻科を設置したばかりであり、仕組みはできているが、今後の課題は研究テーマの設定ではないかと思う。高専の専攻科という意味付けから是非、**企業との共同研究テーマを設定し、実践につなげて欲しい。**
  - 12) モノづくり面で**地元の企業と協力できる実力を付ける必要がある**
  - 13) 専攻科ができて評価はこれからであるが、**他流試合の出来る人材の育成**をお願いしたい。
- 7) 教育の成果について
- 8) 教育改善システムについて
  - 1) 授業評価アンケートを行っているのは良いのですが、その**結果のフィードバックが弱い**ようです。P92-93の表の数値からは、著しい改善があったとは言えないと思います。
  - 4) 教育改善はすべての教育機関の重要な課題です。学生による評価を教員にフィードバックし改善する訳ですが、**どのような改善が図られたかを“具体的な方法”を挙げて示すことはできませんか？**

平成 18 年度 公開授業アンケートのお願い

教務主事

福島高専では、学校生活における学生の授業の様子や本校の学習・教育内容等を保護者の皆様により深く理解していただくために、今年度も公開授業を実施することと致しました。つきましては、ご参観されました授業について、下記のアンケートにお答えいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

公開授業についてのアンケート

本日の公開授業をご参観いただき、ありがとうございました。今後の公開授業の参考にさせていただきますので、ご参観いただいてのご感想やご意見をご記入ください。

参観されました学科、学年とご感想・ご意見をご記入してください。

学科	学年
感想・意見	
学科	学年
感想・意見	
学科	学年
感想・意見	

ご回答ありがとうございました。

(出典：教務委員会資料)

平成 18 年度 公開授業結果報告 平成 18 年 5 月 20 日 (土) 実施

1. 出席状況

	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席
機械工学科	43	38	43	26	38	17	41	18	39	14	204	113
電気工学科	43	34	43	21	41	17	40	13	41	18	208	103
物質工学科	42	30	44	25	42	21	42	17	40	15	210	108
建設環境工学科	42	31	41	29	38	17	38	22	36	15	195	114
コミュニケーション情報学科	41	32	40	16	41	19	41	12	44	20	207	99
計	209	165	211	117	200	91	202	82	200	82	1024	537

	1年		2年		合計	
	在籍	出席	在籍	出席	在籍	出席
機械・電気システム専攻	9	1	8	1	17	2
物質・環境システム専攻	8	3	10	1	18	4
ビジネスコミュニケーション専攻	4	0	5	0	9	0
計	21	4	23	2	44	6

※受付で学生名票によりチェックした数。1 学生あたり複数参観の保護者がいるため実際の参加者数はこれ以上になる。

2. 参観後のアンケート 感想・意見等の記述

※感想・意見などの記述の要点のみ記載。( ) 内の「×数字」は同様な感想・意見等の数

第 1 学年

数学の授業の雰囲気を楽しもうえに、授業内で復習もやっているのがよい (1機×2)

熱心に授業を受けている・全員が集中している (1電・1機)

おとなしい・活気がない (1コミ・2機にもあり)

学生側からの質問や回答の場面が少ないのが気になった (1機)

数学は学生とのコミュニケーションのある授業でした (1機)

100 授業なので余裕のある授業と感じました (1機)

寝ている学生が多すぎる (1電)

かつて自分の受けた授業を思い出しました (1電)

服装の乱れが気になる (1電)

数学はテンポのある授業でよかった (1電)

教員の声がよく通りわかりやすい授業 (1物)

英会話はすこし難しそうでした (1物)

服装は気温にあわせて柔軟にしようか (1建)

英語の授業は楽しそうでした (1建)

英会話の授業わかりやすい授業でした、詳しい説明があるのがよいです (1コミ)

保護者の立場でも熱心に聞ける英語の授業でした (1コミ)

我が子を含め居眠りしている学生がいる。厳しく注意してほしい (1コミ)

数学は理解できそうです (1物)

100分授業に慣れるのが大変そうです (1コミ)

熱心な指導ありがとうございます (1コミ)

数学の授業は字が大きく、説明もわかりやすい (1コミ)

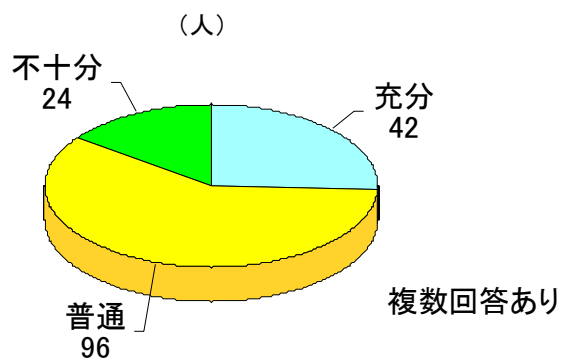
第 2 学年

これからも公開授業を続けてください (2コミ・2機)

物理の授業を聞いてかつての自分を思い出し、もう一度学びたいと思いました (2建×2)

資料 9-1-③-6

### 教育内容



○卒業生を対象にした「教育内容」に関する質問：  
 福島高専の教育について十分な内容，時間であったと思いますか。

(出典：JABEE 委員会資料)

資料 9-1-③-7

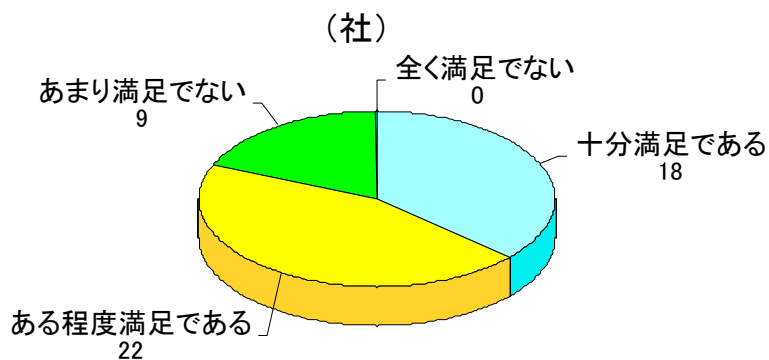
### 社会での有用性



○卒業生を対象にした「社会での有用性」に関する質問：  
 福島高専で受けた教育は社会に出てから役に立っていますか。

(出典：JABEE 委員会資料)

### プログラム修了生の社会人としての資質



○企業を対象にした「プログラム修了生の社会人としての資質」に関する質問：  
 「産業技術システム工学」教育プログラムの学習・教育目標が達成されて  
 いれば、貴社の新入社員としての資質は十分満足していると思われますか。

(出典：JABEE委員会資料)





卒業生用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問1 あなたが最終的に卒業(修了)した学科(専攻)について、あてはまるもの1つにマークしてください。

(1) 単学士課程(本科5年生)

- 1: 機械工学科
- 2: 電気工学科
- 3: 物質工学科(旧工業化学科)
- 4: 建設環境工学科(旧土木工学科)
- 5: コミュニケーション情報学科

(2) 専攻科課程

- 6: 機械・電気システム工学専攻
- 7: 物質・環境システム工学専攻
- 8: ビジネスコミュニケーション学専攻

質問2 あなたの年齢について、あてはまるもの1つにマークしてください。

(3)

- 1: 20~24歳
- 2: 25~29歳
- 3: 30~34歳
- 4: 35~39歳
- 5: 40~44歳
- 6: 45~49歳
- 7: 50~54歳
- 8: 55歳~

質問3 現在、あなたは何をされていますか。

(4)

- 1: 企業等に勤務
- 2: 大学等の学生
- 3: 無業
- 4: その他

質問4 質問3で「1. 企業等に勤務」とお答えになった方のみにお伺います。

現在、あなたが所属している業種・分野について、あてはまるもの1つにマークしてください。

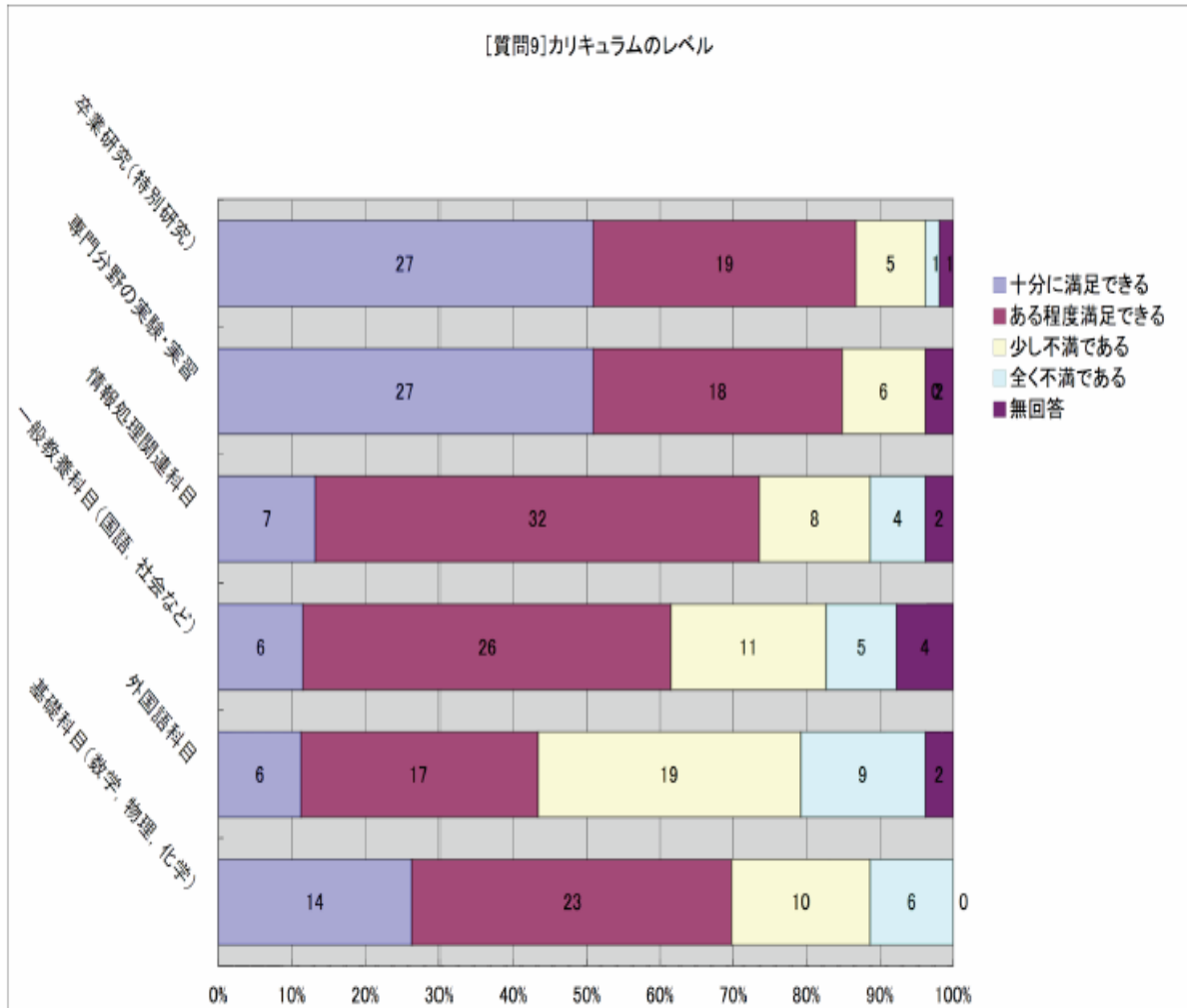
(5) 製造業

- 1: 機械
- 2: 輸送用機械
- 3: 金属
- 4: 電気機器
- 5: 精密機器
- 6: 化学
- 7: 繊維
- 8: 医薬品
- 9: 食品
- 11: 電気・ガス
- 12: 運輸
- 13: 通信
- 14: 建設
- 15: 卸売・小売
- 16: 金融
- 17: 情報
- 19: 官公庁等
- 20: 大学等教育機関
- 21: 研究機関
- 22: その他



卒業生（修了生）アンケート結果

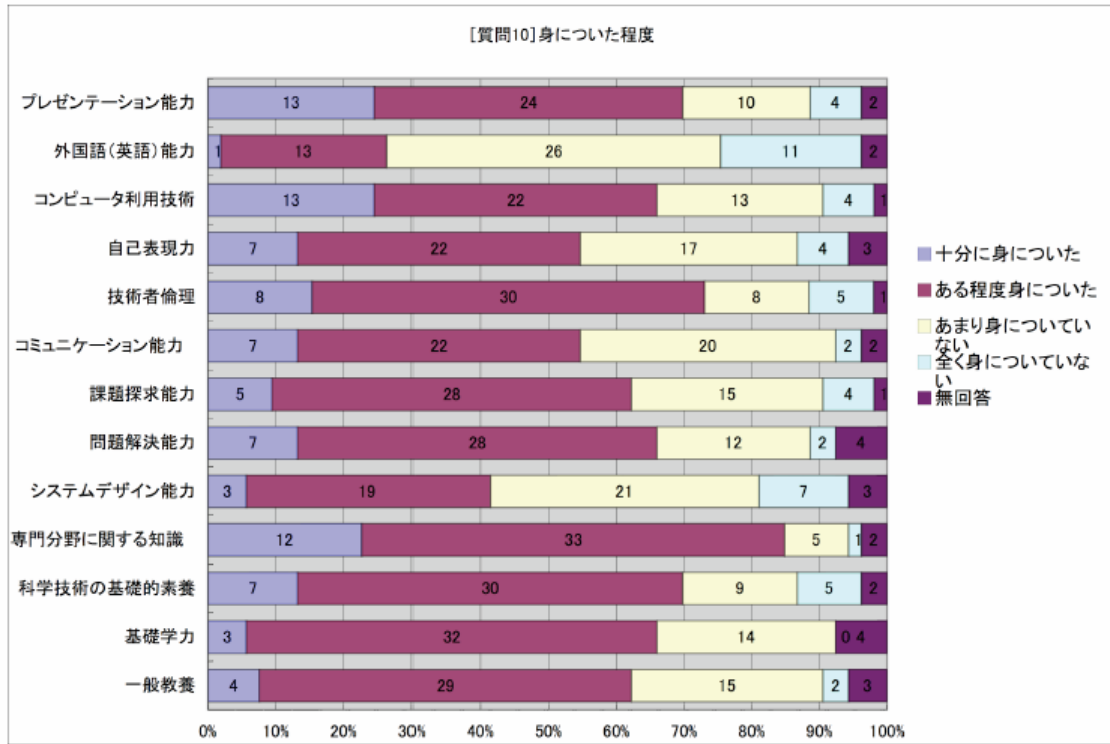
資料 9 - 1 - ③ - 10



(出典：認証評価委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 11

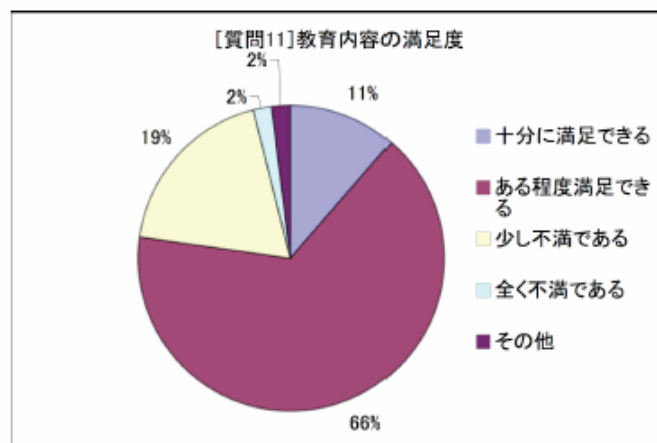
卒業生（修了生）アンケート結果



(出典：認証評価委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 12

卒業生（修了生）アンケート結果



(出典：認証評価委員会資料)

企業等学外者用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問 1 貴社（貴機関）の業種・分野について、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(1)

- |                                   |                                      |                                   |                                  |
|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械    | <input type="checkbox"/> 2: 輸送用機械    | <input type="checkbox"/> 3: 金属    | <input type="checkbox"/> 4: 電気機器 |
| <input type="checkbox"/> 5: 精密機器  | <input type="checkbox"/> 6: 化学       | <input type="checkbox"/> 7: 繊維    | <input type="checkbox"/> 8: 医薬品  |
| <input type="checkbox"/> 9: 食品    | <input type="checkbox"/> 10: 電気・ガス   | <input type="checkbox"/> 11: 運輸   | <input type="checkbox"/> 12: 通信  |
| <input type="checkbox"/> 13: 建設   | <input type="checkbox"/> 14: 卸売・小売   | <input type="checkbox"/> 15: 金融   | <input type="checkbox"/> 16: 情報  |
| <input type="checkbox"/> 17: 官公庁等 | <input type="checkbox"/> 18: 大学等教育機関 | <input type="checkbox"/> 19: 研究機関 | <input type="checkbox"/> 20: その他 |

質問 2 貴社（貴機関）に採用いただいている（入学させていただいている）本校卒業（修了）生の出身学科（専攻）にあてはまるものすべてにマークしてください。

(2) 準学士課程（本科5年生）

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械工学科         | <input type="checkbox"/> 2: 電気工学科           |
| <input type="checkbox"/> 3: 物質工学科（旧工業化学科） | <input type="checkbox"/> 4: 建設環境工学科（旧土木工学科） |
| <input type="checkbox"/> 5: コミュニケーション情報学科 |   |

(3) 専攻科課程

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 6: 機械・電気システム工学専攻    | <input type="checkbox"/> 7: 物質・環境システム工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 8: ビジネスコミュニケーション学専攻 |   |

ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

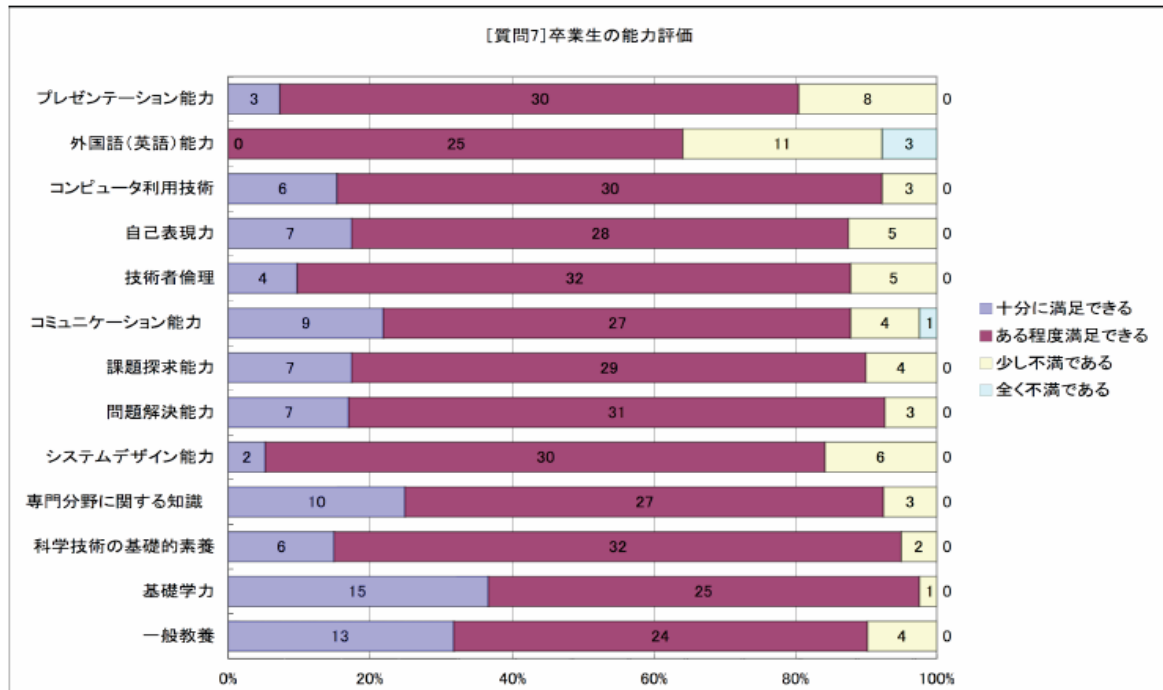
質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(4)

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: ある | <input type="checkbox"/> 2: ない |
|--------------------------------|--------------------------------|

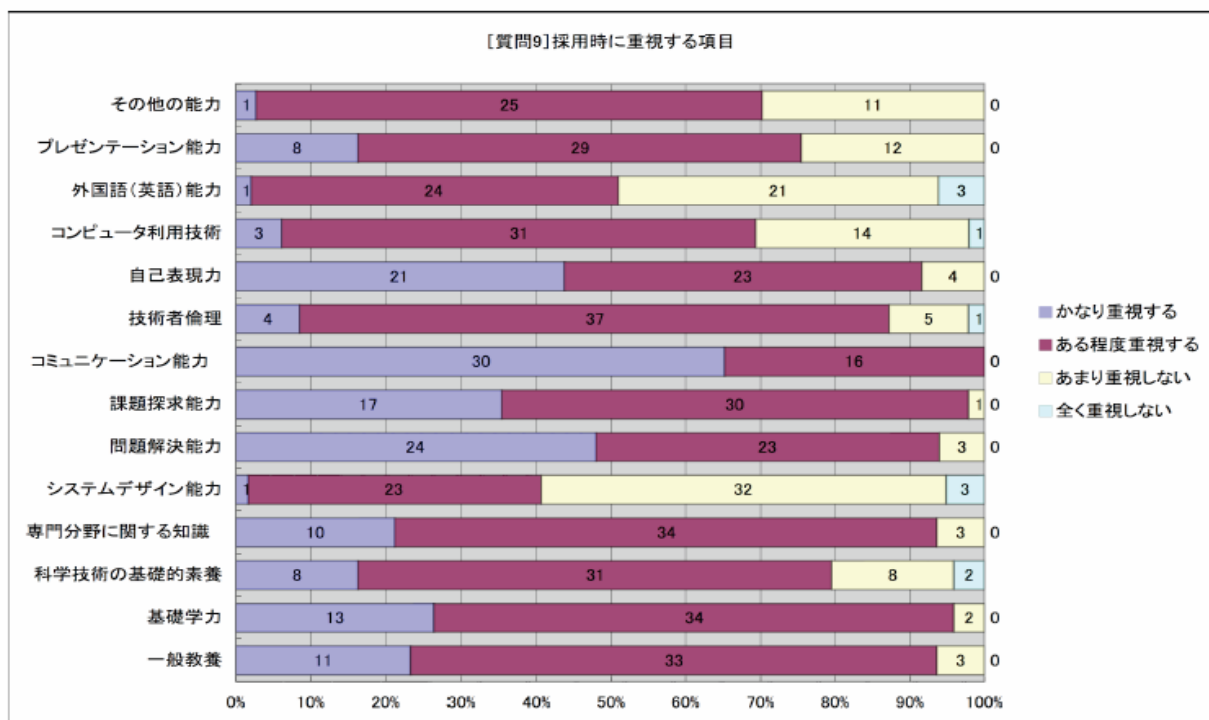
資料 9 - 1 - ③ - 14

企業アンケート結果



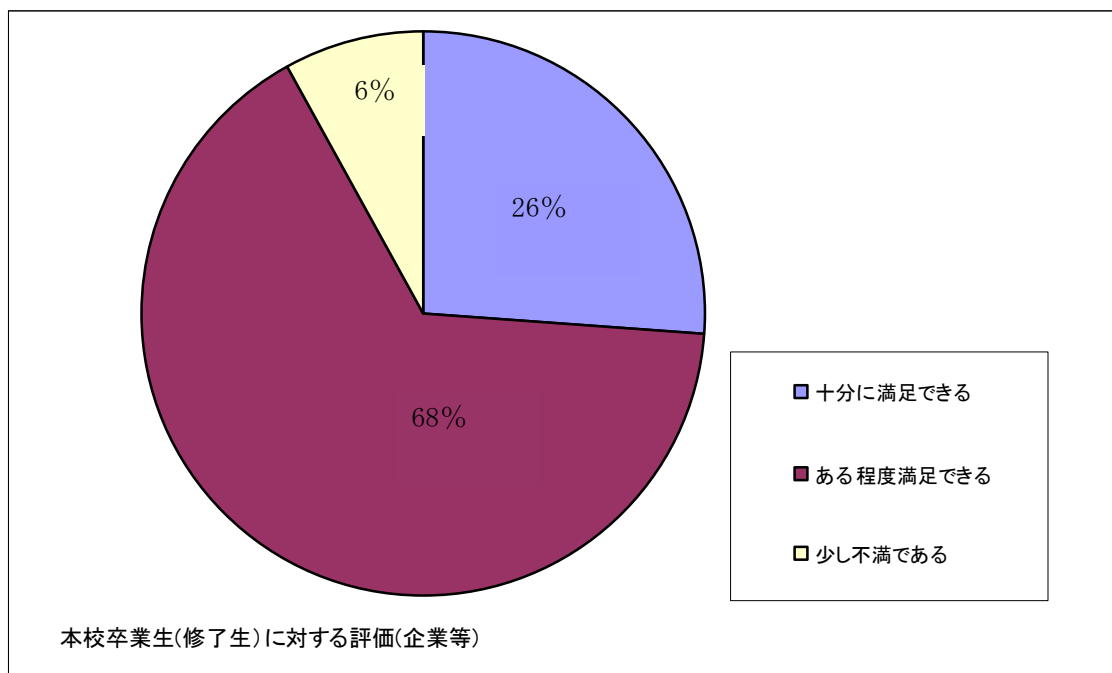
資料 9 - 1 - ③ - 15

企業アンケート結果



(出典：認証評価委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 16



(出典：認証評価委員会資料)

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

平成16年度から、学生自らが記入する学習等の達成度記録簿（資料 9-1-④-1）を導入した。学生は目標と評価を記入し、クラス担任がコメントを記入して保管している。学習等達成度記録簿の達成度は、本校の学習・教育目標の達成度評価（資料 9-1-④-2）により、自らの姿勢や取り組み状況を事前に確認させている。また学習への取り組み状況は、授業の理解度調査でも把握している（資料 9-1-④-3）。授業アンケートの結果は各教員に通知され、また、各クラスにも資料が配付される。各教員は、集計されたアンケート結果（資料 9-1-④-4～5）に基づいて、授業改善報告書を作成している。授業評価アンケート上位者による公開授業やFD研修会が実施されている（資料 9-1-④-4、資料 9-1-②-7）。教員相互で授業参観を行い、教授方法について点検・評価を行っている。このような取り組みによって、教育方法や授業改善の取り組みに積極的に参加するシステムが構築され機能している（資料 9-1-④-6）。

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価アンケートを定期的実施する体制が整っている。アンケートや相互の授業参観、研修会等の実施などにより、教授方法の改善にとどまらず、関係科目間の連携や教育内容の見直しなどの教育方法等の改善に向けた取り組みが継続的に行われている。

## 学 習 等 達 成 度 記 録 簿 (その1)

秘

学 科 名	学 科	学 籍 番 号	氏 名
-------	-----	---------	-----

出 身 地	出 身 中 学
-------	---------

住 所		電 話	固 定	-	-
			携 帯	-	-
			E-メール		

(1) 高専で勉強したい内容

1年次	4年次

(2) 高専における勉学以外の目標

1年次	4年次

(3) 自己採点 (各学年の春に、100点満点で自己採点を行ってください。)

項 目	1年	2年	3年	4年	5年	年 卒 業 時
地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養が身についたか？						
工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力が身についたか？						
工学系科目ービジネス系科目との協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力が身についたか？						
情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力が身についたか？						
モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力が身についたか？						
情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力が身についたか？						

各項目の細目はシラバスや本校ホームページに掲載してあるので、それらを見て総合的に採点してください。

(4) 資格等(英語検定, 工業英語検定, TOEIC, 秘書検定, 日本漢字能力検定, ラジオ音響検定, デジタル技術等)に関する目標

資 格 等 名					
取 得 予 定 (年 月 等)					
結 果 等 (年月, 点数等)					

(出典：JABEE委員会資料)



資料 9 - 1 - ④ - 2

福島高専の学習・教育目標の達成度評価

4年 建設環境工学科

番 氏名

この調査は、「福島高専の学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。」を評価する基礎資料となるものです。  
 右に示す「学習・教育目標を達成するための科目群」の理解度に基づき、各細目の総合的達成度を『10段階評価』で答えて下さい。  
 なお、網掛けの欄には記入する必要はありません。

(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 人類の幸福や豊かさについて考えることができる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ, 文学, 体育	
2 人類の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる	体育, 環境工学Ⅰ	
3 世界の歴史・思想・文化や、それらに根ざした価値観などを理解し、ものごとを多角的に見ることができる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ, 文学, 第2外国語Ⅰ, 体育	
4 人間社会と自然環境の調和を図る必要性を認識できる	体育, 環境工学Ⅰ	
5 科学技術が社会や自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための深い倫理観を持つことができる	社会科学特講Ⅰ, 環境工学Ⅰ	
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 工学の基礎となる数学、自然科学に関する知識を修得し、活用できる	応用数学A, 応用数学B	
2 それぞれの専攻分野の基盤となる専門基礎知識を修得し、活用できる	応用情報処理, 応用測量, 環境工学Ⅰ, 鋼構造工学, 構造解析学, 交通施設, コンクリート構造工学, 施工法, システム工学, 地域計画, 水処理工学, 水理学, 土質力学	
3 情報処理に関する基礎知識を修得し、それを工学的諸問題の解決に応用できる	応用情報処理	
4 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学の知識と能力を身につけ、活用できる		
4-1 設計・システム系		
4-2 情報・論理系	応用情報処理	
4-3 材料・バイオ系		
4-4 力学系	鋼構造工学, 構造解析学, コンクリート構造工学, 水理学, 土質力学	
4-5 社会技術系	応用測量	
5 それぞれの専攻分野の基盤となる専門基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、異なる専門分野の知識を身につけ、活用できる		
(C) 工学系科目-ビジネス系科目との協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 各種の経営体の事業面・統治面・社会面・経済面に応じた管理、およびこれらを遂行するのに必要な諸要素の管理に関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅱ	
2 製造業における生産の計画と管理に関わる概念技法およびシステム工学、情報科学など生産管理の理論的基礎知識を修得し、活用できる	システム工学	
3 ベンチャー企業をどのように育成していくのか、起業家、ビジネスプラン、支援制度、ベンチャーキャピタルなどに関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅰ, 社会科学特講Ⅱ	
4 科学技術をビジネスの世界で効果的に応用して経営のあり方に関する知識を修得し、活用できる	社会科学特講Ⅱ	
5 グローバルなビジネス社会で英語を実務的に運用できる	工学セミナー	
6 自ら工夫して新しい産業技術を創造・開発し、産業システムを構築できる	社会科学特講Ⅱ, 工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
(D) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 数学、自然科学、専門基礎、専門の知識を総合的に利用し、それを実践的な問題解決に応用できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
2 問題解決のために必要な情報を収集し、解析するための情報処理技術および工学的手段を修得し、活用できる	応用情報処理, 工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
3 さまざまな知識を適切な情報源から得、それらの内容を識別した上で、蓄積・整理できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
4 新しい課題について、問題点を自ら発見できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
5 新しい課題について、さまざまな観点から検討し、その結果を具体的に示すことができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 実験・実習・演習の工学的意義を理解し、それらの修得を通じて、自主的、継続的、そして計画的に学習することができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
2 設計・製造・計測・制御および情報処理など、知識と技術が結びついた生産活動を行うことができる	応用情報処理, 工学セミナー, 鋼構造工学, システム工学, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
3 生産から消費・廃棄に至るプロセスを、ひとつのシステムとして認識できる		
4 多様な産業技術システムを理解し、企画・基本設計・付加価値設計ができる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習, 工学基礎実験・演習	
(F) 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける	学習・教育目標を達成するための科目群	達成度
1 自分の考えを論理的、客観的に日本語の談話や文章で表現できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
2 他者の意見や主張を的確に理解したうえで、問題点を指摘し討論できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
3 情報技術を活用して作成した分かりやすいグラフや図などを用いて論理的に発表し、質疑に対して的確に対応できる	工学セミナー, 実務研修, 校外実習	
4 幅広い話題についての英語の談話を聞き、文章を読み、それらの内容を理解できる	英語, 工学セミナー	
5 幅広い話題について、英語の談話や文章で表現する基礎能力を身につけ、活用できる	英語	
6 英語で書かれた論文などを正しく読解し、その内容を日本語で説明できる	英語, 工学セミナー	

(出典：JABEE委員会資料)

授業科目の理解度評価

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
鋼構造工学 Steel Structure Engineering	4	2	必修	通年 A	機岸 嘉和
到達目標	鋼構造における設計規範の正しい適用法を身につける。各種鋼構造部材の耐荷性状と設計規範との関係について理解する。				
週	授業項目	理解すべき内容	理解度		
1	鋼構造工学と鋼橋概況 1	鋼構造工学と橋梁工学、鋼橋の分類			
2	鋼構造工学と鋼橋概況 2	鋼橋の構造			
3	鋼構造工学と鋼橋概況 3	鋼橋の種類と特長			
4	鋼構造部材と許容応力度 1	鋼構造部材の組立 主要断面力による分類と各種部材の耐荷性状			
5	鋼構造部材と許容応力度 2	各種鋼構造部材の許容応力度設計法による設計と許容応力度			
6	引張材の降伏と設計	引張りを受けるトラス部材の応力度限界			
7	農柱の異種座屈解析 1	両端ヒンジの農柱の座屈強度 [2階の梁分方程式による解析]			
8	前期中間試験				
9	農柱の異種座屈解析 2	各種支持条件の農柱の座屈強度 [4階の梁分方程式による解析]			
10	農柱の異種座屈解析 3	初期歪り、偏心圧縮、終局応力の影響			
11	圧縮材の許容応力度	局所座屈を考慮しない圧縮材の許容軸方向圧縮応力度			
12	平板の異種座屈解析 1	圧縮を受ける平板要素の座屈解析 1			
13	平板の異種座屈解析 2	圧縮を受ける平板要素の座屈解析 2			
14	板の局所座屈の許容応力度	両接支平板と自由端出板の局所座屈の許容応力度			
15	トラス圧縮材の設計	トラス圧縮材の応力度限界と設計法			
	前期期末試験				
16	桁の横倒れ座屈強度	歪みを受ける部材 (桁) の横倒れ座屈と許容歪み圧縮応力度			
17	桁の強度と断面設計 1	プレートガーダーフランジの応力度限界			
18	桁の強度と断面設計 2	所要フランジ断面積算定式と兼重断面算定式			
19	桁の強度と断面設計 3	プレートガーダーフランジの断面決定			
20	桁の腹板と補剛材の設計 1	端重補剛材の耐荷性状と応力度限界			
21	桁の腹板と補剛材の設計 2	プレートガーダー腹板の耐荷性状と腹板の最小厚規定			
22	桁の腹板と補剛材の設計 3	中間兼重補剛材と水平補剛材の設計			
23	後期中間試験				
24	溶接接合の強度と設計 1	溶接と溶接継手の応力度限界 1			
25	溶接接合の強度と設計 2	溶接と溶接継手の応力度限界 2			
26	溶接接合の強度と設計 3	プレートガーダーのフランジと腹板の溶接の設計			
27	高力ボルト接合の強度 1	高力ボルト摩擦接合の許容力、引張りを受ける端接板の純断面積			
28	高力ボルト接合の強度 2	高力ボルト接合と高力ボルト継ぎ手の応力度限界 1			
29	高力ボルト接合の強度 3	高力ボルト接合と高力ボルト継ぎ手の応力度限界 2			
30	高力ボルト摩擦継手の設計	プレートガーダーの継接の設計			
	後期期末試験				
総合評価					

(出典：理解度調査配布用紙 (教務委員会))

授業評価アンケート結果（教員別集計結果）

図 3 平成 17 年度授業アンケート教員別集計データ  
質問別 4 段階評価構成比

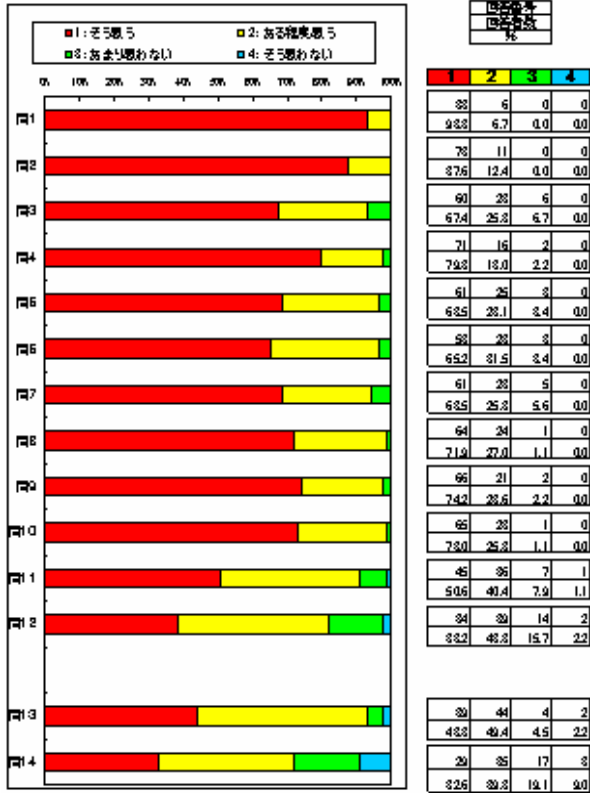
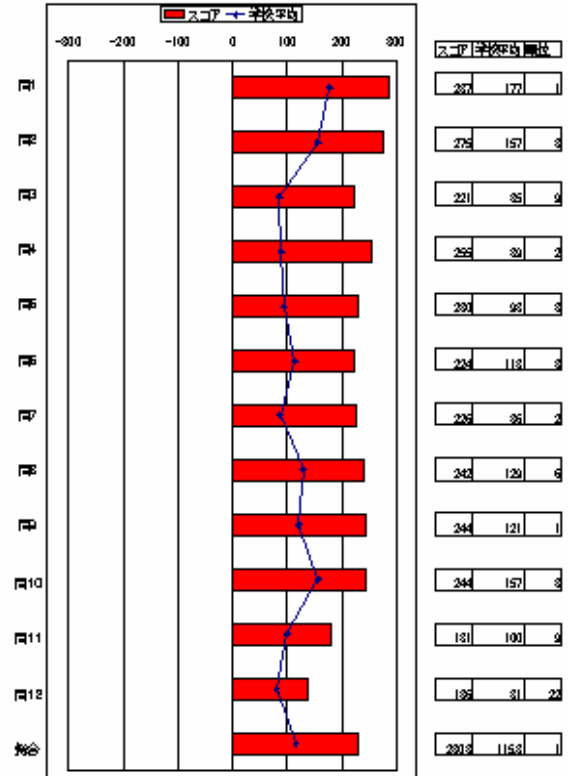
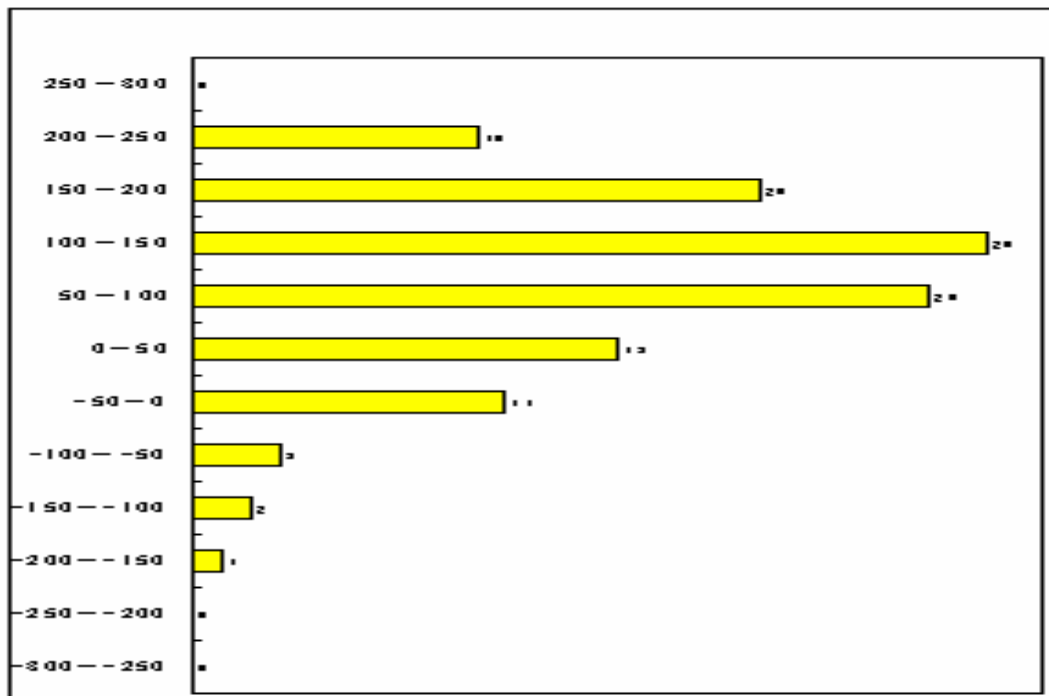


図 4 平成 17 年度授業アンケート教員別集計データ  
質問項目別スコア及び総合評価



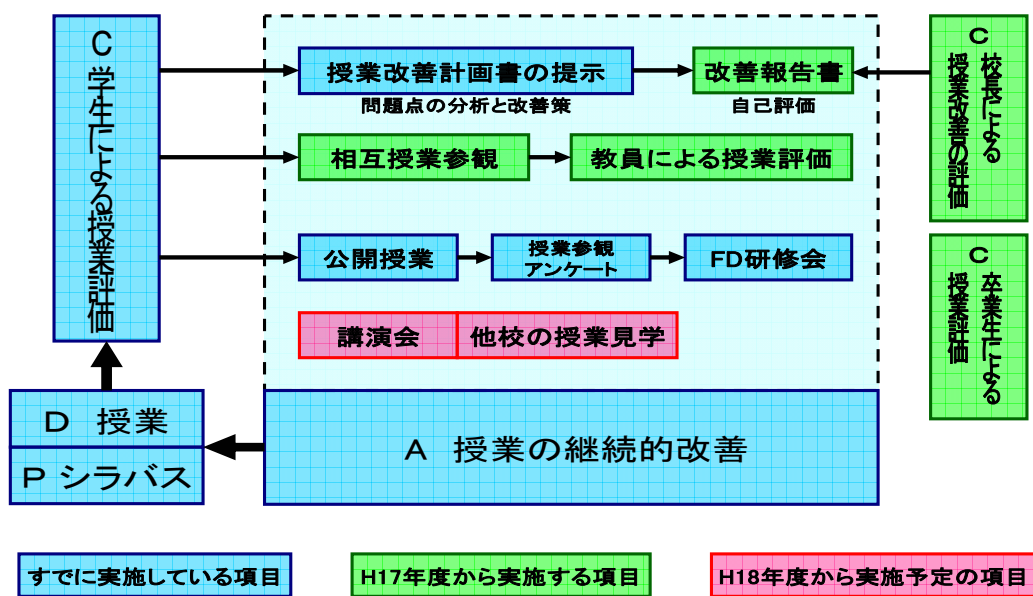
(出典：FD 委員会資料)

資料 9-1-④-5



(出典：FD 委員会資料)

資料 9-1-④-6



(出典：JABEE 委員会資料)



平成18年11月1日 FD委員会審議

教員各位

FD委員会

「平成17年度授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善計画書の提出について（依頼）

中期計画<sup>①</sup>・JABEE<sup>②</sup>・認証評価<sup>③</sup>では、授業評価アンケートの結果に基づいて、全教員が授業に関する問題点、改善策および改善結果を提示することとしています。別添の用紙に、以下の3点について改善計画をご記入頂き、ご提出をお願いいたします。

(1) 評価点の低かった<sup>④</sup>アンケート項目についてどのように改善していくか。

(2) 自由記述欄で改善を指摘された点についてどのように改善していくか。  
※多い場合は、複数出されたものに限定して下さい。

(3) シラバスや教材についてどのように改善していくか。

(1)(2)において改善度の欄は年度末の改善結果報告時に使用しますので、今回は空欄のまま結構です。

授業改善計画書は平成18年11月24日（金）までに学生課長宛 e-mail でお送り下さい。

なお本計画書は、今後、公開することを原則としますので、ご了承下さい。  
(学生へ公開、授業改善報告書へ掲載など)

注① 中期計画 I-1-(3)-②

「全教員が担当授業に関する問題点とそれらの改善策を出し、次の授業評価アンケートまでに改善をする。」

注② JABEE 基準6『教育改善』

6.2 継続的改善「教育点検の結果に基づいて、教育内容、教育手段および教育環境等の改善が行われているか  
(中略) さらに、これらの改善活動を継続的に行うシステムが存在し、機能しているか」

注③ 認証評価 基準9『教育の質の向上及び改善のためのシステム』

9-1-⑤「個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、授業技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の活動状況を、学校として把握しているか」

注④ 「評価点が低い」

- (1) 評価点そのものが低い(最大300点、最小300点)
- (2) 教員全体の平均値と比べて低い
- (3) 平成16年度の結果と比べて低い
- (4) 12項目の中で相対的に低い

(出典：FD委員会資料)

資料9-1-⑤-3

(改善計画提出) 平成18年 月 日

(改善結果報告) 平成19年 月 日

「平成17年度授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善計画書

学科 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

(1) 問題点と改善策 (評価点の低い項目を中心に)

アンケート 項目番号	問題点と改善策	改善度

(2) 自由記述欄で改善を指摘された点 (多い場合は、複数出されたものに限定して下さい。)

指摘された点	どのように改善していくか	改善度

(3) シラバス・教材等の改善内容 (昨年通りであれば未記入のままでも結構です。)

授業科目名	改善内容

(出典：FD委員会資料)

資料 9-1-⑤-4

Subject: 「授業改善結果報告」のお願い

教員各位

授業改善計画書における「授業改善結果報告」のお願い

FD委員会  
委員長 根岸嘉和

昨年11月に、「平成17年度授業評価アンケート」の結果に基づく「授業改善計画書」をご提出頂いている所ですが、今年度の授業終了にあたり、その「授業改善計画書」の各項目に関し、「改善度」を評価・ご記入頂き、下記に従いご提出頂きますようお願い致します。

記

1. 提出書類  
先に提出済みの「授業改善計画書」に、新たに「改善度」を記入したもの
2. 提出期限  
平成19年3月9日（金）
3. 提出先・提出方法  
棚井学生課長(e-mail nv-tanai@fukushima-nct.ac.jp)までメールにてご提出ください。

●先に、「平成17年度授業評価アンケート」の結果に基づく「授業改善計画書」をご提出頂いていない先生も、今回、「問題点と改善策」とともに「改善度」をご記入頂いたものをご提出くださるようお願い致します。

(出典：FD委員会資料)

資料 9-1-⑤-5

平成19年1月15日FD委員会審議  
平成19年2月14日教員会議提出

平成18年度FD講演会実施要項（案）

FD委員会

1. 日時：平成19年3月14日（水）14：30 ～ 16：30
2. 場所：福島工業高等専門学校 大会議室
3. 演題：『地域ネットワークFD“樹氷”の活動』
4. 講師：山形大学 学長特別補佐  
地域教育文化学部 教授 小田 隆 治 氏
5. 目的：外部有識者から、FDの必要性・教育機能の発揮・授業の充実等についての講演により、本校教員の更なる授業改善に資することを目的とする。

(出典：教員会議資料)



	活動内容	授業評価 アンケート	公開授業	FD研修会	授業改善 計画書	相互授業参観	FD委員会 報告書
	対応する 認証評価 基準	基準1-2 基準2-1	基準1-4 基準2-1	基準1-4 基準2-1	基準1-2 基準1-4 基準1-5 基準2-1	基準1-4 基準2-1	基準2-2
年 度	H14	毎年、全学 年・全科目に ついて実施した	—————	—————	—————	—————	—————
	H15	毎年、全学 年・全科目に ついて実施した	○平成5年6月9日～ 11日 ○担当は、前年度の 授業評価アンケート において総合的に高 スコアを獲得した教 員4名 ○参加者数 延2名	平成5年6月18日 参加者数 77名	アンケートに基 づいた問題点の 分析と改善策の 提示 (66名)	—————	公開授業・研修会 報告書を作成した
	H16	毎年、全学 年・全科目に ついて実施した	○平成6年7月5日～ 15日 ○担当は、前年度の 授業評価アンケート において理解度を高 める授業構成要素に ついて高スコアを獲 得した教員15名 ○参加者数 延33名	平成6年10月1日 テーマ「理解度を 高める授業」 参加者数 71名	アンケートに基 づいた問題点の 分析と改善策の 提示 (52名)	—————	公開授業・研修会 報告書を作成した
	H17	毎年、全学 年・全科目に ついて実施する	10月に全教員の公開 授業を実施する	12月に行う	アンケートに基 づいた問題点の 分析と改善策を 提示する	11月に各科ごと に行う	平成5年度と16年 度のアンケート結 果に基づき、授業 改善に関する分析 結果を発表した  公開授業・相互授 業参観・研修会報 告書を作成する

(出典：FD委員会資料)

**その1 「全体・学科別教員平均値」**

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総合	
		授業時間	聞き取りやすい声	わかりやすい説明	板書の読み取りやすさ	理解度を確認した授業	授業への参加を促す	授業の進め方に工夫	適切な教材の効果	演習・宿題の効果	シラバスどおり	授業内容への関心	授業内容の理解		
全体・学科		80	76	64	65	66	69	64	72	70	76	67	64	69	
アンケート平均値		80	76	64	65	66	69	64	72	70	76	67	64	69	
教員平均値	全教員	全体	77	71	60	59	61	65	61	68	67	74	63	60	66
		常勤	78	73	61	61	62	67	61	69	68	74	64	61	67
		非常勤	74	69	58	54	58	63	60	67	65	73	62	59	63
	機械工学科	全体	69	61	50	49	55	60	50	56	56	68	55	52	57
		常勤	67	59	44	46	51	60	46	53	54	66	51	49	54
		非常勤	73	64	58	53	61	61	55	60	59	70	60	55	61
	電気工学科	全体	78	69	61	59	59	60	60	64	65	71	61	57	64
		常勤	78	71	62	61	61	62	61	64	64	71	63	59	65
		非常勤	78	64	60	54	56	56	57	63	66	71	57	55	62
	物質工学科	全体	71	63	52	51	55	58	58	65	63	71	59	54	60
		常勤	71	65	52	53	56	60	56	64	63	70	58	53	60
		非常勤	70	58	53	47	54	55	61	67	62	72	62	56	60
	建設環境工学科	全体	82	75	64	64	66	69	68	75	73	79	70	66	71
		常勤	84	78	67	68	69	72	68	76	76	80	71	67	73
		非常勤	76	69	58	56	60	64	66	73	67	75	67	66	66
	コミュニケーション情報学科	全体	82	75	58	56	60	69	61	72	67	76	65	62	67
		常勤	82	78	61	58	63	69	62	74	70	77	68	65	69
		非常勤	81	68	53	52	53	69	57	66	61	74	58	56	62
	一般教科	全体	80	77	66	66	64	71	64	71	70	76	66	63	69
		常勤	82	79	69	70	68	72	67	73	73	77	68	65	72
		非常勤	73	67	53	51	52	66	54	64	58	72	57	55	60

※「アンケート平均値」は母集団全体の平均値

※「教員平均値」は各教員平均値を用いて算出した集団ごとの平均値

(出典：FD委員会資料)

その2 「前年度に対する変化値」

質問項目	1 授業時間	2 聞き取りやすい声	3 わかりやすい説明	4 板書の読み取りやすさ	5 理解度を確認した授業	6 授業への参加を促す	7 授業の進め方に工夫	8 適切な教材の効果	9 演習・宿題の効果	10 シラバスどおり	11 授業内容への関心	12 授業内容の理解	総合	
														全体・学科
アンケート平均の変化	-0.3	2.0	2.0	2.3	2.6	1.9	2.2	2.5	2.7	2.7	1.2	1.0	1.9	
教員平均の変化	87人	-0.3	-0.3	0.4	1.0	1.4	0.8	1.2	1.9	2.6	1.8	0.9	0.9	0.0
機械工学科	10人	-4.5	-7.3	-6.2	-5.9	-0.3	-2.7	-4.2	-5.1	-1.7	-1.9	-4.8	-3.0	-4.0
電気工学科	13人	0.4	-3.5	-2.8	-2.3	-0.6	-2.8	-2.2	0.7	-0.2	-0.8	-1.2	-1.1	-1.4
物質工学科	14人	-0.2	0.4	0.6	2.2	2.6	2.5	3.9	3.8	4.2	2.1	1.2	1.1	2.0
建設環境工学科	12人	-0.2	0.4	0.6	2.2	2.6	2.5	3.9	3.8	4.2	2.1	1.2	1.1	2.0
コミ情報学科	11人	1.9	6.2	8.0	7.8	6.7	5.9	6.5	7.3	7.9	4.9	7.4	5.7	6.3
一般教科	27人	-0.9	-1.6	-1.6	-1.3	-2.0	-1.6	-0.9	-0.1	0.2	0.7	-1.4	-1.6	-1.0
改善が見られた人数		28	28	35	35	33	29	40	43	42	41	33	33	35
現状維持の人数		26	21	20	21	29	30	23	23	27	25	30	27	28
改善が見られなかった人数		33	38	32	31	25	28	24	21	18	21	24	27	24

その3 「授業改善計画の検証」

質問項目	1 授業時間	2 聞き取りやすい声	3 わかりやすい説明	4 板書の読み取りやすさ	5 理解度を確認した授業	6 授業への参加を促す	7 授業の進め方に工夫	8 適切な教材の効果	9 演習・宿題の効果	10 シラバスどおり	11 授業内容への関心	12 授業内容の理解	合計（または平均）
授業改善計画に取り上げた人数	9	15	23	20	21	8	16	6	8	4	9	15	154
H15年度の平均値	71	58	53	53	56	59	55	57	55	74	67	62	60
H16年度の平均値	76	63	55	53	59	64	57	62	62	75	69	62	63
平均値の変化	5.2	5.3	1.9	0.0	2.7	5.4	1.7	4.5	7.5	0.4	1.7	0.2	3.0
改善が見られた人数	7	8	11	10	10	5	7	4	7	2	3	5	79
現状維持の人数	0	2	5	2	6	1	5	2	0	1	5	5	34
改善が見られなかった人数	2	5	7	8	5	2	4	0	1	1	1	5	41

(出典：FD委員会資料)

http://ole.fukushima-nct.ac.jp/ole/index.php

検索  ブロック数: 35  チェック  翻訳  設定

**高専 FNCT ONLINE** Distance Education E-Education E-Learning Video On Demand

**FNCT** Fukushima National College of Technology  
Physics and Information Science

ゲスト   **メンバー**

[TOP](#) | [このサイトについて](#) | [公開授業一覧](#) | [過去の授業一覧](#) | [これまでのニュース](#)

**Welcome!** ようこそ

>>FNCT onlineは、福島高専の一般科物理とコミュニケーション情報学科の一部の情報関連の授業で利用するe-Learning実験サイトです。現在このサイトは、一般に公開しております。eラーニングの授業は、新しいシステムに移行した為に主としてこのサイトは利用していません。そのため多少の不備はご了承ください。

**Update**

最新の授業



[物理\(2年\):第56講](#)  
講師: [鈴木 三男](#)

ビデオ  video 資料  data



[物理\(2年\):第55講](#)  
講師: [鈴木 三男](#)

ビデオ  video 資料  data

アドレス http://ceas.fukushima-nct.ac.jp/System/menu.php

Google  検索  ブロック数: 35  チェック  翻訳  設定

**CEAS** 履修環境管理者Topページ  ログアウト

氏名  e-mail

**履修環境管理者用メニュー**

- ユーザ管理
- 科目管理
- 担任者管理
- 履修学生グループ管理
- コース管理
- コンテンツ設定
- コースログ
- 告知機能
- アクセスログ
- システム利用状況

**一括登録用メニュー**

- ユーザリスト読込
- 科目リスト読込
- 科目担任関連リスト読込
- 履修情報リスト読込
- 担任者メニュー

**お知らせ**

- [化学\(1C\)/夏休みの課題について](#) (2006/09/07 19:51:41)
- [分析化学/ご意見お願いします。](#) (2005/08/30 14:12:11)
- [化学IB/不明なところはお問い合わせ下さい](#) (2005/03/11 09:05:46)

お知らせ一覧

**公開FAQ**

・現在、FAQはありません。

公開FAQ一覧

**学生としての試行画面**   検索

該当数 9項目 1/1ページ

No.	曜日	時限	年度	学期	科目名称	担任者	系・学科・コース	授業実施画面へ
1			2007	前期	化学1年(2007年度 前期分)	内田	建設環境	<input type="button"/> GO
2	木	7	2006	後期	計算機化学	内田修司	物質工学科4年	<input type="button"/> GO
3	金	5	2006	通年	化学(1C)	内田修司	物質工学科1年生	<input type="button"/> GO
4			2006	通年	化学(1年生 小口先生)	小口先生	化学	<input type="button"/> GO

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

資料 9 - 1 - ⑤ - 10

ID	期間アクセス回数	正答率	現在の課題	接続IP	備考
0301	10	80	4	in	
0302	2	100	6	in	
0302	1	100	6	in	
0303	3	80	6	in	
0303	5	100	6	out	
0304	4	100	6	in	
0304	6	50	6	in	
0305	2	80	4	in	
0305	4	80	5	in	
0306	5	75	5	in	
0306	6	90	5	in	
0307	10	50	5	out	
0307	13	60	5	in	
0308	1	100	1	in	
0308	14	90	5	in	
0309	13	100	5	in	
0309	5	90	5	out	
0310	6	60	6	in	
0310	8	90	6	in	
0311	13	100	7	in	
0311	16	100	7	out	
0312	21	100	7	in	

(出典：管理システムログ)

平成18年度 教育業績評価システム調査表(規定部分:ポイント制に基づく評価)

別紙2

(学科名)		コード欄 □□□ (氏名)	コード欄 □□□		
事 項	点 数	記 入 欄	素 点	評価点	配分点
<b>(A) 教育 (貢献度配分係数 3.5)</b>					
★の担当単位数(専攻科を含む)	6・5・4				
★の補習授業の実施(課外学生・大学編入学)	5				
◎顕著な教育成果	6				
◎独自の教材等の開発(工夫状況)【資料添付】	6				
◎教育方法の改善	5				
★の教育研修会等への参加	3				
★の公開授業等の実施・評価及び参加	3				
◎企業訪問	5				
◎卒業生への就職・進学支援	3				
◎インターンシップ参加奨励	5				
★の教育活動の表彰	3				
◎留学生への支援	3				
★の在学学生の海外研修・留学支援	3				
★の学内表彰・大臣表彰	6・10				
計14項目	62				
<b>(B) 学生指導 (貢献度配分係数 2.0)</b>					
①違法行為指導(飲酒、喫煙、キャンブル)	3・2・1				
②車両指導(車両通学・違法駐車・道交法)	3・2・1				
③容儀指導(頭髪・ピアス・制服・履物等)	3・2・1				
④マナー・礼儀指導 (携帯電話、公衆道徳、言葉遣い、挨拶)	3・2・1				
◎ボランティア活動支援	2・1				
◎遅刻・欠席・欠課指導	2・1				
◎掃除指導	2・1				
◎アルバイト指導	2・1				
◎クラス運営指導	2・1				
◎クラブ・愛好会指導	3・2・1				
◎試合・大会・コンテスト成果	3・2・1				
★の協会・連盟等の役員	2・1				
◎合宿指導	2・1				
◎審判指導	3・2・1				
◎寮行事指導	2・1				
★の学生相談室担当	3				
◎セカンドステップ担当・スクールカウンセラー活動	2				
計17項目	42				
<b>(C) 研究 (貢献度配分係数 2.0)</b>					
★の学位の取得	5				
★の技術士の資格取得	5				
★の著作権の有無	3				
★の特許権の有無	3				
★の著作・論文(査読付)の発表 (著者又は責任者、共著、共同)	3・2・1				
★の紀要・その他月刊誌への掲載 (著者又は責任者、共著、共同)	2・1				
★の学会・研究会・セミナー等への参画	2				
★の学会発表(国際学会、国内学会)	3・2				
★の学会・研究会等の役員	3				
★の学会賞等の受賞	3				

(出典：教員配布資料)

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員の研究活動の情報は、地域環境テクノセンター報告書(資料9-1-⑥-1)や本校ホームページの「教員紹介」に掲載し公表している(資料9-1-⑥-2)。「研究紀要」を毎年発行し研究成果を公表するとともに(資料9-1-⑥-3~5)、付録として発表論文や学会発表などの教員の研究業績も掲載している(資料9-1-⑥-6)。これらの研究成果は、準学士課程の「卒業研究」(資料9-1-⑥-7)や専攻科課程の「特別研究」(資料9-1-⑥-8~9)の指導に活かされ、準学士課程や専攻科課程の学生の学会発表も活発に行われている(資料9-1-⑥-10)。

平成18年度から準学士課程2年生に「ミニ研究」の科目が導入され実施され、一般教科及び専門学科の教員の指導の下で学生が課題研究に取り組んだ(資料9-1-⑥-11~12)。それらの取り組みの成果は、高専機構発行の論文集「高専教育」にも報告された(資料9-1-⑥-13)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教員の研究活動が活発に行われ、その活動の成果が準学士課程の「ミニ研究」や「卒業研究」、及び専攻科課程の「特別研究」の指導に有効に活かされており、その研究の内容やレベル向上の結果として、準学士課程や専攻科課程の学生による学会等での発表件数も増加している。以上のことから、教員の研究活動が教育の質の改善に寄与している。

資料 9-1-⑥-1

研究活動の状況

	査読付き論文	紀要	査読無し論文	口頭発表	特許	合計
渡辺 敏夫	1	2	3	4	0	10
佐東 信司	3	9	11	0	1	24
石垣 義尚	0	1	0	0	0	1
永井 康友	3	3	0	0	13	19
松本 匡以	1	2	1	2	0	6
一色 誠太	2	1	11	5	5	24
松尾 忠利	1	5	0	0	1	7
高橋 章	1	1	0	5	0	7
篠木 政利	2	1	0	4	0	7
鈴木 茂和	1	0	0	8	1	10
合計	15	25	26	28	21	115
春日 健	0	0	0	1	0	1
奈良 和久	0	0	0	0	0	0
渡辺 博	3	0	5	0	2	10
大槻 正伸	0	5	0	8	1	14
鈴木 晴彦	0	0	1	21	2	24
山本 敏和	0	2	0	0	0	2
濱崎 真一	6	0	6	0	0	12
伊藤 淳	0	0	0	18	1	19
小泉 康一	0	0	0	0	0	0
山田 貴浩	2	2	0	9	0	13
三浦靖一郎	0	0	0	0	0	0
合計	11	9	12	57	6	95

(出典：地域環境テクノセンター報告書)

アドレス http://www.fukushima-nct.ac.jp/~el/frame.htm

Google 検索

TOPページ

- ・新着情報
- ・学科紹介
- ・授業内容
- ・教職員紹介
- ・研究施設紹介
- ・行事紹介
- ・活動記録
- ・キャリア
- ・合格入学
- ・通学
- ・リンク
- ・連絡先

### 鈴木 晴彦 (SUZUKI Haruhiko)

**職名:** 教授

**専門分野:** 電気電子材料工学

**研究テーマ:**

- (1) 酸化物超伝導体の磁気浮上応用に関する研究
- (2) 酸化物超伝導体の磁気浮上効果を用いた教育機器の開発に関する研究
- (3) カルボン酸基を含む複金属塩化合物の誘電性に関する研究

**学位:** 1992年(平成4年)3月 博士(電気工学) (明星大学)


**学位論文:** ABBY<sub>4</sub>型新誘電体の探索 -N(CH<sub>3</sub>)<sub>4</sub>HSO<sub>4</sub>・H<sub>2</sub>O, K<sub>2</sub>CoCl<sub>4</sub>, K<sub>2</sub>CoBr<sub>4</sub>-

**所属学会:** 日本物理学会, 電気学会

**職歴:** 1987年(昭和62年)4月 いわき明星大学理工学部(助手)  
1995年(平成7年)4月 福島高専電気工学科(助教授)  
2006年(平成18年)4月 福島高専電気工学科(教授)

**主な論文・著書:**

- ・(共著): "DEVELOPMENT OF THE SCIENCE EDUCATION EQUIPMENT WITH MAGNETIC LEVITATION EFFECT OF HTSC;" The 4th Int. Sympo. on LDIA2003, pp.279-282, 2003.
- ・(共著): "養護教育を目的としたバルク超伝導磁気浮上機器の試作;" 電気学会, 第15回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム講演論文集, 3A14, pp.309-312, 2003.
- ・(共著): "福島高専電気工学科における超伝導教育・研究の実践;" 電気学会リニアドライブ研究会資料, LD-03-109, 2003.



電気工学科

【教育シーズ番号】 【教育分野】 理工系一工学一電気電子工学

【教育支援関連分野(細目)】 電気, 温度, エネルギー,

【教育シーズ名】

「液体窒素を用いた高温超伝導体磁気浮上と物質の状態変化に関する体験実験・授業」

【キーワード】 超伝導体, 液体窒素, 磁気浮上, リニアモータ, 電気抵抗, エネルギー

【対象】 小学校低学年から一般まで(また養護学級などでの体験実験にも対応できます)

【実施形態・時間および許容人数など】

実験と解説の双方を取り入れ, 実際に手で触れて学習してもらう。解説 15分+実験 25分が最低必要。1度に40名くらいは可能であるが, 20名前後が理想。

【内容】

液体窒素(約-197℃)を使って温度に関する実験を行います。特に高温超伝導体を使った, ゼロ抵抗(電気抵抗が無くなる)や磁気浮上効果(磁気浮上式リニアモータ)の解説と体験実験を行います。具体的には温度変化による「物質の状態変化や性質の変化」について解説し, その中で特に超伝導体の基本性質や応用例を映像等により紹介します。解説の後, 液体窒素の冷却効果を使って物質の状態変化(風船の体積変化)を体験実験し, さらに超伝導体の磁気浮上実験や磁気浮上走行実験を体験してもらいます。また超伝導磁気浮上を応用した理科デモ機器を使ったゲームも体験します。



関連した内容としては, 電力エネルギー(超伝導送電線, 電力貯蔵), 超伝導の医療・交通機関への応用, 極低温(絶対零度)の世界などの話題を映像と資料を使って紹介することも出来ます。前半(約15分)で映像を交えた解説をし, 後半(約25分)で液体窒素を使った体験実験をします。液体窒素を使った体験実験を中心に行いますので, 担任(担当)の先生の同席も願います。内容詳細は直接担当者にご相談いただければ, 年齢・目的に応じアレンジいたします。

また養護学級等における「液体窒素と超伝導体のおもしろ実験」にも対応出来ます。

【担当者(グループ)など】 電気工学科 伊藤・鈴木研究室(状況に応じ高専学生の支援も有)

【担当者(代表)紹介】



鈴木 晴彦(すずき はるひこ)  
【所属・職名】 電気工学科・助教授 【学位等】 博士(電気工学)  
【専門分野】 電気材料応用, 誘電体物性, 超伝導材料応用, 磁気浮上応用機器  
【教育研究内容】 酸化物超伝導体を利用した, 磁気浮上応用機器の開発  
超伝導磁気浮上機器を使った理科教育・養護教育  
【所属学会等】 日本物理学会, 電気学会

【教育・学習支援方針】

教育研究業務に支援をきたさない範囲で積極的に教育・学習支援活動をしたい, 一方的な出前授業・実験でなく小中学校の授業内容や求められる内容に則した学習支援をこころがけたい。

【参考文献・著書など】

・「養護教育を目的としたバルク超伝導磁気浮上機器の試作」, 鈴木晴彦, 伊藤 淳: 第15回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム, 3A14, pp.309-312(2003).

【連絡先】 電気工学科 伊藤・鈴木研究室(代表 鈴木晴彦)

TEL: 0246-46-0799, FAX: 0246-46-0807

Email: haruhiko@fukushima-nct.ac.jp, URL: (HP 準備中)

【その他参考事項】

FAX, Email でご連絡いただければ, 実施例などを記載したリーフレットをご送付いたします。

(出典: 福島工業高等専門学校ホームページ)



松尾・鈴木・福島・佐東：ゴルファーの諸特性に合致した最適クラブの開発と評価

## ゴルファーの諸特性に合致した最適クラブの開発と評価

Development and Evaluation of Optimum Golf Club for Golfer

(平成17年9月受理)

松尾 忠利\* (MATSUO Tadatoshi)  
 鈴木 浩史\*\* (SUZUKI Hirofumi)  
 福島 澄夫\*\*\* (FUKUSHIMA Sumio)  
 佐東 信司\* (SATO Shinji)

### Abstract

A lot of golfers are interested in flying golf ball far away. It is enumerated that the head speed is raised as one method. In this paper, therefore, two kinds of golf shafts are developed. The former is a shaft with two kick points, and other is a shaft used reinforcement to swing at a fast head speed. The rise of the head speed and flight distance of a golf ball was confirmed through outdoor hitting experiment using the golf robot.

### 1. 緒言

ゴルフボールを速くへ飛ばすことは、全てのゴルファーの関心事と言っても過言ではない。その方法の1つとして、ヘッドスピードを上昇させること<sup>(1)~(3)</sup>が挙げられる。そのためには、

- (1) ゴルファーが筋力トレーニングを実施する
- (2) クラブ長さを長くする
- (3) スイング時のクラブのしなりを大きくする

等の方法が考えられる。(1)の方法は、あまりにも現実的ではない。(2)の方法は、数年前は長尺クラブとして流行したが、方向性が安定しないなどの理由から、現在では、一般的なゴルファーの使用は少ないようである。(3)の方法が最も注目されていて、ゴルフクラブメーカーが、さまざまな構造のゴルフシャフトを開発している。

本研究の最終目標は、ゴルファーのスイングをゴルフロボットで模擬試打し、それらの打球特性をコンピュータ解析することによって、ゴルファーに最適なゴルフクラブを提供するゴルフクリニックを開設することである<sup>(4)~(6)</sup>。そこで本論文では、大きなシャフ

トのしなりを利用してヘッドスピードを上昇させることを目的として、キックポイントを2ヶ所設けたツインキックシャフトと振動数の低い軟らかいシャフトでありながら、より高いヘッドスピードでもスイング可能な、クロスシート補強シャフトを作製した。ゴルフロボットを用いて、2種類のゴルフクラブについてそれぞれ試打実験を行い評価する。

### 2. 実験方法

#### 2. 1 シャフトの作製方法

##### (1) 従来のカーボンシャフトの作製方法

カーボンシャフトの素材材料として、カーボンプリプレグシートが用いられている。カーボンプリプレグシートとは、炭素繊維を一方方向に配列し、半硬化状のマトリクス樹脂を含浸させたシート状の成形材料である。本研究で用いたカーボンプリプレグシートの特性を表1に示す。また、カーボンプリプレグシートを用いた、従来のシャフトの作製方法(シートの積層順序)を図1に示す。まず、バット部(グリップ部)を補強するためのストレート層①を巻き、次に繊維を配列し

\* 福島工業高等専門学校 機械工学科 (いわき市平上荒川字長尾 30)

\*\* 福島工業高等専門学校 機械電気システム工学専攻 (いわき市平上荒川字長尾 30)

\*\*\* 株式会社 柳田産業 (埼玉県南埼玉郡白岡町舞泉 1000-2)

(出典：福島工業高等専門学校研究紀要)

山本・小松・佐藤：太陽追尾型光発電システムの製作・運転

## 太陽追尾型光発電システムの製作・運転

## Construction and Operation of a Solar Tracking Type Photovoltaic System

(平成 18 年 9 月受理)

山本敏和\* (YAMAMOTO Toshikazu)

小松昌太郎\*\* (KOMATSU Syoutarou)

佐藤明博\*\* (SATO Akihiro)

## Abstract

In recent years there has been a growing interest in photovoltaic system as renewable energy sources without environmental pollution and excess heating of air. Photovoltaic cells convert the energy of sunlight directly into electricity. However, solar radiation varies with changing atmospheric conditions (clouds and dust) and the changing position of a photovoltaic system relative to the sun. In this work, it was intended to enhance the watt-hour efficiency of a solar cell module. A photovoltaic system tracking the azimuthal movement of the Sun was constructed. The system was driven azimuthally with a geared motor controlled by a solar sensing circuit. And a PIC data logger circuit to accumulate the data of the system power was equipped. It was verified experimentally that watt-hour efficiency was enhanced 27 [%] by using the solar tracking type photovoltaic system.

## 1. はじめに

太陽の表面温度は 5800 [K] であり、中心温度は 15000 [K] といわれている。このような高温状態をもたらしているのは太陽内部における水素が融合してヘリウムが生成される核融合反応である。太陽からは様々な波長の光や太陽風と呼ばれる荷電粒子などが放出されている。地球は太陽から 約 1 億 5 千万 [km] 離れているため直接高温にさらされず、また磁気圏が荷電粒子を阻止し、大気圏、オゾン層が有害な紫外線を減衰させている。その結果、太陽光は大気、大地、海水を暖め、植物の光合成のためのエネルギー源になっている。化石燃料である石炭及び原油はそれぞれ太古に太陽エネルギーを得て生育した植物及び微生物が変性してできたものであり、地球における大気の移動、水の蒸発及び大気中での移動は太陽からのエネルギーによって生じている。従って、火力、水力、風力の源は太陽であり、原子力や地熱を除いて地球上で利用されるエネルギーのほとんどは太陽に由来すると言える。

\* 福島工業高等専門学校 電気工学科 (いわき市平上荒川字長尾 30)

\*\* 福島工業高等専門学校 電気工学科卒業生

(出典：福島工業高等専門学校研究紀要)

井川・大澤：サイクロイド振り子について

## サイクロイド振り子について

On Cycloidal Pendulum

井川 治\* (IKAWA Osamu)

大澤 昇平\*\* (OSAWA Shohei)

**Abstract** The motion of a particle on a cycloid under the uniform gravity is called the cycloidal pendulum. We study the cycloidal pendulum, and compare it with the circular pendulum.

**Keywords** cycloidal pendulum, circular pendulum

## 1 導入

円が、与えられた直線上を滑ることなく転がるとき、この円状の定点が描く軌跡をサイクロイドという。本稿の目的は、サイクロイド斜面上に均様な重力場がかかっているとき、斜面上に質点を置き、手を離したときの質点の運動を調べ、その結果を利用して、サイクロイド振り子と円振り子に関するシミュレータを作成し結果を比較することである。

ここで、サイクロイド軌道上の質点の運動は、周期運動となるが、その周期は、初期位置によらず一定であるという特殊な性質を持つ。この等時性は、普通の円振り子に対しても近似的には成立する。

## 2 サイクロイド軌道上の質点の力学的性質

半径  $a$  の円が、与えられた直線上を滑ることなく転がるとき、この円上の定点が描く軌跡をサイクロイドという。定点が原点  $(0, 0)$  を出発して、直線  $y = 2a$  上を転がったときの円の回転角を  $\xi$  とすると、曲線は次のように表示される。

$$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = a \begin{pmatrix} \xi \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \sin \xi \\ -\cos \xi \end{pmatrix} \quad (-\pi < \xi < \pi) \quad (1)$$

これを図示すると以下のようになる。

本稿で全体を通して扱う系においては、重力加速度  $(0, -g)$  が一様にかかっていると考え、ここで、サイクロイド軌道上の質点の運動は、周期運動となるが、その周期  $T$  は、初期位置によらず一定であるという特殊な性質を持つ（等時性、(6) 式を参照）。

この等時性は、普通の円振り子に対しても近似的には成立する。実際、周期  $T$  は、糸の長さ  $l$  と重力加速度  $g$  を用いて  $T \approx 2\pi\sqrt{l/g}$  と表される。この事実は、ガリレオ・ガリレイによって発見されたものである。ただし、これは円振り子の振幅が小さい場合に限ったことであり、振幅が大きい場合は、小さい場合と比べて周期は長くなってしまふ。この事実に対しホイヘンスは、サイクロイドを考案し、その等時性を発見した ([1] 参照)。

\* 福島工業高等専門学校 一般教科  
Department of General Education, Fukushima National College of Technology,  
Iwaki, Fukushima, 970-8034, Japan

\*\* 福島工業高等専門学校 電気工学科  
Department of Electrical Engineering, Fukushima National College of Technology,  
Iwaki, Fukushima, 970-8034, Japan

付 教官研究業績

## 付 教官研究業績 (平成17.11.1～平成18.10.31)

佐 東 信 司 (福島高専) / 五十嵐 雄 大 (福島高専学生) / 坂 田 昌 哉 (福島高専学生)  
 渡 辺 昇 (福島高専) / 柴 柳 敏 哉 (大阪大学) / 芹 沢 久 (大阪大学)

## 摩擦攪拌接合法による複数回攪拌の強度特性

日本金属学会春季大会 第138回 p450

2006年3月23日

実用材アルミニウム合金の摩擦攪拌接合の研究が進められているが、接合部の複数回攪拌や材料両面からの攪拌接合の強度特性について検討することを目的とした。

摩擦攪拌するときのショルダーピン回転数の最適条件は1200rpmである。曲げ変形の荷重-変位曲線の挙動は攪拌条件が異なってもほぼ同じ傾向を示すが、曲げ変位量1.5mmでの曲げ強度はに約5%の変化が認められた。また、接合材では裏面の未接合部の影響によって50%の強度低下が発生したが、未接合部側からの曲げ変形ではほぼ良い結果が得られた。また、硬さ分布では両面接合材がピンの中心から最も遠くまで硬さが低下し、両面からの摩擦攪拌による広域熱影響によるためと考えられる。

(出典：福島高専研究紀要)

平成18年度 機械工学科  
 卒業研究報告目次

## 第3/4号

15. 3次元自然風発生装置に関する研究 平野 靖之 (一色研究室)
16. 有限要素法によるW/Ti-6Al-4V複合材料の反発特性解析 猪狩 勝匡 (松尾研究室)
17. W/Ti-6Al-4V複合材料を用いたゴルフクラブヘッドの開発 小松 悠樹 (松尾研究室)
18. ゴルフクリニック用診断ソフトの開発 高木 和哉、松本 享 (高橋研究室)
19. 超撥水面上における流動蒸気の凝縮熱伝達に関する研究 宇佐美 敏、鈴木 佳、森口 敦史 (高橋研究室)
20. 熱対流場の可視化実験装置の製作と画像処理システムの構築 佐藤 誠悟 (篠木研究室)

(出典：図書館資料)

アドレス(D) http://www.fukushima-nct.ac.jp/dm02\_senkoka/kenkyuannai/index.html

Google 検索 ブロック数: 50 ABC チェック a i 翻訳 設定

専攻科トップへ / 高専トップページへ

## 機械・電気システム工学専攻の研究課題

1年生	指導教員	研究テーマ
會田 祐輔	大 槻	縦格子と人工ランダムドット平面の立体視に関する研究
阿部 軌道	一色・篠木	振動場における境界層の挙動と熱輸送機構に関する研究
石川 智史	永 井	曲げ変形の除荷・再負荷過程におけるヤング率の測定
坂本 道人	渡辺(敏)	低周波音の聴覚特性と心理的影響に関する研究
佐賀 行弘	浜 崎	新しい強誘電・強弾性体の誘電的性質に関する研究
佐藤 朝範	一 色	250W級大気圧ピンプインスターリングエンジンの研究
志賀 弘和	永 井	ヤング率のひずみ依存性を考慮した曲げ変形のスプリングバック解析
柴田 耕一郎	渡辺(敏)	研削音のドレッシング時期の判定に関する研究
鈴木 浩史	佐東・松尾	ゴルフロボットを用いたゴルフクリニックの開設
田中 健	大 槻	網戸と自然地面の波状立体錯視に関する研究
諸我 昌哉	佐 東	SiC/SiC複合材料の弾塑性特性

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

## 目 次

## 1. 機械・電気システム工学専攻

アルミニウム合金の摩擦攪拌接合に関する強度特性	五十嵐雄大	1
新しい暗号系の構築に関する研究	大山 智幸	7
3次元自然風を用いる小型プロペラ型風車の研究	金井 紀綱	13
伸び縮みフランジを有するU曲げ品の成形	佐藤 貴是	19
$\beta$ 型大容量ピンフィンスターリングエンジンの実験的研究	白石 裕昭	25
U曲げのスプリングバック変形に及ぼすパンチ、パッド形状の影響	鈴木 秀司	31
地域伝統芸能じゃんがらロボットの開発	廣川 綾子	37
高弾性・高反発型ゴルフクラブの開発	渡邊 剛	43

## 2. 物質・環境システム工学専攻

雨水の貯留効果の評価に関する実践的研究	秋元 俊夫	49
酸化チタン微粒子を用いた色素増感太陽電池の高性能化	五十嵐雅俊	55
貝殻廃棄物を利用した水質浄化法の検討	浦尻 祐樹	61
含ケイ素耐熱高分子材料の合成	佐々木誉幸	67
水環境改善に向けた住民運動の成果と簡易浄化法の提案	佐藤 拓郎	73
高耐酸化性含ケイ素炭素材料の合成	鈴木 大地	79
浮遊砂流の流れに及ぼす粒子特性の影響	鈴木 智美	85
有機塩素化合物分解菌の探索	高橋 寛生	91
ヘム異常代謝反応の中間体モデル-N-アルキルコバルトポルフィリン を有する再構成ミオグロビンの構造と反応	田村 夏樹	97
リグニンの環境低負荷処理法の開発	鶴宮 淳平	103

## 3. ビジネスコミュニケーション学専攻

時価評価が製菓業界に与えた影響について	大竹 温子	109
変革期における組織均衡の一考察～福島高専を事例にして	酒井 大樹	115
旅行の多元的価値を考慮した旅行サービスの一考察	塚野加奈子	121
多元的価値を考慮した旅行プランの一考察	比佐 学	127
自動車産業の環境保全戦略に関する一考察	吉田真智子	133

## 付録

特別研究論文名および指導教員名一覧	139
専攻科修了生の研究成果一覧	140

(出典：専攻科特別研究論文集)

## ポスターセッション

## P会場

9月23日 - (15時から) -

- 2P001 アニオン性タンダステンピリデン錯体の合成、構造および反応 (東北大院理) ○吉田真炎・坂場裕之・甲 千寿子・甲 國信
- 2P002 ビス (ヘキサスルフィド) 亜鉛錯体と活性アルキンとの反応 (福島大共生システム理工) 小野寺祥子・芥川 恵・渡辺浩子・○猪俣慎二
- 2P003 環状および直鎖状トリアミンを含むコバルト(III)錯体の合成 (山形大地域教育文化) ○倉島敬生・小関智子・大久保 守・石井 実
- 2P004 アントラセンを結合したレニウム(I)トリカルボニルジイミン錯体の分子内エネルギー移動 (弘前大理工) ○藤引陽介・喜多昭一
- 2P005 歪んだ五配位銅(II)錯体の電子状態と電気化学 (弘前大理工) ○小松秀央・喜多昭一
- 2P006 キラルな側鎖を有するケイ素フタロシアニン $\mu$ -oxoオリゴマーの合成と物性 (東北大院理) ○横山 渉・小林長夫
- 2P007 フタロシアニン修飾シリカゲル微粒子の合成と光物性 (東北大院理) ○菊川悠・石井和之・椎根真彦・小林長夫
- 2P008 チオ乳酸を化学修飾したキレート繊維の合成と $Mn^{2+}$ の吸着特性 (明星大理工・キレスト・中部キレスト) ○鐘野一栄・伊藤 治・山田孝二・南部信義・赤間美文
- 2P009 セルロース繊維を基材とした吸着剤による微量金属の固相抽出 (明星大理工・キレスト・中部キレスト) ○相原雅俊・伊藤 治・山田孝二・南部信義・赤間美文
- 2P010 選択的三成分均一液抽出法の検討 (福島高専) ○仲西 涼・押手茂克
- 2P011 FT-IR法による油脂中の遊離脂肪酸の簡易定量 (いわき明星大理工・いわき明星大科技) ○吉田 颯・小林紋子・佐藤健二
- 2P012 化学発光法による麻薬、覚せい剤の定量 (いわき明星大理工・いわき明星大科技) ○片寄悠史・高橋 裕・太田淳也・川崎輝久・佐藤健二
- 2P013 セルロース誘導体の合成と有害重金属の吸着特性 (福島大理工・物質材料研

(出典：平成 18 年度年日本化学会東北大会プログラム)

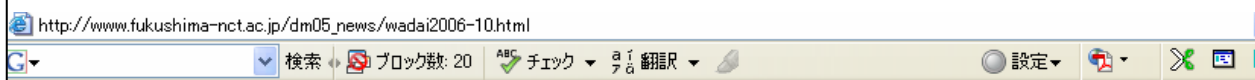


## 平成18年度ミニ研究テーマ

番号	担当者	テーマ
1	坂山秀博	戦前における柔道技の変遷
2		知能ロボットの製作による、機械及制御技術の探求
3	天野仁司	環境汚染物質の調査
4		身近な化学・バイオ実験の考案
5	新井 広	数学を活用しよう
6	石垣壽尚	テニスのストリングの強さとボールの跳び方の関係について
7	井川 治	
	西清孝治	ルービック・キューブで遊ぼう
	鳥袋 修	
8	伊藤 淳	オーディオ機器の自作に挑戦
9	内田修司	天体写真を撮ろう - 星間に見える星を見よう
10		プラネタリウム用ドームをつくろう - 1万個の星空を見よう
11	内山昭代	和本・洋本を作ってみよう
12	大槻正伸	将棋等の知能ゲームプログラムの進歩の歴史
13	大森慶子	オノマトペ分析——マンガに見られるオノマトペ(音韻・形韻)分析
14	笠井 新	岡倉天心を通して日本の伝統文化とその歴史を考える
15	藤井宣男	TeXによる数式を含む文書の作成
16	木原 淳	戦史を研究する
17	斎藤亮弘	「いわき学」をつくる…いわきについてあれこれ考え、調べてみよう
18	酒巻健司	時空間世界への招待 - 不思議な非線形反応
19	鎌木政利	ステレオグラムで3Dアートを作ろう
20	栗田公彦	生物の不思議 ?面白い実験・観察でたしかめる?
21	鳥村 浩	小中学校の授業支援
22	鈴木敬了	英語の話しことばの研究 (語用論入門)からダイアログ制作へ
23	高野克宏	インドについて調べる
24	高橋 章	地球温暖化対策について
25	高橋宏宣	福島県生まれの文学者を調べる
26	田村綾子	観測する技術 ~リモートセンシングの世界~
27	遠原智文	社会の仕組みについて考えてみる
28	鳥飼孝栄	英語と日本語の違いを探そう
29	中山悟視	アメリカから見た日本人像を考える (映画に見る日米比較文化考)
30	西山公紀	ハーブの秘密を探る
31	根岸嘉和	強い機構造を創ろう
32	根本昌樹	
	根本信行	建築をつくる
33	坂内昌徳	教わっていないのにどうしてわかるの? - 文法知識のなぜ
34	布施雅彦	eラーニングのためのマルチメディアWEBコンテンツの製作
35	松江俊一	日本人の名前の研究
36	松本匡以	“ねじ”について調べてみよう
37	綾川猛彦	コンクリートの強さの秘密を探る
38	宮澤泰彦	日本語と英語の違いについて少し詳しく調べてみよう。
39	森川 治	新聞を読む
40	森田年一	強い地盤を経済的に作る
41	山田貴浩	身近な地域をリモートセンシング技術で調べる
42	山野和一	自分ならこう教える…“基礎数学の教科書”を自分流で書いてみよう。
43	吉村忠晴	
	川崎俊郎	地図化してみる日本と世界 ~GIS・パソコン・地図ソフトを利用
44	渡辺 博	圧縮弁とその応用を考えてみよう

(出典：ミニ研究ワーキンググループ資料)





- 福島高专について
- 入学希望の方へ
- 企業の皆様へ
- 地域の皆様へ
- お知らせ

- 最新の話題
- [平成18年度の話題](#)
  - [平成17年度の話題](#)
  - [平成16年度の話題](#)
  - [平成15年度の話題](#)
  - [平成14年度の話題](#)
  - [平成13年度の話題](#)

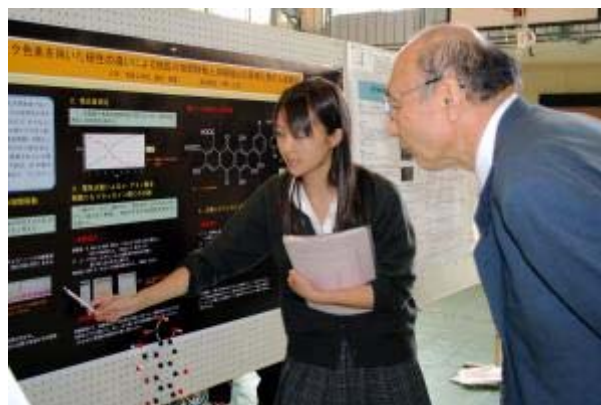
- ▶ 学科紹介
- ▶ 専攻科紹介
- ▶ 卒業生の皆様へ
- ▶ JABEE
- ▶ News
- ▶ 学生活動紹介

### 10月の話題

#### No.3 2年生を対象とした「ミニ研」発表会を開催

9月26日、2年生を対象とした「ミニ研究」の発表会が本校第一体育館を会場として開催された。低学年のうち、「自分で調べる・考える・まとめる・報告する・発表する」過程を学生たちに体験させることを目的として、今年度からスタートした取り組みの初めての成果発表となった。

4月以降、多くの教員の指導のもとで調査・研究・製作が進められてきたテーマ数は441のあまり、それぞれがポスターセッション形式で発表された。夏休み中も登校して活動した内容をいよいよ公表するということで、プレゼンテーションにも自ずと熱がこもる。後期の授業開始を目前に控えたこの日、会場には学生たちの若々しい活気がみなぎっていた。



(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

## 論文集「高専教育」掲載論文

著者	タイトル	巻数	P	Year
松本匡以	活気ある学生寮の再構築を目指した寮運営について	第28号	pp643-648	2005
佐東 信司	創造的実践技術者の育成をめざしたモノづくり教育の実践＝市民に役立つモノづくりを達成目標として＝	第28号	pp411-416	2005.3
高木克久	データベースを活用したシラバスの構築とWeb公開	第28号	pp785-790	2005.3
内田修司	地域環境情報ネットワークの構築と活用について	第25号	pp13-18	2002.5
島村 浩	「総合的な学習の時間」の支援 - 高専生による地域小中学校との連携 -	第25号	pp513-518	2002.5

(出典：地域環境テクノセンター資料)

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、授業アンケート上位者による公開授業、授業方法の改善に関する研修会、「工学系学科と数学・物理科の話し合い」などが行われている(資料 9-1-②-6, 資料 9-1-①-10)。また、各教員は授業アンケートの結果等を踏まえて、授業改善に取り組んでいることを学校に報告している(資料 9-1-⑤-1~4)。さらに、本校では年に1度、「教職員厚生補導研究会」を開催し、教員意外に技術部や学生課の職員も参加して、学生の教育や生活指導等の問題についての議論を行っている(資料 9-2-①-1)。毎年新しく採用された教職員に対しては、新規採用者オリエンテーションを開催し、年度当初の円滑な業務遂行を図っている(資料 9-2-①-2)。さらに本校では、平成18年度から教職員の教育研究活動のさらなる充実と高度化及び活性化等を目指して、学内に新たに「福島高専教育研究談話会」の組織を立ち上げ、その中で教職員による各種研究集会や研修会の出席報告、内地研究員及び在外研究員の報告、各教員の専門研究の発表等を行っている(資料 9-2-①-3)。また、外部の講習会やワークショップに参加した教員は、その出席報告をメールや資料配信の形で全教職員に伝えている(資料 9-2-①-4)。それ以外に、毎年、外部講師を招いてのFD講演会の企画開催なども行われている(資料 9-2-①-5~6)。

(分析結果とその根拠理由)

授業アンケートを実施し、その結果を基に授業公開及びFD研修会の実施、及び各教員の授業改善計画の立案と実施報告書の作成提出までをシステムとして構築し機能させている(資料 9-1-④-6)。また、学生の教育と生活指導等を議論する「教職員厚生補導研究会」を毎年開催し、その活動を通して教員の資質向上に取り組んでいる。さらに、外部講師によるFD講演会等を企画開催し、教職員の意識改革を図っている。以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で取り組んでいる。

資料 9 - 2 - ① - 1

From: takei@fukushima-nct.ac.jp (武井和代)  
 To: all-staff  
 Cc:  
 Bcc:  
 Subject: 平成18年度福島高専教職員厚生補導研究会について

平成19年2月28日

教職員各位

学生主事

平成18年度福島高専教職員厚生補導研究会について  
 標記について、下記により開催しますのでご参加くださるようお願いいたします。

1. 目的  
 学校や寮における学生達の様々な集団が豊かな創造性を発揮できるよう、リーダーシップ  
 養成と先輩後輩の好ましい関係構築のためにどのような支援が必要かを話し合う。

2. 場所  
 本校 大会議室  
 茨城厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」  
 日立市みなと町6-1 Tel 0294-53-8000

3. 特別講演会  
 演題: 「創造性を育むコミュニケーション」  
 講師: 福島大学 人文社会学群 人間発達文化学類 飛田 操 先生

4. 期日・研究内容  
 第1日目: 平成19年3月19日(月)  
 9:30~11:30 [ 福島工業高等専門学校: 大会議室 ]  
 特別講演会: 講師  
 「福島大学 人文社会学群 人間発達文化学類 飛田 操 先生」  
 司会・講師紹介: 学生主事  
 13:00~15:00 会場移動(スクールバス)  
 15:00~17:00 [ 茨城厚生年金健康福祉センター: サンピア日立 ]  
 第1研究会: テーマ「寮生会の現状とリーダーシップ養成」  
 司会: 松尾寮務主事補 書記: 齊藤寮務主事補  
 第2日目: 平成19年3月20日(火)  
 9:00~11:30 [ 茨城厚生年金健康福祉センター: サンピア日立 ]  
 第2研究会: テーマ「学生会諸活動におけるリーダーシップの養成」  
 司会: 山田学生主事補 書記: 木原・柴田学生主事補

5. 参加者 本校教職員

-----キリトリ-----

平成18年度福島高専教職員厚生補導研究会参加申込書

科・課 氏名

(3月6日(火)までに学生課学生支援係にご提出ください。)(メールでも結構です)

[EOF]

(出典: 学生支援係送信メール)

平成18年度新規採用者オリエンテーション（事務手続きの説明含む）

日 時：平成18年4月3日（月）  
 対象者：金子 研一、羽切 正英、遠藤 歩  
 場 所：管理棟3階小会議室

（説明事項）

平成18年4月3日（土）

庶務課

（庶務係）（10：20～）

- \* 機構の組織及び学校の組織等（学校要覧）
- \* 入学式、卒業式等行事の実施
- \* 統計調査（学術研究関係）
- \* 警備業務（研究室、実験室等の使用、鍵の貸出等）
- \* 研究助成（科学研究費補助金の申請等）
- \* 福利厚生（傷害保険、財形等）
- \* 教官会議
- \* 身分証明書の発行
- \* 文書処理（文書收受、郵便物の発送等）

（人事係）

- \* 就業規則について
- \* 服務等について
  - ・ 機構教職員の義務について・条件付き試用期間について・倫理規則について
  - ・ セクシュアル・ハラスメントの防止について・勤務時間・出勤簿・休暇・兼業
  - ・ 研修・振替・代休
- \* 諸手当等について
- \* その他届け出が必要な場合
- \* 校務分掌について

会計課（11：30～）

（財務係）

- \* 文部科学省共済組合について（概要、組合員資格取得届、長期組合員資格取得届、被扶養者証交付申請書、遠隔地被扶養者証交付申請書）

（調達係・図書係）

- \* 教員研究費等の執行手続きについて（物品、図書等）

日 時：平成18年4月4日（火）

対象者：金子 研一、羽切 正英  
 場 所：管理棟3階小会議室

教務委員会（15：00～）

- \* 授業、試験及び成績評価等について  
 教務手帳持参

学生委員会（15：30～）

- \* 学生の生活指導等について  
 4月3日開催の教員会議資料の持参

（出典：人事係送信メール）

資料 9 - 2 - ① - 3

## 福島高専教育研究談話会第 8 回研究会開催案内

平成 19 年 2 月 2 日

福島高専では、次の日程で教育研究談話会の研究会を開催いたします。  
 本研究会は、本校教職員以外にも専攻科学生及び他大学等の外部関係者の方の聴講も自由ですので、聴講を希望される方は当日開催時間までに会場へお越しください。

委員長 安久 正統  
 副委員長 渡辺 博  
 世話人 井川 治、濱崎 真一、道上 達広  
 日時 平成 19 年 2 月 9 日 (金) 15:00～16:40  
 場所 階段教室 (福島高専新教室棟 4F)

### 議 題

1. 今後の会運営について (15:00～15:10)
2. 一般講演 (座長：1. 菊地卓郎, 2. 渡辺 博, 3. 濱崎真一)
  - (1) 建設分野における技術開発の種の見つけ方と高専における伝承  
 …… 金子 研一 (福島工業高等専門学校・建設環境工学科) (15:10～15:40)
  - (2) 学校運営に関わる諸問題と危機管理  
 - 情報管理とモラル及び学生指導上の法的諸問題 -  
 (独立行政法人国立高等専門学校機構主催平成 18 年度教員研修報告)  
 …… 木原 淳 (福島工業高等専門学校・一般教科)  
 山田 貴浩 (福島工業高等専門学校・電気工学科) (15:40～16:10)

(出典：福島工業高等専門学校ホームページ)

新規 日工教のWS「技術者倫理」への参加報告を致します / academic-staff@fukushima-nct.ac.jp

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) マクロ(M) 設定(O) ヘルプ(H) 1.4Kバイト

Later Now

From: 笠井 哲 <akasai@fukushima-nct.ac.jp>  
 To: <academic-staff@fukushima-nct.ac.jp>  
 Bcc:  
 Subject: 日工教のWS「技術者倫理」への参加報告を致します

1 おはようございます。一般教科の笠井です。↓  
 2 J A B Eも済み、明るい気分で参加できた今回のWSについて、ご報告申し  
 3 上げます↓  
 4 第7回ワークショップ「技術者倫理」↓  
 5 主催：日本工学教育協会↓  
 6 日程：平成19年2月3日（土）9：30～18：30↓  
 7 会場：日本大学理工学部（駿河台キャンパス）↓  
 8 プログラムは、下記の通りでした。↓  
 9 ↓  
 10 9：40～10：10 □調査報告「技術者倫理教育に関する実体調査報告」：小林幸人  
 11 氏（八代高専）↓  
 12 10：10～11：40 □基調講演「技術者倫理教育を考える」：札幌順氏（金沢工大）↓  
 13 11：40～12：10 □講義事例Ⅰ「技術者倫理教育の射程」松木純也氏（福井大学）↓  
 14 13：00～13：30 □講義事例Ⅱ「新潟大学化学システム工学学科における技術者倫理  
 15 教育」山際和明氏（新潟大学）↓  
 16 13：30～14：00 □講義事例Ⅲ「技術者倫理を考えるトレーニングの方針と概要」  
 17 勝田順一氏（長崎大学）↓  
 18 14：00～14：30 □講義事例Ⅳ「産業現場が望む技術者倫理教育」堀田源治氏（日  
 19 鉄エレクトクス）↓  
 20 14：30～15：00 □講義事例Ⅴ「企業のリスクコンプライアンスと技術者倫理教  
 21 育」吉原節夫氏（東芝）↓  
 22 15：10～17：30 □グループ討論↓  
 23 17：40～18：30 □検討結果発表↓  
 24 ↓  
 25 ↓  
 26 □今回の特色は、講義事例のうち2件が企業の方によるものということです。  
 27 特に最後の東芝の事例は、東芝グループの技術者7万人全員に対して行われた社  
 28 大なもので、参加者から強い関心が寄せられました。↓  
 29 □グループ討論では、同じ班に大学・企業以外に豊田高専と高松高専の先生がお  
 30 り、両校の様子を伺うことができたのが収穫でした。↓  
 31 ↓  
 32 以上

(出典：教員宛て送信メール)

資料 9 - 2 - ① - 5

```

From:   gakusei-kacho@fukushima-nct.ac.jp (学生課長)↓
To:     academic-staff (全教員へ一斉発送)↓
Cc:     gakuseika-staff (学生課全員へ一斉送信)↓
Subject: F D 講演会について↓
↓
↓
□教員 □各位 ↓
↓
□□□□□□□□□□ F D 委員長 ↓
□□□□□□□□□□ □根岸 □嘉和 ↓
↓
□先般の教員会議でご案内のとおり 14日(水) ↓
に外部講師を招いて下記のとおり F D 講演会が ↓
実施されますので、是非ご出席くださるようお ↓
重ねてご案内申し上げます。 ↓
↓
↓
□□□□□□□□記 ↓
↓
日 □時：平成 19 年 □3 月 14 日 (水) 14 時 30 分から ↓
場 □所：大会議室 ↓
演 □題：『地域ネットワーク F D “樹氷” の活動』 ↓
講 □師：山形大学 □学長特別補佐 □小 □田 □隆 □治 □先生 ↓
↓
***** ↓
* 970-8034   いわき市平上荒川字長尾 30           * ↓
* 福島工業高等専門学校                             * ↓
*           学生課長 □棚井 □信良                 * ↓
* TEL 0246-46-0730 FAX 0246-46-0742             * ↓
* e-mail gakusei-kacho@fukushima-nct.ac.jp * ↓
***** ↓

```

(出典：教職員宛て送信メール (FD 委員会) )



## 平成 18 年度 第 1 回 FD 委員会会議録要旨

日 時	平成 18 年 5 月 12 日 (金) 16:40~18:00
場 所	小会議室
出席者	根岸委員長 松江副委員長, 松本、濱崎、青木、高橋宏の各委員
列席者	学生課専門員

## 議 事

1. 平成 18 年度 FD 委員会の活動計画について  
基本的には、昨年度と同様の計画とする。
2. 平成 18 年度前期中間「授業科目の理解度評価」の実施について  
根岸委員長から資料に基づき説明があり、異議なく了承された。  
なお、実験等については半期ごとに調査することとされた。資料については、高木さんの方で準備してもらっている。
3. 平成 17 年度「授業評価アンケート結果」の公開方針
  - ① 教員への公開  
ア 下記の通り、基本的に実施内容が昨年同様であり、学生から出されたデータの信頼度が必ずしも十分と言えない現状では、昨年同様教員の半数のみの公開とする。  
今後、実施内容の改善が図られ、十分な信頼度が得られたと判断された時点で全教員のデータを公開することとしたい。  
イ 公開内容も、昨年と同じとする。
  - ② 学生への公開  
昨年度と同様とする。
4. 平成 17 年度「授業改善計画書（達成度評価）」の扱い  
学生課長からの検討項目を提案して検討した結果、校長の考えを聞いた上で、決定することとされた。
5. 今後の検討事項
  - ① 平成 18 年度「授業評価アンケート」の実施方針  
ア 前委員長からの申し送りとして、「授業評価アンケート」については実施から 5 年間のインターバルで評価するため、内容は大きく変更できないとの事であり、昨年度作成した調査用紙のマークシートも本年度分まで完全に印刷されているため、今年度は現行のままとする。  
イ 今年度は、調査の簡素化等を含め来年度以降のアンケート様式を検討する。
  - ② 学級委員長との懇談会の質問要望事項への回答  
ア 懇談会には 2 名が出席することとされているため、根岸委員長（下級生担当）と松江副委員長（上級生担当）が出席することとされた。  
イ 次回の委員会で質問及び要望事項の回答について検討することとされた。
  - ③ FD 研修会の実施  
ア 昨年と同様、相互授業参観を行う。  
イ 編入学生が休学したりしている現状から、出身工業高校の先生方と話し合いを持ち、編入学生の教育のあり方等を討議する。併せて、中高連携の意味で中学校の先生方とも討議の場を設ける。等の案が出され、講師を招聘しての FD 講演会の開催なども含め、実施する企画を今後煮詰めていくこととした。
  - ④ 他校の FD 実施状況の視察

**観点 9-2-②：** ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

本校では、あらかじめ定められた改善システムにしたがって、継続的に教職員の意識や資質の改善に取り組んでいる(資料9-1-①-7)。最近の教育及び教育環境の改善事例を以下に示す。

- 1) 学習指導要領の改訂に対応した新カリキュラムの策定と実施(教育制度改訂への対応)
- 2) 授業アンケートを基にした授業改善計画と実施報告書の作成と収集(資料9-2-①-6)
- 3) ミニ研究の導入(低学年時の研究活動, コミュニケーション能力の育成)
- 4) 学生相談室カウンセラーの増員(平成18年度から2名体制)
- 5) 学内設備の整備(コモンスペースの整備, ゼミ室の開放, 専門棟の改修とバリアフリー化)

(分析結果とその根拠理由)

本校のファカルティ・ディベロップメントは、これまで継続的に行われ、着実に教育改善に結びついており、このことは学生による授業評価アンケートでの授業評価の向上にも現れている(資料9-1-⑤-8)。以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・教職員の厚生補導研究会やFD研修会, 教育研究談話会等を毎年定期的に開催し, その活動を通して, ファカルティ・ディベロップメントを着実に定着させ, 教育の質の向上や授業改善等, 教育環境の改善に結びつけている。

(改善を要する点)

- ・有識者から意見を聴取する参与会を年に複数回開催し, 本校の運営全般の改善に役立てる必要がある。

## (3) 基準9の自己評価の概要

本校における教育活動の実態を調べるために、各種の資料やデータがFD委員会, JABEE委員会, 認証評価委員会, 点検及び評価に関する検討委員会等により収集され, それらのデータ分析と評価が適切に実施できる体制が整備されている。学生からの意見聴取として, 学生による授業評価アンケートを実施している。この授業アンケートで示された学生からの意見や要望及び評価については, FD委員会が結果を取りまとめ, 教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映できるように, 改善計画とその報告を授業担当者に義務づけている。

学外者の意見を取り入れるために参与会を設置し, そこで示された意見や提言を自己点検・評価に適切に反映させ, 改善に向けた取り組みを行っている。各教員は, 授業公開やアンケート結果を基に授業の改善計画, 実施報告を行っており, 継続的な改善努力を促すシステムが運用されている。

教員の研究活動は, 準学士課程及び専攻科課程の学生の研究指導に有効に活かされ, 教育にフィードバックされている。本校ではファカルティ・ディベロップメントとして, 厚生補導研究会, 教育研究談話会, FD講演会などを毎年定期的に開催し, 教員の資質向上に取り組んでいる。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等については、平成16～平成18年度の本校の貸借対照表（資料10-1-①-1～3）ならびに固定資産付属明細（資料10-1-①-4）に示されるように充足されている。また、収支決算状況については、収入収支決算書（資料10-1-①-5）に示されるように債務が過大な状況にはない。

資料10-1-①-1

貸借対照表(平成16年度 2004.4.1-2005.3.31)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	4,360,593,178	[負債の部]	973,965,724
流動資産	175,279,599	流動負債	890,229,113
現金及び預金	174,946,284	運営費交付金債務	1,014,757
未収学生納付金収入	253,800	預り寄附金	14,363,294
未収入金	56,900	1年以内返済予定長期借入金	676,765,000
前払費用	22,615	未払金	190,981,721
固定資産	4,185,313,579	未払費用	6,750,671
有形固定資産	4,182,153,686	預り金	353,670
建物	2,025,248,654	固定負債	83,736,611
建物減価償却累計額	-257,478,299	資産見返負債	83,736,611
構築物	363,634,150		
構築物減価償却累計額	-198,995,500	[資本の部]	3,386,543,327
車両運搬具	1,703,269	資本金	3,814,842,114
車両運搬具減価償却累計額	-378,504	資本剰余金	-428,298,787
工具器具備品	131,456,945	資本剰余金	33,938,500
工具器具備品減価償却累計額	-27,384,029	資本剰余金施設費	13,177,500
土地	2,142,500,000	資本剰余金補助金等	18,507,000
その他の有形固定資産	1,847,000	資本剰余金譲与	2,254,000
無形固定資産	3,155,288	損益外減価償却累計額	-461,786,012
ソフトウェア	2,748,288	損益外固定資産除売却差額	-119,366
電話加入権	407,000	当期未処分利益	-331,909
投資その他の資産	4,605		
長期前払費用	4,605		
[本支店勘定]	-84,127		
[本支店]機構本部	-84,127		
合 計	4,360,509,051	合 計	4,360,509,051

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-1-①-2

## 貸借対照表(平成17年度 2005.4.1-2006.3.31)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	4,701,117,628	[負債の部]	347,546,890
流動資産	230,249,040	流動負債	268,439,416
現金及び預金	229,204,283	運営費交付金債務	1,014,757
未収学生納付金収入	592,200	預り寄附金	16,122,336
前払費用	43,042	前受受託事業費等	20,790
その他の流動資産	409,515	未払金	234,710,414
固定資産	4,470,868,588	未払費用	15,016,649
有形固定資産	4,468,645,103	預り金	1,554,470
建物	2,408,400,540	固定負債	79,107,474
建物減価償却累計額	-351,735,305	資産見返負債	79,107,474
構築物	392,747,566		
構築物減価償却累計額	-213,444,480	[資本の部]	4,353,818,520
車両運搬具	1,703,269	資本金	3,814,842,114
車両運搬具減価償却累計額	-757,008	資本剰余金	538,976,406
工具器具備品	137,118,125	資本剰余金	1,126,326,544
工具器具備品減価償却累計額	-54,207,604	損益外減価償却累計額	-575,199,130
土地	2,142,500,000	損益外固定資産除売却差額	-12,151,008
建設仮勘定	4,473,000		
その他の有形固定資産	1,847,000		
無形固定資産	2,213,018		
ソフトウェア	1,806,018		
電話加入権	407,000		
投資その他の資産	10,467		
長期前払費用	10,467		
[本支店勘定]	247,782		
[本支店]機構本部	247,782		
合 計	4,701,365,410	合 計	4701365410

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-1-①-3

貸借対照表(平成18年度 2006.4.1-2007.3.31)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	4,614,156,113	[負債の部]	383,976,936
流動資産	256,935,293	流動負債	295,120,315
現金及び預金	256,254,055	運営費交付金債務	1,014,757
未収学生納付金収入	169,200	預り寄附金	15,335,827
前払費用	512,038	未払金	265,145,850
固定資産	4,357,220,820	未払費用	13,101,712
有形固定資産	4,356,240,959	預り金	522,169
建物	2,411,388,206	固定負債	88,856,621
建物減価償却累計額	-453,675,608	資産見返負債	88,856,621
建物減損損失累計額	0		
構築物	392,747,566	[資本の部]	4,230,426,959
構築物減価償却累計額	-229,741,271	資本金	3,814,842,114
車両運搬具	1,703,269	資本剰余金	415,584,845
車両運搬具減価償却累計額	-1,135,512	資本剰余金	1,126,326,544
工具器具備品	166,696,494	損益外減価償却累計額	-697,542,257
工具器具備品減価償却累計額	-76,876,685	損益外減損損失累計額	-296,000
土地	2,142,500,000	損益外固定資産除売却差額	-12,903,442
建設仮勘定	787,500		
その他の有形固定資産	1,847,000		
無形固定資産	974,748		
ソフトウェア	863,748		
電話加入権	111,000		
投資その他の資産	5,113		
長期前払費用	5,113		
[本支店勘定]	247,782		
[本支店]機構本部	247,782		
合  計	4,614,403,895	合  計	4,614,403,895

(出典：総務課財務係資料)

平成16年度固定資産付属明細

資産の種類		法人承継資産	平成16年度				
			増減額	減少額	期末残高	減価償却累計額	差引当期末残高
有形固定資産	建物	2,019,521,620	5,846,400	119,366	2,025,248,654	257,478,299	1,767,770,355
	構築物	347,776,000	15,858,150	0	363,634,150	198,995,500	164,638,650
	車両運搬具	1,703,269	0	0	1,703,269	378,504	1,324,765
	工具器具備品	124,814,770	7,796,670	1,154,495	131,456,945	27,429,975	104,026,970
	土地	2,142,500,000	0	0	2,142,500,000	0	2,142,500,000
	美術品・収蔵品	1,847,000	0	0	1,847,000	0	1,847,000
	計	4,638,162,659	29,501,220	1,273,861	4,666,390,018	484,282,278	4,182,107,740
無形固定資産	ソフトウェア	3,690,558	0	0	3,690,558	942,270	2,748,288
	電話加入権	407,000	0	0	407,000	0	407,000
	計	4,097,558	0	0	4,097,558	942,270	3,155,288
投資その他の資産	長期前払費用	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

平成17年度固定資産付属明細

資産の種類		平成17年度					
		当期末首残高	増減額	減少額	期末残高	減価償却累計額	差引当期末残高
有形固定資産	建物	1,767,770,355	394,852,848	11,700,962	2,408,400,540	351,735,305	2,056,665,235
	構築物	164,638,650	29,444,096	330,680	392,747,566	213,444,480	179,303,086
	車両運搬具	1,324,765	0	0	1,703,269	757,008	946,261
	工具器具備品	104,026,970	5,661,180	0	137,118,125	54,207,604	82,910,521
	土地	2,142,500,000	0	0	2,142,500,000	0	2,142,500,000
	美術品・収蔵品	1,847,000	0	0	1,847,000	0	1,847,000
	計	4,182,107,740	429,958,124	12,031,642	5,084,316,500	620,144,397	4,464,172,103
無形固定資産	ソフトウェア	2,748,288	0	0	3,690,558	1,884,540	1,806,018
	電話加入権	407,000	0	0	407,000	0	407,000
	計	3,155,288	0	0	4,097,558	1,884,540	2,213,018
投資その他の資産	長期前払費用	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

平成18年度固定資産付属明細

資産の種類		平成18年度					
		当期末首残高	増減額	減少額	期末残高	減価償却累計額	差引当期末残高
有形固定資産	建物	2,056,665,235	3,740,100	752,434	2,411,388,206	453,675,608	1,957,712,598
	構築物	179,303,086	0	0	392,747,566	229,741,271	163,006,295
	車両運搬具	946,261	0	0	1,703,269	1,135,512	567,757
	工具器具備品	82,910,521	29,578,369	0	166,696,494	76,876,685	89,819,809
	土地	2,142,500,000	0	0	2,142,500,000	0	2,142,500,000
	美術品・収蔵品	1,847,000	0	0	1,847,000	0	1,847,000
	計	4,464,172,103	33,318,469	752,434	5,116,882,535	761,429,076	4,355,453,459
無形固定資産	ソフトウェア	1,806,018	0	0	3,690,558	2,826,810	863,748
	電話加入権	407,000	0	296,000	111,000	0	111,000
	計	2,213,018	0	296,000	3,801,558	2,826,810	974,748
投資その他の資産	長期前払費用	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0

(出典：総務課財務係資料)

資料10-1-①-5

収入支出決算額（平成16年度）（単位：千円）

収入	決算額	支出	決算額
授業料	222,699	人件費	1,089,281
入学料・検定料	30,267	教育研究費	136,436
財産貸付料	9,753	教育研究支援経費	49,551
その他収入	967	一般管理経費	113,432
運営費交付金	1,125,361		
施設整備補助金	18,217	施設整備費	18,217
計	1,407,264	計	1,406,919

収入支出決算額（平成17年度）（単位：千円）

収入	決算額	支出	決算額
授業料	232,899	人件費	1,067,719
入学料・検定料	26,700	教育研究費	148,070
財産貸付料	8,258	教育研究支援経費	48,830
その他収入	1,113	一般管理経費	115,054
運営費交付金	1,110,703		
施設整備補助金	439,976	施設整備費	439,976
計	1,819,649	計	1,819,649

収入支出決算額（平成18年度）（単位：千円）

収入	決算額	支出	決算額
授業料	229,869	人件費	1,111,619
入学料・検定料	27,259	教育研究費	145,607
財産貸付料	8,430	教育研究支援経費	56,016
その他収入	2,008	一般管理経費	95,762
運営費交付金	1,141,438		
施設整備補助金	74,288	施設整備費	74,288
計	1,483,292	計	1,483,292

（出典：総務課財務係資料）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的に沿った教育・研究活動を安定して遂行できる資産を有しており、債務が過大ではない。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入については、収入の確保状況(授業料等)(資料10-1-②-1)に示すように、法人化後は、授業料、入学検定料、入学料等は本校の収入として計上されるが、大きな比重を占めているのは機構から配分される運営費交付金である。しかしながら運営費交付金については毎年度減額されることがルール化されており、安定的な財源を確保するには、例えば、概算要求事項として新規事業の取組・採択を外部資金として、収入の確保状況(外部資金等)(資料10-1-②-2)に示すように企業等との共同研究費や企業からの受託研究費、奨学寄付金、科学研究費補助金等の受入を積極的に行うことが必須となる。

資料 10-1-②-1

収入の確保状況(授業料等)(平成14~18年度)

授業料, 入学検定料, 入学料等収入決算額 (単位: 千円)

区 分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
授 業 料	203,768	215,624	222,699	232,899	229,869
入学料・検定料	24,075	24,018	30,267	26,700	27,259
財 産 貸 付 料	4,293	4,451	9,753	8,258	8,430
そ の 他 の 収 入	2,701	27,302	967	1,113	2,008
計	234,837	271,395	263,686	268,970	267,566

(注) その他の収入の平成14年度, 平成15年度には財産処分収入を含む。

(出典: 総務課財務係資料)

資料 10-1-②-2

収入の確保状況(外部資金等)(平成14~18年度)

外部資金受入額 (単位: 千円)

区 分	14年度		15年度		16年度		17年度		18年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科学研究費補助金	3	2,700	4	6,600	4	2,500	3	3,800	10	9,590
科学研究費補助金 (分担金)	2	661	2	775	2	381	1	580	3	700
共同研究	4	5,840	2	1,550	2	1,600	5	3,375	8	6,401
受託研究	0	0	1	500	2	4,650	5	5,943	3	3,150
奨学寄付金	24	11,541	21	10,440	19	10,379	16	10,155	26	12,708
その他の補助金	1	500	1	200	1	250	3	1,084	3	540
計	34	21,242	31	20,065	30	20,120	33	24,937	53	33,089

(出典: 総務課財務係資料)



(分析結果とその根拠理由)

運営費交付金の他、企業との共同研究等外部資金の導入を積極的に進めており、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入が継続的に確保されている。また、外部資金等についてもここ数年増加の傾向にあり、経常的収入の確保に努めている。

**観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。**

(観点に係る状況)

収支計画は、校長のリーダーシップの下、機構及び本校の中期計画の年度計画に基づき、教育・研究・社会貢献・学生指導・管理運営等の全般にわたる本校の取組の基本方針ならびに予算等について原案が作成され、企画会・運営会議での議論を経て、事務部ホームページにその議事要旨が報告される。<https://172.30.64.2/wiz/record.php>

適切な収支に係る計画等が策定される手順について、平成18年度を例として、以下に説明を行う。

まず、学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、予算編成の基本方針が立てられる(資料 10-2-①-2)。その予算編成の基本方針は、審議事項として運営会議で検討される(資料 10-2-①-3)。次に、予算配分計画が策定される(資料 10-2-①-4)。平成18年度予算配分計画は、運営会議で審議し決定される(資料 10-2-①-5)。さらに、教職員に対して、事務部ホームページに運営会議議事要旨として報告し周知される。

<https://172.30.64.2/wiz/record.php>

資料 10-2-①-2

平成 18 年 5 月 30 日

## 平成 18 年度予算編成の基本方針

福島工業高等専門学校

### 1. 予算方針の基本的考え方

独立行政法人国立高等専門学校機構の平成 18 年度年度計画は、社会の中に位置する本校としても確実に実施・達成する必要がある、また本校の三つの教育理念の下に策定された中期計画の実現を図るためにも、自主自律的な予算の編成を行う必要がある。

### 2. 効率化係数の取扱

機構の運営費は、高等専門学校基準により必要とされる最低限の教員の給与額及び特別教育研究経費並びに特殊要因経費を除き、1%の効率化を図ることとされている。

これらの措置により、18 年度当初予算額は、前年度比総額で **19,357 千円**。率で **1.5%**の減額となっている。なお、前述した経費以外の経費は **16,751 千円**。率で **6.5%減**となっている。

### 3. 業務運営努力の取組

常勤教職員の人件費を除く人件費、通信費、印刷製本費、定期刊行物、回線保守費等の経費から **6,777 千円 (7.2%減)** を削減する。

### 4. 各費目の算定方法と取扱

#### (1) 人件費

常勤教職員の人件費は当初見込額を一括管理の上執行する。

#### (2) 特殊要因経費

退職手当、赴任旅費等の経費である特殊要因経費は当初見込額を一括管理の上執行する。

#### (3) 戦略推進経費

##### ① 中期計画推進経費

基本方針 1 の予算方針の基本的考え方に基づき、本校の中期計画達成のための必要経費として、**10,000 千円 (前年度同額)** を計上する。

なお、同経費は競争的資金と位置付け、各学科、専攻科、各種委員会、事務部門等からの申請に基づき、校長のリーダーシップのもとに配分・執行するものとする。

##### ② 校長戦略経費

校長のリーダーシップの下に重点的に執行する経費として **14,000 千円 (対前年度比 2,900 千円, 17.2%減)** を確保し計上する。

また、年度途中で機構から追加配分があった場合は、原則として校長戦略経費として処理する。

なお、同経費は競争的資金と位置付け、各学科、専攻科、各種委員会、事務部門及び個々の教職

員からの申請に基づき、校長のリーダーシップのもとに配分・執行するものとする。

**③ 学科・専攻科戦略経費**

各学科長（一般教科を含む）・専攻科長のリーダーシップの下に執行する経費として **3,500 千円（前年度同額）** を計上する。

なお、配分方法等は、原則として各学科長・専攻科長に委ねるものとする。

**④ 施設保全等経費**

緊急を要する施設の保全・修繕費として、**8,000 千円** を計上する。

**（対前年度比 2,000 千円，20%減）**

**（4）教員活動支援経費**

一の年度のポイント制（評価）を次年度の予算時に反映させることとする。よって、18 年度は 17 年度の評価に基づくものとし、**3,800 千円（前年度同額）** を計上する。

**（5）予備費**

災害等予見しがたい事由に対処するため、**7,000 千円** を計上する。

**（対前年度比 1,967 千円，21.9%減）**

**5. まとめ**

- ① 以上、基本方針（案）2 から 4 の各項目に掲げる事項をベースとして、予算の戦略的かつ計画的な配分を行うとともに、学校運営における効率的な予算の執行を行うこととする。
- ② 引続き、外部資金にかかるオーバーヘッドの取り扱い、光熱水費等を含む管理経費等の議論を行うこととする。

（出典：運営会議資料）

資料 10-2-①-3

平成 18 年度第 3 回運営会議議事録（抜粋）

日 時 平成 18 年 5 月 30 日（火）18:00～20:00  
 場 所 小会議室  
 欠 席 春日  
 特別出席 緑川教務主事補，山田学生主事補，早坂財務係長  
 事 項  
 審議事項

**（3）平成 18 年度予算編成の基本方針（案）**

- ・会計課長から、資料 2（注；上記「平成 18 年度予算編成の基本方針」）に基づき、内容の説明があり、基本方針を了承した。

（出典：運営会議資料）

平成18年度運営費交付金(旧校費相当分)予算配分

事 項	18年度	17年度	増△減額	備 考
	配分額	配分額		
	a 千円	b 千円	a-b 千円	
一般管理経費	89,223	95,555	△ 6,332	6.6%減
(ア) 共通管理経費	63,894	64,014	△ 120	
光熱水料	26,696	26,696	0	電気、ガス、水道(公共下水道料含む)
通信費	6,812	6,812	0	郵送用、電話料、NHK受信料等
燃料費	7,626	7,626	0	暖房重油、灯油等
保守管理維持費	17,678	17,798	△ 120	保守管理雑費、雑修繕費、環境整備費、修繕役務費、清掃等管理用品費、被服費等
刊行物	1,696	1,696	0	新聞、雑誌、官報等の定期刊行物等
印刷製本費	2,403	2,403	0	要覧、学校便り等
広告活動費	97	97	0	学校PR経費
会議費	114	114	0	
職員厚生費	772	772	0	健康診断等経費
(イ) 一般事務費	3,036	3,036	0	
備品費	176	176	0	事務用備品
消耗品費	2,860	2,860	0	複写機維持費、事務用品、事務用図書・印刷費、印刷用紙類、トナー等
(ウ) 賃金	3,832	3,832	0	非常勤職員
(エ) 業務改善委託費	10,461	14,673	△ 4,212	警備、清掃、施設費保全等の委託業務
(オ) 施設保全等経費	8,000	10,000	△ 2,000	施設保全(建物等維持補修費)
教育経費	96,827	101,927	△ 5,100	5.4%減
(ア) 教育研究費	95,212	100,312	△ 5,100	
(1) 校長	1,709	1,709	0	
(2) 一般教科	10,259	10,259	0	教材費、設備費、研究費
(3) 専門教科費	32,975	32,975	0	
機械工学科	6,587	6,587	0	教材費、設備費、研究費等(設備維持運営費、卒業研究費等含む)
電気工学科	6,388	6,388	0	
物質工学科	8,239	8,239	0	
建設環境工学科	6,244	6,244	0	
コミ情報学科	5,517	5,517	0	

(4) 専攻科費	1,089	1,089	0	
(5) 中期計画推進経費	10,000	10,000	0	
(6) 校長戦略経費	12,291	15,191	△ 2,900	
(7) 学科・専攻科戦略経費	3,500	3,500	0	
(8) 教員活動支援経費	3,800	3,800	0	
(9) 図書館費	4,925	4,925	0	
図書購入費	2,584	2,584	0	学生用図書
図書館維持費	1,855	1,855	0	図書館運営経費(休日等開館経費含む)
研究紀要費	486	486	0	
(10) 情報処理教育センター経費	8,414	10,914	△ 2,500	
センター経費	1,974	1,974	0	センター運営経費(休日等開館経費含む)
専用回線保守経費	6,440	8,940	△ 2,500	教育用CAD, LAN専用回線経費等 (校内LAN設備保守廃止に伴う減)
(11) 地域環境テクノセンター経費	2,488	2,488	0	旧環境科学・地域交流センター経費
(12) 技術部	300	0	300	
(13) 授業用経費	2,457	2,457	0	消耗品費、備品費(視聴覚室経費含む)
(14) 入学試験経費	473	473	0	
(15) 留学生経費	495	495	0	
(16) LL教室経費	37	37	0	
(イ) 厚生補導経費	1,615	1,615	0	
(1) 寄宿舍費	918	918	0	
(2) 保険管理費	697	697	0	
特別事業経費	608	1,058	△ 450	42.5%減
(1) 公開講座経費	56	56	0	
(2) 高専祭経費	0	450	△ 450	
(3) 学校開放経費	552	552	0	体験入学デモ実験経費等
予備費	6,700	8,967	△ 2,267	21.9%減
合 計	193,358	207,507	△ 14,149	

(出典：総務課財務係資料)

平成 18 年度第 4 回運営会議議事録（抜粋）

日 時 平成 18 年 6 月 7 日（水） 15:45～15:55

場 所 小会議室

欠 席 根岸

特別出席 早坂財務係長

事 項

審議事項

（1）平成 18 年度予算配分計画書（案）

- ・会計課長から、資料 2（注；上記「平成 18 年度運営費交付金（旧校費相当分）予算配分」）に基づき、配分計画について説明があり、提案どおり了承された。

（出典：運営会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。

**観点10-2-②：** 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校の収入の多くは、授業料、入学料・検定料などの自己収入と機構から配分される運営費交付金などである。これら資金をもって本校の教育、研究、管理運営等全般にわたる経費に充当し、平成 16～平成 18 年度の本校における損益計算書（資料 10-2-②-1～3）に示されるように、収入予算の範囲内で決算している。

資料10-2-②-1

損益計算書(平成16年度 2004.4.1-2005.3.31)

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[經常費用]			
業務費			
教育・研究経費			
消耗品費		63,507,749	
備品費		15,060,585	
印刷製本費		2,423,132	
水道光熱費			
電気料	9,552,647		
ガス料	2,028,645		
水道料	6,292,762	17,874,054	
旅費交通費		23,042,763	
通信運搬費		2,578,262	
賃借料		2,823,911	
車両燃料費		2,907,333	
福利厚生費		0	
保守費		61,449	
修繕費		14,347,410	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		316,369	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	1,182,560	1,182,560	
奨学費			
奨学交付金	15,075,600		
留学生給与	0	15,075,600	
減価償却費		18,553,168	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
傭船料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	6,792,789	6,792,789	186,547,134

教育研究支援費			
消耗品費		10,237,457	
備品費		2,376,859	
印刷製本費		461,895	
水道光熱費			
電気料	1,910,527		
ガス料	508,347		
水道料	1,258,549	3,677,423	
旅費交通費		0	
通信運搬費		5,737,221	
賃借料		15,082,924	
車両燃料費		2,325,865	
福利厚生費		0	
保守費		4,756,438	
修繕費		21,000	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		0	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	0	0	
減価償却費		3,177,029	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	2,977,102	2,977,102	50,831,213
受託研究費		0	
謝金		30,000	
旅費交通費		1,194,170	
人件費		280,000	
物件費		4,725,216	
減価償却費		0	
その他の受託研究費		6,615	6,236,001
受託事業費			
謝金		0	
旅費交通費		0	
人件費		0	
物件費		76,230	
減価償却費		0	
その他の受託事業費		0	76,230
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	441,435,568		
常勤教員賞与	169,494,133		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	639,000		
常勤教員法定福利費	8,962,968	620,531,669	



非常勤教員給与			
非常勤教員給与	25,781,720		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	0	25,781,720	646,313,389
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	217,397,664		
常勤職員賞与	72,533,764		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	140,179,986		
常勤職員法定福利費	4,184,380	434,295,794	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	9,259,164		
非常勤職員賞与	703,493		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	72,030		
非常勤職員法定福利費	944,304	10,978,991	445,274,785
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		15,112,855	
備品費		2,289,525	
印刷製本費		2,657,756	
水道光熱費			
電気料	7,642,370		
ガス料	1,686,054		
水道料	5,034,208	14,362,632	
旅費交通費		3,972,060	
通信運搬費		2,297,086	
賃借料		6,010,241	
車両燃料費		1,073,487	
福利厚生費		0	
保守費		9,999,744	
修繕費		13,604,170	
損害保険料		18,010	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		161,600	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
諸謝金		0	
支払手数料			
銀行手数料	580,755		

その他手数料	59,640	640,395	
租税公課			
自動車重量税	126,000		
固定資産税	0		
収入印紙代	0		
消費税等	14,000		
その他の租税公課	0	140,000	
減価償却費		2,264,737	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	10,467,143		
移設撤去費	0		
雑役務費	12,588,686	23,055,829	97,660,127
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用]合計			1,432,938,879
[経常収益]			
[経常収益]運営費交付金収益			1,108,022,334
[経常収益]授業料収益			
[授業料収益]授業料収益		237,690,000	
[授業料収益]講習料収益		37,200	237,727,200
[経常収益]入学金収益			23,180,400
[経常収益]検定料収益			7,425,000
[経常収益]受託研究等収益			
受託研究収益		4,650,000	
共同研究収益		1,600,001	6,250,001
[経常収益]受託事業等収益			76,230
[経常収益]補助金等収益			0
[経常収益]寄附金収益			10,207,980
[経常収益]施設費収益			5,040,000
[経常収益]資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入		387,300	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金等戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		24,159,785	24,547,085
[経常収益]財務収益			
受取利息		629	
その他の財務収益		0	629
[経常収益]雑益			
財産貸付料収入		9,753,114	
文献複写料		0	
物品受贈益		0	
債権受贈益		0	
承継剰余金債務戻入		0	
その他の雑益		929,148	10,682,262
[経常収益]合計			1,433,159,121
経常利益			220,242

[臨時損失]			
[臨時損失]固定資産除却損	552,151		
[臨時損失]固定資産売却損	0		
[臨時損失]災害損失	0		
[臨時損失]その他の臨時損失	140,059,648		
[臨時損失]合計			-140,611,799
[臨時利益]			
[臨時利益]固定資産売却益			0
[臨時利益]貸倒引当金戻入			0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益]退職給付引当金戻入			0
[臨時利益]資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入		0	
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		0	0
[臨時利益]その他引当金戻入			0
[臨時利益]その他の臨時利益			140,059,648
[臨時利益]合計			140,059,648
[当期純利益(純損失)]			-331,909
[目的積立金取崩額]			0
[当期総利益(総損失)]			-331,909

(出典:総務課財務係資料)

資料10-2-②-2

**損益計算書(平成17年度 2005.4.1-2006.3.31)**

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費			
消耗品費		61,074,272	
備品費		23,429,628	
印刷製本費		6,744,184	
水道光熱費			
電気料	9,719,587		
ガス料	2,372,772		
水道料	5,478,048	17,570,407	
旅費交通費		20,208,136	
通信運搬費		2,313,845	
賃借料		3,731,011	
車両燃料費		3,692,987	
福利厚生費		0	
保守費		0	
修繕費		38,161,229	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		360,183	
会議費		0	
委託調査研究費		0	

文献複写費		75,235	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	1,804,290	1,804,290	
奨学費			
奨学交付金	17,067,150		
留学生給与	0	17,067,150	
減価償却費		18,007,473	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
備船料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	7,462,461	7,462,461	221,702,491
教育研究支援費			
消耗品費		6,715,781	
備品費		3,021,438	
印刷製本費		405,825	
水道光熱費			
電気料	1,943,915		
ガス料	512,649		
水道料	1,095,608	3,552,172	
旅費交通費		121,170	
通信運搬費		5,721,558	
賃借料		14,155,028	
車両燃料費		2,948,373	
福利厚生費		0	
保守費		4,959,570	
修繕費		2,241,000	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		55,000	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	0	0	
減価償却費		2,524,310	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	3,022,302	3,022,302	49,443,527
受託研究費			
謝金		156,000	
旅費交通費		2,534,390	

人件費		496,920	
物件費		4,486,254	
減価償却費		0	
その他の受託研究費		644,036	8,317,600
受託事業費			
謝金		0	
旅費交通費		130,230	
人件費		39,501	
物件費		1,019,271	
減価償却費		0	
その他の受託事業費		474,265	1,663,267
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	454,027,694		
常勤教員賞与	175,070,662		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	91,803,067		
常勤教員法定福利費	10,885,960	731,787,383	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	23,522,310		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	246,426	23,768,736	755,556,119
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	206,669,742		
常勤職員賞与	68,626,425		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	23,409,672		
常勤職員法定福利費	4,796,663	303,502,502	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	8,488,086		
非常勤職員賞与	1,258,123		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	72,030		
非常勤職員法定福利費	1,085,520	10,903,759	314,406,261
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		13,379,332	
備品費		1,973,538	
印刷製本費		4,786,332	
水道光熱費			
電気料	7,775,672		
ガス料	1,825,256		
水道料	4,382,439	13,983,367	
旅費交通費		4,796,981	

通信運搬費		2,334,867	
賃借料		4,416,283	
車両燃料費		1,263,560	
福利厚生費		549,776	
保守費		9,009,945	
修繕費		4,409,828	
損害保険料		47,928	
広告宣伝費		52,500	
行事費		0	
諸会費		163,600	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
諸謝金		30,000	
支払手数料			
銀行手数料	703,815		
その他手数料	72,450	776,265	
租税公課			
自動車重量税	134,800		
固定資産税	1,660,600		
収入印紙代	0		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	1,795,400	
減価償却費		2,905,434	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	10,617,400		
移設撤去費	42,000		
雑役務費	9,326,685	19,986,085	86,661,021
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用]合計			1,437,750,286
[経常収益]			
[経常収益]運営費交付金収益			1,096,368,500
[経常収益]授業料収益			
[授業料収益]授業料収益	249,966,300		
[授業料収益]講習料収益	0		249,966,300
[経常収益]入学金収益			20,050,200
[経常収益]検定料収益			6,649,500
[経常収益]受託研究等収益			
受託研究収益	4,942,600		
共同研究収益	3,375,000		8,317,600
[経常収益]受託事業等収益			1,663,267
[経常収益]補助金等収益			0
[経常収益]寄附金収益			9,337,607
[経常収益]施設費収益			27,419,956

[経常収益]資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	2,127,470	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金等戻入	0	
資産見返物品受贈額戻入	21,309,747	
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0	23,437,217
[経常収益]財務収益		
受取利息	3,957	
その他の財務収益	0	3,957
[経常収益]雑益		
財産貸付料収入	8,257,837	
文献複写料	0	
物品受贈益	0	
債権受贈益	0	
承継剰余金債務戻入	0	
その他の雑益	1,109,097	9,366,934
[経常収益]合計		1,452,581,038
経常利益		14,830,752
[臨時損失]		
[臨時損失]固定資産除却損		14,830,752
[臨時損失]固定資産売却損		0
[臨時損失]災害損失		0
[臨時損失]その他の臨時損失		0
[臨時損失]合計		-14,830,752
[臨時利益]		
[臨時利益]固定資産売却益		0
[臨時利益]貸倒引当金戻入		0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入		0
[臨時利益]退職給付引当金戻入		0
[臨時利益]資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	0	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金戻入	0	
資産見返物品受贈額戻入	0	0
[臨時利益]その他引当金戻入		0
[臨時利益]その他の臨時利益		0
[臨時利益]合計		0
[当期純利益(純損失)]		0
[目的積立金取崩額]		0
[当期総利益(総損失)]		

(出典：総務課財務係資料)

損益計算書(平成18年度 2005.4.1-2006.3.31)

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費			
消耗品費		53,251,130	
備品費		18,123,308	
印刷製本費		4,364,922	

水道光熱費			
電気料	9,941,734		
ガス料	2,684,058		
水道料	4,177,295	16,803,087	
旅費交通費		21,945,443	
通信運搬費		2,139,876	
賃借料		935,292	
車両燃料費		3,228,456	
福利厚生費		0	
保守費		2,787,405	
修繕費		86,265,870	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		462,853	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
文献複写費		78,097	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
支払報酬			
諸謝金	1,957,770	1,957,770	
奨学費			
奨学交付金	18,709,350		
留学生給与	0	18,709,350	
減価償却費		14,696,071	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
傭船料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	8,510,693	8,510,693	254,259,623
教育研究支援経費			
消耗品費		4,981,936	
備品費		1,999,410	
印刷製本費		580,125	
水道光熱費			
電気料	1,988,345		
ガス料	563,150		
水道料	835,457	3,386,952	
旅費交通費		60,640	
通信運搬費		4,359,202	
賃借料		16,936,920	
車両燃料費		2,567,669	
福利厚生費		0	
保守費		1,387,420	
修繕費		1,123,500	
損害保険料		0	
広告宣伝費		15,750	



行事費		0	
諸会費		55,000	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
支払報酬		0	
諸謝金	0	0	
減価償却費		2,212,696	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	2,184,976	2,184,976	41,852,196
受託研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		
その他の受託研究費	0	0	
その他			
謝金	1,236,900		
旅費交通費	327,500		
人件費	0		
物件費	1,585,600		
減価償却費	0		
その他の受託研究費	34,967	3,184,967	3,184,967
共同研究費			
国又は地方公共団体			
謝金	198,000		
旅費交通費	510,920		
人件費	0		
物件費	2,371,780		
減価償却費	0		
その他の共同研究費	420,000	3,500,700	
その他			
謝金	60,000		
旅費交通費	616,950		
人件費	699,340		
物件費	1,488,743		
減価償却費	0		
その他の共同研究費	0	2,865,033	6,365,733
受託事業費			
国又は地方公共団体			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	0		
減価償却費	0		

その他の受託事業費	0		0
その他			
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	565,530		
減価償却費	0		
その他の受託事業費	480,900	1,046,430	1,046,430
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	443,219,786		
常勤教員賞与	173,144,895		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	129,846,584		
常勤教員法定福利費	9,862,070	756,073,335	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	19,035,210		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	85,544	19,120,754	775,194,089
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			
常勤職員給与	204,239,385		
常勤職員賞与	69,328,141		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	53,389,510		
常勤職員法定福利費	4,374,271	331,331,307	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	5,171,804		
非常勤職員賞与	982,617		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	71,820		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	0		
非常勤職員法定福利費	674,412	6,900,653	338,231,960
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		12,811,082	
備品費		1,403,180	
印刷製本費		4,956,749	
水道光熱費			
電気料	7,953,390		
ガス料	2,071,011		
水道料	3,341,838	13,366,239	
旅費交通費		4,261,760	
通信運搬費		2,576,474	
賃借料		1,273,356	

車両燃料費		1,164,307	
福利厚生費		536,965	
保守費		12,795,819	
修繕費		10,545,632	
損害保険料		59,647	
広告宣伝費		460,950	
行事費		0	
諸会費		221,600	
会議費		107,539	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
業務委託費		0	
諸謝金		41,600	
支払手数料			
銀行手数料	792,855		
その他手数料	0	792,855	
租税公課			
自動車重量税	126,000		
固定資産税	1,557,700		
収入印紙代	0		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	1,683,700	
減価償却費		2,975,055	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	21,968,717		
移設撤去費	0		
雑役務費	8,871,345	30,840,062	102,874,571
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用]合計			1,523,009,569
[経常収益]			
[経常収益]運営費交付金収益			1,123,754,089
[経常収益]授業料収益			
[授業料収益]授業料収益		241,962,105	
[授業料収益]講習料収益		57,600	242,019,705
[経常収益]入学金収益			20,642,400
[経常収益]検定料収益			6,616,500
[経常収益]受託研究等収益			
受託研究収益			
国又は地方公共団体	0		
その他	3,150,000	3,150,000	
共同研究収益			
国又は地方公共団体	3,500,700		
その他	2,900,000	6,400,700	9,550,700
[経常収益]受託事業等収益			

国又は地方公共団体	0	
その他	1,046,430	1,046,430
[経常収益]補助金等収益		0
[経常収益]寄附金収益		15,615,446
[経常収益]施設費収益		73,500,000
[経常収益]資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	4,312,575	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金戻入	1,055,886	
資産見返物品受贈額戻入	14,515,361	
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0	
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0	19,883,822
[経常収益]財務収益		
受取利息	3	
その他の財務収益	0	3
[経常収益]雑益		
財産貸付料収入	8,430,374	
文献複写料	0	
物品受贈益	0	
債権受贈益	0	
承継剰余金債務戻入	0	
間接経費収入	0	
その他の雑益	1,950,103	10,380,477
[経常収益]合計		1,523,009,572
経常利益		3
[臨時損失]		
[臨時損失]固定資産除却損		0
[臨時損失]固定資産売却損		0
[臨時損失]災害損失		0
[臨時損失]減損損失		0
[臨時損失]その他の臨時損失		4,473,000
[臨時損失]合計		-4,473,000
[臨時利益]		
[臨時利益]固定資産売却益		0
[臨時利益]貸倒引当金戻入		0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入		0
[臨時利益]退職給付引当金戻入		0
[臨時利益]資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	0	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金戻入	0	
資産見返物品受贈額戻入	0	0
[臨時利益]その他引当金戻入		0
[臨時利益]その他の臨時利益		4,473,000
[臨時利益]合計		4,473,000
[当期純利益(純損失)]		3
[目的積立金取崩額]		0
[当期総利益(総損失)]		3

(出典:総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

収支の状況において、過大な支出超過となっていない。

**観点10-2-③：** 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

平成 16 年度の資源配分は、一部競争的資金を除き、学科間・教員間に著しい差を設けることなく配分を行ったが、平成 17 年度より校長のリーダーシップの下で「予算編成の基本方針」を策定し、この方針を受けて中期計画推進経費、校長戦略経費、学科・専攻科戦略経費、教員活動支援経費等の競争的配分経費の予算を確保し、各学科・教員などからのプロポーザルに基づく資源配分方式に改めた（観点 10-2-① 参照）。

主な教育研究経費の事項と予算額（当初予算額）（資料 10-2-③-1）に示すように、適切な資源配分に係る計画が策定されている。

資料10-2-③-1

## 主な教育研究経費の事項と予算額(当初予算額)

単位:千円

教育研究経費の事項	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
一般教科, 専門教科, 専攻科経費 (教員研究費, 技術部研究費含む)	59,659	44,323	44,623
中期計画推進経費 (学科・専攻科戦略経費, 教員活動支援経費含む)	0	17,000	17,300
校長戦略経費	17,514	16,900	14,000
附属施設経費	21,940	18,327	15,827
学生支援経費 (授業用経費, 学生指導経費等)	6,918	5,077	5,077
教育用電子計算機経費	6,804	5,980	5,920
非常勤講師経費	27,771	27,493	27,218
教員研究旅費等	7,242	7,112	6,627
計	147,848	142,212	136,592

(出典:総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

校長のリーダーシップのもと「予算編成の基本方針」を策定し、競争的資金として「戦略推進経費」を設け、プロポーザルに基づく配分方式を採用するなど、適切な資源配分が行われている。ただし、実験・研究設備の更新や新規導入の経費等については予算化は厳しい状況にあり、今後予算確保の方策等について創意工夫が必要である。

観点10-3-①: 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構として一つの財務会計システムが構築されており、全高専統一の会計処理が行われている。財務諸表については、高専機構会計規則、独立行政法人通則法に基づき作成され、公表することとなっている。本校における「収入支出決算額」については、各年度の「学校要覧」に掲載しているほか(資料10-3-①-1)、ホームページでも公開している。

([http://www.fukushima-nct.ac.jp/m01\\_gaiyo/yoran.html](http://www.fukushima-nct.ac.jp/m01_gaiyo/yoran.html))

(分析結果とその根拠理由)

財務諸表は独立行政法人通則法に基づき公表されており、本校の「収入支出決算額」についても、学校要覧、ホームページ等を用いて適切な形で公開されている。

**観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。**

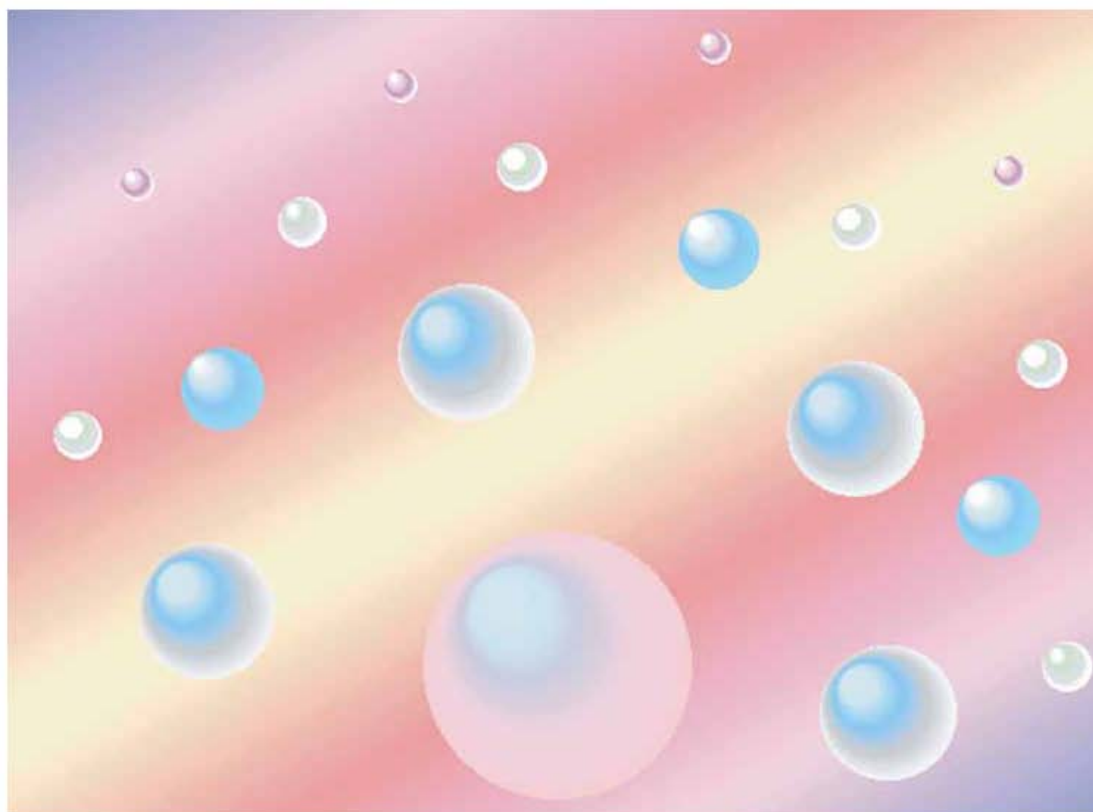
(観点に係る状況)

国立学校当時から、会計経理事務の適正を期すべく、学内規則に基づき内部監査を実施し、また外部監査として文部科学省実施監査、会計検査院の実施検査等を受けてきた。平成14年度に茨城高専との間で相互監査を実施し、さらに法人化後の平成16年度に本校以外の10高専と機構に対して「平成16年度事業監事監査」が実施された。

福島工業高等専門学校会計監査実施規則(資料10-3-②-1)によって行われた、平成16年11月24日(資料10-3-②-2)、平成17年11月18日(資料10-3-②-3)及び平成18年11月13日(資料10-3-②-4)の会計監査結果報告書(定時)の結果によれば、「監査事項及び監査実施細目」はすべて「適」であった。

FUKUSHIMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

# 国立 福島工業高等専門学校要覧



2007

機械工学科／電気工学科／物質工学科／建設環境工学科／コミュニケーション情報学科  
専攻科：機械・電気システム工学専攻／物質・環境システム工学専攻／ビジネスコミュニケーション学専攻



■収入支出決算額 (平成18年度) **Finances (2006)**

平成19年3月31日現在 As of Mar 31, 2007

●収入決算額 Revenue (千円) (shown in thousand yen)

区 分	Classification	決算額 Settled Accounts
運営費交付金	Grants-in-Aid for Operating Expenses	1,141,438
授業料	Tuition Fee	229,869
入学・検定料	Entrance Fee	27,259
財産賃付料	Property Rental Charge	8,430
その他収入	Others	2,008
施設整備補助金	Grants-in-Aid for Facility Improvement Expenses	74,288
合 計	Total	1,483,292

※科学研究費補助金及び外部資金を除く

●支出決算額 Expenditure (千円) (shown in thousand yen)

区 分	Classification	決算額 Settled Accounts
人件費	Personal Expenses	1,111,619
教育研究経費	Education Research Expenses	145,607
教育研究支援経費	Education Research support Expenses	56,016
一般管理経費	General Management Expenses	95,762
施設整備費	Facility Improvement Expenses	74,288
合 計	Total	1,483,292

※科学研究費補助金及び外部資金を除く

■科学研究費補助金及び外部資金の受入状況 Grant-in-Aid for Scientific Research and Acceptance of External Funds

(千円) (shown in thousand yen)

科学研究費補助金	Grants-in-Aid for Scientific Researches	10件	9,590
共同研究	Joint Research	9件	6,400
受託研究	Commissioned Research	3件	3,150
寄付金	Endowments	25件	12,708
受託試験	Commissioned Testing	93件	1,046

■土地・建物 **School Grounds, Buildings and Facilities**

●土地 School Grounds

平成19年4月1日現在 As of April 1, 2007

校舎・管理施設敷地	屋外運動場		寄宿舎敷地	その他法地、湿地	小 計	職員宿舍敷地	合 計
	陸上競技場300Mトラック	第二運動場、野球場、テニスコート					
Building and Facility Sites	Track and Field	Baseball Ground, Tennis Court	Dormitory Site	Slope/Damp Ground	Subtotal	Official Residence Site	Total
47,348㎡	16,137㎡	17,874㎡	13,399㎡	9,716㎡	104,474㎡	6,481㎡	110,955㎡

●建物 Buildings

平成19年4月1日現在 As of April 1, 2007

区 分	建 物 名	Building	延 べ 面積㎡	区 分	建 物 名	Building	延 べ 面積㎡	
校 舎 管理 管理施設等	校舎及び管理棟	Classroom and Administration Building	7,118	屋 外	体育器具庫(3棟)	Warehouse	146	
	機械工学科棟	Department of Mechanical Engineering	1,729		運動場	プール更衣室(2棟)	Pool Locker Room	82
	電気工学科棟	Department of Electrical Engineering	1,656		付属施設	その他	Others	30
	物質工学科棟	Department of Chemistry and Biochemistry	1,472		小 計	Subtotal	258	
	建設環境工学科実験棟	Department of civil Engineering	1,734	福利厚生 施設等	給湯会館	Bariyo Student Hall and Health Center	698	
	コミュニケーション情報科棟	Department of Communication and Information Science	1,851		施設等	合宿研修センター	Lodging House	356
	専攻科棟	Advanced Courses Program	1,160		音楽練習場	Band Practice Studio	180	
	機械実習工場	Machine Practicals Workshop	727		小 計	Subtotal	1,234	
	小 計	熱実験室	Thermal Laboratory	168	寄宿舎	寄宿舎管理棟・こずえ寮	Administration Building and Kosue Dormitory	524
		タービン実験室	Turbine Laboratory	108		若葉寮	Wakaba Dormitory	1,343
		情報処理教育センター	Information Processing and Education Center	313		青葉寮	Aoba Dormitory	863
		環境科学教育研究センター	Environmental Science Education and Research Center	420		曉寮	Akatsuki Dormitory	745
		体育教官室	Physical Education Staff Room	41		白雲寮	Hakun Dormitory	1,057
		その他	Others	934		食堂・浴室	Cafeteria, Bath	671
図書館		Library	1,689	小 計	Subtotal	5,203		
屋 内		第一体育館	1st Gym	1,193	職員宿舍	職員宿舍	Official Residence	2,293
		第二体育館	2nd Gym	882	合 計	Total	33,143	
		剣道場	Kendo Gym	450				
	柔道場	Judo Gym	242					
運動場	卓球場	Table Tennis Gym	268					
	小 計	Subtotal	3,035					

(出典：福島工業高等専門学校要覧)

## 福島工業高等専門学校会計監査実施規則

(平成16年4月1日)

(規則 第59号)

### (趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条の規定に基づき、福島工業高等専門学校における会計監査（以下「監査」という。）の実施について必要な事項を定める。

### (監査の実施責任者)

第2条 監査の実施責任者は、事務部長とする。

### (監査員)

第3条 校長は、監査を行わせるため、監査実施のつど監査員を任命する。

### (監査事項)

第4条 監査は、次の各号に掲げる事項について実施するものとする。

- (1) 会計経理に関する法令等の適用に関する事項
- (2) 予算決算に関する事項
- (3) 収入支出に関する事項
- (4) 債権に関する事項
- (5) 物品に関する事項
- (6) 不動産に関する事項
- (7) 契約に関する事項
- (8) 旅費に関する事項
- (9) 寄付金及び科学研究費補助金に関する事項
- (10) 帳簿及び証拠書類に関する事項
- (11) その他校長が必要と認める事項

### (監査の実施)

第5条 監査は、毎会計年度1回実施する。ただし、校長が必要と認めるときは、そのつど実施するものとする。

2 事務部長は、監査実施のつど実施細目を定め、これにより監査を実施させるものとする。

### (事前通知)

第6条 事務部長は、監査の実施にあたっては、あらかじめ期日、監査員の職名氏名その他必要な事項を各課長等に通知するものとする。

### (監査員の責務)

第7条 監査員は、公正かつ厳正に監査にあたらなければならない。

2 監査員は、監査にあたり疑義がある事項について関係者に説明を求め、かつ調書等の提出を求めることができる。

### (監査の報告)

第8条 監査員は、監査が終了したときは、すみやかに別紙様式により監査結果報告を作成し、事務部長を経由して校長に提出するものとする。

### (是正改善の措置)

第9条 事務部長は、監査の結果、会計経理に関し是正改善の措置をとる必要があると認めたときは、校長に具申し、その指示により改善措置をとるものとする。

### (その他)

第10条 この規則に定めるもののほか、監査に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 福島工業高等専門学校会計監査規則（昭和 62 年 3 月 23 日規則第 27 号）及び福島工業高等専門学校日常監査実施要領（昭和 62 年 3 月 23 日校長裁定）は、廃止する。

別紙様式（第 9 条関係）

会計監査結果報告書（定時・臨時）

年 月 日

福島工業高等専門学校長 殿

監査員

印

監査実施年月日 年 月 日～ 年 月 日		
報 告		
監査事項及び監査実施細目	報 告 事 項	
	適・否	記 事

事務部長意見

事務部長


印

会計監査結果報告書（定時）

16年11月24日

福島工業高等専門学校長 殿


齋藤 秋雄 

監査員 遠藤 宗明 

監査実施年月日 平成16年11月19日		
報 告		
監査事項及び監査実施細目	報 告 事 項	
	適・否	記 事
会計経理に関する法令等の適用に関する事項 ・会計機関の任免 ・会計機関の補助者の命免 ・前払いの取扱 ・仮払いの取扱 ・一般競争、指名競争、随意契約の基準 等	適	特記事項無し。
予算決算に関する事項 ・予算配分方針 ・学内予算配分 ・前払いの取扱 ・予算の執行状況 ・月次決算 等	適	例年、予算の執行は年度末に集中しているのので、学科経費等は計画的に執行するよう引き続き指導するようお願いしたい。
収入支出に関する事項 ・年度所属区分 ・預金通帳の管理 ・印鑑の管理 等	適	特記事項無し。

債権に関する事項 ・授業料、入学料、検定料等債権の管理状況	適	授業料債権において、徴収期日を越えて納付されている者が多々見受けられる。
・督促状況		
・収入の調査決定		
・請求及び徴収方法		
・公開講座 等		
物品に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得、分類、供用、処分の取扱 等		
不動産に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得に伴う登記又は登録		
・不動産貸付 等		
契約に関する事項 ・入札広告	適	特記事項無し。
・予定価格の作成		
・契約の締結		
・検査 等		
旅費に関する事項 ・旅行命令簿と出勤簿との照合	適	旅費の精算時期が遅いものがある。
寄付金及び科学研究費補助金に関する事項 ・寄付の申込、受入決定、受入通知、受入	適	特記事項無し。
・寄付金の管理状況		
・科学研究費補助金の執行状況		
帳簿及び証拠書類に関する事項 ・総勘定元帳	適	一部未整理のものが有るので、早急に整理するよう指導した。
・合計残高試算表		
・支出契約決議書		
・振替伝票等		
その他校長が必要と認める事項 ・受託研究の執行状況	適	特記事項無し。
・共同研究の執行状況		

事務部長意見  
概ね適正に処理されている様であるが、上記記事にかこは、改善頂きよりいそう適正な会計処理を心がけて頂きたい。

事務部長 平野文一 

(出典：総務課財務係資料)

会計監査結果報告書（定時）

17年11月18日

福島工業高等専門学校長 殿

監査員 吉田一成 

監査員 遠藤宗明 

監査実施年月日		平成17年11月15日	
報		告	
監査事項及び監査実施細目	報 告 事 項		
	適・否	記 事	
会計経理に関する法令等の適用に関する事項 ・会計機関の任免 ・会計機関の補助者の命免 ・前払いの取扱 ・仮払いの取扱 ・一般競争、指名競争、随意契約の基準 等	適	特記事項無し。	
予算決算に関する事項 ・予算配分方針 ・学内予算配分 ・前払いの取扱 ・予算の執行状況 ・月次決算 等	適	特記事項無し。	
収入支出に関する事項 ・年度所属区分 ・預金通帳の管理 ・印鑑の管理 等	適	特記事項無し。	



債権に関する事項 ・授業料、入学料、検定料等債権の管理状況	適	学校財産貸付料（体育館等）において納付期限が極端に短いものがある。利用者に、申し込み時期を早くする等、指導願いたい。
・督促状況		
・収入の調査決定		
・請求及び徴収方法		
・公開講座 等		
物品に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得、分類、供用、処分の取扱 等		
不動産に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得に伴う登記又は登録		
・不動産貸付 等		
契約に関する事項 ・入札広告	適	特記事項無し。
・予定価格の作成		
・契約の締結		
・検査 等		
旅費に関する事項 ・旅行命令簿と出勤簿との照合	適	請求印が漏れているものがある。
寄付金及び科学研究費補助金に関する事項 ・寄付の申込、受入決定、受入通知、受入	適	特記事項無し。
・寄付金の管理状況		
・科学研究費補助金の執行状況		
帳簿及び証拠書類に関する事項 ・総勘定元帳	適	特記事項無し。
・合計残高試算表		
・支出契約決議書		
・振替伝票等		
その他校長が必要と認める事項 ・受託研究の執行状況	適	特記事項無し。
・共同研究の執行状況		

事務部長意見

会計的指摘等は特に付いたことであるが、債権に関する事項、旅費に関する事項については、適正な会計処理と  
遂行すること。

事務部長 細川 勉 

(出典：総務課財務係資料)

資料10-3-②-4

会計監査結果報告書（定時）

18年11月13日

福島工業高等専門学校長 殿

監査員 吉田一成 

監査員 石井和利 

監査実施年月日		平成18年11月 8日	
報		告	
監査事項及び監査実施細目	報告事項		
	適・否	記 事	
会計経理に関する法令等の適用に関する事項 ・ 会計機関の任免 ・ 会計機関の補助者の命免 ・ 前払いの取扱 ・ 仮払いの取扱 ・ 一般競争、指名競争、随意契約の基準 等	適	特記事項無し。	
予算決算に関する事項 ・ 予算配分方針 ・ 学内予算配分 ・ 前払いの取扱 ・ 予算の執行状況 ・ 月次決算 等	適	特記事項無し。	
収入支出に関する事項 ・ 年度所属区分 ・ 預金通帳の管理 ・ 印鑑の管理 等	適	特記事項無し。	



債権に関する事項 ・授業料、入学料、検定料等債権の管理状況	適	特記事項無し。
・督促状況		
・収入の調査決定		
・請求及び徴収方法		
・公開講座 等		
物品に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得、分類、供用、処分の取扱 等		
不動産に関する事項 ・管理機関	適	特記事項無し。
・取得に伴う登記又は登録		
・不動産貸付 等		
契約に関する事項 ・入札広告	適	特記事項無し。
・予定価格の作成		
・契約の締結		
・検査 等		
旅費に関する事項 ・旅行命令簿と出勤簿との照合	適	特記事項無し。
寄付金及び科学研究費補助金に関する事項 ・寄付の申込、受入決定、受入通知、受入	適	特記事項無し。
・寄付金の管理状況		
・科学研究費補助金の執行状況		
帳簿及び証憑書類に関する事項 ・総勘定元帳	適	振替伝票で押印されていない伝票がある。整理するよう指導した。
・合計残高試算表		
・支出契約決議書		
・振替伝票等		
その他校長が必要と認める事項 ・受託研究の執行状況	適	特記事項無し。
・共同研究の執行状況		

事務部長意見

押印シキが見受けられるようでの、より注意して  
会計事務を執行すること。

事務部長 細川 勉 

(出典：総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

会計監査結果報告書(定時)に示されるように、財務に対して、内部会計監査は適正に行われている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・校長のリーダーシップの下に戦略推進経費を設け、これを競争的資金として審査の上重点的な配分を行い、教育研究活動の活性化を図っている。
- ・独自の教員業績評価システムを構築し、その評価結果を積極的に予算配分(教員活動支援経費)に反映させ、教育研究環境の醸成に取り組んでいる。

(改善を要する点)

- ・既定配分予算の中で、実験・研究設備の更新や新規導入ための経費の予算化は困難な状況にあり、今後予算の配分やその確保策についてさらなる創意工夫が必要である。

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって安定して遂行できる資産を有しており、また、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。今後は、運営費交付金のほかに外部資金を獲得するなどして、なお一層教育研究活動を安定して遂行できるよう努めなければならない。

学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に係る計画が策定され且つ関係者に明示されており、収支の状況に関して過大な支出超過とはなっていない。また、各学科・教員などからのプロポーザルに基づく資源配分方式により、適切な資源配分を行っている。

これらに係わる財務諸表等についても、学校要覧、ホームページ等により適切な形で公表されており、財務に対して内部会計監査が適正に行われている。

## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

本校の教育目的を達成するため、校長及び主事（教務，学生，寮務の3主事）が置かれ，学校教育法第70条の7，学校教育法施行規則第72条3（資料11-1-①-1）及び福島工業高等専門学校学則第9条の規定（資料11-1-①-2）に基づき，その職務，役割が定められている。校務の円滑な運営を図るため，福島工業高等専門学校組織規則（資料11-1-①-3）が制定され，校長直属の下に副校長（教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長），校長補佐（企画担当，評価担当，地域連携担当），専攻長，学科長等が配置され，また，事務組織として事務部が組織されている（資料11-1-①-4）。この組織の下に，校長が主宰する企画会と校長の諮問に応じて審議・計画・立案を行う機関として，運営会議，教員会議，専攻科会議及び各種委員会が設置されており，それぞれの役割は委員会等の規則に明確に規定されている（資料11-1-①-6～7）。

各種委員会等からの学校運営に係る案件については，企画会で検討され整理・調整の上，本校の意志決定機関である運営会議の審議を経て，最終的に校長の判断により決定し，教員会議等で周知される体制が採られている。本校では，企画会，運営会議を中心に委員会等が適切に配置されており，校長のリーダーシップの下で効果的に意志決定が行える態勢となっている。

企画会は毎週定例，運営会議，教員会議・専攻科会議は定例で月1回程度開催されるが，緊急課題等がある場合はと臨時に開催することとしている。以下に，企画会等の構成員及び役割等を示す。

企画会は，（資料11-1-①-5）のメンバーで構成され，校長の指示に基づき，本校全体に係る重要事項について企画・立案し，調整する機能を有し，他の委員会も含め調整できる機能を有しており，そのため，校長が全体を把握しながらリーダーシップを発揮できる体制となっている（資料11-1-①-6）。

運営会議は，（資料11-1-①-5）のメンバーで構成され，校長の諮問に応じ，学則等重要な規則の制定・改廃，組織運営，施設等将来構想等に関する事など学校運営に関わる重要事項について審議・調整をする機関として位置づけられており，会議は校長が招集し議長となり運営されている。（資料11-1-①-7）。

教員会議は，（資料11-1-①-5）のメンバーで構成され，校長の諮問に応じ，本校の教育に関する各種事項について審議し，会議は校長が招集し議長となり運営されている。

専攻科会議は，（資料11-1-①-5）のメンバーで構成され，専攻科に関する事項について審議を行い，会議は校長が招集し議長となり運営されている。

資料 11-1-①-1

学校教育法（第70条の7抜粋）

第70条の7 高等専門学校には、校長、教授、准教授・助教、助手及び事務職員を置かなければならない。ただし、教育上の組織編成として適切と認められる場合には、准教授、助教又は助手を置かないことができる。

- ②高等専門学校には、前項のほか、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。
- ③校長は、校務を掌り、所属職員を監督する。
- ④教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授する。
- ⑤准教授は、専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授する。
- ⑥助教は、専攻分野について、教育上又は実務上の知識及び能力有する者であつて、学生を教授する。
- ⑦助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- ⑧講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

学校教育法施行規則（第72条の3抜粋）

第72条の3 高等専門学校には、教務主事及び学生主事を置くものとする。

- ②高等専門学校には、寮務主事を置くことができる。
- ③教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- ④学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）掌理する
- ⑤寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舍における学生の厚生補導に関することを掌理する。

資料 11-1-①-2

福島工業高等専門学校学則（第9条抜粋）

第9条 本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）掌理する
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舍における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

資料 11-1-①-3

福島工業高等専門学校組織規則

(昭和62年3月7日)

(規則 第11号)

(最終改正 平成19年3月28日規則第9号)

(目的)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第11条の規定に基づき、本校の組織に関する事項を定め、もって校務の円滑な運営をはかることを目的とする。

(主事)

第2条 主事の職務は、学則第9条第2項から第4項の規定に定めるところによる。

(副校長)

第2条の2 本校に、副校長を置くことができる。

2 副校長は、校長の命により校長の職務を補佐するとともにその一部を処理する。

3 副校長は、教授をもって充て、校長が命ずる。

(校長補佐)

第2条の3 本校に、校長補佐を置くことができる。

2 校長補佐は、校長の命により特定の事項に関することを掌理する。

3 校長補佐は、教授をもって充て、校長が命ずる。

(主事補)

第3条 本校に、次の主事補を置く。

(1) 教務主事補

(2) 学生主事補

(3) 寮務主事補

2 主事補は、主事の職務を助ける。

3 主事補は、教授、准教授又は講師をもって充て、校長が命ずる。

(専攻科長)

第4条 本校専攻科に、専攻科長を置く。

2 専攻科長は、専攻科に関することを掌理する。

3 専攻科長は、教授をもって充て、校長が命ずる。

(専攻長)

第5条 本校専攻科の各専攻に、専攻長を置く。

2 専攻長は、専攻科長の職務を補佐する。

3 専攻長は、その専攻を担当する教員をもって充て、校長が命ずる。

(学科長)

第6条 本校に、次の学科長を置く。

(1) 機械工学科長

(2) 電気工学科長

(3) 物質工学科長

(4) 建設環境工学科長

(5) コミュニケーション情報学科長

(6) 一般教科長

2 学科長は、当該学科の運営及び連絡調整に関し、次の事項をつかさどる。

- (1) 学科の教育計画及び実施に関すること。
- (2) 学科の所属教員の教育及び研究活動の調整に関すること。
- (3) 学科の所属教員の服務に関すること。
- (4) 学科の運営に関し必要と認めたこと。

3 学科長は、教授をもって充て、校長が命ずる。

(教科主任)

第7条 一般教科に、次の教科主任を置く。

- (1) 国語教科主任
- (2) 社会科主任
- (3) 数学教科主任
- (4) 物理教科主任
- (5) 保健・体育教科主任
- (6) 英語教科主任

2 教科主任は、一般教科長のもとで当該学科の運営に関し、連絡調整にあたる。

3 教科主任は、教授、准教授又は講師をもって充て、校長が命ずる。

(学年主任)

第8条 本校に、次の学年主任を置く。

- 2 学年主任は、当該学年の運営に関し、連絡調整を行う。
- 3 学年主任は、当該学年の学級担任のうちから、校長が命ずる。

(学級担任)

第9条 本校に、次の学級担任を置く。

- 2 学級担任は、当該学級の運営及び学生の指導にあたる。
- 3 学級担任は、教授、准教授又は講師のうちから、校長が命ずる。

(図書館)

第10条 本校に、図書館を置く。

- 2 図書館に関する規則は、別に定める。

(共同利用施設)

第11条 本校に共同利用施設として情報処理教育センターを置く。

- 2 情報処理教育センターに関する規則は、別に定める。

(地域環境テクノセンター)

第11条の2 本校に、地域環境テクノセンターを置く。

- 2 地域環境テクノセンターに関する規則は、別に定める。

(技術部)

第11条の3 本校に、技術部を置く。

- 2 技術部に関する規則は、別に定める。

(会議)

第12条 本校の学則の制定改廃、予算及び概算の方針その他管理運営に関する事項並びに教務、学生の厚生補導に関する事項について、校長の諮問に応ずるため、次の会議を置く。

- (1) 運営会議
- (2) 教員会議
- (3) 専攻科会議

2 会議の組織及び運営等については、別に定める。

(委員会)

第13条 校長の命を受けて、運営に必要な諸問題を審議するため、本校に各種委員会を置く。

2 各種委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(任期)

第14条 任期は、特別に定めるものを除き、原則として1年とする。ただし、第4条から第7条に掲げる任期は、2年とする。

附則(昭和62年4月1日規則第11号)

- 1 この規則は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 福島工業高等専門学校組織規程(昭和41年4月6日規則第10号)は、廃止する。

附則(平成6年4月1日規則第2号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則(平成7年4月1日規則第2号)

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附則(平成8年4月1日規則第2号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附則(平成9年3月31日規則第9号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附則(平成9年7月10日規則第2号)

この規則は、平成9年7月10日から施行する。

附則(平成10年3月31日規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附則(平成13年3月19日規則第4号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附則(平成15年3月21日規則第11号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附則(平成16年4月1日規則第6号)

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附則(平成17年3月1日規則第53号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則(平成18年3月30日規則第14号)

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

福島工業高等専門学校組織図

# 組織

Organization

●教職員数 Number of Staff

区分 Classification	教職員数 Number of Staff
校長 President	1
教授 Professor	29
准教授 Associate Professor	23
講師 Assistant Professor	18
助教 Research Associate	8
小計 Subtotal	79
事務系職員 Administrative Staff	47
計 Total	126

平成19年4月1日現在 As of April 1, 2007

●役職員 Executive officials

校長 President		奈良宏一 NARA Kaichi	
副校長 Vice-President	教務主事 Academic Affairs	根岸嘉和 NEGISHI Yoshikazu	情報処理教育センター長 Head of Information Processing Education Center
	学生主事 Student Affairs	根本信行 NEMOTO Nobuyuki	地域環境テクノセンター長 Director of Center for Environmental Technology and Community Liaison
	寮務主事 Dormitory Affairs	山ノ内正司 YAMANOUCHI Masaji	事務部長 Director of Administration Bureau
	専攻科長 Director of Advanced Courses Program	佐東信司 SATO Shirji	総務課長 Head of General Affairs
校長補佐 Presidential Advisor	企画担当 General Planning	佐東信司 SATO Shirji	課長補佐(総務担当) Assistant Head (Administration Charge)
	評価担当 External Assessment	渡辺博 WATANABE Hiroshi	課長補佐(財務担当) Assistant Head (Financial Charge)
	地域連携担当 Community Liaison	伊藤正義 ITO Masayoshi	総務係長 Chief of General Affairs
専攻科 Advanced Courses Program	専攻科長 Director of Advanced Courses Program	佐東信司 SATO Shirji	企画・広報係長 Chief of Planning Section
	機械・電気システム工学専攻長 Head of Advanced Course in Mechanical and Electrical System Engineering	大槻正伸 OTSUKI Masanobu	地域連携係長 Chief of Community Liaison
	物質・環境システム工学専攻長 Head of Advanced Course in Chemical and Environmental System Engineering	青柳克弘 AOYAGI Katsuhiro	人事係長 Chief of Personnel Section
	ビジネスコミュニケーション学専攻長 Head of Advanced Course in Business Communication	田代均 TASHIRO Hitoshi	学生課長 Head of Student Affairs Division
学科長 Head of Department	一般教科長 General Education	西山公紀 NISHIYAMA Kiminori	専門員(学務担当) Expert in Student Affairs
	機械工学科長 Mechanical Engineering	石垣義尚 ISHIGAKI Yoshinao	教務係長(兼)図書係長 Chief of Academic Affairs Section and Chief of Library Section
	電気工学科長 Electrical Engineering	春日健 KASUGA Takeshi	学生支援係長(兼)寮務係長 Chief of Student Support and Chief of Dormitory
	物質工学科長 Chemistry and Biochemistry	井上和人 INOUE Kazuto	入試係長 Chief of Entrance Examinations
	建設環境工学科長 Civil Engineering	金子研一 KANeko Ken-ichi	技術部長 Head of Technical Office
	コミュニケーション情報学科長 Communication and Information Science	田代均 TASHIRO Hitoshi	総括係長(第二技術班長) Chief of Technical Staff Second Division Technical Staff
図書館長 Head of Library	内山昭代 UCHIYAMA Akayo	第一技術班長 Chief of First Division Technical Staff	
			第三技術班長 Chief of Third Division Technical Staff

(出典：福島工業高等専門学校要覧)



資料11-1-①-5

企画会、運営会議、教員会議、専攻科会議の構成員

企画会	運営会議	教員会議	専攻科会議
校長	校長	校長	校長
各主事	各主事	教授	教務主事
校長補佐	校長補佐	准教授	学生主事
専攻科長	専攻科長	講師	専攻科長
地域テクノセンター長	専攻長	助手	専攻長
事務部長	各学科長	事務部長	担当の教授
各課長	図書館長	各課長	担当の准教授
	情報処理教育センター長		担当の講師
	地域環境テクノセンター長		事務部長
	JABEE 委員長		各課長
	一般教科教授の内から 校長が指名した者 1名		
	事務部長		
	各課長		

(出典：総務課資料)

資料 11-1-①-6

福島工業高等専門学校企画会規則

(平成16年4月1日)

(規則第14号)

(最終改正 平成19年3月28日規則第19号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校企画会（以下「企画会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 企画会は、校長を補佐するとともに、校長の指揮に基づき、本校全体に係る重要事項について企画・立案し、調整することを目的とする。

(組織)

第3条 企画会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 校長補佐
- (4) 専攻科長
- (5) 地域環境テクノセンター長
- (6) 事務部長、総務課長及び学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

(会議)

第4条 校長は、企画会を招集し、その議長となる。

2 企画会は、原則として、毎月2回程度開催する。ただし、必要がある場合は、臨時に開催することができる。

(構成員以外の出席)

第5条 校長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 企画会の庶務は、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、企画会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月1日規則第54号)

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成18年3月30日規則第18号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月28日規則第11号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料11-1-①-7

福島工業高等専門学校運営会議規則

(平成13年3月19日)

(規則第5号)

(最終改正 平成19年3月28日規則第18号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則（昭和62年規則第11号）第12条第2項の規定に基づき、福島工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営会議は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算の方針に関する事項
- (3) 施設整備計画に関する重要事項
- (4) 管理運営に関する重要事項
- (5) 法人文書、個人情報の開示、不開示に関する事項
- (6) 組織、運営及び施設等将来構想に関する事項
- (7) その他校長が必要と認めた事項

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 校長補佐
- (4) 専攻科長及び各専攻長
- (5) 各学科長
- (6) 図書館長
- (7) 情報処理教育センター長及び地域環境テクノセンター長
- (8) JABEE 委員長
- (9) 一般教科教授のうちから校長が指名した者1名
- (10) 事務部長、総務課長及び学生課長

(会議)

第4条 校長は、会議を招集し、その議長となる。

(専門部会)

第5条 運営会議に特定の事項を調査、検討するために必要があるときは、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の委員は、校長が委嘱する。

(構成員以外の出席)

第6条 校長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第7条 運営会議の庶務は、総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日規則第4号）

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月1日規則第55号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年9月28日規則第6号）

この規則は、平成17年9月28日から施行する。

附 則（平成18年3月30日規則第18号）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 福島工業高等専門学校将来計画検討委員会（平成9年7月10日規則第1号）は、廃止する。

附 則（平成19年3月28日規則第12号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

本校では、校長直属の下に、主事、校長補佐、専攻科長、学科長、各種センター長、事務部長等が適切に人員配置されており、それぞれの立場で役割分担がなされている。校長補佐体制及び各種委員会組織等も整備され、学内の各部門における課題等が迅速に企画・立案、実行される体制となっており、その意志決定のシステム構築は明確である。平成16年度における専攻科設置、独法化に伴う中期目標・計画の作成・実行、JABEEによる教育プログラムの受審（平成17年度）、将来構想等の検討など、重要事項の対応については、それぞれの所管する組織が効率的に機能し実行されている。

このようにそれぞれの組織の役割に応じた対応が可能なシステムが構築されており、校長、各主事、委員会等の役割も明確であり、企画会、運営会議を中心として効果的な意志決定が行える態勢となっている。学校運営における校長のリーダーシップも十分発揮できる体制となっている。

**観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

（観点に係る状況）

本校では、多岐にわたる校務を迅速かつ適確に処理するため、より機能的な充実した組織づくりを目指し改善を行ってきた。

各種委員会は、機能的な学校運営を実現するために、それぞれの機能分担を明確にしたうえで校長の諮問に応じ、各種事項の審議、企画及び立案を行うことで組織されており、企画会、運営会議、教員会議・専攻科会議等は定例会議を開催し、その他の委員会も定期的に、または必要に応じて開催し、課題等の解決に臨機に対応している。

各種委員会（企画会、運営会議、教員会議、専攻科会議を除く。）の主な所掌事項は（資料11-1-②-1）のとおりである。また、構成メンバーは、「平成19年度役職者及び各種委員会等名簿」（資料11-1-②-2）のとおりであり、業務内容に適切に対応している。

事務組織については、高等専門学校設置基準第10条（資料11-1-②-3）、福島工業高等専門学校学則第10条（資料11-1-②-4）及び福島工業高等専門学校事務部組織及び事務分掌規則（資料11-1-②-5）に基づき事務部が設置されており、役割分担も明確になっている。事務部は各種委員会等の構成員として参画し、委員会等の庶務も所掌しており、管理運営を円滑に行うため適切に役割を分担し効果的に活動している。

事務部としては、度重なる定員削減に対応して、課、係等の業務分担の見直しや事務の効率化を図りつつ本校の校務運営（教育研究）をサポートしてきた。特に独法化後の学校運営については、人員削減、予算削減等厳しい状況下であり、本校としてもこれらに対応すべく事務組織の見直しを行い、平成18年4月から会計課に地域連携担当の専門職員を、学生課に入試担当の専門職員を配置し、さらに、平成19年4月からは、1部2課制を組織したところである。

なお、事務部運営のための会議として、係長等連絡会（事務部長、各課長、係長等で組織）が置かれ、事務部間の連絡調整を行いながら諸問題の解決に当たるとともに、各種委員会等からの種々の案件についても事務部の立場から検討を加え、意見等を反映させている（資料11-1-②-6）。

## 各種委員会等の主な所掌事項一覧

- 教務委員会：教育課程の編成、授業計画、学生の試験、履修、その他教務に関すること
- 学生委員会：学生の生活指導、厚生補導、授業料等の減免、その他学生に関すること
- 寮務委員会：寄宿舎の管理運営、寮生の生活指導、その他寮生に関すること。
  
- 点検及び評価検討委員会：点検評価の実施計画、実施並びに結果の報告等評価に関すること。
- 入学試験委員会：入学者の募集、入学者の選抜試験、その他入学試験に関すること。
- 進路対策委員会：学生の就職・進学等の指導、支援並びに卒業生への情報提供等支援に関すること。
- 専攻科委員会：専攻科の教育課程の編成、授業計画、入学試験、進路等専攻科全般に関すること。
- 広報委員会：各種広報の管理、広報誌の発行、ホームページの掲載等に関すること。
- 安全衛生委員会：教職員の安全及び衛生の維持向上等に関すること。
- 国際交流委員会：外国人留学生の受け入れ及び指導、国際交流事業等に関すること。
- F D委員会：教員の教育（授業）に関する資質と能力の向上を図るための取組み等に関すること。
- J A B E E委員会：技術者教育プログラムの認定申請、受審準備、対応等に関すること。
- 認証評価委員会：認証評価受審申請、準備・応等に関すること。
  
- 図書館運営委員会：図書館の管理運営及び図書の選択廃棄等に関すること。
- 情報処理教育センター運営委員会：センターの管理運営、情報処理教育・研究及びネットワークの保守等に関すること。
- 地域環境テクノセンター運営委員会：センターの運営・管理、地域連携・協力、研究論文集等の編集及び情報管理等に関すること。
- 組換えDNA実験安全委員長：実験計画の指針及び規則との適合性審査、安全確保等に関すること。
- セクシャル・ハラスメント防止対策委員会：セクシャル・ハラスメントの防止排除対策、問題発生への対応等に関すること。
- 情報セキュリティ委員会：情報セキュリティ・ポリシーの策定、運用等に関すること。
- T O E I C実施委員会：T O E I Cテストの実施に関すること。
- 知的財産委員会：教職員の知的財産権の取得支援、知的財産権及び技術経営等に関する人材育成、その他知的財産権に関すること。
  
- 技術部運営委員会：技術部の運営、職員配置、教育研究支援業務等に関すること。
- 学生相談室：学生の修学、進路及び精神衛生上の諸問題に関すること。

(出典：総務課資料)

平成19年度役職者及び各種委員会等名簿

平成19年度

役職及び各種役員等名簿

福島工業高等専門学校

平成19年度役職者及び各種委員会等名簿（抜粋）

<b>9. 運営会議</b>		委員（物質工学科）	天野 仁司
校長	奈良 宏一	“（建設環境工学科）	緑川 猛彦
教務主事	根岸 嘉和	“（コミ情報学科）	芥川 一則
学生主事	根本 信行	“	総務課長
寮務主事	山ノ内正司		
校長補佐（企画担当），		<b>10. 企画会</b>	
（専攻科長）	佐東 信司	校長	奈良 宏一
“（評価担当）	渡辺 博	教務主事	根岸 嘉和
“（地域連携担当），		学生主事	根本 信行
（地域センター長）	伊藤 正義	寮務主事	山ノ内正司
機械・電気システム工学専攻長		校長補佐（企画担当），	
（情報センター長）	大槻 正伸	（専攻科長）	佐東 信司
物質・環境システム工学専攻長		校長補佐（評価担当）	渡辺 博
（J A B E E 委員長）	青柳 克弘	“（地域連携担当），	
ビジネスコミュニケーション学		（地域センター長）	伊藤 正義
専攻長（コミ情報学科長）	田代 均	コミ情報学科長	田代 均
一般教科長	西山 公紀	事務部長	細川 勉
機械工学科長	石垣 義尚	総務課長	本橋せつ子
電気工学科長	春日 健	学生課長	佐藤 広
物質工学科長	井上 和人		
建設環境工学科長	金子 研一	<b>11. 点検及び評価に関する検討委員会</b>	
図書館長	内山 昭代	校長	奈良 宏一
一般教科（理系）	山野 和一	教務主事	根岸 嘉和
事務部長	細川 勉	学生主事	根本 信行
総務課長	本橋せつ子	寮務主事	山ノ内正司
学生課長	佐藤 広	校長補佐（企画担当），	
		（専攻科長）	佐東 信司
<b>9-1. 施設整備等有効活用に関する専門部会</b>		“（評価担当）	渡辺 博
専門部会長	山ノ内正司	“（地域連携担当），	
部員（一般教科）	秋山 秀博	（地域センター長）	伊藤 正義
“（機械工学科）	石垣 義尚	機械・電気システム工学専攻長	
“（電気工学科）	山本 敏和	，（情報センター長）	大槻 正伸
“（物質工学科），		物質・環境システム工学専攻長	
（教務主事補）	内田 修司	，（J A B E E 委員長）	青柳 克弘
“（コミ情報学科），		ビジネスコミュニケーション学	
（図書館長）	内山 昭代	専攻長，（コミ情報学科長）	田代 均
“（学生主事補）	松尾 忠利	一般教科長	西山 公紀
“（寮務主事補）	齊藤 充弘	機械工学科長	石垣 義尚
“（情報セ長）	大槻 正伸	電気工学科長	春日 健
“（地域環境セ長）	伊藤 正義	物質工学科長	井上 和人
“	事務部長	建設環境工学科長	金子 研一
“	総務課長	一般教科（理系）	山野 和一
“	学生課長	事務部長	細川 勉
		総務課長	本橋せつ子
		学生課長	佐藤 広
<b>9-2. 将来計画検討ワーキンググループ</b>			
WG長（専攻科長）	佐東 信司		
委員（一般教科）	笠井 哲		
“（ “ ）	井川 治		
“（機械工学科）	篠木 政利		
“（電気工学科）	大槻 正伸		



**12. 教務委員会**

委員長（主事）	根岸 嘉和
委員（主事補）	川崎 俊郎
”（ ” ）	内田 修司
”（ ” ）	緑川 猛彦
”	井川 治
”	一色 誠太
”	鈴木 晴彦
”	遠原 智文
”	学生課長
”	学・専門員
”	教務係長

**13. 学生委員会**

委員長（主事）	根本 信行
委員（主事補）	西浦 孝治
”（ ” ）	松尾 忠利
”（ ” ）	山田 貴浩
”（ ” ）	青木 寿博
”	根本 昌樹
”	石原 万里
”	平尾 篤利
”	伊藤 淳
”	羽切 正英
”	菊地 卓郎
”	田村 綾子
”	森川 治
”	松本 行真
”	学生課長
”	学生支援係長

**14. 寮務委員会**

委員長（主事）	山ノ内正司
委員（主事補）	道上 達広
”（ ” ）	中山 悟視
”（ ” ）	齊藤 充弘
”（ ” ）	渡部美紀子
”	坂内 昌徳
”	高橋 章
”	鈴木 茂和
”	小泉 康一
”	三浦靖一郎
”	柴田 公彦
”	梅澤 洋史
”	高荒 智子
”	松江 俊一
”	学生課長
”	寮務係長

**15. 専攻科委員会**

委員長（専攻科長）	佐東 信司
委員（専攻長）	大槻 正伸
”（ ”, JABEE委員長）	青柳 克弘
”（ ” ）	田代 均
”（教務主事補）	緑川 猛彦
”（学生主事補）	松尾 忠利
”	山本 敏和
”	押手 茂克
”	森田 年一
”	渡部 順一
”	井川 治
”	学生課長
”	学・専門員
”	教務係長

**16. 入学試験委員会**

委員長（校長）	奈良 宏一
副委員長（教務主事）	根岸 嘉和
委員（学生主事）	根本 信行
”（寮務主事）	山ノ内正司
”（一般教科長）	西山 公紀
”（機械工学科長）	石垣 義尚
”（電気工学科長）	春日 健
”（物質工学科長）	井上 和人
”（建設環境工学科長）	金子 研一
”（コミ情報学科長）	田代 均
”	高野 克宏
”	森川 治
”	吉村 忠晴
”	事務部長
”	学生課長

**16-1. 入学試験実施専門部会**

専門部会長	高野 克宏
部員	宮澤 泰彦
”	松本 匡以
”	小泉 康一
”	押手 茂克
”	森田 年一
”	松江 俊一

**16-2. 入学者対策専門部会**

専門部会長	森川 治
部員	山野 和一
”	松本 匡以
”	濱崎 真一
”	鴨下 祐也
”	原田 正光

（出典：総務課資料）

資料 11-1-②-3

高等専門学校設置基準（第10条抜粋）

（事務職員等）

第10条 高等専門学校には、その運営のために必要な相当数の事務職員その他の職員を置かなければならない。

資料 11-1-②-4

福島工業高等専門学校学則（第10条抜粋）

第10条 本校に庶務、会計、教務及び学生の厚生補導、施設等に関する事務を処理するため、事務部を置く。

（出典：福島工業高等専門学校規則集）

資料 11-1-②-5

福島工業高等専門学校事務部組織及び事務分掌規則

（昭和62年3月23日）

（規則第22号）

（最終改正 平成19年3月28日規則第1号）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条第6項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第11条並びに福島工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、本校の組織及び事務分掌の範囲を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

（事務部）

第2条 本校に、事務部を置く。

（課）

第3条 事務部に、次の2課を置く。

総務課

学生課

（係）

第4条 事務部の課に、係を置く。

(事務部長)

第5条 事務部に、事務部長を置く。

- 2 事務部長は、事務職員をもって充てる。
- 3 事務部長は、校長の命を受けて、事務部の事務を処理する。

(課長)

第6条 課に、課長を置く。

- 2 課長は、事務職員をもって充てる。
- 3 課長は、上司の命を受けて、課の事務を処理する。

(課長補佐)

第6条の2 課に課長補佐を置くことができる。

- 2 課長補佐は、事務職員をもって充てる。
- 3 課長補佐は、課長を補佐する。この場合において次条第3項に規定する事務の処理を併せもつことを妨げるものではない。

(専門員)

第6条の3 課に専門員を置くことができる。

- 2 専門員は、事務職員をもって充てる。
- 3 専門員は、上司の命を受けて、高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

(係長)

第7条 係に、係長を置き、必要に応じ主任を置くことができる。

- 2 係長及び主任は、事務職員又は技術職員をもって充てる。
- 3 係長は、上司の命を受けて、係の事務を処理する。
- 4 主任は、係長を助け、係の事務を処理する。

(専門職員)

第7条の2 課に専門職員を置くことができる。

- 2 専門職員は、事務職員をもって充てる。
- 3 専門職員は、上司の命を受けて、専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

### 第3章 事務分掌

(総務課の事務分掌)

第8条 総務課に、課長補佐及び次の7係を置く。

- 総務係
- 企画・広報係
- 地域連携係
- 人事係
- 財務係
- 調達係
- 施設管理係

以下 略

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-②-6

係長連絡会

平成 19 年 4 月 19 日

課長  
課長補佐  
専門員 殿  
係長  
班長

事務部長

係長等連絡会の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますのでお集まり願います。

記

日 時 平成 19 年 4 月 24 日（火） 10:00～

場 所 小会議室

---

西 村 榮  
E-mail : nishimura@fukushima-nct.ac.jp  
福島高専総務課総務係長  
tel.0246-46-0704  
いわき市平上荒川字長尾 30

---

平成 19 年度第 1 回係長等連絡会

日 時 平成 19 年 4 月 24 日（火） 10:00～

場 所 小会議室

事 項

- 1 平成 19 年度の取組目標（事務部）について [資料 1]
- 2 東北地区校専攻長・事務部長会議（春季）について [資料 2]
- 3 その他

（出典：総務課資料）

(分析結果とその根拠理由)

各種委員会等の役割については、委員会規則等に示され明確化されている。また、事務組織においても、事務部組織及び事務分掌規則に明示されており、双方の役割は適切に明確に分担されている。

企画会、運営会議をはじめ各種委員会も含めて連携・協力が図られ、効果的な活動がなされている。また、事務組織においても、各種委員会への支援体制が有効に機能し、効果的な活動が行われている。

**観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。**

(観点に係る状況)

本校では学校の管理運営が円滑に行われるように、会議（企画会、運営会議、教員会議、専攻科会議）、各種委員会等（教務委員会、学生委員会他）を組織するため諸規則を制定しており（資料11-1-③-1）、これらの規則は継続的に改正等が加えられている。規則の制定、改正等が必要となる場合は、運営会議で審議され、校長決裁を経て教員会議等で報告し、全教職員には随時事務部ホームページ上で周知している（資料11-1-③-2）。規則の制定内容は、観点11-1-①で示した資料の学校組織規則（資料11-1-①-3）、企画会規則（資料11-1-①-6）及び運営会議規則（資料11-1-①-7）に明示されている。

管理運営関係規則一覧

福島工業高等専門学校事務局ホームページ

1/1 ページ

# 福島工業高等専門学校事務局

独立行政法人国立高等専門学校機構

## 福島工業高等専門学校 表紙

(平成19年4月1日現在)

### ◆目次◆

目次	<a href="#">福島工業高等専門学校規則集 表紙</a>
第1章	<a href="#">学則</a>
第2章	<a href="#">組織・運営</a>
第3章	<a href="#">委員会</a>
第4章	<a href="#">庶務・人事</a>
第5章	<a href="#">会計</a>
第6章	<a href="#">教務・学生</a>
第7章	<a href="#">寄宿舍</a>
第8章	<a href="#">学術・研究</a>
第9章	<a href="#">安全管理</a>
第10章	<a href="#">図書館</a>
第11章	<a href="#">センター等</a>
第12章	<a href="#">関係法令</a>

ここからの先

[事務局トップへ](#)

#### ■ ページ Index ■

- ▶ [お知らせ](#)
- ▶ [各校規則表紙集](#)
- ▶ [各課ホームページ](#)
  - ▶ [情報管理センター情報課](#)
  - ▶ [教務課](#)
    - ▶ [入学関係](#)
    - ▶ [入学関係平成二重](#)
    - ▶ [入学関係からのお知らせ](#)
    - ▶ [退学関係からのお知らせ](#)
- ▶ [学生課](#)
  - ▶ [学生課からののお知らせ](#)
- ▶ [フリースペース](#)
  - ▶ [しりとり部\(現在休止中\)](#)
  - ▶ [金部](#)
  - ▶ [フットボール部](#)
  - ▶ [スカッシュ部](#)
  - ▶ [\(空手・柔道\)](#)
- ▶ [リンク](#)

## 第2章 組織・運営

- 福島工業高等専門学校組織規則 (昭和62年規則11号)
- 福島工業高等専門学校事務部組織及び事務分掌規則 (昭和62年規則22号)
- 福島工業高等専門学校企画会規則 (平成16年規則14号)
- 福島工業高等専門学校運営会議規則 (平成13年規則5号)
- 福島工業高等専門学校施設整備等有効活用に関する専門部会要項 (平成18年校長裁定)
- 福島工業高等専門学校教員会議規則 (昭和41年規則2号)
- 福島工業高等専門学校専攻科会議規則 (平成16年規則3号)
- 福島工業高等専門学校参与会規則 (平成17年規則4号)

[トップへ](#)

---

## 第3章 委員会

- 福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則 (平成5年規則1号)
- 福島工業高等専門学校教務委員会規則 (昭和41年規則8号)
- 福島工業高等専門学校学生委員会規則 (昭和41年規則5号)
- 福島工業高等専門学校奈務委員会規則 (昭和41年規則6号)
- 福島工業高等専門学校入学試験委員会規則 (平成16年規則5号)
- 福島工業高等専門学校進路対策委員会規則 (平成8年規則6号)
- 福島工業高等専門学校専攻科委員会規則 (平成16年規則2号)
- 福島工業高等専門学校広報委員会規則 (平成11年規則6号)
- 福島工業高等専門学校安全衛生委員会規則 (平成16年規則12号)
- 福島工業高等専門学校安全衛生委員会専門部会要項 (平成18年3月校長裁定)
- 福島工業高等専門学校国際交流委員会規則 (平成10年規則9号)
- 福島工業高等専門学校組換えDNA実験安全委員会規則 (平成10年規則11号)
- 福島工業高等専門学校FD委員会規則 (平成15年規則11号)
- 福島工業高等専門学校JABEE委員会規則 (平成16年規則13号)
- 福島工業高等専門学校情報セキュリティ委員会規則 (平成15年規則3号)
- 福島工業高等専門学校知的財産委員会規則 (平成17年規則3号)

[トップへ](#)

---

## 第4章 庶務・人事

- 福島工業高等専門学校文書管理規則 (平成13年規則13号)
- 福島工業高等専門学校文書処理規則 (昭和62年規則23号)
- 福島工業高等専門学校規則等制定、改廃の事務処理要領 (昭和62年校長裁定)
- 福島工業高等専門学校公印規則 (昭和62年規則24号)
- 福島工業高等専門学校情報公開取扱要項 (平成13年校長裁定)

教職員への規則制定，改正等の周知資料

福島工業高等専門学校事務部ホームページ

1/1 ページ

# 福島工業高等専門学校事務部

## ■ ページIndex ■

- ▶ お知らせ
- ▶ 各種規則集保管庫
- ▶ 各課ホームページ
  - ▶ 福島高専諮会議議事録
  - ▶ 庶務課関係のページ
    - ・人事関係手続一覧
    - ・人事係からのお知らせ
    - ・推進室からのお知らせ
  - ▶ 会計課関係のページ
    - ・財務会計システムに係る事務処理マニュアル
    - ・財務会計システム「Webiによる発生源入力」について
  - ▶ 学生課関係のページ
    - ・保健室からのお知らせ
- ▶ ワークフロー
  - ▶ しめきり君(現在休止中)
  - ▶ 会議室の予約
  - ▶ ファイル置場
  - ▶ スケジュール表(全体・各課)
- ▶ リンク

## ■ 各種規則集保管庫 ■

- ▶ 福島工業高等専門学校規則集(平成18年6月1日現在版)
- ▶ 福島工業高等専門学校中期計画(H15-12-25最終提出版)
- ▶ 福島高専セキュリティポリシー
  - ・情報セキュリティ規則
  - ・情報セキュリティ委員会規則
  - ・セキュリティポリシー
- ▶ 独立行政法人国立高等専門学校機構規則集(H18-10-1最終改訂版)
- ▶ 独立行政法人 規則類
- ▶ 個人情報保護規則関連[規則集](H17.12.26掲載)
- ▶ 情報セキュリティ個人マニュアル
- ▶ 独立行政法人国立高等専門学校機構情報公開事務取扱要項

https://172.30.64.2/

2007/01/23

(出典：福島工業高等専門学校事務部ホームページ)



(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する諸規定については、その都度見直し改善が行われ、効果的な活動が行えるように整備がなされている。教職員への周知については、事務部ホームページ上で周知されている。

**観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、外部機関等の有識者による参与会（外部評価）を設置し（資料11-2-①-1）、学校運営全般にわたる状況について点検評価を受け、その評価の状況及び委員の意見・提言等については報告書にまとめ公表している。委員の意見等については、管理運営に反映すべく学内組織にフィードバックさせる体制として、点検及び評価に関する検討委員会を設置している（資料11-2-①-2）。

外部評価等の意見・提言等については、学内組織に周知の上、対応や改善について見直し等を行い、企画会、運営会議等で検討審議し、管理運営に適切に反映されるよう対応している。

具体例として、平成17年度に実施した参与会（外部評価）では、教員業績評価システムについての提言があり（資料11-2-①-3）、運営会議、教員会議等で「参与会が指摘した改善提案」の内容を報告し（資料11-2-①-4）、平成18年度の企画会、運営会議等において教員業績評価システムの評価項目や評価方法等の改善・見直しを行い（資料11-2-①-5）、教員個々の自己改善が可能な、また本校の戦略目標の設定及びその修正に役立つシステムにすべく改善を図ったところである（11-2-①-6）。なお、この教員業績評価システムによる評価結果は、学内予算配分にも反映されている。

資料11-2-①-1

福島工業高等専門学校参与会規則

(平成17年7月26日)

(規則第4号)

(最終改正 平成19年3月28 規則第15号)

(趣旨)

第1条 福島工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育研究活動等の状況について、外部の有識者による検証(以下「外部評価」という。)を行い、もって本校の教育 研究体制等の改善に資することを目的として、福島工業高等専門学校参与会(以下「参与会」という。)を置く。

(評価事項)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて外部評価を行う。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第3条 参与会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した参与若干名をもって組織する。

- (1) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の関係者
- (2) 地方自治体の関係者及び県内の教育関係者
- (3) 地域産業経済界の関係者
- (4) 本校を卒業又は修了した者
- (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者

(任期)

第4条 参与の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 参与会に、会長を置き、校長が指名する。

- 2 会長に事故があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

(運営)

第6条 参与会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

(意見の聴取)

第7条 会長が必要と認めたときは、参与会に参与以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 参与会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年7月26日から施行する。
- 2 福島工業高等専門学校外部評価実施細則(平成12年細則第1号)は廃止する。

附 則(平成19年3月28日規則15号)

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

資料11-2-①-2

福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則

(平成5年12月9日)

(規則第1号)

(最終改正 平成19年3月28日規則第16号)

(目的)

第1条 この規則は、福島工業高等専門学校組織規則(昭和62年規則第11号)第13条第2項に基づき、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動等の状況について自ら行う点検及び評価(以下「点検及び評価」という。)に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(検討委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項を行うため、福島工業高等専門学校点検及び評価 検討委員会(以下「検討委員会」という。)を置く。

- (1) 点検及び評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること。
- (3) その他点検及び評価に関する必要な事項

(組織)

第3条 検討委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 校長補佐
- (4) 専攻科長
- (5) 各学科長
- (6) 一般教科教授のうちから校長が指名した者1名
- (7) 事務部長、総務課長及び学生課長
- (8) その他校長が指名した者

(委員長)

第4条 検討委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(構成員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(実施組織)

第6条 点検及び評価を行う組織等(以下「実施組織」という。)は、次のとおりとする。

- (1) 各学科及び一般教科
- (2) 専攻科
- (3) 検討委員会が指定する各種委員会
- (4) 事務部

(点検評価事項)

第7条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項について、点検及び評価を行う。

- (1) 教育理念及び教育目標に関すること。
- (2) 教育活動に関すること。
- (3) 研究活動に関すること。
- (4) 施設設備に関すること。
- (5) 国際交流に関すること。
- (6) 生涯学習への対応に関すること。
- (7) 社会との交流に関すること。
- (8) その他検討委員会が必要と認める事項

2 前項各号に係る具体的な点検項目は、検討委員会が別に定める。

(点検及び評価の実施)

第8条 検討委員会及び実施組織は、別に定める点検項目により、点検及び評価を行うものとする。

2 実施組織は、点検及び評価の結果を検討委員長に報告するものとする。

3 検討委員長は、実施組織からの報告に基づき、点検及び評価の総括を行い、改善すべき事項を付して校長に報告するものとする。

(報告書の作成及び公表)

第9条 校長は、取りまとめた点検及び評価の結果を報告書として公表するものとする。

(点検及び評価結果の対応)

第10条 校長は検討委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、関係する実施組織にその改善策の検討を付託するものとする。

(庶務)

第11条 検討委員会の庶務は、総務課において処理する。

(細則)

第12条 この規則に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な細則は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成5年12月9日から施行する。

附 則 (平成16年4月1日規則第8号)

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年3月1日規則第56号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年3月30日規則第17号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月28日規則第16号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：福島工業高等専門学校規則集)

平成18年1月「参加会報告書」

# 参加会報告書

(外部評価)

平成18年1月

国立福島工業高等専門学校

## 「参与会報告書」質疑応答（抜粋）

## 6) 研究活動について

（里見参与）

クラブ活動等も文武両道ということで一生懸命やられているので感心している。報告の中にもあったが、高専の先生方は教育と研究と学生指導とクラブ活動の指導等で非常に大変だと思う。先生方から文句とか、「これで研究しろと言われてもそんな時間もない」というようなことは出てこないのか。

（安久校長）

そここのところはこれから解決していかなければならない大きな問題です。基本的なことは高専教員としてやってもらわなければいけないが、研究意欲のある先生には研究の時間を、学生指導に熱意のある先生には学生指導をしてもらうなど分化をさせ、それらの評価はきちっとしてあげる事が必要と考えています。

（根本一般教科長）

クラブ活動は一生懸命やってきたが、本校のシステムは非常に上手くできています。昨日グラウンドに出た後で体育館の方を覗いたが、教員はそんなにいません。4、5年生が低学年を面倒みるというシステムができています。それを上手く活用すれば最近専攻科生でも部活をやる学生がいて、コーチ並みのことをします。その辺は上手に指導する方策を考えておけば良いと思っています。

（白石参与）

教職員の負担という意味では独立行政法人化後は学内の委員会の数は減ったか。増えたか。

（細川部長）

減っていません。これからの見直しの中で委員会の統廃合を考えていかなければならないと思っています。

（白石参与）

従来から大学全体で90位あった委員会が、70位に減った。これは文科省の評価でほめられたが、数は減っても仕事の量は逆に増えてしまった。

## 5) 学生寮の生活支援について

（里見参与）

学生寮の場合、原則的には希望者はだれでも受け入れるというものか。何か条件はあるのか。

（山野寮務主事）

1年生で新入寮を希望する場合は、遠隔地であれば部屋を確保するように努めている。親の希望で通学できるのに寮に入りたいと希望することもあるが、その場合は断っています。また、上級生になったときに、例えばハードなクラブ活動をやっている、寮の役員をやっている、学生会の役員をやっているとか、そういう状況については、寮におくようにしています。何もしないで、ただ安いからというものについては、自立ということも大事なのではないかと学生と保護者に話しています。

（渡辺会長）

留学生は別のスペースにいるのか、また女子の留学生がいるのか。

（山野寮務主事）

留学生は寮のまとまった一か所にいます。女子留学生は女子棟に現在3名います。

## 6) 研究活動について

（白鳥参与）

高専本来のミッションとして教育を基本にすることは間違いないと思うが、教育の評価は非常に難し

い。どうしても、目立つのは教育の評価のところであり、ここで差が出てくる印象を与えてしまう。

それでは、教員の元気は出ないだろうし、活性化は図れないだろうと思っている。あえて例を出すので参考にして頂ければと思う。体操競技とか、音楽・合唱とか、スケートなどの競技では、2つの評価基準を用いている。評価1として、規定問題や規定競技（課題）がある。評価2として、自由演技や自由課題があり、2つの評価を総合して順位を決めるようになっている。そういったことを参考にしながら評価を考えると、教育と研究をA（必須）とB（選択）に分ける。教育A、研究Aは全員が必修である。例えば、教育は本科と専攻科があり、研究に関しては本科のミニ研究、卒論と専攻科の研究指導がある。研究Aは本科・専攻科での研究指導に最小限要求される教員の研究水準、研究指導能力の水準をなんらかの形で整理する。例えば、学会での口頭発表が2年に1回は最小限必要である、とか。また、研究Bとして、こちらは研究が得意の教員はJournalの論文で評価して頂く。教育Aは、本科と専攻科で最小限必須のもの。また、教育Bの方は教育理念目標に掲げている、例えばシナジー効果を上げたとか、モノづくりとか、あるいはクラブ活動とか、地域貢献、地域の連携などで評価してもらう。教育B、研究Bは自由課題で複数の項目を挙げ、この中からどれを選んでも良いというふうにすればいいのではないか。そうすると現在のように教育と研究を単一の基準で評価されるよりは、皆さんの元気が出るような活性化に向けたシステムができると思う。

それから、外部資金等の獲得であるが、私どもでも科研費を含めてなかなか教授同士が組んで応募するというのがこれまでにほとんどなかった。しかし、時代の流れでそんなことは言っていられなくなってきている。教授同士がディスカッションできるようなグルーピングをして、その中から芽が出て外部資金への応募をするような流れを作っている。皆さんでも教員同士でグルーピングする方法を考えていただきたいと思っている。

## 7) 地域社会との連携について

（白石参与）

茨城大学工学部は日立にあるが、共同研究で圧倒的に多いのが県南地区である。県北地区に対してはほとんど我々には情報も入ってこない。この間、工学部に共同研究の希望を聞いたところ7、8割の先生が希望した。県北地区に対して、福島高専ではニーズ、シーズの関係で何かをつくって企業に配付することなどをしていますか。

（大隈地域交流センター長）

我々もその辺の情報はあまりつかんでいません。現校長が着任してから茨城地区へ目を向け始めたのが現状です。

ただ、県北には本校の卒業生が就職しているので、その辺の情報を取り入れていきたいと考えています。

（佐藤参与）

連携ということで、小中学校支援が入っているが、私どもとしては有り難い事業展開をして頂いていると思っている。これまでに脚光を浴びてきた支援は「総合的な学習の時間」だが、これからは英語ではないかと思っている。いわき市では英語の特区を申請し、まもなく特区が認められて英語が導入される。また、文科省でも小学校3年生から英語を導入する方向で検討している。

高専ではコミュニケーション情報学科が英語を多く取り入れていることを考えると、小学校の先生方は英語の免許を持っていないため、どういふノウハウで指導していくかが大きな課題である。そういう意味ではこれからの支援の中身として英語があげられると感じた。

## 平成17年度第16回運営会議議事要旨

(参与会提言等の報告事項(4))

## 平成17年度第16回運営会議議事要旨

日 時 平成18年3月7日(火) 13:30～15:20  
 場 所 小会議室  
 特別出席 青柳JABEE委員長  
 事 項

- (1) 選択科目の受講制限と課程修了認定について  
 渡辺教務主事から、資料に基づき、TOEIC スコアに基づく第2外国語(中国語)の受講制限等について説明があり、平成17年度3～4年生の課程修了認定は、昨年と同じく資料中①の方法で行うこととした。
- (2) 入学者選抜に係る情報開示・不開示基準(案)  
 学生課長から、資料に基づき、説明があった。  
 ・資料中の取消線部分は、今後、入試委員会で検討することとした。  
 ・(2)の事務手続きは、削る。
- (3) JABEE委員会事項
  - 1) 第1回校内模擬審査実施要項(案)  
 青柳委員長から、資料に基づき説明があった。  
 ・面接者は、事務系(技術職員)職員を減らし、その分、教員を増やすこととした。  
 ・模擬審査員の山野寮務主事を森川専攻科長に換える。(山野は学寮の行事があるため)  
 ・面接者の模範解答は、委員会で用意する。
  - 2) その他  
 青柳委員長から、資料に基づき、JABEE プログラム認定申請書の作成スケジュール等について説明があった。(申請期間は3/1～4/20まで)  
 3/17まで委員会でまとめる。  
 3/28の企画会に提案する。  
 3/30の運営会議に提案する。
- (4) 参与会評価を受けての改善策  
 佐東校長補佐から、資料に基づき、説明があった。  
 ・3/13教員会議で報告することとした。
- (5) 第45回入学式及び平成18年度編入学式並びに専攻か入学式実施要項(案)ほか  
 庶務課長から、資料に基づき、説明があった。  
 ・祝賀会来賓挨拶は、挨拶依頼者(市長・中学校長会長)が欠席のため、式次第から除く。
- (6) 不審者対策として車両止め設置の必要性について  
 秋山学生主事から、資料に基づき、提案説明があった。  
 ・なお、この提案についての意見等は、学生課長がまとめることとした。
- (7) その他
  - ① 創造性を育む「卒業研究」集(機構へ提出の論文)  
 庶務課長から、提出論文(資料)の紹介があった。
  - ② 「専攻科棟」竣工記念講演会(案)について



平成17年度第16回運営会議資料

(改善提案 2) 「教育組織・教育体制について」)

## 参与会が指摘した改善提案

平成18年3月7日(運営会議提出)

- 1) 教育理念・教育目標・教育体制・人材像
  - 1) 6項目の学習・教育目標そのものは素晴らしい内容ですが、以下のことが気になります。
    - ・達成していることの証明が難しい項目があるように受け取れます。
    - ・学科での目標と、専攻科での目標が一緒になっているように受け取れます。
 目標というときは達成するレベルも含まれますので、これがまったく一緒では、おかしいことになります。なお、P.8 の表で示している人材像は、良く分かります。
  - 2) 理念、目標等適格に整理されているが、キーワードである教育、研究、地域貢献(社会との連携)に特化し記述する方がさらにインパクトがあるように感じます。また”育成”を踏まえて、どのような技術者(卒業生)を目指すのかも盛り込むと、さらに理念と特徴が明確になるでしょう。
- 2) 教育組織・教育体制について
  - 1) 評価システムとしてのポイント制は、意欲的な試みです。点数を決めるに当たって、教員の意見は反映されていると思いますが、査読つき論文と紀要論文のポイントには、もっと差をつけるべきだと思います。
- 3) 学生の受入について
  - 2) 学科課程で、推薦志願者が多数いることは、高く評価されます。追跡調査をしていると思いますが、結果が良ければ、推薦枠を40%にすることを考えてよいと思います。
  - 3) 平成17年度で、ビジネスコミュニケーション学専攻の推薦志願者がゼロなのが気になります。力のある学生が専攻科を希望するよう努めてください。
  - 4) 各学科のアドミッションポリシーが記載されているが、どの学科にも共通する項目はあるはずですが？また、今後少子化に伴い推薦入学の枠を増やさざるを得ないと思われるが、指定校制度を採用することも一方法であろうと考えます。ご検討下さい。
- 4) 教育課程について
  - 1) 必修科目に必修得と必修修とありますが、履修したとの証明が不明確になっている恐れはありませんか。
  - 2) 専攻科のシラバスでは、1単位は45時間の学修内容からなることから、講義時間外の学習を考慮した記述が必要です。
  - 4) 専攻科でMOT教育をねらうのは、良い試みです。もちろん、専門系だけを学ぶという学生にも、配置する必要はあります。
- 5) 本科の特徴ある教育につい
- 6) 専攻科の特徴ある教育について
  - 2) P65 の 4)において、“本質を考えさせる充実した内容の指導”と極めて重要なことが記載されていますが、具体的にはいかなる指導ですか？
  - 9) 専攻科を設置したばかりであり、仕組みはできているが、今後の課題は研究テーマの設定ではないかと思う。高専の専攻科という意味付けから是非、企業との共同研究テーマを設定し、実践につなげて欲しい。
  - 12) モノづくり面で地元の企業と協力できる実力を付ける必要がある
  - 13) 専攻科ができて評価はこれからであるが、他流試合の出来る人材の育成をお願いしたい。
- 7) 教育の成果について
- 8) 教育改善システムについて
  - 1) 授業評価アンケートを行っているのは良いのですが、その結果のフィードバックが弱いようです。P92-93 の表の数値からは、著しい改善があったとは言えないと思います。
  - 4) 教育改善はすべての教育機関の重要な課題です。学生による評価を教員にフィードバックし改善する訳ですが、どのような改善が図られたかを“具体的な方法”を挙げて示すことはできませんか？
  - 16) 学校全体として社会的にどう評価され、どう変わろうとしているか積極的なPRをお願いしたい。

## 平成17年度第16回運営会議資料

## (改善提案 13) 「教員の研究成果について」)

## 9) 学生の学習支援について

- 1) 私は高専のオフィスアワーは本当に必要かと疑問を持っているのですが、機能していますか。

## 10) 学生の厚生補導について

- 7) 地域連携の指導システムがさらに機能するために、高校や中学校の校長会との連携を積極的に進めて欲しい。

## 11) 学生の課外活動について

## 12) 学生寮の生活支援について

## 13) 教員の研究成果について

- 1) 紀要論文ではなく、学会誌の論文を増やすように努めてください。  
 2) 研究グループは、学科内だけでなく学科を越えて編成すると、より効果的だと思います。  
 4) 高専と言う必ずしも研究が主体ではない教育機関として、教員の成果はそれなりに評価できます。本学が語学に力を入れていることを考えると、将来専攻科の学生が日本で開催される国際会議で発表することも出てきます。その点を考慮すると、今後教員が少なくとも国内で開催される国際会議に参加して、研究発表する努力はして頂きたいと思います。  
 5) 教育・研究評価について次のような考え方が参考になれば幸いです。

## 1. 規定課題(全教員必須)

教育A(本科・専攻科)

研究A(口頭発表)

(教育Aに要求される研究水準の設定)

## 2. 自由課題(各教員は例えば、2項目を選ぶ)

教育B(シナジー効果、もの作り、…)

研究B(ジャーナルなど査読付論文を2～3年に1編)

地域社会との連携

クラブ活動

学生支援

……

## 14) 外部からの研究資金獲得について

- 3) 研究資金獲得については、努力の状況が見られます。また P159 の 3.2 の(1), (3), (4)は 非常に評価できます。競争意識を持たせるような方策が高専、大学で求められています。ただ科学研究費に対する申請件数はさらに増やす必要があります。  
 9) この障害を取り払う為に、「何でも相談会」的な出会いの場を何度も作ってみることも必要ではないでしょうか。  
 10) 研究活動を推進していくには外部資金獲得が不可欠である。特に高専が地域において存在感をさらに拡大していく為には地域産業と結びついた研究が必要である。地域企業が求めているニーズの把握と研究受け入れ窓口の整備並びにPRが必要である。  
 12) 若い先生方と企業の若い研究者との交流など、お互いの信頼関係を時間をかけてつくり上げる仕掛けも必要と思う。  
 13) 専攻科が出来たので、企業の持つ問題点を研究テーマとして取り上げることもできると思う。まずアピールすることから進めて頂きたい。

## 15) 地域社会との連携について

- 11) 地域の産業振興施策に対応した地域貢献をあらゆる場を使って積極的に地域に情報発信をしていただきたい。  
 16) 地域連携事業との関わり方について、高専としての方針あるいは戦略を持つ必要があると考える。

## 16) 施設・整備について

- 8) 図書館の市民への活用をもっと積極的にアピールできればよいと感じた。  
 9) 専攻科の設置に伴い、新しく建物の建設や設備を導入されていますが、歴史の積み重ねと共に、施設の老朽化が目立ちます。予算を見ても、施設整備費が十分とは言えないように思えます。

(出典：運営会議会議録)

平成17年度第15回教員会議議事要旨

(教員への周知事項6)

平成17年度第15回 教員会議議事要旨

日時 平成18年3月13日(月) 10時00分～15時15分(13:20～14:00 休憩)  
 場所 大会議室  
 欠席者 島村(内留)、大澤、松本、天野、三浦、梅澤

◎ 審議事項

教務委員会所管事項

(1) 平成17年度卒業認定

宮澤主事補から、卒業認定資料(資料1)の説明があり、各担任から学級概況等の説明があった後、機械工学科から順に学科ごとに審議し、次のとおり卒業を認定をした。

機械工学	33名	(・原級留置1名)
電気工学	41名	(・原級留置1名)
物質工学	37名	
物質環境工学	33名	
コミ情報	41名	
合計	185名	

(2) 平成17年度課程修了認定

宮澤主事補から、課程修了認定資料(資料2)の説明があり、リストアップされている担任等から学級概況等の説明があった後、機械工学科1年から順に学級ごとに審議し、次のとおり課程修了を認定をした。

1年機械工学	42名	(・原級留置1名、退学勸奨1名)
電気工学	42名	(・原級留置2名、退学勸奨1名)
物質工学	44名	
建設環境工学	41名	(・原級留置1名)
コミ情報	40名	
小計	209名	

\* 次の資料訂正があった。

・ 建設環境工学1年「No.4 遠藤」の記載中の特記事項欄の(1年次留年は削る。)

2年機械工学	36名	(・原級留置2名)
電気工学	38名	(・原級留置1名)
物質工学	41名	
建設環境工学	37名	
コミ情報	41名	
小計	193名	

\* 次の資料訂正があった。

・ 電気工学2年「No.20 根本」の微積分は60点とする。

3年機械工学	38名	(・原級留置3名)
電気工学	36名	(・原級留置2名)
物質工学	42名	(・原級留置3名、退学勸奨1名)
建設環境工学	37名	(・原級留置1名)
コミ情報	40名	
小計	193名	

4年機械工学	39名	(・原級留置3名、退学勸奨1名)
電気工学	40名	(・原級留置2名、退学勸奨1名)
物質工学	40名	(・原級留置1名)
建設環境工学	36名	(・原級留置2名)

平成17年度第15回教員会議議事要旨

(教員への周知事項6)

- 5 国際交流委員会所管事項  
平成18年度外国人留学生一覧及びチュータ  
大森委員長から、資料9に基づき、説明があった。  
・マレーシア留学生は、4/4に、いわきに到着する。(入学式には出られない)
- 6 参与会評価を受けての改善策  
佐東校長補佐から、資料(参与会が指摘した改善提案)に基づき、説明があった。  
・文科省が認めた資格試験による外部単位の認定に関して質問があり、佐東校長補佐が説明し、学生課長、事務部長が補足説明をした。
- 7 第45回入学式及び平成18年度編入学式並びに専攻か入学式実施要項  
庶務課長から、資料に基づき説明があった。
- 8 JABEE委員会所管事項  
青柳委員長から、資料12に基づき、第1回校内模擬審査実施要項について説明があった。  
・教員、技術職員は、2室以上を見学すること。  
・面接を受ける者には、持参するものについて連絡する。
- 9 その他
  - (1) 配付物：いわき民報記事「福島高専の挑戦No.17」  
佐東校長補佐から、配布説明があった。
  - (2) その他
    - ①菊地助手から、内地留学修了の挨拶があった。
    - ②石原助教授から、在外研究へ出向く挨拶があった。
    - ③大槻情報センター長から、新システムの説明会について案内があった。  
・3/24に説明会を実施する。詳細はメールで連絡する。
    - ④秋山学生主事から、平成18年度主事補に次の追加者が発表された。  
学生主事補 山田貴浩(電気工学科助手)  
柴田公彦(物質工学科助手)
    - ⑤庶務課長から、次について説明があった。  
・3/29に、いわき市との連携協力協定の締結を行う。  
・卒業式用リボンの配布説明  
・平成17年度国立高専教員顕彰の教員自己採点表が、会議室出口付近に配布用として準備されている。  
・本校教育功労者表彰の実施について説明
    - ⑥奈良教授、大隈教授、佐藤(恭)教授から退職の挨拶があった。

以上

- ◎ 会議終了直後に本年度の教育功労者表彰が行われ、次の4氏が受賞した。

受賞者 鈴木三男教授  
佐藤恭輔教授  
鈴木晴彦助教授  
原田正光助教授

以上

平成18年度第1回企画会議事要旨  
 (参与会提言に対する対応事項(1))

平成18年度(第1回)企画会議議事要旨

日 時 平成18年4月13日(木) 8:40～10:10

場 所 校長室

事項

- (1) 教員業績評価システムの構築に向けて  
 校長から、資料に基づき説明があり、事務部長から内容についての補足説明があった。(なお、意見等がある場合は、校長に申し出ることとした。)
- (2) 専攻科担当教員に関する要項(案)について  
 校長から、資料に基づき説明があり、事務部長から内容についての補足説明があった。  
 ・専攻科担当教員は、5年に1回、学位授与機構の評価を受けることになる。  
 (なお、意見等がある場合は、校長に申し出ることとした。)
- (3) 福島高専における代議員及び過半数代表者の選出に関する要項(案)  
 庶務課長から、資料に基づき説明があり、校長及び事務部長から内容についての補足説明があった。
- (4) 現代GP及び特別教育研究経費について  
 会計課長から、資料に基づき、申請書等を提出した旨の報告があった。  
 ① 平成18年度現代GPの申請(昨日提出し、文科省で受理された。)  
 ② 平成19年度特別教育研究経費概算要求等(機構本部に提出した。)
- (5) ホームページ(トップページ部)の見直しについて(広報委員会からの依頼事項)  
 庶務課長から、資料に基づき、見直しについて説明があった。広報委員会から原案を提案してもらうこととした。
- (6) いわき市との協定に基づく連絡調整会議について  
 庶務課長から、4/24開催の市との会議の進捗状況について説明があった。また、連絡調整会議の本校メンバーを確認した。
- (7) その他
  - 1) 平成17年度福島高専協力会奨学金受給者及び贈呈式  
 庶務課長から、資料に基づき説明があった。
  - 2) 伊藤地域環境テクノセンター長から、資料に基づき「地域環境テクノセンター」の組織・運営等について説明があった。また、高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業に応募した旨の報告があった。
  - 3) 庶務課長から、席上配布資料(各種委員会の議事録等の取扱について)に基づき説明があった。(運営会議にも議題提出することとした。)

以上

平成18年度第1回企画会資料  
 (参与会提言に対する対応事項(1))

教員業績評価システムの構築に向けて (H18. 4. 13企画会)

1. システムの概要

- 教育(学生指導を含む。), 研究, 地域貢献, 管理運営の各項目について行う。
- 上記各項目には, 規定部分と自由部分を設ける。
- 規定部分については, 顕彰要項(\*1)及びポイント制(\*2)に基づく評価項目を用いて行う(各評価項目の概要別紙参照)。
- 自由部分の評価項目は別に定める(別添例参照)。

2. 適用時期

18年4月1日から実施する。

3. 今後のスケジュール

18年4月13日(木) 企画会(審議)  
 ~ 企画会(審議)  
 18年5月 9日(火) 運営会議(審議)  
 18年5月30日(火) 運営会議(審議・決定)  
 18年6月 7日(水) 教員会議(報告)

\*1: 顕彰要項とは, 「高専教員顕彰実施要項」に基づく表彰を指す(注: 16年度及び17年度実施)。

\*2: ポイント制とは, 「校長裁量経費(ポイント制)の配分方法及び審査・基準・評価方法等について」に基づく競争的研究費の配分を指す(注: 15年度, 16年度及び17年度実施)。

(出典: 企画会会議録)

平成18年度第1回運営会議議事録  
 (参与会提言に対する対応事項(1))

平成18年度第1回運営会議議事録

日 時 平成18年4月18日(火) 17:10~19:00  
 場 所 小会議室  
 事 項

- (1) 教員業績評価システムの構築に向けて  
 校長から、資料1に基づき、内容の説明があった。  
 協議の結果、この内容の方向で進めていくこととするが、自由部門での意見があれば申し出ることとした。  
 なお、1ページの「1. システムの概要」の一行目を次のように改めることとした。  
 「○ 教育、研究、地域貢献、管理運営、学生指導の各項目について行う。」
- (2) 専攻科担当教員に関する要項(案)について  
 校長から、資料2に基づき、内容の説明があった。  
 協議の結果、研究業績には特許を加えることとし、また、「第3-1 教育業績」については、校長が文面を検討し、修正することとした。
- (3) 新教育課程編成ワーキンググループの発足について  
 渡辺教務主事から、資料3に基づき、報告があった。  
 なお、資格試験の特別学修については、本年度も文科省が認める学修を単位として認めることを確認した。
- (4) 福島高专における代議員及び過半数代表者の選出に関する要項(案)  
 庶務課長から、資料4に基づき、説明があり、事務部長から内容についての補足説明があった。  
 要項(案)については、別表第1の組織欄に専攻科を加えることとし、教職員にこの案を示し、意見を求めてから制定することとする。
- (5) 科学研究費補助金について  
 会計課長から、科学研究費補助金について報告及び説明があった。  
 1) 科学研究費に新たな種目が設けられた。(3月中に各学科に案内をしている。なお、応募は5月10日までとなっている。)  
 2) 18年度若手研究Bに三浦、柴田、島袋が内定となった。  
 3) 資料6に基づき、科学研究費補助金の不正使用の防止について説明があった。
- (6) 現代GP及び特別研究費について  
 会計課長から、資料6に基づき、報告があった。  
 (現代GP及び特別研究費要求書を提出した旨の報告)
- (7) 18年度の取組目標(事務部)  
 事務部長から、資料7に基づき、説明があった。  
 ・19年3月の運営会議で達成について報告する。
- (8) 各種委員会の議事録等の取扱について(お願い)  
 庶務課長から、資料8に基づき、内容の説明があった。
- (9) その他  
 1) 「教員総覧2006」の作成について

平成18年度第1回運営会議議資料

## 資料 1

### 教員業績評価システムの構築に向けて (H18.4.18運営会議)

#### 1. システムの概要

- 教育（学生指導を含む。）、研究、地域貢献、管理運営の各項目について行う。
- 上記各項目には、規定部分と自由部分を設ける。
- 規定部分については、顕彰要項（\*1）及びポイント制（\*2）に基づく評価項目を用いて行う（各評価項目の概要別紙参照）。
- 自由部分の評価項目は別に定める（別添例参照）。

#### 2. 適用時期

18年4月1日から実施する。

#### 3. 今後のスケジュール

18年4月13日（木）	企画会（審議）
～	企画会（審議）
18年5月9日（火）	運営会議（審議）
18年5月30日（火）	運営会議（審議）
18年6月7日（水）	教員会議（報告）

\*1：顕彰要項とは、「高専教員顕彰実施要項」に基づく表彰を指す（注：16年度及び17年度実施）。

\*2：ポイント制とは、「校長裁量経費（ポイント制）の配分方法及び審査・基準・評価方法等について」に基づく競争的研究費の配分を指す（注：15年度、16年度及び17年度実施）。

（出典：運営会議会議録）



平成18年度第4回運営会議議事録  
(提言に対する対応改善案の決定)

平成18年度第4回運営会議議事録

日	時	平成18年6月7日(水) 15:45~15:55
場	所	小会議室
欠	席	根岸
特	別	早坂財務係長
出	席	
事	項	

審議事項  
 (1) 平成18年度予算配分計画書(案)  
 会計課長から、資料2に基づき、配分計画について説明があり、提案どおり丁承された。  
 (2) 事務部組織及び事務分掌規則の一部改正(案)について  
 事務部長から、資料3に基づき、一部改正内容の説明があり、丁承された。

報告事項  
 (1) 教員業績評価システムについて  
 校長から、前回の提案について特に意見等の申し出がなかったため、教員業績評価システムは資料1のとおり決定した旨の報告があった。

以上

平成18年度第4回運営会議資料

資料Ⅰ

評価法改訂の要約

教員の業績評価については、参与会で得た意見を参考にして、規定部分と自由部分を設け、評価に弾力性をもたせる。規定部分は、概ね、高等教育、学生指導、研究、学校運営、地域貢献などへの高専の教員に期待される通常の貢献を表す。自由部分においては、福島高専が今後ますます個性化、活性化、教育・研究のさらなる高度化をしてゆくために、これらへの特別な貢献を重点的に評価するものとする。

規定部分においては従来から本校で行われている高専機構の提案による顕彰評価(教育と学生指導)とポイント制による評価(教育、学生指導、研究、地域貢献、学校運営、その他)を踏襲し、それぞれを60点、100点満点とする。

したがって規定部分は合計160点となる。自由部分の配点は60点(60点以上も可)を目安とするとし、評価全体は220点となる。評価全体の中で規定部分はおおよそ70%自由部分は30%となっているが、試行の結果を経て、この割合及び配点は進化させてゆくものとする。

平成18年6月6日

校長 安久正敏

## 平成18年度第4回運営会議資料

## 福島工業高等専門学校における教員業績評価システムについて

(平成18年6月6日校長裁定)

## 1. 評価システムの目的

各国立高等専門学校は独立行政法人国立高等専門学校機構として再出発をし、本校も同機構に所属する一つの学校として新たなスタートを切った。

今後、機構は総務省政策評価・独立行政法人評価委員会の評価を受けることとなり、各高専は第三者機関による認証評価に加えて自主的に日本技術者教育認定機構（JABEE）を受審することとなる。

特に認証評価やJABEE受審は、いずれも高等教育機関としての質の保障と向上を図るとともに、社会に対する説明責任（アカウンタビリティ）を果たすためのものであり、これらの評価や受審を通じて教育・学生指導・研究・社会貢献等でそれぞれ活性化が図られ、各高専の質の向上にいかんにか資せられているかが最大のポイントとなる。

そこで、本校では、常に自らの教育・学生指導・研究・地域貢献等を自己点検・評価するシステムを完備し、その結果を個々の教員にフィードバックすることによって個々の教員の教育・学生指導・研究・地域貢献等を活性化させ、同時に組織として活力向上のためにいかなる戦略を構築し、そのフィードバックサイクルの結果として、本校全体の質の向上を図っているかが重要であり、その具体的な検証が求められる。

以上のことを背景として、本校が実施する教員業績評価の主たる目的は、以下のようになる。

- ① 第三者評価に耐えうる評価システムとして、透明性が高く、レベルの明確な評価尺度を持ち、自己改善の経緯が第三者にも理解できるようなシステムを構築し、社会に対する説明責任を果たすこと。
- ② 個々の教員にとっては、本校の教育理念の実現に向けた事項との関連で、自己目標の達成度を常に把握できるシステムとし、フィードバックの結果が自己改善につながられるシステムとすること。
- ③ 評価結果は、個々の教員に通知するばかりでなく、本校全体の戦略目標の設定、及びその修正に役立つシステムとすること。

## 2. これまでの評価等システム

本校における教員評価は、校長裁量経費の配分を主目的として平成15年8月1日制定の「校長裁量経費（ポイント制）の配分方法及び審査・基準・評価方法等について」（以下「旧ポイント制」と略記）が実施されており、また機構による評価としては、教員の顕彰を主眼とした「国立高等専門学校教員顕彰実施要項」（以下

## 平成18年度第4回運営会議資料

「顕彰要項」と略記)が平成16年度から行われている。

旧ポイント制に基づく評価は、①教育、②学生指導、③研究、④地域貢献、⑤管理運営の各項目に分かれ、当該教員の自己申告・採点を下にその貢献度係数として各々35点、20点、20点、15点、10点の合計100点を満点としている。顕彰要項は、①教員の自己申請書の内容40点、②当該教員の教育業績自己採点20点、③教員の相互評価結果20点、④学生の投票結果20点の合計点は100点である。

一方、平成17年10月27日及び28日の両日に亘って実施された福島工業高等専門学校第1回参加会(外部評価)(以下「参加会」と略記)において、白鳥則郎委員(東北大学電気通信研究所教授)から「例えば、規定部分と自由部分をトータルしての評価を考えては」との意見もいただいている。

これら旧ポイント制による評価に基づく経費配分及び顕彰要項に基づく顕彰は、当然ながらその制定趣旨を異にしており並列的に同時対処することは十分可能である。しかしながら、旧ポイント制と顕彰要項では特に、教育、学生指導、管理運営及び社会貢献の各項目では一部重複した事項、あるいは互いに補完しあつた方がよりよい事項がないわけではない。また旧ポイント制による経費配分にあつては、教員の相互評価あるいは学生による授業等評価が加味されていないなど、今後の検討課題とされるものもある。

### 3. 新たな評価の項目と評価の基準等

#### (1) 評価の基本的視点

高等専門学校を含む高等教育機関は、第三者機関も積極的に活用しながら自らの存在意義及び役割を検証すべき時代に至った。そのためには、自主的・自律的な機関(高専)評価を不断に行い、その自己評価結果に基づいて、自己改革に努めていくことが前提となる。その趣旨からして、本来自己評価は、高等教育機関にふさわしい高専像を自主的に確立するためのものであり、組織レベルでなされるべきものである。しかしながら、同時に高専の組織は、個々の教員の集合体でもあり、個々の教員の教育・研究等活動の評価抜きではその全体像を正確に把握することはできない。そのため教員評価の基本的視点として、各教員の諸活動に対する評価項目と、その評価基準を設定し、これに基づき個々の教員評価を実施することとする。

一方、教員評価の具体の検討に際しては、前述のとおり本校が平成15年度から実施している旧ポイント制、機構本部が平成16年度から行っている顕彰要項、及び参加会での意見等を踏まえた形で評価項目、評価基準を設定し教員評価を行う評価システムを構築することが現実的である。

#### (2) 評価システムの形態

平成19年度教育業績評価システム調査表

平成19年度 教育業績評価システム調査表(規定部分:ポイント制に基づく評価) 別紙2					
(学科名)		コード欄 □□□ (氏名)		コード欄 □□□	
事項	点数	記入欄	素点	評価点	配分点
<b>(A) 教育(貢献度配分係数35)</b>					
★①担当単位数(専攻科を含む)	6・5・4				
★②補習授業の実施(遅進学生・大学編入学)	5				
③顕著な教育成果	6				
④独自の教材等の開発(工夫状況)「資料添付」	6				
⑤教育方法の改善	5				
★⑥教育研修会等への参加	3				
★⑦公開授業等の実施・評価及び参加	3				
⑧企業訪問	5				
⑨卒業生への就職・進学支援	3				
⑩インターンシップ参加奨励	5				
★⑪教育活動の表彰	3				
⑫留学生への支援	3				
★⑬在学生の海外研修・留学支援	3				
★⑭学内表彰・大臣表彰	6・10				
計14項目	62				
<b>(B) 学生指導(貢献度配分係数20)</b>					
①違法行為指導(飲酒、喫煙、ギャンブル)	3・2・1				
②車両指導(車両通学・違法駐車・道交法)	3・2・1				
③容儀指導(頭髪・ピアス・制服・履物等)	3・2・1				
④マナー・礼儀指導	3・2・1				
(携帯電話、公衆道徳、言葉遣い、挨拶)					
⑤ボランティア活動支援	2・1				
⑥遅刻・欠席・欠課指導	2・1				
⑦掃除指導	2・1				
⑧アルバイト指導	2・1				
⑨クラス運営指導	2・1				
⑩クラブ・愛好会指導	3・2・1				
⑪試合・大会・コンテスト成果	3・2・1				
★⑫協会・連盟等の役員	2・1				
⑬合宿指導	2・1				
⑭寮当直指導	3・2・1				
⑮寮行事指導	2・1				
★⑯学生相談室担当	3				
⑰セグヤルハラスメント担当・スクールセキリティー活動	2				
計17項目	42				
<b>(C) 研究(貢献度配分係数20)</b>					
★①学位の取得	5				
★②技術士の資格取得	5				
★③著作権の有無	3				
★④特許権の有無	3				
★⑤著作・論文(査読付)の発表	3・2・1				
(筆頭著者又は責任者、共著、翻訳)					
★⑥紀要・その他月刊誌への掲載	2・1				
(筆頭著者又は責任者、共著、翻訳)					
★⑦学会・研究会・セミナー等への参画	2				
★⑧学会発表(国際学会、国内学会)	3・2				
★⑨学会・研究会等の役員	3				
★⑩学会賞等の受賞	3				
★⑪科学研究費の申請・採択	3・2・1				
★⑫寄附金・委任経理金の有無	3				
★⑬その他外部資金の獲得	3				
★⑭共同研究の取組(外国含む)	3				
★⑮受託研究の取組	3				
★⑯プロジェクト研究分担	3				
計16項目	50				
<b>(D) 地域貢献(貢献度配分係数15)</b>					
★①出前授業の担当	3				
②学校開放の支援	3				
★③公開講座の担当	3				
④生涯学習のための参画、指導	3				
⑤企業・民間団体等への支援	3				
⑥産官学連携事業への参画	3				
★⑦技術相談担当	3				
⑧ボランティア活動	3				
⑨社会活動への参画、指導	3				
計9項目	27				
<b>(E) 管理運営(貢献度配分係数10)</b>					
★①3委員会委員に該当(各員)	3				
★②役職該当	3				
(3主事、校長補佐、専攻科長、学科長、センター長、主事補、担任)					
★③役職該当(本年度の主事補)	3				
★④管理運営への参画	3				
(3主事、校長補佐、専攻科長、学科長)					
⑤メディアによる本校PR活動等	5				
⑥本校の広報活動	3				
★⑦委員会等への自薦参加	3				
計7項目	23				
合計5事項・63項目・(貢献度配分係数100)	204				

注1)原則として、過去2年間を対象とする。ただし★の付してある項目については、過去1年間を対象とする。  
 注2)コード欄には、記入しないで下さい。



(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部機関等の有識者による外部評価委員会（参与会）を設置し、平成12年度と平成17年度に外部評価を実施しており、その評価結果については外部評価報告書として公表されている。外部からの意見・提言等については、積極的にその意見等を取り入れ、学校運営に反映させてきた。学内組織「点検及び評価検討委員会」を通してフィードバックさせる体制が機能し、具体例で示したとおり適切に管理運営に反映されている。

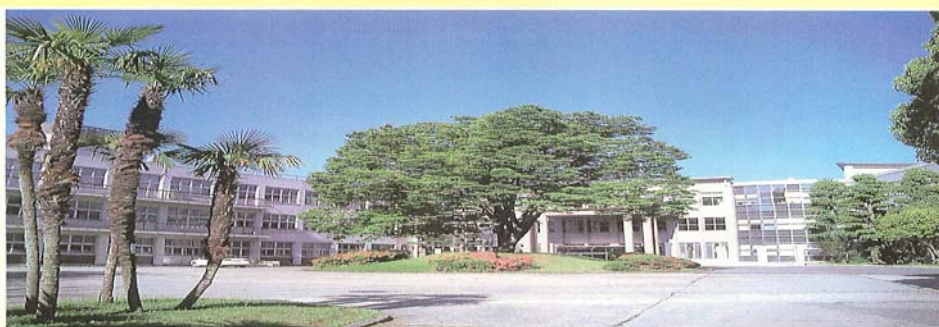
**観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、平成5年に福島工業高等専門学校点検及び評価に関する規則を制定して点検及び評価に関する検討委員会を設置し、平成8年度に初めて自己点検・評価を実施した。その後、平成12年度、平成17年度に自己点検・評価を実施し（資料11-3-①-1）、外部有識者による外部評価（参与会）を受けてきた。実施状況については、評価結果をその都度報告書にまとめて公表してきている（資料11-3-①-2）。また、平成18年10月には第三者評価として「JABEE審査」を受審し、平成19年6月に認定を受けたところである（資料11-3-①-3）。本校では、平成16年度に専攻科が設置され、教育と研究の領域が大学の学部水準に準ずるまで拡大し、学生及び教員の成果は地域からも期待されていることから、本校の中期計画に沿った教育・研究水準の向上と社会への説明責任を継続的に果たすため、今後とも、定期的に「自己点検・評価」と「外部評価」を実施し公表していくこととしている。

平成12年度～平成17年度における「自己点検・評価」報告書（平成17年8月）

## 平成12年度～17年度における 「自己点検・評価」報告書



平成17年8月  
国立福島工業高等専門学校

### 福島工業高等専門学校 平成12年度～17年度における「自己点検・評価」報告書

#### はじめに

福島高専は昭和37年に設置されて以来、40年有余にわたり有為な人材を社会に送り続けてきた。全国の55高専が平成16年4月に独立行政法人化され、国立高専機構が設置された。福島高専もこの機構に所属する一校として新たに出発している。全国の高専はそれぞれ個性化、活性化、さらなる教育研究の高度化を目指し、一斉にスタートラインに立った。福島高専も法人化されると同時に今後5年間の中期計画を発表し、この遂行に教職員一同力を合わせ邁進しているところである。ここでは、早期創造性教育も視野に入れたモノづくり実践教育による人材育成、地域の企業や行政との共同研究や受託研究など産官学連携による研究貢献、生涯学習、小中学校支援など本校の教育力を十分に発揮した地域への教育貢献など、福島高専の地域における存在をより強固で確かなものにしていくことを目指している。

法人化と同時に本校の念願であった専攻科の設置が実現した。専攻科の構成は3専攻で、機械・電気システム工学専攻（定員8名）、物質・環境システム工学専攻（定員8名）、ビジネスコミュニケーション学専攻（定員4名）で、工学系の2専攻の他に全高専で初めてのビジネス系専攻が誕生した。法人化並びに専攻科の誕生を受け、また社会への説明責任と自己の質的向上を継続的に果たすために、今年度は自己点検評価を基に参与会による外部評価を、平成18年度には日本技術者教育認定機構によるJABEE審査を、平成19年度には学位授与機構による認証評価を受審することを決定している。これらの評価において、よい結果が得られるよう教職員一同努力しているところである。評価結果は公表し、本校の社会に対する透明性を高めると共に、評価結果を真摯に受け止め、次の中期計画の立案に向け、福島高専のさらなる発展の礎石にしてゆきたいと考えている次第である。

本報告書は平成8年および平成12年に実施した「自己点検・評価」後の経過について、平成12年度から現在までの「自己点検・評価」を行ったものである。

平成17年8月  
校長 安久正 欸

福島工業高等専門学校 平成12年度～17年度における「自己点検・評価」報告書

はじめに	
外部機関による今後の評価	1
Ⅰ 教育理念、学習・教育目標、養成する人材像	5
1. 教育理念	5
2. 学習・教育目標	5
3. 養成する人材像	5
Ⅱ 教育に関する評価	7
1. 教育組織、教育実施体制	7
1.1 組織機構	7
1.2 教職員の定員(定数)・現員の推移	11
1.3 年間行事予定	11
1.4 校務分掌と学級担任	13
2. 教員および教育体制	16
2.1 教員の配置	16
2.2 教員の採用	16
2.3 教育活動に関する評価システム	18
2.4 教育支援者	20
3. 学生の受入体制	21
3.1 本科課程	21
(1)アドミッション・ポリシー	21
(2)入学者選抜	22
(3)入学者対策活動	22
(4)その他(留学生・転入学生)	26
3.2 専攻科課程	27
(1)アドミッション・ポリシー	27
(2)入学者選抜	27
4. 教育内容および方法	29
4.1 教育課程	29
(1)本科課程	29
(2)専攻科課程	43
4.2 シラバス	48
4.3 特徴ある教育	50
(1)本科・専攻科課程	50
1)シナジー教育	50
2)創造性教育(PBL教育)	50



目次

.....	
3)倫理教育 .....	50
4)英語教育 .....	51
5)インターンシップ .....	51
6)他の高等教育機関との単位互換 .....	52
(2)本科課程 .....	54
1)モノづくり教育 .....	54
2)ミニ研究 .....	56
3)セミナー .....	57
4)卒業研究 .....	59
5)進路別教育 .....	60
6)その他 .....	61
①特別学修・資格支援 .....	61
②e-ラーニング .....	62
③学科内統一テスト等 .....	63
④その他 .....	64
(3)専攻科課程 .....	65
1)技術経営 (MOT) 教育 .....	65
2)特別セミナー .....	65
3)特別研究 .....	65
4)その他 .....	65
5. 教育の成果 .....	67
5.1 成績評価等 .....	67
(1)本科課程 .....	67
1)成績評価 .....	67
2)単位認定 .....	67
3)進級・卒業認定 .....	67
(2)専攻科課程 .....	72
1)成績評価 .....	72
2)単位認定 .....	72
3)進級・卒業認定 .....	72
5.2 卒業研究・特別研究 .....	74
5.3 資格取得状況 .....	79
5.4 各種受賞 .....	80
5.5 進路状況 .....	82
6. 教育の質の向上および改善のためのシステム .....	87
6.1 学生による評価 .....	87
6.2 卒業生・企業等による評価 .....	97



目次

・ IV 地域社会との連携	167
1. 産官学の連携事業	167
2. 学校の開放事業・公開講座	171
3. 教員の学外活動	176
4. 広報に関する事業	177
5. 福島高専協定会	179
V 施設・設備・財務に関する評価	180
1. 施設・設備	180
1.1 学内施設・設備整備状況	180
1.2 図書館・視聴覚室	184
1.3 情報処理教育センター	185
1.4 環境科学教育研究センター	186
1.5 地域交流センター	187
1.6 体育施設	187
2. 財務	188
2.1 財務基盤	188
2.2 財務計画	189
2.3 会計監査	191
VI 管理運営に関する評価	192
1. 管理・運営の組織	192
1.1 企画会	192
1.2 運営会議	192
1.3 教員・専攻科会議・各種委員会	192
2. 点検評価システム	193
2.1 自己点検・評価	193
2.2 外部評価	193
福島工業高等専門学校「自己点検・評価」委員名簿	198
あとがき	199

資料11-3-①-2

「自己点検・評価」報告書（平成17年8月作成）配布先等一覧

配 付 先	部 数
文部科学省（高等教育局専門教育課）	5
国立高等専門学校機構（総務課）	5
高等専門学校（国立、公立、私立高専）	62
外部評価用（参与会委員）	18
国立国会図書館（国内資料課）	5
大学（近隣国公立大学、私立大学）	8
学内配付（教職員）	120
保存用（本校図書館）	2
予備（事務資料用、来訪者用、次回作成資料用）	75
合 計	300

「参与会報告書」（平成18年1月作成）配布先等一覧

配 付 先	部 数
文部科学省（高等教育局専門教育課）	5
国立高等専門学校機構（総務課）	5
大学・学位授与機構	1
高等専門学校（国立、公立、私立高専）	62
大学（近隣国公立大学、私立大学）	7
参与会委員	9
国立国会図書館（国内資料課）	5
学内配付（教職員）	130
保存用（本校図書館）	2
予備（事務資料、来訪者用、次回作成資料用）	74
合 計	300

（注）「自己点検・評価」報告書、「参与会報告書」は、  
本校ホームページ（URL <http://www.fukushima-nct.ac.jp>）に掲載済

（出典：総務課資料）

JABEE審査認定証



(分析結果とその根拠理由)

本校では、平成8年度、平成12年度、平成17年度に「自己点検・評価」を実施しているが、その都度点検及び評価に関する検討委員会において評価項目や実施方法等を検討し、総合的に自己点検・評価を行えるようにシステムが構築されている。実施内容についても「自己点検・評価報告書」、「外部評価報告書」として作成されており、外部に公表されている。

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校では、点検及び評価に関する検討委員会が実施する「自己点検・評価」及び外部有識者が実施する「外部評価（参加会）」の評価結果、後援会総会、協力会総会、保護者との懇談会や学級委員長（学生）との懇談会等での意見・提言等についても学内の会議等で報告し（資料11-3-②-1）、関係組織にフィードバックさせ、改善が必要な場合は改善策を検討し具体化を図ることができるシステムとして「福島高専の内部改善システム」が構築されており（資料11-3-②-2）、いわゆるPDCAサイクルが実行されている。その具体例としては、観点11-2-①で記述したように、参加会（外部評価）の評価結果（教員業績評価システムに対する提言等）について、点検及び評価に関する検討委員会から企画会、運営会議、教員会議等へ報告がなされ、関係組織にフィードバックされて、具体的改善策を検討し改善を図っている（資料11-2-①-3～8）。また、学生の意見等を学校運営に反映させるため、学級委員長との懇談会を開催して意見交換を行い、その意見や提案等を関係組織で検討し改善を図っている。これらの結果報告は、教員会議で行われ、教員へ周知されるとともに、各教室にも資料を配付・掲示して学生に周知されている（資料11-3-②-3）。

平成17年度第8回運営会議議事要旨

(事項(6)の③)

平成17年度第8回運営会議議事要旨

日 時 平成17年9月28日(火) 10:00～12:15  
場 所 校長室  
事 項

- (1) 平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定結果(通知)について  
校長から、配付資料に基づき、報告があった。
- (2) 「技術室」の組織見直しについて  
事務部長から、資料に基づき説明がなされ、10月からの試行期間中に技術室運営委員会で検討し、答申することとした。
- (3) 平成17年度「教育活動支援経費」の配分  
校長から、配分について資料より報告があった。また、事務部長から学科により申告に差があることから、学科間の調整をした旨の説明があった。
- (4) 福島高専における単位計算方法の見直しについて(案)  
渡辺教務主事から、資料に基づき、高専設置基準の改正及び本校のカリキュラムの編成等について説明があった。
- (5) 学内規則の一部改正について  
事務部長から、安全衛生委員会、会計関係規則の一部改正等について資料に基づき説明がなされ、了承された。  
・外国人留学生規則第11条(見出しも)は、現行どおりとし、「第11条」を「第8条」と改めることとした。
- (6) その他
  - ① 学生委員会所管事項  
秋山主事から、資料に基づき、教員会議(7/27)における警察情報の取り扱いに関する学生委員会再審議の結果事項ごとに説明があり、別紙の本年度の指導方針について了解した。  
また、資料に基づき交通事故者、免許取得違反者、車両通学違反者についての指導報告があった。
  - ② 寮務委員会所管事項  
山野主事補から、「帰省等による外泊許可願」様式の一部変更について説明があった。
  - ③ 佐東校長補佐から、「自己点検・評価」報告書ができあがり、配布説明があった。また、「添付資料」、「学生・教職員の活躍集(新聞掲載記事)」の作成について見本により紹介があった。  
・10/4(火)に臨時運営会議を開催し、参与会説明者の予行演習をパワーポイントを使用して行うこととした。

以上

平成17年度第7回教員会議議事要旨

(事項9の②)

平成17年度第7回 教員会議議事要旨

日時 平成17年9月28日(水) 13時30分～16時20分

場所 大会議室  
欠席者 渡部(順)(脚)、庶務課長(脚)、菊地(剛輝)、山田(燃謙)、大隈(健  
蔵)、押手(脚)、松尾、高野、島村、川崎、酒巻、松本、島袋、青  
木

◎ 審議事項

入学試験委員会所管事項

試験及び成績評価に関する規則の一部改正

渡辺主事から、資料1に基づき、説明がなされ、原案どおり了承された。

・平成17年4月1日適用とする。

◎ 報告事項

1 「技術室」の組織見直し

事務部長から、資料2に基づき概要説明があり、実施については今後、技術室運

営委員会で検討する旨の説明があった。

2 教務委員会所管事項

(1) 学生の異動

渡辺主事から、資料3に基づき退学者、休学者の報告があった。

続いて、森田(4建)・宮澤(1機)・山ノ内(5建)学級担任から補足説明

があった。

(2) 前期成績一覧表

宮澤主事補から、資料4の説明があった後、成績を学年ごとに見ていき、宮

澤(1機)・齋藤(3建)・内山(3コ)学級担任からコメントがあった。

また、4年電気一覧表(p36)が差し替えられた。

・宮澤主事補から、通知表の担任所見の記入等について連絡があった。

・渡辺主事から、再試験受験者については、10/3(月)9時に掲示する連絡が

あった。

(3) 後期始め行事予定

原田主事補から、資料5に基づき説明があった。

・10/5基礎学力標準試験の場所は、教務委員会で調整することとした。

(4) 秋季学級懇談会

原田主事補から、資料6に基づき説明があった。

(5) 特許検索講習会実施要項

渡辺主事から、資料7に基づき説明があった。

(6) 高専の単位計算方法の見直しについて

渡辺主事から、資料8に基づき説明があった。更に、校長から各学科で議論

してほしい旨のコメントがあった。

(7) その他

① 渡辺主事から、次の連絡があった。

・本日17時に教室を閉鎖する。

・9/29の集会では、学生に制服を義務づけない。

3 学生委員会所管事項

(1) 学生の生活指導

初めに、秋山主事から、7/27教員会議における「定期試験に係る場合の学生指

導に在り方等」について「委員会審議結果」が報告され、本年度の指導方針が説明

され、了解された。(警察情報に限る指導方針は、前回のとおりとする。)

続いて、同主事から資料9に基づき生活指導等をした下記学生の指導処置につ

いての報告があった。

5機・ . . . (運転免許取得違反) 3日間自宅謹慎

5電・ . . . (車両通学違反) 3日間自宅謹慎

ME専攻1年・ . . . (交通事故) 12日間自宅謹慎

ビジ専攻1年・ . . . (深夜徘徊) 2日間自宅謹慎

4物・ . . . (深夜徘徊) 2日間自宅謹慎

4建・ . . . (深夜徘徊) 2日間自宅謹慎



平成17年度第7回教員会議議事要旨

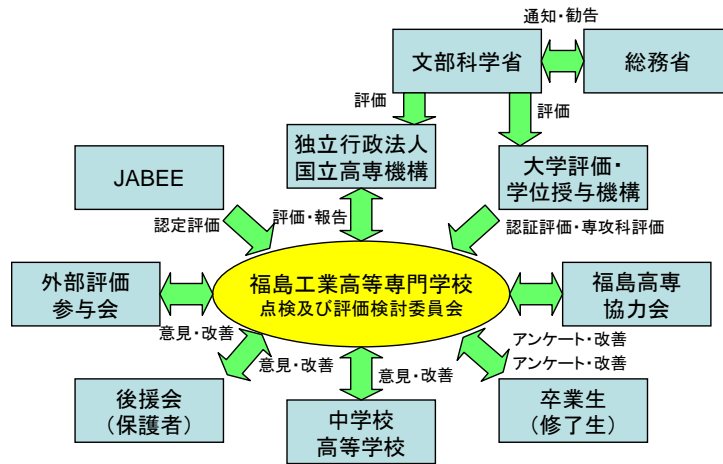
(事項9の②)

- 4 建 ……(深夜徘徊) 2日間自宅謹慎
- 4 建 ……(深夜徘徊) 2日間自宅謹慎
- (2) 交通関係
  - 秋山主事から、資料9・10に基づき、車両通学許可者、運転免許取得者等の報告があった。
- (3) 学生会関係
  - 鈴木主事補から、高専祭の準備状況について報告があった。
- (4) 体育関係
  - 木原主事補から、次について説明があった。
  - ① 9/28に夏期合宿が終了した。
  - ② 体育賞受賞者(資料11)
  - ③ 校内体育大会(添付資料)
  - ④ 東北地区高専ラグビー大会の学生補助員
- (5) 平成17年度特別表彰
  - 鈴木主事補から、資料12により説明があり、表彰は集会時に行うこととした。
- (6) その他
  - 秋山主事から、夏季休業中に次について指導した報告があった。
  - ・ 茶髪のある学生
  - ・ 図書館廻りに自動車を駐車した学生(専攻科生)
- 4 寮務委員会所管事項
  - (1) 寮生の生活指導
    - 山野主事から、本日から後期宿直が始まること及び帰省等における外泊許可願の様式の一部を変更したことについて説明があった。
- 5 FD委員会所管事項
  - (1) 授業改善計画書
    - 山ノ内委員長から、資料13に基づき説明があった。
  - (2) 相互受儀容参観・FD研修会
    - 山ノ内委員長から、資料14に基づき説明があった。
- 6 JABEE委員会所管事項
  - JABEEの進捗状況
    - 青柳委員長から、進捗状況の説明があり、次について説明等があった。
    - ・ 次回に受審スケジュールを提出する。
    - ・ エビデンスについて再確認の意味で説明をした。
- 7 TOEIC委員会
  - 平成17年度第2回TOEIC-IPテスト実施要項
    - 西山委員長から、資料15に基づき説明があった。
- 8 平成17年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修会
  - 笠井教員から、資料11に基づき報告があった。続いて、齋藤教員から参加した感想等が述べられた。
- 9 その他
  - ① 配布物：いわき民報記事「福島高専の挑戦No.11」
    - 佐東校長補佐から、掲載説明等があった。
  - ② 佐東校長補佐から、「自己点検・評価」報告書の配布説明があった。
  - また、参与会日程、参与について説明があり、10/19教員会議で説明者が発表予定を行う連絡がなされた。
  - ③ 佐東校長補佐から、高専ロボコン大会の課題及び本校参加ロボットの製作の進捗状況等について報告があった。

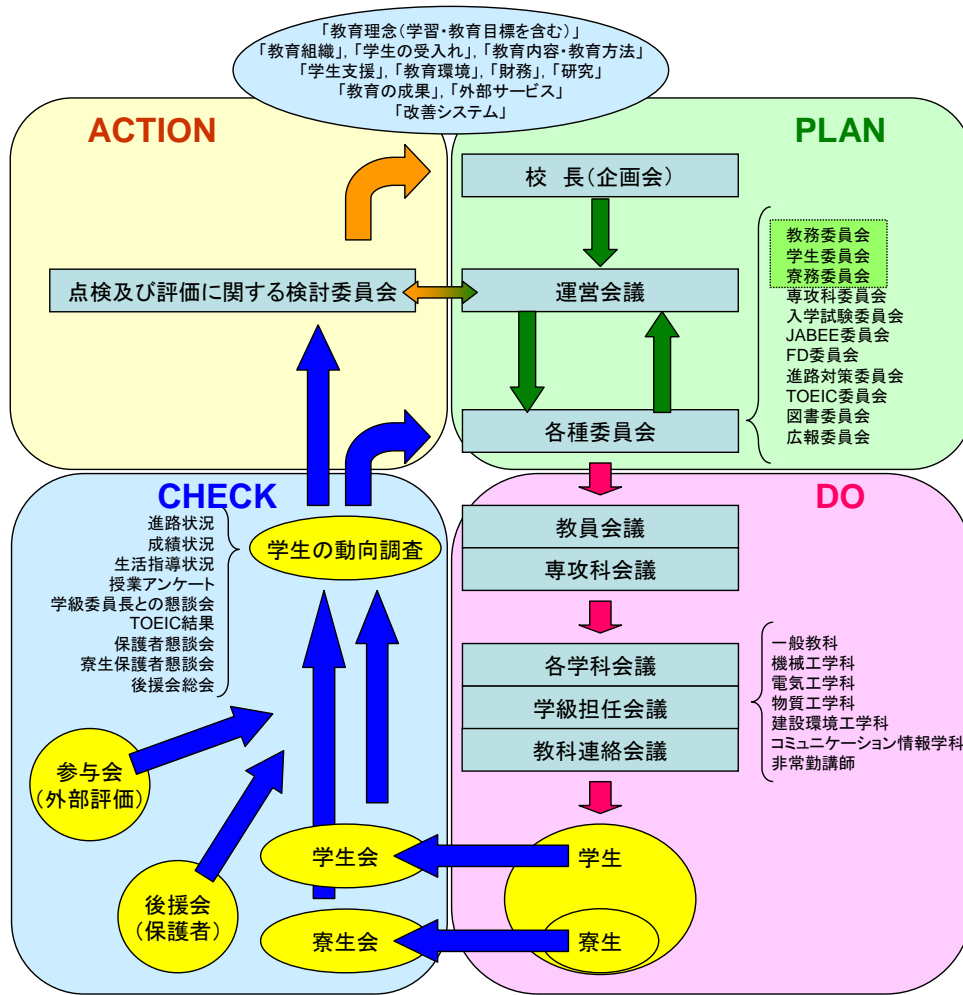
以上

福島工業高等専門学校改善システム

資料11-3-②-2



福島高専の外部改善システム



福島高専の内部改善システム

(出典：JABEE点検書)

平成17年度第5回教員会議議事要旨

( ◎報告事項 (2) )

平成17年度第5回 教員会議議事要旨

日時 平成17年6月29日(水) 15時15分～17時40分  
 場所 大会議室  
 欠席者 渡部(順) (調)、濱崎、鈴木(茂)、菊地(剛輝)、伊藤淳、三浦  
 遅刻者 鈴木(三)  
 途中退席 会計課長

【議事概要】

審議の前に、事務部長から、渡辺会計課長が7月1日付け人事異動で、徳島大学の研究協力課長に転出される紹介があり、同課長から挨拶があった。

◎ 報告事項

1 教務委員会所管事項

- (1) 平成15年度再試験結果  
 渡辺主事から、資料1に基づき合否結果の報告があり、宮澤前担任から補足説明があった。
- (2) 学級委員長との懇談会結果  
 原田主事補から、資料2に基づき報告があった。
- (3) 夏季休業前後の行事  
 原田主事補から、資料3に基づき報告があった。
- (4) 平成17年度4年生校外実習事前指導会  
 原田主事補から、資料4に基づき報告があった。
- (5) その他  
 渡辺主事から、次について報告等があった。
  - ① 前期中間試験(6/14)において、5年建設の学生1名について、携帯電話不適切使用と判断し、定期試験における不正行為とした。
  - ② 特別活動の年間計画表を7/22までに教務係に提出するよう学級担任に連絡がなされた。

2 学生委員会所管事項

- (1) 学生の生活指導  
 森田主事補から、資料5に基づき、生活指導をした学生についての顛末報告があり、続いて、秋山主事から指導処置について報告があった。
 

1 建・	・・・ (喫煙) 無期自宅謹慎 (3週間目途)
5 建・	・・・ (定期試験の不正行為) 無期自宅謹慎 (2週間目途)
3 電・	・・・ (パソコンの不適切使用) 指導訓告
- (2) 交通関係  
 押手主事補から、資料6に基づき、自転車による交通事故等の報告があった。
- (3) 学生会関係  
 鈴木主事補から、資料7に基づき、高専祭委員会役員名簿及び高専祭の統一テーマを募集する旨の説明があった。また、東北地区高専体育大会のポスターの配布等について報告があった。
- (4) 体育関係 (第42回東北地区高専体育大会参加者一覧)  
 木原主事補から、資料8に基づき、説明があった。
- (5) 秋山主事から、次について報告等があった。
  - ① 6/20 いわき中央署暴走族根絶設立大会に出席した。この中で、警察署長から各校に、最近、女子生徒・学生が襲われる事件が多発しているため、各校長名で保護者に文書で通知してほしい旨の依頼があり、本校では学級担任を経由して保護者に連絡する対応をした旨の報告があった。
  - ② 校内でスケートボードや麻雀をしている話がある。また、高学年棟廊下に穴

平成17年度第5回教員会議資料  
(管理運営関係部分の抜粋)

(平成17年6月29日教員会議提出資料 抜粋)

平成17年度 学級委員長との懇談会結果報告

平成17年6月22日(木) 15:15~17:30

I. クラスからの懇談要望事項に対する回答

3. 授業上の施設設備に関すること

301. 設置してある空調設備の効果の確認をしてほしい。(3C)  
【回答】夏用に切り替え済みであるが、効果はあまり期待できない装置のようである。
302. 教室のドアを、開けて止めたままにしておくことができるようにしてほしい。(1C)  
【回答】現状を調査し対策を検討する。
303. 窓を開けても風が入ってこないときがあるので、扇風機をつけてほしい。(4M)
304. 暑さ、湿度調整のため、冷房を設置してほしい。(1M, 1E, 1I, 2C, 2I, 3E, 3I, 4M, 4C)  
【回答】今年度、夏季の暑さ対策については現在検討中である。
305. 実験室の床や実験台が古くて実験に支障があったり、ドラフトが古く床の傾斜がきついいため実験しにくいので、物質工学科の実験室の改修を検討してほしい。(3C)  
【回答】校舎改修を要求している。
306. 武道館の更衣室につながる階段が揺れるので修理して頂きたい。(1E)  
【回答】体育施設全体を考慮し修理していく予定である。
307. 視聴覚室の椅子が破損しているものもあり、危険なので修理してほしい。(5I)  
【回答】修理する。
308. コミ科高学年の机が小さいので、大きくしてほしい。(3I)  
【回答】更新の方向で検討します。ただし予算が伴うのですぐには難しい。
309. マルチメディア室の長机が揺れて作業しにくいので、調整してほしい。(1I)  
【回答】特に授業に差し支える機は見あたらなかった。余りひどいときは後方にある予備の機と交換してほしい。
310. 教室の机が壊れかけていて危ないので、直してほしい。(1I)  
【回答】修理を依頼している。
311. 1 コミ教室の長机が広くて使いやすいので、全ての教室で使いたい。(1I)  
【回答】高学年の机を更新時にコミ科の先生と検討する。
312. 教卓をもっと低いものに変えてほしい。(高すぎて見えない)(1M)  
【回答】若干黒板の下に掛かるが、見えない程でもないようである。場合によって教壇の下に置くなど対処してほしい。
313. ゼミ室の黒板を低学年棟にあるような黒板に取り替えてほしい。(5C)
314. 黒板をホワイトボードにほしい。(5E)
315. 高学年棟の黒板も低学年棟のように、上下に移動するものを設置してほしい。前列に席のある者は、黒板の下の方に書かれた文字が読みにくいので。(4E)  
【回答】改修時でないと交換は予算的に無理である。
316. 黒板消しクリーナを更新してほしい。(5E)  
【回答】別なクリーナと交換済みである。
317. 教室の前(黒板の脇)にも掲示板を設置してほしい。(1M)  
【回答】年次計画で検討したい。
- 318.ロッカーを大きなものに変えてほしい。(1M, 1C)
319. 教室のロッカーが小さすぎて荷物が入らないので、収納スペースを用意してほしい。(3C)  
【回答】現在の教室の大きさでは今のロッカー以上は無理である。

## 平成17年度第5回教員会議資料

320. 教室に暗幕を付けてほしい。(2C)  
 【回答】暗幕を付ける理由がわからない。プロジェクターが見えないとしたら担当教員へまず言ってほしい。
321. 高学年棟教室の床が歪んでいる。その近辺に席のある学生は常に机が不安定で、勉強への集中が出来ない。机の改良だけでは対応できないと思う。(4E)  
 【回答】調査のうえ対応したい。
322. 第一体育館に暗幕を設置してほしい。(5E, 5K)  
 【回答】授業では特に必要としていない。クラブで検討してほしい。
323. 第1グラウンドが異常に固いので、土質を改善してほしい。(5E)  
 【回答】グラウンド全体の水はけの問題が大きな原因であるが、体育科の予算の範囲内で土を入れることは検討する。
324. 第1グラウンドの照明が弱い。ちゃんとしたものがほしい。(5K)  
 【回答】費用のこともあるが、前向きに検討していく。
325. 武道館のシャワーを修繕してほしい。(5E)  
 【回答】管理上のことから、温水シャワーの設置・修理は考えていない。
326. 図書館を日曜日や祝日にも利用させてほしい。(3C)  
 【回答】日曜閉館については、土曜日の利用者数は試験前に集中していること、閉館に伴う予算と人員の確保、軽音楽愛好会の練習時間などとの関係もあり、全ての日曜の閉館ではなく特定の日曜日に利用可能とする。あるいは学習スペースを提供するなどについて検討したい。
327. 夏休み期間(特に9月)は図書館を開放して欲しい。(3I)  
 【回答】9月は開放する。ただし、8月の中旬は休館とする予定である。
328. 図書館のコピー機を増やしていただきたい。(昨年度の検討結果を教えてください)。(4K)  
 329. 試験前になるとコピー機が混雑するので何とかしてほしい。(5K)  
 【回答】利用量から検討したが、増設すると基本料金が増え、1枚当たりの単価を値上げしなければならなくなる。混雑は、一時的なものであるので計画的に利用してほしい。
330. 視聴覚室に時計がなく不便な教室が多いので、全ての教室に時計を設置してほしい。(5I)  
 【回答】共通で行う教室等には設置する。実験等で使用する各科の部屋については学科での判断となるので、直接各学科に申し出てほしい。
331. 学生ホールでビデオだけでなくDVDも観ることができるようにしてほしい。(5E)  
 【回答】設置へ向けて検討する。
332. 情報センターの使用可能時間を長くしてほしい。(2E)  
 【回答】現在情報センター(情報基礎演習室)は、火曜、木曜:17:15~19:15使用可能、土曜:9:00~16:00使用可能となっているが、この時間は学生アルバイトによる演習室管理を行っている。したがって、時間外開放は学校の予算に係わる問題となる。現在、(a)月曜、火曜、木曜、金曜を17:15~19:15と使用可能にしたい[すなわち1週間のうち2日増し]、(b)土曜日は従来どおり使用可能としたい、の2点を学校側に要求しているところであり、学校側では、予算が情報センターの時間外開放にまわせるかどうか検討中である。なお、今でも、情報センターにセンター員の先生がいる場合は、その先生の好意である程度融通をきかせて時間外使用もできるように考慮している。
333. 情報センターパソコンソフトを更新してほしい。(1M)  
 【回答】演習室の機器(ハード・ソフトとも)は5年間レンタルであり、1回更新すると基本的には5年間はほとんど同じ環境で使用しなくてはならない。次の更新時期は平成18年2月であり、現在演習室機器更新の準備を進めているところである。
334. 情報センターのプリンタをカラープリントできるようにしてほしい。(3I)  
 【回答】次の演習室更新時期は平成18年2月でありこの機器更新の際に、演習室にカラープリンタを導入する方向で検討する。ただし、プリンタの場合、導入費用とともにランニングコスト(インクジェットプリンタならばインカートリッジ代等)の予算の問題があるので確実に導入できるかどうかは分からない。
335. 情報処理センターの印刷機を利用する際の、使用許可枚数を増やしてほしい。(5I)  
 【回答】現在は、半年で一人70枚と制限している。これでも1000人の学生が全員この枚数印刷するとすると7万枚となり、この分の紙代、インカートリッジ(or トナー)代も相当なものになる。「全く自由に使用可能」とすると、無駄な印刷が多く

## 平成17年度第5回教員会議資料

なり、またその無駄な印刷をした紙をそのままにして持っていけない学生も多く出ると予想される。実際に、現在でも、間違えて印刷した紙が散乱していることも時々ある。情報センターでは、予算との関係もあり、だいたいこのあたりで大丈夫であると判断して現在の制限をかけている。学生は、本当に必要なものを、何度もこれで印刷してもよいということを確認して印刷をかけてほしい。それでも本当に教科の勉強のためにもっと必要であり、70枚では足りないという意見が教科担当の先生から上がってくれば考慮したい。

336. LL教室を昼休みも開放して使用できるようにしてほしい。(4I, 5D)

【回答】管理上開室はできない。放課後開室を利用して下さい。

337. LL教室のパソコンに辞書を入れてほしい。(5E)

【回答】現在は予算が無く難しい。

338. 部活や勉強などで遅くなった時、合宿センターを開放してほしい。(3C)

【回答】災害などによる非常時を除いては無理である。課外活動も含めて、学生の生活管理や帰宅の安全性を考慮して現在の授業時間外の校舎施設・設備の使用時間を設定している。自宅通学の学生は毎日帰宅し、保護者に1日を報告し、生活を共にするべきである。いくら勉強とはいえ、帰宅できないほどの時間まで学校にいる義務はない。帰宅できるまでの時間で勉強は切り上げるべきだし、また規定の時間以上に部活動をしているのであればそちらの方が問題である。もし遅くなると帰宅できないというほどの遠距離からの通学であれば、入寮を申込むか、自分の責任でアパートを借りることを考えてほしい。

339. 音楽室のピアノの調律などメンテナンスをしっかりとしてほしい。(5E)

【回答】音楽室のピアノは4年前に古くなり調律が難しくなったので1台購入した。このとき古いピアノは廃棄するのはもったいないので廃棄をしなかった。どちらとも年1回調律等メンテナンスをしているが、古いピアノの調律後の維持は難しいのが現状のようである。

340. ホール部分にも燃えるゴミのゴミ箱を設置して欲しい。(1C)

【回答】ゴミを出さない方針でなるべくゴミ箱をおいていない。協力をお願いしたい。

341. 掃除用具を増やしてほしい。(2E)

【回答】不足がある場合は用度係へ申し出てほしい。

342. 床をきれいにするための洗剤等を教室に配布してほしい。(2E)

【回答】OAフロアなので液体は極力使用できないため良い方法を検討する。

343. 掃除用具のなかの掃除機はなくてもよいのではないか。(4I)

【回答】他のクラスの現状を確認して使用しないで清掃ができるのなら引き上げる。

344. 学校をもっときれいにしたいのに、ゴミを投げ捨てたり、コンビニゴミのポイ捨てが目立ったりするので、低学年棟の周辺など外のゴミが増えないように掃除などの回数を増やした方がよい。(3C)

【回答】教室や校内の環境整備については今年度教務委員会の努力目標として、力を入れて取り組んでいきたいと考えており、大掃除後の教室巡回点検からはじめています。校舎周辺の美化についても、学生環境委員と相談し、構内美化にも積極的に対応していきたい。学生諸君は、毎週水曜日の大掃除日には校舎外の各クラス分担箇所についてもゴミ拾いを徹底してほしい。

345. 古紙回収用のゴミ箱を設置して、紙パックなどを分別回収した方がよい。(3C)

【回答】古紙、古雑誌等はまとめて梱包し、管理棟北側の集積場において欲しい。紙パックは自動販売機の回収箱に入れて欲しい。

346. ゴミの分別を細分化してほしい。ペットボトルと缶が一緒なのは納得がいかない。(5E)

【回答】本校のゴミの分別は、各家庭で行っている分別と異なっており、違和感を持つ学生も少なくないと思われるが、ゴミ減量化と併せて分別回収などゴミ処理は社会的な問題であり、教育機関としても考えていかなければならない問題である。今後、改善を検討していきたい。

環境センター運営委員会でも、学生環境委員とも相談し現在よりも分別を徹底させる方向で検討したいと考えている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、評価・改善システムが整備されており、そのシステムが効果的に機能し、委員会等組織の見直し、専攻科の設置、教員に対する評価システムの改善、JABEE受審等の結果に成果として表れてきている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・学内組織としての企画会，運営会議，教員会議，専攻科会議及び各種委員会等が管理運営組織として整備され且つ機能的に配置されており，校長のリーダーシップの下で効果的な意志決定が行われている。
- ・校長を補佐する体制として，副校長（主事，専攻科長）4名，校長補佐3名が配置され，また，企画会，運営会議，各種委員会等には事務部も構成員として参画しており，校長を支援する体制が全学的に整備されている。
- ・外部有識者による外部評価においても，評価結果を公表して内部組織にフィードバックさせ，管理運営に反映させるシステムが構築されている。

(改善を要する点)

- ・有識者から意見を聴取する参与会と，評価を主たる任務とする外部評価を別組織とし，参与会は年に複数回開催し，本校の運営全般の改善に役立てるなど，さらなる改善が必要である。
- ・外部評価を学校運営にさらに反映させるために「福島高専改善システム」を組織化して有効に機能させることが必要である。

## (3) 基準11の自己評価の概要

本校の管理組織については、校長をトップに学校教育法施行規則の規定に基づく「主事」や学内規則に基づく「校長補佐」，「専攻科長」，「専攻長」，「学科長」，事務部長等の人員配置の下に組織されている。また，本校の運営組織としては，校長，企画会，運営会議，教員会議・専攻科会議，各種委員会等が系列的に組織され，それぞれ関係する規則等も整備され役割が明確になっている。

本校では，運営会議を本校の意志決定機関として位置付けており，学校運営における意志決定が効果的に行えるよう体制が整っている。さらに，校長指揮の下に学校全体に係る重要事項の企画・立案，調整を担当する企画会を配置し，校長が全体を把握しリーダーシップを発揮できる態勢がとられており，管理運営組織として効果的に機能している。評価に関しては，平成5年度に点検及び評価に関する規則を制定し，点検及び評価に関する検討委員会を中心に平成8年度，平成12年度，平成17年度に自己点検評価を実施している。平成12年度，平成17年度には外部評価も受け，評価結果についてはその都度報告書を作成し外部に公表しており，評価に基づく意見や提言等については，学内に構築されているシステムを通して検討され，改善が図られている。

本校の評価システムとしては，自己点検・評価，外部有識者による外部評価（参与会）のほか，後援会総会，保護者懇談会，協力団体・企業・卒業生等からのアンケート評価，学生による評価等があり，これらの評価結果や意見・提言等についても学校運営に反映させているが，さらに充実させるた

めに「福島高専改善システム」を有効に機能させるための組織化が重要である。また、参与会の開催数を多くして外部の意見を積極的に取り入れることが必要となる。